岐阜県教育文化財団文化財保護センター
調査報告書　第82集

尾　元　遺　跡

２００３
財団法人　岐阜県教育文化財団

尾元遺跡

（お　もと）

2003

財団法人　岐阜県教育文化財団

序

旧徳山村が位置する揖斐川上流域には、縄文時代を中心とした遺跡が数多く知られています。しかし、それらの多くは、徳山ダム建設に伴って水没する地域に所在しています。このため昭和61年から記録保存のための発掘調査が、岐阜県教育委員会によって実施され、平成３年からは当センター発足に伴い、発掘調査を引き継いで行っております。

今回、発掘調査を行った尾元遺跡は、旧徳山村のほぼ中央を流れる揖斐川上流の左岸に位置しています。対岸には、上原遺跡や山手宮前遺跡といった縄文時代の集落跡が確認されています。尾元遺跡においても、縄文時代の住居跡や貯蔵穴、墓などが検出され、集落が営まれていたことが判明しました。また、平安時代には堅果類の処理を行ったと思われる遺構も見つかっています。

遺跡は、やがてダム湖の底に沈みますが、その内容は本報告書に記録されています。発掘調査によって得られた資料は、地域の歴史を知るために、また、私たちの未来を考えるために、様々な示唆を与えてくれるものと思います。本報告書が、広く県民の皆様に活用され、埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、藤橋村教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成15年12月

財団法人　岐阜県教育文化財団
理事長　日　比　治　男

例　言

1　本書は、揖斐郡藤橋村に所在する尾元遺跡（岐阜県遺跡番号21407-06379）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、徳山ダム建設事業に伴うもので、水資源開発公団徳山ダム建設所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県文化財保護センター（現　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター）が実施した。

3　発掘調査は平成12年度に、整理作業は平成14年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の体制は、第１章第２節に一括して掲載した。

5　本書の編集及び執筆は、第４章を除いて春日井が行った。

6　発掘調査における作業員雇用・現場管理・掘削・空中写真測量などの業務は、株式会社イビソクに委託して行った。

7　遺物の俯瞰・立面写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。遺構写真は、春日井と三島が撮影した。

8　自然科学分析（花粉分析・大型植物化石同定・放射性炭素年代測定・木製品樹種同定）は、株式会社パレオ・ラボおよび株式会社吉田生物研究所に委託して行い、その結果は、第４章に掲載した。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）

浅野哲男・網谷克彦・泉拓良・伊藤正人・今村峯雄・大下明・川合剛・北澤武志・小林謙一・佐野康雄・鈴木康二・瀬口真司・長瀬治義・野口哲也・八賀晋・藤村俊・堀田一浩・矢野健一・山岸洋一・山口早苗・渡辺博人

各務原市埋蔵文化財調査センター・可児市教育委員会・美濃加茂市教育委員会

10　本文中の方位は、国土座標系第Ⅶ系の座標北を示している。

11　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄1998『新版　標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

目　　次

序
例言
目次
第1章　調査の経緯……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　発掘調査の経過と方法……2
第2章　遺跡の環境……5
　第1節　遺跡の位置……5
　第2節　周辺の遺跡……7
第3章　調査の結果……11
　第1節　基本層序……11
　第2節　遺構・遺物の概要……13
　第3節　中世以降……31
　第4節　古代……33
　第5節　縄文時代……38
第4章　自然科学分析……206
　第1節　花粉化石群集……206
　第2節　大型植物化石……209
　第3節　放射性炭素年代測定……212
　第4節　木製品の樹種調査結果……214
第5章　まとめ……215
参考・引用文献……234
写真図版
報告書抄録
付図

写真図版目次

図版１　１　調査区全景

図版２　１　調査前近景、２　調査区全景

図版３　１　Ａ区全景

図版４　１　Ｂ区全景、２　耕作に関連する遺構

図版５　１・２　SD508、３　SK676検出状況、４　SK676土層断面、５　SK676

図版６　１　SK676・SK677、２　SK677検出状況、３　SK677種子類出土状況、４　SK677木製品出土状況、５　SK677

図版７　１　SK676出土トチの種皮、２　SK677出土灰釉陶器、３　古代から中世の遺物

図版８　１　SB１・SB３周辺遺構、２　SB１

図版９　１　SB１床面検出状況、２　SF２検出状況、３・４　SF２掘削状況、５　SB１出土遺物

図版10　１　SB２・SB４・SB６・SB７周辺遺構、２　SB２埋土中礫出土状況、３　SF5a検出状況、４・５　SB２床面検出遺構

図版11　１　SB２、２　SB２・SB７

図版12　１・２　SB２出土土器

図版13　１・２　SB２出土石器

図版14　１・２　SB３

図版15　１　SB３出土土器・石器、２　SB３出土石器

図版16　１　SB２・SB４周辺遺構、２　SB４

図版17　１　SB４、２　SB４床面検出状況、３　SB４床面検出遺構、４　SB４主柱穴、５　SB４壁柱穴

図版18　１・２　SB４出土土器、３　SB４出土石器

図版19　１　SB４出土石器、２　SB４床面出土石■

図版20　１　SB５周辺遺構、２　SB５

図版21　１　SB５床面検出状況、２　SF６検出状況、３・４　SB６、５　SB５出土遺物、６　SB６出土遺物

図版22　１　SB２・SB７床面検出遺構、２　SB７出土遺物

図版23　１　Ａ区北部遺構検出状況、２　Ａ区中央～東部遺構検出状況

図版24　１　Ａ区西部遺構検出状況、２　Ａ区南部遺構検出状況

図版25　１　Ｂ区南西部遺構検出状況、２　Ｂ区東部遺構検出状況

図版26　１・２　SK115焼礫検出状況、３　SK115、４　SK442焼礫検出状況、５　SK６

図版27　１・２　SK145遺物出土状況、３　SK145、４　SK145出土遺物

図版28　１　SK56立石検出状況、２・３　SK148遺物出土状況、４　SK148、５　SK148出土土器

図版29　１・２　SK154遺物出土状況、３　SK154、４　SK154出土土器

図版30　１　SK380礫検出状況、２　SK380礫・土器検出状況、３　SK380遺物出土状況、４　SK380、５　SK380出土土器、６　SK380出土石製品

図版31　１　SK25土層、２　SK25、３　SK379土層、４　SK379、５　SK576土層、６　SK576、

7　SK668土層、8　SK668
図版32　1　SK105ほか、2　SK124
図版33　1～3　土坑出土遺物
図版34　1　土坑出土遺物、2　SF 1 検出状況、3　SF 3 検出状況、4　SF 7 検出状況、
5　SD505
図版35　1・2　SD505・SD508出土遺物
図版36　1・2　SD509
図版37　1・2　SD509出土遺物
図版38　1　NW10土層、2　NW16土層、3　倒木痕出土遺物、4　包含層出土縄文土器
図版39　1・2　包含層出土縄文土器
図版40　1　包含層出土縄文土器、2・3　包含層出土石器
図版41　1・2　包含層出土石器
図版42　1～3　包含層出土石器
図版43　1　産出した花粉化石
図版44　1　出土した大型植物化石

挿■目次

図 1　尾元遺跡の位置 …… 1
図 2　調査区設定図 …… 2
図 3　試掘調査坑設定位置図 …… 3
図 4　尾元遺跡周辺地形図 …… 5
図 5　周辺遺跡位置図 …… 7
図 6　何知平遺跡試掘調査坑位置図 …… 8
図 7　試掘調査坑土層断面図 …… 12
図 8　A区遺構配置図 …… 13
図 9　B区遺構配置図 …… 14
図10　B区遺物出土分布 …… 15
図11　A区遺物出土分布 …… 16
図12　土器類出土量比率 …… 17
図13　縄文土器時期別出土量比率 …… 20
図14　石器組成グラフ …… 21
図15　石鏃の基部による分類模式図 …… 22
図16　石鏃の側縁及び脚部形態模式図 …… 23
図17　石鏃欠損部位模式図 …… 23
図18　打製石斧欠損部位模式図 …… 25
図19　磨製石斧形態模式図 …… 26
図20　石錘計測部位 …… 27
図21　耕作に関連する遺構 …… 31
図22　中世から近世の陶器 …… 32
図23　SD508 …… 33
図24　SD508出土遺物 …… 34
図25　SK676 …… 35
図26　SK677 …… 36
図27　SK677・包含層出土遺物 …… 36
図28　SB 1 …… 39
図29　SF 2 …… 40
図30　SB 1 遺物出土分布 …… 40
図31　SB 1 出土遺物 …… 41
図32　SB 2 …… 43
図33　SF 5 およびSB 2 関連SP土層 …… 44
図34　SB 2 遺物出土分布 …… 46
図35　SB 2 出土遺物① …… 47
図36　SB 2 出土遺物② …… 48
図37　SB 2 出土石皿 …… 49
図38　SB 3 …… 50
図39　SF 4 …… 51
図40　SB 3 遺物出土分布 …… 51
図41　SB 3 出土遺物 …… 52
図42　SB 4 …… 54

図43　SB４遺物出土分布 ……56
図44　SB４出土土器 ……57
図45　SB４出土石器① ……58
図46　SB４出土石器② ……59
図47　SB５ ……60
図48　SB５遺物出土分布 ……61
図49　SB５出土土器 ……61
図50　SB５出土石器 ……61
図51　SB６ ……63
図52　SB６遺物出土分布 ……64
図53　SB６出土遺物 ……64
図54　SB７ ……66
図55　SB７遺物出土分布 ……67
図56　SB７出土土器 ……68
図57　SK115 ……70
図58　SK115出土遺物 ……70
図59　SK442 ……71
図60　SK６・SK56 ……72
図61　SK６出土遺物 ……72
図62　SK145 ……73
図63　SK145出土遺物 ……73
図64　SK148 ……75
図65　SK148出土遺物 ……76
図66　SK154 ……77
図67　SK154出土遺物 ……78
図68　SK380 ……80
図69　SK380出土遺物 ……81
図70　貯蔵穴 ……82
図71　SK576出土石鏃 ……82
図72　SK105ほか ……84
図73　SK105ほか出土遺物 ……84
図74　SK124 ……85
図75　SK124出土石器 ……86
図76　その他の土坑Ａ区① ……87
図77　その他の土坑出土遺物 ……88
図78　その他の土坑Ａ区② ……89
図79　その他の土坑Ａ区③ ……90
図80　その他の土坑Ａ区④ ……91
図81　その他の土坑Ａ区⑤ ……92
図82　その他の土坑Ａ区⑥ ……93
図83　その他の土坑Ａ区⑦ ……94
図84　その他の土坑Ａ区⑧ ……95
図85　その他の土坑Ａ区⑨ ……96
図86　その他の土坑Ａ区⑩ ……97
図87　その他の土坑Ａ区⑪ ……98
図88　その他の土坑Ａ区⑫ ……99
図89　その他の土坑Ａ区⑬ ……100
図90　その他の土坑Ａ区⑭ ……101
図91　その他の土坑Ａ区⑮ ……102
図92　その他の土坑Ａ区⑯ ……103
図93　その他の土坑Ａ区⑰ ……104
図94　その他の土坑Ａ区⑱ ……105
図95　その他の土坑Ａ区⑲ ……106
図96　その他の土坑Ａ区⑳ ……107
図97　その他の土坑Ａ区㉑、Ｂ区① ……108
図98　その他の土坑Ｂ区② ……109
図99　その他の土坑Ｂ区③ ……110
図100　その他の土坑Ｂ区④ ……111
図101　その他の土坑Ｂ区⑤ ……112
図102　その他の土坑Ｂ区⑥ ……113
図103　その他の土坑Ｂ区⑦ ……114
図104　焼土 ……129
図105　SD505 ……130
図106　SD505出土遺物 ……130
図107　SD508遺物出土分布 ……131
図108　SD508出土遺物① ……132
図109　SD508出土遺物② ……133
図110　SD509 ……135
図111　SD509出土遺物① ……136
図112　SD508出土遺物② ……137
図113　倒木痕出土遺物 ……138
図114　S1・S2・Z1群土器Ａ区出土分布 ……142
図115　包含層出土S1・S2群土器 ……143
図116　S1・S3・Z1・Z2群土器Ｂ区出土分布 ……143
図117　Z2群土器Ａ区出土分布 ……144
図118　包含層出土Z2群土器 ……145
図119　C1・C2群土器Ａ区出土分布 ……146
図120　包含層出土C1・C2・C3群土器 ……147
図121　C1・C3・Ｊ群土器Ｂ区出土分布 ……147
図122　C3・Ｋ・Ｊ群土器Ａ区出土分布 ……148
図123　包含層出土Ｋ・Ｂ・Ｊ群土器 ……149
図124　Ａ区石鏃ほか出土分布 ……157
図125　包含層出土石鏃 ……158
図126　石鏃属性グラフ ……159
図127　Ｂ区石鏃ほか出土分布 ……161
図128　Ｂ区石錐ほか出土分布 ……161
図129　包含層出土尖頭器・石錐 ……162
図130　Ａ区石錐ほか出土分布 ……163

図131　包含層出土石匙・スクレイパー……164
図132　スクレイパー剥離方向比率……165
図133　スクレイパー刃角度数分布……165
図134　包含層出土楔形石器……167
図135　楔形石器長さ：幅相関図……167
図136　楔形石器長さ：長さ/幅相関図……167
図137　楔形石器長さ：厚さ相関図……167
図138　包含層出土打製石斧①……169
図139　包含層出土打製石斧②……170
図140　打製石斧計測値度数分布……171
図141　打製石斧分類別計測値分布……171
図142　打製石斧計測値相関図……172
図143　包含層出土磨製石斧……176
図144　包含層出土石核……177
図145　A区楔形石器ほか出土分布……178
図146　B区楔形石器ほか出土分布……179
図147　包含層出土RF・MF……180
図148　包含層出土打欠石錘・切目石錘……196
図149　打欠石錘・切目石錘計測値分布……197
図150　包含層出土磨石・■石類①……200
図151　包含層出土磨石・凹石類②……201
図152　磨石・凹石類大きさ計測値分布……202
図153　磨石・凹石類計測値相関図、分類別厚さ：幅比分布……202
図154　包含層出土石■……204
図155　SK677の花粉化石分布図……207
図156　文様模式図……218
図157　各時期の深鉢A類・B類・C類……222
図158　各時期の深鉢D類・E類・鉢……223
図159　「在地化した船元Ⅲ式土器」変遷図……227
図160　各遺跡における打製石斧計測値相関図……230

表　目　次

表1　周辺遺跡一覧……7
表2　検出遺構一覧……14
表3　土器類出土量……17
表4　縄文土器時期別出土量……20
表5　石器類器種別数量……21
表6　器種別石材一覧……22
表7　中世から近世の遺物出土量……32
表8　中世から近世の陶器観察表……32
表9　平安時代の土坑一覧……35
表10　古代の土器出土量……37
表11　古代の土器観察表……37
表12　竪穴住居跡一覧……38
表13　SB1床面検出SP一覧……40
表14　SB2床面検出SP一覧……45
表15　SB3床面検出SP一覧……51
表16　SB4床面検出SP一覧……55
表17　SB5床面検出SP一覧……62
表18　SB6関連SP一覧……63
表19　SB7関連SP一覧……65
表20　焼礫集積土坑一覧……69
表21　墓坑一覧……71
表22　貯蔵穴一覧……81
表23　竪穴状大型土坑一覧……83
表24　その他の土坑一覧①……114
表25　その他の土坑一覧②……115
表26　その他の土坑一覧③……116
表27　その他の土坑一覧④……117
表28　その他の土坑一覧⑤……118
表29　その他の土坑一覧⑥……119
表30　その他の土坑一覧⑦……120
表31　その他の土坑一覧⑧……121
表32　その他の土坑一覧⑨……122
表33　その他の土坑一覧⑩……123
表34　その他の土坑一覧⑪……124
表35　その他の土坑一覧⑫……125
表36　その他の土坑一覧⑬……126
表37　その他の土坑一覧⑭……127
表38　その他の土坑一覧⑮……128
表39　焼土一覧……129
表40　倒木痕一覧……138
表41　出土別土器数量①……139
表42　出土別土器数量②……140
表43　出土別土器数量③……141
表44　縄文土器観察表①……150
表45　縄文土器観察表②……151
表46　縄文土器観察表③……152
表47　縄文土器観察表④……153
表48　縄文土器観察表⑤……154
表49　縄文土器観察表⑥……155
表50　出土別石器数量……156
表51　石鏃一覧……160
表52　尖頭器一覧……162

表53　石錐一覧……162
表54　石匙一覧……164
表55　スクレイパー一覧……166
表56　楔形石器一覧……168
表57　打製石斧一覧①……173
表58　打製石斧一覧②……174
表59　打製石斧一覧③……175
表60　磨製石斧一覧……177
表61　石核一覧……179
表62　RF一覧①……181
表63　RF一覧②……182
表64　RF一覧③……183
表65　RF一覧④……184
表66　RF一覧⑤……185
表67　MF一覧①……185
表68　MF一覧②……186
表69　MF一覧③……187
表70　MF一覧④……188
表71　MF一覧⑤……189
表72　MF一覧⑥……190
表73　MF一覧⑦……191
表74　MF一覧⑧……192
表75　MF一覧⑨……193
表76　MF一覧⑩……194
表77　MF一覧⑪……195
表78　打欠石錘一覧……198
表79　切目石錘一覧……198
表80　磨石・凹石類一覧……203
表81　石皿一覧……205
表82　石製品一覧……206
表83　砥石一覧……206
表84　花粉化石一覧……207
表85　遺構別の大型植物化石の種類と出土量……209
表86　大型植物化石一覧①……210
表87　大型植物化石一覧②……211
表88　放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果……213
表89　主な平安時代遺跡の消長……215
表90　器種と文様、施文技法の対応関係……218
表91　各器種の出土状況……219
表92　徳山地区の前期後葉……225
表93　徳山地区における石器石材……231

挿入写真目次

写真1　尾元遺跡全景航空写真……6
写真2　SB1遺物出土状況……41
写真3　C3群a類口縁部（17）側面・内面……42
写真4　SB2土器出土状況……46
写真5　112敲打痕拡大……59
写真6　141突帯部拡大……68
写真7　147平坦面……72
写真8　147側面……72
写真9　150孔部拡大……74
写真10　151結節縄文……75
写真11　151突帯……75
写真12　151内面……76
写真13　160口縁端部内面……79
写真14　160突帯……79
写真15　165突帯……85
写真16　165内面……85
写真17　300縄巻縄文……148
写真18　353刃部拡大……165
写真19　357刃部拡大……165
写真20　373刃部拡大……168
写真21　376刃部拡大……168
写真22　371刃部拡大……169
写真23　203刃部拡大……169
写真24　203基部拡大……169
写真25　381刃部拡大……176
写真26　383刃部拡大①……176
写真27　383刃部拡大②……176
写真28　400側辺部拡大……181
写真29　408帯状痕拡大……196
写真30　磨石・凹石類敲打痕……199

第1章　調査の経緯

第1節　調査に至る経緯

当遺跡は、揖斐郡藤橋村大字徳山字尾元に所在し、揖斐川左岸の河岸段丘上から丘陵麓部の崩積性緩斜面に位置する。地元郷土史家によって発見された[1]遺跡で、遺物の散布状況から第1地点・第2地点に分かれていた。

徳山ダム建設に伴う水没地域に含まれることから、1994（平成6）年に当センターが遺跡の範囲確認のための試掘調査を実施した[2]。この結果、多くの試掘調査坑から遺物が出土したため、新たに第3地点が設定され、第1地点も遺跡範囲は大きく広がるものと判断された。しかし、1999（平成11）年に当センターが、文化庁及び県教育委員会の基準に基づき、発掘調査範囲を確定するための確認調査を実施したところ、第2地点は表土下が段丘礫層となり、また第3地点では打製石斧が1点出土したものの、他に遺構・遺物は確認できなかった。このため、平成11年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会において、第1地点の中で遺構が確認された試掘調査坑を中心に、約3300㎡の発掘調査範囲が決定された。その後、水資源開発公団徳山ダム建設所と岐阜県教育委員会との協議を経て、2000（平成12）年に現地での発掘調査、2002（平成14）年に整理作業を実施することとなった。

1）　『徳山村のあけぼのを求めて』（徳山村の歴史を語る会1984）による。また、採集された遺物も紹介されている。これによれば、縄文土器は3点あり、このうち時期の判明するものは早期押型文が1点、前期後葉が1点意ある。石器は、第1地点48点、第2地点6点で、石鏃・石錐・打製石斧・磨製石斧・石錐などがある。

2）　これ以前にも、1989（平成元）年に付替道路敷設工事用進入路の設置計画に伴い試掘調査が行われているが、試掘調査に関する詳細な記録は残されていない。

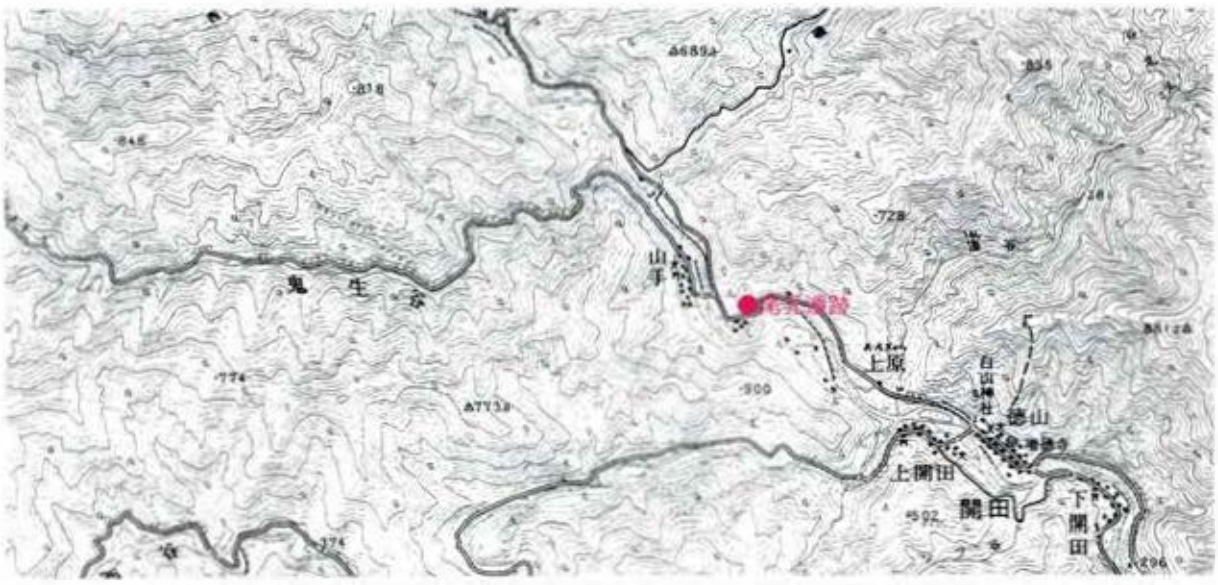


図1　尾元遺跡の位置（S=1/50,000、国土地理院発行1:50000「冠山」）

第2節　発掘調査の経過と方法

発掘調査範囲は、崩積性緩斜面部分と段丘上に分かれたため、前者をA区（約2,100㎡）、後者をB区（約1,200㎡）として発掘調査を行った。B区の一部に宅地があったほかは、A区・B区とも徳山村廃村までは耕作地として利用された場所が大半を占めていた。A区では緩斜面を段切り造成して畑地に、B区では水田に利用していた。

確認調査の結果から、A区の中では、中央部分が傾斜の最も緩やかな場所となり、竪穴住居の可能性が考えられた土坑や貯蔵穴を確認していたため、集落跡の存在が想定された。B区は、貯蔵穴が確認されたほか、中央部が谷状に低くなり、湧水もあったことから水場遺構の存在が予想された。

尾元遺跡第1地点は、200m×200mの範囲に収まるため、これを100m×100mの4つに分割し、このうち発掘調査区が含まれる3つをⅠ～Ⅲの大区画とした。さらに、各大区画の中に4m×4mの小

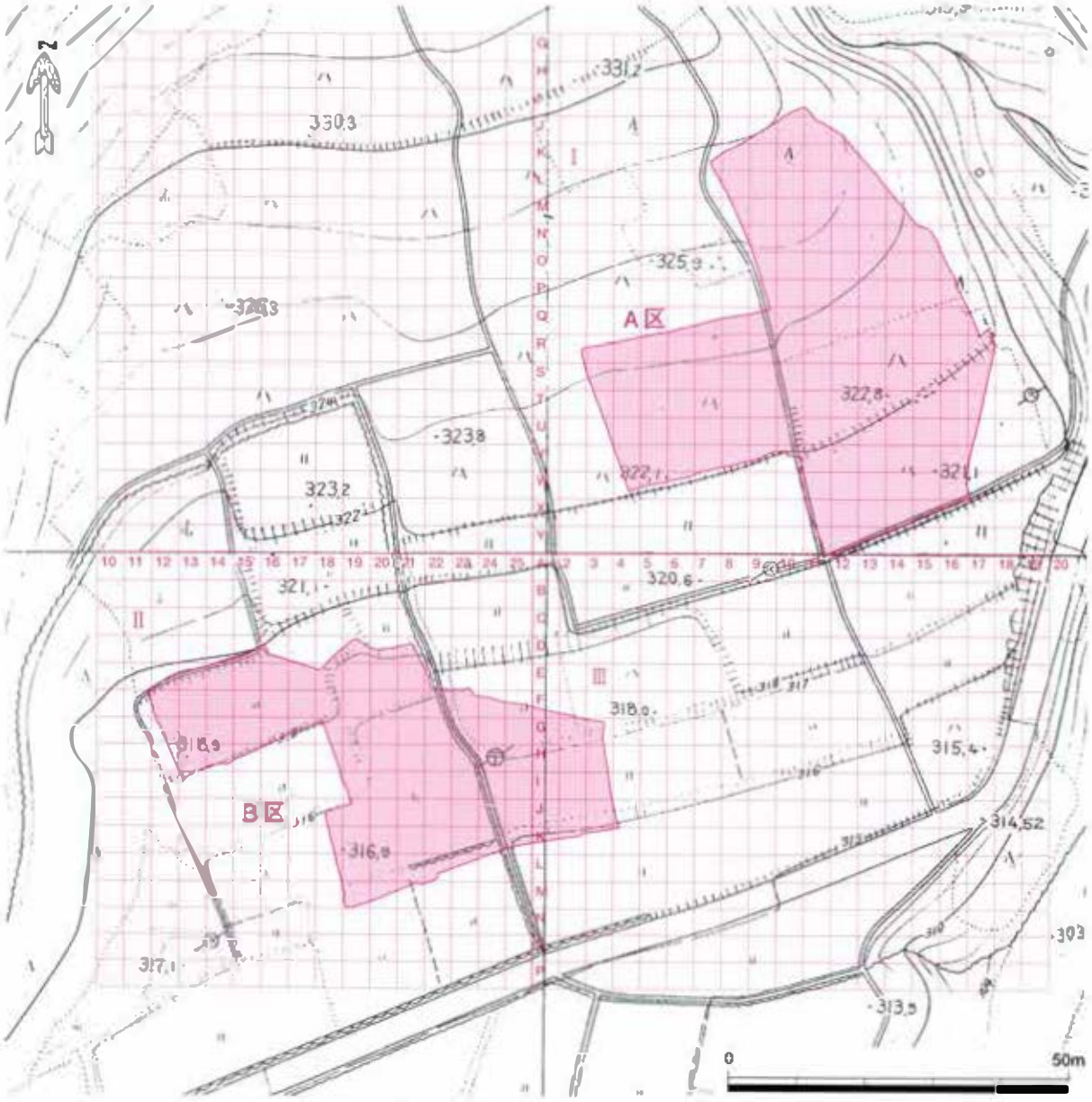


図2　調査区設定図（S=1/1000）

区画を設定して調査区画とした（図２）。調査区画は、大区画毎に西から東へ１～25、北から南へA～Yとし、調査区画の呼称は大区画名称と西北角の杭番号を用いた。

基本層序は、確認調査によってⅠ層からⅥ層まで設定され、Ⅰ層が表土、Ⅱ層が古代から現代の包含層（段切り造成以前の表土層）、Ⅲ層及びⅣ層が縄文時代の遺物包含層、Ⅴ層が山麓から供給された崩積性堆積層、Ⅵ層が段丘礫層の面上と思われる土層である。

発掘調査では、先ず重機により調査区内全面の表土および盛土層（Ⅰ層）を除去し、Ⅱ層からⅣ層を人力で掘削した。遺構検出作業はⅣ層上面でも行ったが、遺構を十分に確認することができず、Ⅴ層上面で検出した遺構が大半である。包含層や遺構内から出土した遺物は、出土位置を原則としてすべてトータルステーションにより測定して取り上げた。調査区内は、緩やかな傾斜を持つとともに、段切り造成による段差が作り出されており、削平された部分ではⅡ層からⅣ層が確認できなかった。

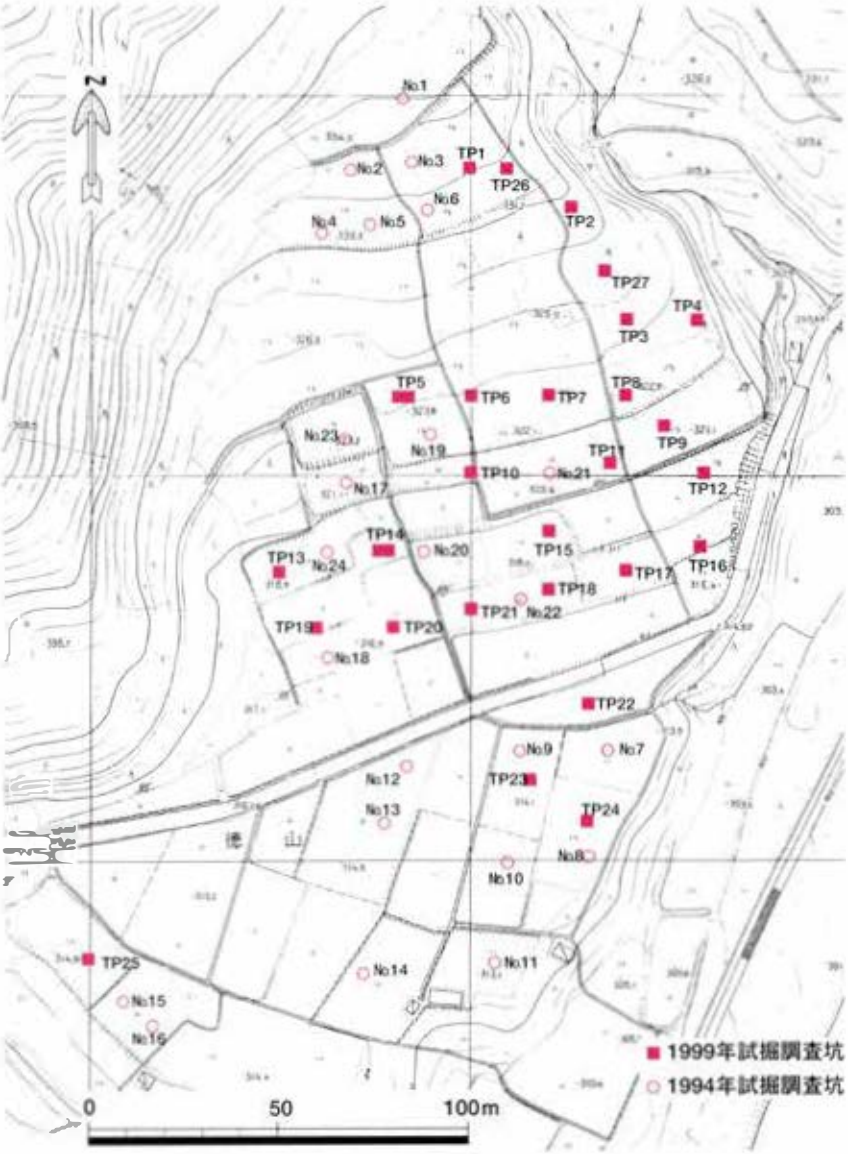


図３　試掘調査坑設定位置図（S=1/2,000）

遺構調査にあたっては、必要に応じて平面図・土層断面図などを作成した。発掘調査区全体の平面図作成及び写真撮影は、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量を行った。その後、一部の遺構については、サブトレンチを設定して補足調査を行った。

以下、発掘調査日誌から抜粋して、週毎の調査経過を記述する。なお、調査開始の８月７日までに、発掘調査区及び排土置き場やその周囲の除草と表土除去作業を実施している。

第１週（8.7～8.11）　人力による包含層掘削及び遺構検出作業を実施。

第２週（8.21～8.25）　A区において貯蔵穴を検出（SK25）するが、内部からは何も出土せず。

第３週（8.28～8.31）　A区のⅠP10区～Ⅰ●10区で遺物がやや多く出土。

第４週（9.4～9.8）　人力による包含層掘削及び遺構検出作業を実施。Ｂ区のSD508掘削時に種子類が多く出土し、灰釉陶器が伴う。Ａ区では、前期後葉の土器がややまとまって出土する。

第５週（9.11～9.14）　平野部では記録的な大雨であったが、遺跡周辺では雨量は多くなかった模様。Ａ区にて竪穴住居跡（SB１）、焼礫集積土坑（SK105）検出。

第６週（9.18～9.22）　Ａ区SB１は石囲炉を持つ、中期末葉の竪穴住居跡であった。

第７週（9.25～9.29）　Ａ区SB２・SB３を検出し、掘削に入る。Ｂ区SD508を掘削する。

第８週（10.3～10.6）　Ａ区SB３の中央で、掘り込みを持つ焼土を検出。壁面に小穴をいくつか検出し掘削する。SB２は、３棟の竪穴住居跡の重複である可能性あり。SK145から石製品出土。Ｂ区SD508底面で木組み遺構を検出。Ｂ区での包含層掘削が東部に入る。

第９週（10.10～10.13）　Ａ区SB４を検出し、掘削に入る。前期後葉の土器が多く出土し、床面上に扁平な円礫（石皿）が２個置かれた状態で出土。SK154から土器片多く出土する。

第10週（10.16～10.19）　Ａ区SB５を検出し、掘削に入る。Ｂ区ではSD508の掘削を行う。

第11週（10.24～10.27）　Ｂ区SD508の下部で検出したSD509を掘削する。

第12週（10.31～11.3）　降雨のためあまり作業は進まず。

第13週（11.6～11.10）　Ａ区墓坑（SK380）・貯蔵穴（SK379）を検出し、掘削する。Ａ区での包含層掘削が南部に入る。Ｂ区SD509を掘削する。

第14週（11.13～11.17）　Ａ区南部で谷状に落ち込むところがあり、早期土器が出土する。空中写真測量に向けての準備作業を行う。

第15週（11.20～11.24）　空中写真測量を実施。Ａ区調査区土層実測作業及び、補足調査準備。

第16週（11.27～12.1）　補足調査実施。Ｂ区調査区土層実測作業。

第17週（12.4～12.8）　現場撤収準備及び調査用具類の搬出。

第18週（12.13）　現場事務所撤去。

整理作業は、2002年４月から翌年３月まで実施した。発掘調査から整理作業までの体制は以下の通りである。

理事長	服部卓郎（平成12・14年度）
専務理事兼事務局長	原　隆男（平成12年度）、成戸宏二（平成14年度）
常務理事兼経営部長	二山　晃（平成12年度）、福田安昭（平成14年度）
経営部次長兼経営課長	坂東　隆（平成12年度）、福田照行（平成14年度）
調査部長	高橋幸仁（平成12年度）、武藤貞昭（平成14年度）
調査部次長	武藤貞昭（平成12年度）、片桐隆彦（平成14年度）
担当調査課長	柘植卓伸（平成12年度）、高木徳彦（平成14年度）
担当調査員	春日井恒（平成12年度Ａ区調査担当、平成14年度整理担当）
	三島　誠（平成12年度Ｂ区調査担当）
整理作業従事者	大塚道子、大野里美、小澤真紀子、高島俊美、中村千恵、樋口弘子、広瀬みどり、村瀬俊哉、藪下賀代子、山■久子、湯城里美

なお、当センターは、2003年４月から組織改編に伴い、（財）岐阜県教育文化財団文化財保護センターとなった。上記の体制は、2003年３月までのものである。

第2章　遺跡の環境

第1節　遺跡の位置

岐阜県美濃地方の北西部に位置する旧徳山村（現揖斐郡藤橋村）は、北は福井県、西は滋賀県に接している。周囲は越美山地と呼ばれる山々に囲まれ、釈迦嶺に源を発する揖斐川とその支流が、大きく北西から南東に向かって流れている。旧徳山村内の大半の遺跡は、この河川沿いに形成された河岸段丘上に立地する。

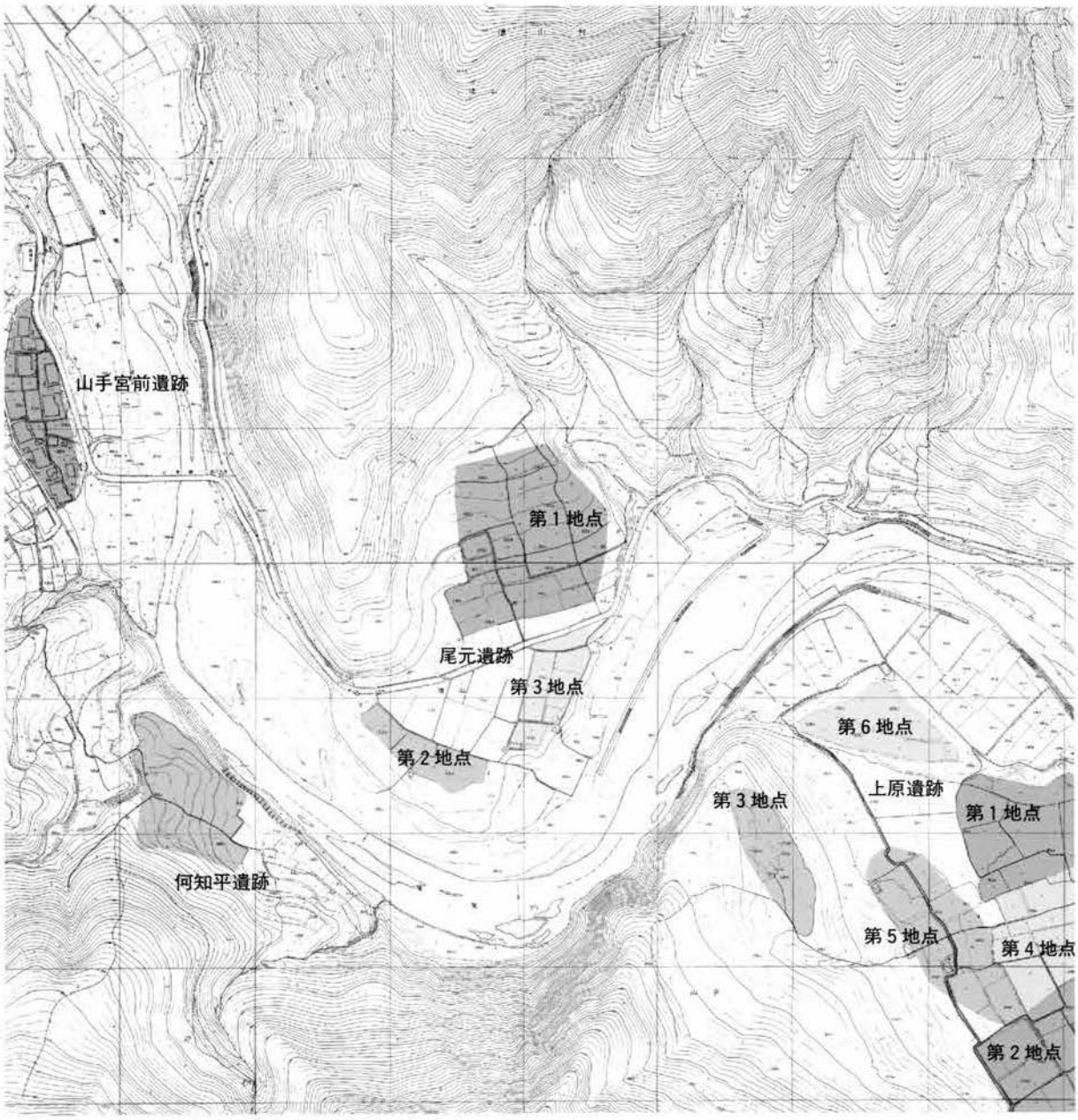


図4　尾元遺跡周辺地形図（S=1/5,000）

尾元遺跡は、藤橋村大字徳山字尾元に所在し、揖斐川上流左岸の段丘上及び扇状地性緩斜面に広がる（図4）。遺跡を横断するように国道417号線が通り、国道よりも南側の標高は315m前後、北側の標高は約315mから約330mである。今回発掘調査を行った第1地点は国道の北側にあり、第2地点と第3地点は国道よりも南側に位置する。遺跡の南側には、揖斐川が蛇行して南東方向に流れ、西から北側には丘陵の尾根が続いている。揖斐川を挟んだ南東側には、1990年～1993年に発掘調査が行われた上原（あげはら）遺跡が、尾根と揖斐川を挟んだ北西側には、1992年～1993年に発掘調査が行われた山手宮前（やまでみやまえ）遺跡が所在する。

西から北に続く尾根上には、断層活動によると思われる鞍部が認められ、ここから南東方向に浸食谷が形成されている。尾元遺跡第1地点の扇状地性の地形は、この谷から流出した土砂が、段丘面に堆積にしたものと推定される[1]。発掘調査の結果からは、扇状地性地形を形成する崩積性堆積物（基本層序のⅤ層）の上面から縄文時代早期の押型文土器が出土しており、それ以前は現在の地形となったものと推定できる。

なお、徳山地域の自然環境については、『長吉遺跡・普賢寺遺跡』（篠田ほか1994）及び『山手宮前遺跡』（小谷ほか1997）に詳細が述べられており、これらを参照されたい。

1）　藤岡比呂志（当センター）による。

写真1　尾元遺跡全景航空写真（水資源開発公団提供）

第2節　周辺の遺跡

揖斐川の両岸にある河岸段丘上には、多くの遺跡が確認されているが、尾元遺跡周辺に所在する遺跡について、過去の発掘調査結果などから概要についてふれる。徳山地区の歴史的環境については、すでに『山手宮前遺跡』（小谷ほか1997）、『上原遺跡Ⅰ』（河村ほか1998）などにおいて詳細が述べられており、これらを参照されたい。

揖斐川を挟んで尾元遺跡の対岸には、山手宮前遺跡（北西約300m）、何知平遺跡（西約300m）、上原遺跡（南東約400m）が確認されている。揖斐川の上流側には、磯谷口遺跡（北西約800m）と寺屋敷遺跡（北西約1km）が、下流側には上開田村平遺跡（南東約1.4km）、徳山陣屋跡（南東約1.8km）がある（図5）。また、上開田村平遺跡付近で揖斐川に合流する西谷川沿いに、合流地点から約400m

表1　周辺遺跡一覧

	縄文時代						弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	室町時代
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期					
寺屋敷遺跡											
磯谷口遺跡											
山手宮前遺跡											
尾元遺跡											
何知平遺跡	試掘調査の結果、消滅した土器小片が出土したのみ										
上原遺跡											
追分遺跡											
上開田村平遺跡											
徳山陣屋跡											

遺物あり　まとまった遺物あり　遺構あり　太字は発掘調査された遺跡

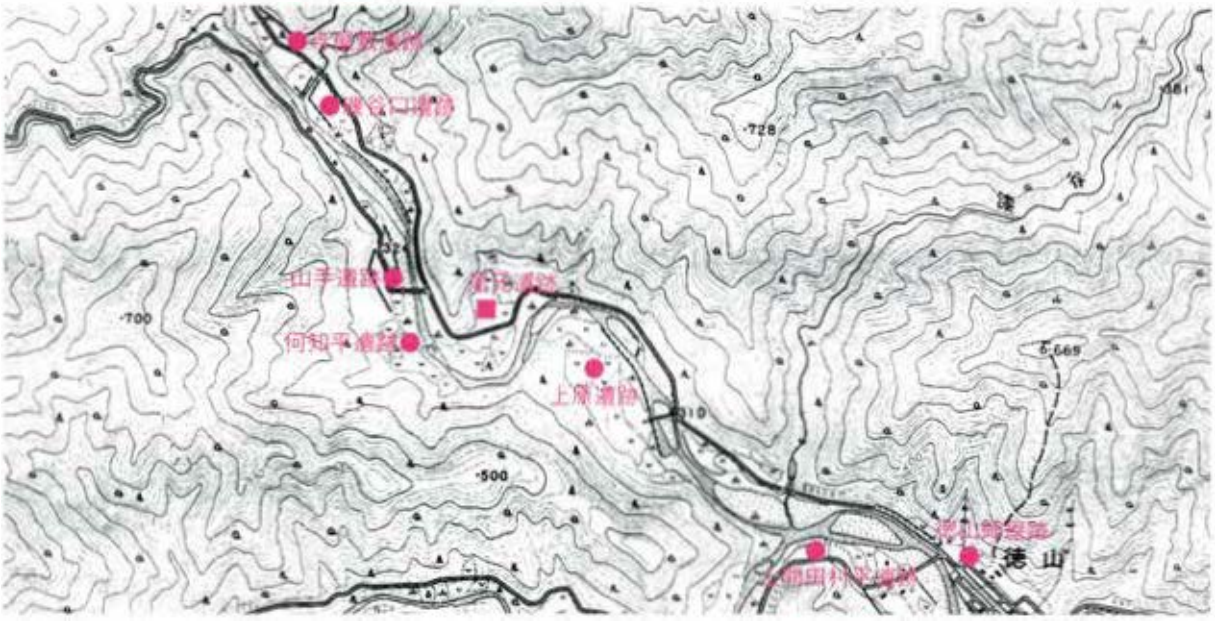


図5　周辺遺跡位置図（S=1/25,000、国土地理院発行1:25,000「美濃徳山」）

遡ると遺跡が位置している。

山手宮前遺跡は、揖斐川右岸の河岸段丘上に位置し、1992年～1993年に行われた発掘調査によって、縄文時代中期後葉の集落跡と中近世の掘立柱建物跡群を検出している（小谷ほか1997）。縄文時代の遺構は、前期後葉の土坑が1基あるほか、中期後葉の竪穴住居跡8棟、土器埋設遺構1基、多数の土坑を検出しており、出土した遺物も中期後葉を中心として、早期から晩期のものまである。検出した竪穴住居跡は、南北の2群に分かれ、その間は遺構があまりない広場的な空間となる。墓坑の可能性がある土坑群は、広場的な空間の西側にまとまっており、環状構造を持つとされている。また、中近世の掘立柱建物跡群は、民家の可能性が指摘されている。

何知平遺跡は、山手宮前遺跡の南約300m、揖斐川右岸の河岸段丘上に位置する。1994年の試掘調査により縄文土器や中近世陶器片が少量出土したため、同年11月に当センターから岐阜県教育委員会に遺跡発見届が提出され、埋蔵文化財包蔵地として取り扱われることになった遺跡である。しかし、1999年の試掘調査（図6）では、遺構・遺物とも検出できず、段丘礫層から表土までの堆積層は、山側からの崩積性堆積物を主としていた。1994年の試掘調査において、遺物包含層の可能性があるとされた土層も、浅い谷状に凹んだ部分に局地的に堆積する土層であり、1994年に出土した土器片も摩滅が認められた。このため、平成11年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会において、発掘調査を行う必要性はないと判断された。

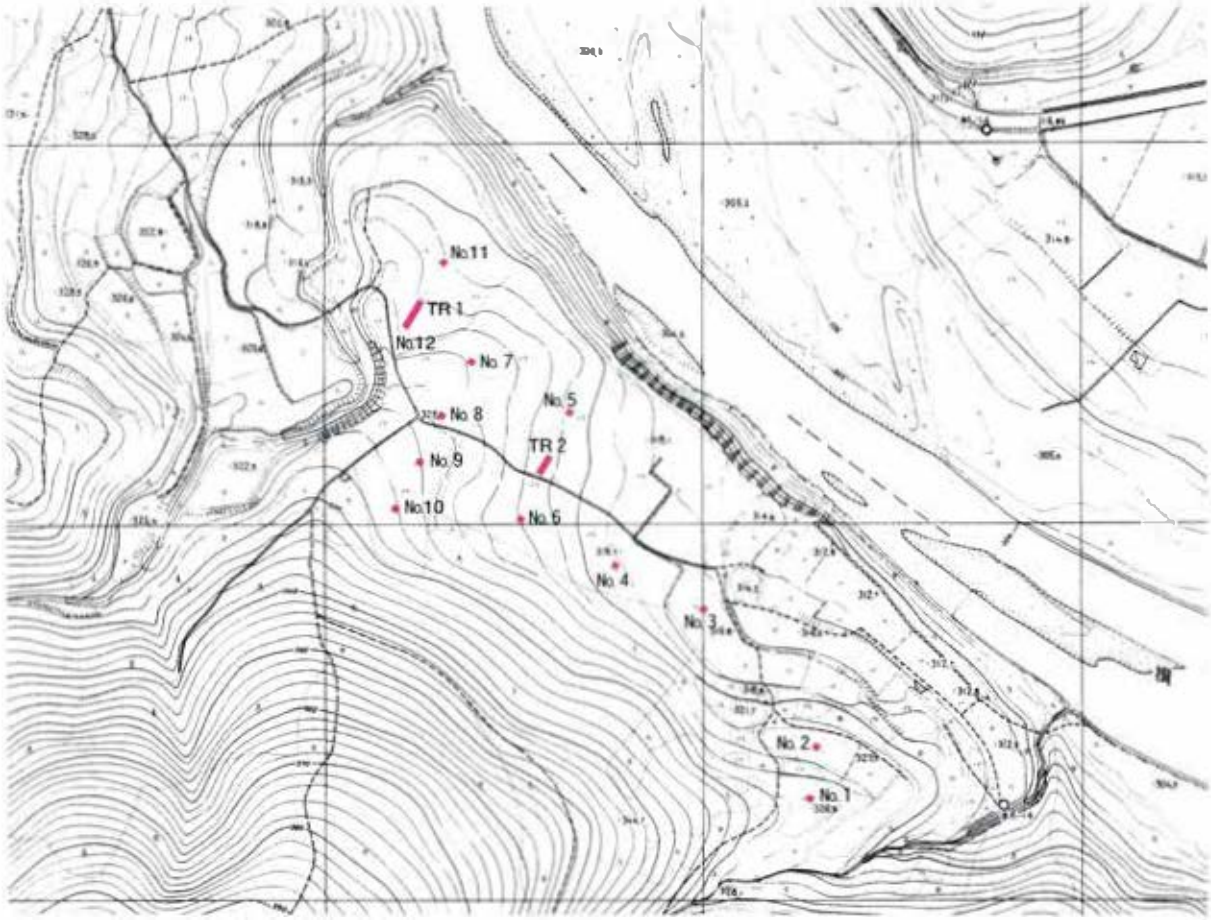


図6　何知平遺跡試掘調査坑位置図（S=1/2,000）

上原遺跡は、1990年～1993年に発掘調査を行い、縄文時代前期から晩期の集落跡であることが判明した（河村ほか1998、堀田ほか2000）。遺構・遺物量ともに塚奥山遺跡（1996年～2002年発掘調査）と並び、徳山地区最大級の縄文時代遺跡といえる。また、奈良・平安時代の遺構・遺物も検出しており、この時代における徳山地区の中心的な遺跡と思われる。上原遺跡が営まれた河岸段丘は、徳山地区内では最も広い面積を有するが、近世以降集落が形成されたことはなく、この最大の要因を水利面での不便さとしている。また、段丘面は高位・中位・低位の3段に区分され、発掘調査では、第3地点が高位段丘面に、第1・第2・第4・第5地点が中位段丘面に、第6地点が低位段丘面に設定されている。第1地点では、縄文時代前期後葉の集落跡を検出し、出土した遺物には早期や中期のものを少量含んでいるが、遺構はほぼ前期後葉～末葉に限定される。第2地点で検出された遺構は、前期から晩期に及ぶ。前期後半の竪穴住居跡は単独で確認されているが、中期末や後期の竪穴住居跡や炉跡は、南北の2群に分かれており、山手宮前遺跡の状況に似る。晩期の遺構は土器棺墓に限られているが、列状に並んだように検出されている。また、平安時代の掘立柱建物跡が1棟あり、遺物量も他の遺跡と比較して非常に多い。第3地点では、旧石器時代から平安時代の遺物が出土しているが、遺構は平安時代の掘立柱建物跡[1]と土坑墓である。第4地点は、第1地点と第2地点の間の位置にあたり、第1地点側では前期後葉の竪穴住居跡や土坑が、第2地点側では中期のピット群を検出している。また、早期の可能性が高いと思われる焼礫集積遺構があり、上原遺跡の中では最も押型文土器がまとまって出土している地点である。第5地点では押型文土器と焼礫集積遺構が検出されている。第6地点では、明確な遺構を確認できず、遺物も少量であった。

磯谷口遺跡は、寺屋敷遺跡の200mほど南の河岸段丘上に位置し、1990年に発掘調査が行われている（三島・藤根2001）。縄文時代（早期・中期～晩期）・平安時代・中近世の遺物が出土しているが、遺構は平安時代の土坑墓を1基確認しただけである。

寺屋敷遺跡は、1993年～1995年に発掘調査が行われ、旧石器時代・縄文時代・平安時代の遺跡であることが判明した（三島・藤根2001）。特に徳山地区内では、旧石器時代の遺物がまとまって出土した唯一の遺跡である。縄文時代の遺構では、中期後半の竪穴住居跡1棟や土坑などが、平安時代では礎石建物跡1棟、道状遺構、焼礫集積遺構、土坑などがある。平安時代の礎石建物跡は、出土した灰釉陶器多口瓶や鉄釘、螺髪などとともに、宗教関係施設として注目される。出土した灰釉陶器は、折戸53号窯式に比定されており、10世紀前半代の建物と考えられている。また、皿に漆状のものが付着していることが報告されている[2]。

上開田村平遺跡は、1992年～1993年に発掘調査を行い、縄文時代及び平安時代・中近世の遺跡であることが判明した（武藤ほか1999）。遺構・遺物の中心は、縄文時代中期末のものであるが、早期後葉の焼礫集積遺構や中近世の墓・積石塚などもある。

追分遺跡は、1989年～1990年に岐阜県教育委員会が発掘調査を行い、縄文時代及び古代～近世の遺跡であることが判明した（大参ほか1993）。遺構は確認することができず、遺物が出土しただけであった。

徳山陣屋跡は、2000年に発掘調査を行い、中世の屋敷跡を検出している（浅野ほか2002）。出土した遺物は、中世後期と近世後期のものが多い。

これらの遺跡を時期毎に概観する。旧石器時代の遺跡は、遺物がまとまって出土している寺屋敷遺

跡と、ナイフ形石器が出土した上原遺跡第3地点があるが、縄文時代草創期の遺物が出土した遺跡は確認されていない。早期になると遺構や遺物が各遺跡から確認できるが、竪穴住居跡は未検出である。前期に入り一旦遺跡数が減少した後、前期後葉になって上原遺跡において10棟の竪穴住居跡や土坑墓が確認され、揖斐川支流の西谷川流域でも小の原（しょうのはら）遺跡で2棟の竪穴住居跡が見つかっている。揖斐川上流域では、前期後葉の遺構や遺物が出土している遺跡は、上原遺跡・山手宮前遺跡・尾元遺跡に限られており、狭い範囲に集中している[3]。

中期前葉になると再び遺跡数が少なくなるが、中期中葉頃から徐々に増え始め、中期後葉に至って各所に集落遺跡が営まれる。山手宮前遺跡や上原遺跡のように、住居跡が2群に別れ、遺物出土状況や各種の遺構の配置状況が環状（弧状）となるものも見られる。後期から晩期にかけては、遺構・遺物数は減少し、弥生時代に至っては若干の土器の出土が報告されているだけである。さらに古墳時代になると、今のところ遺構・遺物の検出例は皆無である。

奈良時代も終わり頃になって、上原遺跡に土坑が検出され、遺物も出土していることから、何らかの活動が行われていたことがうかがわれる。また、平安時代に入ると遺構・遺物の出土が各遺跡で認められるようになる。ただ、平安時代の建物遺構として確認されているのは、寺屋敷遺跡の礎石建物跡や上原遺跡第2地点・第3地点の掘立柱建物跡で、これらは何らかの宗教活動に関わる施設の可能性がある（春日井2003）。上原遺跡第2地点では、徳山地区の中でこの時期の遺物出土量が最も多く、中心的な遺跡であった可能性が考えられる。中世以降では、山手宮前遺跡で集落跡と思われる掘立柱建物跡群を検出したほか、徳山陣屋跡では掘立柱建物跡や多くの土坑、庭園状遺構などが検出され、計画的な土地利用が考えられている。

これまでの発掘調査では、縄文時代の遺跡は、遺構・遺物とも多く検出されているが、弥生時代から奈良時代は遺構・遺物とも希薄となる。平安時代から中近世では、集落跡と思われる遺跡を確認できるもののその数は少ない。

1） 報告者は、掘立柱建物跡とは断定しておらず、ピット群として報告しているが、複数回の立て替えを行った掘立柱建物跡の可能性は捨てきれないとしており、ここでは一応掘立柱建物跡として扱った。

2） 寺平遺跡整理作業時に参考資料として付着物の分析を行い、漆であることが判明した（春日井2003）。

3） 山手宮前遺跡よりも上流部では、櫨原村平遺跡や塚奥山遺跡において、前期後葉の遺物が出土している（徳山村の歴史を語る会1984、（財）岐阜県文化財保護センター1997）が、いずれも調査途中の遺跡で詳細不明である。

第3章　調査の結果

第1節　基本層序

尾元遺跡は、A区が扇状地性緩斜面、B区が段丘上と立地が異なっている。このため、遺構が構築された基盤となる土層に違いが認められるが、基本的な土層堆積は類似している。これは、北側の断層活動による浸食谷から多量の土砂が堆積して扇状地性緩斜面が形成された後は、A区・B区とも土層堆積は周囲から供給されたものによるためと思われる。しかし、B区については、A区の扇状地性緩斜面が形成された後、やや谷状に低い場所となっており、A区よりもⅢ層の堆積は厚く、Ⅲa層・Ⅲb層に分層している。なお、調査地は廃村まで畑地や水田として利用されていたが、その際に段切り造成が行われており、表土下がⅤ層若しくはⅥ層となる部分があった。

基本層序は、確認調査の際の各試掘調査坑の土層堆積を元にⅠ層からⅥ層を設定した（図7）。なお、確認調査で検出した遺構は、Ⅳ層上面とⅤ層上面のものがあるが、Ⅳ層上面では確認作業が困難なため、多くの遺構はⅤ層上面まで掘り下げた後検出している。このため、Ⅴ層上面で検出したものの中には、本来Ⅳ層上面で検出すべき遺構が含まれている。

以下に基本層序のⅠ層から順に概述する。

Ⅰa層（黒土層、小石・炭化物を少量含む）

表土層、徳山村の廃村まで利用された水田や畑の耕作土である。

Ⅰb層（黒褐土層、鉄分沈着）

水田に伴う敷土。A区には存在しない。

Ⅰc層（黒土・褐土層、黒土主体の場合は褐土ブロック混入、褐土主体の場合は黒土ブロック混入）

段切り造成により、斜面を平坦にするために盛られた土層。

Ⅱ層（黒～黒褐土層、小石・炭化物を含む）

Ⅰc層の下部にある旧表土。古代以降の遺物を含む。

Ⅲa層（黒～黒褐土層、小石・炭化物を含む）

B区の一部に堆積する縄文時代～古代の遺物包含層。

Ⅲb層（黒～黒褐土層、小石・炭化物を含む）

調査区ほぼ全域に堆積する縄文時代の遺物包含層。

Ⅳ層（黒褐～暗褐土層、小石を含む）

縄文時代の遺物包含層。

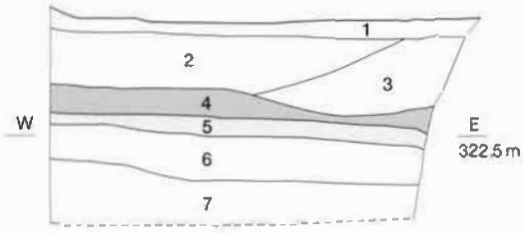
Ⅴ層（褐土層、角礫を多く含みやや粘質）

縄文時代以前に堆積した土層。浸食谷から供給された崩積性堆積物で、扇状地性斜面を形成する。中間に暗褐粘質土が堆積しており、一時的に土砂の供給が少なかった時期が認められるが、その時代は不明。

Ⅵ層（褐粘質～砂質土層、円礫を多く含む）

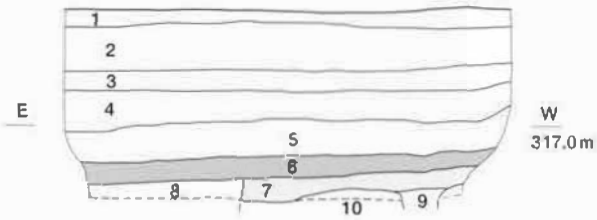
段丘礫層若しくはその直上に堆積したと思われる土層。

TP８北壁土層（第１地点Ａ区）



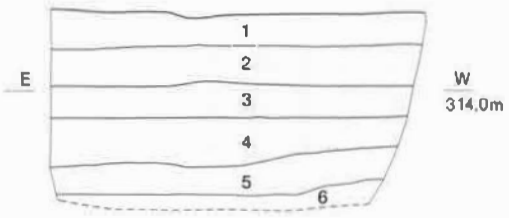
1　10YR1.7/1 黒土 径５cm以下の小石多く含む。Ⅰa層（表土）
2　10YR4/7/1 黒土 暗褐土ブロック混。小石含む。Ⅰb層（盛土層）
3　10YR3/4 暗褐土 黒土・褐土ブロック混。Ⅰb層（盛土層）
4　10YR2/1 黒土 小石多く含む。Ⅱ層～Ⅲb層（Ⅲ表土・包含層）
5　10YR2/2 黒褐土 径５cm以下の小石多く含む。Ⅳ層（包含層）
6　10YR1/6 褐粘質土 径10cm以下の角礫多く含む。Ⅴ層（崩積土）
7　10YR4/4 褐粘質土 径10cm以下の角礫多く含む。Ⅴ層（崩積土）

TP20南壁土層（第１地点Ｂ区）



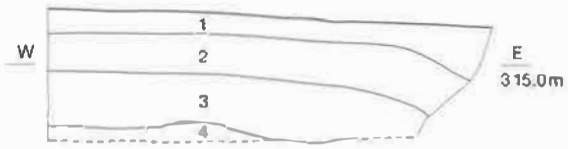
1　10YR3/2 黒褐土 礫含む。Ⅰa層（表土）
2　10YR4/6 褐粘質土 黒土ブロック混。礫含む。Ⅰb層（盛土層）
3　10YR2/2 黒褐土 旧水田耕作土。
4　10YR2/2 黒褐土 黄褐土ブロック混。Ⅰb層（盛土層）
5　10YR2/2 黒褐土 炭化物混。小石含む。Ⅱ層（Ⅲ表土）
6　10YR2/1 黒土 小石少し含む。Ⅲb層（包含層）
7　10YR2/2 黒褐土 炭化物混。Ⅳ層（包含層）
8　10YR2/3 黒褐土 土坑埋土。
9　10YR2/3 黒褐土 土坑埋土。
10　10YR3/4 暗褐土 やや粘質。小石含む。下部は褐色化。Ⅵ層

TP23南壁土層（第３地点）



1　10YR2/1 黒土 礫含む。Ⅰa層（表土）
2　7.5YR2/1 黒土 小石少量含む。Ⅱ層（B区Ⅲ表土・包含層）対応
3　10YR1.7/1 黒土 やや粘質。小石少量含む。Ⅲa層（B区包含層）対応
4　10YR2/1 黒土 やや粘質。小石・小円礫含む。Ⅲb層（B区包含層）対応
5　10YR2/2 黒褐粘質土 下部はやや砂質。径10cm以下の円礫含む。Ⅳ層（B区包含層）対応
6　10YR2/4 暗褐砂質土 径20cm以下の円礫含む。Ⅵ層

TP25東壁土層（第２地点）



1　10YR1.7/1 黒土 小石含む。Ⅰa層（表土）
2　10YR1/1 褐灰砂 径20cm以下の円礫多く含む。Ⅵ層（段丘礫上の堆積層）
3　10YR4/3 にぶい黄褐砂礫土 径30cm以下の円礫含む。Ⅵ層（段丘礫上の堆積層）
4　10YR5/3 にぶい黄褐砂礫土 円礫多く含む。Ⅵ層（段丘礫層）

図７　試掘調査坑土層断面図（S=1/50）

第２節　遺構・遺物の概要

(1)　遺構概要

調査で検出した遺構には、縄文時代と平安時代、現代のものがある（表２）。これらの遺構は、ごく一部を除いて層位的に検出できておらず、大半をⅤ層（Ⅵ層）上面で検出している。Ⅳ層上面から遺構状の土の違いを認識できたもののプランを明確に認識できず、Ⅴ層上面まで掘り下げることにより検出できた遺構もある。このため本来は層位的に異なる遺構であっても、同じ面で複数時期の遺構を検出している。なお、遺構の時期決定は、遺構内部から出土した遺物により行った。ただ、時期不明とした遺構や縄文時代の遺物が埋土から出土した遺構の中に、古代以降の遺構が含まれている可

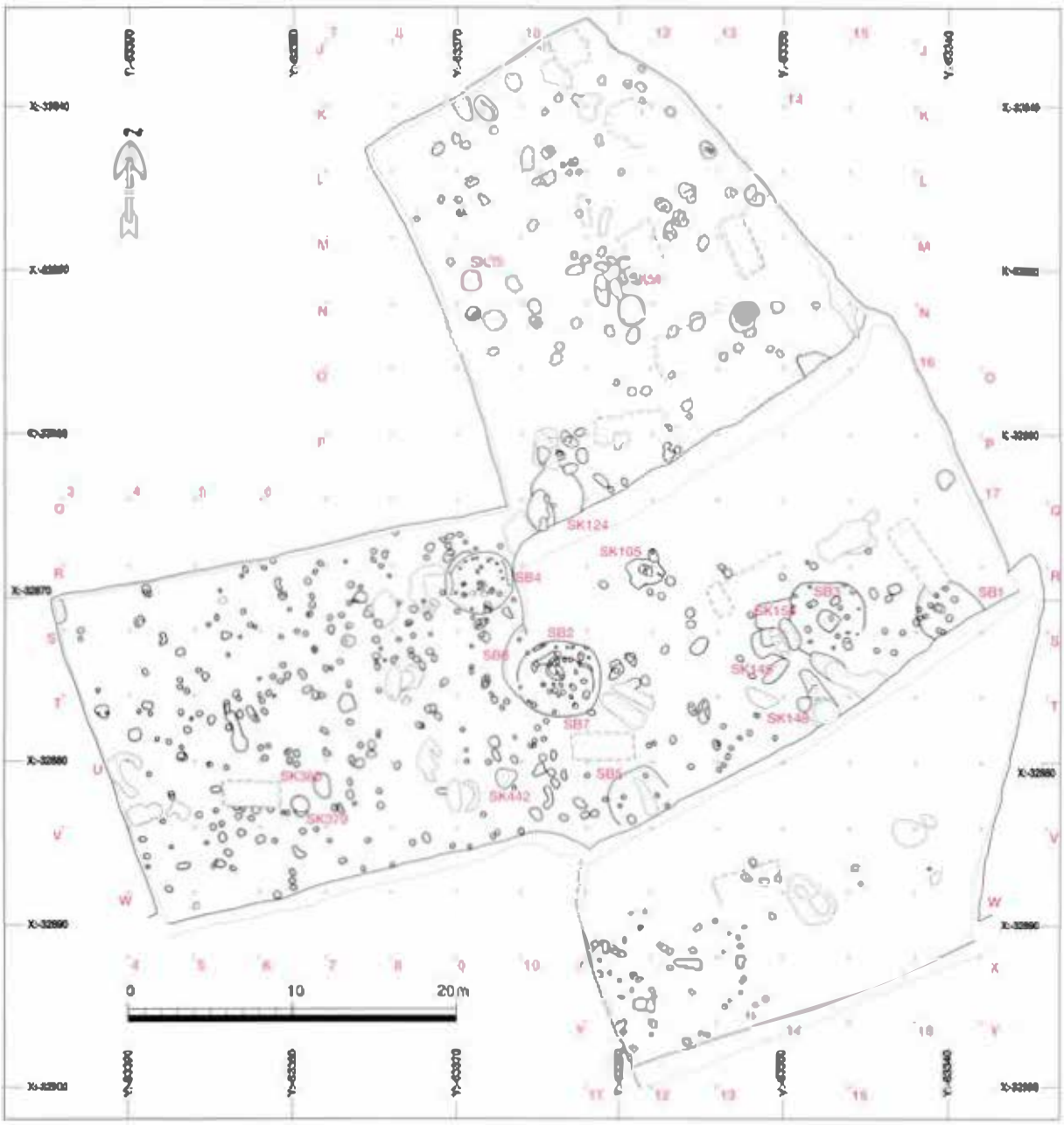


図８　A区遺構配置図（S=1/400）

能性があるが、層位的には区別できなかった。

A区では、縄文時代の竪穴住居跡や土坑墓・貯蔵穴などの土坑を検出しているが、時期が判明した遺構は少なく、大半の土坑は時期不明のものである。竪穴住居跡は、早期末から中期後葉までの各時期のものがあるが、前期後葉を除いては単発的である。B区では、土坑や溝状遺構を検出したが、時期が判明した遺構は少ない。溝状遺構内で検出した平安時代の土坑内からは、トチの種皮が多量に出土している。

遺構番号は、下記の略号を用い、通し番号を発掘調査時に付けた。ただし、発掘調査では竪穴住居跡内で検出したものをピット、竪穴住居跡外の穴を土坑」として、「SP」・「SK」の略号をそれぞれ用いて番号を付け、整理時に必要に応じて番号を付け直す方法をとった。また、発掘調査においては、竪穴住居跡や土坑などの判断のつかないものについては、一旦「SX」の記号を用い、整理時に新たに番号を付け直したものもある。

遺構略号　SB－竪穴住居跡　SK－土坑（穴）　SF－焼土・炉跡　SD－溝状遺構
SP－竪穴住居内検出土坑（小穴）　SW－倒木痕・伐根痕など

表2　検出遺構一覧

地　区	竪穴住居跡	住居内小穴	土　坑					溝状遺構	焼土・炉跡	倒木痕・伐根痕
				縄文	平安	現代	不明			
A　区	8	90	481	46	0	0	435	2	8	28
B　区	0	0	165	10	2	5	148	9	0	2

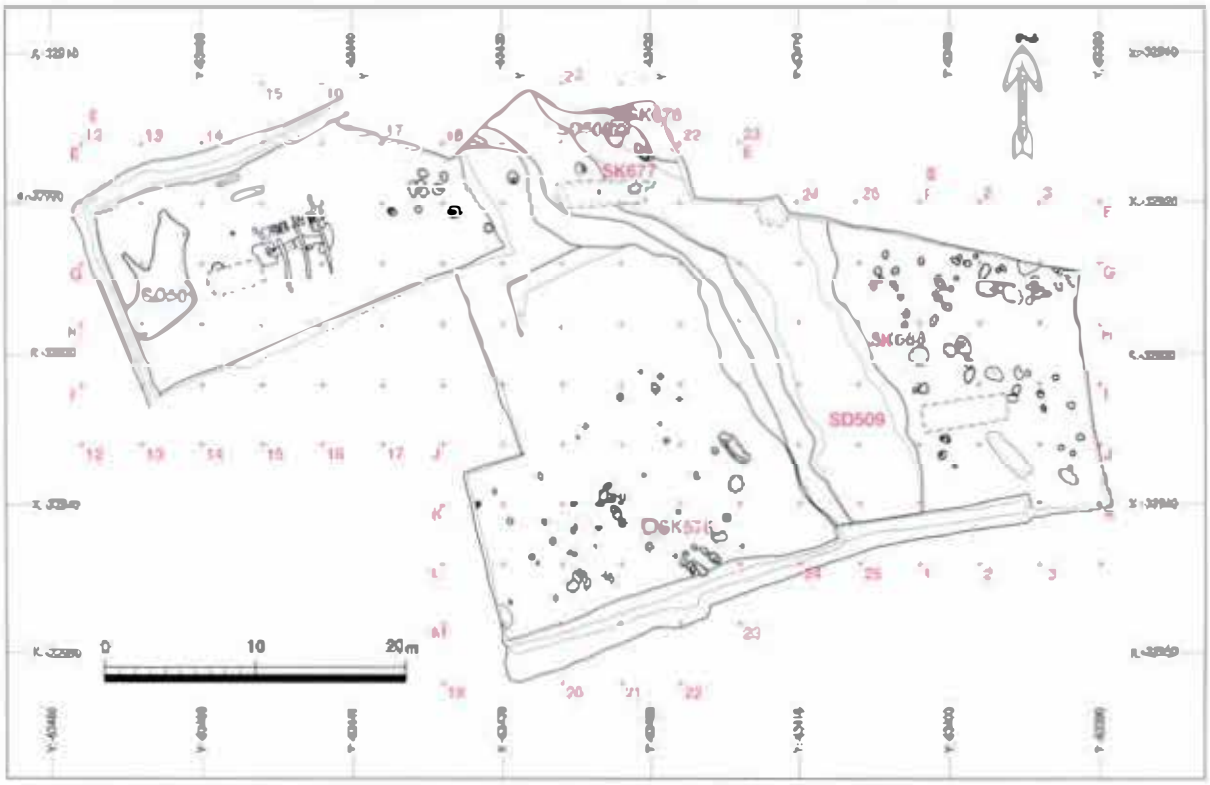


図9　B区遺構配置図（S=1/500）

a）平安時代及び現代の遺構

A区では この時期の遺構は確認できなかったが、B区では平安時代の遺物が出土した土坑2基と溝状遺構、徳山村廃村前の耕作に関連する遺構を検出した。平安時代の2基の土坑は、SD508内部で検出したが、SD508は縄文時代から平安時代の遺物が出土している。

b）縄文時代の遺構

平安時代以後の遺構を除いたものを、この時期の遺構として扱った。出土した遺物の多くは縄文時代のものであることから、遺物が出土していない時期不明の土坑も含めたため、新しい時期のものを含む可能性がある。A区では、竪穴住居跡、土坑、焼土・炉跡などを検出しているが、焼土・炉跡では住居外のものは3基だけである。土坑には貯蔵穴や土坑墓、集石土坑などがあるが、多くは性格不明のものである。B区では、土坑と溝状遺構を検出している。土坑の中に貯蔵穴があるが、多くは性格不明のものである。

1）　竪穴住居跡外で検出した土坑については、長野県茅野市立石遺跡（小池・柳川1981）における土坑の呼称方法を参考にした。ただし、立石遺跡では「穴」と呼称している。

（2）　遺物概要

出土した遺物は遺構数に比して少ないが、縄文時代のものを主として、平安時代以降のものがある。平安時代以降のものとしては、土師器・灰釉陶器・山茶碗などが出土したほか、木製品が1点ある。縄文時代では、早期から晩期にかけての各時期の土器や石器類が出土した。縄文土器は、前期後葉の土器を中心とし、次いで中期後葉が多い。石器類は、時期が判明する土器とともに遺構埋土から出土したものについては、土器と同じ時期となる可能性が高いと思われる。なお、図示した遺物は、遺構

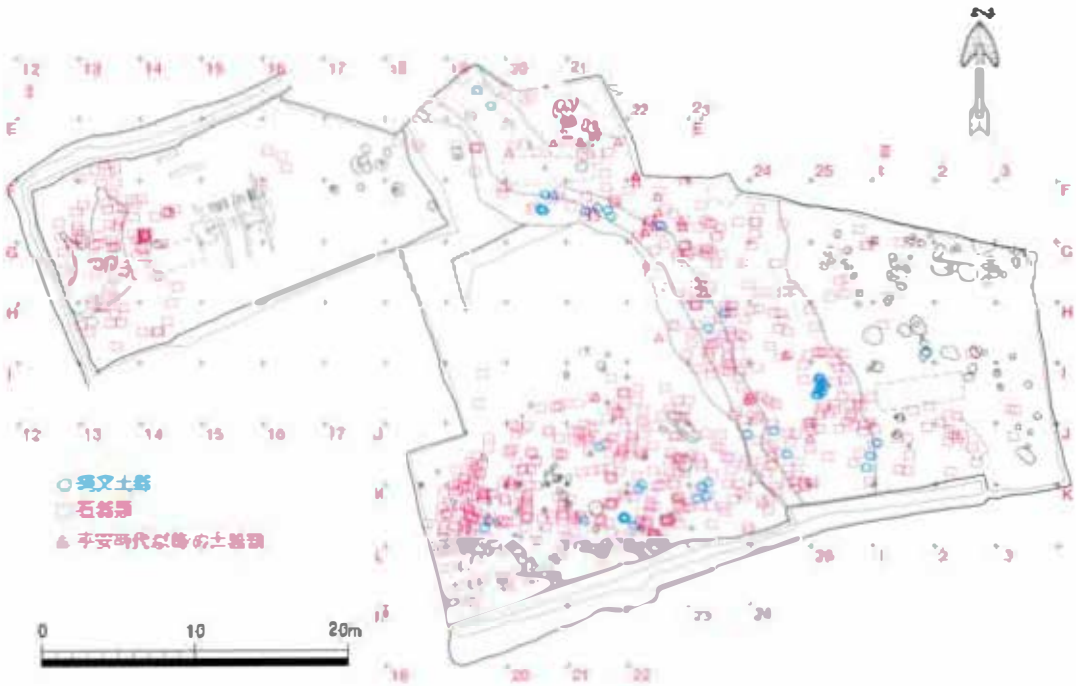


図10　B区遺物出土分布

から出土した時期的な特徴を持つものを中心に、任意で抽出したものである。

遺物の出土分布（図10・11）は、A区・B区とも段切り造成による切り土部分では遺物の分布が稀薄となる。A区では、遺構が多い中央部分に分布が多くなり、竪穴住居跡や土坑墓内に集中している。B区では際だった遺物集中は認められないが、南部や溝状遺構内に多い。

a）土器類

土器類の出土量は表3にまとめ、接合前の破片数・個体数・・質量を併記した。A区、B区とした中には、試掘調査で出土した遺物も含んでいる。ただし、発掘調査区外となった試掘調査坑から出土した遺物については、調査区外としてまとめ、さらにこの3つを全体としてまとめた。A区では、土

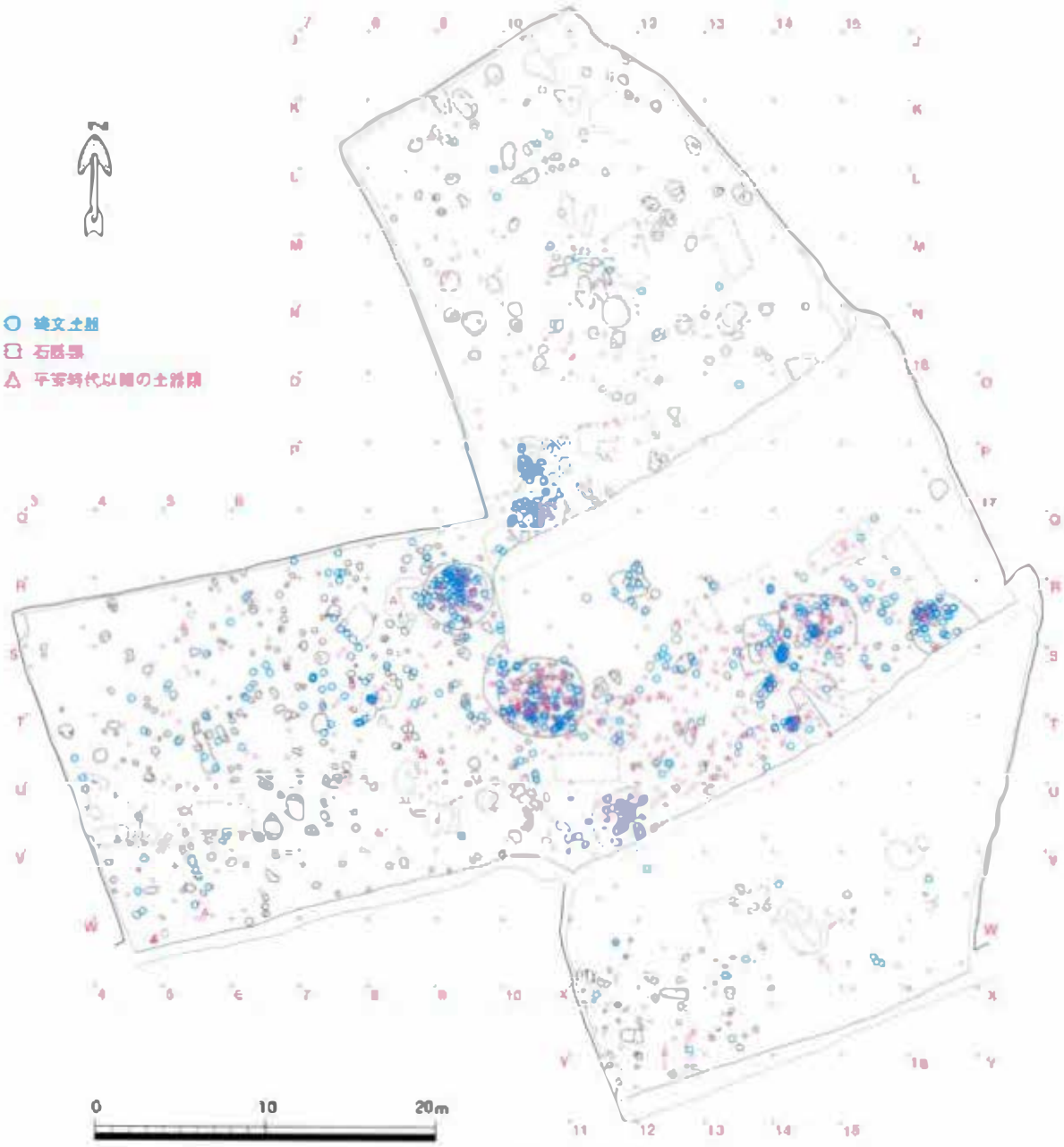


図11　A区遺物出土分布

表3　土器類出土量

A区	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	陶磁器類	合計
破片数	654	1	0	3	1	10	669
%	97.76	0.15	0	0.45	0.15	1.49	100
個体数(x 12)	74.9	1	0	0	0	3	78.9
%	94.93	1.27	0	0	0	3.8	100
質量(g)	8192.1	1.3	0	27.8	3.8	90.7	8315.7
%	98.51	0.02	0	0.33	0.05	1.09	100

B区	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	陶磁器類	合計
破片数	71	7	11	12	1	1	103
%	68.93	6.8	10.68	11.65	0.97	0.97	100
個体数(x 12)	11.8	2	3	8.4	0	0	25.2
%	46.83	7.94	11.9	33.33	0	0	100
質量(g)	1110.3	61	252.6	164.8	2.9	7.4	1599
%	69.44	3.81	15.8	10.31	0.18	0.46	100

調査区外(試掘調査)	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	陶磁器類	合計
破片数	1	0	0	3	1	6	11
%	9.09	0	0	27.27	9.09	54.55	100
個体数(x 12)	0	0	0	0	1	2	3
%	0	0	0	0	33.33	66.67	100
質量(g)	13.7	0	0	24.7	8.4	14.8	61.6
%	22.24	0	0	40.1	13.64	24.03	100.01

全体	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	陶磁器類	合計
破片数	726	8	11	18	3	17	783
%	92.72	1.02	1.4	2.3	0.38	2.17	99.99
個体数(x 12)	86.7	3	3	8.4	1	5	107.1
%	80.95	2.8	2.8	7.84	0.93	4.67	99.99
質量(g)	9316.1	62.3	252.6	217.3	15.1	112.9	9976.3
%	93.38	0.62	2.53	2.18	0.15	1.13	99.99

＊破片数は接合前のものである。
＊個体数は口縁部残存率（x 12）により計測し、1 12よりも小さなものは1 12に切り上げた。

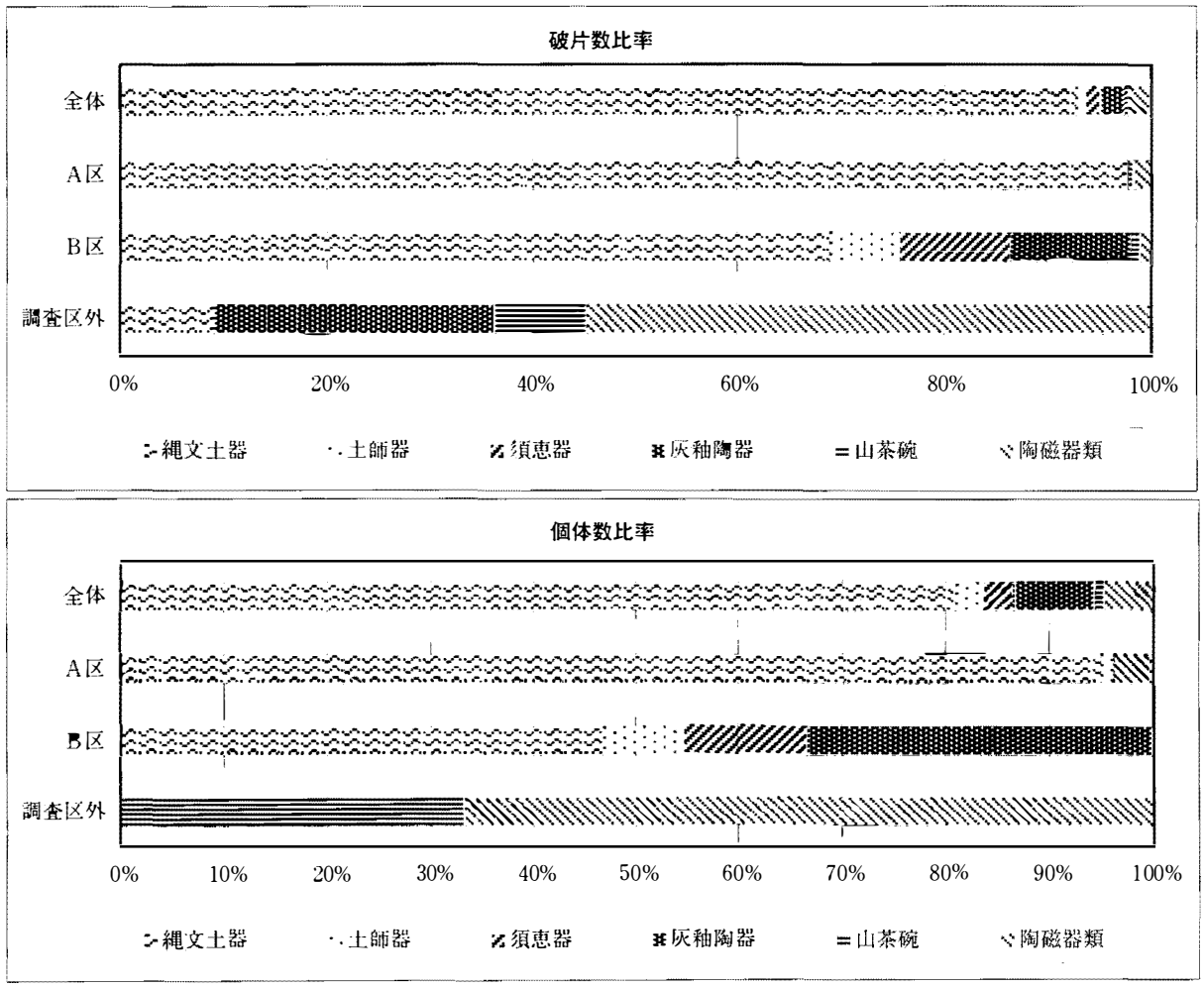


図12　土器類出土量比率

器類の大半が縄文土器であるのに対し、B区では土師器・須恵器・灰釉陶器といった古代の土器が、破片数と質量で30%近くあり、個体数では57%を超えている。これは、この時期の遺構の存在を反映したものと思われる。また、縄文土器については、時期別の出土量を表4にまとめた。A区では晩期の土器がなく、B区では後期の土器が確認できなかった。出土量は少ないが、B区では早期の土器の比率がA区よりも高い。

平安時代以降の土器[3]は、量的に少ないため分類は行っていないが、灰釉陶器の年代観は齊藤孝正氏の編年（齊藤1995）を参考にした。縄文土器は、早期から晩期までの727点が出土しており、それぞれのローマ字の頭文字を取って、大きくS群からB群とした。さらに、既存の研究成果を参考にして、有文土器を中心に文様の特徴から、必要に応じて分類を行った。縄文土器の分類は以下のとおりである[4]。なお、図示した遺物は、遺構から出土したものと、包含層から出土した時期判別がある程度可能なものを抽出した。

S1群　早期前半の押型文土器

a類　山形文を帯状に施文する沢式土器で、胎土に黒鉛を含むものをa1類、含まないものをa2類とした。A区でa2類が1点、B区で11点（内a1類5点）出土した。

b類　山形文と直線文を施す土器で、神並上層式土器に類似したもの。B区で4点出土した。

c類　山形文や楕円文を施す土器で、細久保式土器に類似したもの。A区で10点出土した。

S2群　早期後葉の条痕文系土器

A区で鵜ヶ島台式土器と思われるものが2点出土した。

S3群　早期末葉の土器

a類　器壁が薄く、条痕を施す土器。塩屋式土器に比定できるもので、細い突帯を貼り付ける。A区においてSB3を中心に7点出土した。

b類　胎土に繊維を含み、縄文を施す土器。SB3を中心に出土していることから、a類に伴うものと判断した。A区で8点出土した。

c類　無文土器（c1類）及び縄文を施す土器（c2類）。c1類に繊維を含むものがあることや、SB3を中心に出土したことから、a類と同時期と判断したが、ほかの遺構から出土したものについては、時期が前後する可能性がある。A区で18点、B区で3点出土した。

Z1群　前期前半の土器

前期前半と思われる土器が、B区から2点出土した。

Z2群　前期後半の土器

出土量が最も多く、東海地方の清水ノ上Ⅲ式から大麦田式に相当すると思われ、近畿地方の北白川下層Ⅱc式から北白川下層Ⅲ式に併行する時期のものが大半を占める。

a類　半截竹管による押引き沈線を施す土器。A区で8点出土した。

b類　刻みや刺突を持つ突帯を施す土器。A区で39点出土した。縦の短い刻みをb1類、斜めのやや長い刻みをb2類、半截竹管による刺突をb3類とした。

c類　半截竹管による押引きを突帯上に施す土器。A区で37点出土した。

d類　突帯上に縄文を施す土器。A区で42点出土した。

e類　素文の突帯を施す土器。A区で15点、B区で1点出土した。

f類　無文土器。地文に縄文を施文するものをf1類、地文を持たないものをf2類とした。A区で10点出土した。

g類　北陸地方や信州地方など他地域の土器に類似したもの。深鉢をg1類、浅鉢をg2類とした。g1類はA区で6点、g2類はB区で13点出土した。

胴部　有文土器か無文土器か区別することが困難な胴部破片については、縄文を地文とするものを胴a類、地文を持たないものを胴b類とした。

底部　底部破片については、端部に何も施さないものを底a類、刻みを施すものを底b類、縄文を施すものを底c類とした。

C1群　中期前半の土器

a類　東海地方西部の土器。A区で3点、B区で1点出土した。

b類　船元式系の土器。A区で9点出土した。

c類　信州地方の狢沢式土器。A区SB5から2点出土した。

d類　無文土器。SB5から出土したものを、この時期の無文土器としてまとめた。

C2群　中期後半の土器

a類　里木Ⅱ式系の土器。縄巻き縄文を地文とするものをa1類、撚糸文を地文とするものをa2類とした。東海地方における中富Ⅰ式にあたる。A区で32点（内a1類4点）出土した。

b類　隆帯を口縁部に貼り付ける土器。船元Ⅲ式A類が在地化したものとされる土器で、戸入村平遺跡C2群B類（武藤ほか1994）、上原遺跡C4群の一部やC5群Ⅰ類（河村ほか1998）に類似する土器である。A区で11点出土した。

c類　隆帯を口縁端部に横位に施すもので、A区SB2から1点出土した。

C3群　中期末葉の土器

a類　口縁部が袋状となる土器。

b類　口縁部に隆帯や沈線による横位文様を施す土器。隆帯と沈線を併用するものをb1類、沈線のみのものをb2類とした。A区で9点（内b1類3点）出土した。

c類　無文土器。A区SP1から出土した1点を、この時期に伴うものとした。

胴部　a類若しくはb類の胴部片と思われるもので、隆帯と沈線で文様を施すものを胴a類、沈線で文様を施すものを胴b類とした。また、a類・b類の胴部ではないが、条線文を施すものを胴c類とした。

底部　中期末葉と思われる底部片が、A区で2点出土した。

K群　後期の土器を一括した。A区から4点出土した。

B群　晩期末の伊勢型変容壺といわれる土器で、B区から2点出土した。

J群　時期が不明確な無文土器で、縄文を施すものをa類、縄文を施さないものをb類とした。

2）　個体数の計測方法は、口縁部計測法（宇野1992）を用いた。

3）　須恵器や灰釉陶器に関しては、渡辺博人氏の指導を受けた。また、中世以降の土器については小野木学（当センター）の助言を得た。

4）　縄文土器に関しては、網谷克彦・泉拓良・小林謙一・堀田一浩・矢野健一各氏から御教示を得た。

表 4　縄文土器時期別出土量

A区	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	合計
破片数	47	289	110	4	0	204	654
%	7.19	44.19	16.82	0.61	0	31.19	100
個体数(x 12)	3.1	48	16.8	0	0	7	74.9
%	4.14	64.09	22.43	0	0	9.35	100
質量(g)	339.5	4413.6	2177.3	129.7	0	1102	8192.1
%	4.14	54.24	26.58	1.58	0	13.45	100

B区	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	合計
破片数	18	17	12	0	2	22	71
%	25.35	23.94	16.9	0	2.82	30.99	100
個体数(x 12)	3	5	1	0	1.8	1	11.8
%	25.42	42.37	8.47	0	15.25	8.47	99.98
質量(g)	176.7	531.7	141.6	0	101.6	158.7	1110.3
%	15.91	47.89	12.75	0	9.15	14.29	99.99

調査区外(試掘調査)	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	合計
破片数	0	0	1	0	0	1	2
%	0	0	50	0	0	50	100
個体数(x 12)	0	0	0	0	0	0	0
%	-	-	-	-	-	-	-
質量(g)	0	0	13.7	0	0	2.4	16.1
%	0	0	85.09	0	0	14.91	100

全体	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	合計
破片数	65	306	123	4	2	227	727
%	8.94	42.09	16.92	0.55	0.28	31.22	100
個体数(x 12)	6.1	53	17.8	0	1.8	8	86.7
%	7.04	61.13	20.53	0	2.08	9.23	100
質量(g)	516.2	4975.3	2332.6	129.7	101.6	1263	9318.5
%	5.54	53.39	25.03	1.39	1.09	13.55	99.99

＊破片数は接合前のものである。
＊個体数は口縁部残存率（x 12）により計測し、1/12よりも小さなものは1/12に切り上げた。

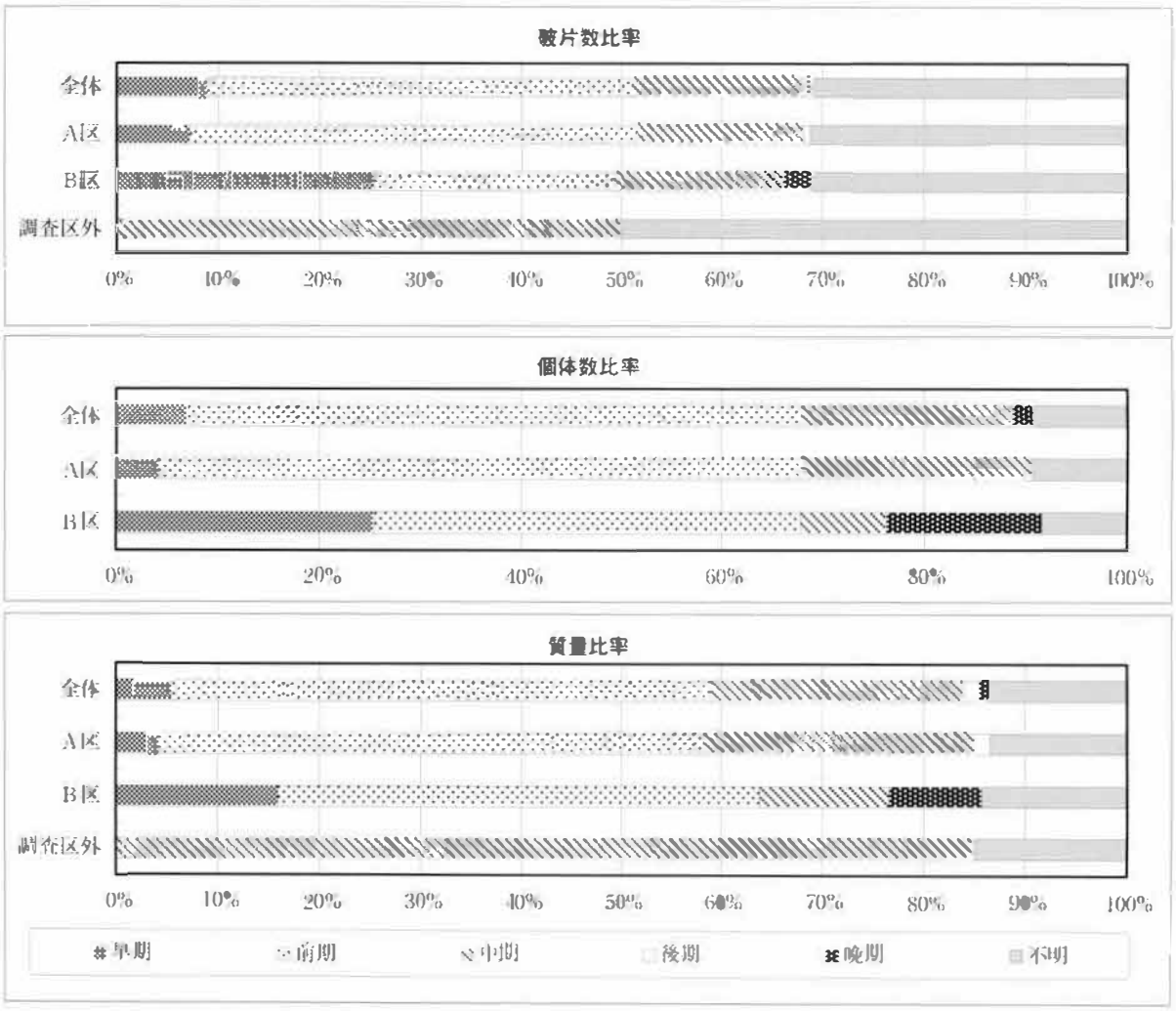


図13　縄文土器時期別出土量比率

b）石器類

石器類の出土量は、土器類と同様にA区・B区・調査区外・全体として表5にまとめた。土器類はA区よりもB区が圧倒的に少ないのに対して、石器類はほぼ同数が出土している。調査面積からすればB区の方が、分布密度は高いと言える。A区とB区を器種別に比較した場合、B区の方が量的に多いものとして石鏃・打製石斧・磨製石斧・MFをあげることができる。これに対し打欠石錘・切目石錘・磨石・凹石類は、B区ではかなり少なく、A区とB区との場の性格の違いを示す可能性がある。

器種毎の概要は以下のとおりである[5]。なお、図示した遺物は、遺構出土のものを中心に抽出した。

石鏃

鋭利な先端部と柄に装着するための基部を作り出した小型の石器。A区から29点、B区から32点、調査区外（試掘調査）から1点の合計62点出土した。石材は、チャートが90%以上を占め、サヌカイトや下呂石を用いたものが少量ある。

有茎石鏃は1点もなく、すべて無茎石鏃であった。基部の形態が、凹基となるものを1類、平基若しくはやや丸みを持ち円基状のものを2類、未製品と思われるものを3類、基部を欠損し形状不明なものを4類とし、さらに数の多い1類を基部の抉りの形態や深さからa～eに細分した。なお、石鏃計測表（表51）には側縁部や脚部の形状、欠損部位についても、図16・17に基づいて記号を記載した。

RF	MF	打欠石錘	切目石錘	凹石類	石皿	石製品	砥石	計
183	395	29	19	59	17	3	2	1811
10.1	21.8	1.6	1.05	3.26	0.94	0.17	0.11	
97	160	23	14	41	16	3	2	899
10.8	17.8	2.56	1.56	4.56	1.78	0.33	0.22	
79	227	6	5	17	1	0	0	866
9.12	26.2	0.69	0.58	1.96	0.12	0	0	
7	8	0	0	1	0	0	0	46
15.2	17.4	0	0	2.17	0	0	0	

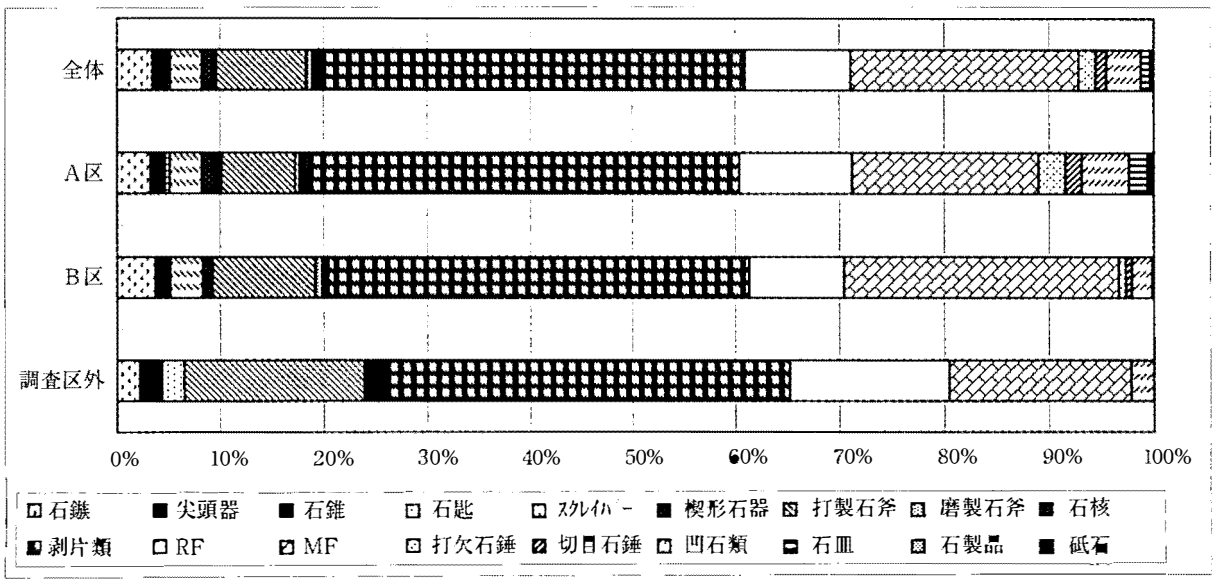


図14　石器組成グラフ

表6　器種別石材一覧

点数 比率(%)	石鏃	尖頭器	石錐	石匙	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	剥片類	RF	MF	打欠石錘	切目石錘	凹石類	石皿	石製品	砥石	合計
黒曜石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.13	0	0	0	0	0	0	0	●	●.06
チャート	56	1	24	5	49	24	0	0	10	685	169	382	0	0	0	0	0	0	1405
	90.32	100	100	71.43	89.09	96	0	0	71.43	91.58	92.35	96.71	0	0	0	0	0	0	77.58
下呂石	2	0	0	1	1	0	0	0	0	5	0	3	0	0	0	0	0	0	12
	3.23	0	0	14.29	1.82	0	●	0	0	0.67	0	0.76	0	0	0	0	0	0	0.66
サヌカイト	4	0	0	1	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	10
	6.45	0	0	14.29	0	0	0	0	7.14	0.4	0.55	0	0	0	0	0	0	0	0.55
凝灰岩	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0	0	0	0	1.82	0	●	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.06
流紋岩	0	0	0	0	1	0	4	0	2	2	1	4	0	0	1	0	1	0	16
	0	0	0	0	1.82	0	2.53	0	14.29	0.27	0.55	1.01	0	0	1.69	0	33.33	0	0.88
安山岩	0	0	0	0	1	0	13	6	1	3	0	0	0	3	11	3	0	0	41
	0	0	0	0	1.82	0	8.23	6●	7.14	0.4	0	0	0	15.79	18.64	17.65	0	0	2.26
泥岩	0	0	0	0	1	1	90	1	0	38	9	6	4	3	0	0	0	2	155
	0	0	0	0	1.82	4	56.96	1●	0	5.08	4.92	1.52	13.79	15.79	0	0	0	100	8.56
砂岩	0	0	0	0	1	0	51	3	0	11	3	0	25	13	46	13	0	0	166
	0	0	0	0	1.82	0	32.28	3●	0	1.47	1.64	0	86.21	68.42	77.97	76.47	0	0	9.17
閃緑岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	0	0	0	0	●	0	0	0	0	0	0	0	1.69	0	0	0	0.06
礫岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0	0	0	0	0	0	●	0	0	0	0	0	0	0	0	5.88	0	0	0.06
ﾊﾟｲﾛﾌｨﾗｲﾄ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
(葉蝋石)	●	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66.67	●	0.11
点数合計	62	1	24	7	55	25	158	10	14	748	183	395	29	19	59	17	3	2	1811

また、素材となった剥片の剥離面の残存状況を、片面に残る－1、両面に残る－2、なし－3、小さく残る－b、大きく残る－bと記号化して記載した。

1a類　基部の抉りが丸く浅い（0.3cm未満）もので、16点出土した。側縁や脚部の形状はバラエティに富み、側縁は外彎するものがやや多く、脚部は尖るものと丸いものが同数である。

1b類　基部の抉りが丸くやや深い（0.3cm以上）もので、15点出土した。側縁は1a、脚部は1aの形態となるものが多い。

1c類　基部の抉りが「く」字状の浅い（0.3cm未満）もので、6点出土した。側縁は直線的、脚部は尖るものが多い。

1d類　基部の抉りが「く」字状の深い（0.3cm以上）もので、7点出土した。側縁は直線的、脚部は尖るものが多い。

1e類　基部の抉りが「U」字状のもので、8点出土した。側縁は直線的で、脚部は平らになるものが多い。

1a類　1b類　1c類　1d類　1e類　2類

図15　石鏃の基部による分類模式図

2類　基部に抉りがなく、直線的かやや外湾するもので、4点出土した。側縁は外湾するものが多い。また、素材面を両面に大きく残す。

3類　剥離が粗いことから、石鏃未製品と思われるもので、2点出土した。

4類　基部を欠損しており分類できないもので、4点出土した。この中に1類・2類には確認できなかった、側縁に角を持つものが1点ある。

尖頭器

先端及び基部を欠くが、表裏から長い剥離を施していることから、尖頭器の可能性があると思われるものが、A区から1点出土している。石材はチャートである。

石錐

鋭利で細い先端部を作り出した石器。A区から12点、B区から11点、調査区外（試掘調査）から1点の合計24点出土した。石材はすべてチャートであった。錐部と基部の形状により以下のように分類した。

1類　不定型な剥片を素材とし、その一端に簡単な調整を加えて、短い錐部を作り出したもので、14点出土した。この中には、調整剥離というよりも微細な剥離痕というべきものも含んでいる。

2類　素材となる剥片の側辺に調整を加えて錐部を作り出すことにより、平面形が概ね三角形もしくは菱形となり、錐部と基部との境が不明瞭なもので、6点出土した。

3類　素材となる剥片のほぼ全周に調整を加えて、細身の棒状になるもので、3点出土した。

4類　素材となる剥片の側辺に調整を加えて錐部を作り出し、基部との境が明瞭なもので、1点出

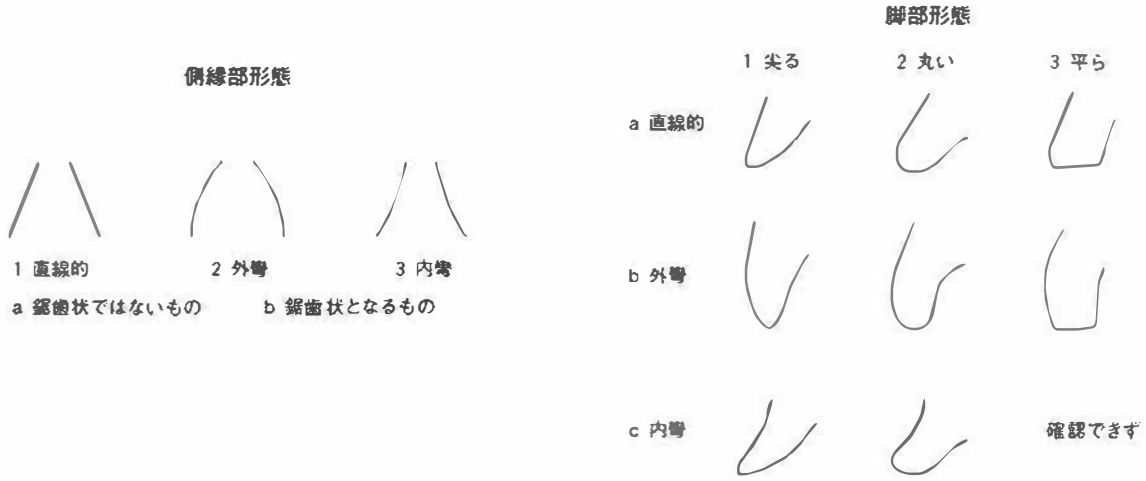


図16　石鏃の側縁及び脚部形態模式図

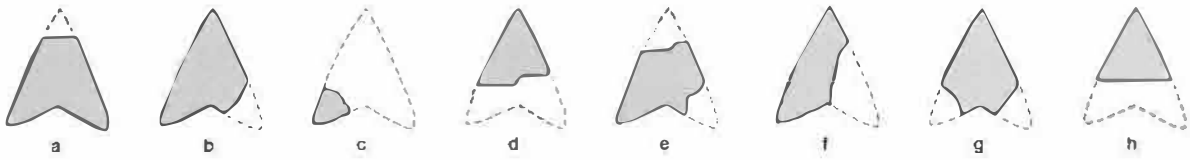


図17　石鏃欠損部位模式図

土した。

石匙

素材剥片の一部に、2ヵ所から抉り状の剥離を施すことによって、つまみ状の小突起を形成し、縁辺部に連続した剥離を施して、刃部を作り出した石器。A区から4点、B区から2点、調査区外（試掘調査）から1点の合計7点出土した。石材はチャート5点の他、サヌカイトと下呂石が1点づつある。

形態がわかるものはすべて横形の石匙であった。つまみ部を欠くものについては、スクレイパーに含めるべきかもしれないが、刃部の剥離が長く、スクレイパーの刃部の調整剥離とはやや異なることから、石匙に含めた。

スクレイパー

素材剥片の縁辺部に連続した剥離を施して、一辺の1/2以上の範囲に刃部を作り出した石器や、抉り状の刃部を持つもの。このため連続した剥離が認められても、1/2以上の欠損があると想定されたものは、便宜的に調整剥離を施す剥片に含めた。A区から28点、B区から27点の合計55点出土した。石材はチャートが約89%を占める。刃部の位置や形状により以下のように分類した。

1類　素材剥片の側辺に刃部を1つ作り出すもので、刃部の形状によりa～cに細分した。

1a類　刃部が直線的なもの（直刃）。A区6点、B区6点の合計12点出土した。

1b類　刃部が外彎するもの（円刃）。A区5点、B区2点の合計7点出土した。

1c類　刃部が内彎するもの（凹刃）。A区4点、B区4点の合計8点出土した。

2類　素材剥片の末端辺若しくは基辺に刃部を作り出すもので、素材剥片や刃部の形状によりa～dに細分した。

2a類　縦長剥片を用い、刃部の角度が70°未満のもの。A区2点、B区5点の合計7点出土した。

2b類　縦長剥片を用い、刃部の角度が70°以上のもの。2a類よりも剥片は大きく、厚い。A区1点、B区2点の合計3点出土した。

2c類　縦長剥片を用い、側辺にも刃部を作り出すもの。A区で3点出土した。

2d類　横長剥片を用いたもの。A区2点、B区2点の合計4点出土した。

3類　素材剥片の両側辺、または末端辺と基辺に刃部を作り出すもので、両側辺の位置関係によりaとbに細分した。

3a類　刃部が個々に分離したもの。B区で3点出土した。

3b類　両側辺が末端で先端を形成するもの。A区で2点出土した。

4類　素材剥片の側辺に、抉り状の刃部を作り出すもので、他の刃部を併せ持つか否かで細分した。

4a類　抉り状の刃部だけを持つもの。A区2点、B区3点の合計5点出土した。

4b類　抉り状の刃部と1類に該当する刃部を併せ持つもの。A区で1点出土した。

楔形石器

剥片の相対する二縁辺に、潰れ状あるいは階段状の剥離痕が発達する石器。A区で17点、B区で8点の合計25点出土した。石材は、泥岩が1点ある他は、すべてチャートであった。

打製石斧

略長方形の形態で中程にくびれを持つものもあるが、ほぼ全周を二次加工し、長軸の一端に刃部を

もつ石器。刃部は長軸の両端にある場合もある。A区で64点、B区で86点、調査区外（試掘調査）で8点の合計158点が出土した。この中には、打製石斧片と思われる小片についても点数に加えた。石材は、泥岩が56%以上を占め、次いで砂岩が約32%である。そのほか安山岩や流紋岩が用いられている。砂岩や安山岩を用いた打製石斧の中には、川原石を素材としたとわかる自然面を残しているものがある。平面形態から以下のように分類した。

1類　両側縁がほぼ平行するもので、いわゆる短冊形。A区で20点（完形7点）、B区で31点（完形8点）、調査区外（試掘調査）で1点の合計52点出土した。泥岩製のものが多いが、B区では泥岩製と砂岩製のものが同数ある。

2類　両側縁が基部に向かって収束するもので、いわゆる撥形。刃部が最大幅となる。A区で5点（完形2点）、B区で21点（完形8点）、調査区外（試掘調査）で1点の合計27点出土した。砂岩製のものが多い。

3類　着柄部に抉りを作り出したもので、いわゆる分銅形。A区で2点（完形1点）、B区で8点（完形2点）の合計10点出土した。砂岩製のものが多い。

4類　数量は少ないが、長軸線が着柄部の中程で屈曲（彎曲）する形態のものである。A区で2点（完形1点）、調査区外（試掘調査）で1点の合計3点出土した。泥岩製と砂岩製のものがある。

5類　破損のため平面形態が不明なものや打製石斧の破片と判断したもので、A区で35点、B区で26点、調査区外（試掘調査）で5点の合計66点出土した。石材は泥岩が多い。

なお、欠損部位ついては図18に基づいて、刃部形態・刃部使用痕については以下のように記号化して、基部装着痕・自然面についてはその有無を一覧表（表57～59）に記載した。

刃部形態

1　平らなもの（直刃）

2　外彎するもの（円刃）

3　尖るもの（尖刃）

4　中心軸に対して傾くもの（偏刃）

刃部使用痕

摩耗

1　摩耗が確認できるもので、摩耗の程度や範囲によって次のように細分した。

f　刃部片　　g　基部（頭部）片　　y　部位不明の破片　　z　完形

図18　打製石斧欠損部位模式図

1a　表裏面や両側面に程度や範囲の差がないもの

1b　表裏面で程度や範囲に差があるもの

1c　両側面で程度や範囲に差があるもの

1d　破片のため、程度や範囲の差を確認できないもの

2　摩耗を確認できないもの

刃こぼれ状の剥離

1　刃部の調整剥離とは異なり、刃こぼれと判断したもので、その位置により次のように細分した。

1a　刃部中央や全体的に認められるもの

1b　側面寄りに位置するもの

2　刃こぼれ状の剥離を確認できないもの

線状痕

1　線状痕が確認できるもので、刃部に対する方向で次のように細分した。

1a　刃部と直交する方向（長軸に平行）に確認できるもの

1b　刃部に斜行する方向に確認できるもの

磨製石斧

略長方形の形態で、刃部を研磨により作り出した石器。A区で4点、B区で6点の合計10点出土した。石材は安山岩が多く、砂岩や泥岩を用いたものもある。A区では基部片しかなく、B区では基部を欠くものか完形品がある。形態は図19に基づいて、刃部形態や欠損部位、刃部の刃こぼれ状の剥離は打製石斧の刃部形態・欠損部位・刃部使用痕の刃こぼれ状剥離に従って、一覧表（表60）に記号を記載した。

石核

素材剥片を剥離した残核を総称して石核とした。A区で8点、B区で5点、調査区外（試掘調査）で1点の合計14点出土した。この中には、残核をスクレイパーなどに転用したものは含めていない。石材は剥片石器の石材と同様にチャートが多く、他にはサヌカイト・流紋岩・安山岩がある。

剥片類

剥離作業によって生じた剥片や砕片などをまとめて剥片類とした。二次加工や微細な剥離痕が確認できなかったものである。A区で375点、B区で354点、調査区外（試掘調査）で18点の合計747点出

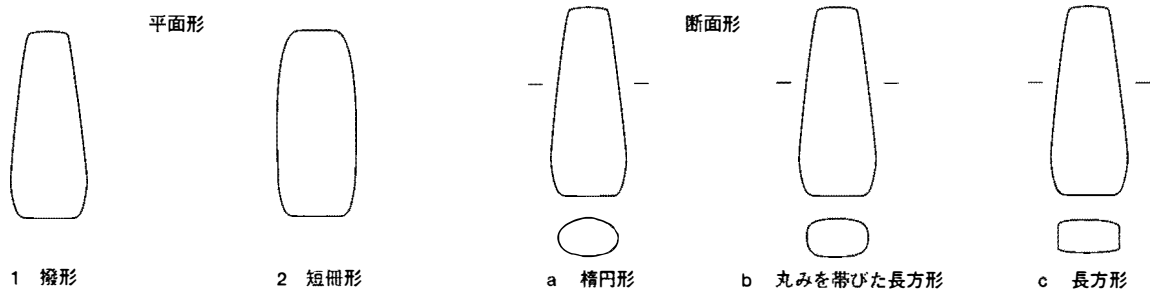


図19　磨製石斧形態模式図

土した。石材はチャートが91%以上を占めている。

調整剥離を施す剥片（ＲＦ）

素材剥片の縁辺部に二次加工を施すもののうち、スクレイパーには含めなかったものである。Ａ区で97点、Ｂ区で79点、調査区外（試掘調査）で７点の合計183点出土した。石材は92%以上がチャートで、他に泥岩や砂岩などがある。

微細な剥離痕を有する剥片（ＭＦ）

剥片の縁辺に微細な剥離痕が確認できる剥片である。鋭い縁辺を刃部として使用した結果、刃こぼれ状の微細な剥離痕が生じたものと、偶発的に生じたものがあり、これらを明確に区別することはできなかったため、両者を合わせて微細な剥離痕を有する剥片（ＭＦ）とする[6]。微細な剥離痕は、便宜的に長さ２㎜未満の長さのものとしたが、これはスクレイパーの刃部で観察できる連続した剥離が、２㎜以上の長さを持つものが多かったためである。

打欠石錘

楕円形や細長い小型の自然礫の両端を打ち欠いて、紐状のものを掛けるための抉りを作り出した石器。紐掛け部には、摩耗が観察できるものがある。Ａ区で23点、Ｂ区で６点の合計29点出土した。石材は砂岩が86%以上を占め、他に泥岩がある。一覧表に記載した計測部位は、渡辺誠氏の提唱（渡辺ほか1985）を参考とし、図20の位置で計測した。なお、切目石錘に関しても、同様に計測した。

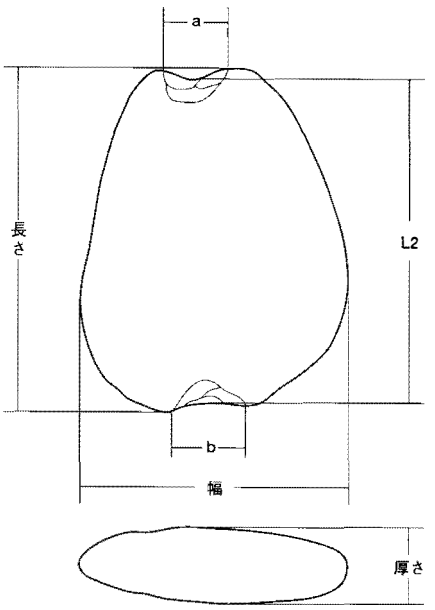


図20　石錘計測部位

切目石錘

打欠石錘と同様の素材を用い、両端を擦って紐状のものを掛けるための抉りを作り出した石器。Ａ区で14点、Ｂ区で５点の合計19点出土した。石材は、砂岩が68%以上と打欠石錘よりも低い比率である。紐掛け部には、摩耗が観察できるものがあるが、抉りを作り出した際の擦痕も明瞭に残る。抉りを作り出す際に、一旦打ち欠いてから擦って切目を入れるものが少量ある。

磨石・凹石類

握り拳大から手の平大の大きさで、扁平な楕円形の川原石（円礫）を用い、表面に磨痕や敲き痕、凹みなどが観察できる石器。磨痕と凹みなどが共存する石器が多いことから、両者を含めて磨石・凹石類とした。Ａ区で41点、Ｂ区で17点、調査区外（試掘調査）で１点の合計59点出土した。石材は、砂岩が77%以上を占め、次いで安山岩が多い。平坦な面と側面とに使用による磨痕や敲き痕、凹みがあり、これらの使用痕の組み合わせと位置によって、以下のように分類した。なお、４類としたものは、叩石として一器種を設定すべきであったが、便宜上ここに含めた。

１類　平坦面や側面に磨痕があるもので、使用痕の組み合わせによりａ～ｃに細分した。

1a類　磨痕だけが確認できるもの。Ａ区10点、Ｂ区６点の合計16点出土した。

1b類　平坦面は磨痕だけ、側面は磨痕と他の使用痕が確認できるもの。Ａ区５点、Ｂ区２点の合

計７点出土した。

1c類　平坦面は磨痕だけ、側面は磨痕以外の使用痕が確認できるもの。Ａ区２点、Ｂ区１の合計３点出土した。

２類　平坦面に磨痕と凹みがあるもので、側面での使用痕の組み合わせによりａ・ｂに細分した。

2a類　側面に磨痕と他の使用痕が確認できるもの。Ａ区７点、Ｂ区３点、調査区外（試掘調査）１点の合計11点出土した。

2b類　側面に磨痕が確認できないもの。Ａ区11点、Ｂ区３点の合計14点出土した。

３類　平坦面に磨痕が確認できないもので、側面での使用痕の組み合わせによりａ・ｂに細分した。

3a類　側面に磨痕と他の使用痕が確認できるもの。Ａ区で１点出土した。

3b類　側面に磨痕が確認できないもの。Ａ区で５点、Ｂ区で１点の合計６点出土した。

４類　細長い棒状の自然礫を用いたもので、線状の敲打痕が確認できるもの。Ａ区で１点出土した。

なお、平坦面と側面の使用痕については、以下のように記号化して一覧表（表80）に記載した。

a　磨痕－明瞭な擦痕や、平滑な面、あるいは平坦な面を形成している範囲。実測図にはスクリーントーンを貼付。

b　研磨状の凹み－敲打の集中による凹みとは異なり、内面が平坦なもの。

c　楕円形あるいは線状の敲打痕

d1　粗い敲打の集中による凹みが、中央部分に１ヵ所のもの。

d2　粗い敲打の集中による凹みが、片寄った位置にあるもの。

d3　粗い敲打の集中による凹みが、中央部分で２つ以上重なるもの。

d4　粗い敲打の集中による凹みが、２つ以上離れてあるもの。

d5　粗い敲打痕が散在するもの。

d6　粗い敲打痕が集中して面を形成するもの。

石皿

手の平大よりも大きく扁平な川原石の平坦面に、磨痕が認められる石器。Ａ区で16点、Ｂ区で１点の合計17点出土したが、Ａ区で出土した２点が接合したため、個体数では計16個体となる。石材は、砂岩が76％以上を占め、ほかに安山岩と礫岩がある。平坦面と側面で確認できた使用痕は、磨石・凹石類の使用痕と同じ記号を一覧表（表81）に記載した。

石製品

装飾品２点（玦状耳飾りを垂飾りに転用したと思われるもの）と用途不明１点がある。いずれもＡ区の土坑墓から出土している。

砥石

試掘調査の際にＡ区内から２点出土した、いずれも泥岩製で磨痕や擦痕が明瞭に残る。表土や盛土層から出土しており、金属用の砥石と思われることから、新しい時期のものと判断した。このため、図示せず、一覧表（表83）の掲載のみにとどめた。

5）　石器に関しては、大下明・佐野康雄氏の指導・助言を得たほか、三島誠（当センター）の協力を得た。

6）　鈴木康二氏の定義（鈴木1995）にならったが、微細な剥離痕の長さや幅の値は、当遺跡での傾向から設定した。

（3）　遺構一覧表、遺物観察表、遺物実測図について

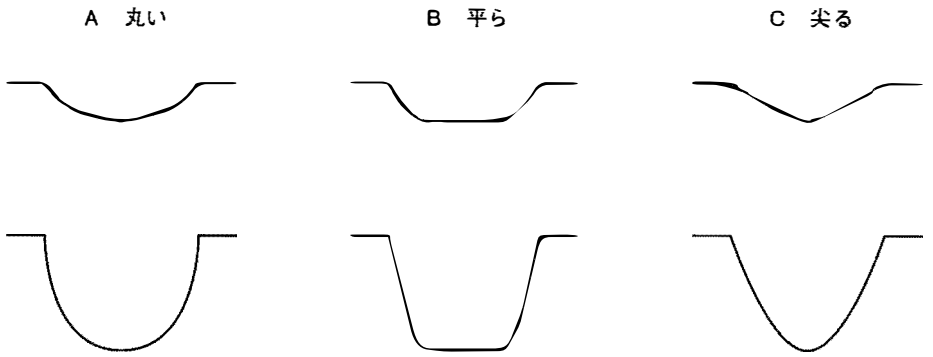
遺構一覧表

○遺構の検出層位は、基本層序と検出面で表し、Ⅲ層上面で検出した遺構の場合「Ⅲ上」、Ⅵ層上面で検出したが、その上に堆積していたのがⅣ層（Ⅳ層基底面検出）だった場合「Ⅱ基」などと表記した。

○遺構の規模の単位はmであるが、（　）で示したものは、全形が確認できなかったため、残存長を測ったものである。

○土坑断面形は、断面の形状（A～C）と、上面での短軸長と深さとの比（1～6）、底面（a～c）と壁面（1～3）の状況の4つの文字で表示した。

底面の形状の模式図



深さ／上面での短軸長　1－0.3未満　2－0.3～0.7未満　3－0.7～1.1未満　4－1.1～1.5未満　5－1.5以上　6－不明

底面の状況　a－丸いか平らのまま　b－底が2段になる　c－底面が凸凹

壁面の状況　1－壁が開く　2－壁が直立に近い　3－壁面に段がある

○遺構の切り合いは、「新＞古」の関係を示す。

○遺構の埋土は、堆積状況を次のように表示した。

A－埋土が単一層　B－ほぼ水平な堆積　C－中央がU字状に凹むような堆積　D－凹みが偏った堆積　E－ブロック状に土層が入り込む堆積　F－最上層が掘り込んだ状態となるもの　G－柱根状の土層があるもの　H－その他

土器観察表・遺物出土量

○「No.」は、本文中の通し番号、「整理No.」は、発掘調査において遺物を取り上げた際の登録番号である。

○「地区・遺構」は、遺物が出土した調査区画若しくは遺構で、複数の地区や遺構から出土した遺物が接合した場合には、複数の地区や遺構を記入している。

○「層位」は、包含層出土の場合基本層序番号（Ⅰ・Ⅱなど）を、遺構出土の場合埋土の土層番号（1・2など）を記入した。

○土器の観察表にある、「口径」・「器高」・「底径」の単位はcmである。縄文土器観察表では「備

考」に記載した。

○「残存率」は、口縁部残存率（x/12）を計測した（宇野1992）もので、1/12以下については1/12に切り上げた。縄文土器観察表では「備考」に記載した。

○縄文土器観察表の「調整」は、外面／内面の順に記載した。

○縄文土器観察表の「文様」は、沈線・刺突・隆帯などと記載し、その幅や径を（　）内に記入した。単位はcmである。

○「胎土」に記載した含有物は、肉眼で識別したものである。

○「色調」は、外面／内面／断面の順に色名を記載したが、いずれも同色の場合は区分をせず、色名を一つだけ記載した。

石器一覧表

○「No.」「整理No.」「地区・遺構」「層位」は、土器観察表と同じである。

○「石材」の鑑定は、肉眼観察により三島が主に行い、春日井が補助した。

○「長さ」・「幅」・「厚さ」の単位はcmである。また、「質量」の単位はグラムである。「刃角」の単位は度であるが、小数点第1位以下は切り上げた。なお、欠損している場合は、（　）内に残存値を記入した。

○摩耗痕や線状痕の有無は、ルーペ（×10）により行った。

遺物実測図

○遺物の断面図は、縄文土器・土師器を黒塗り、須恵器・灰釉陶器を白抜きとした。

○石器実測図中のスクリーントーンは、摩耗痕の範囲を、実線は線状痕の方向を表している。また、石器や剥片の側縁に微細な剥離痕を観察した場合は、その範囲を平面図の横に示した。

○剥片石器の自然面はドット、節理面は一点鎖線で表した。

第３節　中世以降

（１）　遺構

中世から近世にかけての遺構は、A区・B区とも確認できていない。これよりも新しい時期の遺構としては、徳山村廃村以前と思われる耕作に関連する遺構がある。SD501～SD504、SD506、SD507とした溝状遺構がそれである。これらの溝状遺構は、幅0.25m～0.35m、深さ0.05m～0.24mで、SD501とSD502が並び、これらと直交する方向にSD503、SD504、SD506、SD507が平行して並んでいる。溝状遺構の長軸方向は、調査前の土地区画と方位が一致しており、水田耕作に伴うものと考えられる。また、これらの溝状遺構に切られて重機の爪痕を底面に残す土坑状の穴（SK504～SK508、SK516、SK518、SK521、SK531）が存在する。土坑状の穴からはビニールが出土しており、溝状遺構は明らかに現代のものと考えられ、重機により段切り造成を行った後、水田として利用していた際のものと思われる。

このほか、SK524からもガラス瓶が出土しており、現代の遺構と思われる。

（２）　中世から近世の遺物（図22・表７・８）

A区で12点、B区で２点、調査区外（試掘調査）で７点の合計21点出土した。B区での出土量が非常に少ないのが特徴的であり、中世から近世にかけてのB区の土地利用が乏しかった可能性が考えられる。表土（Ⅰ層）からⅢｂ層にかけて出土しているが、A区においてⅢｂ層として取り上げた遺物は、Ⅱ層を誤認した可能性が高い。土師器皿・山茶碗・天目茶碗・施釉陶器・磁器が出土したが、器種不明の施釉陶器片が最も多い。これらの中で接合したものは一つもなく、出土遺物の大きさも２cm

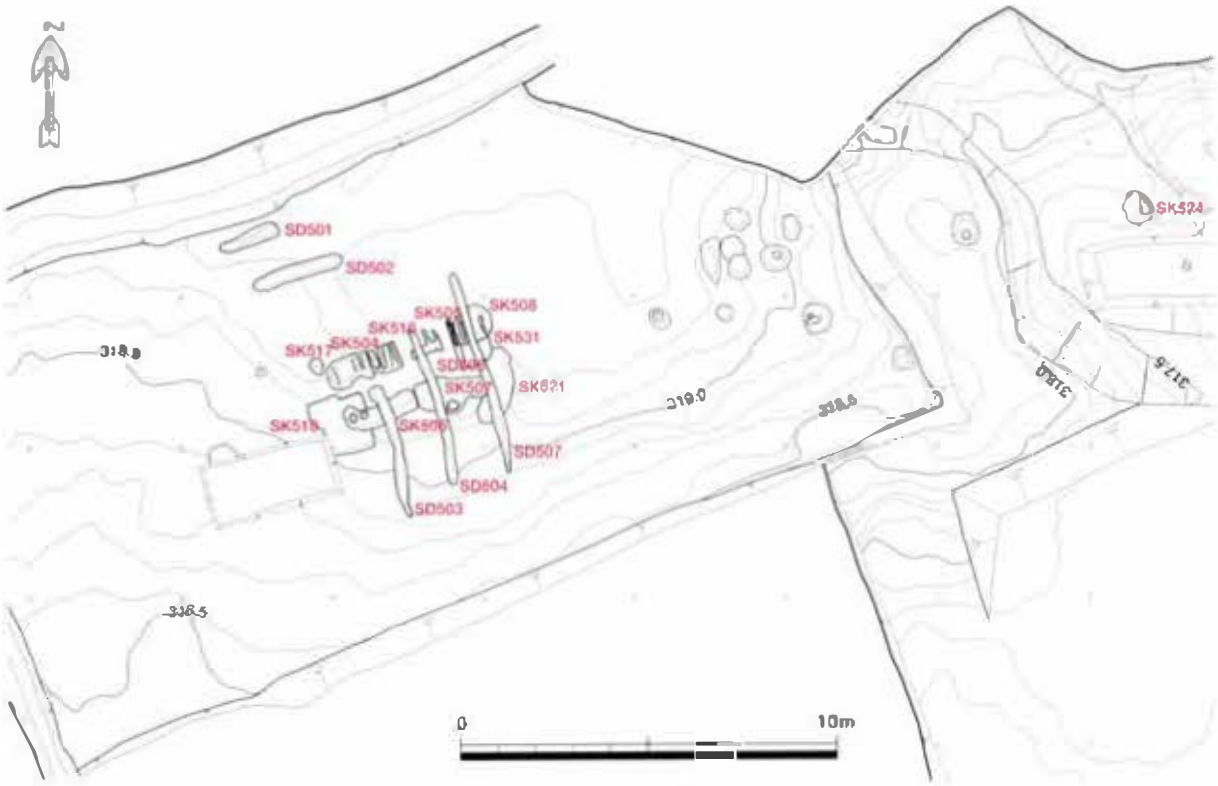


図21　　耕作に関連する遺構（S=1/200）

角よりも小さなものが多い。口縁部あるいは底部が残存し、特徴的なものを3点■示した。

1は、山茶碗の口縁部片である。口縁端部で外反する。12世紀から13世紀頃のものか。2は、天目茶碗の■縁部片である。口縁端部で外反する。15世紀末から16世紀前葉頃のものか。3は、近世の広東茶碗の底部片である。内面には五弁花が、外面には圏線が呉須で描かれている。

表7　中世から近世の遺物出土量

A区	土師器	山茶碗	天目茶碗	施釉陶器			磁器	合計
	Ⅲ	椀		椀	Ⅲ	不明		
破片数	1	1	1	2	1	6	0	12
%	8.3	8.3	8.3	16.7	8.3	50	0	99.9
個体数(x 12)	1	0	0	0	1	2	0	4
%	25	0	0	0	25	50	0	100
質量(g)	1.3	3.8	2.9	71.5	2.8	13.5	0	95.8
%	1.4	4	3	74.6	2.9	14.1	0	100

B区	土師器	山茶碗	天目茶碗	施釉陶器			磁器	合計
	Ⅲ	椀		椀	Ⅲ	不明		
破片数	0	1	1	0	0	0	0	2
%	0	50	50	0	0	0	0	100
個体数(x 12)	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0	0	0	0	0	0	0	0
質量(g)	0	2.9	7.4	0	0	0	0	10.3
%	0	28.2	71.8	0	0	0	0	100

調査区外(試掘調査)	土師器	山茶碗	天目茶碗	施釉陶器			磁器	合計
	Ⅲ	椀		椀	Ⅲ	不明		
破片数	0	1	1	0	0	3	2	7
%	0	14.3	14.3	0	0	42.9	28.6	100.1
個体数(x 12)	0	1	1	0	0	0	1	3
%	0	33.3	33.3	0	0	0	33.3	99.9
質量(g)	0	8.4	9.5	0	0	2.4	2.9	23.2
%	0	36.2	40.9	0	0	10.3	12.5	99.9

全体	土師器	山茶碗	天目茶碗	施釉陶器			磁器	合計
	Ⅲ	椀		椀	Ⅲ	不明		
破片数	1	3	3	2	1	9	2	21
%	4.8	14.3	14.3	9.5	4.8	42.9	9.5	100.1
個体数(x 12)	1	1	1	0	1	2	1	7
%	14.3	14.3	14.3	0	14.3	28.6	14.3	100.1
質量(g)	1.3	15.1	19.8	71.5	2.8	15.9	2.9	129.3
%	1	11.7	15.3	55.3	2.2	12.3	2.2	100

表8　中世から近世の陶器観察表

No.	整理No.	地区・遺構	層位	器種	調整	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	色調	挿図	図版	備考
1	X40-1	TP11	Ⅱ	山茶碗	ロクロ撫で	19.0	-	-	1	密、1mm以下の砂粒わずかに含む	良	灰白 灰白 にぶい黄橙	22	7	調査区外、A区南側
2	X18	TP23	不明	天目茶碗	ロクロ撫で	12.6	-	-	1	密	良	黒 黒 にぶい黄橙	22	7	第3地点
3	90	I W4	Ⅲb	広東茶碗	ロクロ撫で	-	-	5.6	-	密	良	灰白 灰白 にぶい黄橙	22	7	底部片

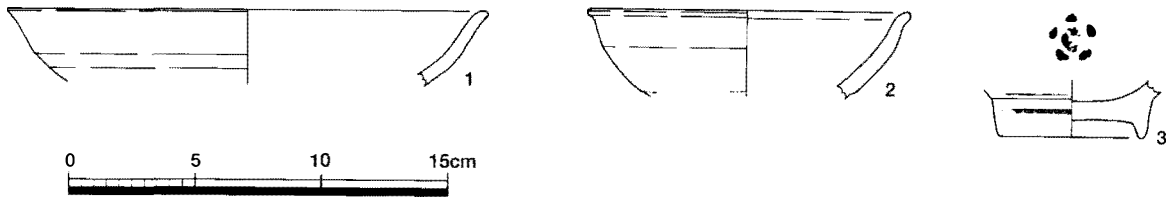


図22　中世から近世の陶器

第4節　古代

この時期の遺構はA区にはなく、B区のSD508とした自然流路と、SD508の東側で検出した土坑2基を検出しただけである。しかし、重機による表土及び盛土層の除去後、Ⅲb層上面においては遺構検出作業を行っていないため、時期不明とした遺構の中に、平安時代の遺構が含まれている可能性がある。

(1)　自然流路（図23）

検出状況　B区中央を南北方向に流れる流路である。Ⅲb層除去後に検出した遺構であるが、土層断面での観察ではⅢb層を削っていることを確認した。調査区内で検出した長さは約32mであるが、調査区の南北にさらに延びている。幅は2.8m～6.2m、深さは最深部で0.37mである。埋土は概ね2層に分層でき、下層の黒褐土は砂質に富んでいる。北部の東側においては、SK676とSK677を検出した。また、この流路は、SD509の上部を流れており、SD509が一旦埋没した後に形成されたものである。

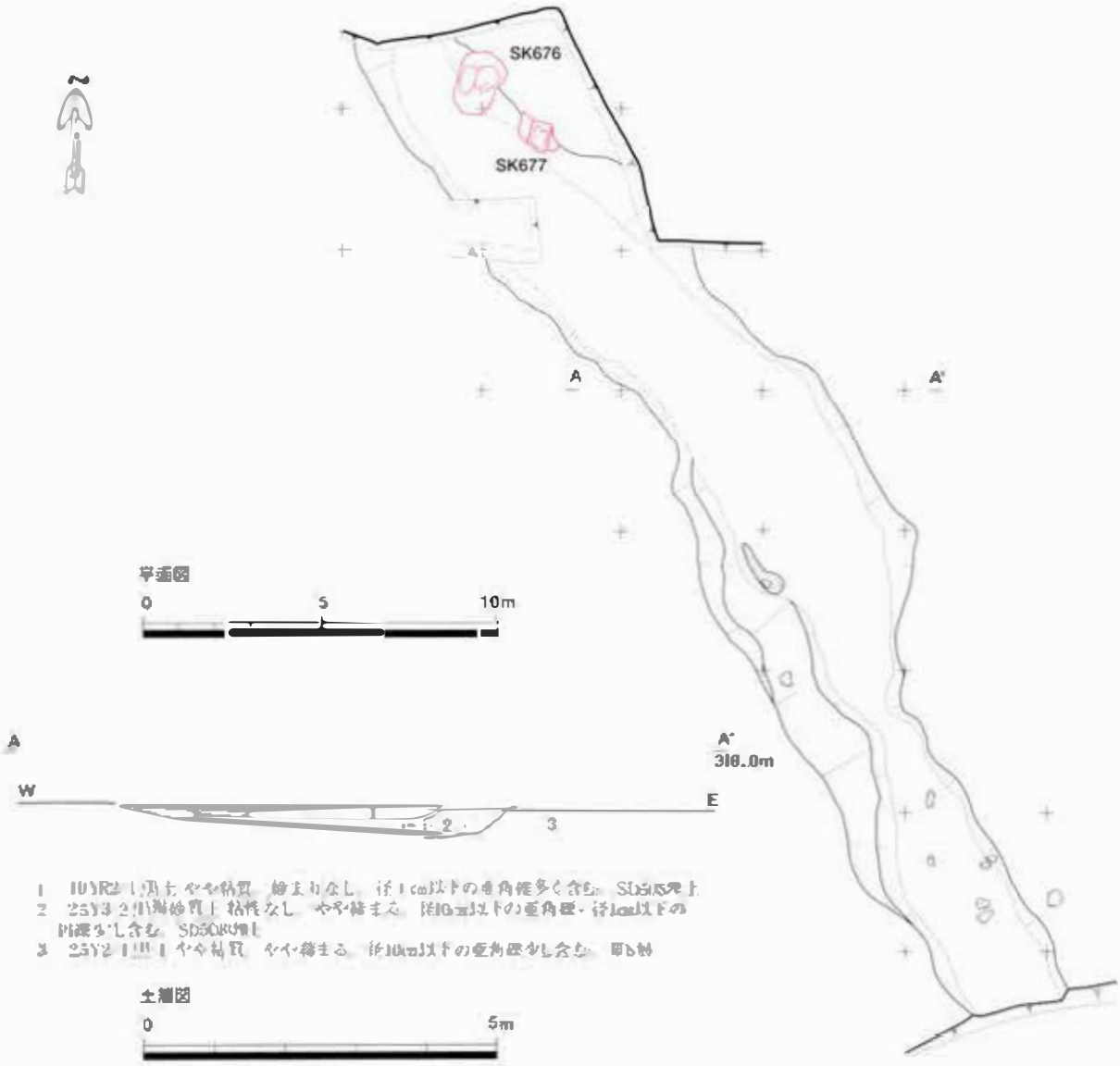


図23　SD508（平面ーS=1/200、土層ーS=1/100）

出土遺物（図24・表11）　埋土中から出土した遺物は、縄文土器・石器・土師器・須恵器・灰釉陶器・植物遺体などがある。Ⅲｂ層を削るように流路の肩が確認できたことや灰釉陶器が出土したことから、平安時代のものと思われる。このため、SD508として取り上げた縄文時代の遺物は、Ⅲｂ層から流入したものである可能性が考えられる。しかし、打製石斧がSD508埋土中から多く出土していることから、SD509が埋没した後も谷状の浅い窪地が残存し、そこに堆積した土をSD508埋土として掘削した、あるいは、SD508が縄文時代から存続したものである可能性もわずかながら考えられる。このため、縄文時代の遺物については第５節で触れることとする。なお、大型植物化石が多く出土したためこれらを同定した結果（第４章第２節）、モモ核が最も多く、トチノキが数点確認できた。平安時代の土器は、土師器４点、須恵器６点、灰釉陶器４点が出土したが、このうち７点を図示した。

４・５は土師器甕の口縁部片である。口縁部は短く、頸部で強く外反する。６は須恵器坏の口縁部片で、比較的外に開いた形態のものである。７は須恵器甕の口縁部片で、強く外反する。８は須恵器甕の体部片である。土師器と須恵器は９世紀前半代のものと思われる。９・10は灰釉陶器椀の口縁部片で、口縁端部が外反する。灰釉陶器は黒笹90号窯式に比定でき、９世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。

時期　層位的にはⅢｂ層よりも新しく、出土遺物からは９世紀から10世紀頃のものと思われる。しかし、縄文時代の土器や石器が多く出土しており、縄文時代から谷状の窪地として存在していた可能性も考えられる。

（２）　土坑（表９）

SD508の東肩部で、SK676とSK677の２基の土坑を検出した。SK676埋土からは土師器・灰釉陶器が、SK677埋土からは灰釉陶器が多くの堅果類とともに出土したことから、平安時代の遺構と判断した。また、出土した堅果類を試料として年代測定を行ったところ、いずれの土坑も平安時代の年代を

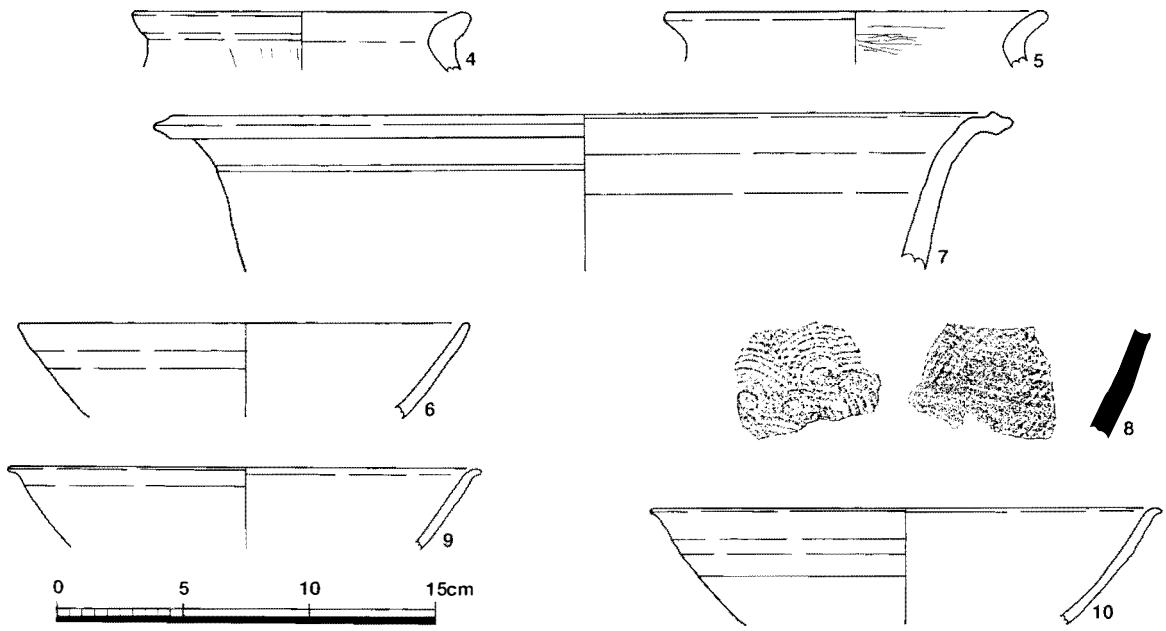


図24　SD508出土遺物

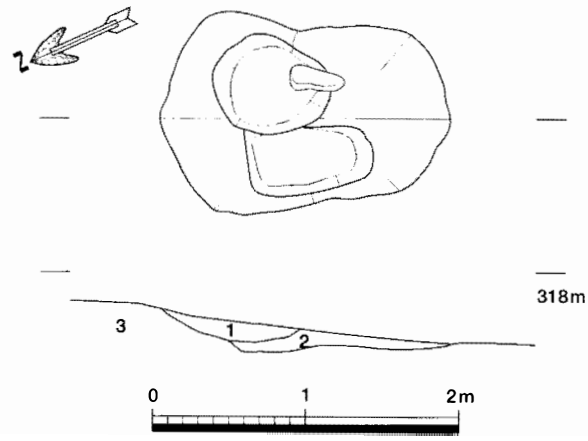
表9　平安時代の土坑一覧

遺構No.	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	埋土		時期	備考
				上面		底面		深さ					
				長軸	短軸	長軸	短軸						
SK676	ⅡD21	Ⅲb上	不整円形	1.91	1.3	0.55	0.53	0.28	B1a3	2層	D	平安	3基の土坑の切り合い?トチノキ種子多数出土
SK677	ⅡE21	Ⅲb上	不定形	0.85	0.56	0.76	0.46	0.26	B2a3	2層	B	平安	複数の土坑の切り合い?トチノキ種子多数出土

示した（第4章第3節）。

SK676（図25）

検出状況　SD508を掘削中に、トチノキの種子片が多量に出土した（第4章第2節）ため、その出土範囲を確認したところ、SD508東肩部において長方形のプランを検出した。埋土は2層に分かれ、1層から土師器や灰釉陶器、トチノキの種子片などが出土したが、2層からは出土していない。壁面は非常に緩やかな傾斜で、段を持って底面に至る。底面は2基の土坑が重複したような状況であり、埋土の堆積状況も1層が2層を掘り込んでいるようにも見える。このため1基の土坑として扱っているが、2～3基の土坑が重複したものである可能性も考えられる。また、底面の東側には、長楕円礫が底面に接して出土している。この礫には、加工痕や使用痕と思われるような痕跡は、確認できなかった。



1　10YR3/1 黒褐粘質土 やや締まりなし。種子類多く混。礫含まない。
2　7.5YR5/3 にぶい褐粘質土 やや締まりなし。径1cm以下の亜角礫を少し含む。
3　7.5YR5/4 にぶい褐粘質土 やや締まる。礫含まない。Ⅵ層。

図25　SK676（S=1/50）

性格　検出した場所は、自然流路の東肩であり、この傾斜を利用した施設と考えられる。トチノキの種子が多量に出土したことと結びつければ、トチの実の加工に関連する施設と言える。導水路的なものが確認できなかったことは問題点となるが、自然流路に接する場にあり、トチの実の皮を剥きやすくするためにふやかす施設か、あるいはアク抜きを行った施設の可能性が考えられる。渡辺誠氏がまとめたトチモチの加工工程（渡辺1975）における、「ふやかし」若しくは「水さらし」に相当する工程である。出土したトチノキの種子には完形のものはほとんどなく、種皮の破片ばかりであり、この土坑近辺で「皮むき」の工程も行われていたと推定できる。土坑内にトチノキ種子片が多量に出土した理由としては、ふやかした実の皮をその場で剥き廃棄したか、SK676が使用されなくなった後に、別の水さらし施設に浸けるために剥かれたトチの実の種皮が、廃棄された可能性が考えられる。

出土遺物　埋土中から出土した遺物は、土師器と灰釉陶器、トチノキの種子片などである。土師器は甕の体部片で、灰釉陶器は椀の口縁部片であったが、いずれも小片のため図示しなかった。

時期　トチノキの種子を試料とした、放射性炭素年代測定の結果（第4章第3節）と出土した灰釉陶器の特徴から、9世紀後半から10世紀前半頃のものと思われる。

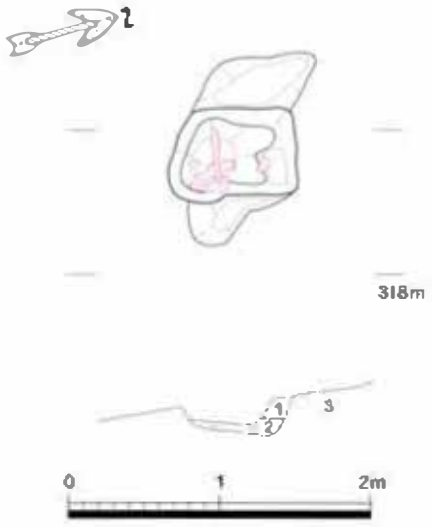
SK677（図26）

検出状況　SK676と同様に、SD508を掘削中にトチノキの種子が多量に出土したため、確認した土坑

である。壁の立ち上がりは垂直に近く、底面は段を持つ。埋土は2層に分層したが、一部確認時に掘りすぎたため、図示した状態で確認した。底面の状況からは、2基の土坑の重複である可能性が考えられる。なお、底面には棒状の木製品と木片が置かれたような状態で出土した。

性格　検出場所や出土遺物のSK676との共通性、底面に木片と棒状木製品が出土したことから、トチの実の「ふやかし」あるいは「水さらし」に用いた施設と思われる。

出土遺物（図27・表11）　埋土中（1層）から出土した遺物は、灰釉陶器とトチノキなどの種子類である。灰釉陶器は3点出土したが、同一個体片で接合した。底面から出土した木製品は、樹種同定の結果（第4章第4節）ヒノキ科ヒノキ属、木片はトチノキであることが判明した。



1　25YR3/2黒褐粘質土 やや緩まる。種子類多く混。礫含まない。
2　10YR1/2灰黄褐土 やや粘質。緩まりあり。圧上縁以下の円礫を少し含む。
3　10YR1/1褐粘質土 緩まりあり。礫含まない。1層。

図26　SK677（S=1/50）

11は、灰釉陶器椀で、口縁端部が外反し、三日月状高台を貼り付ける。体部外面には回転ヘラ削り調整を施しており、黒笹90号窯式若しくは折戸53号窯式の古い段階のものと思われる。底部外面は平滑で、高台内面に黒い染み状のものが確認できることから、転用硯の可能性がある。12は、底面で出土した木製品である。表面は腐食しているため、加工痕は確認できない。残存する長さは29.4cm、幅1.9cm、厚さ1.0cmで、断面長方形である。

時期　トチノキの種子を試料とした、放射性炭素年代測定の結果（第4章第3節）と出土した灰釉陶器から、9世紀後半～10世紀頃初頭頃のものと思われる。

（3）　古代の遺物（図27・表10・11）

包含層から出土した古代の遺物には、土師器甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器椀・皿・壺類などがある。Ⅲb層出土として取り上げたものが多いが、中世の土器と同様にⅡ層あるいはⅢa層を誤認した可能性が高い。出土した土器は小片が多く、2点のみ図示した。

13は、須恵器坏の底部片である。底部は平坦であるが、ヘラ切り未調整であることから、8世紀前半代のものと思われる。14は、須恵器甕の体部片である。

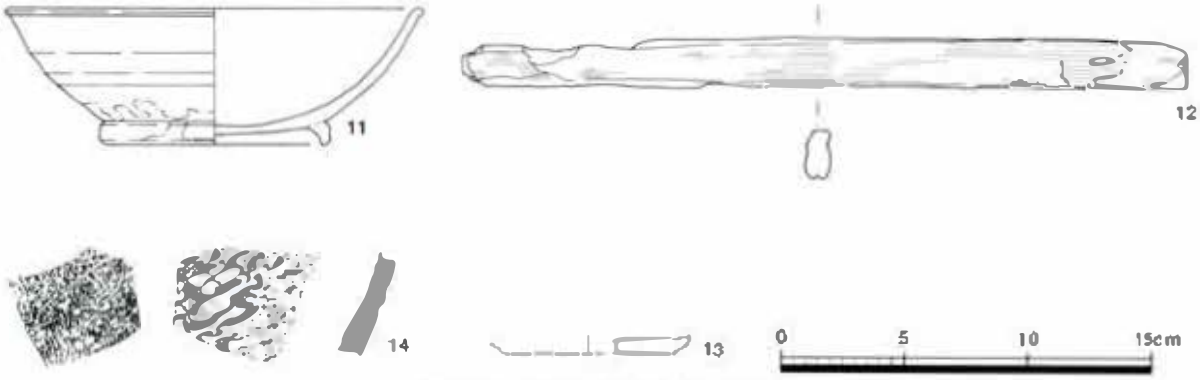


図27　SK677・包含層出土遺物

表10　古代の土器出土量

A区包含層

計測方法	土師器 甕	須恵器 坏	須恵器 甕	灰釉陶器 椀	灰釉陶器 [illegible]	灰釉陶器 壺	灰釉陶器 不明	合計
破片数	0	0	0	1	0	2	0	3
%	0	0	0	33.333	0	66.667	0	100
個体数(x 12)	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0	0	0	0	0	0	0	0
質量	0	0	0	15	0	12.8	0	27.8
%	0	0	0	53.957	0	46.043	0	100
調査区外（試掘調査）								
破片数	0	0	0	0	1	2	0	3
%	0	0	0	0	33.333	66.667	0	100
個体数(x 12)	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0	0	0	0	0	0	0	0
質量	0	0	0	0	3.8	20.9	0	24.7
%	0	0	0	0	15.385	84.615	0	100
SK676								
破片数	1	0	0	1	0	0	0	2
個体数(x 12)	0	0	0	1	0	0	0	1
質量(g)	3	0	0	2.7	0	0	0	5.7
SK508								
破片数	4	1	5	3	0	0	1	14
個体数(x 12)	2	1	1	3.4	0	0	0	7.4
質量(g)	39	12.6	155.6	36.6	0	0	1	244.8
B区遺構計								
破片数	5	1	5	7	0	0	2	20
個体数(x 12)	2	1	1	7.4	0	0	0	11.4
質量(g)	42	12.6	155.6	157.2	0	0	3.2	370.6

B区 遺構・包含層

土師器 甕	須恵器 坏	須恵器 甕	灰釉陶器 椀	灰釉陶器 [illegible]	灰釉陶器 壺	灰釉陶器 不明	合計
7	2	9	8	0	0	4	30
23.3	6.7	30	26.7	0	0	13.3	100
2	1	2	8.4	0	0	0	13.4
14.9	7.5	14.9	62.7	0	0	0	100
61	26.4	226.2	159.2	0	0	5.6	478.4
12.8	5.5	47.3	33.3	0	0	1.2	100.1
全体							
7	2	9	9	1	4	4	36
19.4	5.6	25	25	2.8	11.1	11.1	100
2	1	2	8.4	0	0	0	13.4
14.9	7.5	14.9	62.7	0	0	0	100
61	26.4	226.2	174.2	3.8	33.7	5.6	530.9
11.5	5	42.6	32.8	0.7	6.3	1.1	100
SK677							
0	0	0	3	0	0	0	3
0	0	0	3	0	0	0	3
0	0	0	117.9	0	0	0	117.9
SD509							
0	0	0	0	0	0	1	1
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	2.2	2.2
B区包含層							
2	1	4	2	1	4	2	37
0	0	1	1	0	0	0	9
19	13.8	70.6	17	3.8	33.7	2.4	289.6

表11　古代の土器観察表

No.	整理No.	地区・遺構	層位	器種	調整	口径	器高	底径	残存率	胎土	焼成	色調	挿図	図版	備考
4	10343	SD508	2	土師器 甕	口縁部内外面・体部内面撫で、体部外面刷毛目	13.3	-	-	1	やや密、2mm以下の砂粒多く含む	良	にぶい橙 にぶい橙 にぶい橙	24	7	体部内面に炭化物付着
5	10306	SD508	2	土師器 甕	口縁部外面撫で、内面刷毛目	15.0	-	-	1	やや密、1mm以下の砂粒含む	良	褐灰 灰褐 褐灰	24	7	
6	10853	SD508	1	須恵器 坏	口縁部内外面ロクロ撫で	17.9	-	-	1	密、非常に細かい砂粒わずかに含む	良	灰	24	7	9世紀前半代
7	10736	SD508	1	須恵器 甕	口縁部内外面ロクロ撫で	23.8	-	-	1	密、非常に細かい砂粒含む	良	灰 灰白 黄灰	24	7	9世紀前半代
8	10301	SD508	1	須恵器 甕	体部叩き、内面に当て具痕	-	-	-	-	密、0.5mm以下の砂粒含む	良	灰白	24	7	9世紀前半代
9	10854	SD508	1	灰釉陶器 椀	口縁部内外面ロクロ撫で	18.6	-	-	-	密、1mm以下の砂粒少し含む	良	オリーブ灰 灰黄 灰白	24	7	黒笹90号窯式～折戸53号窯式
10	10302	SD508	1	灰釉陶器 椀	口縁部内外面ロクロ撫で、体部外面回転ヘラ削り	20.2	-	-	1.3	密、1mm以下の砂粒少し含む	良	灰白	24	7	黒笹90号窯式～折戸53号窯式
11	10307 10309 10354	SK677	1	灰釉陶器 椀	口縁部内外面ロクロ撫で、体部外面[illegible]転ヘラ削り、底部外面撫で	16.7	5.4	8.6	3	密、1mm以下の砂粒少し含む	良	灰白 灰オリーブ 灰白	27	7	黒笹90号窯式
13	10133	[illegible]F22	Ⅲb	須恵器 無台坏	底部内面ロクロ撫で、外面ヘラ切り未調整	-	-	6.8	-	密、非常に細かい砂粒含む	良	黄灰	27	7	8世紀前半代
14	x17	No.20	不明	須恵器 甕	体部叩き、内面に当て具痕	-	-	-	-	密、1mm以下の砂粒含む	良	黄灰 褐灰 灰黄褐	27	7	9世紀前半代

第5節　縄文時代

A区・B区とも縄文時代の遺構・遺物が最も多く、竪穴住居跡や土坑、溝状遺構を検出した。調査で出土した遺物の多くが、縄文時代のものであることから、遺物を伴わない時期不明の土坑もここに含めた。しかし、古代以降の時期に降るものも含まれている可能性がある。

(1)　竪穴住居跡

A区において、竪穴住居跡を8軒検出したが、B区では確認できなかった。竪穴住居跡の時期は、早期末葉1軒、前期後葉3軒、中期中葉1軒、中期後葉2軒、中期末葉1軒である。確認順に遺構番号を付けており、以下番号順に記載する。

SB1（図28）

検出状況　A区東部で検出した、石囲炉をもつ竪穴住居跡である。Ⅲb層掘削後にⅤ層上面で黒褐土のプランを検出したが、この周辺にはⅣ層の堆積が明確には確認できなかったため、Ⅲb層基底面の遺構とした。南側を段切り造成により削り取られ、北側の一部は試掘調査の際に掘削している。試掘調査時は、竪穴住居跡の可能性が考えられたが、ごく一部を確認していただけであり、土坑として扱っていた。

確認したプランは、不整円形でやや歪んだ形態であるが、西壁から北壁のプランは径約1.6mの円周上にほぼ重なり、この場合の中心は石囲炉の手前側の炉石となる。

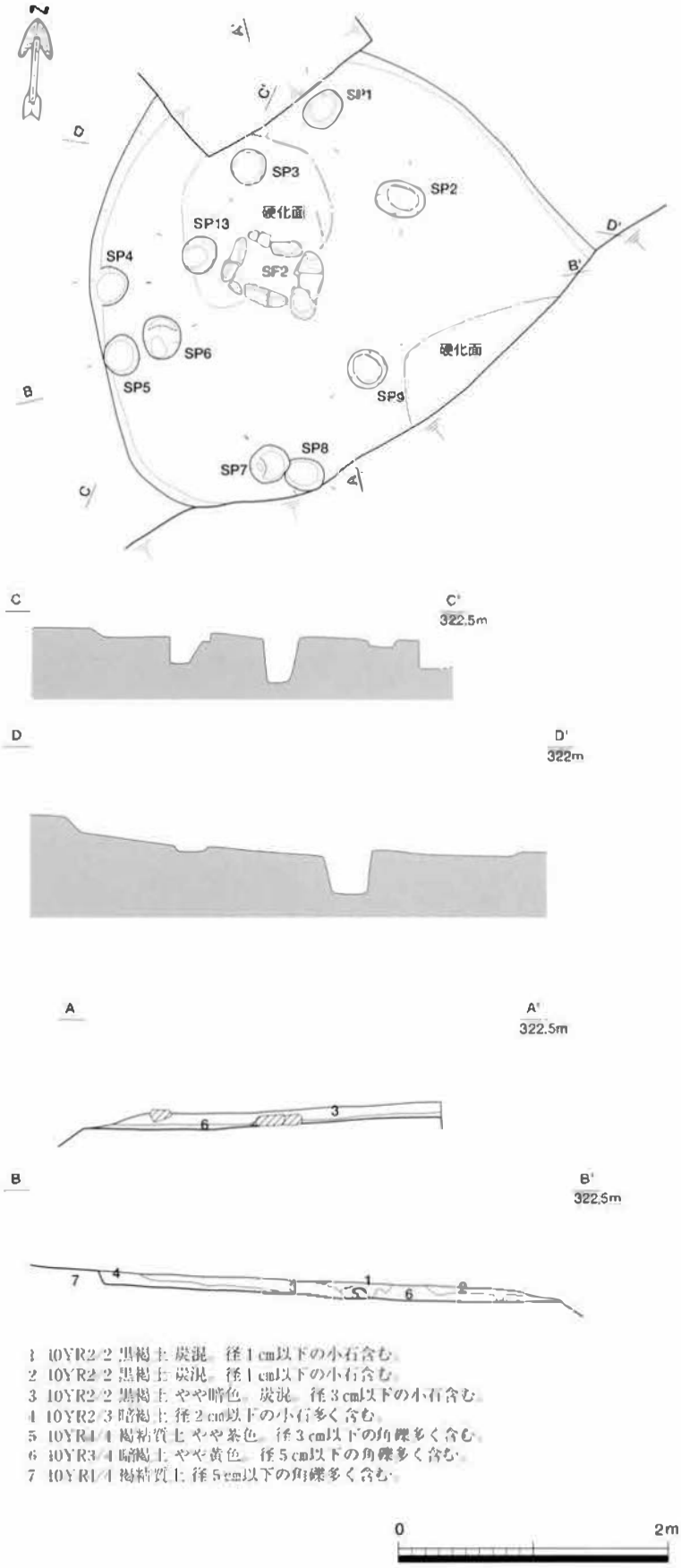
埋土　基本的にはほぼ水平な堆積であるが、一部攪乱をうけたような堆積を示す。

壁　Ⅴ層を掘り込んでいるが、遺存状態はよくなく、検出面から0.03m～0.16m残存しているだけである。最も残存状態のよい西壁では、掘り込みが明瞭であるが、壁面は傾斜している。

床　ほぼ平坦であるが、やや凹凸があり、石囲炉の奥側ではやや傾斜を持つ。石囲炉の北側から奥側にかけてと、南側にはやや硬化した部分があったが、明瞭な貼り床と言えるものではなかった。硬化した部分の上面では、少量の炭化材が出土しており、硬化面が床面であれば、焼失家屋の可能性が考えられる。

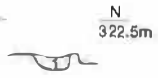
表12　竪穴住居跡一覧

遺構No.		検出層位		規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	面積（㎡）	主軸方位	埋土	出土遺物	
SB1	ⅠR15～ⅠS16	Ⅲb基	不整円形	(3.08)	3.53	(3.04)	3.4	0.162	(8.12)	西　N81°W	6層H	Z2群・C3群土器、石器類	なし
SB2a	ⅠS10～ⅠT11	Ⅴ上？	円形	(4.72)	(4.6)	(4.58)	(4.54)	0.16	(16.1)	不明	5層B	C2群土器、石器類	>SB2b・6・7 <SK133・134
SB2b	ⅠS10～ⅠT11	Ⅴ上？	不整円形	4.52	(4.3)	4.42	(4.2)	0.1	(15.3)	不明	1層A	なし	<SB2b >SB7SK133・134
SB3	ⅠR14～ⅠS15	Ⅴ上？	不整方形	(4.5)	4.58	(4.44)	4.42	0.25	17.6	北　N3°E	2層B	S3・C3群土器、石器類	<SK116・154・SP23・NW28
SB4	ⅠQ8～ⅠR9	Ⅴ上？	不整円形	3.78	4.14	3.42	3.0	0.41	8.32	北　N2°W	11層B	S1群・Z2群・C3群土器、石器類	<SK256・NW10
SB5	ⅠU11～ⅠU12	Ⅴ上？	不整円形	(2.54)	2.86	(2.46)	2.74	0.12	(6.22)	北西　N36°W	1層A	C1群土器	<SP78・NW13
SB6	ⅠS10～ⅠT11	Ⅴ上？	円形？	(4.5)	(1.2)	(4.16)	(0.95)	0.18	(17.5)	不明	1層A	Z2群土器、石器類	<SB2
SB7	ⅠS10～ⅠT11	Ⅴ上？	円形？	(3.4)	(3.4)	(3.3)	(3.3)	0.05	(9.0)	不明	?	Z2群土器	<SB2



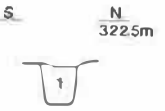
1 10YR2/2 黒褐土 炭混。径1cm以下の小石含む。
2 10YR2/2 黒褐土 炭混。径1cm以下の小石含む。
3 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。炭混。径3cm以下の小石含む。
4 10YR2/3 暗褐土 径2cm以下の小石多く含む。
5 10YR4/4 褐粘質土 やや茶色。径3cm以下の角礫多く含む。
6 10YR3/4 暗褐土 やや黄色。径5cm以下の角礫多く含む。
7 10YR1/4 褐粘質土 径5cm以下の角礫多く含む。

SP1



1 10YR2/3 黒褐土 径3cm以下 の角礫含む。
2 10YR4/6 褐粘質土 やや茶色。 径5cm以下の角礫多く含む。

SP2

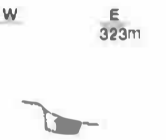


1 10YR2/2 黒褐土 炭少し混。径2cm以下の角礫含む。

SP3

1 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径2cm以下の角礫含む。

SP4

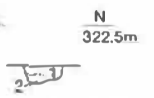


1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SP5・SP6

1 10YR2/2 黒褐土 やや淡色。径3cm以下の角礫含む。SP6
2 10YR2/3 黒褐土 やや暗色。径3cm以下の角礫含む。SP5

SP7



1 10YR2/3 黒褐土 径1cm以下の小石含む。
2 10YR3/4 暗褐土 径2cm以下の角礫含む。

SP8

1 10YR2/1 黒土 径2cm以下の角礫少し含む。

SP9

1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SP13

1 10YR2/3 黒褐土 炭粒混。径5cm以下の角礫含む。

図28 SB1 (S=1/50)

表13　SB１床面検出Sp一覧

遺構No	地区	種類	平面形	規模（cm） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	埋土	出土遺物	時期	備考(切り合い関係)
SP1	I R16	小穴	楕円形	0.31	0.2	0.22	0.16	0.114	A3a1	1層 A	C3群1類	中期後葉	
SP2	I R16	柱穴	楕円形	0.31	0.27	0.24	0.17	0.314	B6a2	1層 A	なし	中期後葉	
SP3	I R16	小穴	円形	0.26	0.25	0.22	0.2	0.037	B1a2	1層 A	B群1類	不明	
SP4	I R16	小穴	不整円形	0.28	0.26	0.22	0.19	0.087	B2a2	1層 A	なし	不明	
SP5	I R16	柱穴	長楕円形	0.32	0.25	0.16	0.1	0.219	A1a2	1層 A	なし	中期後葉	
SP6	I R16	小穴	楕円形	0.3	0.26	0.21	0.19	0.16	B3a1	1層 A	なし	不明	
SP7	I R16～I S16	小穴	不整円形	0.3	0.28	0.2	0.2	0.19	B1a2	2層 B	なし	不明	>SP8
SP8	I R16～I S16	小穴	楕円形	(0.25)	0.21	(0.2)	0.17	0.073	B2a1	1層 A	なし	不明	<SP7
SP9	I R16	柱穴	楕円形	0.29	0.26	0.22	0.18	0.11	B2a1	1層 A	なし	中期後葉	
SP13	I R16	小穴	楕円形	0.25	0.26	0.18	0.15	0.316	A6a2	1層 A	なし	不明	<SB1？

主柱穴　床面では10基の小穴を検出しているが、竪穴住居跡の主軸及び中心点との位置関係から、SP２・SP６・SP９が主柱穴と考えられる。試掘調査坑によって削平した部分に、もう１基の柱穴を想定すれば主柱穴は４基となる。炉の奥側で検出したSP13は、硬化面を除去して検出したものであり、竪穴住居跡を構築する前の遺構である可能性も考えられる。

床面で検出したほかの小穴は、位置に規則的なものは認められず、性格は不明である。このため、

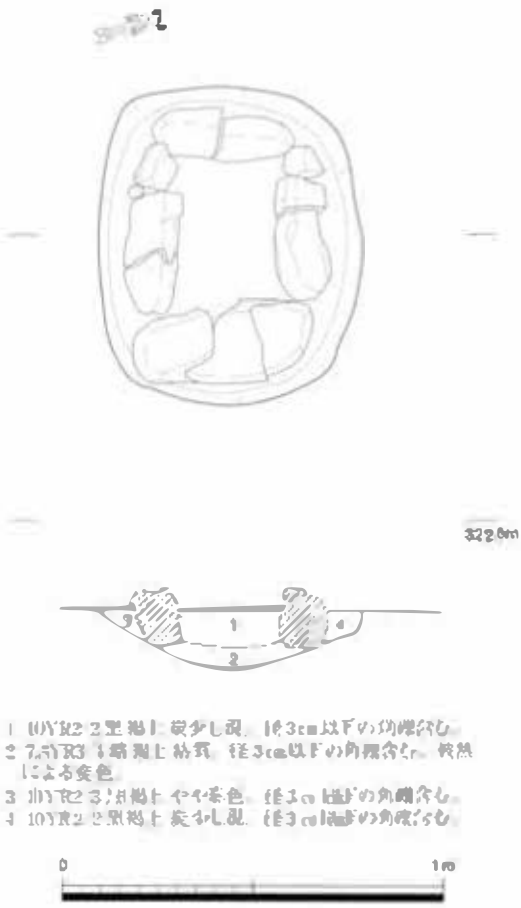


図29　SP２（S=1/20）

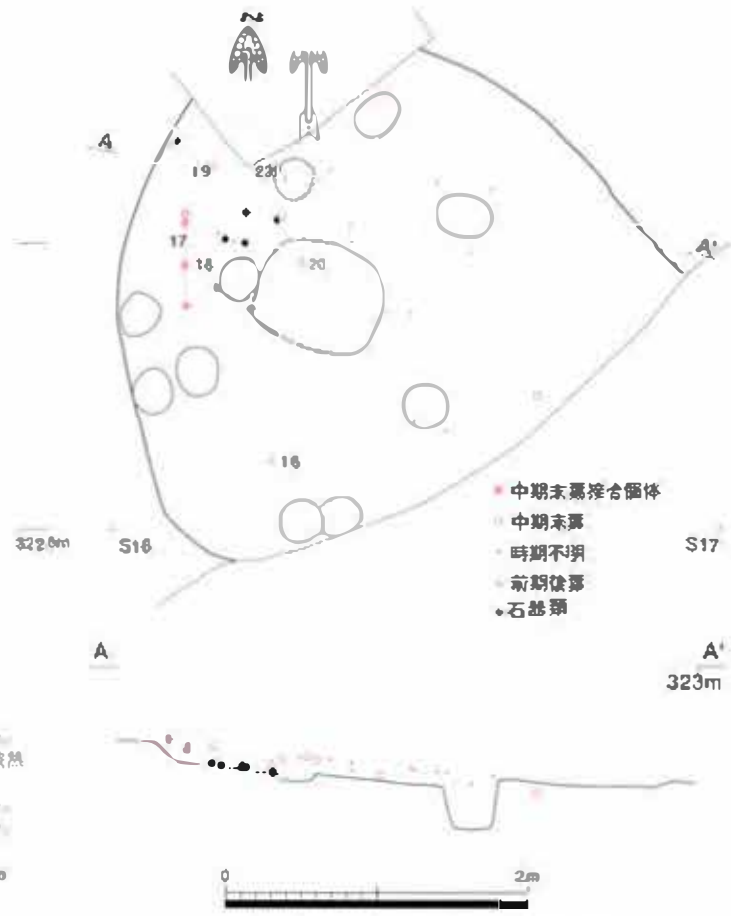


図30　SB１遺物出土分布（S=1/50）

ほかの時期の遺構である可能性も考えられる。

炉（図29）　住居の奥壁寄りで石囲炉を検出した。長さ0.83m、幅0.79m、深さ0.15mの掘形に、6個の川原石を長方形に配置したもので、炉石には被熱による赤色化や割れが認められた。炉内部には焼土は堆積していなかったが、埋土の2層は被熱により変色した可能性がある。手前側の炉石は、扁平な川原石の平坦な面を上に向けて、奥と両側の炉石は、細長い扁平な川原石の平坦な面を内に向けて置いている。奥と両側の炉石との間の隅には、小さめの細長い川原石を立てている。こうした炉石の配置をする例としては、

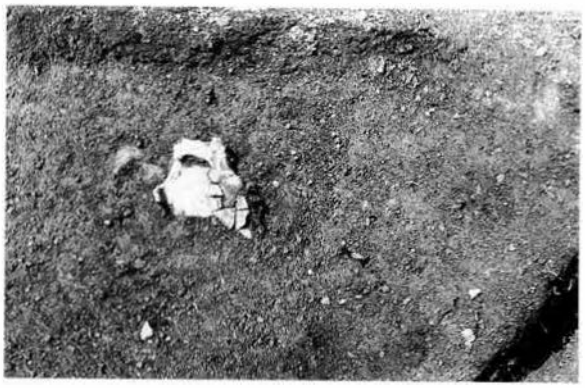


写真2　SB 1 遺物出土状況

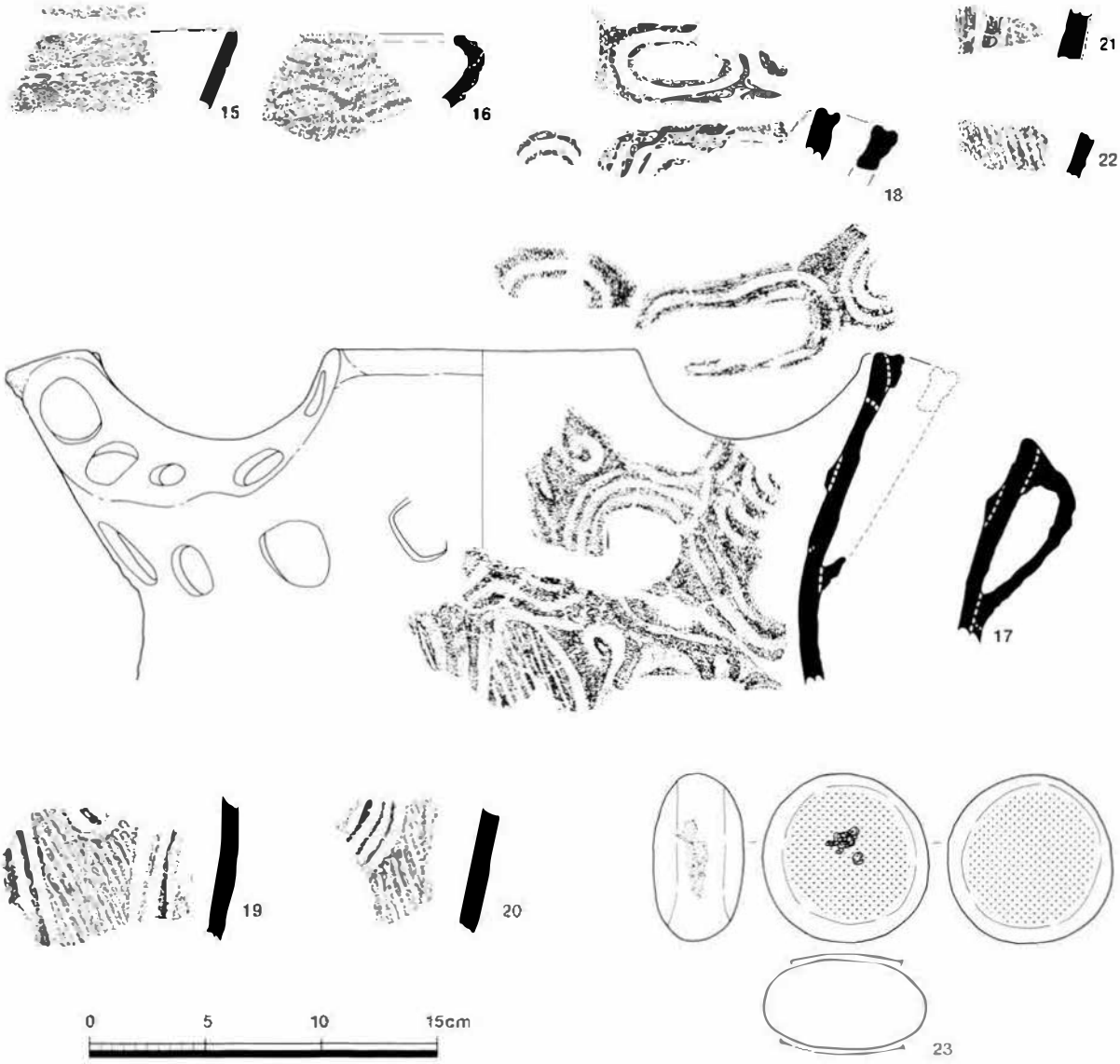


図31　SB 1 出土遺物

堂之上遺跡27号住居跡（戸田・大野1997）がある。なお、想定した住居の中心点は、石囲炉の手前側の炉石となる。

出土遺物（図31）　縄文土器33点、石器８点が出土した。遺物の出土状況（図30）は、炉の北から西側に多く、このうちC3群Ａ類の土器（17）が、床面からやや浮いた高さから出土した（写真２）。縄文土器は、前期後半の土器がZ2群ａ類２点、f1類１点、g1類１点の４点、中期末葉がC3群ａ類７点、胴ａ類８点、胴ｂ類１点の16点、時期不明がＪ群ａ類２点、ｂ類11点の13点であった。石器は、磨石・凹石類１点、RF１点、MF２点、剥片類４点であった。また、SP１とSP３からはC3群D2類、Ｊ群Ｂ類がそれぞれ１点ずつ出土した。遺物の多くは、埋土中から出土したものであるが、中期末葉の土器は、17に接合するか、同一個体と思われるものが多い。前期後半の土器は、混入と思われる。

写真３　C3群ａ類口縁部（17）側面・内面

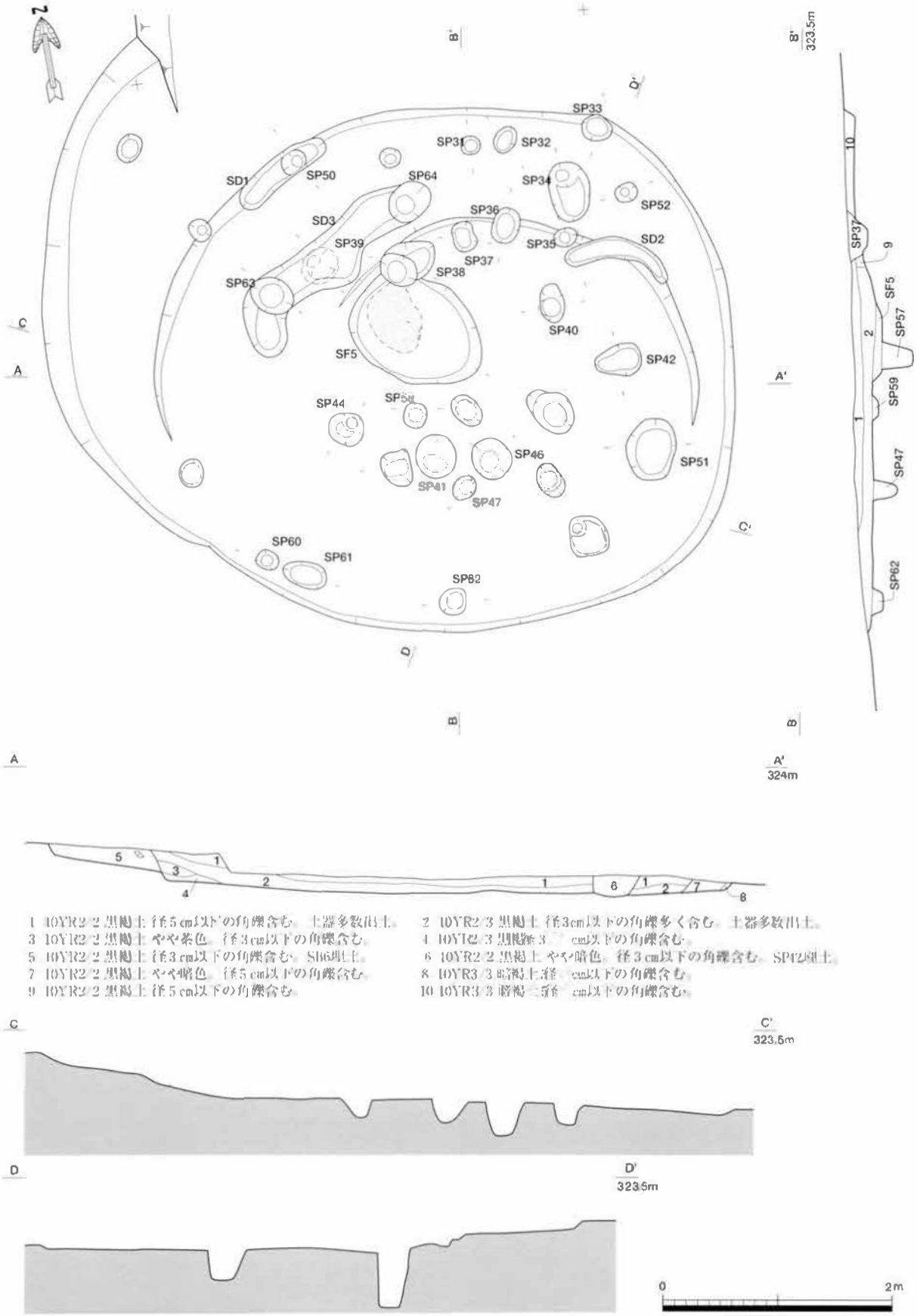
15はZ2群ａ類で、口縁部が直線的で外に開く。口縁端部は半截竹管により刻み、口縁部外面にも半截竹管による押引き沈線を施す。16はZ2群g1類で、口縁部が強く内彎する器形で、縄文地に細い突帯を貼り付けている。17はC3群ａ類で、18～20は同一個体と思われる。４単位の山形口縁で、口縁部全面に粘土帯を袋状に貼り付け、口縁端部に面を作り出す。口縁部内面には、蓋受け状に隆帯を巡らせる（写真３）。口縁端部や口縁部外面には、円形の穴を持ち、これをなぞるように複数の沈線による円形やＳ字状の文様を施す。胴部は、低い隆帯と沈線により逆Ｕ字状の区画を配置し、内部を斜行沈線で埋める。逆Ｕ字状の区画の間には、蕨手文や垂下沈線を施す。18は波頂部、19・20は胴部片で、区画内に曲線的な文様を施している。21はC3群胴ａ類で、17と同一個体の可能性がある。Ｊ群ａ類とした22は、単節のRL縄文を施す。

23は、磨石・凹石類2b類としたもので、扁平な円礫の平坦な面に磨痕が広く認められる。敲打痕は平坦面の片面と側面にある。

時期　出土した遺物から中期末葉と判断した。既存の土器編年では、東海地方西部の取組式～島崎Ⅲ式（増子1978）頃、近畿地方の北白川Ｃ式１期～２期（泉1985）に併行する時期のものと思われる。

SB２（図32）

検出状況　Ａ区中央部で検出した、地床炉を持つ円形の竪穴住居跡である。3/4程度が段切り造成による影響を受けているが、床面近くはほぼ残存しており、10cmほどの深さが残る。Ⅲｂ層除去段階で、遺構と思われる黒褐土のまとまりを認めたが、プランは不明瞭で複数の遺構が重複していると思われた。これを明瞭にするためⅤ層上面まで掘り下げたが、切り合い関係を明瞭にすることができず、１軒の竪穴住居跡として掘削を開始した。しかし、最終的には中期後葉が２軒、前期後葉が１軒の合計３軒の竪穴住居跡が重複していたことが判明した。このため前期後葉の竪穴住居跡はSB７、中期後葉の竪穴住居跡は新しい方をSB2a、古いものをSB2bとして分離した。なお、埋土上面ではSK133とSK134を検出した。



1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。土器多数出土。
2 10YR2/3 黒褐土 径3cm以下の角礫多く含む。土器多数出土。
3 10YR2/2 黒褐土 やや茶色。径3cm以下の角礫含む。
4 10YR2/3 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
5 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。SB6埋土。
6 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径3cm以下の角礫含む。SP12埋土。
7 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径5cm以下の角礫含む。
8 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。
9 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。
10 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。

図32 SB2（S=1/50）

確認したプランは、SB2aがほぼ円形で、SB2bは正確にプランを把握できなかったが、床面で検出した周溝状の遺構SD３をSB2bに関連するものとすれば、不整円形となる。SB2aとSB2bは、規模もほぼ類似し、炉の位置も重複しているが、位置が数十cmずれている。

埋土　４層に分層したが、ほぼ水平な堆積を示す。

壁　Ⅴ層を掘り込んでいるが、段切り造成の影響と切り合い関係の把握に手間取ったため、遺存状態はよくない。段切り造成の影響を受けていないSB６と重複する西壁部分では、約0.3mほど残存していたが、ほかは0.05m～0.1mほどの高さしかない。最も残存状態のよい西壁では、掘り込みが明瞭であるが、やや傾斜している。

床　ほぼ平坦であるが、３軒の竪穴住居跡が重複していたため、やや凹凸がある。また、SB７の存在を十分に認識しない状態で掘り下げたため、SB７の部分は一段下がった状態となり、SB2aやSB2bの床面を正確に把握できていない。しかし、掘削している段階では、貼り床や硬化面を確認すること

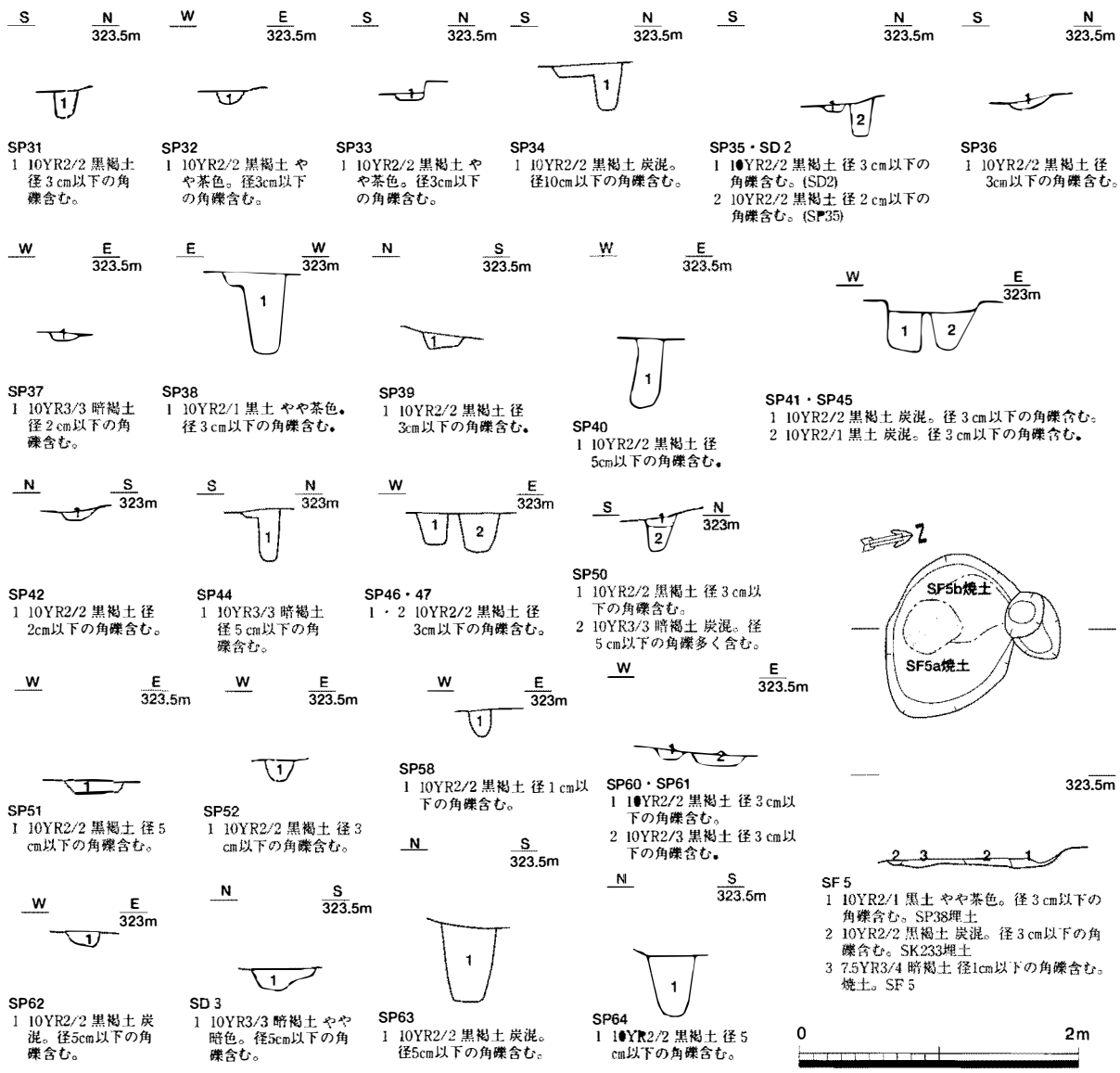


図33　SF5及びSB2関連SP土層（S-1/50）

表14　SB2床面検出SP一覧

遺構No.	地区	種類	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	埋土	出土遺物	時期	備考(切り合い関係)
SP31	I S10	壁柱穴？	円　形	0.17	0.16	0.11	0.1	0.291	A5a2	1層　A	なし	中期後葉？	
SP32	I S10	壁柱穴？	長楕円形	0.26	0.18	0.18	0.11	0.078	A2a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP33	I S10	壁柱穴？	楕円形	0.26	0.23	0.2	0.16	0.065	B1a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP34	I S10	柱穴？	円　形	0.32	0.53	0.11	0.1	0.328	A2b2	1層　A	なし	中期後葉？	
SP35	I S10	穴	不整円形	0.17	0.2	0.1	0.09	0.276	B4a2	1層　A	なし	中期後葉？	
SP36	I S10	穴	楕円形	0.31	0.25	0.22	0.16	0.093	A2a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP37	I S10	穴	不整楕円形	0.26	0.2	0.19	0.13	0.042	B1a1	1層　A	なし	不明	>SB2
SP38	I S10	柱穴？	円形	0.27	0.46	0.19	0.16	0.587	A4a2	1層　A	剥片類	中期後葉？	>SK223
SP39	I S10	穴	楕円形	0.31	0.29	0.13	0.09	0.109	A2b1	1層　A	なし	中期後葉？	>SD3
SP40	I S10	柱穴？	円形	0.21	0.33	0.19	0.16	0.544	A5a2	1層　A	石器	中期後葉？	
SP41	I S10	柱穴？	長楕円形	0.34	0.38	0.23	0.14	0.329	A3a1	1層　A	Z2群土器	前期～中期	
SP42	I S10	穴	不整長楕円形	0.41	0.29	0.36	0.19	0.112	B2a1	1層　A	なし	不明	>SB2
SP44	I S10	柱穴？	円形	0.29	0.31	0.1	0.1	0.372	A4b2	1層　A	なし	中期後葉？	
SP46	I S10	柱穴？	円形	0.34	0.36	0.17	0.15	0.288	A3a1	1層　A	剥片類	中期後葉？	
SP47	I S10～I T10	柱穴？	円形	0.22	0.19	0.13	0.11	0.216	B4a2	1層　A	なし	中期後葉？	
SP50	I S10	壁柱穴？	楕円形	0.18	0.23	0.11	0.09	0.171	A3a2	2層　B	なし	中期後葉？	SD1底面検出
SP51	I S10～I T11	穴	楕円形	0.55	0.43	0.4	0.3	0.099	B1a1	1層　A	なし	不明	
SP52	I S11	壁柱穴？	円形	0.19	0.16	0.07	0.06	0.149	A3a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP58	I S10	柱穴？	円形	0.22	0.22	0.14	0.13	0.29	A4a2	1層　A	なし	中期後葉？	
SP60	I T10	壁柱穴？	円形	0.21	0.17	0.1	0.09	0.092	B2a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP61	I T10	壁柱穴？	長楕円形	0.39	0.25	0.29	0.18	0.052	B1a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP62	I T10	壁柱穴？	円形	0.23	0.24	0.15	0.14	0.101	B2a1	1層　A	なし	中期後葉？	
SP63	I S10	柱穴？	円形	0.4	0.31	0.21	0.21	0.485	B5a2	1層　A	なし	中期後葉？	SD3底面検出
SP64	I S10	柱穴？	円形	0.32	0.4	0.16	0.155	0.447	A4a2	1層　A	なし	中期後葉？	SD3底面検出

はできなかった。なお、周溝状の遺構（SD１・２・３）を検出したが、非常に短いものであり、周溝とは断定できない。遺物も少なく、SD１からSB2a出土土器と同一個体と思われるものがあるほかは、出土していない。

主柱穴　床面では33基の小穴を検出しているが、このうちSB６やSB７に関連すると思われるものを除くと24基（表14）となる。しかし、SP37とSP42は土層観察畔において、SB2a埋没後に掘り込まれたものであることを確認しているため、SB２に関連する小穴は22基となる。この22基の小穴からは、時期が判明する遺物の出土がないため、可能性としてはSB６やSB７に関連するものを含んでいる。主柱穴は明確にすることができなかったが、SP34・38・40・41・44・46・47・58・63・64の10基の小穴は比較的深度があり、主柱穴となる可能性があるものと考えられる。この中で、SP38・40・44・46の４基は、SF5aを取り囲むように位置していることから、SB2aの主柱穴となる可能性が高い。また、SP63・64はSD３の底面で検出しており、SD３がSB2bに関連するものであれば、SB2bよりも古い時期の遺構となり、SB６に関連する可能性が考えられる。なお、壁際で検出した小穴は、間隔が不規則で必ずしも壁に沿っていないことから断定できないが、壁柱穴となる可能性がある。

炉（図33）　住居の中央やや北西寄りで、地床炉を検出した。0.4m×0.35mの範囲に被熱による土の変色が認められたため、これをSB2aの炉と判断しSF5aとした。焼土の周囲には黒褐土のプランがあり、これをSK233として掘り下げると、底面には別の被熱した0.6m×0.45mの範囲が認められた。このためこれをSB2bの炉と判断し、SF5bとした。したがって、SB2aとSB2bは平面的な位置を若干ずらしているものの、炉の位置はほぼ踏襲しており、建て替えの可能性があるものと思われる。

出土遺物（図35～37）　出土した遺物は、当初すべてSB２として取り上げていた。出土位置と土器

の時期判定によって、SB７に関係すると思われる土器は分離することができたが、石器についてはできなかった。なお、SB2aとSB2bの土器は、両者のプランの多くが重なることと、床面のレベルに差が認められないことから分離できなかったが、多くは新しい時期のSB2aに関係するものと思われる。石器についても、土器と同様に多くはSB2aに関係すると思われる。

写真４　SB２土器出土状況

遺物の出土状況（図34）に際だった偏りは認められず、ほぼ全面に散在した状態であったが、27・28は床面近くで出土している（写真４）。出土点数は、縄文土器が中期後葉のC2群a2類が23点、b類７点、c類１点、時期不明のJ群a類２点、b類２点の計33点であった。石器類が石鏃１点、石錐１点、スクレイパー２点、打製石斧２点、磨製石斧２点、剥片類16点、打欠石錘３点、RF７点、MF17点、磨石・凹石類１点、石皿１点の計53点であった。また、SF５からC2群a2類とJ群b類が各

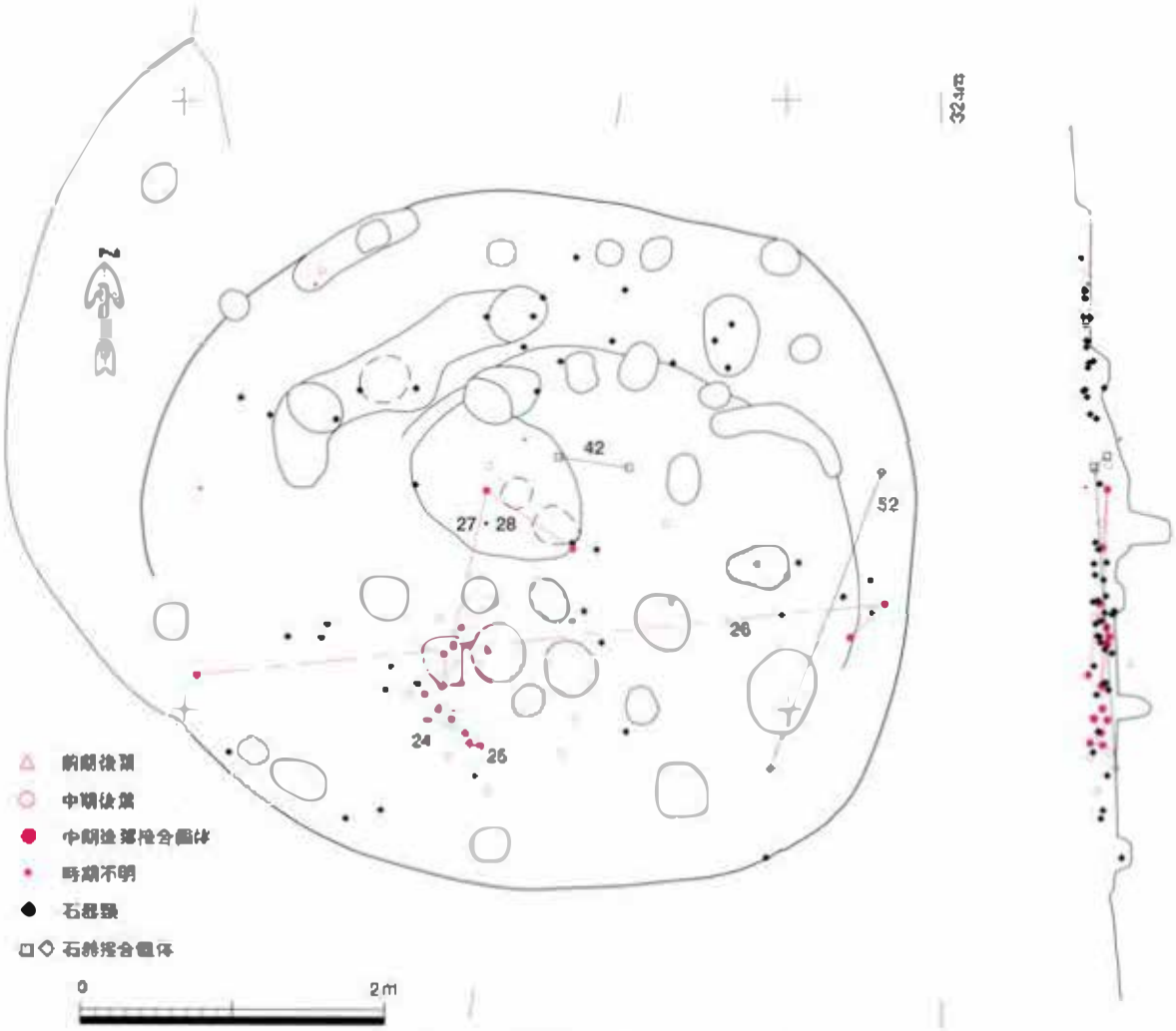


図34　SB2遺物出土分布（S=1/50）

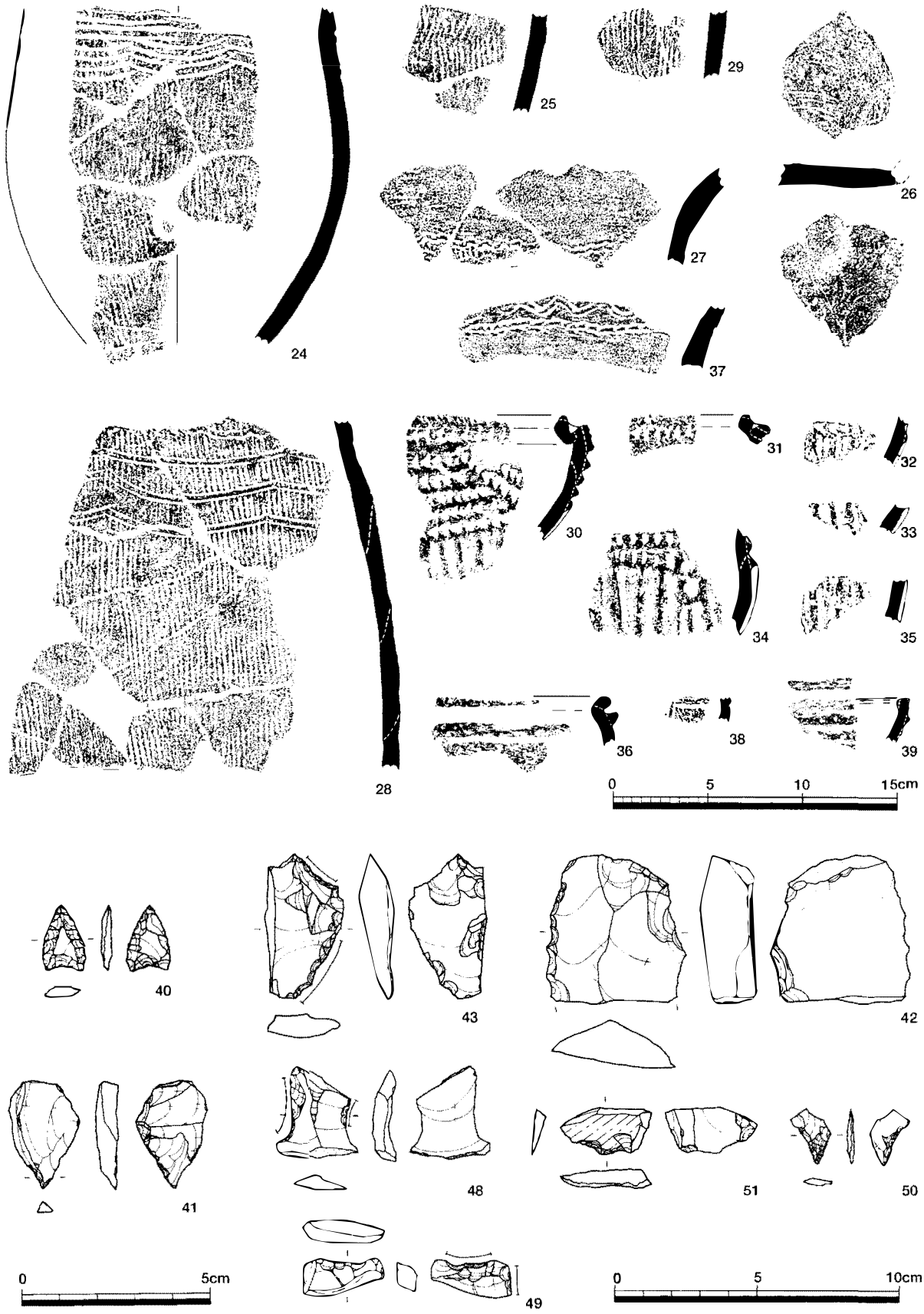


図35　SB 2 出土遺物①

1点、SD1からC2群a2類とJ群b類が各1点、SP38から剥片類が1点、SP40から石核と切目石錘が各1点、SP41からZ2群b1類が1点、SP46から剥片類が1点出土した。

24～29・37・38はC2群a2類で、撚糸文を地文とし、半截竹管による沈線文を施す。24の撚糸文は

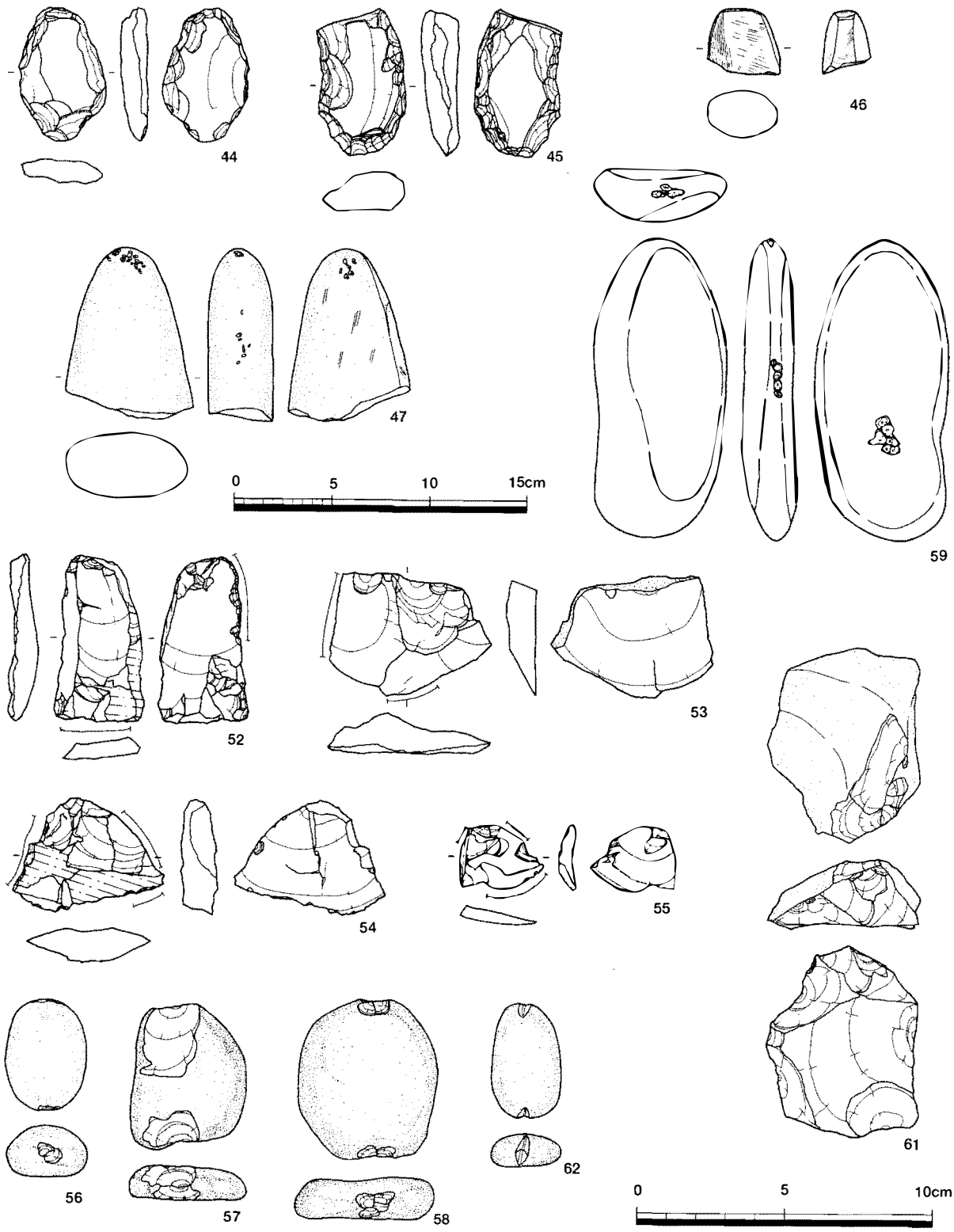


図36　SB2出土遺物②

Lrで、半截竹管により連弧状の文様を描く。26は底部片で、やや凹み底となりC2群a2類の底部と思われる。24・25は、胎土や焼成などから同一個体片と思われる。27～29・37の撚糸文はLrで、半截竹管により連弧状、波状の文様を描き、胎土や焼成から同一個体片と思われる。38は、SF５から出土した土器で、撚糸文はRl、半截竹管による縦位と横位の沈線文を描く。30～35はC2群ｂ類で、口縁部に横位の隆帯を数条と、隆帯間に連続刺突文を施し、頸部には縦位の隆帯を密に施すものである。過去の徳山地区における調査において、在地化した船元Ⅲ式土器と呼ばれたものに類似するが、口縁部に横位の文様が施されているのが特徴である。36はC2群ｃ類で、口縁部に２条の隆帯を横位に施す。39はZ2群b1類で、器面が摩滅している。

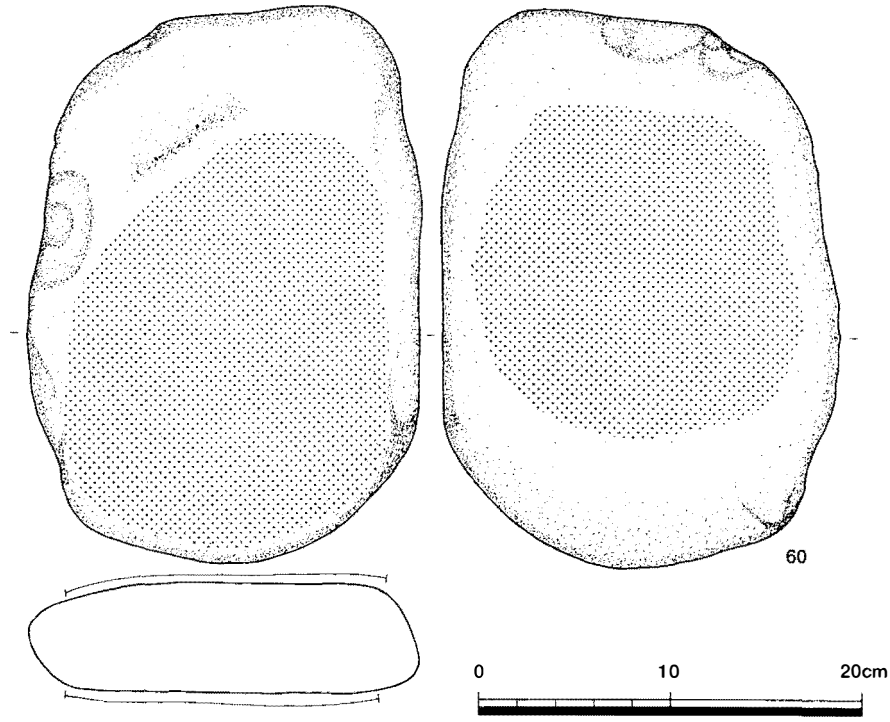
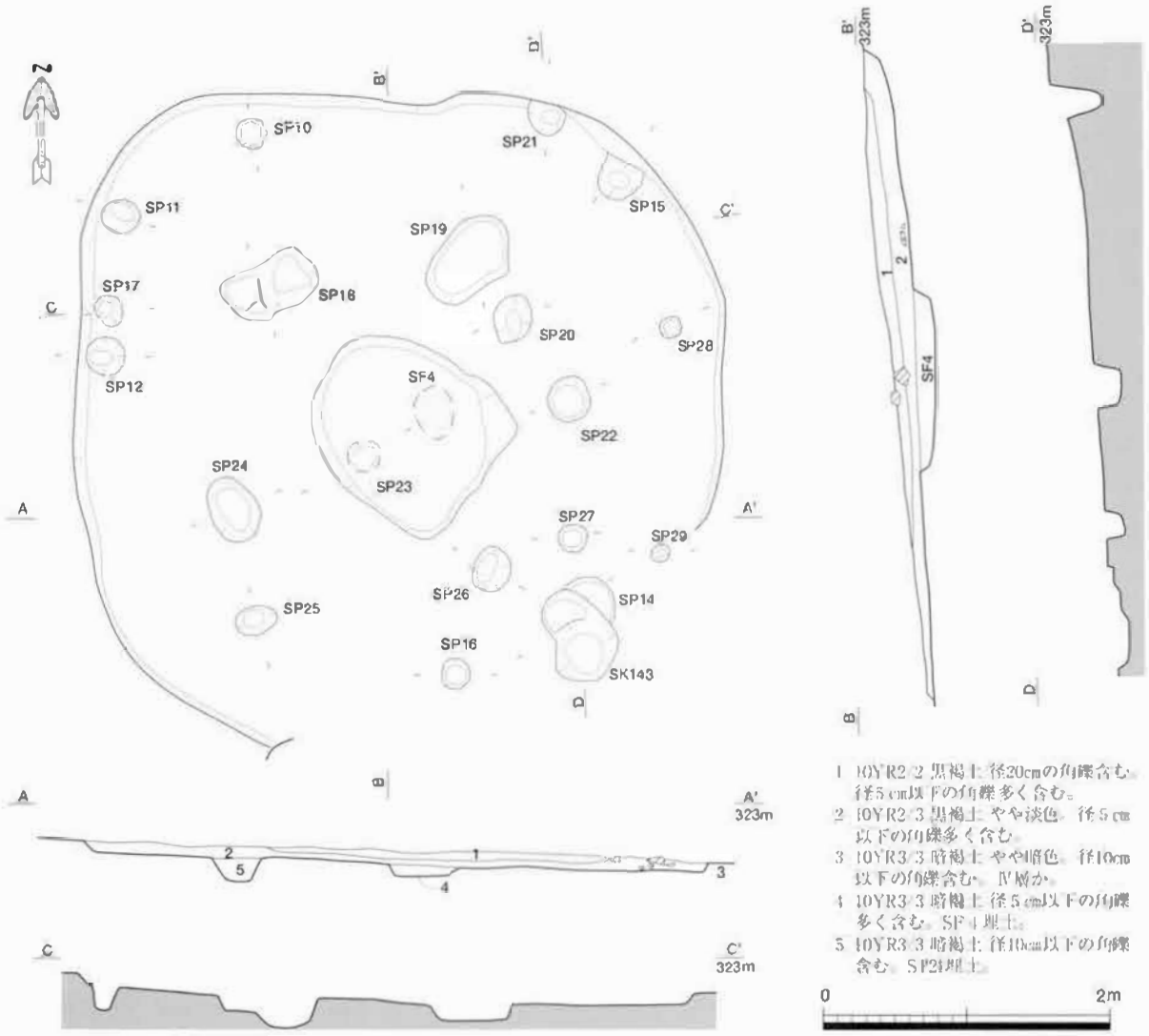


図37　SB２出土石皿

40は石鏃1a類で、側辺がやや膨らむ形状である。41は石錐１類で、横長の剥片の先端に簡単な調整を加えて、錐部としている。42はスクレイパー1a類で、側辺に直線的な刃部を持つ。43はスクレイパー2c類で、縦長の剥片の基部と側辺に刃部を持つ。44は、表裏面に摩滅が確認できたため打製石斧２類とした。しかし、ほかのものと比較して短いことから、欠損部を再加工してスクレイパーに転用したものである可能性が考えられる。45は打製石斧４類である。46・47は磨製石斧であるが、いずれも基部が残るだけである。46は全面に研磨痕が確認できるが、47は研磨痕が顕著でなく、成形時と思われる敲打痕が残る。48～51はRFで、50は石鏃未製品の可能性がある。52～55はMFで、52の両端には階段状剥離が認められ、楔形石器を転用したものか。56～58は打欠石錘で、いずれも自然石を利用したものである。59は磨石・凹石類3b類で、平坦な面と側面、先端部に敲打痕が認められる。60はやや小型の石皿で、扁平な自然石を用いている。61は流紋岩の石核で、自然面が残る。62は切目石錘で、２方向から切目を入れる。

時期　SB2aとSB2bの遺物を分別することができなかったため、SB2bの明確な時期決定は困難であるが、炉の重複やSB７に伴うと思われる前期の遺物を除くと、中期後葉の遺物しかないことから、両者の時間的な差は小さなものと思われる。SB2aは、出土遺物から中期後葉のものと判断できる。したがってSB2bの時期も中期後葉であろう。既存の土器編年に対比させれば、SB2aは東海西部の中富Ⅰ式に相当し、近畿地方の船元・里木式土器様式第５様式ａ期（泉1988）に併行すると思われる。


SP10
SP11
SP12
SP14
SP15
SP16
SP17
SP18
SP19
SP20
SP21
SP22
SP23
SP24
SP25
SP26
SP27
SP28
SP29
SK143
SF4
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
323m
1 10YR2/2 黒褐土 径20cmの角礫含む。径5cm以下の角礫多く含む。
2 10YR2/3 黒褐土 やや淡色。径5cm以下の角礫多く含む。
3 10YR3/3 暗褐土 やや暗色。径10cm以下の角礫含む。IV層か。
4 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫多く含む。SF4埋土。
5 10YR3/3 暗褐土 径10cm以下の角礫含む。SP23埋土。
0
2m

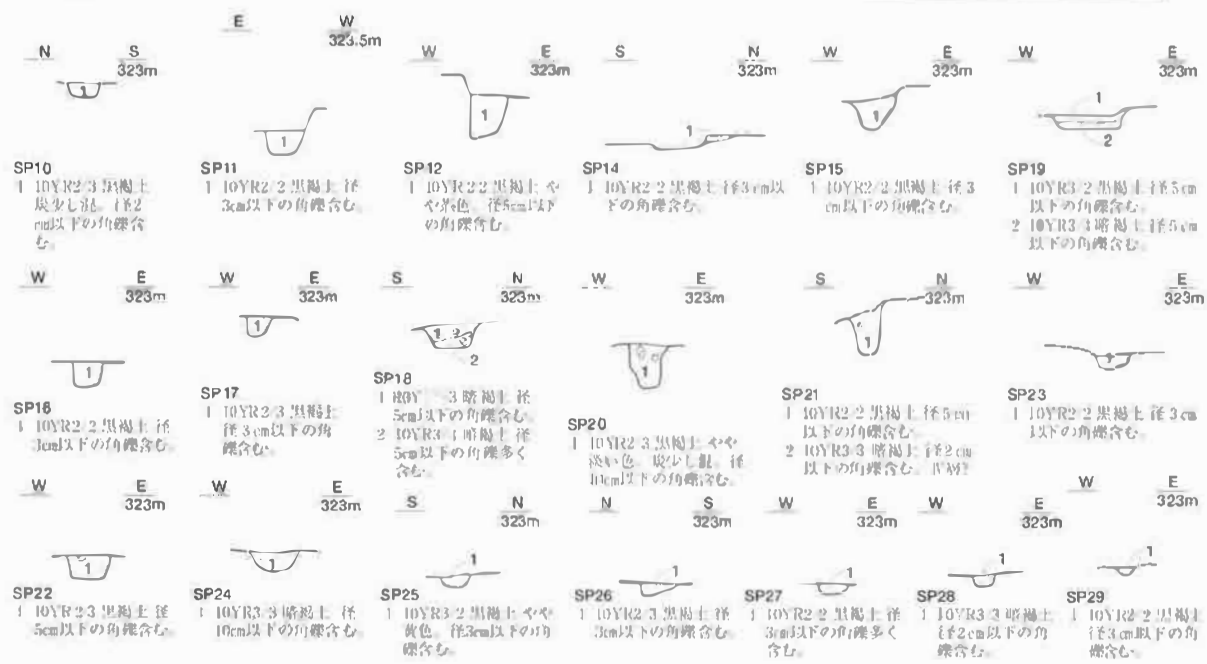

SP10
1 10YR2/3 黒褐土 炭少し混。径2cm以下の角礫含む。
SP11
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP12
1 10YR2/2 黒褐土 やや淡色。径5cm以下の角礫含む。
SP14
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP15
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP19
1 10YR3/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。
2 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。
SP16
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP17
1 10YR2/3 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP18
1 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。
2 10YR3/4 暗褐土 径5cm以下の角礫多く含む。
SP20
1 10YR2/3 黒褐土 やや淡い色。炭少し混。径10cm以下の角礫含む。
SP21
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。
2 10YR3/3 暗褐土 径2cm以下の角礫含む。IV層?
SP23
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP22
1 10YR2/3 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。
SP24
1 10YR3/3 暗褐土 径10cm以下の角礫含む。
SP25
1 10YR3/2 黒褐土 やや黄色。径3cm以下の角礫含む。
SP26
1 10YR2/3 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
SP27
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫多く含む。
SP28
1 10YR3/3 暗褐土 径2cm以下の角礫含む。
SP29
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。
N
S
W
E
323m
323.5m

図38　SB3　(S=1/50)

SB3（図39）

検出状況　A区東部で検出した、地床炉を持つ竪穴住居跡である。Ⅲｂ層除去段階で遺構と思われる

表15　SB3床面検出SP一覧

遺構No	地区	種類	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SP10	I R14	壁柱穴	円形	0.20	0.20	0.16	0.14	0.082	B2a2	1層 A	なし	早期末	
SP11	I R14	壁柱穴	長楕円形	0.28	0.23	0.18	0.11	0.165	B3a1	1層 A	なし	早期末	
SP12	I R14	壁柱穴	長楕円形	0.26	0.25	0.17	0.1	0.307	C1a2	1層 A	なし	早期末	
SP13	I S11～I S15	穴	不明	0.43	(0.17)	0.36	(0.15)	0.012	B1a1	1層 A	なし	不明	<SK149
SP15	I R15	壁柱穴	円形	0.33	0.3	0.14	0.13	0.205	C3a1	1層 A	なし	早期末	
SP16	I S14	壁柱穴	楕円形	0.2	0.21	0.16	0.13	0.10	B3a2	1層 A	なし	早期末	
SP17	I R14	壁柱穴	円形	0.22	0.19	0.11	0.1	0.175	B3a2	1層 A	なし	早期末	
SP18	I R14	主柱穴	不定形	0.69	0.46	0.26	0.23	0.219	B2a1	2層 B	なし	早期末	
SP19	I R14	穴	不整長楕円形	0.71	0.49	0.6	0.36	0.127	B1a1	2層 B	なし	不明	
SP20	I R14	主柱穴	不整長楕円形	0.32	0.27	0.19	0.11	0.295	B3a2	1層 A	なし	早期末	
SP21	I R14	壁柱穴	長楕円形	0.26	0.23	0.15	0.1	0.301	A4a2	1層 A	なし	早期末	
SP22	I R14	柱穴？	円形	0.31	0.32	0.22	0.21	0.186	B2a2	1層 A	なし	早期末？	
SP23	I R14	穴	楕円形	0.24	0.22	0.18	0.15	0.098	B2a2	1層 A	なし	不明	>SF4
SP24	I R14～I S14	主柱穴	不整長楕円形	0.48	0.34	0.33	0.2	0.135	A2a1	1層 A	なし	早期末	
SP25	I S14	壁柱穴	円形	0.29	0.2	0.15	0.13	0.153	A3a1	1層 A	なし	早期末	
SP26	I S14	主柱穴	長楕円形	0.31	0.17	0.22	0.12	0.1	A2a1	1層 A	なし	不明	
SP27	I R14～I S14	柱穴？	円形	0.2	0.2	0.14	0.12	0.138	B2a1	1層 A	なし	早期末	
SP28	I R15	壁柱穴	円形	0.17	0.16	0.12	0.11	0.099	B2a2	1層 A	なし	早期末	
SP29	I S15	壁柱穴	楕円形	0.11	0.13	0.08	0.06	0.042	A2a1	1層 A	なし	早期末	

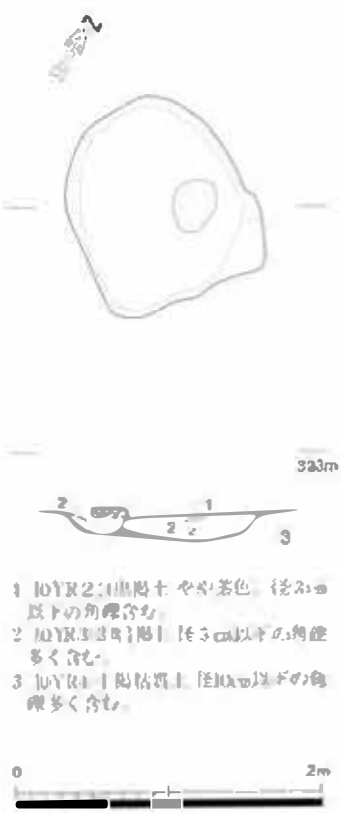


図39　SF 4（S=1/50）

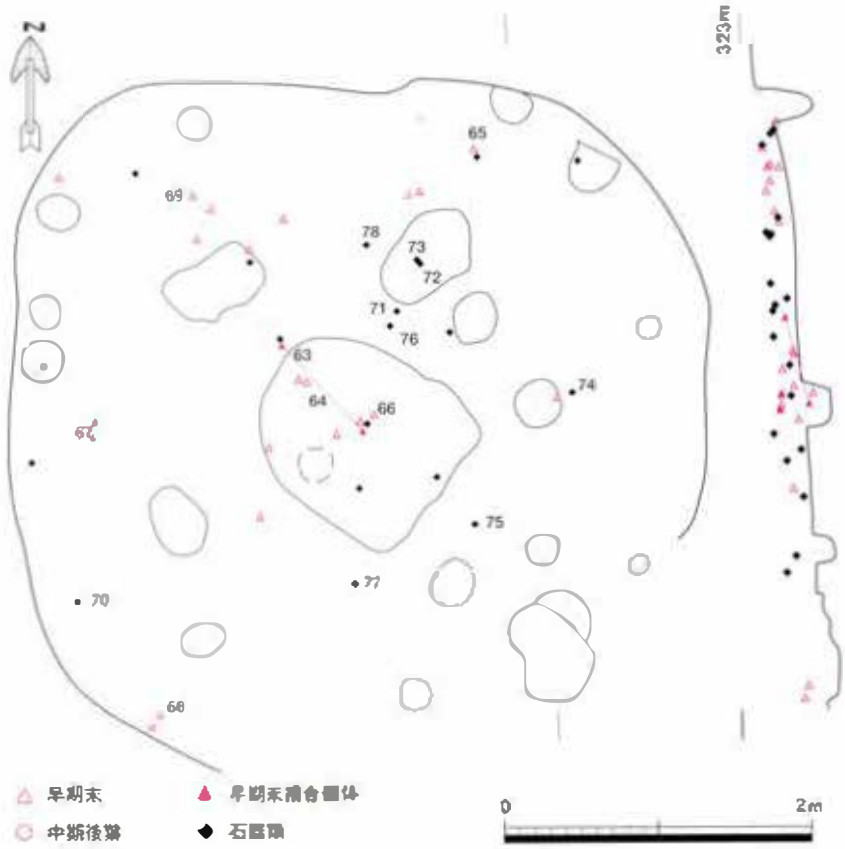


図40　SB3遺物出土分布（S=1/50）

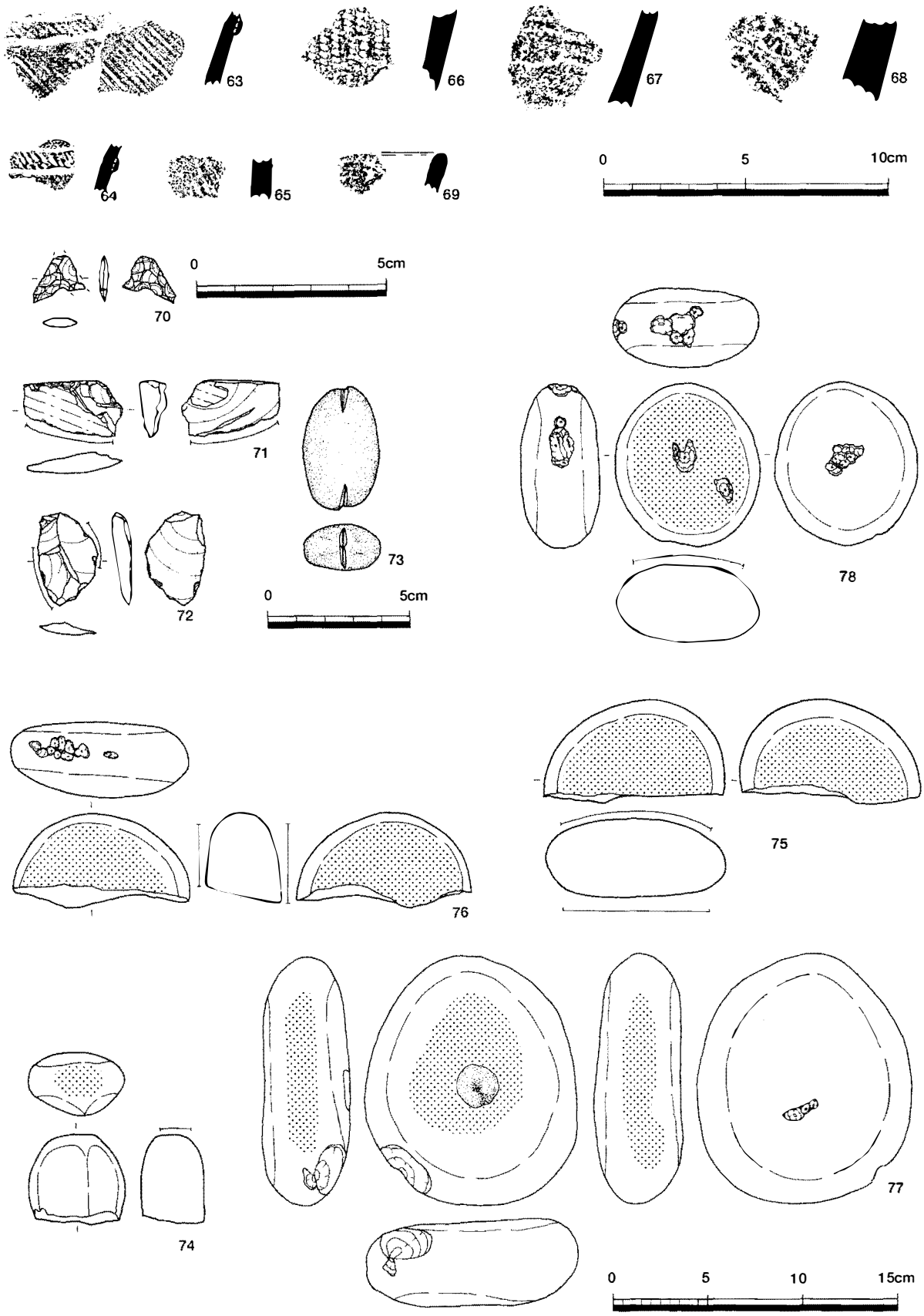

63
66
67
68
64
65
69
0
5
10cm
70
0
5cm
71
72
73
0
5cm
78
76
75
74
77
0
5
10
15cm

図41　SB 3 出土遺物

黒褐土のまとまりを認めたが、当初２軒の竪穴住居跡が重複していると思われた。この切り合い関係を明瞭にするためⅤ層上面まで掘り下げたが、竪穴住居跡は１軒しかないことが判明し、これをSB３とした。確認したプランは不整方形で、南東部分の壁は検出できなかった。

埋土　２層に分層したが、ほぼ水平堆積であった。

壁　Ⅴ層を掘り込んでいるが、最も遺存状態のよい北壁で約0.15mであった。掘り込みは明瞭であるが、壁面はやや傾斜している。

床　ほぼ平坦であるが、貼り床や硬化面を確認することはできなかった。

主柱穴　床面で19基の小穴を検出した（表15）が、このうち中央の炉の周囲に位置するSP18・20・24・26を主柱穴、壁際で検出した小穴を壁柱穴と判断した。

炉（図39）　床面で被熱により変色した範囲（0.35m×0.28m）を確認したため、これをSB３の炉と判断し、SF４とした。この被熱部分の周囲には、楕円形に暗褐土があり、これをSK153として掘削したところ、内部から出土した土器が、SB３埋土出土土器と接合したため、SK153は炉に伴う掘り込みと判断した。

出土遺物（図41）　縄文土器は、S3群ａ類４点、ｂ類４点、c1類10点、c2類３点、C3群胴ｂ類１点の計22点、石器類は、石鏃１点、剥片類９点、RF１点、MF３点、切目石錘１点、磨石・凹石類５点の計20点が出土した。小穴からは遺物は出土していないが、SF４からS3群ａ類とc1類が各１点ずつ出土した。遺物の出土状況（図40）は、SF４の周囲に若干まとまりを見せるが、全体としては埋土中に散在している。

63～65は、条痕調整を施すことからS3群ａ類とした。幅0.6㎝ほどの突帯を貼り付け、突帯上にも条痕調整が施される。66～68はS3群ｂ類で、胎土中に繊維を含み縄文を施す。比較的厚手の土器である。69はS3群c1類で、ａ類と同様に薄手の土器である。

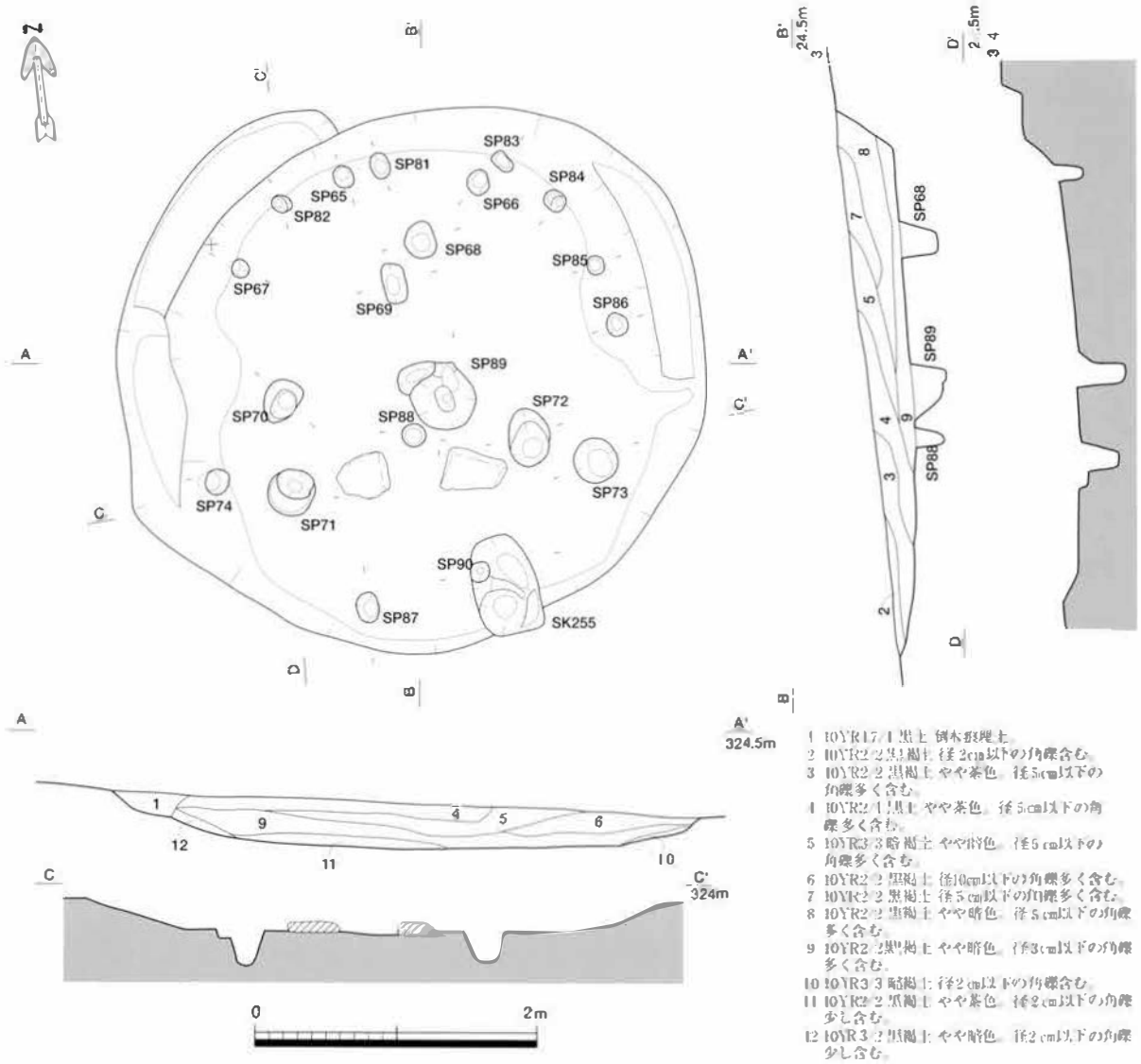
70は石鏃1e類で、先端と片側の脚部を欠損する。脚部は尖る形態であるが、基部の抉りがU字状となる。71・72はMFで、末端辺や側辺に微細な剥離痕が認められる。73は切目石錘である。埋土上部から出土しており、中期後葉の土器とともに、中期以後の遺構を埋土中で見落とした可能性が考えられる。切目石錘は、上原遺跡第１地点において、前期末葉から存在することが確認されている（堀田ほか2000）が、早期末にまで遡るものは確認されていない。74～78は磨石・凹石類で、1a類（74・75）、1c類（76）、2a類（77）、2b類（78）がある。

時期　出土した遺物から早期末と判断した。既存の土器編年に対比させれば、東海西部の塩屋式と思われる。

SB４（図42）

検出状況　A区中央部で検出した、不整円形の竪穴住居跡である。Ⅲｂ層除去段階で遺構と思われる黒土のまとまりを認めたが、プランが不明瞭で複数の遺構が重複していると思われた。これを明瞭にするためⅣ層を除去し、Ⅴ層上面まで掘り下げたところ、倒木痕（NW10）や土坑（SK256）との切り合い関係を確認した。確認したプランは東西方向に長い不整円形で、床面の形状は南北方向に長い不整楕円形である。

埋土　11層に分層したが、南北断面では北側（山側）から南側に傾斜して堆積している。



1 10YR1.7/1 黒土 倒木腐植土
2 10YR2/2黒褐土 径2cm以下の角礫含む。
3 10YR2/2 黒褐土 やや茶色。径5cm以下の角礫多く含む。
4 10YR2/1黒土 やや茶色。径5cm以下の角礫多く含む。
5 10YR3/3暗褐土 やや暗色。径5cm以下の角礫多く含む。
6 10YR2/2 黒褐土 径10cm以下の角礫多く含む。
7 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫多く含む。
8 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径5cm以下の角礫多く含む。
9 10YR2/2黒褐土 やや暗色。径3cm以下の角礫多く含む。
10 10YR3/3暗褐土 径2cm以下の角礫含む。
11 10YR2/2 黒褐土 やや茶色。径2cm以下の角礫少し含む。
12 10YR3/2黒褐土 やや暗色。径2cm以下の角礫少し含む。

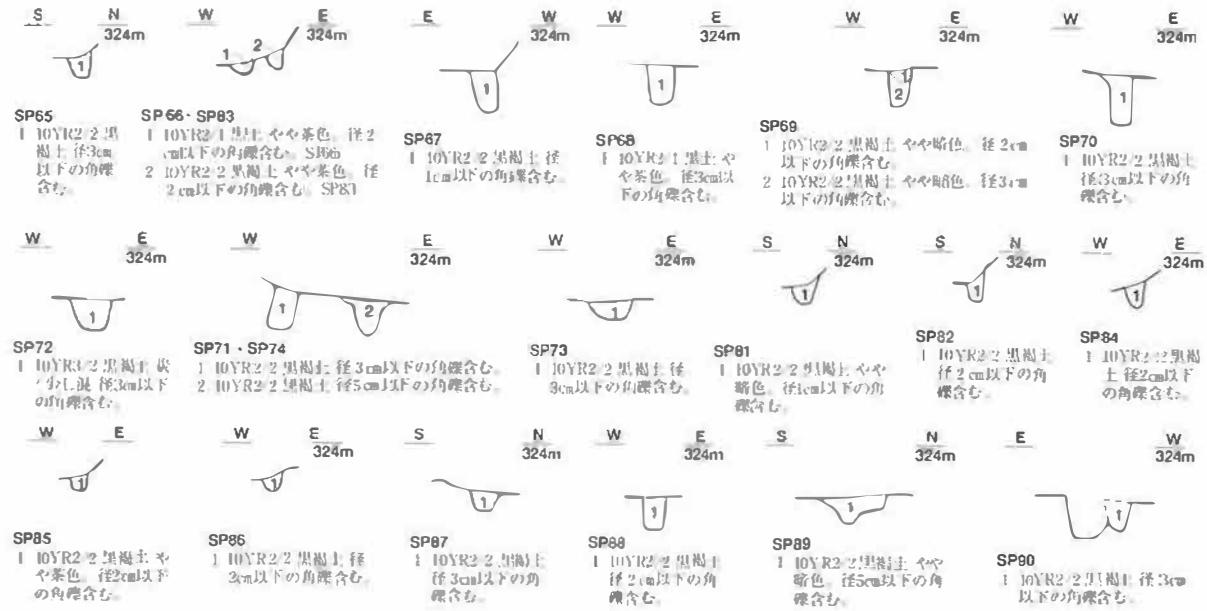


図42　SB 4（S=1/50）

表16　SB４床面検出SP一覧

遺構No.	地区	種類	平面形	規模（m）					断面形	埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ					
				長軸	短軸	長軸	短軸						
SP65	ＩQ9	壁柱穴	円形	0.16	0.16	0.1	0.09	0.254	B5a2	1層A	なし	前期後葉	
SP66	ＩQ9	壁柱穴	不整楕円形	0.17	0.16	0.11	0.09	0.094	A2a1	1層A	なし	前期後葉	
SP67	ＩR9	壁柱穴	楕円形	0.11	0.12	0.09	0.07	0.188	A5a2	1層A	なし	前期後葉	
SP68	ＩR9	主柱穴	円形	0.22	0.26	0.14	0.13	0.27	A3a2	1層A	なし	前期後葉	柱配置a
SP69	ＩR9	主柱穴	長楕円形	0.29	0.16	0.14	0.09	0.256	A5a2	2層B	なし	前期後葉	柱配置b
SP70	ＩR9	主柱穴	円形	0.32	0.24	0.12	0.12	0.339	B4a2	1層A	なし	前期後葉	柱配置a又はb
SP71	ＩR9	主柱穴	円形	0.3	0.34	0.1	0.09	0.268	A3a1	1層A	なし	前期後葉	柱配置a又はb
SP72	ＩR9	主柱穴	不整楕円形	0.28	0.41	0.15	0.12	0.222	B2a1	1層A	なし	前期後葉	柱配置b
SP73	ＩR9	主柱穴	楕円形	0.32	0.31	0.2	0.16	0.137	B2a1	1層A	なし	前期後葉	柱配置a
SP74	ＩR8～ＩR9	壁柱穴	円形	0.16	0.18	0.14	0.13	0.302	B5a2	1層A	なし	前期後葉	
SP81	ＩQ9	壁柱穴	楕円形	0.19	0.13	0.1	0.08	0.151	A4a2	1層A	なし	前期後葉	
SP82	ＩQ9	壁柱穴	円形	0.15	0.11	0.06	0.06	0.162	A4a2	1層A	なし	前期後葉	
SP83	ＩQ9	壁柱穴	長楕円形	0.16	0.11	0.12	0.07	0.1	A3a2	1層A	なし	前期後葉	
SP84	ＩR9	壁柱穴	円形	0.17	0.14	0.06	0.06	0.14	A3a2	1層A	なし	前期後葉	
SP85	ＩR9	壁柱穴	円形	0.14	0.13	0.09	0.08	0.109	B3a2	1層A	なし	前期後葉	
SP86	ＩR9	壁柱穴	円形	0.16	0.16	0.1	0.07	0.085	A2a2	1層A	なし	前期後葉	
SP87	ＩR9	壁柱穴	円形	0.21	0.16	0.11	0.1	0.141	B3a1	1層A	なし	前期後葉？	中期後葉か？
SP88	ＩR9	主柱穴	円形	0.17	0.16	0.11	0.11	0.228	B4a2	1層A	なし	前期後葉	柱配置b
SP89	ＩR9	主柱穴	円形	0.49	0.44	0.06	0.06	0.201	A2a3	1層A	なし	前期後葉	柱配置a
SP90	ＩR9	壁柱穴	楕円形	(0.13)	(0.14)	0.05	0.04	0.191	A5a1	1層A	なし	前期後葉	＜SK256

壁　Ｖ層を掘り込み、北側で約0.4mの深さがあるが、地形の傾斜に対応して、南側では浅く0.1mほど残存するだけである。北側の壁面は、やや傾斜するものの掘り込みは明瞭であるのに対し、東西及び南側の壁面は傾斜が緩やかで、断面形が皿状となっている。なお、北及び東西の壁際には、小穴が巡っており壁柱穴と思われる。

床　ほぼ平坦であるが、壁際では傾斜しており、東西断面では皿状となる。貼り床や硬化面を確認することはできなかったが、床面上には石皿が２個置かれた状態で出土した。

主柱穴　床面では20基の小穴を検出した（表16）が、このうち主柱穴の可能性があるのはSP68～SP73、SP88、SP89の８基である。しかし、この８基の小穴が同時に機能していたのではなく、小穴の位置関係から４基の小穴を１組とした、２時期のものと考えられる。その一つは、住居のほぼ中心に位置するSP89と、それから1.1m～1.2mの間隔で位置するSP68、SP71、SP73である。これは、SP89を中心として約120°の角度で正三角形を描くように、３基の柱穴を配置したものである（柱穴配置ａ）。SP68とSP89を結ぶ線を主軸線と仮定すると、SP71とSP73は主軸線を中心として対称の位置になる。もう一つの柱穴配置は、SP88を中心としたものである。SP88とSP69と結ぶ線を主軸線と仮定すると、この２つの小穴の間隔は、柱穴配置ａのSP68とSP89の間隔とほぼ一致し、西及び南へ0.25mほど平行移動させた位置になる。SP88とSP69の主軸線を中心として対称となる位置には、SP71とSP72があり、SP88を中心として３基の柱穴を配置したものとなる（柱穴配置ｂ）が、正三角形の配置とはならない。SP71は、柱穴配置ａで使用しているが、同じ穴を柱穴として使用していた可能性が考えられる。あるいは、対称となる位置ではないが、SP70を柱穴と考えることも可能と思われる。SP70とSP71に関しては、どちらの柱穴配置に伴うものか明確な判断はできないが、配置の規則性からすれば、SP71を両者とも用いていると考えるのが妥当かもしれない。

壁面に沿って検出した小穴のうち、南に位置するSP87とSP90は、ほかと離れて位置することと、住居が立地する場所の傾斜から入り口部にあたると思われることから、入り口施設に関わるものであ

る可能性がある。

炉　床面検出時には、焼土面や炉と思われるような掘り込みは確認できなかった。

出土遺物（図44～46）　縄文土器は、S1群c類2点、Z2群a類2点、b2類2点、c類7点、d類2点、e類が2点、f類2点、底a類5点、胴a類34点、胴b類3点、C3群胴a類1点の計67点出土した。このうちS1群とC3群は、混入したものと思われる。C3群土器の出土位置は、SP87のプラン上にあり、この小穴自体が埋土上部から掘り込まれた可能性も考えられる。石器類は、石鏃2点、石錐1点、スクレイパー3点、打製石斧1点、石核1点、剥片類9点、RF1点、MF9点、切目石錘1点、磨石・凹石類1点、石皿4点が出土した。出土状況（図43）は、際だった遺物の集中は認められないが、北半部分の埋土下位から中位にかけて比較的多い。石皿（112）は、接合関係を図示していないが、IV5区包含層から出土したものと接合した。また、床面に置かれた状態で、2個の石皿（113・114）が出土した。

79・80はS1群c類で、格子目文を横位に施文する。81・82はZ2群a類で、81は口縁端部にも半截竹管による刻みを施す。83・84はZ2群b2類で、LR縄文を地文とし、突帯上には斜めの刻みを施す。85～88はZ2群c類で、86～88は貯土や焼成から同一個体と思われる。85は、短い縦位の結節突帯と多条の横位沈線という、当地域の土器とはやや異なった文様を施すものであるが、突帯上にC字押引きを施すことからc類に含めた。胴部が強く張り、口縁部は短く屈曲する器形で、緩い波状口縁となる。LR縄文を地文とし、頸部から胴部上半にかけて10条の沈線を巡らす。さらに、沈線の上に短い縦位の突帯を千鳥状に上下に貼り付け、突帯上を半截竹管により押し引いており、口縁端部には刻みを施す。86は口縁部片で小波状となり、内面をわずかに肥厚させてLR縄文を施す。内面の縄文帯下端や口縁端部内側は、半截竹管を押し引く。口縁部外面には縄文が見られないが、同一個体と思われる87・88には、地文としてLR縄文が施されている。また、口縁部の突帯は貼り付けただけであるが、胴部では突帯上に半截竹管による押し引きを施す。89はZ2群d類で、LR縄文を地文とし、口縁部に2条の突帯を巡らせ、突帯上や口縁端部にも縄文を施す。90・91はZ2群e類で、90は口縁部に3条の突

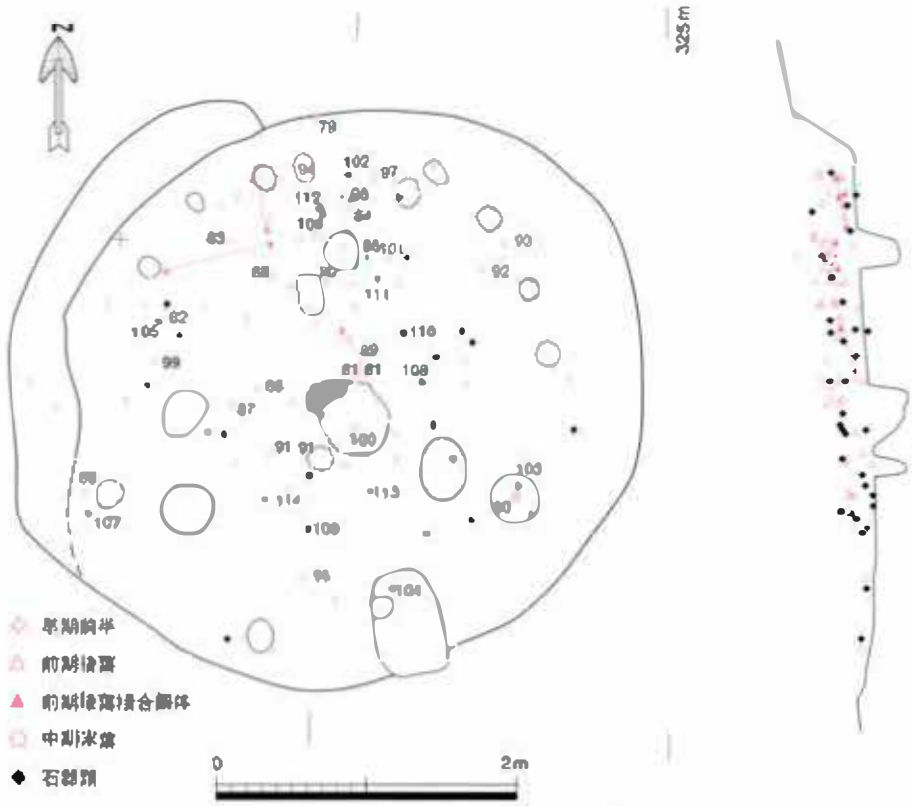


図43　SB4遺物出土分布（S=1/50）

帯を巡らせ、91は突帯よりも下部にRL縄文を施す。92・93はZ2群f1類で、胎土や焼成から同一個体と思われる。地文にLR縄文を施し、内面には指頭圧痕が残る。94～97はZ2群胴ａ類で、94がRL縄文、95～97はLR縄文を施す。98～101はZ2群底ａ類で、98の体部にはLR縄文を施しているが、99は無文のままである。99～101は、やや凹み底となり、内外面の調整は粗い。

102は石鏃1a類、103は石鏃1b類であるが、どちらも左右非対称の形態となり、この時期に特徴的なものである。104は石錐２類で、両側辺に調整を加えて、先端部を作り出している。先端部には、微細な剥離痕が観察できる。105はスクレイパー1a類で、側辺に直線的な刃部を持ち、末端辺には階段状の剥離が認められる。106はスクレイパー1b類で、側辺に外彎した刃部を持ち、微細な剥離痕が認められる。107はスクレイパー2c類で、基辺と側辺に刃部を持つ。基辺は外彎、側辺は直線的な刃部で、刃部には微細な剥離痕がある。108は石核で、節理面を打面とする。109は切目石錘としたが、紐掛け部は両端とも打ち欠いた上で、下方のみ簡単に切目を入れるものである。紐掛け部には、磨痕が

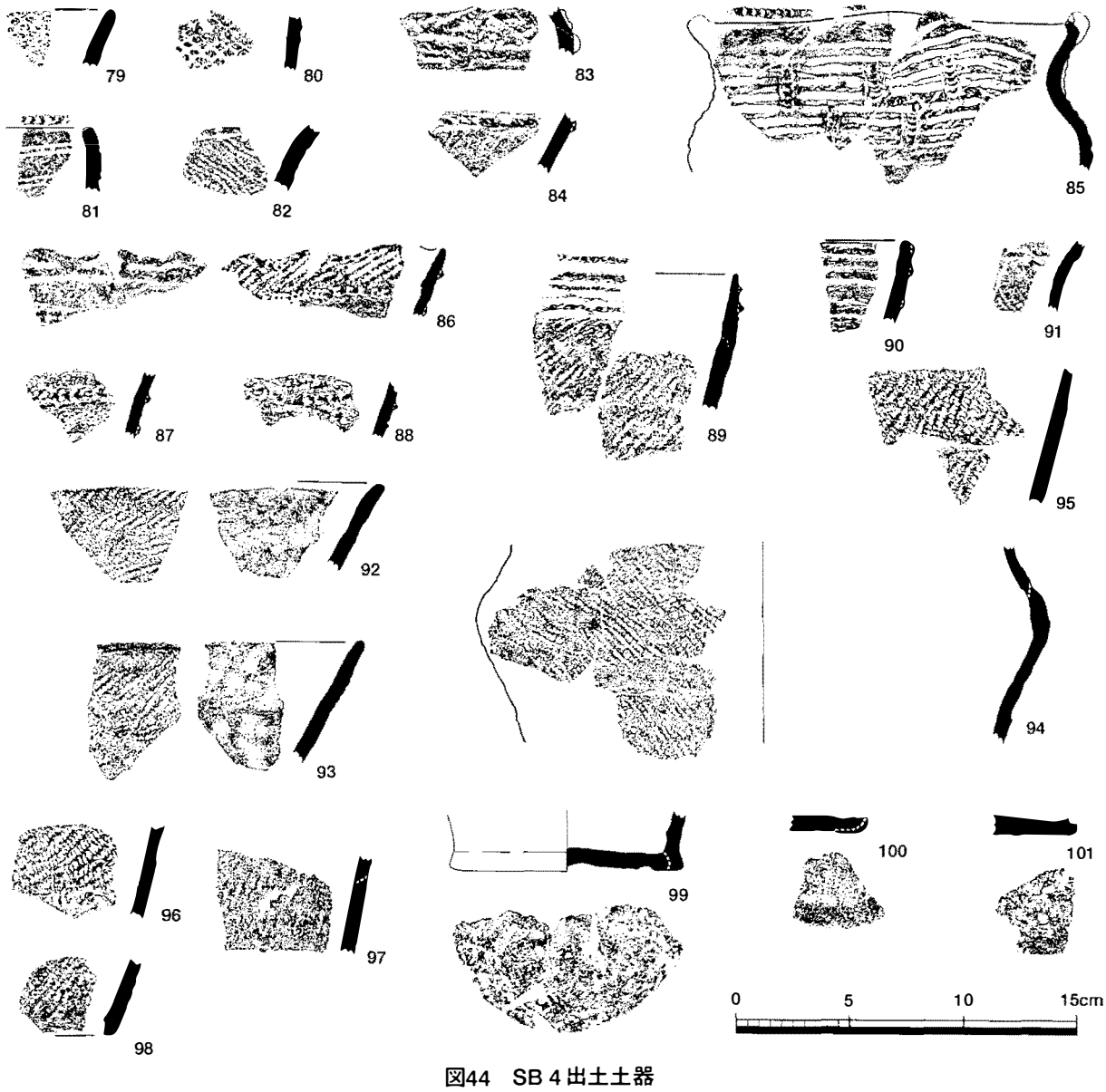


図44　SB４出土土器

確認できる。110は磨石・凹石類2a類で、平坦面の凹みは、敲打痕状のものと内面が平坦な凹みがある。111～114は石皿で、111と112はやや小型のものである。112には、磨痕のほかに線状の敲打痕がある（写真５）。

時期　出土した遺物から、前期後葉と判断した。東海地方西部の既存の編年に対応させれば、内容に相違する部分があるため不明瞭であるが大麦田Ⅲ式頃か。近畿地方では、北白川下層Ⅲ式に併行する時期と思われる。

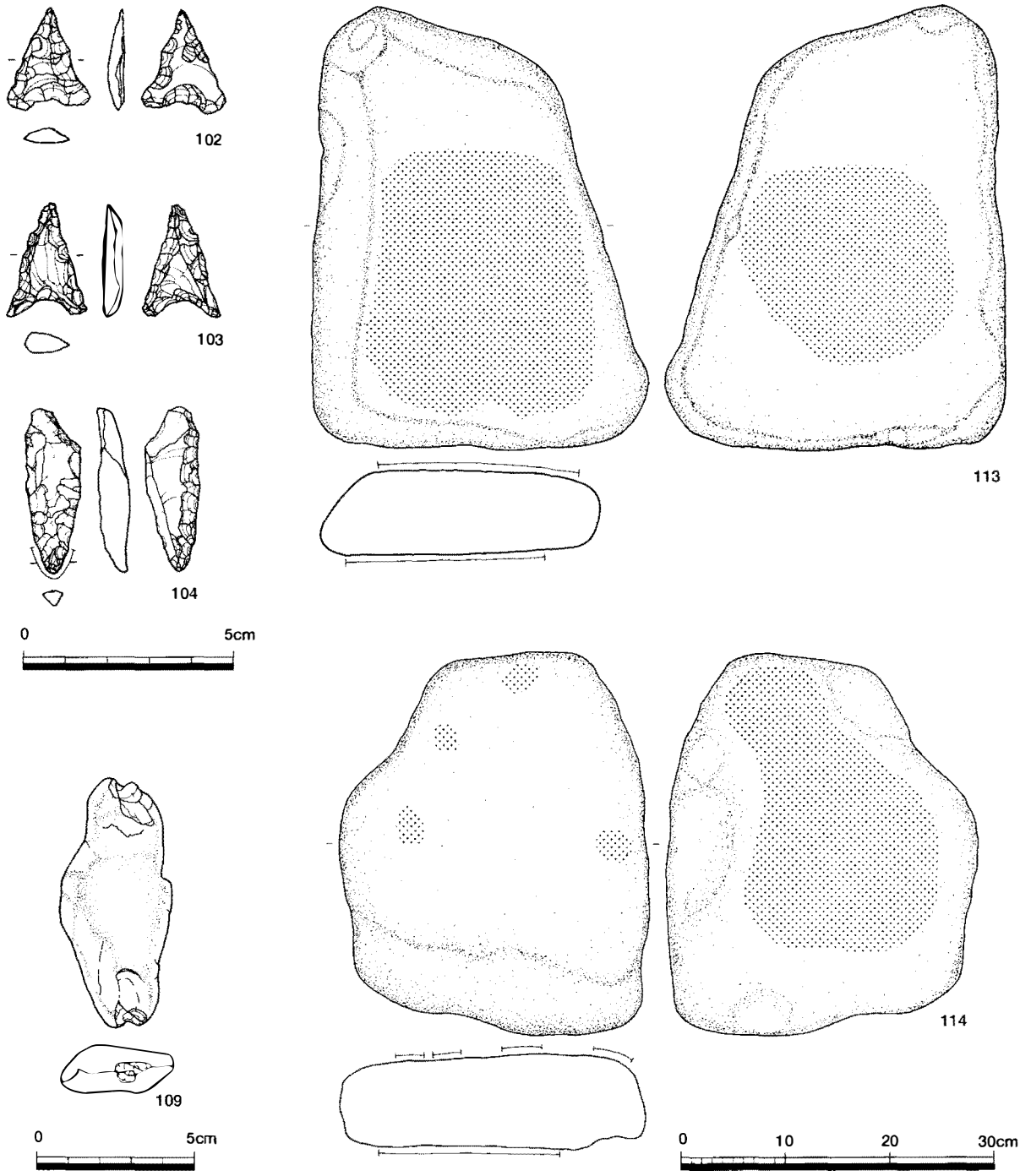
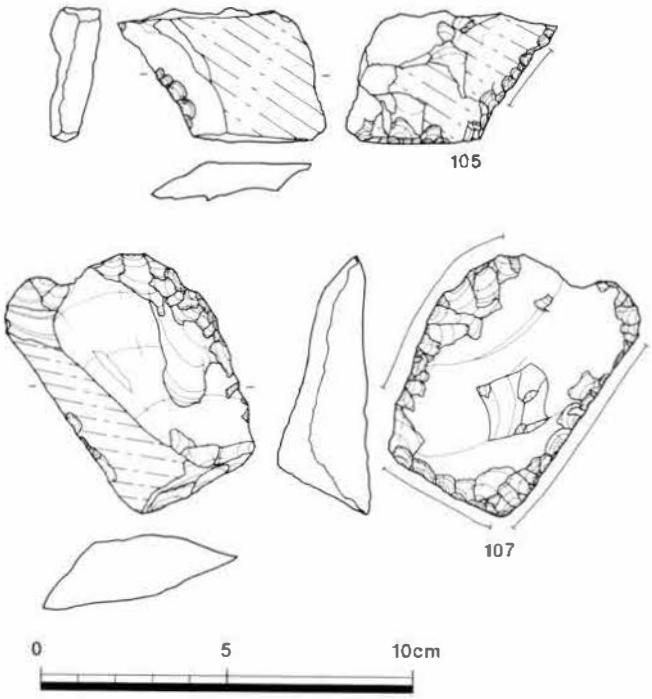
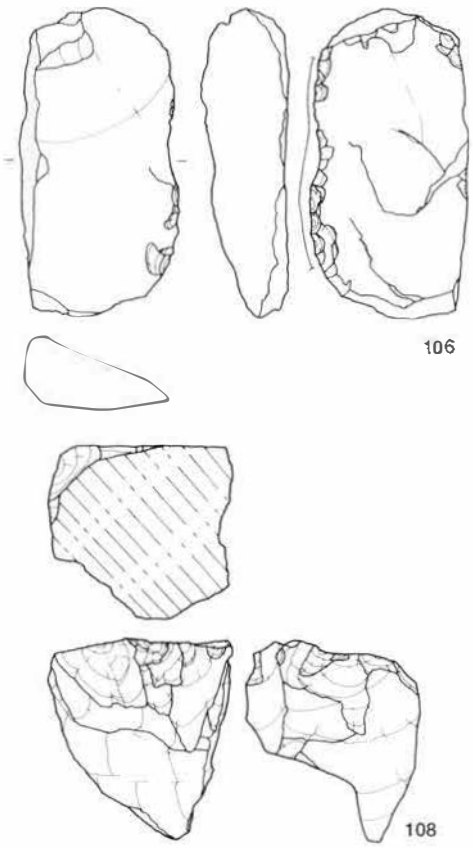
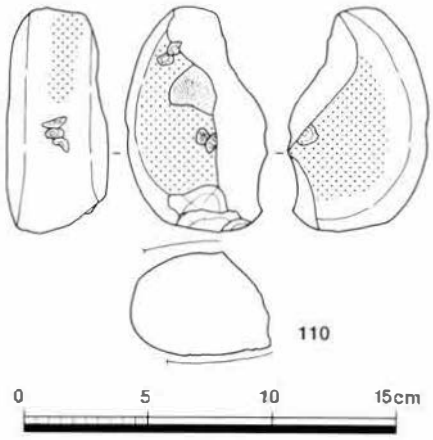
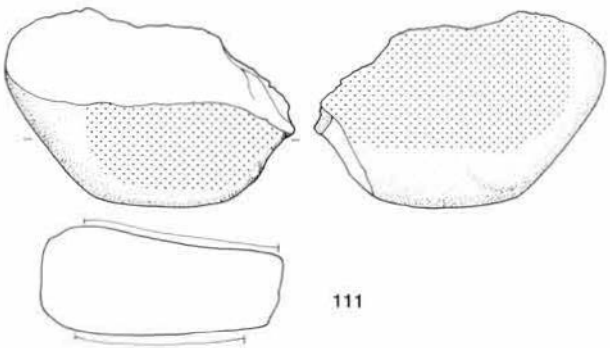


図45　SB４出土石器①









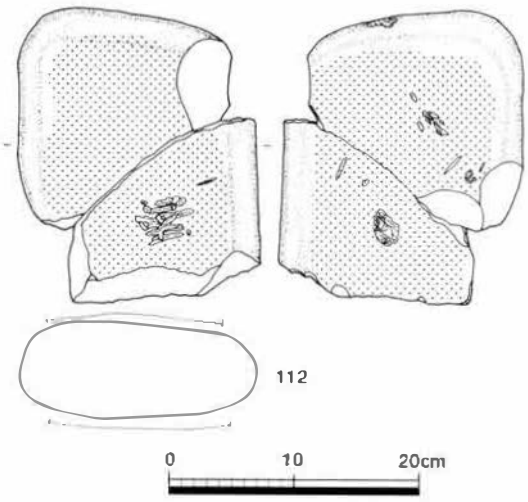


写真5　112敲打痕拡大

図46　SB 4 出土石器 2

SB５（図47）

A区中央部の南寄りで検出した、地床炉を持つ不整円形の竪穴住居跡である。段切り造成の影響で、南壁部分を明確にできなかった。Ⅲｂ層除去段階で、黒褐土のまとまりを認めたが、プランは不明瞭でほかの遺構と重複すると思われたため、Ⅴ層上面まで掘り下げたが、倒木痕（NW13）に切られていることが判明した。竪穴住居跡の遺存状態は悪く、壁面の最も残りのよいところで、約0.1mしか残存していない。

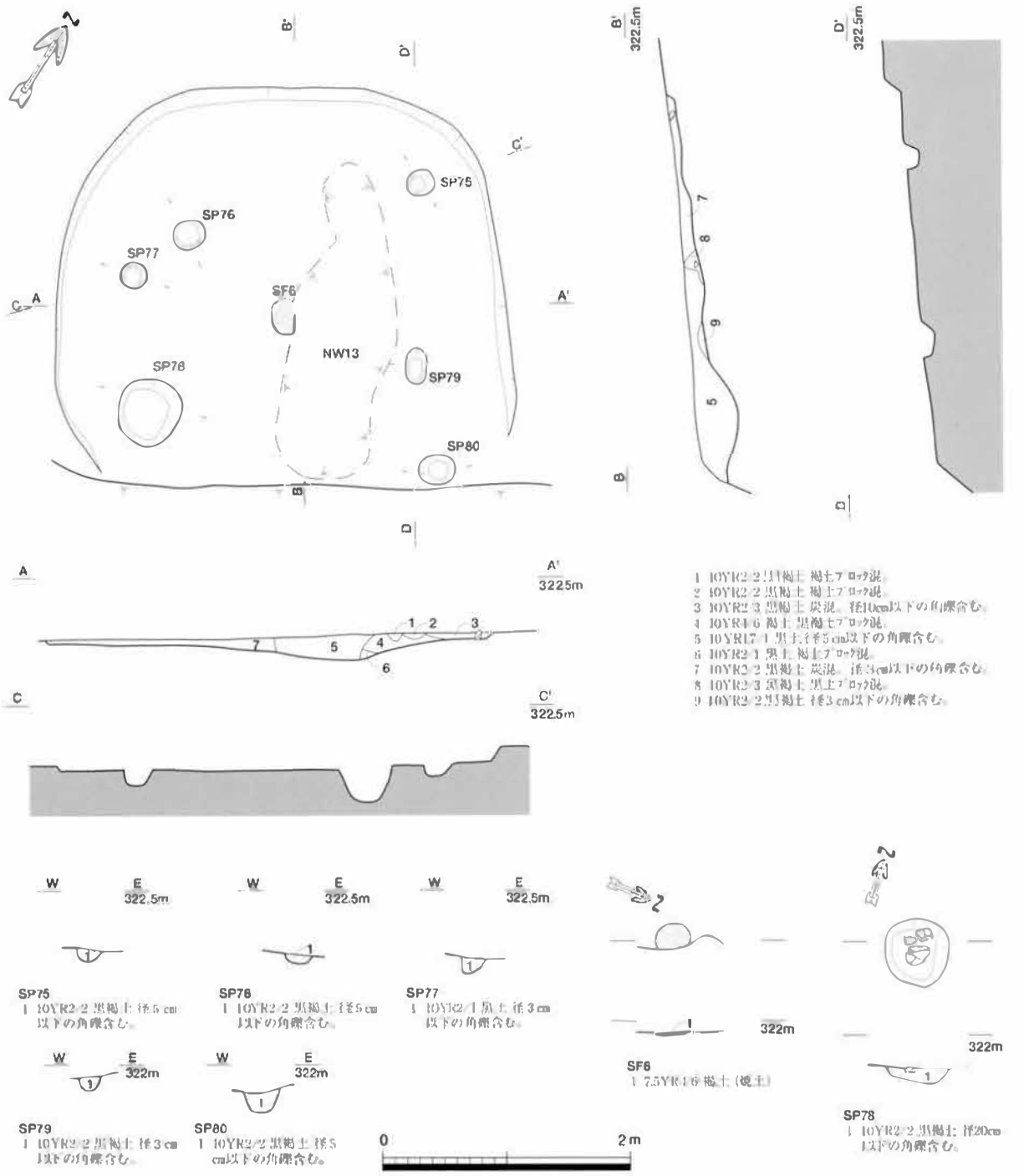


図47　SB５（S=1/50）

埋土　倒木痕（NW13）埋土も含めて９層に分層した。倒木痕により埋土が攪乱される部分があり、その影響がない西側では、ほぼ単層であった。

壁　Ｖ層を掘り込んでいるが、最も残りのよいところで0.1ｍほどしかなく、南壁は確認できなかった。壁面は、やや傾斜している。

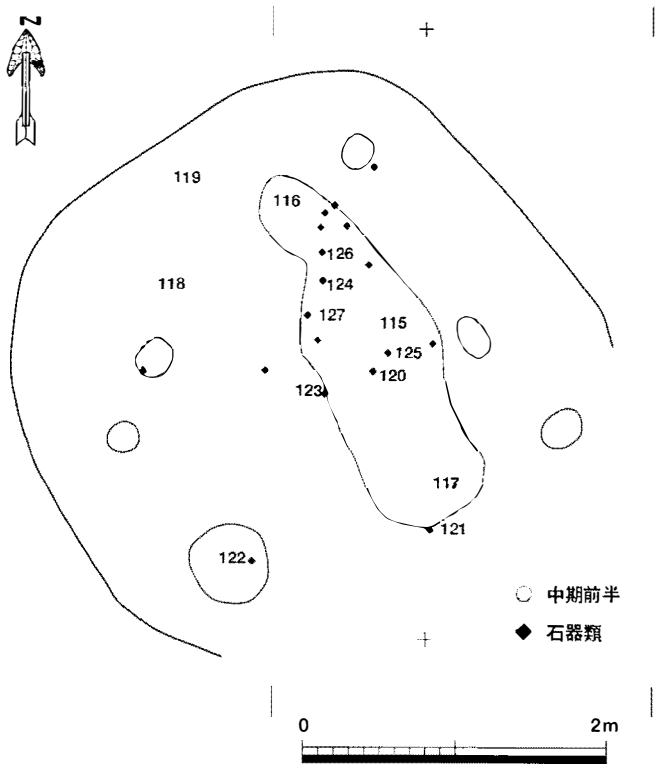


図48　SB５遺物出土分布

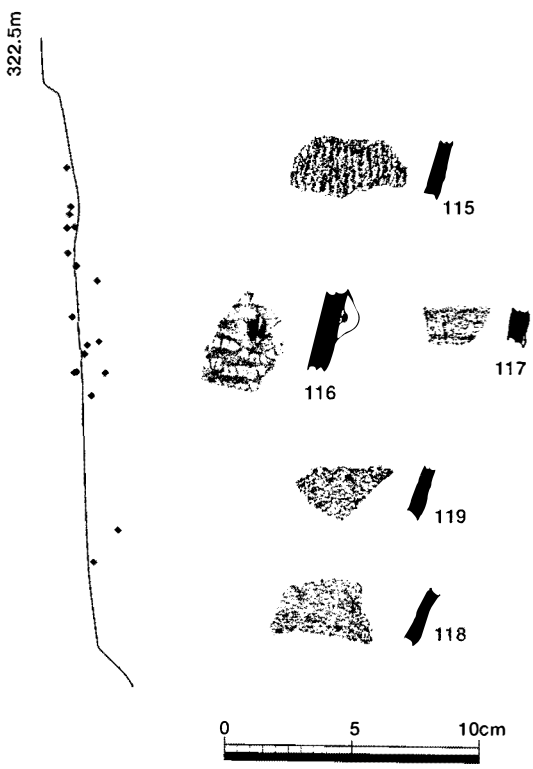


図49　SB５出土土器

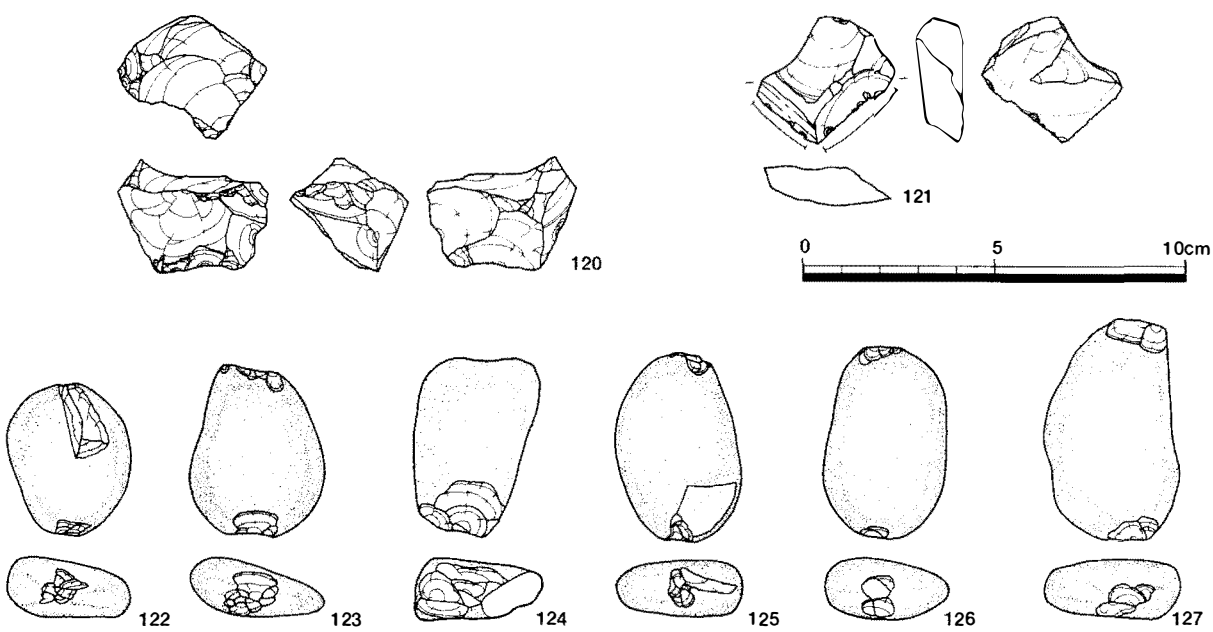


図50　SB５出土石器

表17　SB５床面検出SP一覧

遺構No.	地区	種類	平面形	規模（m）					断面形		遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ					
				長軸	短軸	長軸	短軸						
SP75	ＩU11	主柱穴？	円形	0.22	0.2	0.12	0.12	0.104	A2a1	1層　A	なし	中期前葉	
SP76	ＩU11	主柱穴？	円形	0.25	0.22	0.18	0.17	0.085	A2a1	1層　A	なし	中期前葉	
SP77	ＩU11	柱穴？	円形	0.2	0.2	0.15	0.13	0.172	A3a1	1層　A	なし	中期前葉	
SP78	ＩU11	土坑	不整円形	0.54	0.51	0.42	0.36	0.165	B2a1	1層　A	なし	不明	＞SB5
SP79	ＩU12	柱穴？	長楕円形	0.29	0.17	0.18	0.11	0.104	A2a1	1層　A	なし	中期前葉	
SP80	ＩU12	主柱穴？	円形	0.28	0.26	0.16	0.15	0.194	B3a1	1層　A	なし	中期前葉	

床　ほぼ平坦であるが、貼り床や硬化面は確認することができなかった。

主柱穴　床面で６基の小穴を検出した（表17）が、位置関係からSP75、SP76、SP80の３基が主柱穴の可能性がある。段切り造成により削平された部分に、もう１基柱穴があったと想定すると、４本柱の竪穴住居跡となる。SP78は、プランを検出したのが床面検出時であるが、SP78埋土中に含まれていた礫は、SB５検出時には確認できており、SB５よりも新しい時期の遺構と思われる。

炉（図47）　床面で焼土を検出した（SF６）。倒木痕（NW13）により一部壊されているため、全形は不明であるが、残存部分の範囲は0.29m×0.2m、焼土の厚さは0.02mであった。掘り込みは認められなかった。

出土遺物（図49・50）　埋土中から出土した遺物は非常に少なく、倒木痕（NW13）内から出土したものの方が多い。しかし、時期が判明する土器は中期中葉に限られることから、すべてSB５出土遺物として扱った。縄文土器はC1群ｂ類１点、ｃ類２点、d1類５点、d2類２点の計10点、石器類は石核１点、剥片類８点、MF３点、打欠石錘６点の計18点出土した。

115は、RL縄文を施す胴部片であるが、細い節が整った縄文であることからC1群ｂ類とした。縄文の特徴から船元Ｉ式であろう。116・117はC1群ｃ類で、角押文を施すことから、狢沢式に比定できる。胎土が当地域には見られないものであり、搬入品の可能性が高いと思われる。118・119はC1群d1類で、縄文を施文する土器であるが、上半部に縄文は施されず、下半部にのみ縄文を確認することができる。

120は石核で、剥離面を打面としている。121はMFで、両側面に微細な剥離痕が認められる。122～127は打欠石錘で、小さな楕円礫の両端を簡単に調整して、紐掛け部を作り出している。

時期　出土した遺物から、中期前葉と判断した。既存の編年に対比させれば、信州地方の狢沢式、近畿地方の船元Ｉ式に併行する時期と思われる。SB５からは在地系の土器が出土していないが、狢沢式に併行する東海地方の土器型式は、前畑式あるいは山田平Ｉ式とされる。

SB６（図51）

検出状況　Ａ区中央部で検出したが、段切り造成の影響で西側が部分的に残存するだけである。また、この残存部でSB２との切り合い関係を確認した。残存部の形状から、径4.7mほどの円形プランの竪穴住居跡と思われる。

埋土　SB２土層観察畔の延長部で確認しただけであるが、単層であった。

壁　Ｖ層を掘り込んでいるが、最も残りのよいところで0.18m残存していた。掘り込みは明瞭であるが、やや傾斜する。

表18　SB６関連SP一覧

遺構No.	地区	種類	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SP30	ＩS10	主柱穴？	円形	0.19	0.17	0.1	0.09	0.076	A2a1	1層A	なし	不明	SB2床面検出
SP53	ＩS9～ＩS10	主柱穴？	円形	0.25	0.21	0.19	0.16	0.037	B1a1	1層A	なし	不明	SB2床面検出
SP54	ＩS9	穴	楕円形	0.26	0.2	0.16	0.13	0.079	B2a1	1層A	なし	前期後葉	SB6床面検出
SP55	ＩS10	主柱穴？	円形	0.2	0.2	0.08	0.08	0.245	A4a2	1層A	なし	前期後葉	SB6床面検出
SP59	ＩS10	主柱穴？	楕円形	0.31	0.22	0.2	0.16	0.067	B2a1	1層A	なし	前期後葉？	SB2床面検出

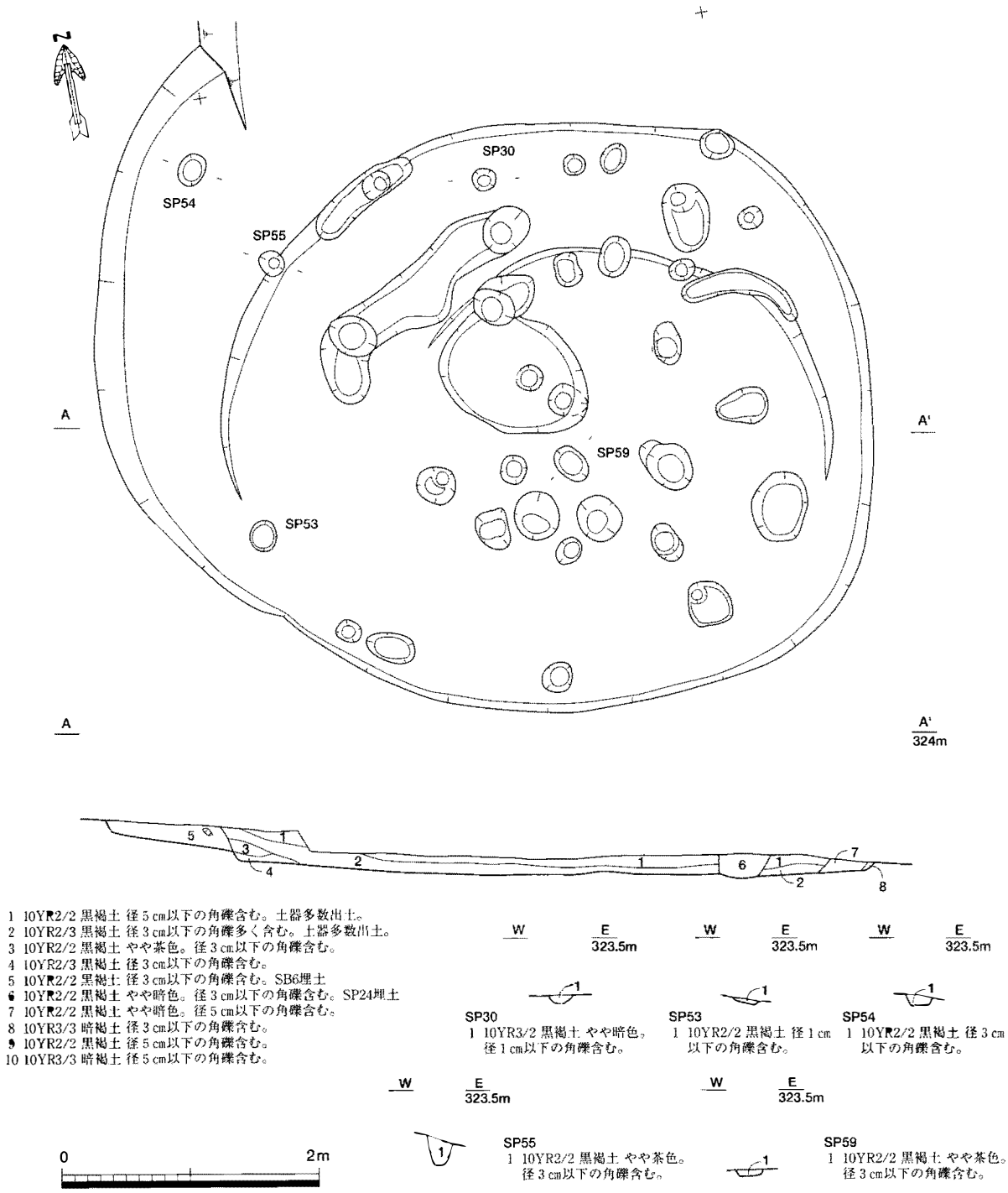


図51　SB６（S=1/50）

床　検出した範囲は非常に狭いが、やや傾斜している。貼り床や硬化面は確認できなかった。

主柱穴　床面で検出した小穴は、SP53～SP55の3基である（表18）が、SP53とSP55の底面レベルと

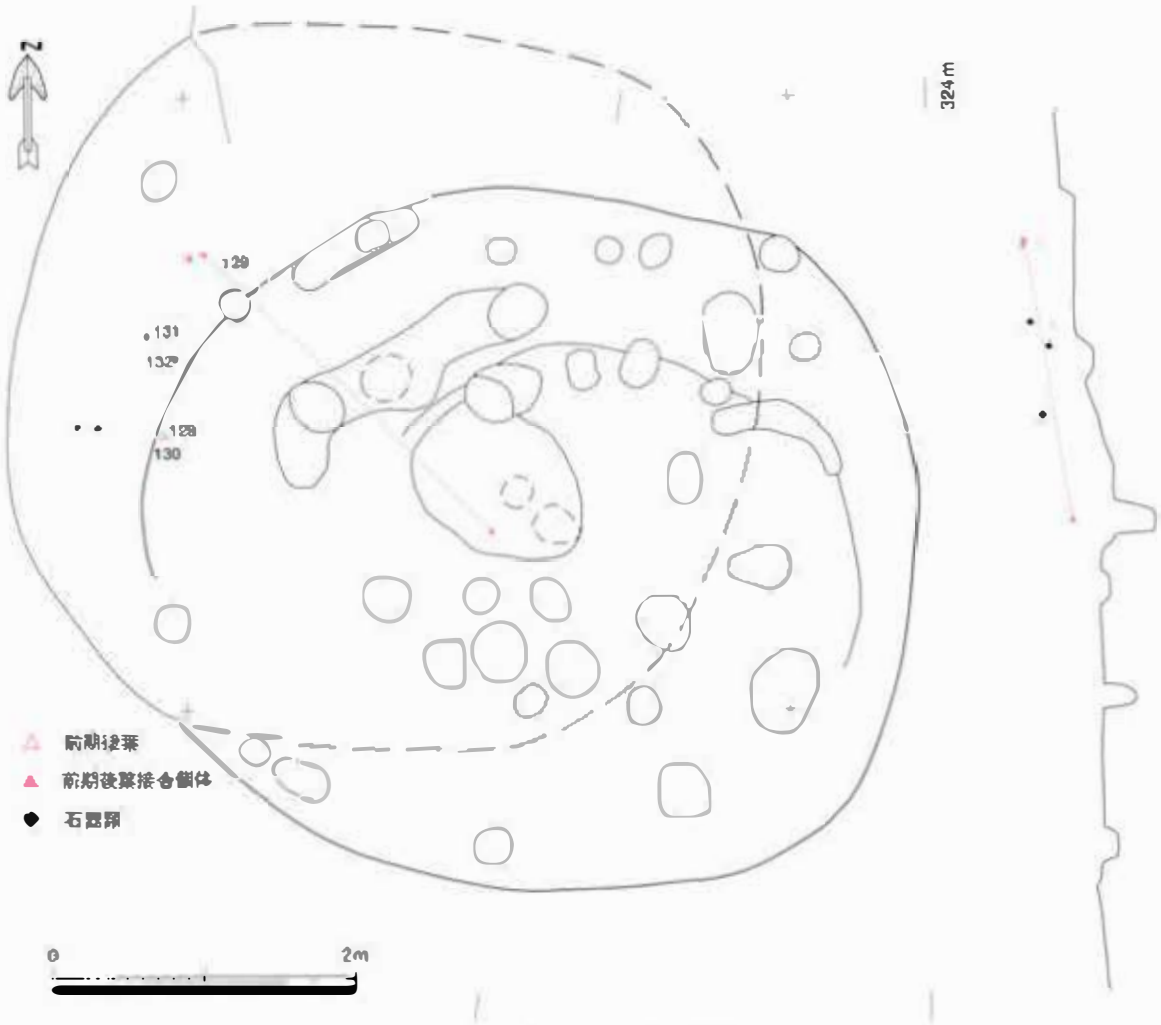


図52　SB6遺物出土分布（S=1/50）

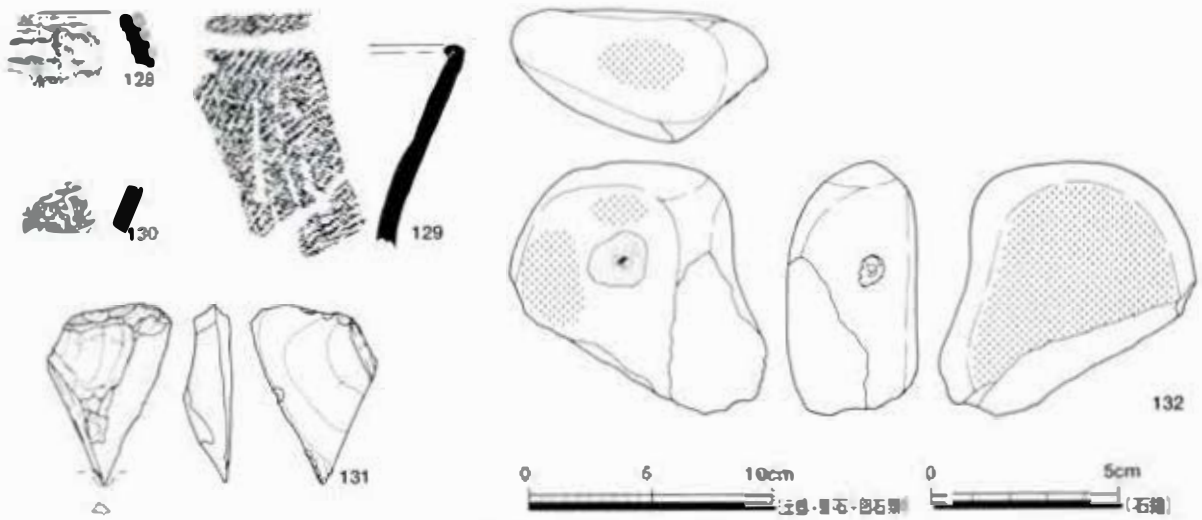


図53　SB6出土遺物

ほぼ一致する小穴に、SB２床面のSP30とSP59があり、この４基の小穴が概ね方形に位置することから、これらを主柱穴と考えたい。

炉　SB２によって削平されており不明である。

出土遺物（図53）　大半が削平を受けているため、出土した遺物は少なく、縄文土器がZ2群b2類１点、f1類３点、胴ａ類２点、胴ｂ類１点の計７点、石器類が石錐・剥片類・RF・磨石・凹石類が各１点の計４点出土した。出土状況（図52）は、埋土中に散在した状態であったが、１点SB２埋土出土土器が接合した。

128はZ2群b2類で、突帯上には部分的に斜めの刻みが施される。129はZ2群f1類で、全面にLR縄文を施す。また、口縁端部を内側に折り返して肥厚させ、口縁端部にもLR縄文を施す。130はZ2群胴ａ類で、LR縄文を施す。

131は石錐１類で、剥片の先端部に簡単な調整を加えて錐部としている。132は磨石・凹石類2a類で、平坦面の凹みは研磨状のものである。

時期　出土した遺物から、前期後葉と判断した。既存の編年に対比させれば、近畿地方の北白川下層Ⅱｃ式に併行する時期のものと思われる。

SB７（図54）

検出状況　Ａ区中央部のSB２とほぼ重複しており、確認できたのはSB２床面で検出した北壁と思われる部分だけである。SB２床面及び柱穴検出作業時に、一段下がる弧状のプランを確認したが、全く別の住居跡とは想定せず掘り下げてしまった。しかし、この部分から前期後葉の土器が出土したため、SB２とは異なるものと認識した。北壁と思われる残存部から推定すると、径約3.4ｍの円形プランの竪穴住居跡である。

埋土　SB２として床面まで掘削しているため、明確には把握していない。

壁　SB２床面で北壁と思われる、わずかな段を確認しただけである。

床　ほぼ平坦と思われるが、貼り床や硬化面は確認できなかった。

主柱穴　SB２床面で検出した小穴の内、前期の土器が出土したものや、SF５底面で検出したものなどが、SB７に関連するものと思われる。これらの小穴は、SP43、SP45、SP48、SP49、SP56、SP57である（表19）。この中で主柱穴の可能性が高いのは、深さのあるSP43、SP45、SP57であるが、これらの小穴の配置は三角形となる。

表19　SB７関連SP一覧

遺構No.	地区	種類	平面形	規模（m）						埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い
				上面		底面		深さ					
				長軸	短軸	長軸	短軸						
SP43	ＩS10	主柱穴？	楕円形	0.39	0.33	0.22	0.18	0.51	A5a2	1層　A	Z2群土器・剥片類	前期後葉	
SP45	ＩS10	主柱穴？	不整長楕円形	0.25	0.32	0.22	0.14	0.357	B4a2	1層　A	Z2群土器・剥片類	前期後葉	
SP48	ＩS10～ＩT10	穴	円形	0.21	0.25	0.16	0.15	0.192	A3a2	1層　A	なし	前期後葉？	
SP49	ＩT10	穴	不整円形	0.35	0.34	0.29	0.28	0.088	B1b1	1層　A	Z2群土器	前期後葉	
SP56	ＩS10	穴	円形	0.21	0.2	0.14	0.13	0.229	B4a2	1層　A	なし	前期後葉	SK223底面検出
SP57	ＩS10	主柱穴？	円形	0.25	0.28	0.14	0.12	0.376	B4a2	1層　A	なし	前期後葉	SK223底面検出

炉　確認できなかった。

出土遺物（図56）　SB２でも述べたように、当初すべてSB２として取り上げていたため、出土位置（図55）と土器の時期判定によって分離した。しかし、石器に関しては出土位置では分離できなかった。なお、包含層から出土した土器の中で、SB７出土土器と接合したものはないが、同一個体片と思われるものは、SB２構築の際に移動した可能性が高いと思われるため、SB７出土土器として扱っ

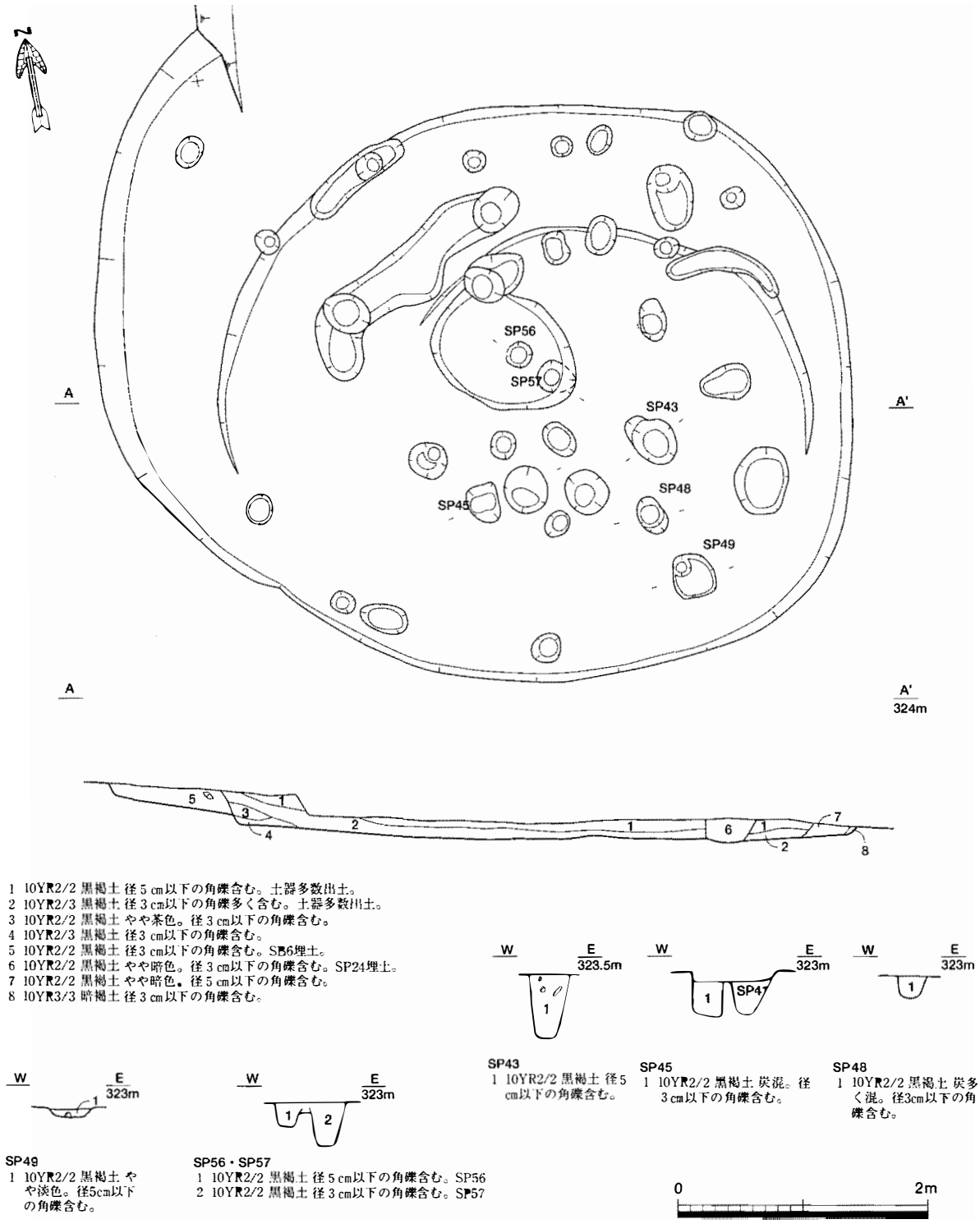


図54　SB７（S=1/50）

た。この同一個体片と思われる土器の出土位置からは、竪穴掘削時に生じた排土を竪穴の周囲に撒いていることが想定される。縄文土器はZ2群b3類18点、d1類13点、f2類3点、g1類3点、胴a類2点、胴b類1点、底a類7点の計37点が出土した。ほかにSP43からZ2群d1類1点、剥片類11点、SP45からZ2群胴a類1点、剥片類1点、SP49からZ2群e2類1点、胴a類1点が出土した。

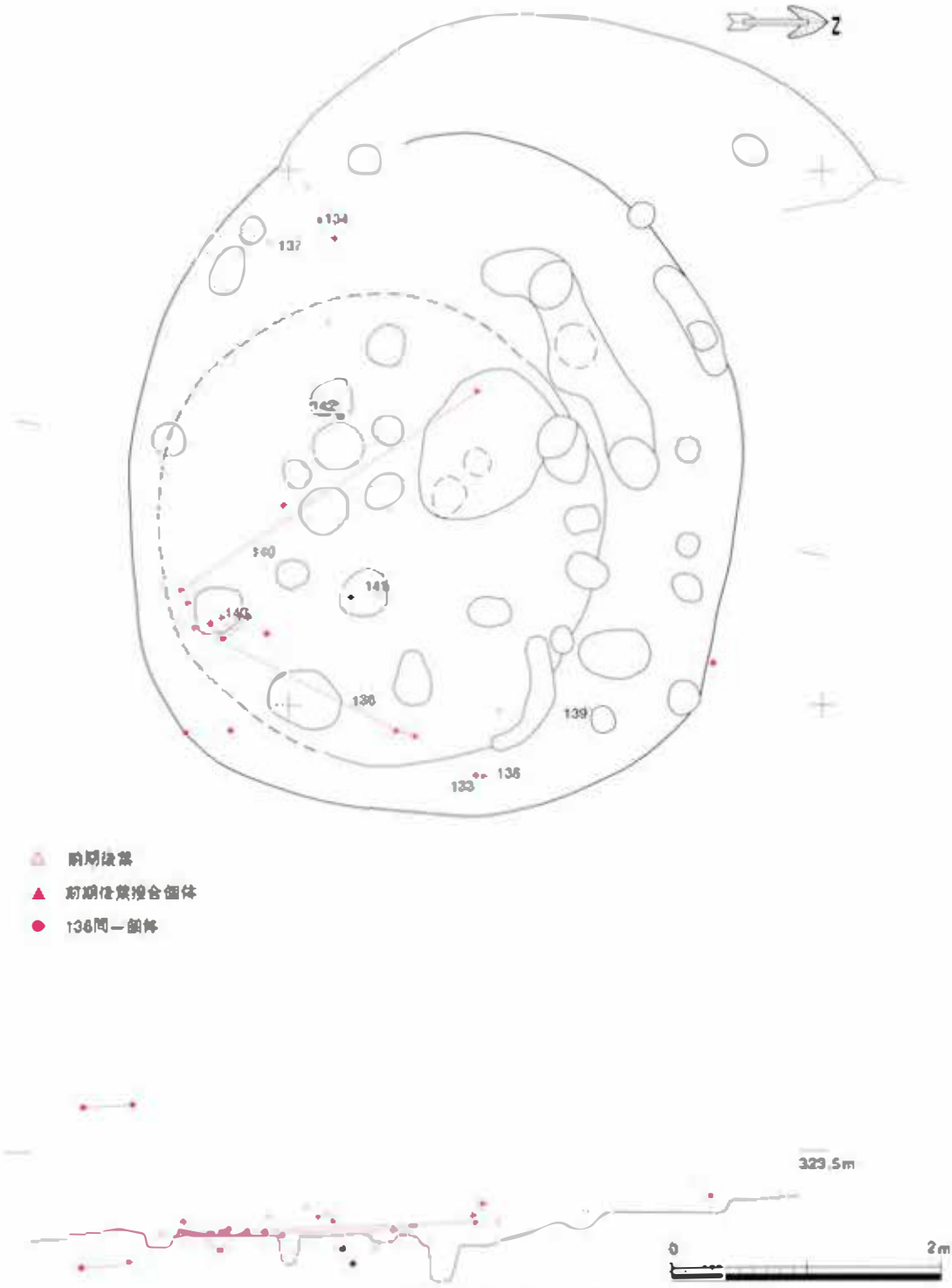


図55　SB7遺物出土分布（S=1/50）

133～136はZ2群b3類で、胎土や焼成から同一個体と思われる。ほかにも縄文を施すだけの胴部片であっても、133と同一個体と思われるものはc2類に含めた。また、ⅠS10区及びⅠT11区包含層から出土した土器も、133と同一個体と思われる。突帯上に突帯幅より狭い半截竹管で、やや斜めに刺突を施すもので、地文の縄文はRLとLRを横方向に施文し、羽状縄文としている。137はZ2群d1類で、口径10.5cmの小型の土器である。地文にLR縄文を施した後、口縁部に1条の突帯を巡らせ、突帯上にもLR縄文を施す。138はZ2群g1類で、半截竹管状工具により条線状の沈線を格子目状に施す。同一個体片と思われるものが、ⅠT10区包含層から出土している（図55）。落合五郎遺跡で類似した土器が出土しており、諸磯c式に比定されている（河野ほか1988）。139はZ2群胴a類で、LR縄文を施す。140はZ2群底a類で、凹み底となり胴部は無文である。141は、SP43から出土したZ2群d1類で、口縁部は内折し、屈曲部の上下に5条の突帯を巡らす。地文にLR縄文を施した後、突帯を貼り付け、さらに突帯上に縄文を施文している。この施文順序は、突帯貼り付けにより地文が撫で消されていることからわかる（写真5）。当遺跡におけるZ2群d1類土器ではの施文順序は、確認できた範囲ではこの順序のものばかりであった。142はSP45から出土したZ2群胴a類で、RL縄文を施す。143は、SP49から出土したZ2群胴a類で、LR縄文を施す。

写真6　141突帯部拡大

時期　出土した遺物から、前期後葉と判断した。既存の編年に対比させれば、内容に相違する部分があるものの、東海地方の大麦田Ⅱ式～大麦田Ⅲ式頃、近畿地方の北白川下層Ⅱc式に併行する時期と思われる。

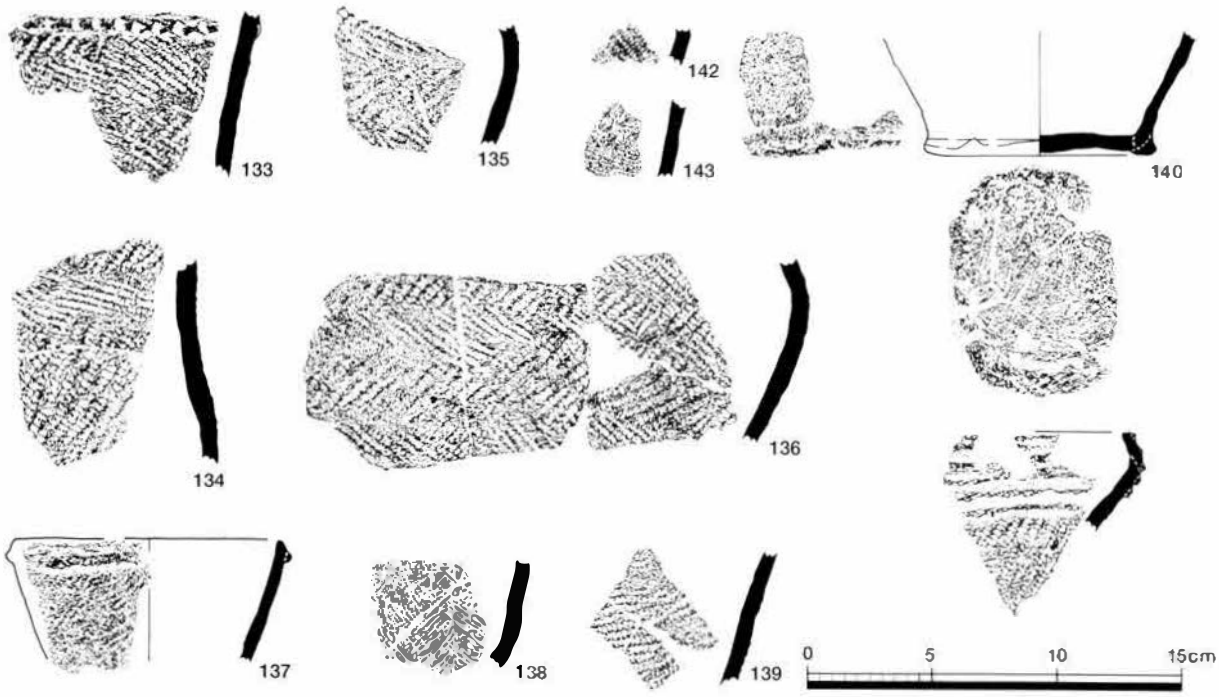


図56　SB7出土土器

(2) 土坑

A区で481基、B区で157基（古代以降の土坑を除く）の土坑を検出した。多くの土坑は、長軸長が0.5mに満たない小土坑で、深さも0.2m以下のものが多い。また、遺物を伴う土坑は非常に少なく、時期不明としたものが大半を占める。しかし、出土遺物の多くが縄文時代のものであることから、時期不明の土坑は縄文時代のものとして一括した。形態や遺物出土状況から、土坑の性格が推定できたものは少ないが、調理施設と思われる焼礫集積土坑や墓坑、貯蔵穴があり、竪穴状の大型土坑も含めて、これらについては個別に説明する。その他の土坑は、実測図（図76・78～103）と一覧表（表24～38）の掲載にとどめた。

焼礫集積土坑（表20）

A区において2基検出した。いずれも早期末と思われるが、SK115は、ほぼ同時期のSB3に隣接しており、両者が同時に存在していたとは考えにくい。SK442は、単独で存在している。

SK115（図57）

検出状況　A区東部で検出した、方形プランの焼礫集積土坑である。SB3の西側数十cmのところに位置し、倒木痕（NW28）によって半分以上を攪乱されている。当初は、この倒木痕を認識できておらず、掘削終了後のSK154調査時に倒木痕の存在を把握し、SK115がこの影響を受けていることが判明した。したがって、平面図において東半分が長楕円形に0.5mほど落ち込み、南東へ張り出した形態になっているのは、倒木痕の影響によるものである。また、土層断面においても、この部分に礫が落ち込んでいることが確認できる。このため、本来のこの土坑の深さは、西半分の0.07mほどしかなかったものと思われる。

土坑内部からは、焼礫や炭化物が出土するものの、焼土面は確認できず、内部で直接火を用いたものではないと思われる。被熱した礫は、外部で焼かれて浅い穴に入れられたものと考えられる。

埋土　3層に分層したが、このうち2層と3層は倒木痕によるものであることから、1層だけがこの土坑の埋土となる。しかし、礫や炭化物は2層から出土しているものが多い。埋土中から出土した礫は202個あり、このうち被熱した痕跡（肉眼観察による変色・ひび割れ）をとどめるものは、148個と73%を越えている。また、角礫が172個と大半を占め、ほかは亜円礫6個、円礫23個、石器（磨石・凹石類）1個であった。埋土が攪乱を受けているものの、埋土上部に大きな礫が多い傾向がある。

出土遺物（図58）　出土した遺物は少なく、縄文土器はS3群a類とb類が各1点、石器類は石錐や剥片類、磨石・凹石類が各1点ずつ出土した。

144はS3群b類で、胎土に繊維を含み、外面にLR縄文を施す。145は石錐4類で、錐部を欠損する。

表20　焼礫集積土坑一覧

遺構No.	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位	埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK115	ⅠR13・ⅠS13～ⅠS14	Ⅴ層上	不定形	1.57	(1.1)	1.48	(1.07)	0.069	B1a1	北北西 N21° W	1層A	S3群土器、石錐ほか	早期末	>SK120 <NW28
SK442	ⅠU9	Ⅴ層上	不整長楕円形	1.1	1.08	0.69	0.35	0.19	A1a1	北北東 N15° E	1層A	炭化物	早～前期	

146は磨石・凹石類1b類で、平坦面と側面に磨面を持ち、長軸の一端には敲打によると思われる剥離痕がある。表面には被熱による変色が認められる。

時期　倒木痕（NW28）により、埋土中から出土した遺物は、混入したものである可能性が考えられるが、S3群土器の出土からは早期末と思われる。しかし、東側に隣接するSB 3も早期末の遺構であり、同時に存在していたとは考えにくい距離に位置することから、SB 3とは若干前後する時期の遺構と考えられる。

SK442（図59）

検出状況　A区中央部のやや南で検出した、不整長楕円形プランの焼礫集積土坑である。周囲には多くの土坑を検出しているが、SK442と関連するものはないと思われる。断面形は浅いすり鉢型で、壁面はなだらかに傾斜している。

焼礫は、埋土上部にのみ認められ、下部にはほとんどなかった。埋土中から炭化物が少量出土したが、焼土面は確認できなかったことから、内部で直接火を用いたものではなく、外部で焼かれた礫を入れたものと考えられる。

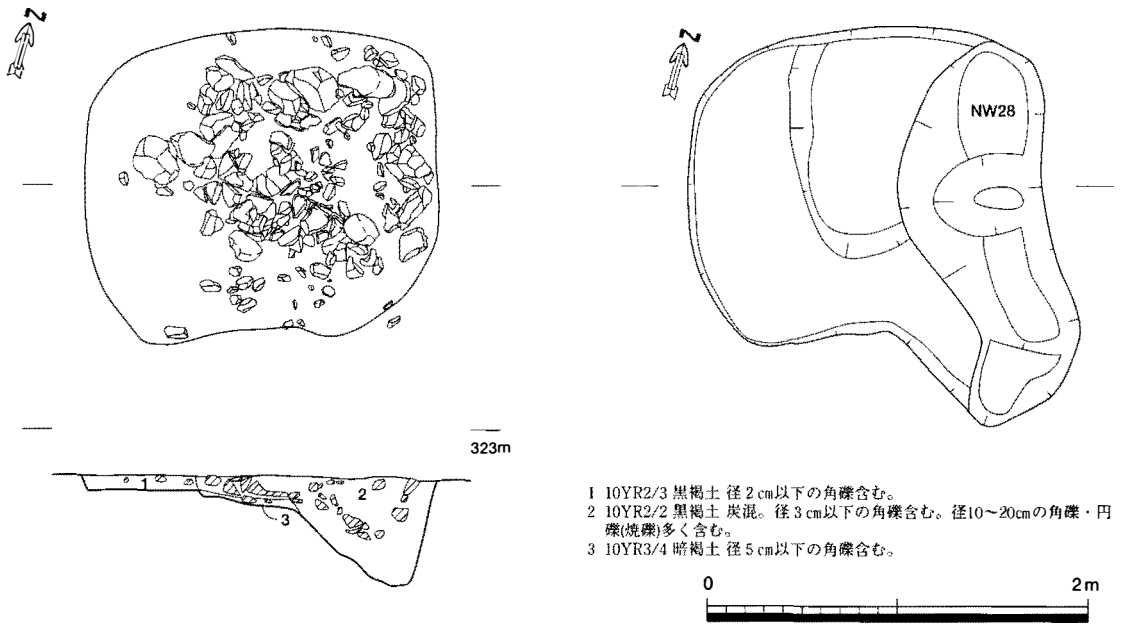


図57　SK115（S=1/40）

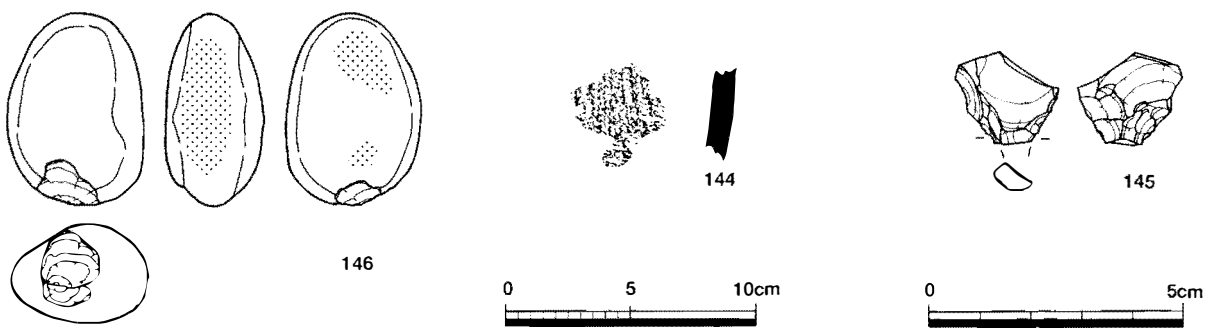


図58　SK115出土遺物

埋土　分層できなかったが、焼礫は埋土上部に面的に広がり、埋土下部には焼礫はほとんど含まれていない。埋土上部から出土した礫は105個あり、このうち98%以上の103個に、被熱した痕跡を確認した。また、角礫が86個と大半を占め、円礫が19個であった。

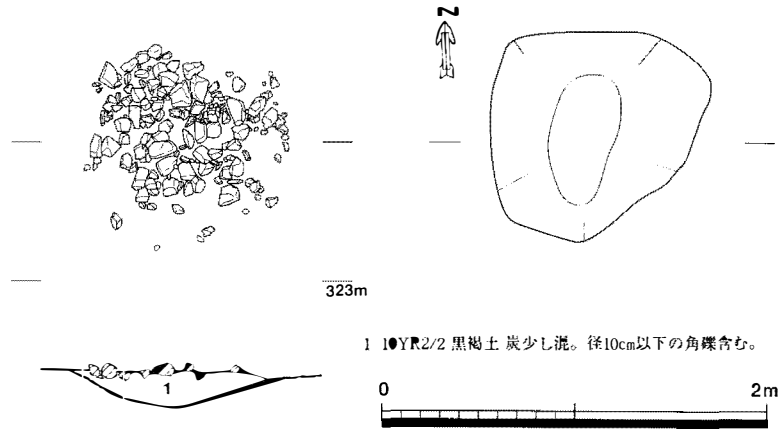


図59　SK442（S=1/40）

出土遺物　内部から遺物は出土したかった。

時期　伴出遺物がないことから、時期の判断は困難であるが、SK115との類似性や土坑の規模（長軸長や深さ）からは、早期から前期初頭のものである可能性が高いと思われる（春日井2001）。

墓坑（表21）

A区において6基検出した。土器が伴っている4基については、前期後葉のものであるが、土器が伴わないものは時期不明である。時期不明の墓坑2基はA区の北部、前期後葉の墓坑のうちSK380を除いた3基は、SB3の南西に位置する。

SK6（図60）

検出状況　A区北端で検出し、1/2程度が調査区外となるが、長楕円形プランと思われる墓坑である。埋土の上部で25cm×20cmほどの角礫が1個出土し、埋土中からは磨石・凹石類が1点出土した。底面が比較的平坦となり、壁面は傾斜している。長軸方向の一端に、人頭大の礫が埋土上部から出土したことや土坑の形態から墓坑の可能性が高いものと思われる。出土した遺物も、副葬品として埋葬されたものと考えることもできる。

埋土　2層に分層したが、水平な堆積であり、人為的な埋め戻しと断定できる状況ではないが、玦状耳飾りが出土したSK145でも同様の堆積状況である。

出土遺物（図61）　埋土中から磨石・凹石類1a類が1点出土した（147）が、骨片は確認できなかっ

表21　墓坑一覧

遺構No.	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位	埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK6	I J8～I K9	Ⅳ層中	長楕円形	(1.35)	1.0	(1.28)	0.835	0.26	B1a1	北北西 N29° W	2層 B	磨石・凹石類	縄文	一部調査区外
SK56	I M11	Ⅴ層上	長楕円形	0.87	0.36	0.67	0.25	0.129	B2a1	北北西 N18° W	2層 F	なし	中期？	立石を伴う
SK145	I S13～I S14	Ⅴ層上	長楕円形	1.98	0.69	1.72	0.5	0.34	B2a1	北東 N43° E	2層 B	Z2群土器、玦状耳飾り・剥片類	前期後葉	＞NW12
SK148	I T14	Ⅴ層上	楕円形	0.84	0.75	0.7	0.52	0.535	B3a2	北北東 N25° E	1層 A	Z2群土器、RF・UF	前期後葉	＜NW8
SK154	I R14～I S14	Ⅴ層上	長楕円形	2.08	0.8	1.68	0.45	0.409	B2a1	北北西 N21° W	1層 A	Z2群土器、剥片類	前期後葉	＞SB3 ＜NW28
SK380	I U6～I U7	Ⅴ層上	不整長楕円形	1.46	1	1.15	0.64	0.19	B1a1	北 N6° W	1層 A	Z2群土器、石製品	前期後葉	埋土上部に焼礫

た。円礫の平坦な面には非常に明瞭な磨痕があり（写真６）、側面には平坦な面が形成されている（写真７）。

時期　土器が出土していないため不明である。

SK56（図60）

検出状況　Ａ区北部の土坑がやや密集した場所で検出した、長楕円形プランの墓坑である。円礫が立った状態で出土したことから、墓坑の可能性が高いものと判断した。しかし、ほかの墓坑と比較して規模は小さく、遺物も伴わないことから、墓坑ではなく何らかの標識的な機能を持ったものとも思われる。この場合、周囲にある長楕円形の土坑に、墓坑としての機能を想定できると思われるが、周囲の土坑は墓坑とする根拠に乏しい。

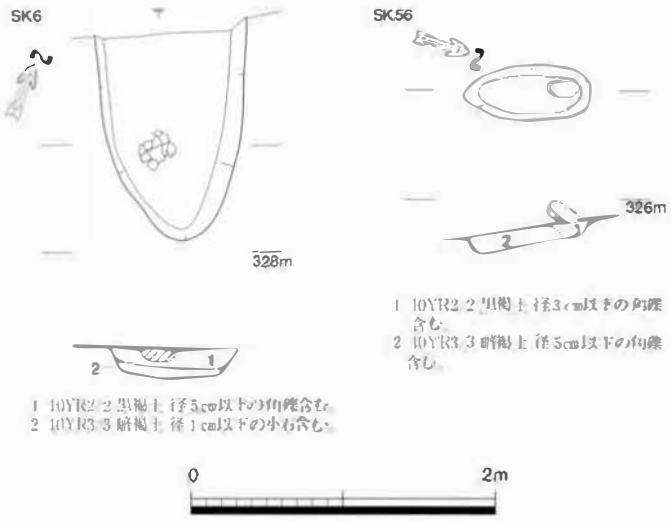


図60　SK６・SK56（S=1/50）

埋土　２層に分層したが、立石状の円礫がある部分は、円礫を置くために新たに掘り下げたようになっている。

出土遺物　内部から遺物、骨片とも出土しなかった。

時期　土器が出土していないため不明であるが、美濃地方では立石を伴う土坑は中期以降に多くなることから、この墓坑も中期以降の可能性があると思われる。また、Ａ区では後期の土器は極少量出土しただけであり、晩期の土器は出土していないことから、中期である可能性が高いと思われる。

SK145（図62）

検出状況　Ａ区東部で検出した、長楕円形の墓坑である。南西部では倒木痕（NW12）と重複しているが、倒木痕よりも切り合い関係は新しい。長軸方向はほぼ北東を向き、北東部の埋土下半部で玦状

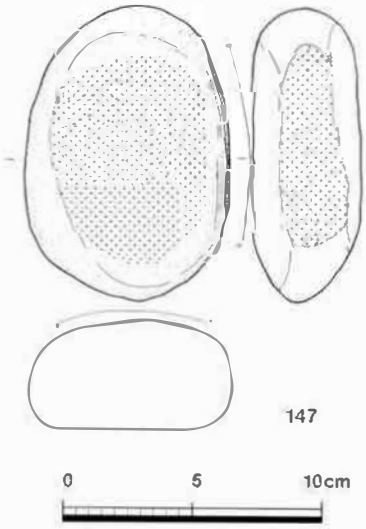


図61　SK６出土遺物

写真７　147平坦面

写真８　147側面

耳飾りや土器片がまとまって出土したことから、墓坑と判断した。玦状耳飾りの出土位置から、北東が頭位方向と思われるが、この位置では同一個体と思われる土器片が、散布されたような状態で出土した（図62）。こうした墓坑の前期後葉の類例としては、近接する上原遺跡第1地点（堀田ほか2000）や御堂遺跡（内堀ほか1995）がある。

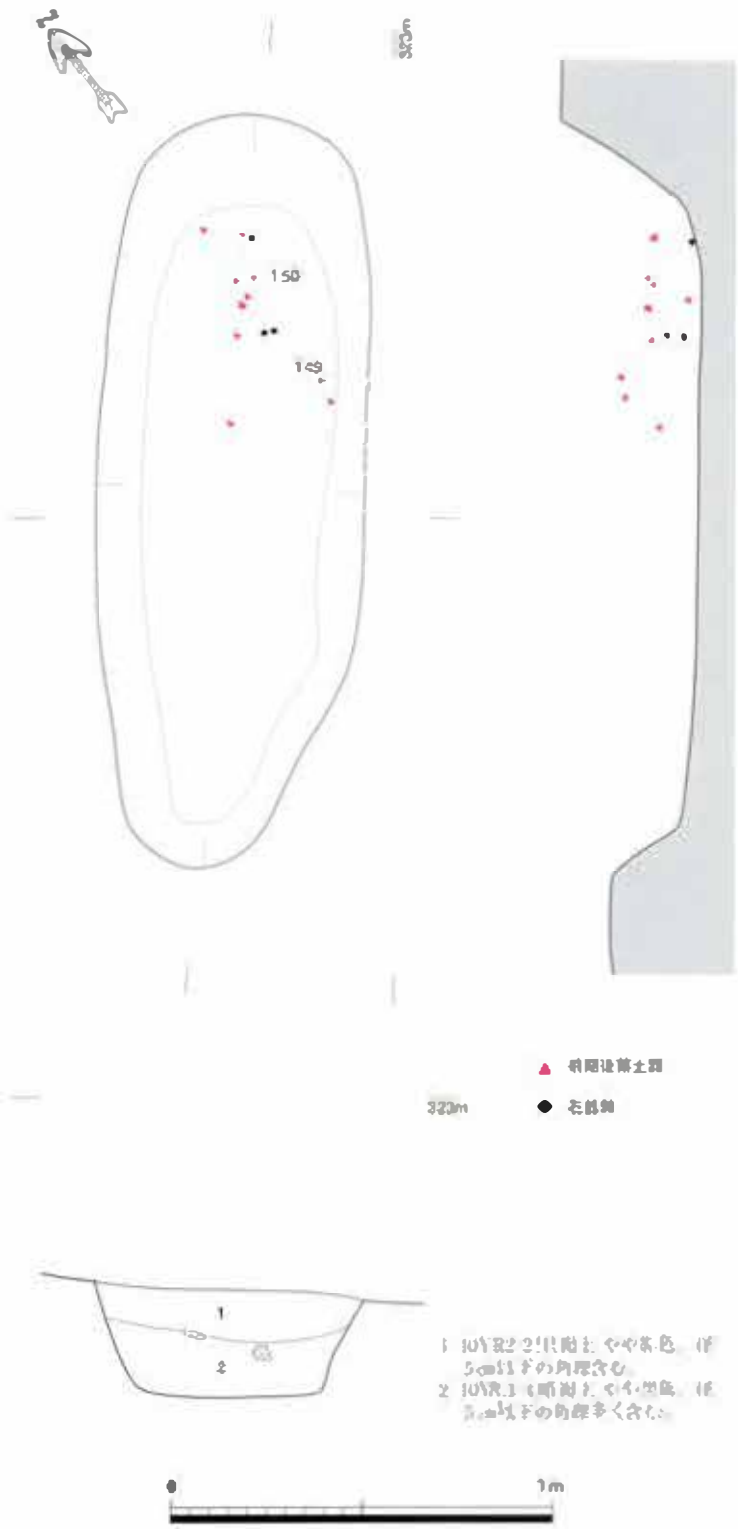


図62　SK145（S=1/20）

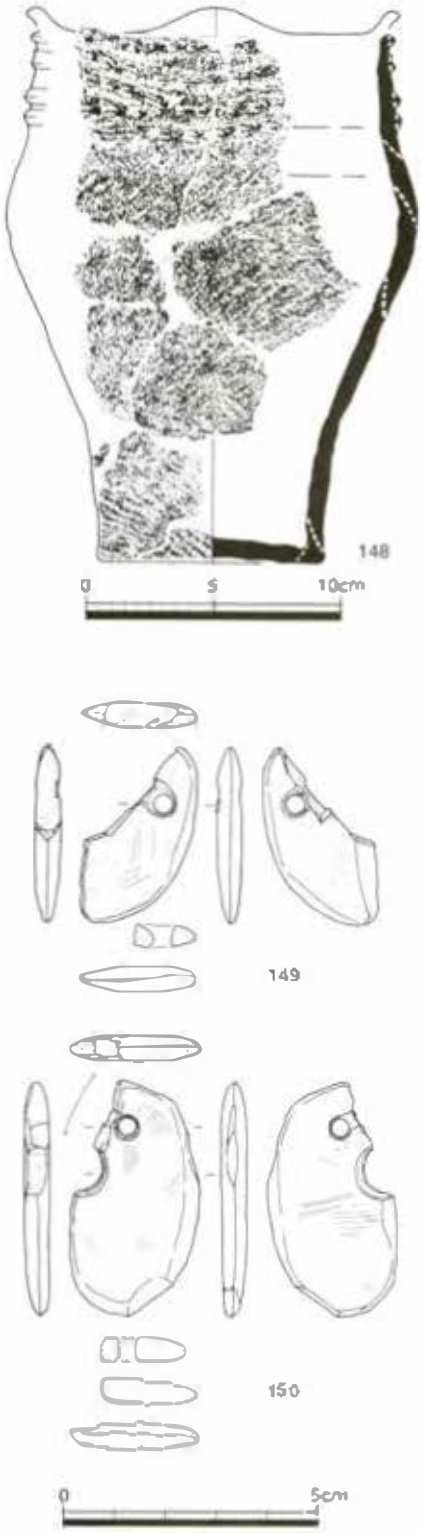


図63　SK145出土遺物

埋土　2層に分層したが、水平に堆積している。V層を掘り込んで墓坑を作っているが、埋土にはV層のブロックは混入していなかった。

出土遺物（図63）　縄文土器はZ2群b3類が12点出土したが、すべて同一個体である。石器類は玦状耳飾り2点のほか、剥片類が1点出土した。

写真9　150孔部拡大

148は、破片をすべて接合することはできなかったが、口縁部から底部までが接合し、器形を復原することができた。底部はやや凹み底となり、胴部はややふくらみを持つ。口縁部は直立して、緩い波状口縁となるが、波頂部のみやや外反する。地文にLR縄文を施すが、さらに撫で調整を行っており、部分的に縄文は消されている。口縁部に沿って2条、その下に水平に2条の計4条の突帯を貼り付けるが、波頂部下にできた三角形の空間を埋めるように、さらに1条の突帯を貼り付けている。突帯上は突帯幅より狭い半截竹管で、やや斜めに刺突を施す。149・150は玦状耳飾りで、いずれも1/2以上を欠損しており、補修孔が開けられている。復原するとほぼ円形で、孔部が中央に位置する形態となり、堀江氏分類（堀江1992）のC類に該当するものと思われる。孔部の穿孔は、表裏両面から行われており、錐状工具の回転運動による円周に沿った細かい擦痕と、それに直交するやや深い擦痕が確認できる（写真8）。表裏面の研磨は不定方向に擦痕が観察できることから、形状に合わせて研磨の方向を変えていると思われる。補修孔の穿孔も表裏両面から行われており、錐状工具の回転運動による円周に沿った細かい擦痕が確認できる。しかし、欠損部の断面は摩滅著しくは研磨されており、垂飾として転用されている可能性がある。

時期　出土した土器から、前期後葉と判断した。既存の編年では、近畿地方の北白川下層Ⅱc式に併行し、東海地方西部の大麦田Ⅱ式～大麦田Ⅲ式頃であろうか。

SK148（図64）

検出状況　A区東部で検出した、楕円形プランの墓坑である。倒木痕（NW8）により、東部の壁面が一部崩れているが、内部までその影響は及んでいない。底面の形状は楕円形であるが、上端では円形に近い形状になると思われる。埋土下部の坑内北側に、棒状の円礫と、2枚の大型土器片が重なった状態で出土した（図64）ことから墓坑と判断した。しかし、ほかの墓坑と比較して、形状が円形に近いことや、長軸長が短いことから、この時期に一般的な墓坑の規模・形状とは異なっている。しかし、子供の埋葬例を集成・分析した山田氏によれば、屈葬例の土坑長軸長（底面）は、乳児期が0.4m～1.0m、幼児期が0.5m～1.0m、小児期が0.7m～1.1mに分布のピークがあるとされていることから（山田1997）、乳幼児や小児の墓坑である可能性が高いものと思われる。底面の長軸長が1m以下の墓坑は、御望遺跡においても検出されている（内堀1995）。

埋土　分層することはできず、単層であった。

出土遺物（図65）　縄文土器はZ2群c類が18点、胴b類が1点、石器類はRFとMFが各1点出土した。土器とともに出土した棒状の円礫には、使用痕は確認できなかった。大型土器片はすべてZ2群c類の同一個体（151）で、上下に重ねられていたが、上の破片は内面を上にし、下の破片は外面を上

にしていた。胴b類としたものは別個体と思われる。151は、口縁部から胴部まで接合したが、底部片はなく、一部接合できないものもあった。胴部が張り、頸部で一旦搦れた後、口縁部は直線的に開く器形で、平縁である。地文にRL縄文とLR縄文を施すが、羽状となるのは頸部及び胴部の一部で、胴部ではRL縄文の施文範囲の方が広い。また、RL縄文を施す部分には、結節縄文と思われる連続する弧状の縄目がある（写真9）。結節縄文であればZ字状である。地文の縄文は、口縁部外面の上部3cmほどには認められず、撫で消されたものと思われる。口縁部から頸部にかけて突帯を貼り付けるが、突帯上には半截竹管による押し引きがある（写真10）。文様は、頸部に2条の突帯を巡らせ、口縁部には3条の直線的な突帯と、その間に2条の連弧状の突帯を施す。

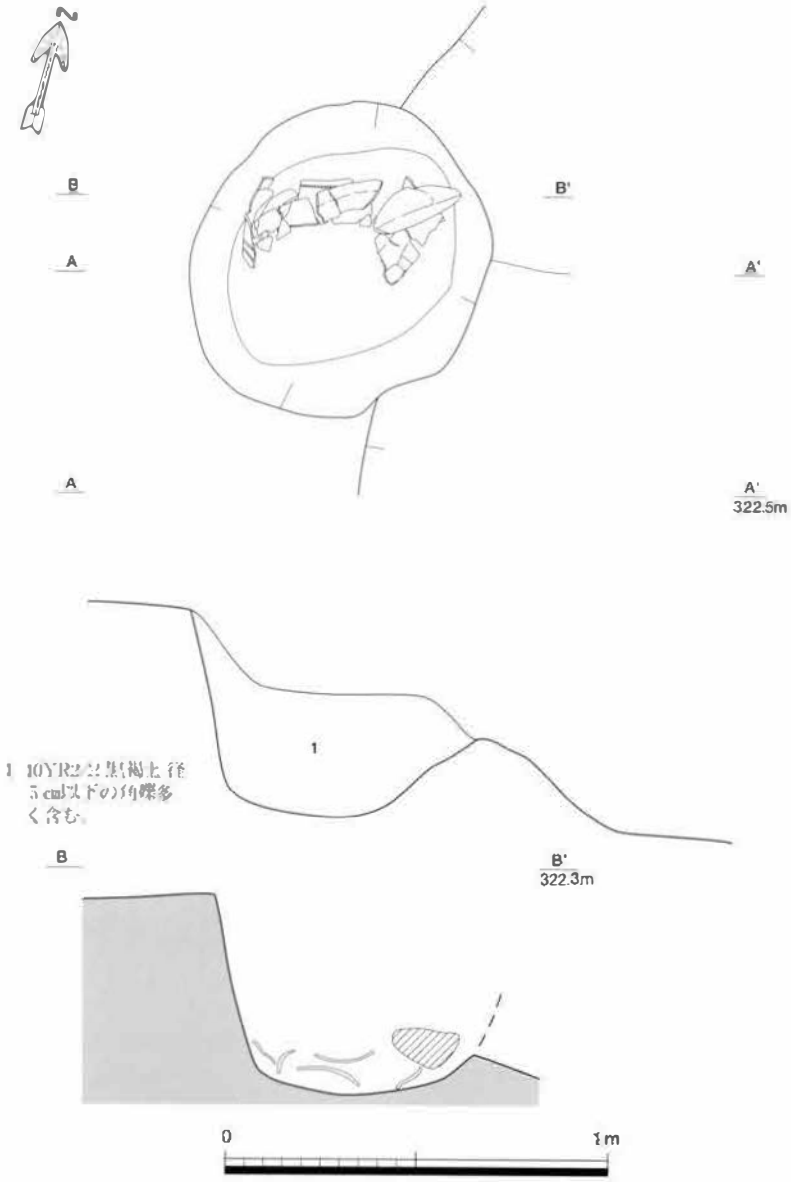


図64　SK148（S=1/20）

写真10　151結節縄文

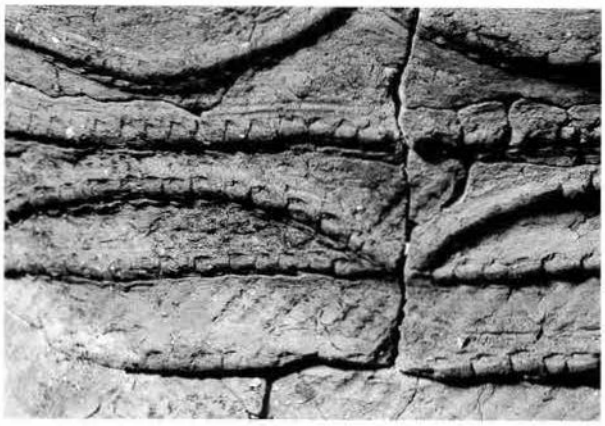


写真11　151突帯

連弧状の突帯は、1条の突帯を挟んで弧が向き合う形となる。内面には指頭圧痕が明瞭に残る（写真11）。

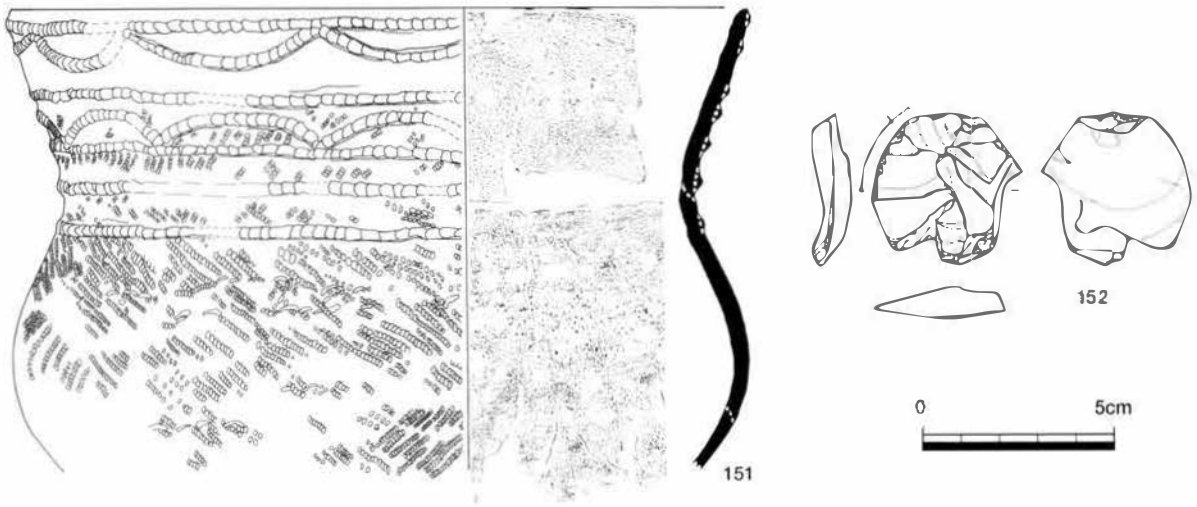
152はNIFで、側辺の背面側に微細な剥離痕がある。

時期　出土した土器から、前期後葉と判断した。既存の土器編年に対比させれば、近畿地方の北白川下層Ⅲ式に併行すると思われる。

SK154（図66）

検出状況　A区東部のSK145の北東側で検出した、長楕円形プランの墓坑である。中央から北側部分を倒木痕（NW28）により攪乱されているが、南側部分や底

写真12　151内面



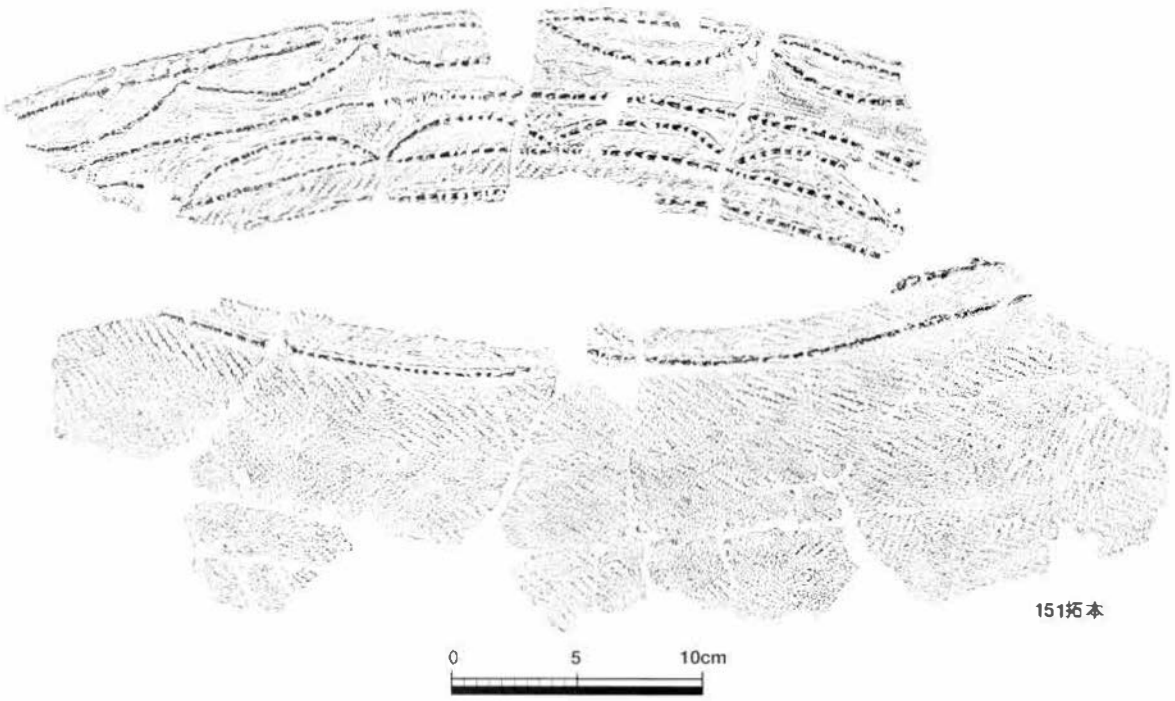


図65　SK148出土遺物

面は影響が少ない。当初は、倒木痕の存在を認識しておらず、図66のように平面プランを確認し掘り下げているが、土層断面図の1層・2層が倒木痕により攪乱されており、東西両壁面は倒木痕の影響を受けて崩れていると思われる。図示した平面形は本来の形状を示していない。南半部で土器片がまとまって出土したことから、落坑と判断した。SK145では、遺物がまとまって出土した位置が頭位方向を示しており、それに倣えば南が頭位方向となる。北端では頭骨が出土したが、倒木痕に影響を受けた部分であるため、落坑とは無関係と思われる。長軸方向は北北西を向いているが、SK145とは

図66　SK154（S=1/20）

L字形に近い位置関係となり、さらに類似した平面形のSK116やSK119が、南側に隣接している。SK145とSK154の頭位方向は、これらの土坑が接する位置に向いていることになる。SK116やSK119は、SK116から石鏃が出土しただけで時期が不明であり、墓坑と判断する根拠に乏しいため、その他の土坑としたものである。しかし、類似した平面形の土坑が4基隣接していることから、SK116やSK119についても何らかの関係があるかもしれない。

埋土　4層に分層したが、1層と2層は倒木痕によるもので、3層と4層が墓坑の埋土である。ほぼ水平に堆積しているが、3層はV層によく似たもので、墓坑掘削で生じた排土を埋め戻しに使用したものと思われる。

出土遺物（図67）　縄文土器はZ2群d類が29点、胴a類が23点、底c類が14点、C1群b類が1点出土したが、Z2群d類はすべて同一個体と思われる。また、Z2群胴a類と底c類も同一個体と思われることから、Z2群土器は2個体となる。石器類は、剥片類が1点出土した。Z2群土器は、倒木痕の影響により墓坑外からも同一個体片が出土しており、これもSK154出土遺物として扱った。また、C1群土器は、北端で出土した亜円礫と同様に倒木痕の影響を受けた部分からの出土であり、混入したも

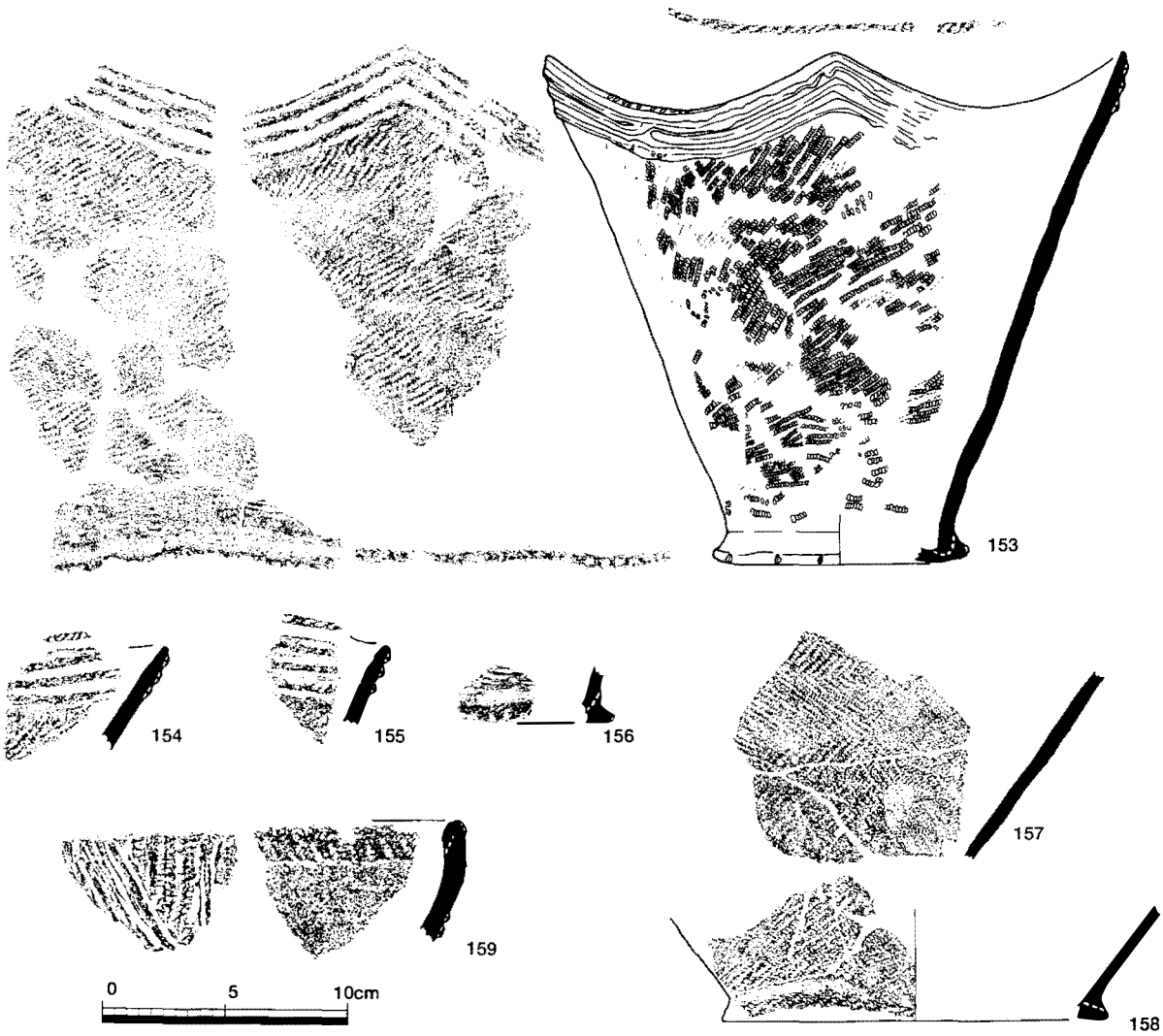


図67　SK154出土遺物

のと判断した。

153はZ2群ｄ類で、４単位の波状口縁の深鉢である。底部はやや凹み底で、側縁は突出し刻みを施す。胴部から口縁部は、ふくらみを持たず大きく開く。地文にLR縄文を施し、口縁部には３条の突帯を貼り付ける。口縁端部と突帯上にはLR縄文を施すが、突帯上の縄文は部分的で、内面には指頭圧痕が残る。154～156は、接合できなかったが153と同一個体と思われるものである。157は胴ｂ類、158は底ｃ類であるが、焼成や胎土から同一個体と思われる。器面の摩滅が激しいが、157にはわずかに赤色顔料が認められる。平底で側縁が突出し、突出部にはR縄文を施す。体部は直線的で、大きく開く。体部外面には、RL縄文とLR縄文を施し羽状とする。159はC1群ｂ類で、船元Ⅲ式に比定できるものである。地文にRL縄文を施し、内彎する口縁部に低い隆帯を貼り付け、隆帯上を半截竹管でなぞる。口縁端部は内面がやや肥厚し、口縁端部から内面にかけてRL縄文を施す。地文の縄文は、条が深いものと浅いものが繰り返されるようにも見えることから、RRL縄文を軸とし L の縄を２本巻き付けた縄巻縄文の可能性もある。

時期　出土した土器から、前期後葉と判断した。既存の土器編年に対比させれば、東海地方の大麦田Ⅱ式～大麦田Ⅲ式頃に相当し、近畿地方の北白川下層Ⅱｃ式に併行すると思われる。

SK380（図68）

検出状況　A区西部で検出した、不整長楕円形の墓坑である。北半部の埋土上部には、被熱した亜円礫・円礫がまとまって出土し、その下から土器と石製品が出土したことから、墓坑と判断した。壁面は傾斜し、底面は概ね平坦である。SK145やSK151と比較して、長軸長が短く、幅が広い形態である。頭位方向は、遺物や焼礫の出土位置から北と思われる。周囲に墓坑と思われるような土坑はなく、住居跡からもやや離れた場所に位置している。

埋土　単層であった。被熱した礫を埋土上部に含むものの、炭化物は出土していない。

出土遺物（図68）　縄文土器Z2群ｄ類が２点と、用途不明の石製品が１点出土した。Z2群ｄ類土器は、同一個体片であるが接合しなかった。遺物は、墓坑北半部の被熱礫の下、底面近くで出土した。

160はZ2群ｄ類で、口縁部から底部まで接合したが、類例の少ない鉢形の器形である。底部は平底で、側縁が突出し刻みを施す。胴部はふくらみを持ち、口縁部で直立する。口縁端部は、内側に粘土紐を貼り付けて逆L形に屈曲させ、口縁端部に幅のある面を作り出す（写真12）。口縁部から胴部外

写真13　160口縁端部内面

写真14　160突帯

面及び、口縁端部内面と口縁端部はLR縄文を地文とし、その上に細い突帯により文様を施した後、さらに突帯上にLR縄文を施す（写真13）。突帯は、口縁端部の内側に1条、口縁部から胴上半にかけて4条を水平に巡らせ、上から1条目と3条目には半円形の文様を、2条目の突帯には双葉状や紡錘状の文様を付加している。

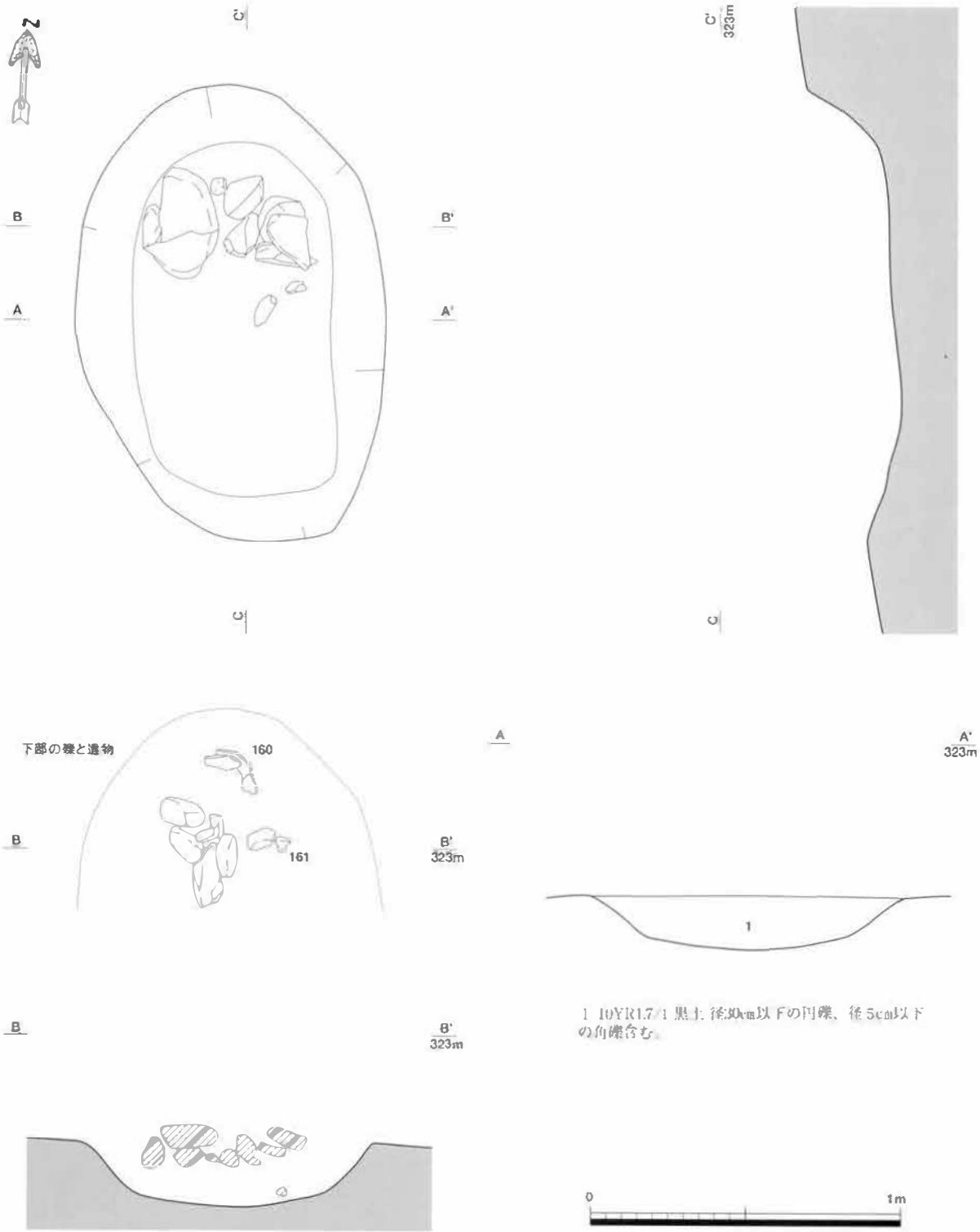


図68　SK380（S=1/20）

161は、石冠のような形をした用途不明の石製品であるが、全体の形態自体は自然に形作られたものである。中央上部の抉れは、石材の軟質部分にあたり、人為的な成形加工の痕跡は確認できないが、下部の突出した先端部部には、研磨によると思われる面が形成されているため、石製品とした。しかし、ほかに類例はなく、実用品とは考えにくい。

時期　出土した土器から、前期後葉と判断した。既存の土器編年に対比させれば、東海地方の大麦田Ⅲ式に相当し、近畿地方の北白川下層Ⅲ式に併行すると思われる。

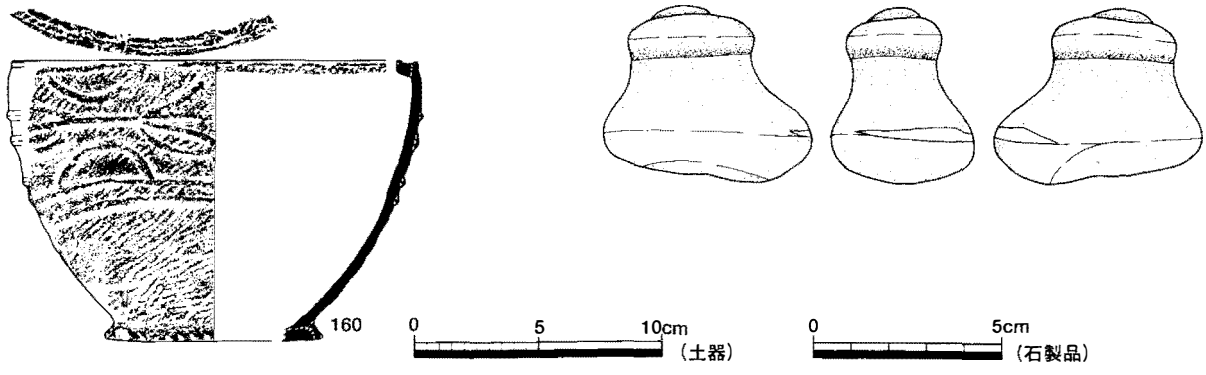


図69　SK380出土遺物

貯蔵穴（表22）

A区、B区でそれぞれ2基ずつ検出した。A区では住居からやや離れた場所にあり、B区でも特徴的な場所に位置するわけではない。4基とも断面形が袋状となる土坑で、形態や規模もよく似ている。しかし、埋土の堆積状況は、A区とB区では異なっている。出土遺物が非常に少なく、時期決定が困難であるが、縄文土器や石器が出土したものがあることから、遺物が出土していないものも含めて、縄文時代の遺構と考えた。

SK25（図70）

検出状況　A区北部で検出した。内部が袋状となるほかは、特に付属施設となるようなものはない。周囲に土坑があるが、住居跡からは離れて位置している。

埋土　8層に分層したが、中央が凹んだ堆積を示し、5層や7層は壁の崩落土と思われることから、自然堆積により埋没したものと思われる。

出土遺物　埋土中からMFと剥片類が1点ずつ出土した。

表22　貯蔵穴一覧

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	1			出土遺物	1	備考
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK25	ⅠM9	Ⅴ層上	円形	1.14	1.03	1.08	0.95	0.82	D3a3	北西	N44° W	8層 C	UFほか	縄文	袋状土坑
SK379	ⅠU6	Ⅴ層上	不整円形	1.03	0.95	1.0	0.99	0.85	D3a3	北西	N39° W	8層 C	なし	縄文?	袋状土坑
SK576	ⅡK21	Ⅴ層上	円形	1.02	0.91	1.12	1.01	0.65	D3a4	北西	N49° W	4層 D	J群土器、石鏃	縄文	袋状土坑
SK668	ⅡI25～ⅢI1	Ⅴ層上	円形	1.36	1.2	1.0	0.9	0.84	D3a4	北北東	N18° E	5層 C	なし	縄文?	袋状土坑

SK379（図70）

検出状況　A区西部で検出した。内部が袋状となり、上面の南側に段を持つ。検出面で円礫が出土したが、埋土は自然堆積と思われることから、関連性はないと思われる。周囲に墓坑としたSK380や多くの土坑があるが、住居跡からは離れて位置している。

埋土　8層に分層したが、中央が凹んだ堆積を示し、埋土中には壁が崩落したと思われる褐色土のブロックが混入していることから、自然堆積により埋没したものと思われる。

出土遺物　遺物は出土しなかった。

SK576（図70）

検出状況　B区東部、SD509の近くで検出した。内部が袋状となるほかは、特に付属施設と思われるようなものはない。ほかの貯蔵穴の深さが0.8m以上あるのに対して、0.65mとやや浅いが、袋状の断面形は最もよく残存している。

埋土　4層に分層したが、やや東に偏った位置が凹んだ堆積を示す。しかし、埋土中に壁面が崩落したと思われるような土やブロックがないこと、最上層の1層が褐色土であることから、自然堆積で埋没したものではなく、人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。しかし、その目的は不明である。

出土遺物（図71）　埋土中から、縄文土器はJ群b類が1点、石器は石鏃が1点出土した。162は石鏃1a類で、

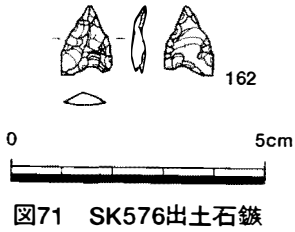


図71　SK576出土石鏃

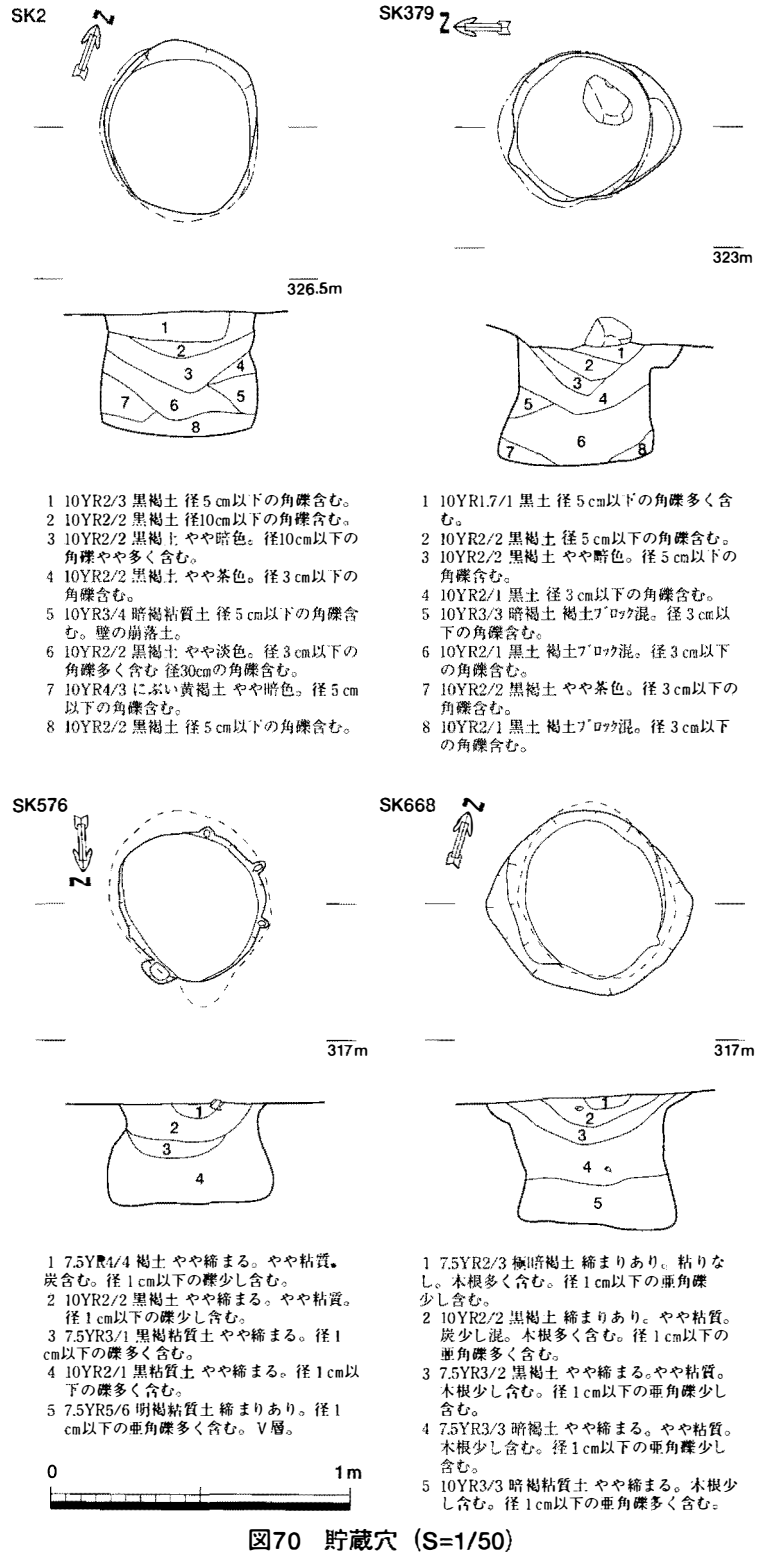


図70　貯蔵穴（S=1/50）

脚部の長さが左右不均等である。主要剥離面が大きく残り、側面形はやや彎曲している。

SK668（図70）

検出状況　B区南部の土坑が比較的密集する場所で検出した。内部が袋状となるほかは、特に付属施設と思われるようなものはない。

埋土　5層に分層したが、中央が凹んだ堆積を示す。しかし、SK576と同様に、埋土中に壁面が崩落したと思われるような土やブロックがないこと、最上層の1層が極暗褐色土であることから、自然堆積で埋没したものではなく、人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。しかし、その目的は不明である。

竪穴状の大型土坑（表23）

A区で検出した大型の土坑であるが、平面形が不整形で、炉跡や柱穴と思われるものを検出できなかったことから竪穴状の土坑として、その他の土坑から分けた。

SK105ほか（図72）

検出状況　A区中央部で検出した。段切り造成の影響を受け、上部が0.2～0.4mほど削平されていると予想される。このため、周囲で検出したSK104・SK107・SK122・SK125も、関連するものである可能性が考えられる。SK105は、全体としては皿状となり、中央が小穴状の穴が2つ並ぶように深くなる。断面形が皿状となることから、本来の規模は周囲の土坑を取り込むような範囲になると想定できる。しかし、SK104はSK105よりも新しいことを確認しており、この土坑に関しては関係ないものとするべきかもしれない。ただ、SK104の底面では小穴を検出しているが、この小穴がSK104に含まれるのか、別の遺構となるのか確認できていない。SK107は円形の小土坑、SK122は楕円形の小土坑で比較的浅く、SK125はやや楕円形となるが、柱穴状の深い穴である。やや乱暴ではあるが、SK105を竪穴として、その周囲にある小土坑を柱穴とみなせば、竪穴住居跡の可能性も考えられるのではないかと思われる。このため、5基の土坑をまとめて竪穴状の大型土坑としておく。

埋土　SK105は2層に分層したが、下層は中央東側の小穴状の穴部分であり、これは別の時期の遺構と考えるべきかもしれない。SK104は3層に分層したが、概ね水平な堆積である。SK107は2層に分層したが、水平な堆積である。SK122とSK125は単層であった。

出土遺物（図73）　SK104からZ2群d類とe類が1点ずつ、SK105からZ2群c類2点、胴a類2点、

表23　竪穴状大型土坑一覧

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK104	ⅠQ11～ⅠQ12	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.66	0.4	0.49	0.18	0.21	A2b1	北西	N55°W	3層B	Z2群土器	前期後葉	＞SK105
SK105	ⅠQ11～ⅠR12	Ⅴ層上	不定形	2.36	1.81	2.25	1.77	0.42	B1b1	西	N83°W	2層B	Z2群土器	前期後葉	＜SK104
SK107	ⅠR12	Ⅴ層上	円形	0.4	0.38	0.16	0.16	0.246	A2a1	西	N82°W	2層B	Z2群土器	前期後葉	
SK122	ⅠR12	Ⅴ層上	楕円形	0.57	0.46	0.42	0.3	0.096	B1a1	東北東	N75°E	1層A	なし	不明	
SK124	ⅠO10～ⅠP10	Ⅳ層中	不定形	(3.26)	2.88	(3.26)	2.72	0.21	B1a1	北北西	N24°W	2層B	S3群・J群土器、石匙ほか	早期末	＜SK93 ＞SK92
SK125	ⅠR11	Ⅴ層上	楕円形	0.35	0.29	0.13	0.1	0.332	C4a1	北北西	N21°W	1層A	なし	不明	

底a類1点、SK107からZ2群胴b類1点が出土している。SK125からは遺物は出土していない。

163と164ははSK104から出土したZ2群土器である。163はd類で、縄文を地文に施し、突帯により直線的な文様と鈴鐘状の文様を描く。突帯上にも縄文を施すが、縄文の撚りは不明である。164はe類で、LR縄文を地文とし、突帯により弧状の文様を描く。突帯は素文のままで、口縁端部が沈線状に囲む。165～167はSK105から出土したZ2群土器である。165はc類で、胴部が張り頸部で強く括れた後、口縁部が内彎しながら開く器形である。胴部にLR縄文とRL縄文による羽状縄文を施し、半截竹管で押し引きを密に施す突帯により文様を描く（写真14）。口縁部には1条、胴部には頸部との境と胴部最大径の位置に1条ずつ突帯を巡らせ、胴部の2条の突帯の間には連弧状に突帯を施す。胴部内面には指頭圧痕が残る（写真15）。166は胴a類でLR縄文を施し、胴部が張る器形である。167は底a類で、やや凹み底となる。

時期　出土した土器から、前期後葉と判断した。既存の土器編年に対比させれば、東海地方の大歩田

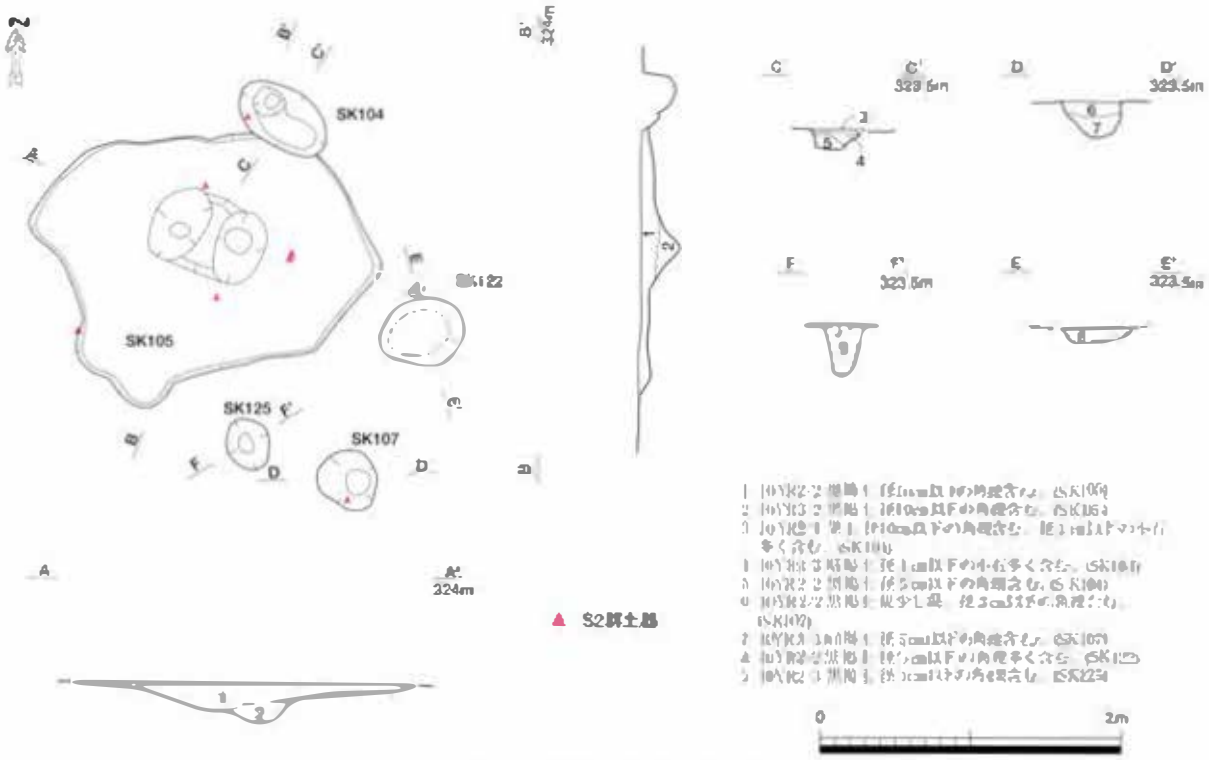


図72　SK105ほか（S=1/50）

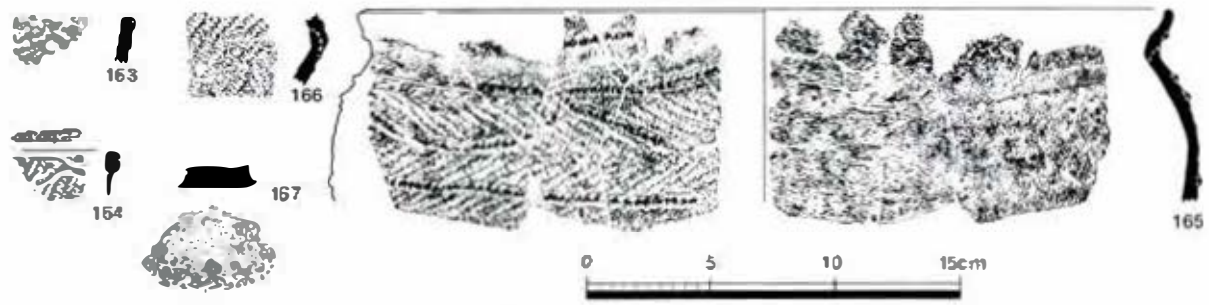


図73　SK105ほか出土遺物

写真15　165突帯

写真16　165内面

Ⅲ式～北裏ZⅣ式、近畿地方の北白川下層Ⅲ式2期（山岸1996）に併行すると思われる。

SK124（図74）

検出状況　Ⅳ層掘削時に土の違いが認められたが、複数の遺構が重複していると思われたため、これを明瞭にするためにⅤ層上面まで掘削して、プランを確認した。平面形は不定形で、SK92・SK93・NW4と重複していることが判明した。形状や柱穴と思われるような小穴は検出できなかったが、ほ

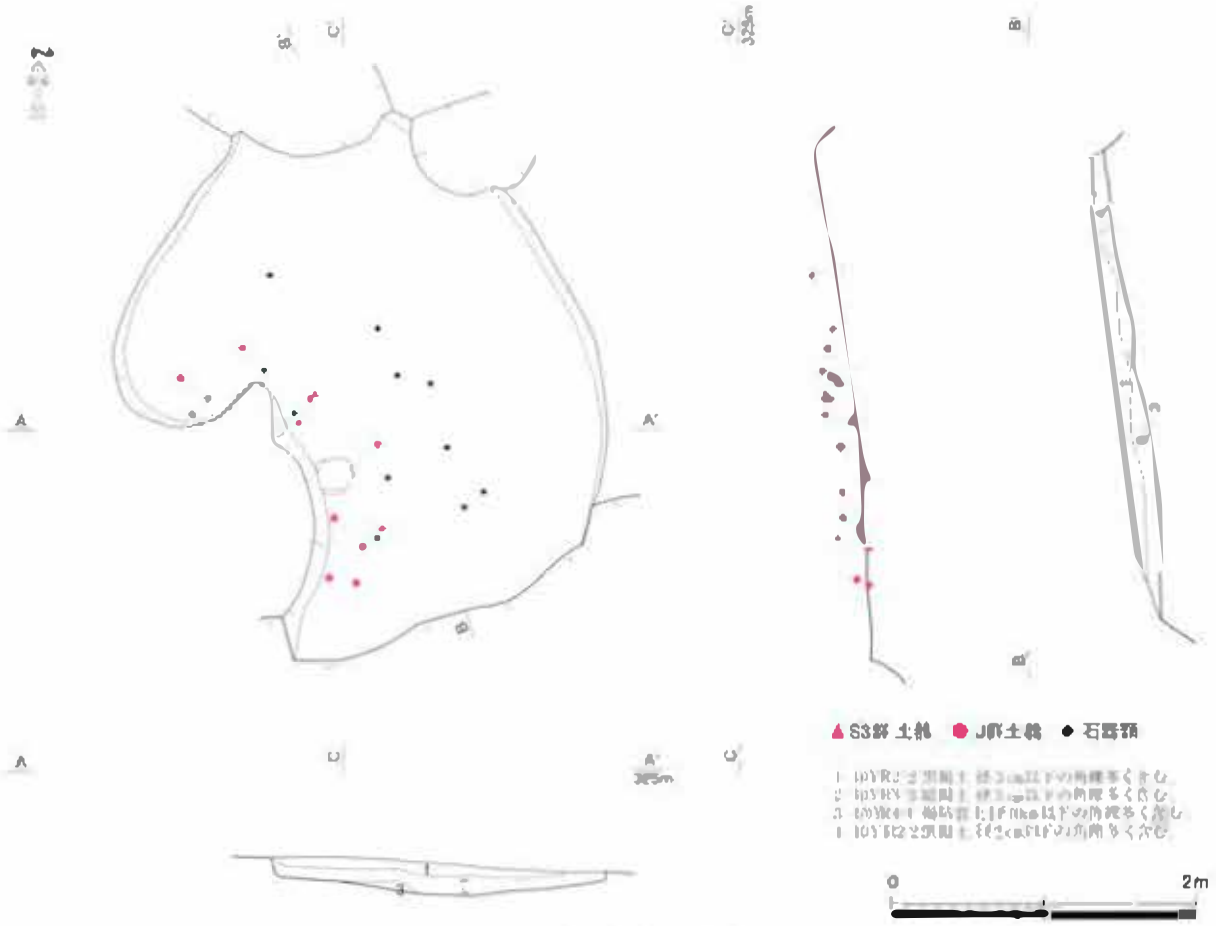


図74　SK124（S=1/50）

かの土坑と比較して出土遺物が多いことから、竪穴状の大型土坑とした。

埋土　2層に分層したが、ほぼ水平堆積である。

出土遺物（図75）　縄文土器はS3群c1類が2点、J群b類が10点出土したが、いずれも小片のため図示しなかった。c1類土器は、胎土中に繊維を含む。石器類は、石匙1点、スクレイパー3点、剥片類4点、MF3点、打欠石錘1点、磨石・凹石類1点が出土した。

168は下呂石製の石匙のつまみ部である。169と170はスクレイパー1a類で、直線的な刃部を持つ。両者は接合するが、刃部はそれぞれ別に作られている。171はスクレイパー1b類で、外彎した刃部を持つ。172と173はMFで、末端辺や側辺に微細な剥離痕が確認できる。174は打欠石錘で、片面から簡単な調整を加えて、紐掛け部を作り出す。175は磨石・凹石類1b類で、側面には磨痕と敲打痕が認められる。

時期　出土した土器から早期末葉と思われる。

その他の土坑（図76・78～103、表24～38）

A区で検出したその他の土坑は、全体として規模が小さく浅い穴が多いが、A区北部ではやや規模が大きく、深さが0.2mを越えるものの比率が高くなる。また、規模が小さく、円形若しくは楕円形で、ある程度深さのある土坑には、竪穴住居跡の柱穴（主柱穴・壁柱穴）に類似するものがある。こ

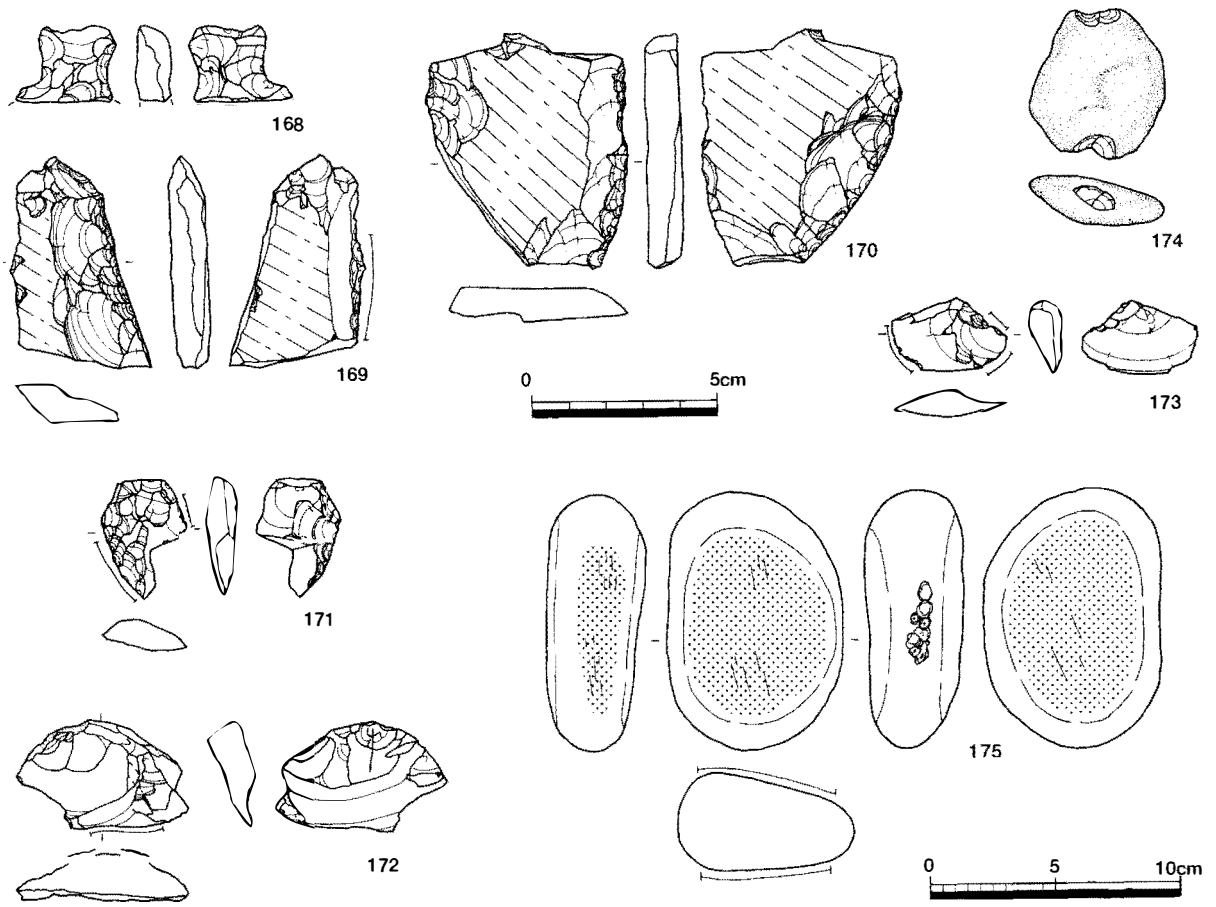


図75　SK124出土石器

うした土坑は、ＩR5区～ＩR9区やＩW11区～ＩW13区に多い傾向があるが、建物跡と推定できるような明確なまとまりを捉えることはできなかった。Ｂ区で検出した土坑も、小型で浅いものが多く、散在していた。

その他の土坑出土遺物（図77）

176はSK93から出土したZ2群b3類土器で、口縁端部を欠損する。突帯により文様を描き、突帯上には半截竹管による逆Ｃ字状の刺突を施す。177はSK111から出土したＪ群ａ類で、RL縄文を施す。178はSK111から出土した切目石錘で、側辺の一方を敲打により成形し、長軸の両端に切目を入れる。179はSK116から出土した石鏃1e類で、正三角形の一辺にＵ字状の抉りを入れている。180は、SK126から出土した楔形石器である。181はSK141から出土したZ2群胴ａ類で、RL縄文を施す。182はSK177から出土したZ2群胴ａ類で、外面にLR縄文を施す。183はSK209から出土した磨製石斧である。184はSK299から出土したC3群b2類土器で、口縁部は屈曲し、沈線による文様を施す。185はSK260から出土したMFで、側辺に微細な剥離痕が確認できる。186はSK291から出土した磨石・凹石類2a類で、側面に磨痕と敲打痕がある。187はSK344から出土したS1群ｃ類土器で、山形文を施文する。188はSK448から出土したZ2群胴ａ類で、RL縄文の施文方向を変えて羽状縄文を施す。189はSK595から出

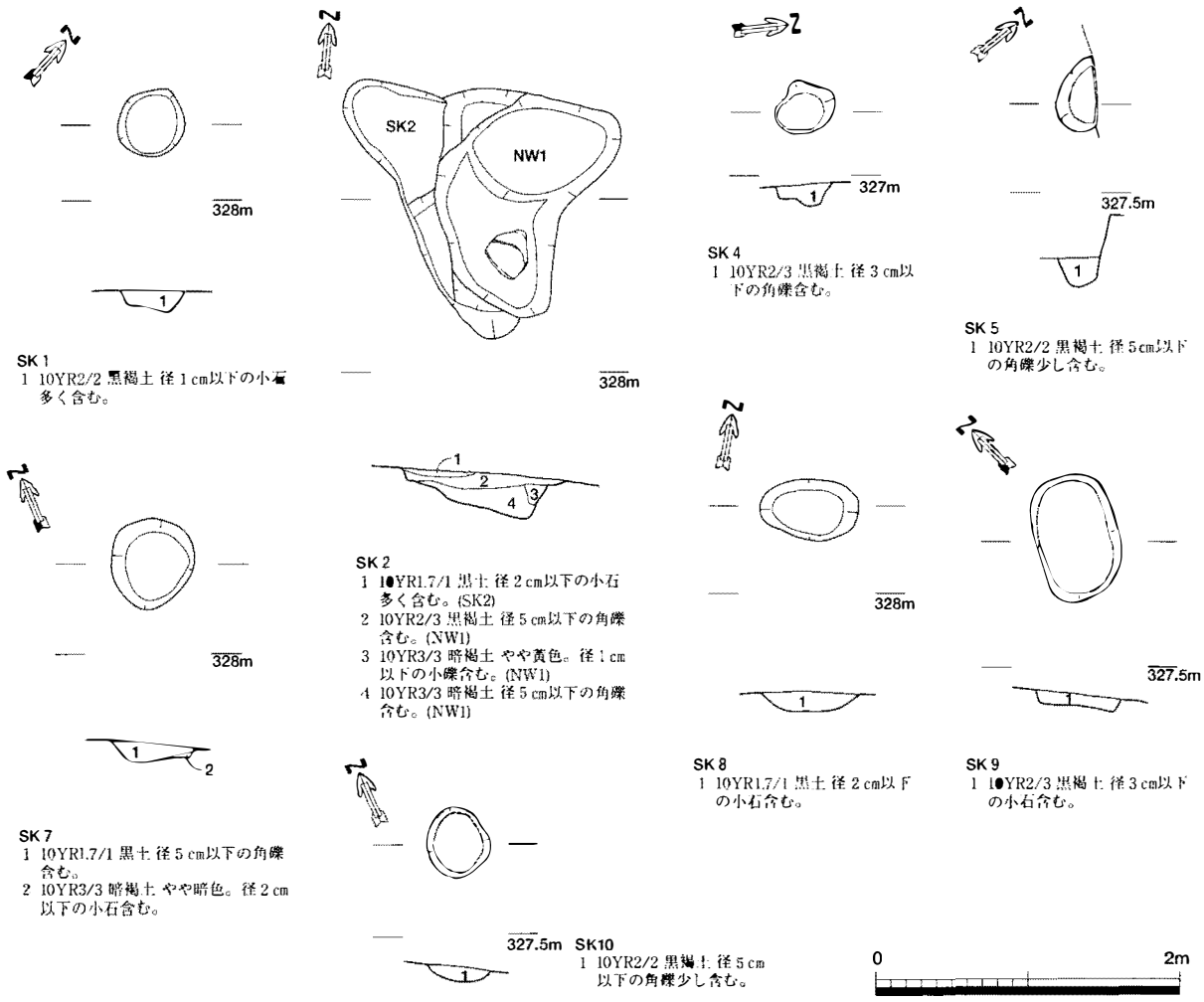


図76　その他の土坑Ａ区①（S=1/50）

土した石鏃1e類で、先端部を欠損する。190はSK600から出土した磨石・凹石類1a類で、平坦な両面に磨痕がある。191はSK656から出土したZ1群で、RL縄文とLR縄文を交互に施して羽状縄文とするが、横方向でも原体をを替えて条が菱形を作り出す。Z2群土器と比較して、器壁が非常に厚いことから前期前半の東日本系の土器と思われる。192はSK679から出土した楔形石器である。

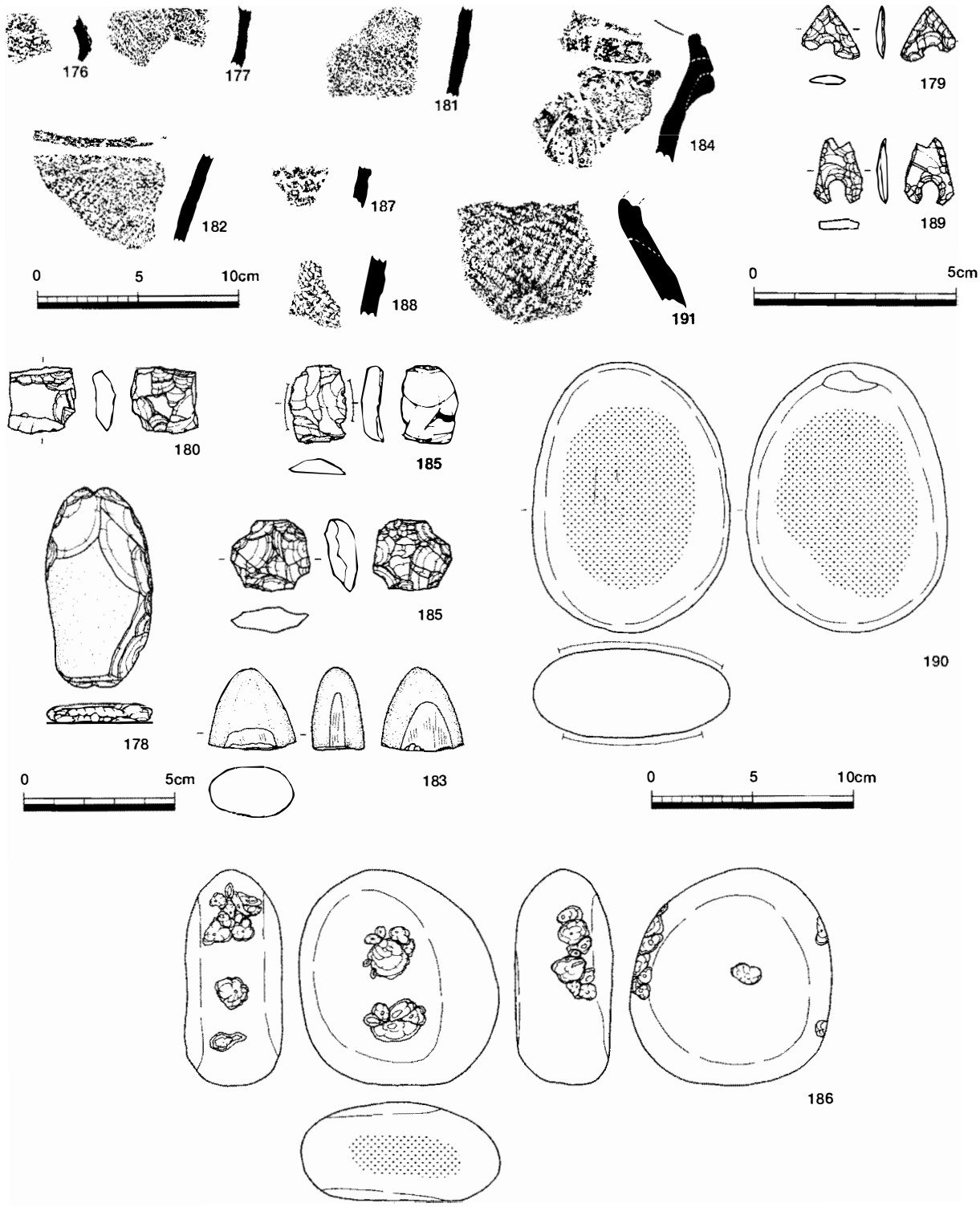
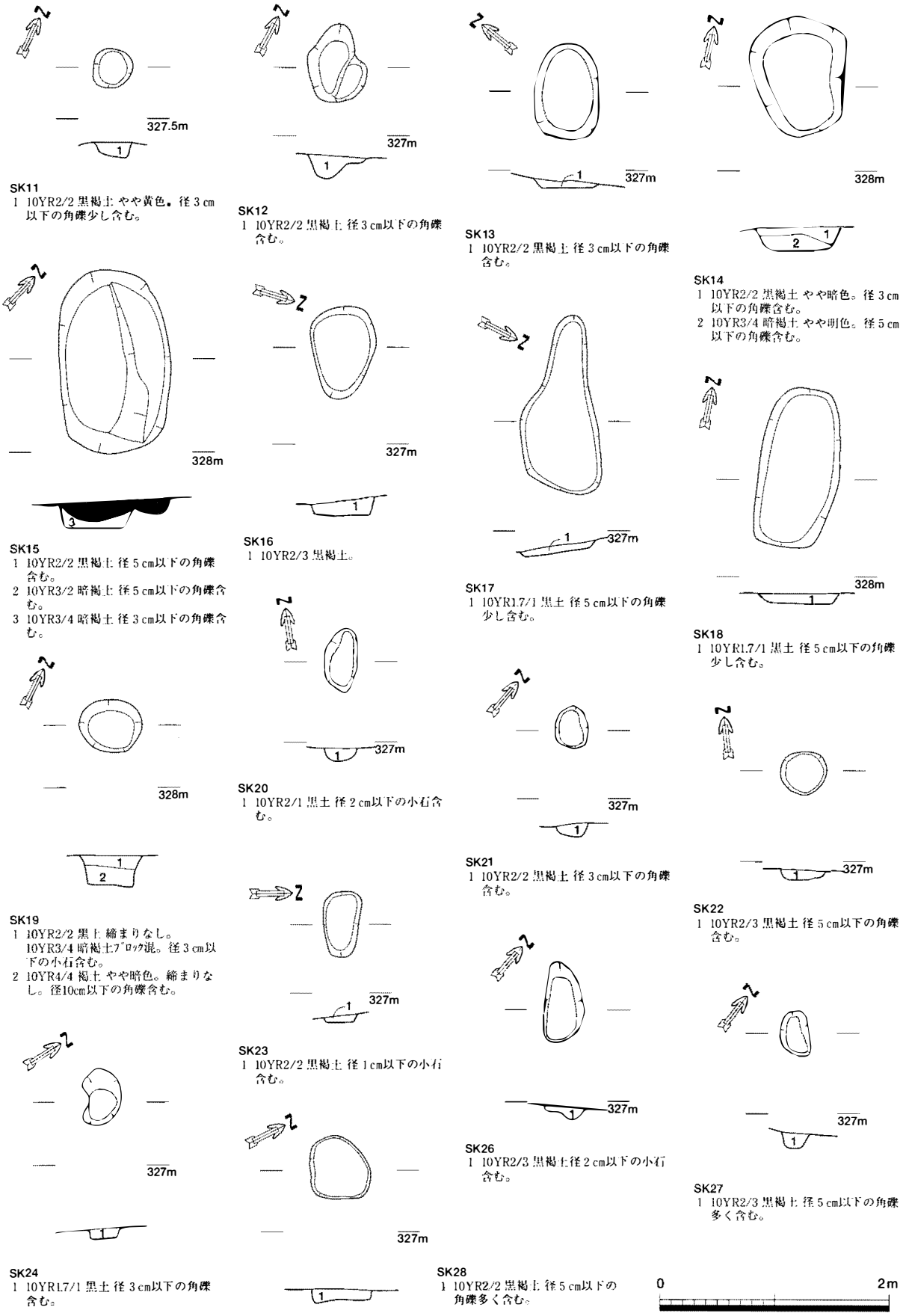


図77　その他の土坑出土遺物



SK11
1 10YR2/2 黒褐土 やや黄色。径3cm以下の角礫少し含む。

SK12
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK13
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK14
1 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径3cm以下の角礫含む。
2 10YR3/4 暗褐土 やや明色。径5cm以下の角礫含む。

SK15
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。
2 10YR3/2 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。
3 10YR3/4 暗褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK16
1 10YR2/3 黒褐土。

SK17
1 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫少し含む。

SK18
1 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫少し含む。

SK19
1 10YR2/2 黒土 締まりなし。10YR3/4 暗褐土ﾌﾞﾛｯｸ混。径3cm以下の小石含む。
2 10YR4/4 褐土 やや暗色。締まりなし。径10cm以下の角礫含む。

SK20
1 10YR2/1 黒土 径2cm以下の小石含む。

SK21
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK22
1 10YR2/3 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK23
1 10YR2/2 黒褐土 径1cm以下の小石含む。

SK26
1 10YR2/3 黒褐土径2cm以下の小石含む。

SK27
1 10YR2/3 黒褐土 径5cm以下の角礫多く含む。

SK24
1 10YR1.7/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK28
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫多く含む。

0 2m

図78　その他の土坑A区②（S=1/50）

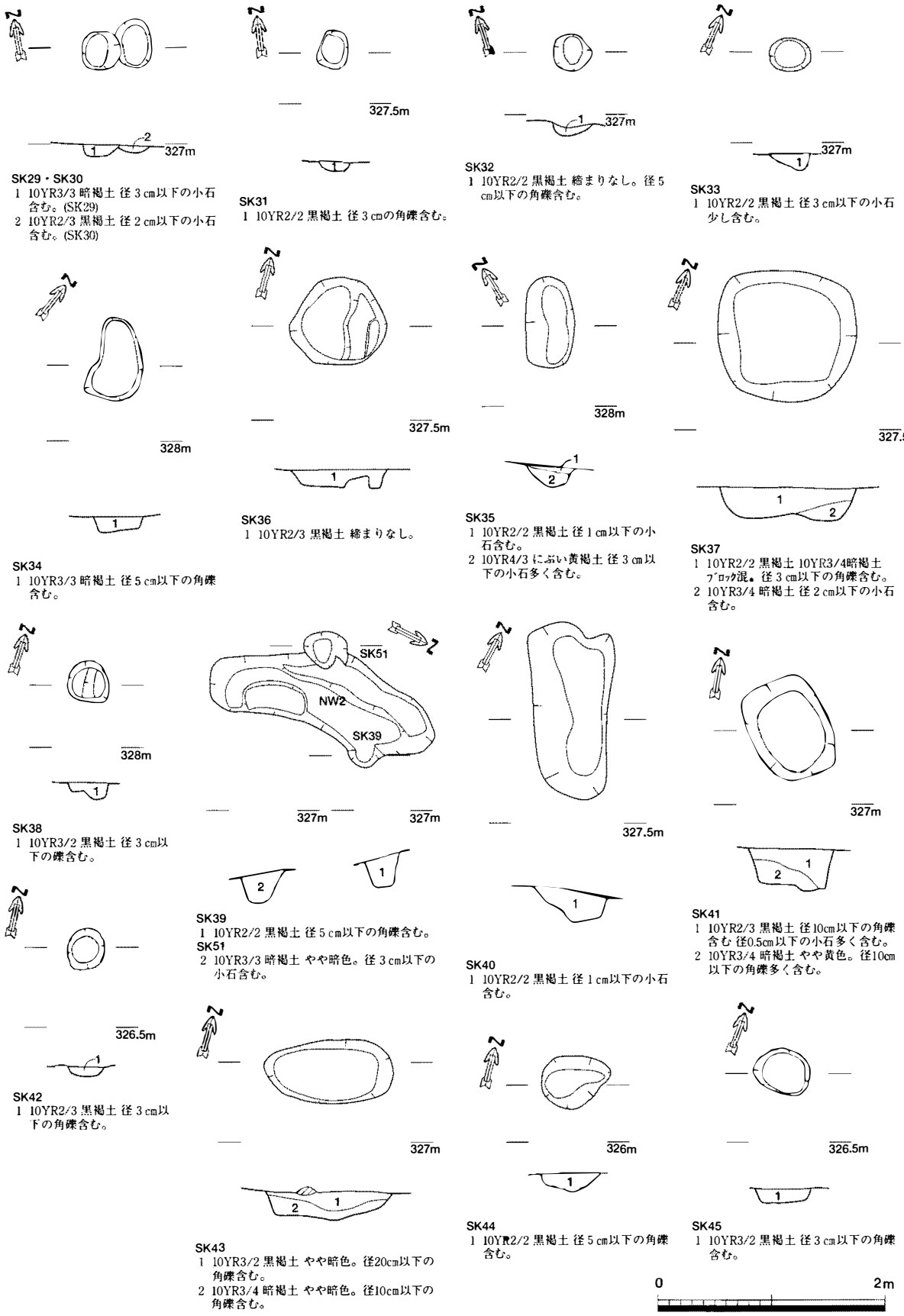
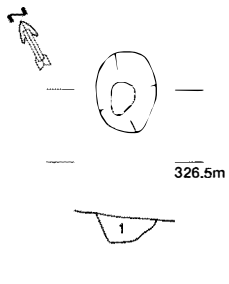
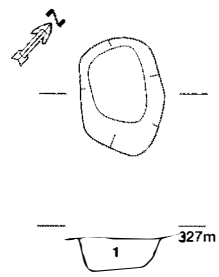


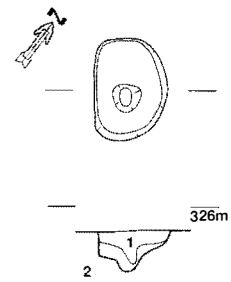
図79　その他の土坑A区③（S=1/50）



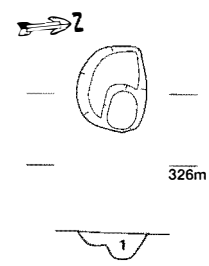
SK46
1 10YR3/3 暗褐土 径5㎝以下の角礫含む。



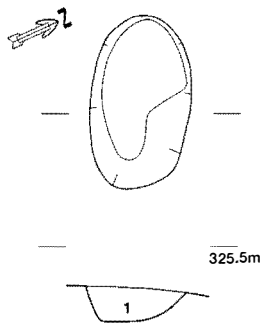
SK47
1 10YR3/3 暗褐土 やや暗色。径10㎝以下の角礫多く含む。



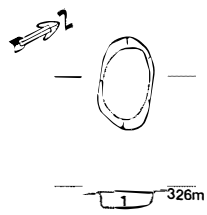
SK48
1 10YR2/2 黒褐土 径5㎝以下の角礫含む。
2 10YR3/4 暗褐土 径3㎝以下の角礫多く含む。



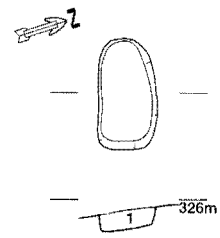
SK49
1 10YR3/3 暗褐土 径5㎝以下の角礫含む。



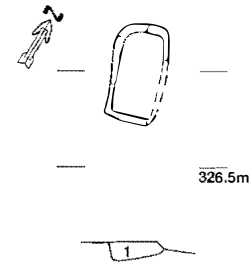
SK50
1 10YR2/2 黒褐土 径10㎝以下の角礫含む。



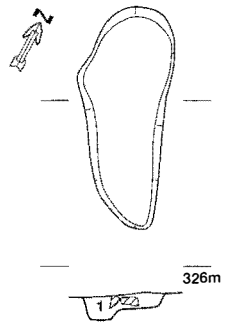
SK53
1 10YR2/2 黒褐土 Ⅱ層のブロック混。径5㎝以下の角礫含む。



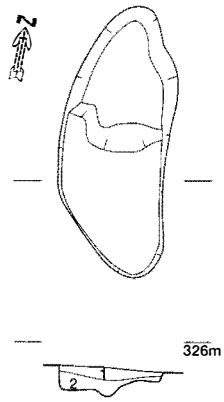
SK54
1 10YR2/2 黒褐土 径3㎝以下の角礫含む。



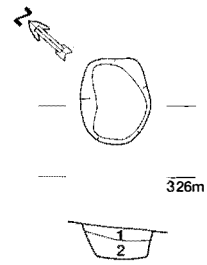
SK55
1 10YR2/3 黒褐土 径10㎝以下の角礫含む。



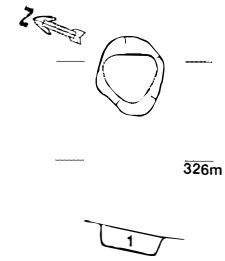
SK57
1 10YR3/3 暗褐土 径10㎝以下の角礫含む。



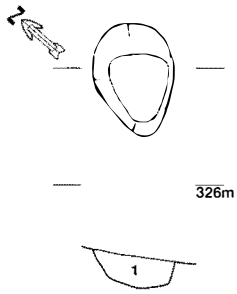
SK58
1 10YR2/2 黒褐土 径5㎝以下の角礫含む。
2 10YR3/4 暗褐土 径3㎝以下の角礫含む。



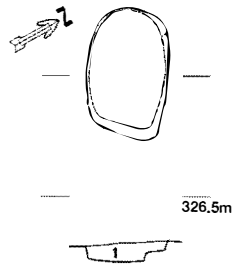
SK59
1 10YR2/2 黒褐土 径2㎝以下の小石含む。
2 10YR3/4 暗褐土 径5㎝以下の角礫含む。



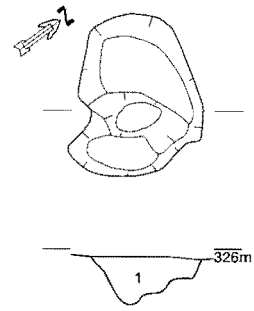
SK60
1 10YR3/3 暗褐土 径5㎝以下の角礫多く含む。



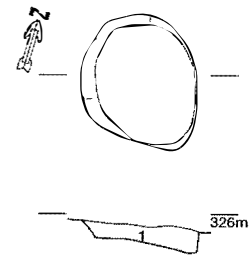
SK61
1 10YR3/4 暗褐土 径5㎝以下の角礫多く含む。



SK63
1 10YR3/3 暗褐土 径3㎝以下の角礫含む。



SK62
1 10YR3/3 暗褐土 径5㎝以下の角礫多く含む。



SK64
1 2.5Y3/2 黒褐土 径3㎝以下の角礫含む。

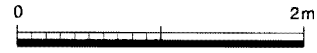
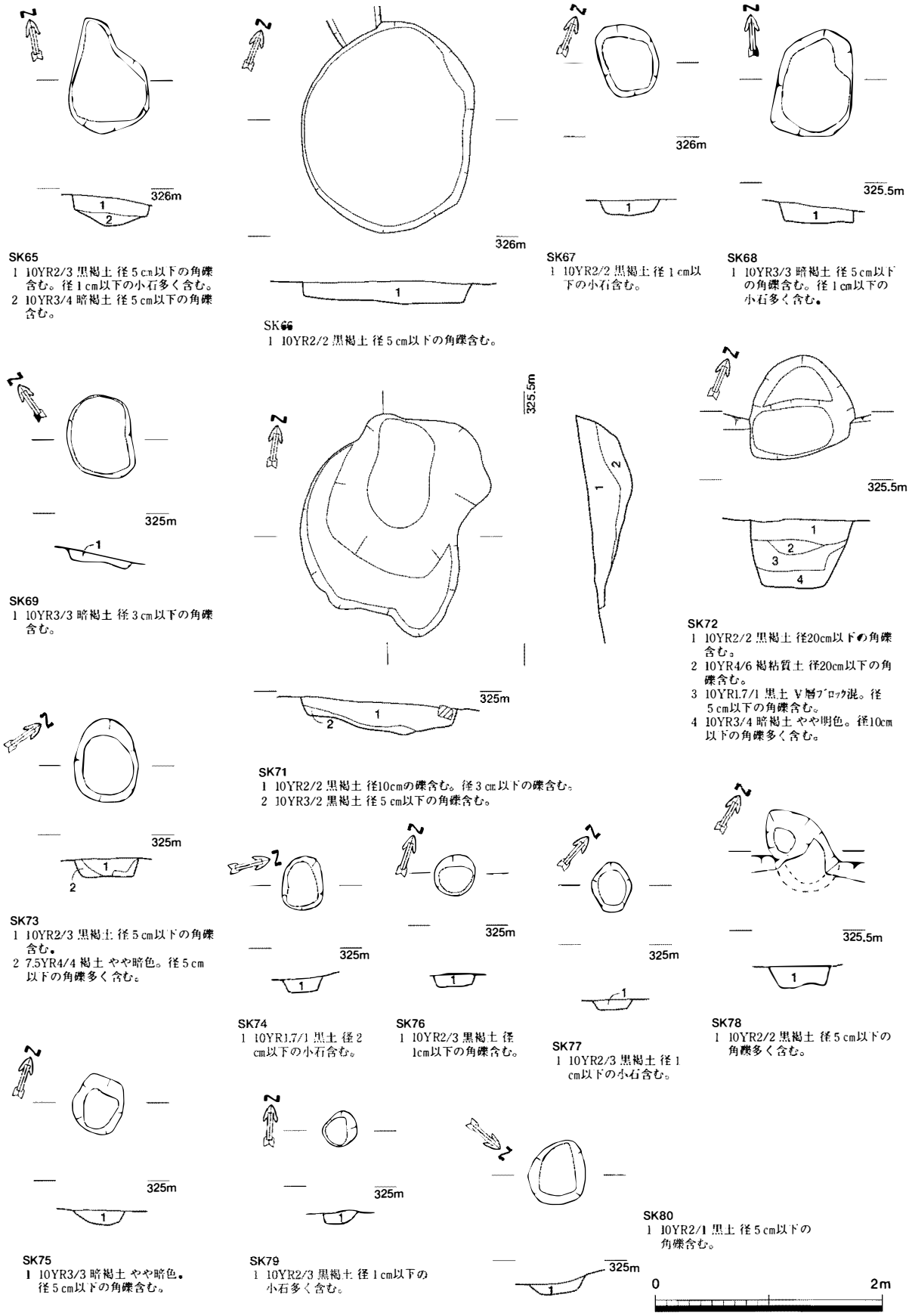


図80　その他の土坑A区④（S=1/50）



SK65
1 10YR2/3 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。径1cm以下の小石多く含む。
2 10YR3/4 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK66
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK67
1 10YR2/2 黒褐土 径1cm以下の小石含む。

SK68
1 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。径1cm以下の小石多く含む。

SK69
1 10YR3/3 暗褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK71
1 10YR2/2 黒褐土 径10cmの礫含む。径3cm以下の礫含む。
2 10YR3/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK72
1 10YR2/2 黒褐土 径20cm以下の角礫含む。
2 10YR4/6 褐粘質土 径20cm以下の角礫含む。
3 10YR1.7/1 黒土 V層ブロック混。径5cm以下の角礫含む。
4 10YR3/4 暗褐土 やや明色。径10cm以下の角礫多く含む。

SK73
1 10YR2/3 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。
2 7.5YR4/4 褐土 やや暗色。径5cm以下の角礫多く含む。

SK74
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の小石含む。

SK76
1 10YR2/3 黒褐土 径1cm以下の角礫含む。

SK77
1 10YR2/3 黒褐土 径1cm以下の小石含む。

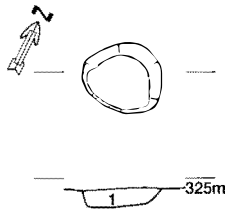
SK78
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫多く含む。

SK75
1 10YR3/3 暗褐土 やや暗色。径5cm以下の角礫含む。

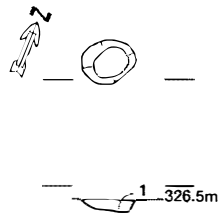
SK79
1 10YR2/3 黒褐土 径1cm以下の小石多く含む。

SK80
1 10YR2/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

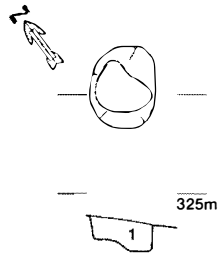
図81　その他の土坑A区⑤（S=1/50）



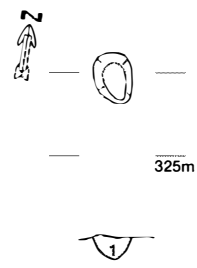
SK81
1 10YR2/2 黒褐土 径10cm以下の角礫含む。



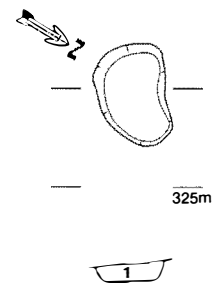
SK82
1 10YR2/2 黒褐土 径2cm以下の角礫含む。



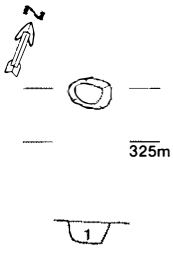
SK83
1 10YR1.7/1 黒土 径1cm以下の小石含む。



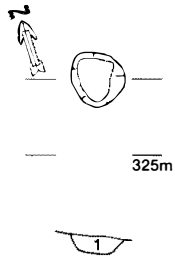
SK84
1 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径3cm以下の角礫含む。



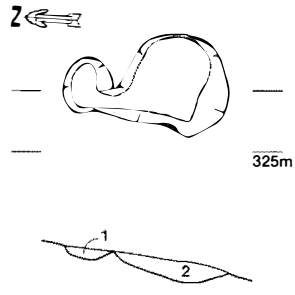
SK85
1 10YR3/3 暗褐土 径5cm以下の角礫含む。



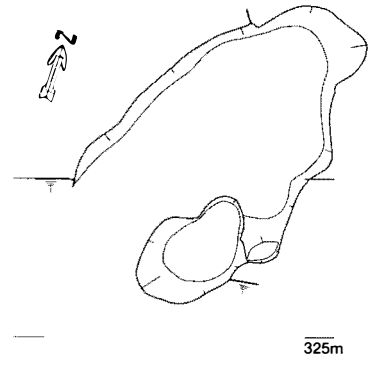
SK86
1 10YR2/3 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

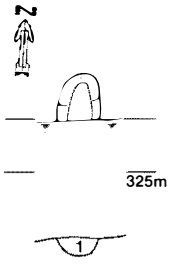


SK87
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

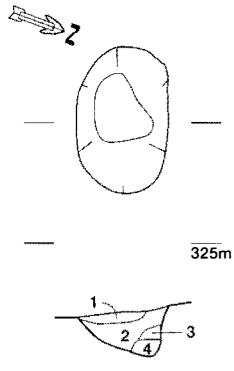


SK88・SK101
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。(SK101)
2 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。(SK88)

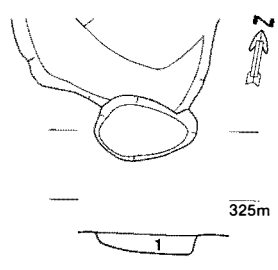




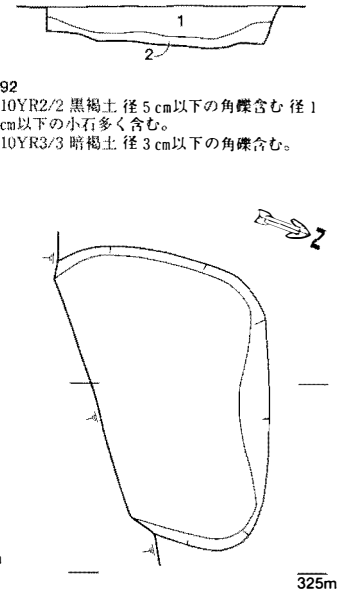
SK89
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。



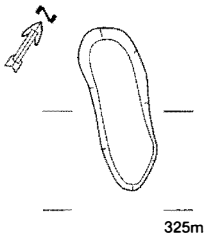
SK93
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の小石含む。
2 10YR1.7/1 黒土 径10cmの角礫含む 径3cm以下の小石含む。
3 10YR3/3 暗褐土 径3cm以下の角礫含む。
4 10YR4/4 褐粘質土 径3cm以下の角礫含む。



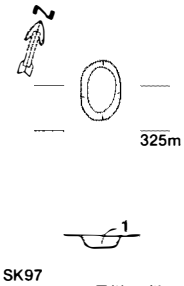
SK102
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。



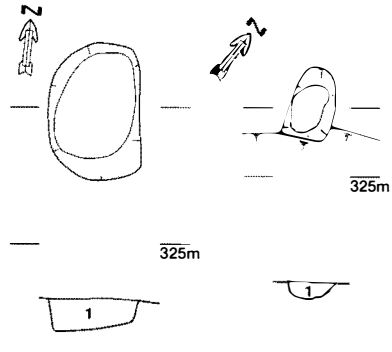
SK92
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む 径1cm以下の小石多く含む。
2 10YR3/3 暗褐土 径3cm以下の角礫含む。



SK96
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

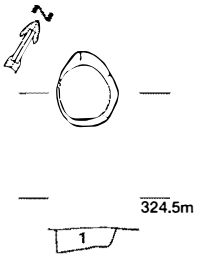


SK97
1 10YR2/2 黒褐土 径2cm以下の角礫含む。



SK95
1 10YR2/2 黒褐土 10YR3/3暗褐土ﾌﾞﾛｯｸ混。径5cm以下の角礫含む。

SK98
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。



SK99
1 10YR2/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK100
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

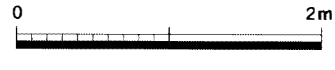


図82　その他の土坑A区⑥（S=1/50）

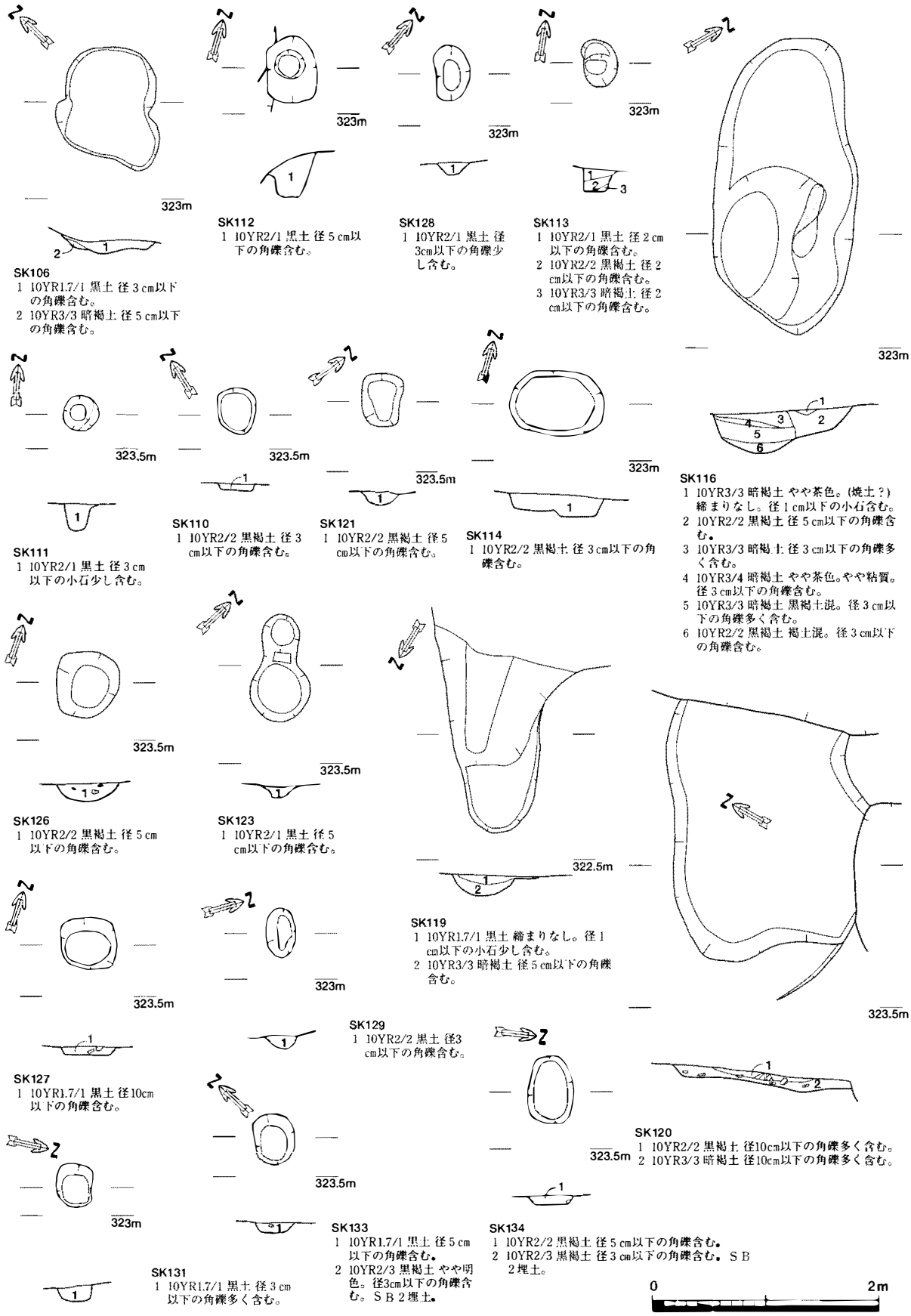


図83　その他の土坑A区⑦（S=1/50）

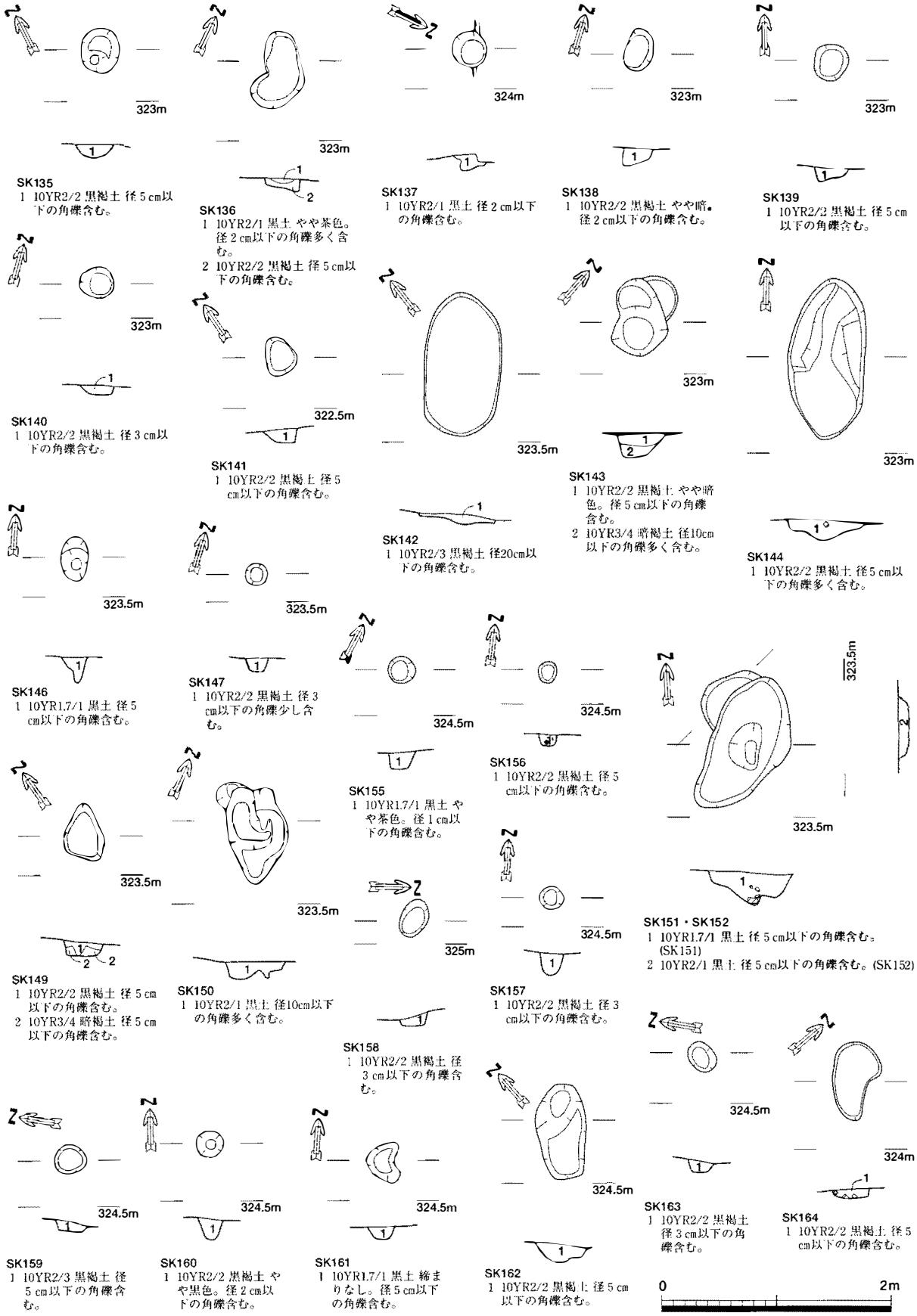
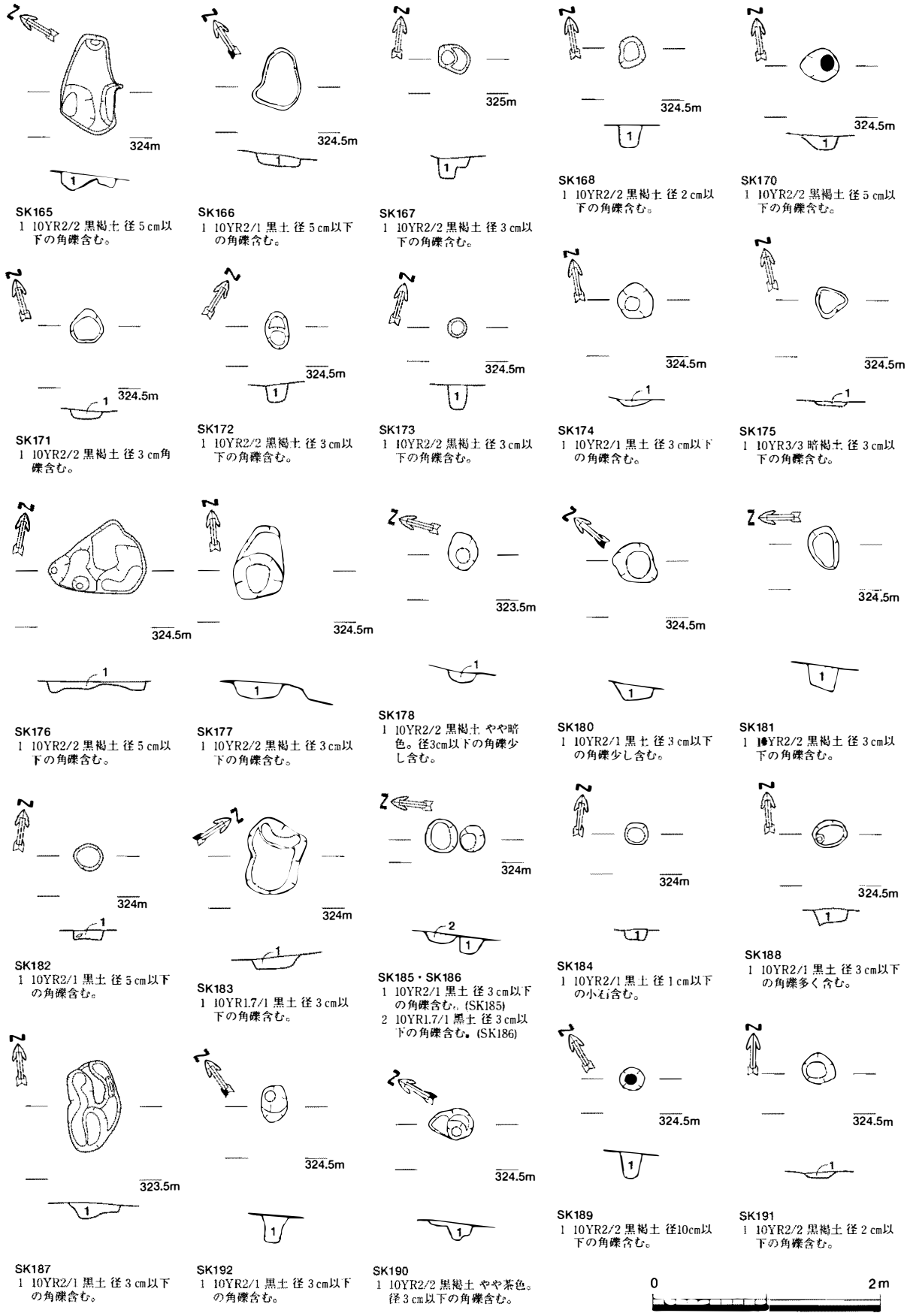


図84　その他の土坑A区⑧（S=1/50）



SK165
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK166
1 10YR2/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK167
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK168
1 10YR2/2 黒褐土 径2cm以下の角礫含む。

SK170
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK171
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm角礫含む。

SK172
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK173
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK174
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK175
1 10YR3/3 暗褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK176
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK177
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK178
1 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径3cm以下の角礫少し含む。

SK180
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫少し含む。

SK181
1 10YR2/2 黒褐土 径3cm以下の角礫含む。

SK182
1 10YR2/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK183
1 10YR1.7/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK185・SK186
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。(SK185)
2 10YR1.7/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。(SK186)

SK184
1 10YR2/1 黒土 径1cm以下の小礫含む。

SK188
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫多く含む。

SK187
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK192
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK190
1 10YR2/2 黒褐土 やや茶色。径3cm以下の角礫含む。

SK189
1 10YR2/2 黒褐土 径10cm以下の角礫含む。

SK191
1 10YR2/2 黒褐土 径2cm以下の角礫含む。

図85　その他の土坑A区⑨（S=1/50）

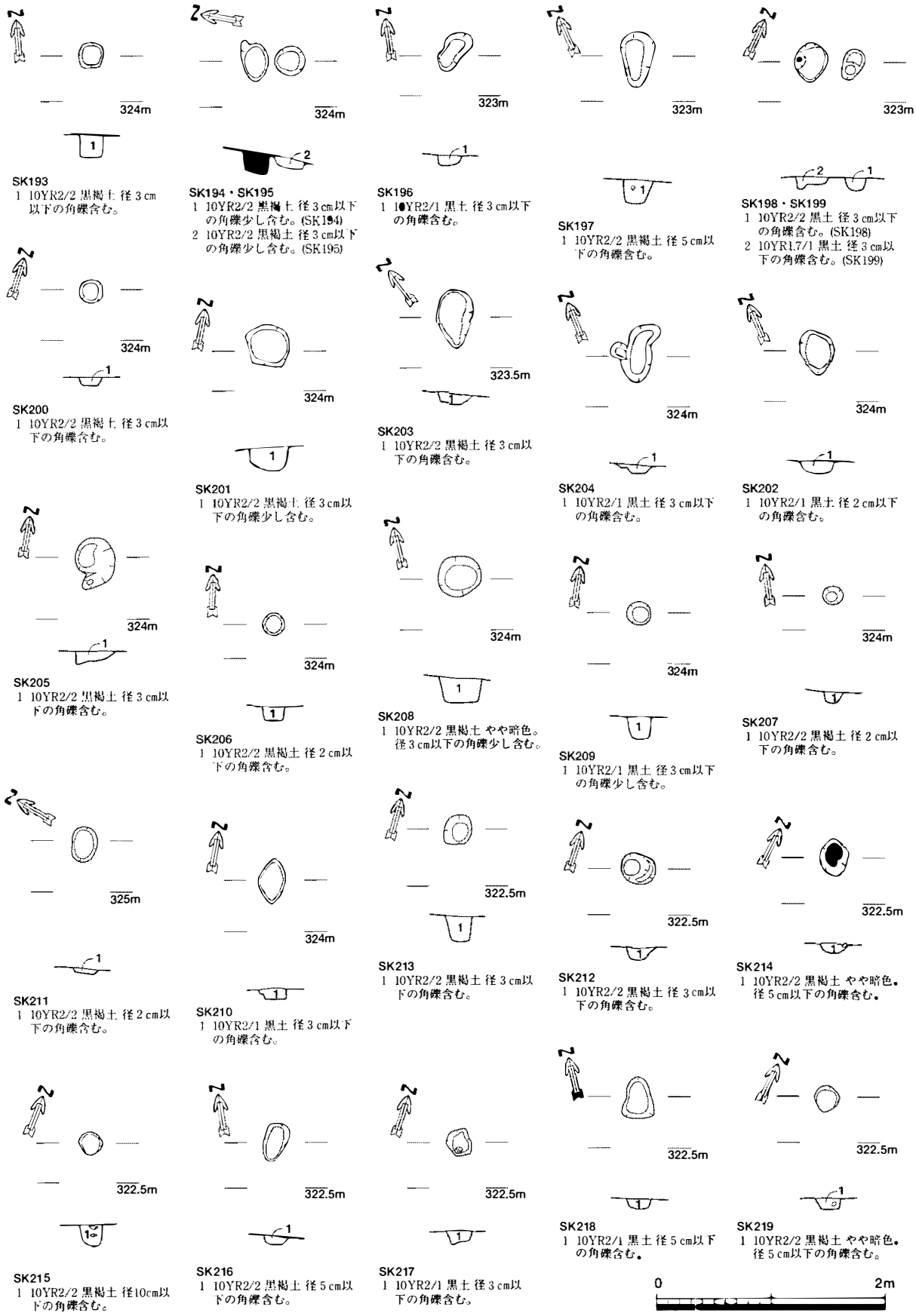


図86　その他の土坑A区⑩（S=1/50）

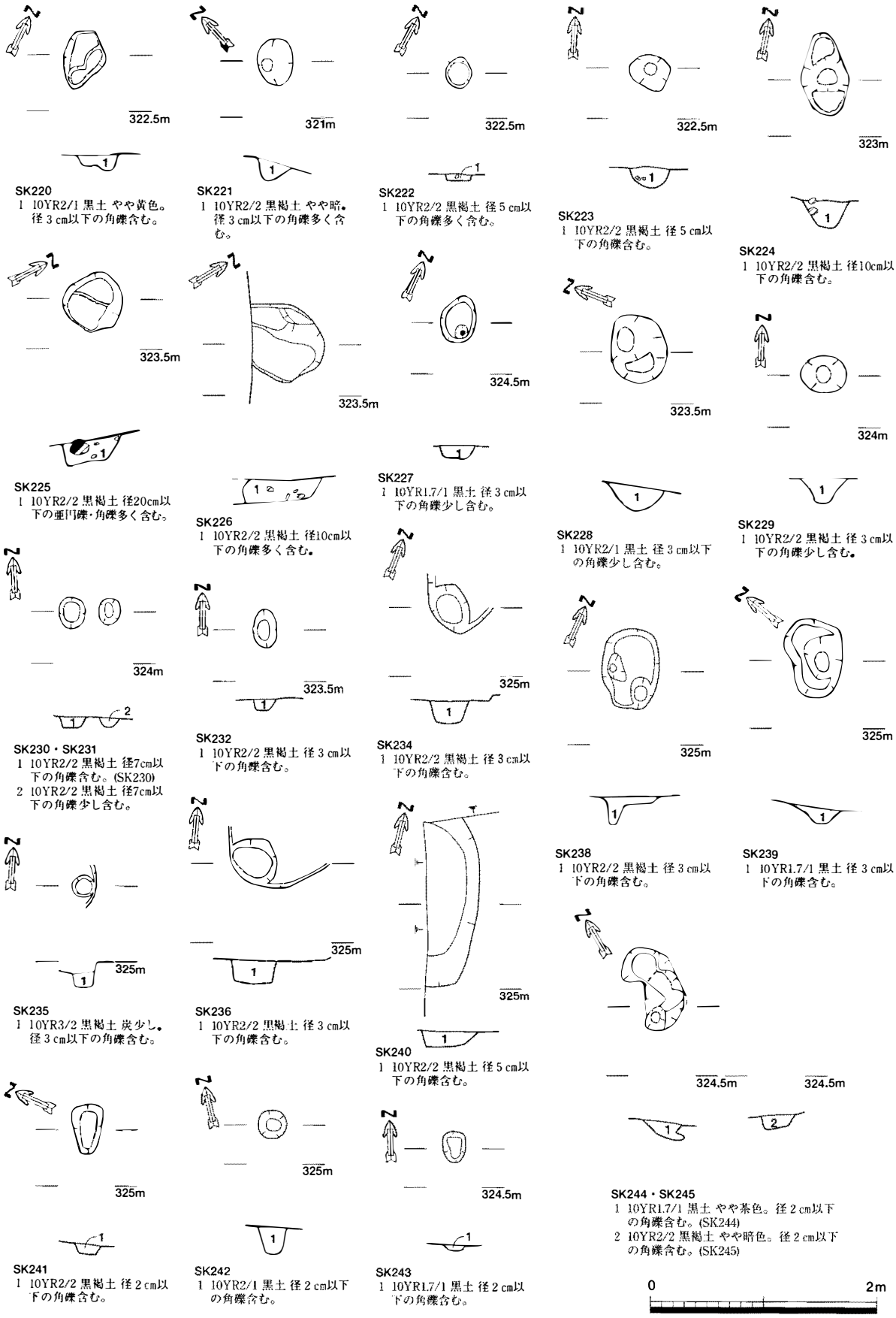


図87　その他の土坑A区⑪（S=1/50）

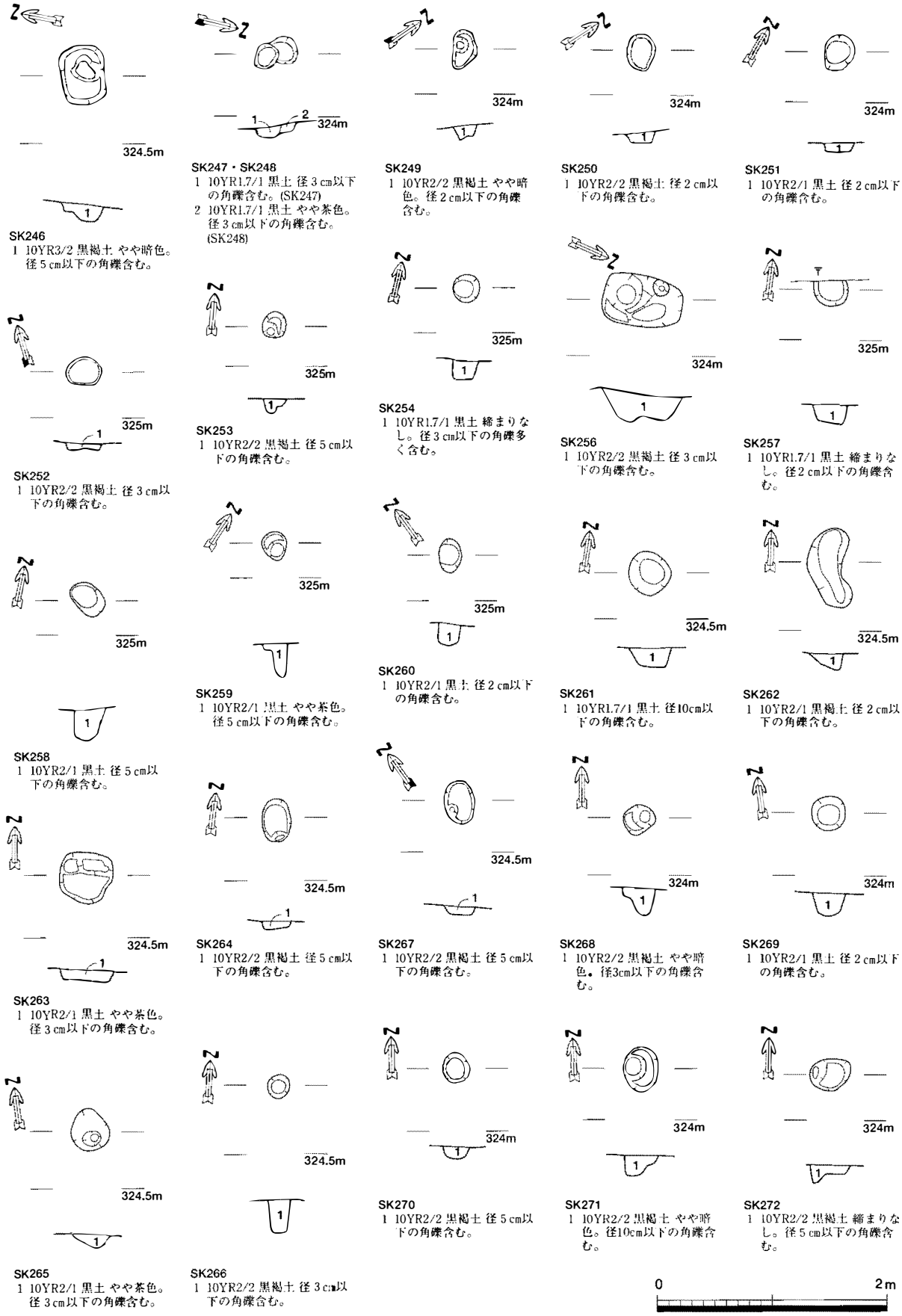


図88　その他の土坑A区⑫（S=1/50）

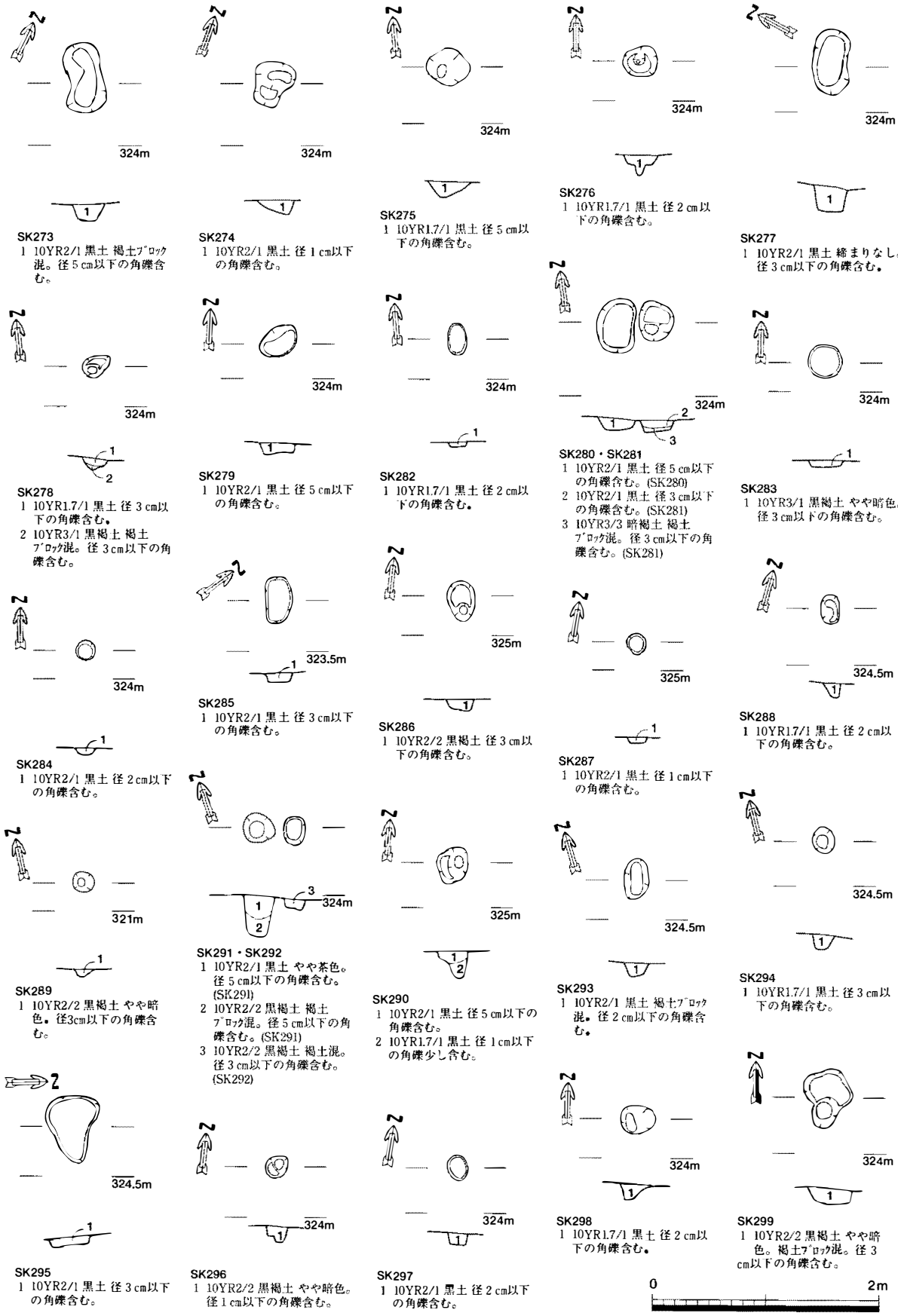


図89　その他の土坑A区⑬（S=1/50）

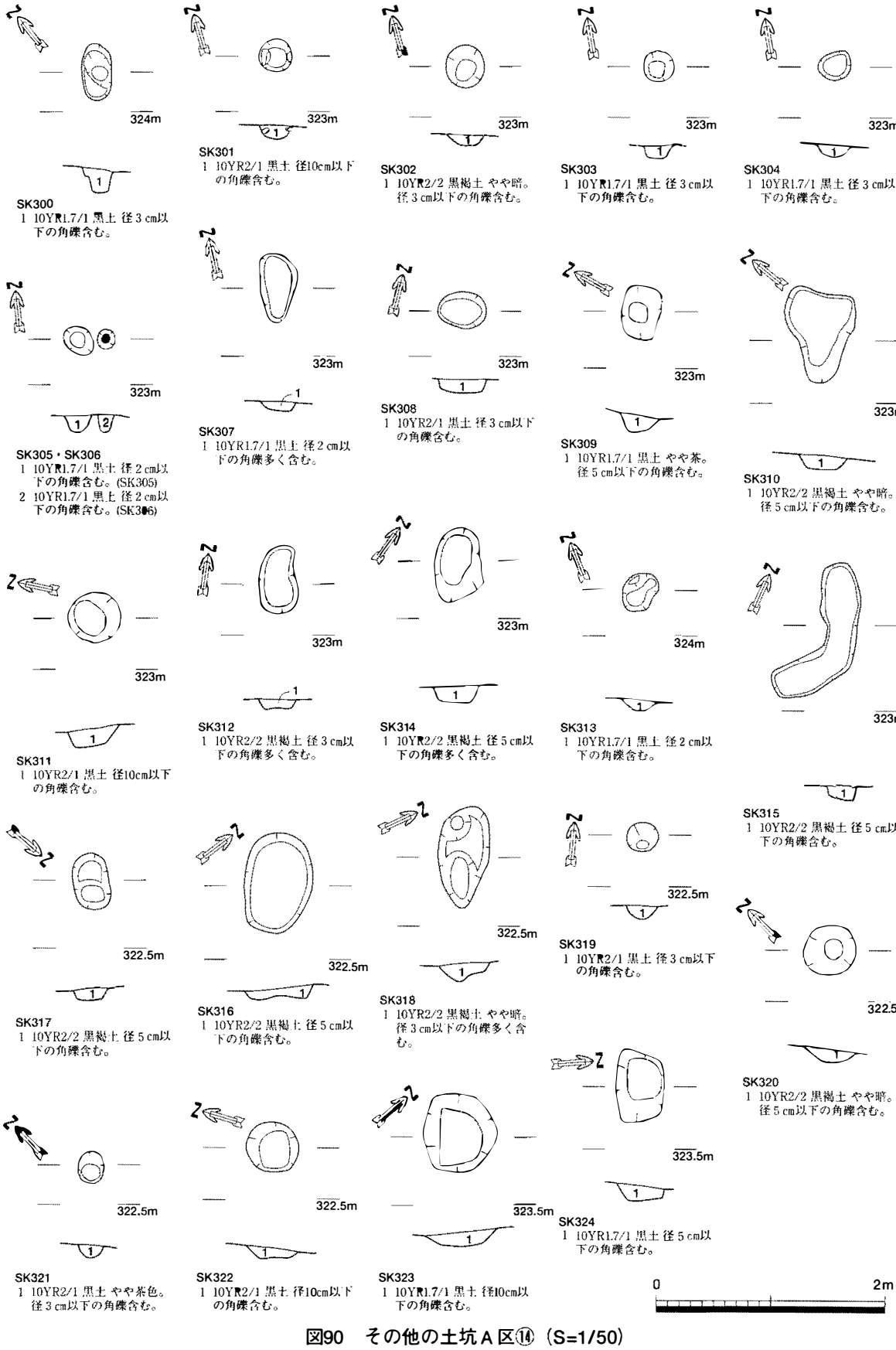


図90　その他の土坑A区⑭（S=1/50）

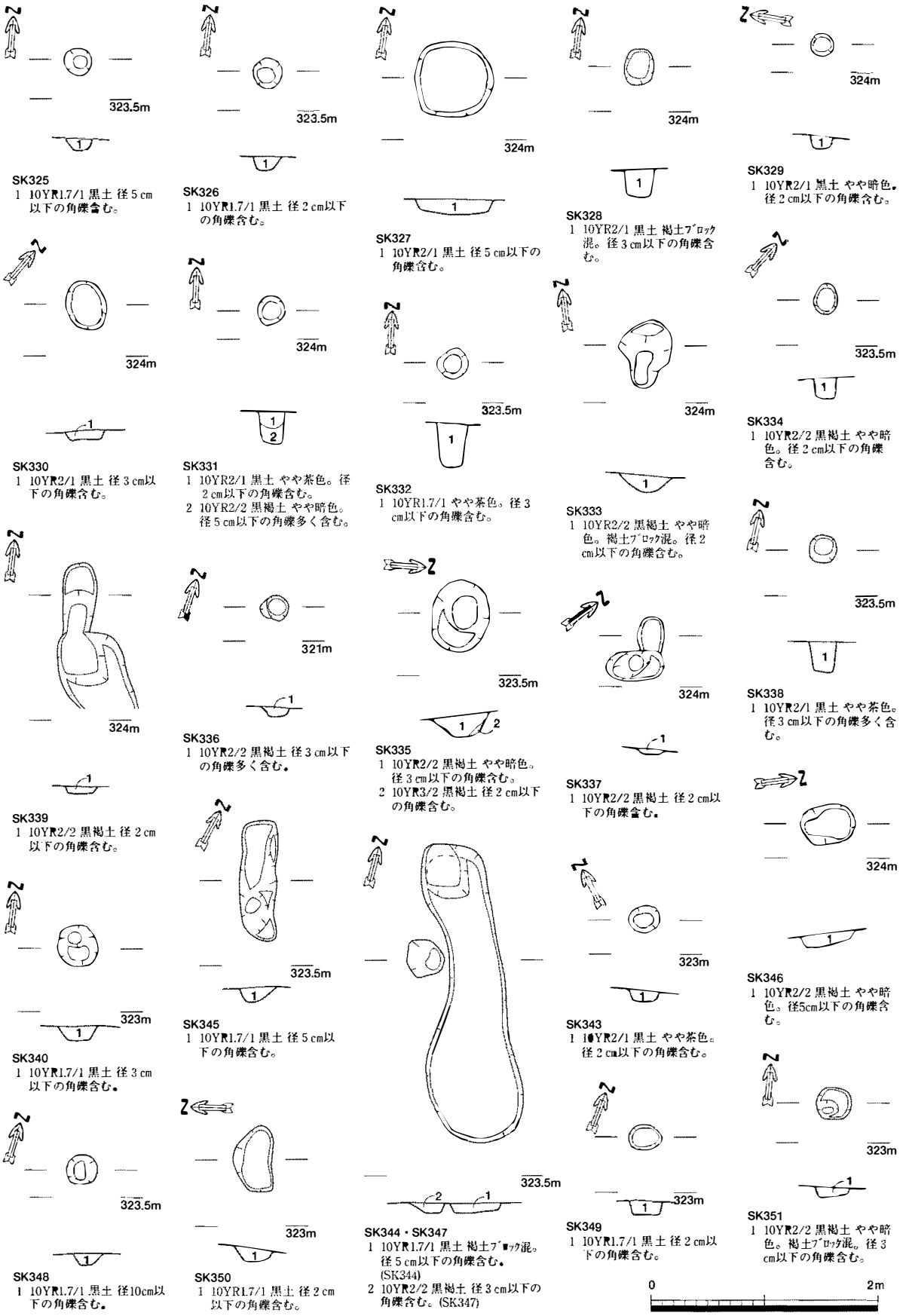
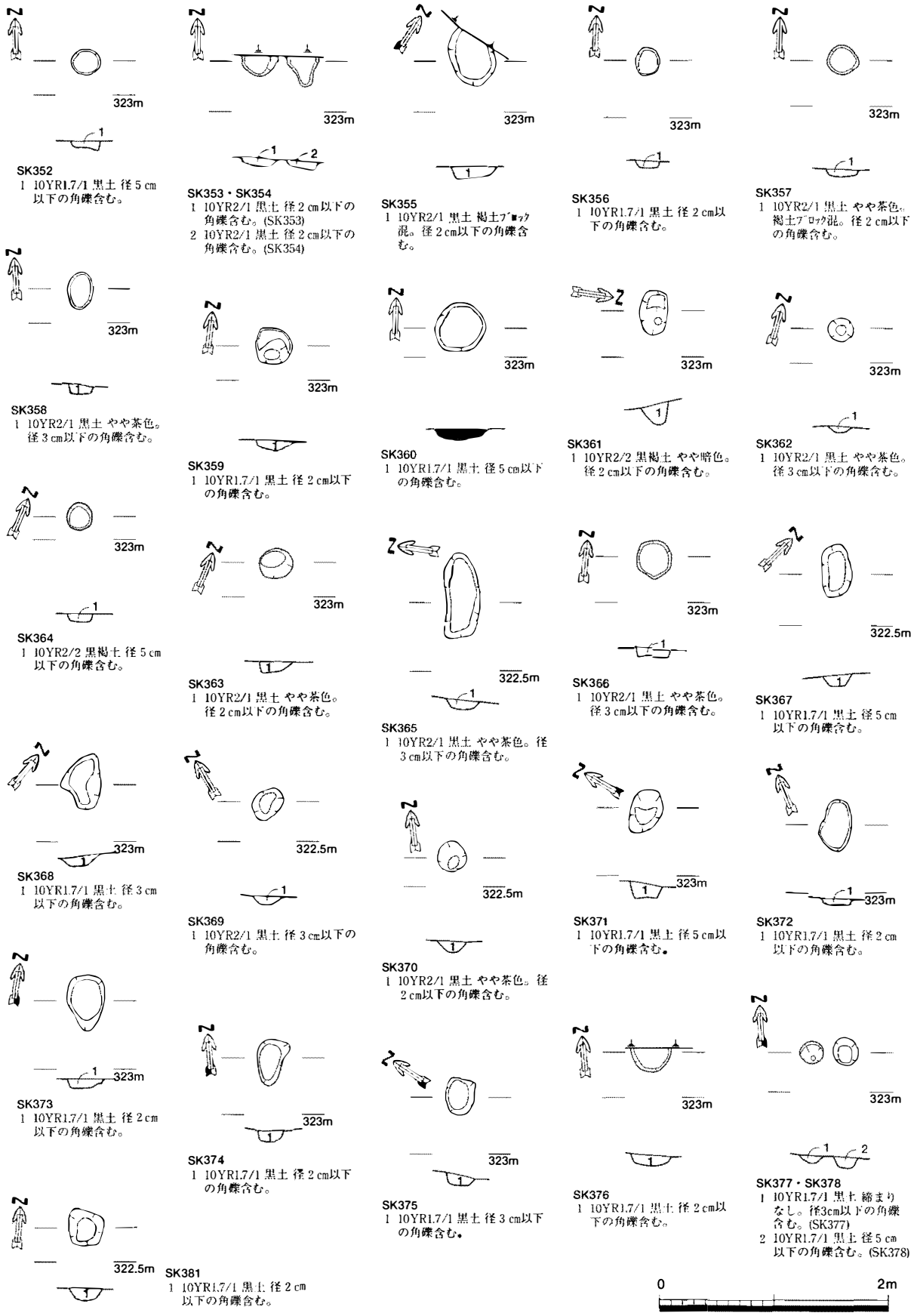


図91　その他の土坑A区⑮（S=1/50）



SK352
1 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK353・SK354
1 10YR2/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。(SK353)
2 10YR2/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。(SK354)

SK355
1 10YR2/1 黒土 褐土ブロック混。径2cm以下の角礫含む。

SK356
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

SK357
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。褐土ブロック混。径2cm以下の角礫含む。

SK358
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。径3cm以下の角礫含む。

SK359
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

SK360
1 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK361
1 10YR2/2 黒褐土 やや暗色。径2cm以下の角礫含む。

SK362
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。径3cm以下の角礫含む。

SK364
1 10YR2/2 黒褐土 径5cm以下の角礫含む。

SK363
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。径2cm以下の角礫含む。

SK365
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。径3cm以下の角礫含む。

SK366
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。径3cm以下の角礫含む。

SK367
1 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK368
1 10YR1.7/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK369
1 10YR2/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK370
1 10YR2/1 黒土 やや茶色。径2cm以下の角礫含む。

SK371
1 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。

SK372
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

SK373
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

SK374
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

SK375
1 10YR1.7/1 黒土 径3cm以下の角礫含む。

SK376
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

SK377・SK378
1 10YR1.7/1 黒土 締まりなし。径3cm以下の角礫含む。(SK377)
2 10YR1.7/1 黒土 径5cm以下の角礫含む。(SK378)

SK381
1 10YR1.7/1 黒土 径2cm以下の角礫含む。

0 2m

図92 その他の土坑A区⑯（S=1/50）

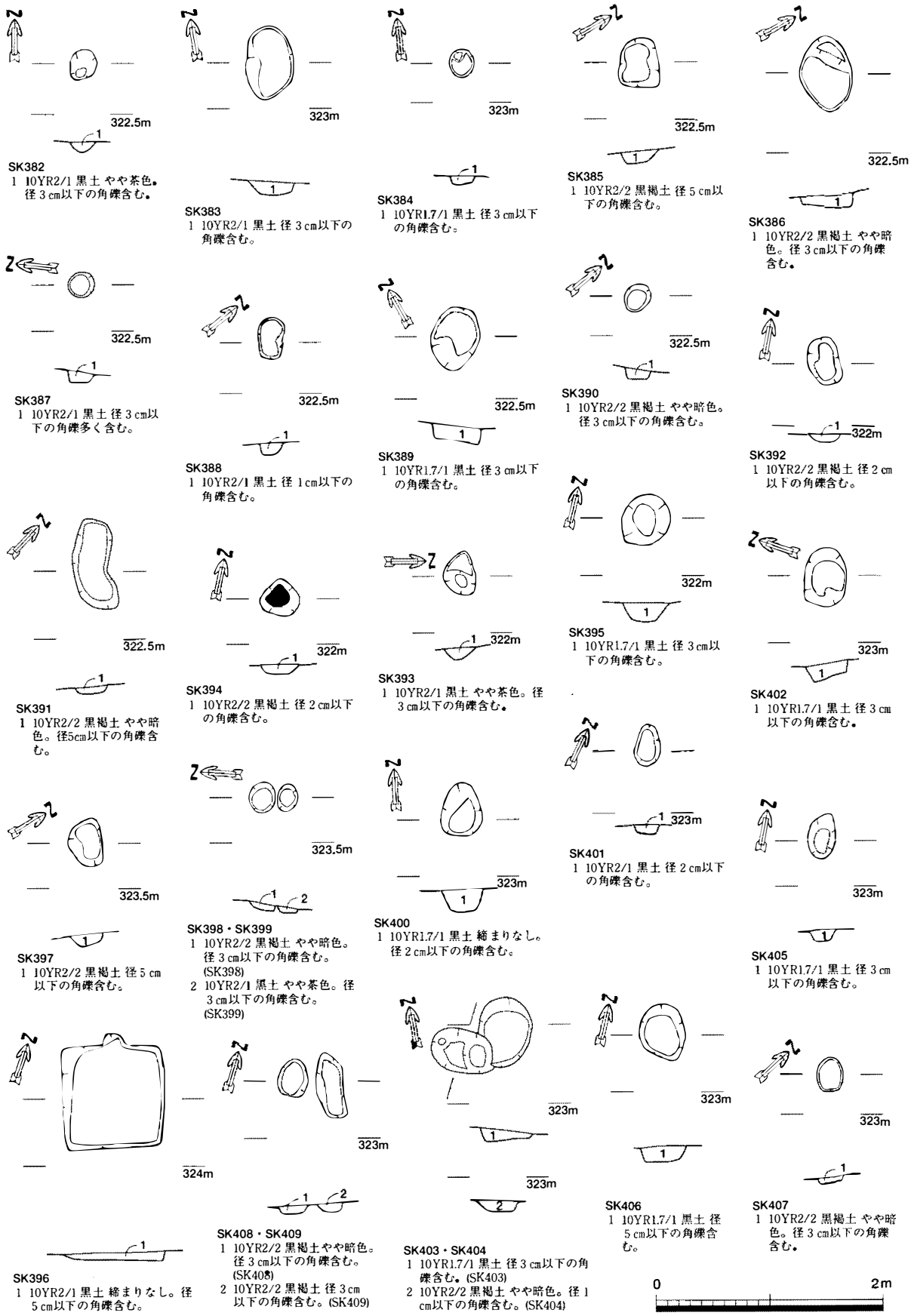


図93　その他の土坑A区⑪（S=1/50）

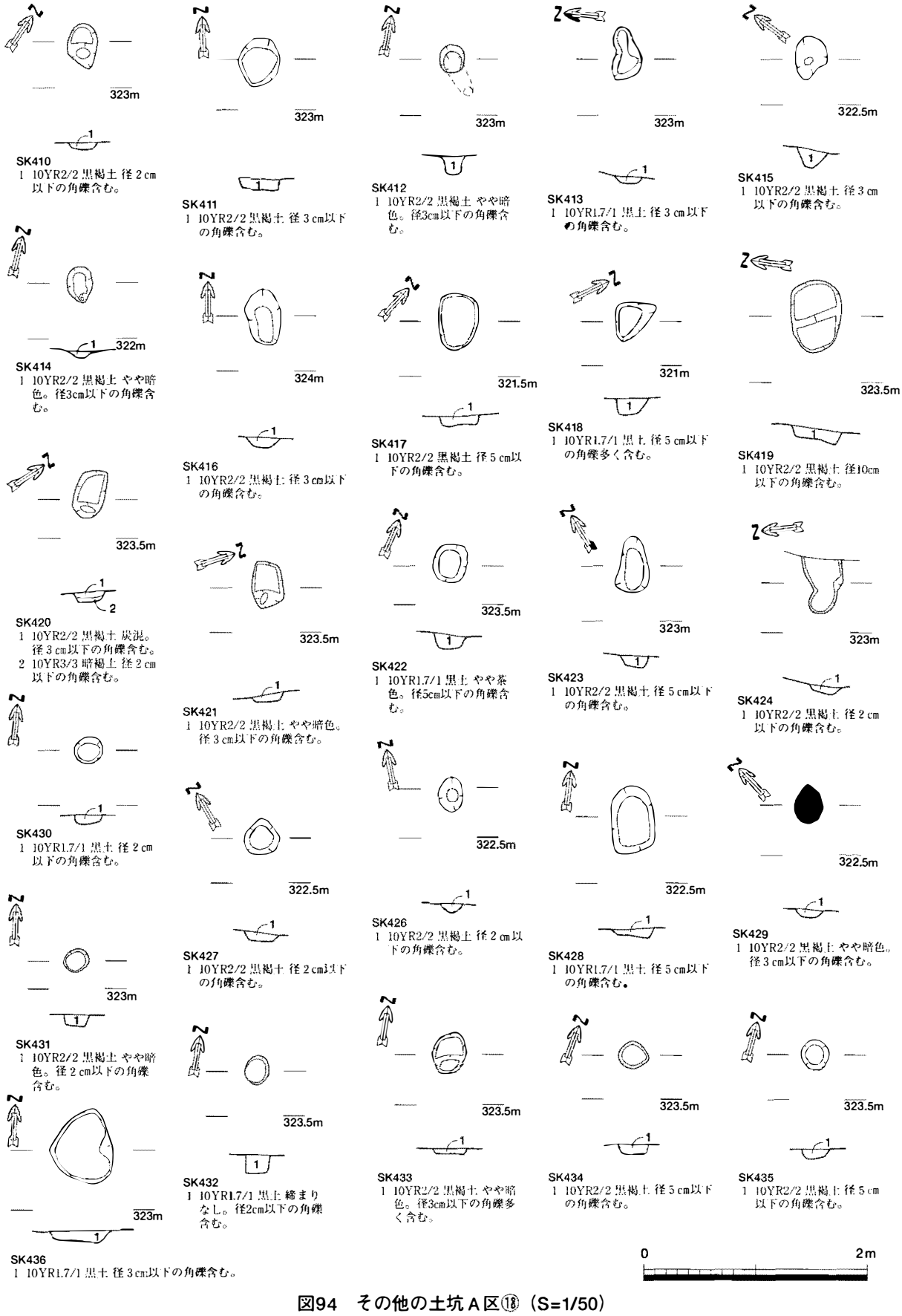


図94　その他の土坑A区⑱（S=1/50）

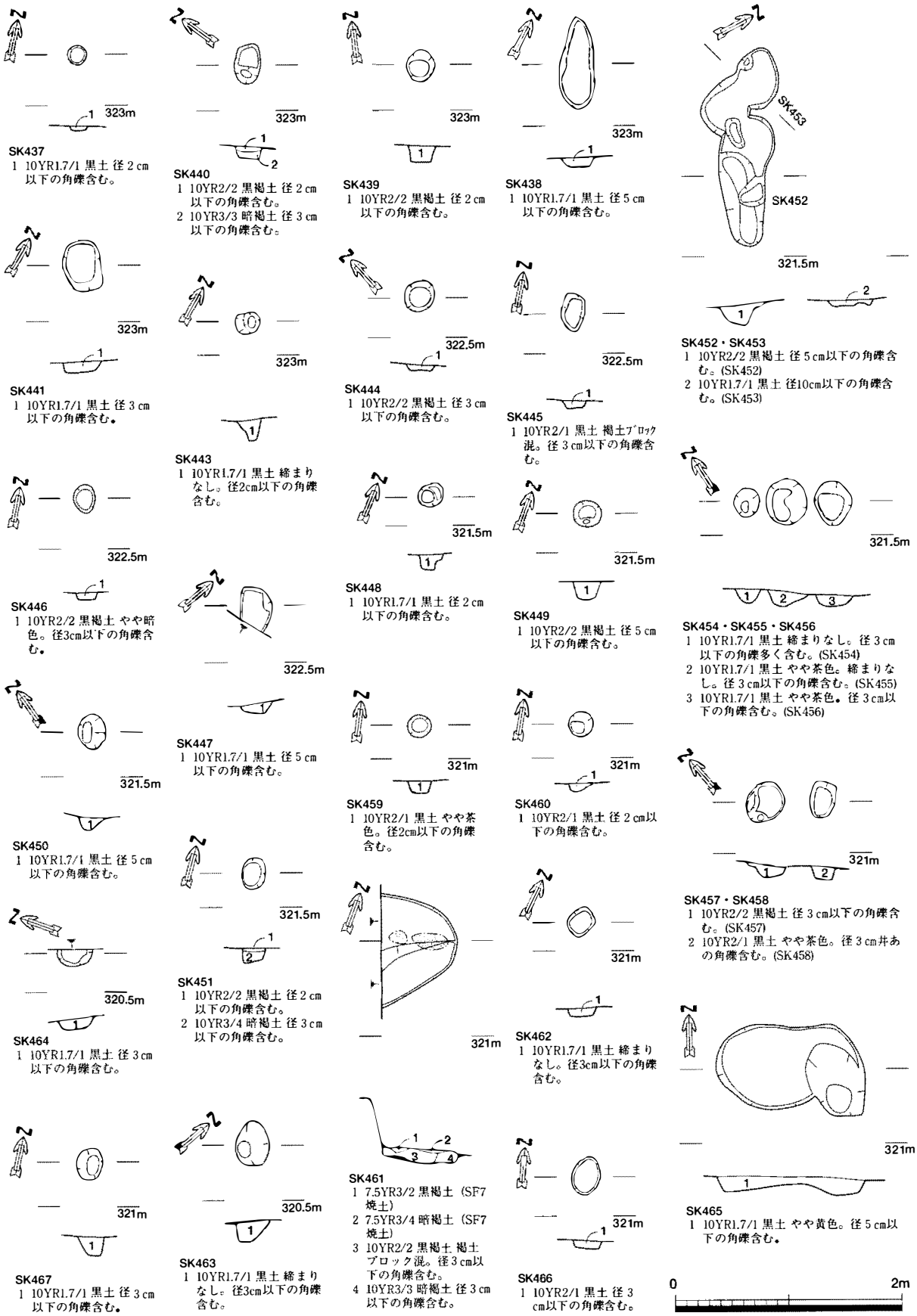


図95　その他の土坑A区⑲（S=1/50）

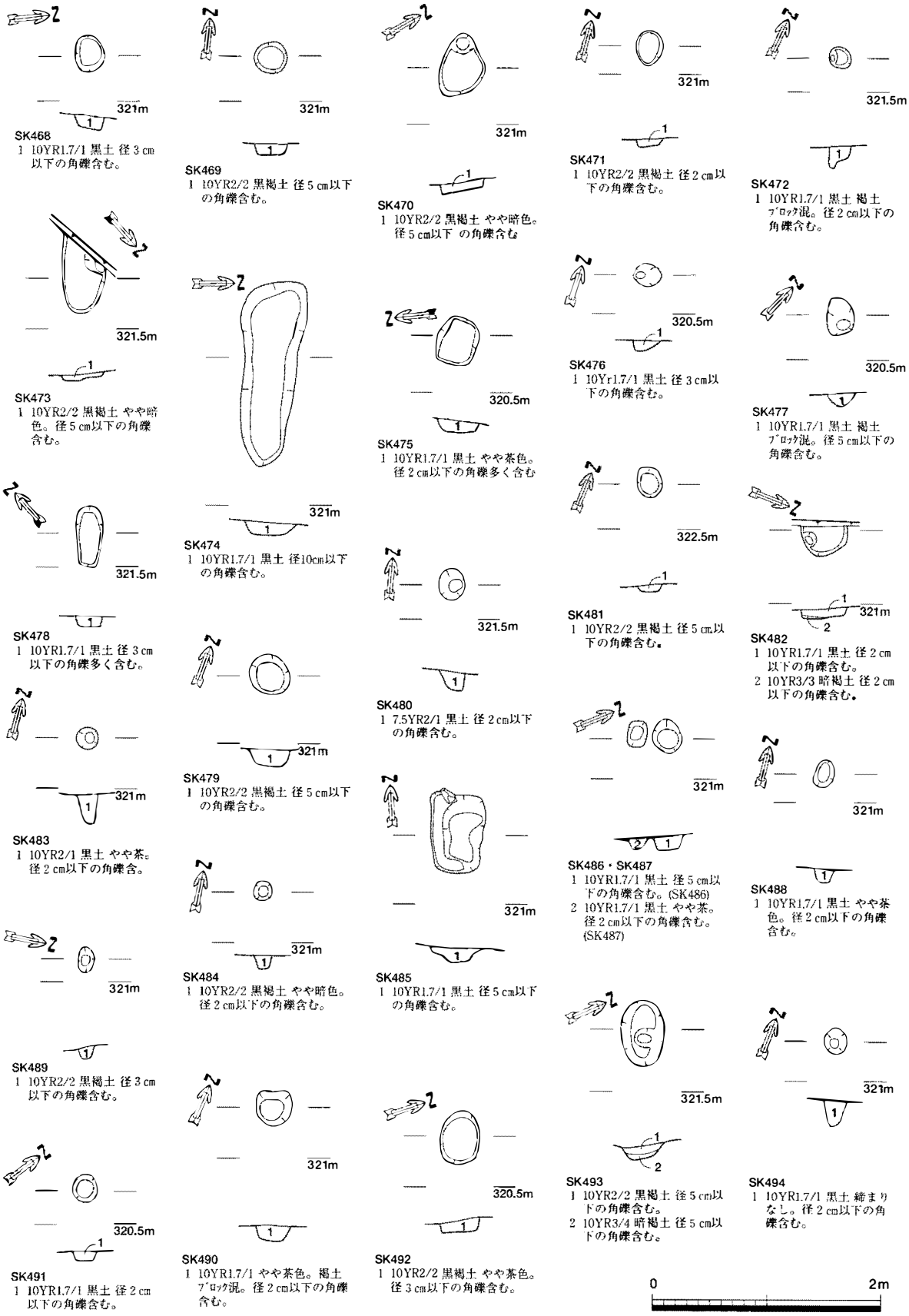


図96　その他の土坑A区⑳（S=1/50）

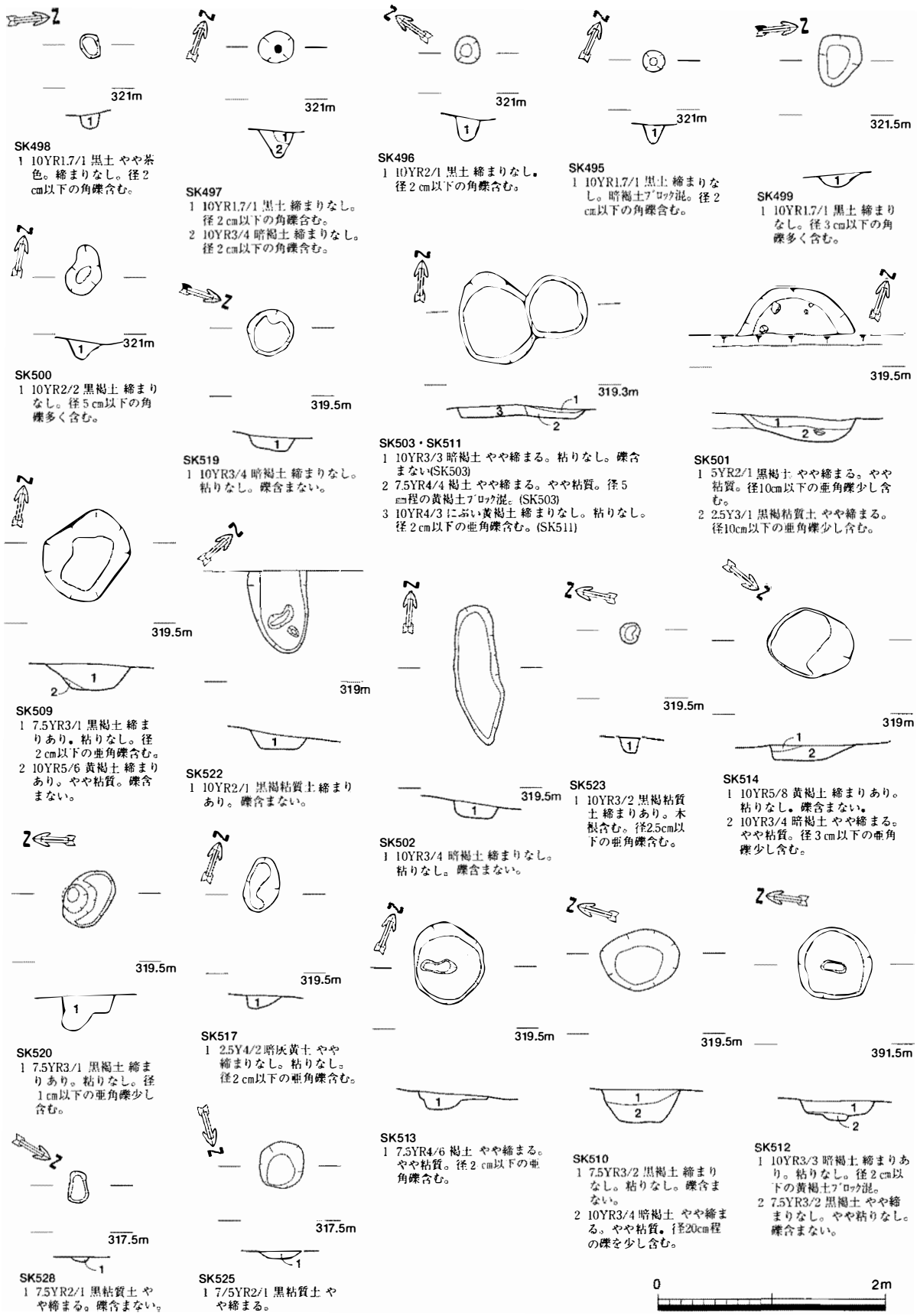


図97　その他の土坑A区㉑、B区①（S=1/50）

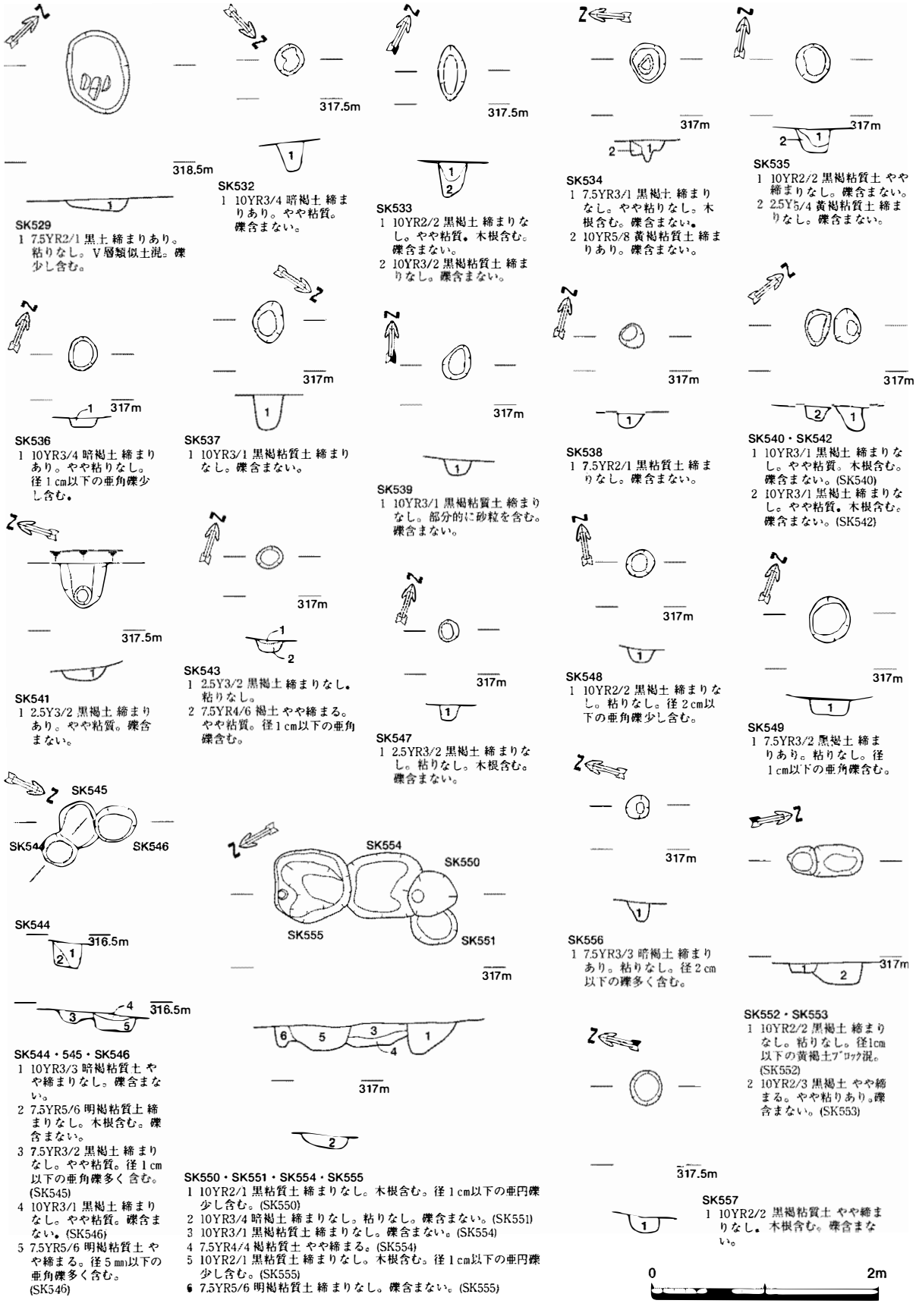


図98　その他の土坑B区②（S=1/50）

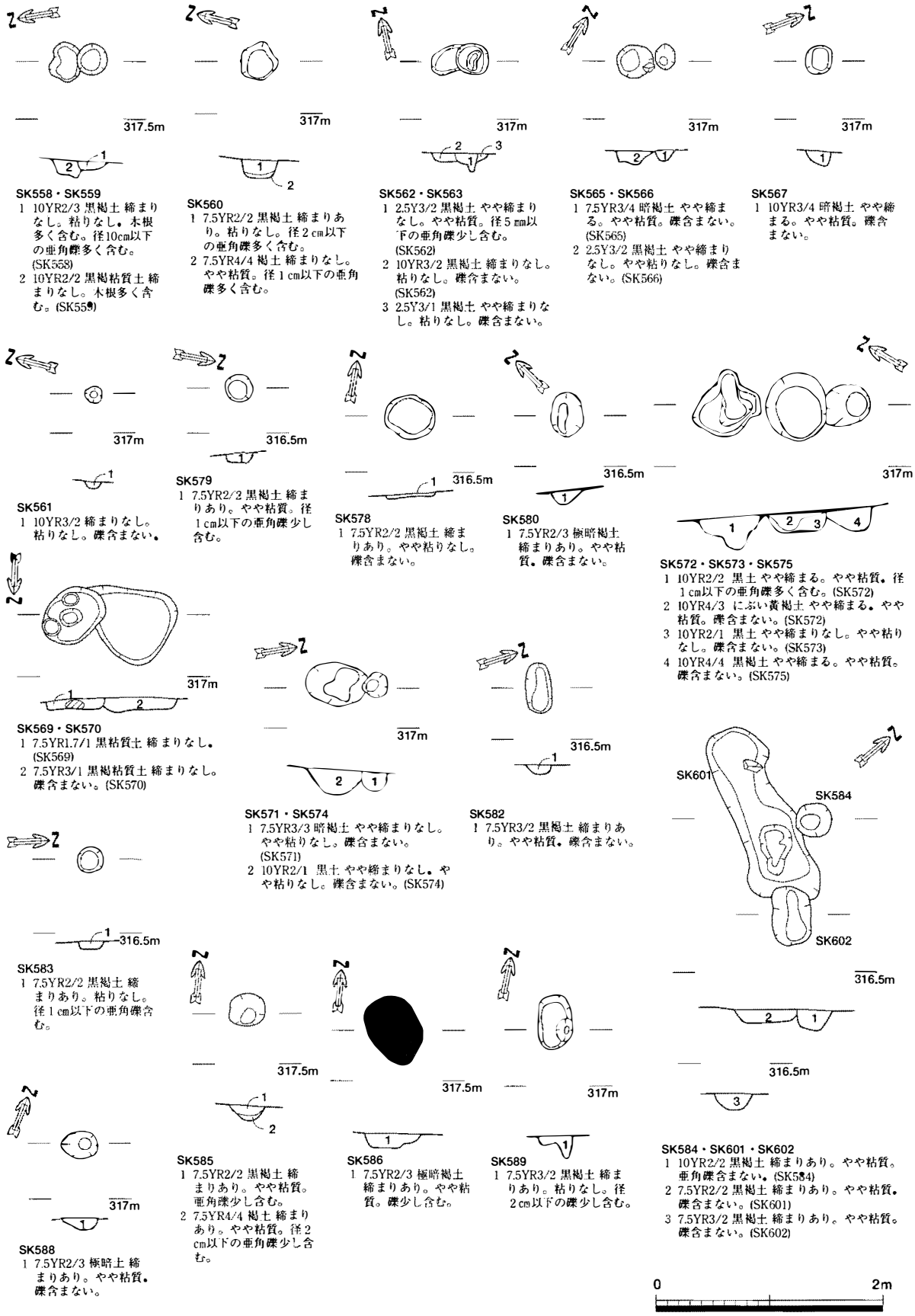
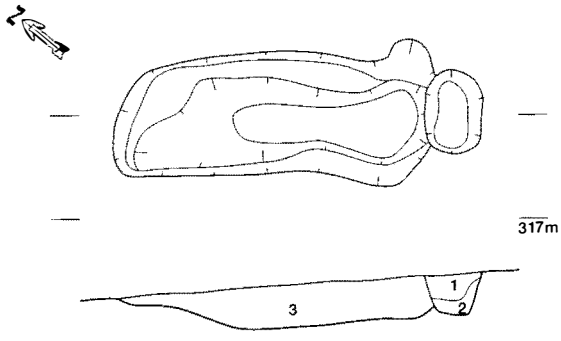
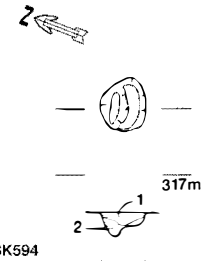


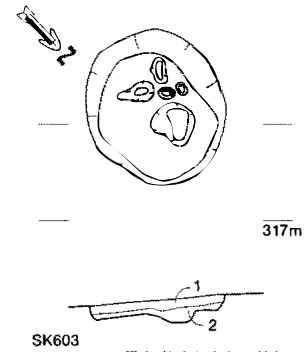
図99　その他の土坑B区③（S=1/50）



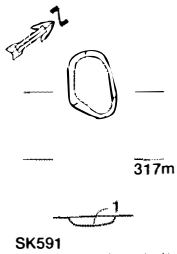
SK592・SK607
1 7.5YR3/1 黒褐粘質土 締まりあり。礫含まない。(SK592)
2 7.5YR2/2 黒褐粘質土 締まりあり。礫含まない。(SK607)
3 7.5YR3/3 暗褐粘質土 締まりあり。礫含まない。(SK607)



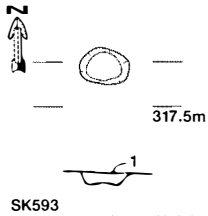
SK594
1 7.5YR2/2 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。
2 7.5YR5/8 明赤褐土 締まりあり。やや粘質。礫少し含む。



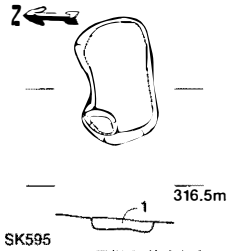
SK603
1 7.5YR2/1 黒土 締まりあり。粘りなし。礫含まない。
2 7.5YR2/2 黒褐土 締まりあり。やや粘質。木根含む。



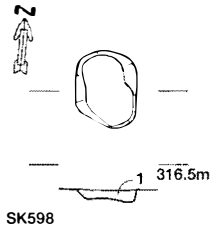
SK591
1 7.5YR2/3 極暗土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。



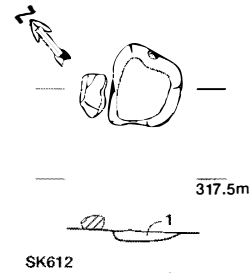
SK593
1 7.5YR3/4 暗褐土 締まりあり。やや粘質。礫少し含む。



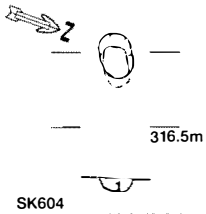
SK595
1 7.5YR2/2 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫少し含む。



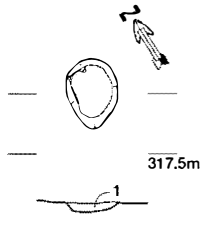
SK598
1 7.5YR2/2 黒褐土 締まりあり。粘りなし。礫少し含む。



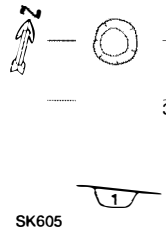
SK612
1 10YR2/3 黒褐土 締まりあり。やや粘質。径1cm以下の亜角礫少し含む。



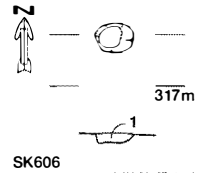
SK604
1 7.5YR2/1 黒土 締まりあり。粘りなし。礫含まない。



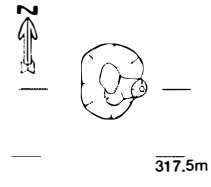
SK608
1 10YR2/3 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。

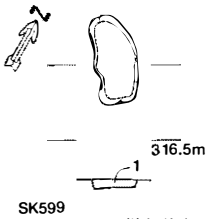


SK605
1 7.5YR3/2 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。

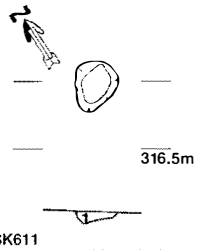


SK606
1 7.5YR3/3 暗褐粘質土 締まりあり。礫含まない。

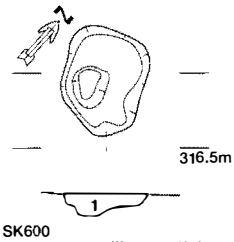




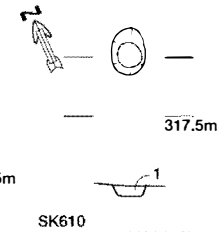
SK599
1 7.5YR2/2 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫少し含む。



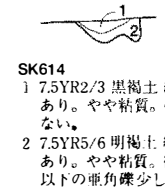
SK611
1 7.5YR3/4 暗褐土 締まりあり。やや粘質。径1cm以下の礫少し含む。



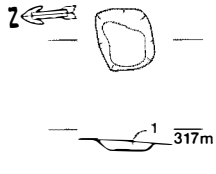
SK600
1 7.5YR2/2 黒褐土 やや締まる。やや粘質。礫含まない。



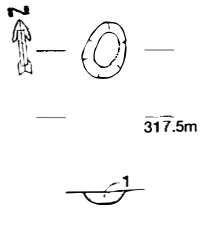
SK610
1 10YR2/3 黒褐土 締まりあり。やや粘質。径1cm以下の礫少し含む。



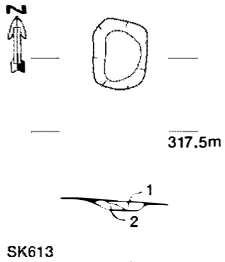
SK614
1 7.5YR2/3 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。
2 7.5YR5/6 明褐土 締まりあり。やや粘質。径1cm以下の亜角礫少し含む。



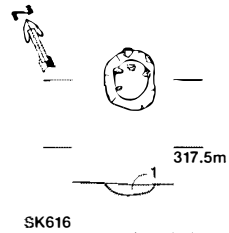
SK615
1 10YR3/3 暗褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。



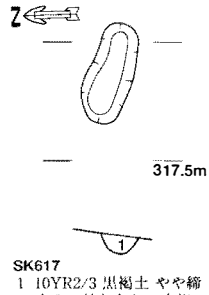
SK609
1 10YR2/3 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。



SK613
1 7.5YR2/3 極暗褐土 締まりあり。やや粘質。径1cm以下の亜角礫少し含む。
2 7.5YR5/6 明褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。



SK616
1 7.5YR3/2 黒褐土 締まりあり。やや粘質。礫含まない。



SK617
1 10YR2/3 黒褐土 やや締まる。粘りなし。木根含む。礫含まない。

図100　その他の土坑B区④（S=1/50）

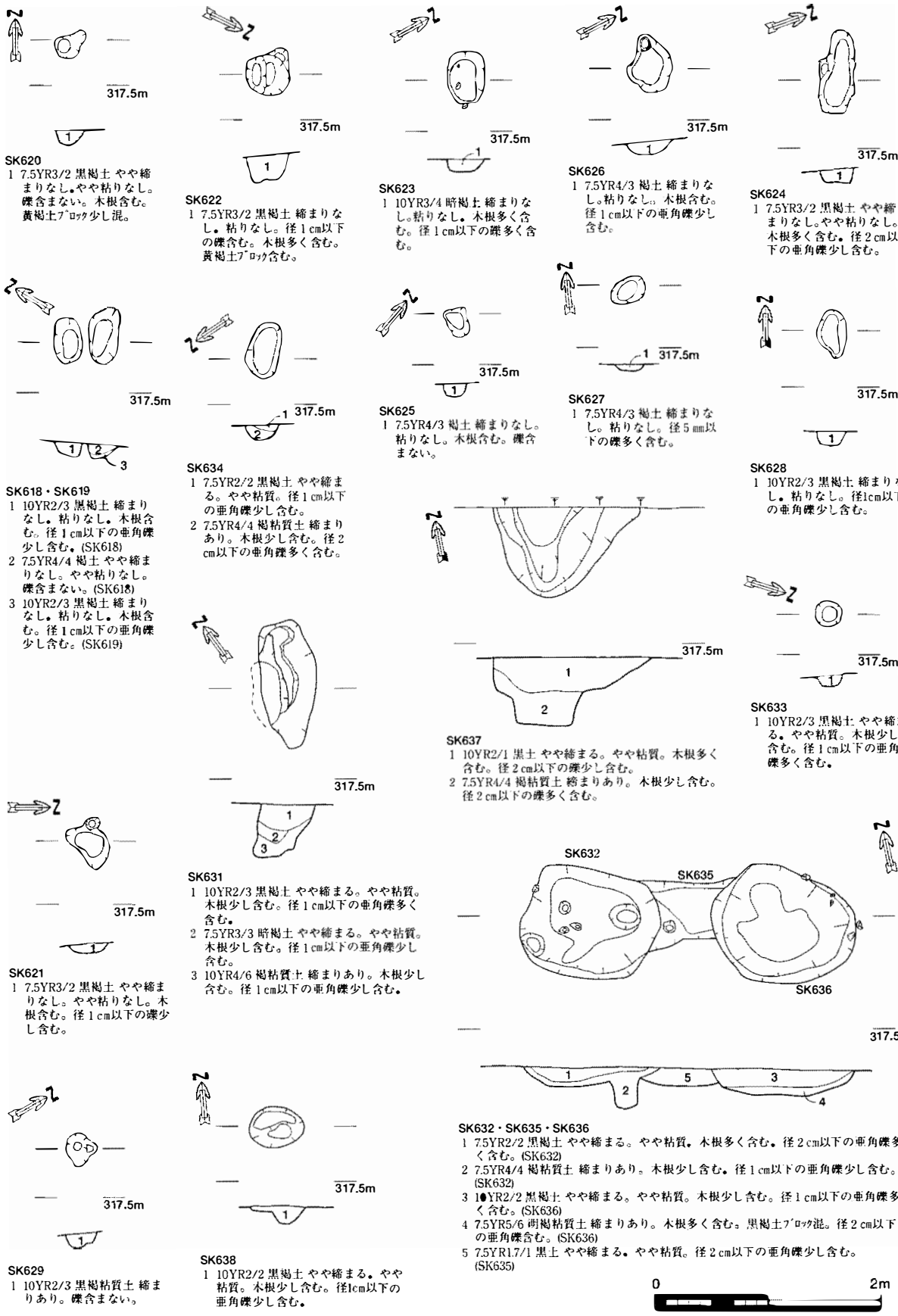


図101　その他の土坑Ｂ区⑤（S=1/50）

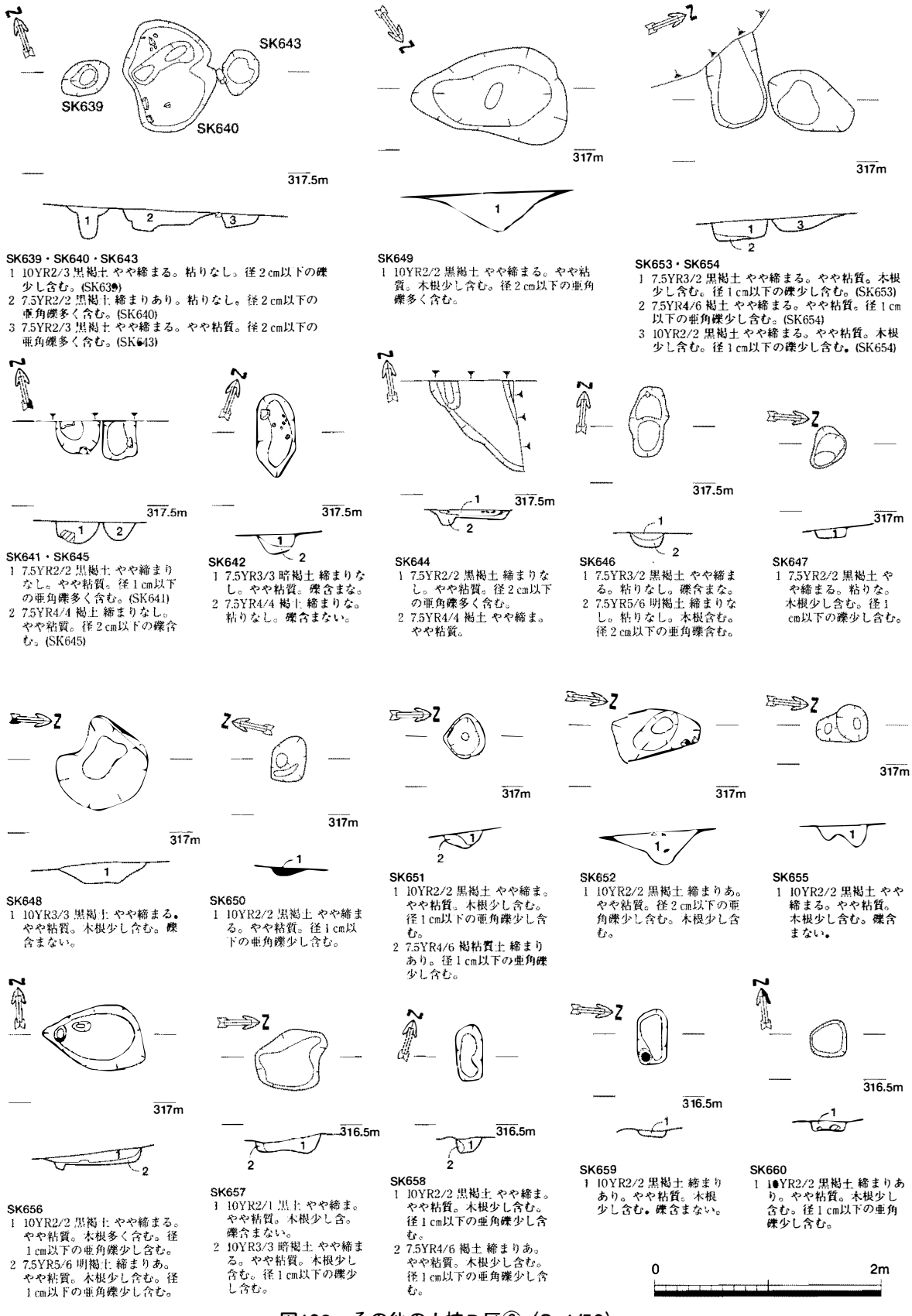


図102　その他の土坑B区⑥（S=1/50）

表24　その他の土坑一覧①

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸			軸		埋土	出土遺物	時期	備考(切り合い関係)
SK1	IJ11	V層上	円形	0.47	0.44	0.4	0.34	0.184	B2c1	北北西	N21° W	1層 A	なし	不明	
SK2	IJ10～IK10	V層上	長楕円形	(0.76)	0.615	(0.7)	0.53	0.118	A1a1	西北西	N58° W	1層 A	なし	不明	＞NW1
SK3															欠番
SK4	IJ11	V層上	楕円形	0.4	0.36	0.31	0.24	0.186	B2c1	北	N10° W	1層 A	なし	不明	底面凹凸

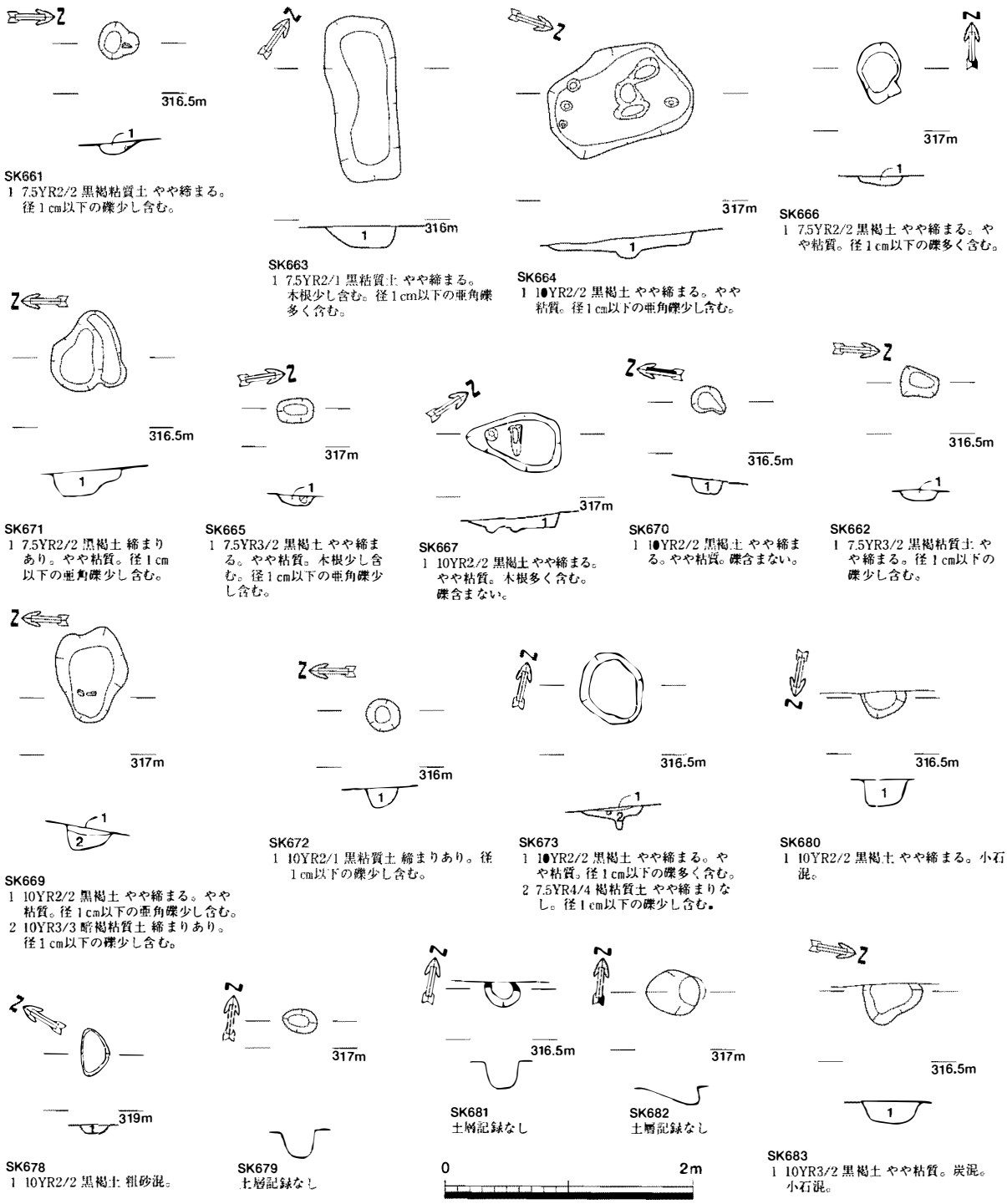


図103　その他の土坑B区⑦（S=1/50）

表25　その他の土坑一覧②

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK5	ＩJ11	Ⅴ層上	楕円形	(0.35)	(0.26)	(0.24)	(0.18)	0.228	B6c1	北北西	N18° W	1層 A	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK7	ＩK8～ＩK9	Ⅳ層中	円形	0.6	0.54	0.45	0.4	0.19	B2a1	北北東	N33° E	2層 C	なし	不明	
SK8	ＩK9	Ⅳ層中	長楕円形	0.645	0.4	0.47	0.3	0.149	B2a1	東	N85° E	1層 A	なし	不明	
SK9	ＩK8	Ⅳ層中	長楕円形	0.83	0.55	0.74	0.46	0.163	B1a1	北北東	N29° E	1層 A	なし	不明	
SK10	ＩJ10	Ⅴ層上	楕円形	0.48	0.41	0.4	0.31	0.134	A2a1	北	N11° E	1層 A	なし	不明	
SK11	ＩK10	Ⅴ層上	円形	0.34	0.34	0.26	0.245	0.14	B2a1	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK12	ＩK11	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.69	0.53	0.46	0.24	0.301	A2b1	北北西	N18° W	1層 A	なし	不明	
SK13	ＩK10	Ⅴ層上	楕円形	0.85	0.71	0.57	0.44	0.115	A1a1	北東	N48° E	1層 A	なし	不明	
SK14	ＩJ9	Ⅳ層中	不整楕円形	1.04	0.88	0.84	0.63	0.373	A2a1	北北西	N29° W	2層 E	RF	縄文	人為埋土、墓坑？
SK15	ＩJ9～ＩK9	Ⅳ層中	長楕円形	1.62	0.96	1.29	0.52	0.281	B1b1	北西	N39° W	3層 F	なし	不明	
SK16	ＩL9	Ⅳ層中	楕円形	0.81	0.56	0.67	0.49	0.161	B1a1	東北東	N75° E	1層 A	なし	不明	
SK17	ＩK10～ＩL10	Ⅳ層中	不整長楕円形	1.57	0.66	1.48	0.57	0.169	B1a1	東北東	N62° E	1層 A	なし	不明	
SK18	ＩK9～ＩK10・ＩL10	Ⅳ層中	長楕円形	1.4	0.7	1.32	0.56	0.212	B2a1	北	N2° E	1層 A	なし	不明	
SK19	ＩK9	Ⅳ層中	楕円形	0.54	0.46	0.4	0.33	0.31	B2a1	東北東	N74° E	2層 B	なし	不明	人為埋土
SK20	ＩL8	Ⅳ層中	不整長楕円形	0.55	0.29	0.47	0.2	0.13	A2c1	北	N10° W	1層 A	なし	不明	
SK21	ＩL8	Ⅳ層中	長楕円形	0.37	0.29	0.31	0.2	0.12	B2c1	北西	N40° W	1層 A	なし	不明	
SK22	ＩL8～ＩL9	Ⅳ層中	円形	0.39	0.4	0.34	0.33	0.111	A1a1	北	N7° E	1層 A	なし	不明	
SK23	ＩL9	Ⅳ層中	長楕円形	0.58	0.33	0.48	0.26	0.1	B2a1	西	N87° W	1層 A	なし	不明	
SK24	ＩM8	Ⅴ層上	不整円形	0.48	0.35	0.28	0.24	0.14	B2a2	北西	N42° W	1層 A	なし	不明	
SK26	ＩJ11	Ⅴ層上	長楕円形	0.71	0.35	0.55	0.25	0.154	A2b1	北西	N41° W	1層 A	なし	不明	
SK27	ＩJ11	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.41	0.25	0.33	0.15	0.107	B2a1	北西	N58° W	1層 A	なし	不明	
SK28	ＩK12	Ⅴ層上	不整円形	0.62	0.52	0.57	0.48	0.125	B1a2	東	N82° E	1層 A	なし	不明	
SK29	ＩK10	Ⅴ層上	長楕円形	0.34	0.34	0.29	0.19	0.15	B2a1	北北東	N15° W	1層 A	なし	不明	＞SK30
SK30	ＩK10	Ⅴ層上	長楕円形	0.43	0.31	0.35	0.23	0.139	A2a1	北	N8° W	1層 A	なし	不明	＜SK29
SK31	ＩK10	Ⅴ層上	楕円形	0.35	0.27	0.26	0.21	0.1	A2a1	北	N8° W	1層 A	なし	不明	
SK32	ＩK10～ＩL10	Ⅴ層上	楕円形	0.33	0.35	0.24	0.17	0.11	A2a1	北北東	N17° E	1層 A	なし	不明	
SK33	ＩK10～ＩL10	Ⅴ層上	円形	0.35	0.29	0.27	0.24	0.14	C2a1	東北東	N69° E	1層 A	なし	不明	
SK34	ＩL9	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.73	0.48	0.67	0.38	0.14	B1a1	北西	N38° W	1層 A	なし	不明	
SK35	ＩL10	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.8	0.43	0.69	0.21	0.253	A2a1	北北東	N28° E	2層 B	なし	不明	
SK36	ＩN9	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.78	0.85	0.65	0.36	0.16	B1c1	北	N9° E	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK37	ＩN9	Ⅴ層上	不整方形	1.22	1.15	0.91	0.86	0.38	B2a1	東北東	N70° E	2層 B	なし	不明	人為埋土
SK38	ＩK11～ＩL11	Ⅴ層上	不整円形	0.36	0.35	0.28	0.27	0.199	B2b1	東	N82° E	1層 A	なし	不明	
SK39	ＩL11	Ⅴ層上	円形	0.4	0.37	0.2	0.17	0.24	B2a1	東	N8° E	1層 A	なし	不明	試掘時検出、＜NW2
SK40	ＩK12	Ⅴ層上	不整長楕円形	1.57	0.76	1.24	0.43	0.28	C2c1	北西	N36° W	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK41	ＩM9	Ⅴ層上	不整長方形	0.92	0.7	0.67	0.53	0.389	B2a2	北西	N39° W	2層 D	なし	不明	
SK42	ＩM10	Ⅴ層上	円形	0.39	0.34	0.24	0.22	0.137	A2a1	北北東	N26° E	1層 A	なし	不明	
SK43	ＩM10	Ⅴ層上	長楕円形	1.14	0.54	0.92	0.42	0.285	B2a1	東	N81° E	2層 C	剥片類	縄文	
SK44	ＩN9	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.62	0.48	0.53	0.24	0.204	C2c1	東北東	N67° E	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK45	ＩM10～ＩM11	Ⅴ層上	不整円形	0.48	0.4	0.4	0.34	0.187	B2a1	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	
SK46	ＩM11	Ⅴ層上	楕円形	0.56	0.42	0.24	0.17	0.229	B2a1	北東	N39° E	1層 A	なし	不明	
SK47	ＩM10～ＩN10	Ⅴ層上	不整楕円形	0.82	0.6	0.55	0.39	0.24	B2c1	西北西	N62° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK48	ＩN10	Ⅴ層上	楕円形	0.72	0.51	0.66	0.45	0.314	C2c1	北西	N39° W	2層 C	なし	不明	根株痕？
SK49	ＩL13	Ⅴ層上	不整楕円形	0.63	0.49	0.53	0.4	0.18	B2b1	北西	N52° W	1層 A	なし	不明	

表26　その他の土坑一覧③

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK50	ＩL13	V層上	不整長楕円形	1.22	0.68	0.99	0.58	0.24	B2a1	西北西	N58° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK51	ＩL10	V層上	楕円形	0.33	0.39	0.22	0.17	0.232	B2a1	東北東	N64° E	1層 A	なし	不明	＜NW2
SK52															欠番
SK53	ＩM11	V層上	長楕円形	0.63	0.38	0.5	0.33	0.154	B2a2	北西	N55° W	1層 A	なし	不明	人為埋土、墓坑？
SK54	ＩM11	V層上	長楕円形	0.78	0.4	0.7	0.34	0.13	B2a2	西北西	N73° W	1層 A	なし	不明	
SK55	ＩM11	V層上	長楕円形	0.7	0.39	0.59	0.31	0.165	B2a1	北北西	N19° W	1層 A	なし	不明	
SK57	ＩM11	V層上	不整長楕円形	1.56	0.66	1.48	0.59	0.16	B1b1	北北西	N31° W	1層 A	なし	不明	＞SK66
SK58	ＩM11～ＩN11	V層上	不整長楕円形	1.9	0.75	1.78	0.7	0.398	B2c1	北北西	N12° W	2層 B	なし	不明	
SK59	ＩN10	V層上	不整楕円形	0.63	0.49	0.55	0.36	0.22	B2a1	北東	N37° E	2層 B	なし	不明	
SK60	ＩN10	V層上	不整円形	0.48	0.52	0.37	0.37	0.16	B2a1	西北西	N59° W	1層 A	なし	不明	
SK61	ＩN10	V層上	不整円形	0.8	0.56	0.48	0.42	0.296	A2a1	北東	N45° E	1層 A	なし	不明	
SK62	ＩL12	V層上	不定形	1.14	0.79	0.94	0.58	0.441	C2c1	北西	N56° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK63	ＩL12	V層上	長楕円形	0.94	0.59	0.89	0.54	0.34	B2c1	西北西	N72° W	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK64	ＩL12	V層上	楕円形	1.01	0.83	0.9	0.71	0.248	B1c1	北西	N44° W	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK65	ＩL12～ＩM12	V層上	不整楕円形	1.02	0.72	0.96	0.67	0.25	C2c1	北	N10° W	2層 B	なし	不明	根株痕？
SK66	ＩM11～ＩN11	V層上	楕円形	1.87	1.5	1.76	1.4	0.2	B1a2	北北西	N13° W	1層 A	なし	不明	＜SK57
SK67	ＩN11	V層上	楕円形	0.68	0.53	0.55	0.43	0.171	B2a1	西北西	N61° W	1層 A	なし	不明	
SK68	ＩN11	V層上	不整楕円形	0.95	0.66	0.83	0.59	0.171	B1a1	北	N10° E	1層 A	剥片類	縄文	
SK69	ＩM12	V層上	不整楕円形	0.77	0.59	0.69	0.51	0.113	B1a1	北	N10° E	1層 A	なし	不明	
SK70															欠番
SK71	ＩN13	V層上	不定形	1.97	1.7	0.96	0.53	0.41	C1a1	北北西	N17° W	2層 B	なし	不明	＞SK102
SK72	ＩN12	V層上	不定形	(0.88)	(0.93)	0.75	0.7	0.652	B6a1	北北西	N22° W	4層 E	なし	不明	人為埋土？
SK73	ＩN13	V層上	円形	0.73	0.55	0.52	0.44	0.211	B2a1	北西	N54° W	2層 C	なし	不明	
SK74	ＩN13	V層上	長楕円形	0.46	0.35	0.39	0.26	0.206	B2a1	西	N79° W	1層 A	なし	不明	
SK75	ＩN13	V層上	不整円形	0.5	0.45	0.32	0.3	0.181	A2a1	北	N4° E	1層 A	なし	不明	
SK76	ＩN13	V層上	不整楕円形	0.36	0.36	0.3	0.23	0.113	B2a2	北東	N53° E	1層 A	なし	不明	
SK77	ＩN13	V層上	楕円形	0.44	0.35	0.32	0.25	0.11	B2a1	北西	N45° W	1層 A	なし	不明	
SK78	ＩN12	V層上	不整長楕円形	(0.75)	(0.51)	(0.58)	(0.31)	0.323	B6b1	西北西	N66° W	1層 A	Z2群土器	前期後葉	
SK79	ＩO12	V層上	不整楕円形	0.32	0.3	0.26	0.19	0.114	B2a1	北	N3° W	1層 A	なし	不明	
SK80	ＩO11	V層上	楕円形	0.59	0.5	0.48	0.34	0.116	B1a1	東北東	N60° E	1層 A	なし	不明	
SK81	ＩO11	V層上	不整楕円形	0.53	0.46	0.44	0.35	0.139	B2a1	西	N90° W	1層 A	なし	不明	
SK82	ＩO11	V層上	楕円形	0.35	0.28	0.24	0.18	0.056	B1a1	北北東	N31° E	1層 A	なし	不明	
SK83	ＩO10～ＩP10	V層上	不整円形	0.43	0.52	0.37	0.33	0.2	B2b1	北西	N40° W	1層 A	なし	不明	
SK84	ＩO12	V層上	長楕円形	0.35	0.25	0.25	0.15	0.168	C2a1	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	
SK85	ＩO12	V層上	不整長楕円形	0.69	0.49	0.59	0.39	0.12	B1a1	北東	N35° E	1層 A	なし	不明	
SK86	ＩO12	V層上	楕円形	0.28	0.2	0.18	0.13	0.136	B2a1	東北東	N78° E	1層 A	なし	不明	
SK87	ＩN14	V層上	不整楕円形	0.36	0.35	0.29	0.23	0.138	B2a1	北北東	N14° E	1層 A	なし	不明	
SK88	ＩP12	V層上	不整円形	0.68	0.62	0.57	0.5	0.181	C1a1	東北東	N72° E	1層 A	なし	不明	
SK89	ＩP11	V層上	長楕円形	(0.32)	0.28	(0.25)	0.16	0.12	A2a1	北	N1° W	1層 A	なし	不明	
SK90															欠番
SK91															欠番
SK92	ＩP10～ＩQ10	V層上	不定形	(2.05)	1.38	(1.85)	1.1	0.499	B2b1	北北東	N30° E	2層 B	S3群・J群土器	早期末	＜SK124 ＞NW5
SK93	ＩP10	V層上	不整楕円形	0.96	0.61	0.45	0.37	0.33	C2a1	東北東	N58° E	4層 H	Z2群土器、剥片類	前期後葉	＞SK124
SK94															欠番
SK95	ＩP10	V層上	楕円形	0.9	0.54	0.74	0.5	0.21	B2a2	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	
SK96	ＩP11	V層上	長楕円形	1.1	0.38	0.98	0.26	0.146	B2a1	北西	N44° W	1層 A	なし	不明	

表27　その他の土坑一覧④

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK97	ⅠP11	Ⅴ層上	長楕円形	0.39	0.26	0.3	0.18	0.09	B2a1	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK98	ⅠP11	Ⅴ層上	不整長楕円形	(0.46)	0.3	0.35	0.22	0.195	B2a1	北	N22° W	1層 A	なし	不明	
SK99	ⅠP12	Ⅴ層上	円形	0.49	0.4	0.36	0.34	0.14	B2a2	北北西	N27° W	1層 A	なし	不明	
SK100	ⅠN14～ⅠO14	Ⅴ層上	不定形	2.2	(1.24)	2.07	(1.16)	0.18	B1b1	北東	N41° E	1層 A	剥片類	縄文	
SK101	ⅠP12	Ⅴ層上	長楕円形	0.38	0.33	0.3	0.18	0.107	A2a1	西	N82° W	1層 A	なし	不明	
SK102	ⅠN13	Ⅴ層上	長楕円形	0.68	0.43	0.59	0.35	0.124	A1a1	東北東	N71° E	1層 A	なし	不明	＜SK71
SK103															欠番
SK106	ⅠP16	Ⅴ層上	不定形	1.16	0.91	1.09	0.77	0.123	A1c1	北北東	N20° E	2層 B	なし	不明	底面凹凸
SK108															欠番
SK109															欠番
SK110	ⅠQ14～ⅠR14	Ⅴ層上	楕円形	0.42	0.35	0.34	0.27	0.067	A1a1	北北東	N17° E	1層 A	なし	不明	底面凹凸
SK111	ⅠR13～ⅠR14	Ⅴ層上	円形	0.31	0.3	0.15	0.14	0.258	A3a2	北北東	N10° E	1層 A	J群土器、切目石錘	中期以降	柱穴状の穴
SK112	ⅠP10	Ⅴ層上	円形	0.59	(0.5)	0.19	0.19	0.442	B3a1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	＜NW4、柱穴状の穴
SK113	ⅠR15～ⅠR16	Ⅴ層上	楕円形	0.41	0.39	0.28	0.22	0.222	B2b1	北北西	N12° W	3層 B	なし	不明	
SK114	ⅠR15	Ⅴ層上	楕円形	0.84	0.57	0.7	0.48	0.184	B2b1	東北東	N75° E	1層 A	J群土器	縄文	
SK116	ⅠS14	Ⅴ層上	不整長楕円形	2.6	1.26	2.41	1.08	0.25	B1a1	西北西	N62° W	1層 A	石鏃	縄文	＜NW9
SK117															欠番
SK118															欠番
SK119	ⅠS14～ⅠT14	Ⅴ層上	不整長楕円形	(1.6)	(1.18)	(1.51)	(0.4)	0.473	A6a1	北北西	N29° W	2層 B	なし	不明	＜NW8
SK120	ⅠR13～ⅠR14	Ⅴ層上	不定形	(2.24)	(1.73)	(2.07)	(1.55)	0.13	B1a1	東北東	N60° E	2層 C	J群土器	早期？	＜SK115・SB3
SK121	ⅠR11	Ⅴ層上	不整楕円形	0.47	0.37	0.35	0.26	0.11	A1a1	北西	N55° W	1層 A	なし	不明	
SK123	ⅠR13	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.95	0.53	0.82	0.39	0.136	B1a1	北西	N46° W	1層 A	J群土器	縄文	2基の小土坑の重複？
SK126	ⅠR12	Ⅴ層上	不整円形	0.59	0.57	0.37	0.32	0.199	A2a1	北	N3° E	1層 A	楔形石器	縄文	
SK127	ⅠR12	Ⅴ層上	楕円形	0.48	0.45	0.4	0.3	0.1	B1a1	東北東	N69° E	1層 A	なし	不明	
SK128	ⅠS13	Ⅴ層上	長楕円形	0.48	0.3	0.27	0.15	0.147	A2a1	北西	N46° W	1層 A	なし	不明	
SK129	ⅠS13	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.43	0.26	0.31	0.13	0.12	A2a1	西北西	N68° W	1層 A	なし	不明	
SK130															欠番
SK131	ⅠS13～ⅠT13	Ⅴ層上	不整円形	0.39	0.31	0.25	0.23	0.15	B2a1	東北東	N72° E	1層 A	なし	不明	
SK132															欠番
SK133	ⅠS10	SB2埋土上	楕円形	0.45	0.35	0.32	0.24	0.12	B2a1	北北東	N32° E	1層 A	剥片類	不明	＞SB2
SK134	ⅠS10～ⅠS11	SB2埋土上	長楕円形	0.59	0.4	0.52	0.3	0.09	B1a1	東	N82° E	1層 A	なし	不明	＞SB2
SK135	ⅠR15	Ⅴ層上	不整楕円形	0.38	0.34	0.26	0.2	0.136	A2b1	北東	N50° E	1層 A	J群土器	縄文	
SK136	ⅠR15	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.68	0.34	0.57	0.25	0.11	B2a1	北	N9° W	2層 C	なし	不明	
SK137	ⅠQ15	Ⅴ層上	円形	0.31	(0.32)	0.21	0.2	0.107	A2a1	東	N79° E	1層 A	なし	不明	＜NW7
SK138	ⅠR15～ⅠS15	Ⅴ層上	長楕円形	0.36	0.25	0.3	0.19	0.16	C2a2	北	N5° E	1層 A	なし	不明	
SK139	ⅠR15～ⅠS15	Ⅴ層上	不整楕円形	0.33	0.3	0.24	0.19	0.13	C2a1	北	N10° E	1層 A	なし	不明	
SK140	ⅠS15	Ⅴ層上	円形	0.28	0.27	0.2	0.18	0.09	B2a1	北西	N54° W	1層 A	なし	不明	
SK141	ⅠS15	Ⅴ層上	楕円形	0.33	0.27	0.26	0.21	0.13	B2a1	北	N9° E	1層 A	Z2群土器	前期後葉	
SK142	ⅠS12	Ⅴ層上	長楕円形	1.26	0.69	1.2	0.64	0.123	B1a1	北東	N45° E	1層 A	なし	不明	
SK143	ⅠS14～ⅠS15	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.66	0.5	0.56	0.26	0.21	B2a1	北西	N48° W	2層 B	なし	不明	
SK144	ⅠT12	Ⅴ層上	長楕円形	1.42	0.68	1.35	0.61	0.18	B1b1	北	N3° E	1層 A	なし	不明	
SK146	ⅠR13	Ⅴ層上	不整円形	0.39	0.22	0.1	0.09	0.22	C3a1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK147	ⅠQ14	Ⅴ層上	円形	0.19	0.18	0.12	0.11	0.12	B2a1	北北西	N14° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴

表28　その他の土坑一覧⑤

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK149	ＩS12	V層上	不整楕円形	0.48	0.36	0.38	0.27	0.13	B2a1	北東	N39° E	2層 C	なし	不明	
SK150	ＩS11	V層上	不定形	0.93	0.53	0.67	0.42	0.2	B2c1	北西	N37° W	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK151	ＩS11	V層上	不整長楕円形	1.26	0.67	1.15	0.51	0.29	B2c1	北北東	N30° E	1層 A	なし	不明	＞SK152
SK152	ＩS11	V層上	不明	(0.6)	(0.24)	(0.52)	(0.18)	0.126	B6d1	北東	N47° E	1層 A	なし	不明	＜SK151
SK153	ＩR14～ＩS14	SB3床面	不整楕円形	1.47	1.27	1.35	1.07	0.17	A1a1	北北西	N28° W	2層 B	S3群土器	早期末	SF4掘り込み、＜SP23
SK155	ＩQ9	V層上	楕円形	0.24	0.25	0.18	0.15	0.168	B2a1	北北西	N12° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK156	ＩQ9	V層上	円形	0.19	0.16	0.13	0.12	0.1	B2a1	北	N1° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK157	ＩQ9	V層上	不整円形	0.21	0.21	0.13	0.12	0.195	A3a2	北北東	N21° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK158	ＩQ9	V層上	長楕円形	0.33	0.24	0.26	0.16	0.11	B2a1	北西	N52° W	1層 A	なし	不明	
SK159	ＩQ8	V層上	楕円形	0.28	0.25	0.22	0.18	0.09	B2a1	北	N11° W	1層 A	なし	不明	
SK160	ＩQ8	V層上	円形	0.23	0.23	0.09	0.08	0.2	C3a1	東	N83° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK161	ＩQ8	V層上	不定形	0.34	0.34	0.23	0.18	0.116	B2a1	北北東	N23° E	1層 A	なし	不明	
SK162	ＩQ8	V層上	不定形	0.83	0.4	0.74	0.23	0.16	B2b1	北東	N34° E	1層 A	なし	不明	
SK163	ＩR8	V層上	長楕円形	0.28	0.22	0.2	0.13	0.1	B2a1	北東	N49° E	1層 A	なし	不明	
SK164	ＩR9	V層上	不定形	0.7	0.42	0.64	0.37	0.08	B1a1	北西	N49° W	1層 A	なし	不明	
SK165	ＩR9	V層上	不定形	0.88	0.47	0.8	0.44	0.21	C2c2	東北東	N57° E	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK166	ＩQ8	V層上	不定形	0.55	0.4	0.47	0.36	0.1	B1a1	北北東	N32° E	1層 A	なし	不明	
SK167	ＩQ8	V層上	不整楕円形	0.29	0.23	0.23	0.18	0.2	B3b1	西	N82° W	1層 A	なし	不明	
SK168	ＩQ8	V層上	楕円形	0.29	0.24	0.18	0.15	0.195	B3a1	北東	N31° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK169															欠番
SK170	ＩQ7	V層上	円形	0.27	0.33	0.14	0.12	0.12	B2a1	北	N10° E	1層 A	なし	不明	
SK171	ＩQ7	V層上	不整円形	0.3	0.3	0.23	0.205	0.08	B1a1	西	N82° W	1層 A	なし	不明	
SK172	ＩQ7	V層上	長楕円形	0.33	0.2	0.25	0.13	0.17	B3b2	北西	N39° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK173	ＩQ7	V層上	円形	0.18	0.17	0.13	0.11	0.215	B4a2	北北西	N12° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK174	ＩR7	V層上	不整円形	0.29	0.3	0.14	0.12	0.082	A1a1	東北東	N68° E	1層 A	なし	不明	
SK175	ＩR7	V層上	不定形	0.28	0.29	0.23	0.21	0.035	B1a1	西	N79° W	1層 A	なし	不明	
SK176	ＩR7	V層上	不定形	0.84	0.66	0.79	0.61	0.23	B2c2	東北東	N68° E	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK177	ＩR7	V層上	不整楕円形	0.65	(0.42)	0.55	(0.38)	0.15	A2a1	北北東	N17° W	1層 A	Z2群土器	前期後葉	＜NW11
SK178	ＩR7	V層上	円形	0.35	0.26	0.14	0.12	0.117	A2a1	東北東	N61° E	1層 A	なし	不明	
SK179															欠番
SK180	ＩR8	V層上	円形	0.35	0.37	0.24	0.21	0.154	A2a1	北東	N53° E	1層 A	なし	不明	
SK181	ＩR8	V層上	長楕円形	0.4	0.26	0.3	0.19	0.21	B3a1	東北東	N67° E	1層 A	なし	不明	
SK182	ＩS8	V層上	円形	0.26	0.24	0.21	0.18	0.09	B2a1	東	N82° E	1層 A	なし	不明	
SK183	ＩS9	V層上	不定形	0.67	0.51	0.59	0.42	0.207	B2c1	西北西	N60° W	1層 A	なし	不明	
SK184	ＩS9	V層上	円形	0.2	0.2	0.15	0.13	0.1	B2a1	西北西	N74° W	1層 A	なし	不明	
SK185	ＩS9	V層上	円形	0.23	0.23	0.15	0.14	0.15	A2a1	北西	N55° W	1層 A	なし	不明	
SK186	ＩS9	V層上	楕円形	0.3	0.28	0.24	0.17	0.09	B2a1	東北東	N75° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK187	ＩS9	V層上	不定形	0.81	0.42	0.72	0.33	0.174	A2c1	北	N11° E	1層 A	なし	不明	底面凹凸、根株痕？
SK188	ＩR7	V層上	長楕円形	0.29	0.24	0.24	0.16	0.16	B2c1	東北東	N72° E	1層 A	なし	不明	
SK189	ＩR7	V層上	円形	0.22	0.2	0.1	0.09	0.23	A4a1	西北西	N61° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK190	ＩR7	V層上	不定形	0.4	0.27	0.33	0.18	0.16	B2c2	北北西	N28° W	1層 A	なし	不明	
SK191	ＩR7	V層上	不整円形	0.29	0.26	0.17	0.15	0.05	B1a1	西北西	N73° W	1層 A	なし	不明	
SK192	ＩR7	V層上	円形	0.32	0.2	0.09	0.09	0.421	A5a1	北北東	N29° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK193	ＩS8	V層上	円形	0.23	0.23	0.18	0.17	0.2	B3a2	北西	N36° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK194	ＩS8	V層上	長楕円形	0.34	0.24	0.27	0.18	0.19	B3a2	東	N82° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK195	ＩS8	V層上	不整円形	0.27	0.26	0.2	0.17	0.11	A2a1	北	N11° W	1層 A	なし	不明	
SK196	ＩS8	V層上	不整長楕円形	0.38	0.22	0.28	0.12	0.09	B2a2	北東	N42° E	1層 A	なし	不明	
SK197	ＩT12	V層上	不整楕円形	0.48	0.3	0.36	0.16	0.21	B3a2	北北東	N21° E	1層 A	なし	不明	
SK198	ＩT12	V層上	不整長楕円形	0.28	0.18	0.21	0.12	0.13	A3b2	北	N4° E	1層 A	なし	不明	
SK199	ＩT11	V層上	不整楕円形	0.33	0.28	0.3	0.23	0.108	B2b1	北	N4° W	1層 A	なし	不明	
SK200	ＩS8	V層上	円形	0.2	0.2	0.16	0.14	0.07	B2a1	北北西	N17° W	1層 A	なし	不明	
SK201	ＩS8	V層上	不整円形	0.4	0.37	0.33	0.28	0.21	A2a2	西	N81° W	1層 A	なし	不明	

表29　その他の土坑一覧⑥

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK202	ＩS8	V層上	不整楕円形	0.4	0.3	0.31	0.23	0.11	B2a1	北	N9° E	1層 A	なし	不明	
SK203	ＩS8	V層上	不整長楕円形	0.52	0.32	0.46	0.24	0.1	B2a1	北北東	N29° E	1層 A	なし	不明	
SK204	ＩS8	V層上	不定形	0.54	0.37	0.42	0.28	0.08	B1b1	北東	N40° E	1層 A	なし	不明	
SK205	ＩS7	V層上	不定形	0.46	0.35	0.37	0.14	0.11	C2b1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	
SK206	ＩS7	V層上	円形	0.2	0.19	0.16	0.14	0.13	B2a1	北	N0°	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK207	ＩS7	V層上	円形	0.18	0.17	0.1	0.09	0.1	A2a1	東北東	N67° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK208	ＩS7	V層上	楕円形	0.39	0.36	0.29	0.22	0.23	B2a1	西	N84° W	1層 A	なし	不明	
SK209	ＩS7	V層上	円形	0.22	0.21	0.15	0.13	0.2	B3a2	西北西	N59° W	1層 A	磨製石斧	縄文	柱穴状の穴
SK210	ＩS7	V層上	長楕円形	0.39	0.24	0.34	0.2	0.1	B2a2	北	N6° W	1層 A	なし	不明	
SK211	ＩS7	V層上	楕円形	0.31	0.23	0.25	0.17	0.04	B1a1	東北東	N67° E	1層 A	なし	不明	
SK212	ＩT13	V層上	円形	0.26	0.29	0.15	0.14	0.23	B3a1	北東	N34° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK213	ＩT13	V層上	楕円形	0.28	0.24	0.18	0.14	0.23	B3a1	北	N7° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK214	ＩT13	V層上	不定形	0.32	0.24	0.2	0.14	0.09	A2a1	北北西	N26° W	1層 A	なし	不明	
SK215	ＩT13	V層上	円形	0.2	0.18	0.17	0.15	0.2	A4a2	西北西	N61° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK216	ＩT13	V層上	長楕円形	0.34	0.19	0.29	0.13	0.08	A2a1	北北東	N23° E	1層 A	なし	不明	
SK217	ＩT13	V層上	不定形	0.25	0.24	0.18	0.15	0.13	C2a1	北	N7° W	1層 A	なし	不明	
SK218	ＩT13	V層上	不整長楕円形	0.36	0.27	0.28	0.18	0.09	B2a2	北北東	N13° E	1層 A	なし	不明	
SK219	ＩU13	V層上	円形	0.22	0.2	0.18	0.18	0.1	B2a2	西北西	N58° W	1層 A	なし	不明	
SK220	ＩT12～ＩT13	V層上	不定形	0.55	0.36	0.49	0.25	0.163	B2c1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	
SK221	ＩV15	V層上	円形	0.38	0.31	0.12	0.1	0.21	C2a1	北北東	N25° E	1層 A	なし	不明	
SK222	ＩU12～ＩU13	V層上	円形	0.28	0.24	0.2	0.19	0.06	B1a2	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	
SK223	ＩU12	V層上	円形	0.33	0.29	0.1	0.1	0.19	A2a1	西北西	N64° W	1層 A	なし	不明	
SK224	ＩT12	V層上	不定形	0.73	0.42	0.66	0.18	0.24	A2b1	北北西	N15° W	1層 A	剥片類	縄文	
SK225	ＩS11	V層上	不定形	0.51	0.52	0.45	0.32	0.2	B2b1	北北西	N32° W	1層 A	なし	不明	
SK226	ＩS11	V層上	不定形	(0.65)	0.65	(0.59)	0.32	0.22	B2b1	北東	N46° E	1層 A	なし	不明	＜NW6
SK227	ＩR7～ＩS7	V層上	楕円形	0.42	0.32	0.33	0.24	0.126	B2b1	北	N8° W	1層 A	なし	不明	
SK228	ＩS7	V層上	不定形	0.63	0.5	0.45	0.24	0.276	A2b1	北東	N35° E	1層 A	なし	不明	
SK229	ＩS7	V層上	円形	0.32	0.4	0.15	0.13	0.23	B2a1	北	N3° W	1層 A	C3群土器	中期末葉	
SK230	ＩS6～ＩS7	V層上	円形	0.27	0.23	0.18	0.16	0.1	B2a1	北	N7° W	1層 A	なし	不明	
SK231	ＩS7	V層上	長楕円形	0.28	0.18	0.13	0.07	0.08	A2a1	北	N2° W	1層 A	なし	不明	
SK232	ＩS7	V層上	長楕円形	0.33	0.2	0.18	0.11	0.1	B2a1	北	N2° E	1層 A	なし	不明	
SK233	ＩS10	SB2床面	長楕円形	1.23	0.91	1.04	0.8	0.06		北西	N50° W	1層 A	C2群・J群土器、剥片類	中期後葉	SF5掘り込み
SK234	ＩR8	倒木痕下	楕円形	0.45	(0.32)	0.28	0.21	(0.2)	B2a1	西北西	N66° W	1層 A	なし	不明	＜NW10、柱穴状の穴
SK235	ＩR8	倒木痕下	円形	(0.21)	(0.2)	0.15	0.14	0.23	B4a2	西	N87° W	1層 A	なし	不明	＜NW11、柱穴状の穴
SK236	ＩR7	倒木痕下	不整楕円形	(0.45)	(0.4)	0.35	0.25	0.21	B2a2	西北西	N69° W	1層 A	なし	不明	＜NW11、柱穴状の穴
SK237															欠番
SK238	ＩR4	V層上	不整楕円形	0.7	0.51	0.62	0.43	0.25	B2c1	北北西	N25° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK239	ＩR4	V層上	不整長楕円形	0.65	0.44	0.18	0.12	0.16	B2a1	北東	N47° E	1層 A	なし	不明	
SK240	ＩR2～ＩR3	V層上	不明	(1.45)	(0.48)	(1.16)	(0.36)	0.13	B6a1	北北西	N63° W	1層 A	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK241	ＩR3～ＩS3	V層上	長楕円形	0.44	0.27	0.33	0.15	0.09	B2a1	東北東	N69° E	1層 A	なし	不明	
SK242	ＩS3	V層上	円形	0.25	0.25	0.13	0.11	0.24	A3a2	西北西	N75° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK243	ＩS3	V層上	不整楕円形	0.28	0.2	0.19	0.14	0.05	B1a1	北	N6° E	1層 A	なし	不明	
SK244	ＩS4	V層上	不整円形	0.39	(0.26)	0.22	(0.2)	0.13	C2a1	東	N80° E	1層 A	なし	不明	＜SK245
SK245	ＩS4	V層上	不定形	0.54	0.34	0.41	0.25	0.15	A2c1	北東	N41° E	1層 A	なし	不明	＞SK244、根株痕？
SK246	ＩS4	V層上	楕円形	0.53	0.47	0.44	0.3	0.122	B1b1	東北東	N76° E	1層 A	なし	不明	
SK247	ＩS4	V層上	不整楕円形	(0.23)	0.2	0.18	0.13	0.1	B2a1	西北西	N62° W	1層 A	なし	不明	＞SK248

表30　その他の土坑一覧⑦

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK248	ＩS4	V層上	不整楕円形	(0.26)	0.24	(0.2)	0.15	0.09	B2a1	北	N7° E	1層 A	なし	不明	＜SK247
SK249	ＩS4	V層上	不整長楕円形	0.35	0.21	0.29	0.15	0.168	B3a2	北西	N44° W	1層 A	なし	不明	
SK250	ＩS4	V層上	不整長楕円形	0.33	0.25	0.28	0.18	0.1	B2a1	西北西	N66° W	1層 A	なし	不明	
SK251	ＩS4	V層上	不整楕円形	0.31	0.27	0.23	0.19	0.08	B1a1	北北東	N23° E	1層 A	なし	不明	
SK252	ＩR8～ＩR9	V層上	不整楕円形	0.31	0.25	0.27	0.21	0.06	B1a2	西	N81° W	1層 A	なし	不明	
SK253	ＩR9	V層上	不整楕円形	0.24	0.21	0.17	0.14	0.138	B2b1	北北東	N29° E	1層 A	なし	不明	
SK254	ＩR9	V層上	不整円形	0.23	0.25	0.17	0.15	0.18	B3a2	東北東	N78° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK256	ＩR9	V層上	円形	0.69	0.45	0.17	0.17	0.261	A2a1	北	N6° W	1層 A	UF	縄文	＞SB4・SP90
SK257	ＩQ6	V層上	円形	(0.25)	0.3	(0.2)	0.23	0.17	B2a1	北西	N43° W	1層 A	なし	不明	
SK258	ＩQ6～ＩR6	V層上	楕円形	0.33	0.23	0.24	0.18	0.28	A4a2	西北西	N77° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK259	ＩR6	V層上	不整円形	0.26	0.21	0.2	0.17	0.227	B3b2	北西	N49° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK260	ＩR6	V層上	円形	0.3	0.2	0.18	0.18	0.2	A3a2	北東	N35° E	1層 A	UF	縄文	柱穴状の穴
SK261	ＩR6	V層上	楕円形	0.38	0.36	0.24	0.2	0.18	B2a1	北西	N52° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK262	ＩR6	V層上	不定形	0.71	0.34	0.64	0.18	0.2	C2a1	北	N7° W	1層 A	剥片類	縄文	
SK263	ＩR6	V層上	不整方形	0.47	0.45	0.4	0.35	0.309	B2c2	西	N86° W	1層 A	なし	不明	
SK264	ＩR6	V層上	長楕円形	0.38	0.25	0.31	0.2	0.1	B2b1	北北西	N16° W	1層 A	なし	不明	
SK265	ＩR6	V層上	円形	0.37	0.31	0.06	0.06	0.13	C2a1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	
SK266	ＩR6	V層上	円形	0.2	0.2	0.13	0.12	0.29	B4a2	東北東	N77° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK267	ＩR6	V層上	長楕円形	0.38	0.27	0.33	0.22	0.201	B3b1	北北東	N21° E	1層 A	なし	不明	
SK268	ＩS6	V層上	円形	0.27	0.23	0.09	0.09	0.24	A3a2	東北東	N63° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK269	ＩS6	V層上	円形	0.29	0.3	0.2	0.18	0.21	A3a1	東	N83° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK270	ＩS6	V層上	円形	0.26	0.23	0.19	0.16	0.11	A2a1	北	N7° W	1層 A	なし	不明	
SK271	ＩS6	V層上	楕円形	0.4	0.3	0.32	0.24	0.18	B2b1	北	N3° W	1層 A	なし	不明	
SK272	ＩS6	V層上	不整楕円形	0.34	0.28	0.28	0.22	0.16	B2b1	西	N87° W	1層 A	なし	不明	
SK273	ＩS6	V層上	不定形	0.63	0.34	0.53	0.18	0.16	B2a1	北北西	N30° W	1層 A	なし	不明	人為埋土
SK274	ＩS6	V層上	不定形	0.44	0.31	0.31	0.17	0.14	C2a1	北北東	N22° E	1層 A	なし	不明	
SK275	ＩS6	V層上	長楕円形	0.32	0.37	0.12	0.08	0.14	C2a1	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	
SK276	ＩS6	V層上	不整円形	0.3	0.28	0.21	0.18	0.213	B3b1	西北西	N75° W	1層 A	なし	不明	
SK277	ＩS6	V層上	長楕円形	0.57	0.3	0.45	0.22	0.23	B3a2	東北東	N70° E	1層 A	なし	不明	
SK278	ＩS5～ＩS6	V層上	不整長楕円形	0.26	0.18	0.18	0.12	0.107	A2b1	東北東	N60° E	2層 B	なし	不明	
SK279	ＩS6～ＩT6	V層上	不整長楕円形	0.37	0.25	0.31	0.13	0.11	B2a2	北東	N55° E	1層 A	なし	不明	
SK280	ＩS6～ＩT6	V層上	不整長楕円形	0.48	0.34	0.39	0.26	0.11	B2a1	北北東	N21° E	1層 A	なし	不明	
SK281	ＩS6～ＩT6	V層上	不定形	0.35	0.3	0.25	0.23	0.166	B2a1	北	N2° E	2層 B	なし	不明	人為埋土
SK282	ＩS5～ＩT6	V層上	長楕円形	0.28	0.17	0.25	0.14	0.04	B1a1	北	N3° E	1層 A	なし	不明	
SK283	ＩT6	V層上	円形	0.3	0.3	0.26	0.25	0.06	B1a1	北東	N43° E	1層 A	なし	不明	
SK284	ＩT6	V層上	円形	0.18	0.16	0.13	0.13	0.06	B2a1	北	N9° E	1層 A	なし	不明	
SK285	ＩT6	V層上	不整長楕円形	0.4	0.24	0.36	0.19	0.09	B2a1	北西	N55° W	1層 A	なし	不明	
SK286	ＩR5	V層上	不整長楕円形	0.35	0.25	0.27	0.17	0.258	B3b2	北北西	N13° W	1層 A	なし	不明	
SK287	ＩR5	V層上	円形	0.18	0.16	0.14	0.12	0.05	B2a1	北西	N43° W	1層 A	なし	不明	
SK288	ＩR5	V層上	不定形	0.25	0.16	0.19	0.1	0.13	C3a1	北北西	N19° W	1層 A	なし	不明	
SK289	ＩV16	V層上	円形	0.18	0.19	0.07	0.06	0.07	A2a1	北北東	N19° E	1層 A	なし	不明	SK503を変更
SK290	ＩR5	V層上	楕円形	0.3	0.27	0.11	0.08	0.24	A3b1	北	N3° W	2層 B	なし	不明	柱穴状の穴
SK291	ＩR5	V層上	円形	0.26	0.25	0.16	0.14	0.36	A4a2	東北東	N65° E	2層 B	磨石類	縄文	人為埋土、柱穴状の穴
SK292	ＩR5	V層上	楕円形	0.25	0.19	0.18	0.14	0.09	B2a1	北北東	N19° E	1層 A	なし	不明	
SK293	ＩR5	V層上	不整長楕円形	0.36	0.22	0.29	0.1	0.12	B2a1	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	人為埋土
SK294	ＩR5	V層上	不整楕円形	0.24	0.19	0.13	0.1	0.13	A2a1	北	N1° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK295	ＩS5	V層上	不定形	0.6	0.48	0.54	0.42	0.08	B1a1	東北東	N78° E	1層 A	なし	不明	

表31　その他の土坑一覧⑧

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK296	ＩS5	V層上	不整楕円形	0.23	0.19	0.16	0.13	0.14	B3b2	北東	N46° E	1層 A	なし	不明	
SK297	ＩS5	V層上	楕円形	0.23	0.18	0.2	0.14	0.11	B2a2	北北西	N23° W	1層 A	なし	不明	
SK298	ＩS5	V層上	不整長楕円形	0.24	0.3	0.17	0.08	0.15	B2a1	北北西	N14° W	1層 A	なし	不明	
SK299	ＩS5	V層上	不定形	0.54	0.44	0.41	0.36	0.229	B2b1	北	N11° E	1層 A	なし	不明	
SK300	ＩS5～ＩT5	V層上	不整長楕円形	0.5	0.25	0.27	0.18	0.23	B3b2	北東	N38° E	1層 A	なし	不明	＞SK337
SK301	ＩT10	V層上	円形	0.29	0.29	0.19	0.18	0.13	A2a1	北北西	N23° W	1層 A	なし	不明	
SK302	ＩT10	V層上	楕円形	0.37	0.35	0.2	0.16	0.1	A1a1	北東	N43° E	1層 A	なし	不明	
SK303	ＩT10	V層上	不整円形	0.26	0.27	0.16	0.15	0.12	B2a1	北北西	N25° W	1層 A	なし	不明	
SK304	ＩT10	V層上	不整楕円形	0.3	0.25	0.23	0.18	0.1	A2a1	東北東	N62° E	1層 A	なし	不明	
SK305	ＩT10	V層上	円形	0.29	0.23	0.15	0.13	0.15	A2a1	北西	N35° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK306	ＩT10	V層上	円形	0.18	0.15	0.08	0.07	0.2	A4a2	北北東	N22° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK307	ＩT10	V層上	不整長楕円形	0.61	0.33	0.55	0.24	0.08	B1a1	北	N7° E	1層 A	なし	不明	
SK308	ＩT11	V層上	長楕円形	0.43	0.33	0.37	0.23	0.12	B2a2	東北東	N76° E	1層 A	なし	不明	＜SB2
SK309	ＩT10	V層上	不整楕円形	0.48	0.39	0.21	0.17	0.21	B2a1	北北東	N33° E	1層 A	なし	不明	
SK310	ＩU10	V層上	不定形	0.79	0.62	0.62	0.53	0.13	B1a1	北東	N55° E	1層 A	なし	不明	
SK311	ＩU10	V層上	楕円形	0.44	0.47	0.33	0.25	0.18	B2a1	北東	N42° E	1層 A	なし	不明	
SK312	ＩU10	V層上	不整長楕円形	0.59	0.34	0.5	0.25	0.09	B1a1	北	N6° W	1層 A	なし	不明	
SK313	ＩT5	V層上	不整長楕円形	0.37	0.29	0.3	0.14	0.11	A2a1	東北東	N68° E	1層 A	なし	不明	
SK314	ＩU10	V層上	不整長楕円形	0.66	0.4	0.45	0.27	0.16	B2a1	北北西	N26° W	1層 A	なし	不明	
SK315	ＩU10	V層上	不定形	1.31	0.38	1.23	0.3	0.13	A2a2	北	N0°	1層 A	なし	不明	
SK316	ＩU10	V層上	長楕円形	0.88	0.6	0.76	0.48	0.12	B1a1	北西	N43° W	1層 A	なし	不明	
SK317	ＩU10	V層上	不整長楕円形	0.49	0.32	0.36	0.2	0.123	B2b1	北東	N49° E	1層 A	なし	不明	
SK318	ＩU10	V層上	不整長楕円形	0.84	0.45	0.72	0.33	0.16	B2b1	西北西	N69° W	1層 A	なし	不明	
SK319	ＩU10～ＩU11	V層上	長楕円形	0.25	0.25	0.11	0.07	0.14	A2a1	東北東	N77° E	1層 A	なし	不明	
SK320	ＩU10～ＩU11	V層上	円形	0.43	0.45	0.18	0.16	0.14	A2a1	北東	N45° E	1層 A	なし	不明	
SK321	ＩU11	V層上	円形	0.23	0.28	0.16	0.15	0.13	B2a1	北西	N48° W	1層 A	なし	不明	
SK322	ＩU11	V層上	不整楕円形	0.44	0.46	0.35	0.28	0.11	B1a1	東	N89° E	1層 A	なし	不明	
SK323	ＩT3	V層上	不整長方形	0.72	0.65	0.53	0.43	0.16	B1a1	西	N81° W	1層 A	なし	不明	
SK324	ＩT4	V層上	不整円形	0.6	0.42	0.35	0.3	0.15	B2a1	西	N88° W	1層 A	なし	不明	
SK325	ＩT4	V層上	円形	0.25	0.24	0.12	0.11	0.11	A2a1	西北西	N60° W	1層 A	なし	不明	
SK326	ＩT4	V層上	円形	0.25	0.26	0.16	0.14	0.13	A2a1	西北西	N73° W	1層 A	なし	不明	
SK327	ＩT4	V層上	不整円形	0.7	0.66	0.6	0.58	0.14	B1a1	東	N80° E	1層 A	なし	不明	
SK328	ＩT4	V層上	不整楕円形	0.33	0.26	0.25	0.18	0.24	B3a2	北北東	N13° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK329	ＩT4	V層上	楕円形	0.2	0.2	0.16	0.13	0.12	B2a2	北	N10° W	1層 A	なし	不明	
SK330	ＩT4	V層上	楕円形	0.45	0.34	0.38	0.25	0.09	B1a1	西北西	N63° W	1層 A	なし	不明	
SK331	ＩT4	V層上	円形	0.25	0.23	0.17	0.15	0.28	B4a2	北東	N42° E	2層 B	なし	不明	柱穴状の穴
SK332	ＩT4	V層上	円形	0.27	0.25	0.17	0.15	0.35	B4a2	北東	N48° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK333	ＩT5	V層上	不定形	0.58	0.42	0.3	0.15	0.215	A2b1	北北東	N14° E	1層 A	J群土器	縄文	
SK334	ＩT4	V層上	楕円形	0.28	0.21	0.21	0.16	0.18	B3a2	北西	N41° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK335	ＩT4	V層上	不整楕円形	0.62	0.51	0.29	0.23	0.21	B2b1	西	N82° W	2層 D	なし	不明	
SK336	ＩV15	V層上	円形	0.25	0.23	0.16	0.14	0.09	B2a1	東北東	N70° E	1層 A	なし	不明	
SK337	ＩT5	V層上	長楕円形	(0.3)	0.25	(0.28)	0.17	0.06	B1a1	北西	N52° W	1層 A	なし	不明	＜SK300
SK338	ＩU4	V層上	不整円形	0.25	0.26	0.17	0.15	0.27	B3a2	北東	N53° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK339	ＩT5	V層上	不定形	(0.6)	0.3	(0.57)	0.25	0.184	B2b1	北	N6° W	1層 A	なし	不明	＜SK344
SK340	ＩU4	V層上	不整楕円形	0.37	0.39	0.25	0.18	0.269	B2b1	北北西	N20° W	1層 A	なし	不明	
SK341															欠番
SK342															欠番

表32

遺構	地区	層位		規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位			遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK343	ⅠU4	V層上	楕円形	0.27	0.24	0.18	0.13	0.11	B2a1	西北西	N64° W	1層 A	なし	不明	
SK344	ⅠT5	V層上	不定形	2.64	0.83	2.5	0.76	0.09	B1a1	北北西	N22° W	1層 A	S1群土器	早期？	
SK345	ⅠT5	V層上	不定形	0.99	0.3	0.77	0.21	0.202	A2c1	北北西	N26° W	1層 A	なし	不明	
SK346	ⅠT5	V層上	不整楕円形	0.47	0.34	0.4	0.27	0.11	B2a1	北	N0°	1層 A	なし	不明	
SK347	ⅠT5	V層上	不整楕円形	0.28	0.33	0.19	0.13	0.09	B1a1	北北西	N13° W	1層 A	なし	不明	
SK348	ⅠU5	V層上	不整長楕円形	0.28	0.27	0.18	0.1	0.11	A2a1	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK349	ⅠU5	V層上	長楕円形	0.29	0.23	0.24	0.16	0.13	B2a2	東北東	N71° E	1層 A	なし	不明	
SK350	ⅠU5	V層上	不整長楕円形	0.6	0.34	0.53	0.22	0.14	A2a1	東	N88° E	1層 A	なし	不明	
SK351	ⅠU5	V層上	不整円形	0.32	0.31	0.26	0.26	0.175	B2b1	北東	N52° E	1層 A	なし	不明	
SK352	ⅠU5	V層上	円形	0.26	0.23	0.22	0.19	0.09	B2a2	西	N89° W	1層 A	なし	不明	
SK353	ⅠU5	V層上	不明	(0.19)	0.31	(0.16)	0.23	0.09	B1a1	北	N7° W	1層 A	なし	不明	
SK354	ⅠU5	V層上	不明	(0.26)	0.28	(0.24)	0.22	0.08	B1a1	北	N4° W	1層 A	なし	不明	
SK355	ⅠU5	V層上	長楕円形	(0.55)	0.49	(0.49)	0.29	0.11	B1a1	北西	N46° W	1層 A	なし	不明	
SK356	ⅠU5	V層上	不整楕円形	0.32	0.28	0.28	0.23	0.09	B2a1	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK357	ⅠU5	V層上	不整円形	0.28	0.26	0.24	0.22	0.07	B1a1	東	N88° E	1層 A	なし	不明	
SK358	ⅠU5	V層上	長楕円形	0.33	0.22	0.29	0.18	0.09	B2a2	北	N7° E	1層 A	なし	不明	
SK359	ⅠU5～ⅠV5	V層上	不整長楕円形	0.29	0.32	0.14	0.09	0.09	A1b1	東北東	N77° E	1層 A	なし	不明	
SK360	ⅠV5	V層上	不整円形	0.56	0.41	0.4	0.34	0.09	A1a1	北北東	N32° E	1層 A	なし	不明	
SK361	ⅠV4	V層上	不整長楕円形	0.38	0.24	0.26	0.16	0.306	A4b1	東北東	N78° E	1層 A	なし	不明	
SK362	ⅠV4	V層上	円形	0.23	0.2	0.09	0.08	0.06	B2a1	東	N82° E	1層 A	なし	不明	
SK363	ⅠV4	V層上	長楕円形	0.29	0.26	0.22	0.14	0.1	B2a1	東北東	N57° E	1層 A	なし	不明	
SK364	ⅠV4	V層上	不整円形	0.24	0.22	0.19	0.18	0.08	B2a1	北北西	N23° W	1層 A	なし	不明	
SK365	ⅠV4	V層上	不定形	0.75	0.31	0.65	0.24	0.1	A2a1	西	N89° W	1層 A	なし	不明	
SK366	ⅠV4	V層上	円形	0.34	0.3	0.28	0.25	0.09	B2a2	北	N8° W	1層 A	なし	不明	
SK367	ⅠT6～ⅠT7	V層上	不整長楕円形	0.45	0.25	0.32	0.15	0.11	B2a1	北西	N52° W	1層 A	なし	不明	
SK368	ⅠT6～ⅠT7	V層上	不定形	0.49	0.35	0.4	0.16	0.11	B2a1	北北西	N33° W	1層 A	なし	不明	
SK369	ⅠT5～ⅠT6	V層上	不整長楕円形	0.3	0.23	0.19	0.12	0.08	B2a1	東北東	N72° E	1層 A	なし	不明	
SK370	ⅠT6	V層上	長楕円形	0.25	0.25	0.13	0.08	0.1	A2a1	北東	N42° E	1層 A	なし	不明	
SK371	ⅠT6	V層上	不定形	0.36	0.27	0.2	0.17	0.15	B2a1	西北西	N72° W	1層 A	なし	不明	
SK372	ⅠT6	V層上	不整長楕円形	0.45	0.32	0.4	0.24	0.06	B1a1	北北東	N22° E	1層 A	なし	不明	
SK373	ⅠT6	V層上	楕円形	0.49	0.33	0.36	0.27	0.09	B1a1	北	N7° W	1層 A	なし	不明	底面凹凸
SK374	ⅠT6～ⅠU6	V層上	長楕円形	0.42	0.23	0.32	0.18	0.1	A2a1	北	N11° E	1層 A	なし	不明	
SK375	ⅠU6	V層上	楕円形	0.34	0.25	0.25	0.18	0.11	B2a1	北東	N50° E	1層 A	なし	不明	
SK376	ⅠU6	V層上	不明	(0.21)	0.35	(0.18)	0.29	0.09	A1a1	北	N4° W	1層 A	なし	不明	
SK377	ⅠU6	V層上	円形	0.2	0.18	0.04	0.04	0.096	A2a1	北	N1° E	1層 A	なし	不明	
SK378	ⅠU6	V層上	楕円形	0.25	0.22	0.16	0.12	0.1	B2a1	北	N9° E	1層 A	なし	不明	
SK381	ⅠV6	V層上	不整楕円形	0.3	0.32	0.22	0.17	0.11	B2a1	北北東	N20° E	1層 A	なし	不明	
SK382	ⅠV6	V層上	楕円形	0.24	0.22	0.09	0.07	0.169	A3a1	東北東	N60° E	1層 A	なし	不明	
SK383	ⅠV5	V層上	不整長楕円形	0.64	0.42	0.6	0.32	0.13	B2a1	北北東	N14° E	1層 A	なし	不明	
SK384	ⅠV5	V層上	不整円形	0.24	0.21	0.2	0.17	0.08	B2a1	北北西	N12° W	1層 A	なし	不明	
SK385	ⅠV5	V層上	不定形	0.42	0.36	0.33	0.23	0.12	B2a1	西北西	N57° W	1層 A	J群土器	縄文	
SK386	ⅠV5	V層上	不整楕円形	0.66	0.46	0.57	0.42	0.13	B1b2	西北西	N63° W	1層 A	なし	不明	
SK387	ⅠV5	V層上	円形	0.24	0.22	0.18	0.18	0.11	B2a1	北	N10° W	1層 A	なし	不明	
SK388	ⅠV5	V層上	不整長楕円形	0.37	0.23	0.32	0.19	0.11	B2a1	北西	N47° W	1層 A	なし	不明	
SK389	ⅠV5～ⅠV6	V層上	不定形	0.56	0.45	0.48	0.37	0.14	B2a2	北北東	N25° E	1層 A	なし	不明	
SK390	ⅠV6	V層上	楕円形	0.26	0.22	0.18	0.15	0.1	B2a1	北北西	N30° W	1層 A	なし	不明	
SK391	ⅠV6	V層上	不定形	0.82	0.33	0.7	0.25	0.06	B1a1	西北西	N61° W	1層 A	なし	不明	

表33　その他の土坑一覧⑩

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK392	ⅠV6	V層上	不整長楕円形	0.43	0.27	0.33	0.18	0.07	A1a1	北北西	N12° W	1層 A	なし	不明	
SK393	ⅠV6	V層上	長楕円形	0.33	0.27	0.13	0.08	0.11	A2a1	北東	N48° E	1層 A	なし	不明	
SK394	ⅠV6	V層上	不整円形	0.35	0.33	0.21	0.2	0.09	B1a1	東北東	N76° E	1層 A	なし	不明	
SK395	ⅠW6	V層上	楕円形	0.44	0.43	0.28	0.19	0.17	B2a1	北北西	N23° W	1層 A	なし	不明	
SK396	ⅠS7～ⅠT7	V層上	不整長方形	1.01	0.91	0.94	0.78	0.09	B1a1	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	
SK397	ⅠT7	V層上	不整長楕円形	0.41	0.3	0.31	0.18	0.11	A2a1	西	N79° W	1層 A	なし	不明	
SK398	ⅠT7	V層上	円形	0.25	0.24	0.19	0.16	0.06	B1a1	北西	N44° W	1層 A	なし	不明	
SK399	ⅠT7	V層上	楕円形	0.24	0.18	0.16	0.13	0.06	B2a1	西	N83° W	1層 A	なし	不明	
SK400	ⅠT7	V層上	不整長楕円形	0.46	0.36	0.31	0.2	0.2	B2a1	北北東	N22° E	1層 A	なし	不明	
SK401	ⅠT7	V層上	長楕円形	0.36	0.23	0.28	0.16	0.09	B2a1	北北西	N26° W	1層 A	なし	不明	
SK402	ⅠT7	V層上	不定形	0.52	0.36	0.32	0.29	0.15	B2a1	東北東	N75° E	1層 A	なし	不明	
SK403	ⅠT7～ⅠU7	V層上	不整楕円形	0.62	0.47	0.49	0.39	0.12	B1a1	北北東	N30° E	1層 A	なし	不明	＞SK404
SK404	ⅠT7～ⅠU7	V層上	不定形	0.56	0.38	0.38	0.21	0.1	B1b1	西北西	N68° W	1層 A	なし	不明	＜SK403
SK405	ⅠU7	V層上	長楕円形	0.41	0.25	0.22	0.13	0.1	B2a1	北	N4° E	1層 A	なし	不明	
SK406	ⅠU7	V層上	不整楕円形	0.49	0.42	0.38	0.3	0.16	B2a1	北西	N48° W	1層 A	なし	不明	
SK407	ⅠU7	V層上	楕円形	0.3	0.23	0.27	0.19	0.05	B1a1	北西	N47° W	1層 A	なし	不明	
SK408	ⅠU7	V層上	不整長楕円形	0.59	0.24	0.5	0.13	0.08	A2a1	北北西	N32° W	1層 A	なし	不明	
SK409	ⅠU7	V層上	長楕円形	0.34	0.27	0.29	0.19	0.07	B1a1	北	N8° W	1層 A	なし	不明	
SK410	ⅠU7	V層上	不定形	0.39	0.27	0.28	0.19	0.131	B2b1	北西	N37° W	1層 A	なし	不明	
SK411	ⅠU7	V層上	不整円形	0.37	0.37	0.31	0.29	0.1	B1a1	東北東	N73° E	1層 A	なし	不明	
SK412	ⅠV7	V層上	不定形	0.25	0.24	0.08	0.08	(0.29)	C4a3	北西	N42° W	1層 A	なし	不明	
SK413	ⅠV7	V層上	不定形	0.46	0.28	0.37	0.19	0.06	B1a1	東北東	N76° E	1層 A	なし	不明	
SK414	ⅠV7	V層上	不整長楕円形	0.33	0.22	0.25	0.11	0.11	A2b1	北北西	N21° W	1層 A	なし	不明	
SK415	ⅠV7	V層上	長楕円形	0.21	0.31	0.09	0.06	0.19	A2a1	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	
SK416	ⅠS8	V層上	不整長楕円形	0.5	0.3	0.33	0.14	0.09	B2a1	北	N10° W	1層 A	なし	不明	
SK417	ⅠV13	V層上	楕円形	0.5	0.36	0.45	0.31	0.1	B1a2	北西	N38° W	1層 A	なし	不明	
SK418	ⅠW13	V層上	不整楕円形	0.36	0.32	0.29	0.2	0.16	B2a1	北西	N49° W	1層 A	なし	不明	
SK419	ⅠT8	V層上	楕円形	0.64	0.46	0.57	0.39	0.12	B1b1	東北東	N72° E	1層 A	なし	不明	
SK420	ⅠT8	V層上	不整長楕円形	0.45	0.27	0.36	0.19	0.121	B2b1	北西	N34° W	2層 B	なし	不明	
SK421	ⅠT8	V層上	不定形	0.42	0.3	0.36	0.23	0.11	B2b1	西北西	N66° W	1層 A	なし	不明	
SK422	ⅠX13	V層上	楕円形	0.35	0.3	0.26	0.2	0.14	B2a1	北北西	N18° W	1層 A	なし	不明	
SK423	ⅠU8	V層上	長楕円形	0.5	0.29	0.38	0.16	0.11	B2a1	北北東	N31° E	1層 A	なし	不明	
SK424	ⅠU8	V層上	不定形	(0.5)	0.35	(0.48)	0.3	0.07	B1a1	西	N86° W	1層 A	なし	不明	
SK425															欠番
SK426	ⅠV8	V層上	円形	0.32	0.22	0.12	0.11	0.09	A2a1	北	N10° E	1層 A	なし	不明	
SK427	ⅠV8	V層上	不整円形	0.31	0.3	0.21	0.19	0.09	B2a1	東	N79° E	1層 A	なし	不明	
SK428	ⅠV8	V層上	不整長楕円形	0.6	0.39	0.45	0.28	0.09	B1a1	北北西	N13° W	1層 A	なし	不明	
SK429	ⅠV8	V層上	長楕円形	0.34	0.25	0.24	0.14	0.08	B2a1	北東	N45° E	1層 A	なし	不明	
SK430	ⅠT9	V層上	楕円形	0.25	0.23	0.21	0.16	0.09	B2a1	東北東	N72° E	1層 A	なし	不明	
SK431	ⅠT9	V層上	円形	0.23	0.2	0.18	0.16	0.11	B2a2	北東	N55° E	1層 A	なし	不明	
SK432	ⅠS9～ⅠT9	V層上	円形	0.26	0.21	0.21	0.18	0.17	B3a2	北	N1° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK433	ⅠT9	V層上	楕円形	0.38	0.3	0.31	0.24	0.095	B2b1	北北東	N13° E	1層 A	なし	不明	
SK434	ⅠT9	V層上	不整円形	0.27	0.25	0.22	0.19	0.09	B2a2	東北東	N75° E	1層 A	なし	不明	
SK435	ⅠT9	V層上	円形	0.27	0.25	0.18	0.17	0.09	B2a1	北北西	N17° W	1層 A	なし	不明	
SK436	ⅠT9	V層上	不定形	0.65	0.49	0.59	0.52	0.1	B1a1	北北東	N17° E	1層 A	なし	不明	
SK437	ⅠT9	V層上	円形	0.17	0.16	0.13	0.11	0.04	B1a1	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	
SK438	ⅠT9	V層上	不整長楕円形	0.8	0.31	0.73	0.26	0.09	B1a1	北北西	N30° W	1層 A	なし	不明	
SK439	ⅠT9～ⅠU9	V層上	楕円形	0.24	0.28	0.19	0.15	0.15	B2a1	西北西	N63° W	1層 A	なし	不明	

表34　その他の土坑一覧⑪

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m）					断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	合い関係）
				上面		底面		深さ							
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK440	ＩT9～ＩU9	V層上	不整長楕円形	0.35	0.23	0.27	0.17	0.11	B2b2	東北東	N68° E	2層 B	なし	不明	
SK441	ＩT9～ＩU9	V層上	不整楕円形	0.45	0.33	0.34	0.26	0.1	B2a1	北北西	N33° W	1層 A	なし	不明	
SK443	ＩU9	V層上	楕円形	0.18	0.21	0.1	0.07	0.2	C3a3	北北西	N27° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK444	ＩU9	V層上	円形	0.26	0.27	0.19	0.18	0.06	B1a1	北西	N53° W	1層 A	なし	不明	
SK445	ＩV9	V層上	不整長楕円形	0.34	0.21	0.25	0.14	0.07	B2a1	北	N9° W	1層 A	なし	不明	
SK446	ＩV9	V層上	楕円形	0.25	0.2	0.18	0.15	0.07	B2a2	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK447	ＩV9～ＩV10	V層上	不定形	0.34	0.29	0.3	0.24	0.11	B2a1	北西	N39° W	1層 A	なし	不明	
SK448	ＩW11	V層上	円形	0.21	0.22	0.12	0.11	0.14	B2b2	西	N88° W	1層 A	Z2群土器	前期後葉	柱穴状の穴
SK449	ＩW11	V層上	不整円形	0.24	0.25	0.16	0.15	0.16	A2b1	北北西	N12° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK450	ＩW11	V層上	長楕円形	0.29	0.24	0.18	0.08	0.11	A2a1	北東	N38° E	1層 A	なし	不明	
SK451	ＩW11	V層上	楕円形	0.28	0.2	0.21	0.15	0.13	B2a2	北	N4° W	2層 B	なし	不明	
SK452	ＩW11	V層上	不定形	1.16	0.48	1.1	0.43	0.24	B2c1	西北西	N63° W	1層 A	なし	不明	根株痕？
SK453	ＩW11	V層上	不定形	0.84	0.44	0.78	0.36	0.05	B1c1	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	
SK454	ＩW12	V層上	不整長楕円形	0.25	0.21	0.11	0.06	0.13	A2a1	北東	N37° E	1層 A	なし	不明	
SK455	ＩW12	V層上	不定形	0.4	0.35	0.29	0.17	0.14	A2a1	北北東	N26° E	1層 A	なし	不明	
SK456	ＩW12	V層上	不整円形	0.4	0.33	0.24	0.23	0.11	B2a1	北北東	N29° E	1層 A	なし	不明	
SK457	ＩX11	V層上	不定形	0.39	0.31	0.33	0.28	0.191	B2b2	東北東	N63° E	1層 A	なし	不明	
SK458	ＩX11	V層上	不整長楕円形	0.32	0.23	0.25	0.16	0.12	B2a1	東北東	N60° E	1層 A	なし	不明	
SK459	ＩX11	V層上	円形	0.21	0.2	0.14	0.12	0.11	B2a1	東	N80° E	1層 A	なし	不明	
SK460	ＩX11	V層上	不整楕円形	0.21	0.22	0.13	0.1	0.07	A2a1	西北西	N72° W	1層 A	なし	不明	
SK461	ＩX11～ＩY11	V層上	不整長楕円形	(0.8)	0.45	(0.77)	0.31	0.11	B1a1	北東	N36° E	1層 A	なし	不明	＜SF7
SK462	ＩY11	V層上	不整長方形	0.25	0.21	0.2	0.16	0.08	B2a1	北北東	N25° E	1層 A	なし	不明	
SK463	ＩY11	V層上	長楕円形	0.37	0.3	0.16	0.1	0.18	B2a1	北西	N49° W	1層 A	なし	不明	
SK464	ＩY11	V層上	不整楕円形	0.32	(0.16)	0.23	(0.13)	0.1	B2a1	北北西	N33° W	1層 A	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK465	ＩX11～ＩX12	V層上	不定形	1.29	0.74	1.2	0.68	0.212	B1b1	西	N87° W	1層 A	なし	不明	
SK466	ＩX11～ＩX12	V層上	楕円形	0.34	0.25	0.3	0.21	0.07	B1a2	北	N6° E	1層 A	なし	不明	
SK467	ＩX12	V層上	長楕円形	0.29	0.23	0.18	0.11	0.17	B3a1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	
SK468	ＩX12	V層上	不整楕円形	0.32	0.26	0.24	0.2	0.12	B2a1	東北東	N70° E	1層 A	なし	不明	
SK469	ＩX12	V層上	楕円形	0.29	0.28	0.24	0.2	0.1	B2a1	西	N89° W	1層 A	なし	不明	
SK470	ＩX11～ＩY12	V層上	不定形	0.55	0.4	0.48	0.36	0.148	B2b2	西北西	N58° W	1層 A	なし	不明	
SK471	ＩY11～ＩY12	V層上	長楕円形	0.31	0.24	0.27	0.18	0.07	B1a1	北	N11° W	1層 A	なし	不明	
SK472	ＩX11	V層上	不整円形	0.2	0.19	0.15	0.14	0.188	A3b2	東北東	N66° E	1層 A	なし	不明	
SK473	ＩW11	V層上	長楕円形	(0.57)	0.38	(0.54)	0.35	0.142	B2b1	北東	N44° E	1層 A	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK474	ＩX12	V層上	不整長楕円形	1.65	0.58	1.51	0.4	0.12	B1a1	西	N79° W	1層 A	なし	不明	
SK475	ＩY12	V層上	不整長方形	0.43	0.35	0.37	0.28	0.12	B2a1	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	
SK476	ＩY12	V層上	楕円形	0.29	0.16	0.08	0.06	0.1	A2a1	東北東	N70° E	1層 A	なし	不明	
SK477	ＩY12	V層上	楕円形	0.23	0.32	0.12	0.09	0.197	A2a1	北東	N42° E	1層 A	なし	不明	
SK478	ＩW12	V層上	不整長楕円形	0.53	0.23	0.46	0.19	0.09	B2a2	北東	N42° E	1層 A	なし	不明	
SK479	ＩW12	V層上	円形	0.38	0.33	0.26	0.24	0.15	B2a1	西北西	N73° W	1層 A	なし	不明	
SK480	ＩW12	V層上	不整楕円形	0.23	0.27	0.12	0.1	0.16	A2a1	東北東	N63° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK481	ＩV9	V層上	不整円形	0.28	0.22	0.19	0.16	0.07	B2a1	北西	N55° W	1層 A	なし	不明	
SK482	ＩX11	V層上	不明	(0.5)	(0.28)	(0.45)	(0.24)	0.143	B6b2	北西	N44° W	2層 B	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK483	ＩX11	V層上	楕円形	0.2	0.19	0.1	0.08	0.26	A4a1	北北西	N11° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK484	ＩX11	V層上	円形	0.17	0.16	0.09	0.09	0.13	B3a1	北	N10° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴

35 —

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK485	ⅠX13	Ⅴ層上	不定形	0.69	0.5	0.43	0.3	0.13	B1b1	北	N5° W	1層 A	なし	不明	
SK486	ⅠX13	Ⅴ層上	不整円形	0.27	0.26	0.18	0.17	0.13	B2a1	東北東	N57° E	1層 A	なし	不明	
SK487	ⅠX13	Ⅴ層上	長楕円形	0.25	0.18	0.14	0.09	0.09	B2a1	北西	N36° W	1層 A	なし	不明	
SK488	ⅠX13	Ⅴ層上	長楕円形	0.24	0.17	0.18	0.1	0.13	B3a1	北	N4° W	1層 A	なし	不明	
SK489	ⅠX13	Ⅴ層上	楕円形	0.23	0.14	0.09	0.07	0.12	A3a1	東	N86° E	1層 A	なし	不明	
SK490	ⅠX13	Ⅴ層上	不整円形	0.32	0.31	0.21	0.19	0.14	B2a1	北東	N55° E	1層 A	なし	不明	
SK491	ⅠX13	Ⅴ層上	円形	0.25	0.21	0.17	0.15	0.08	B2a1	北西	N54° W	1層 A	なし	不明	
SK492	ⅠX13	Ⅴ層上	楕円形	0.48	0.35	0.38	0.3	0.13	B2a1	西北西	N69° W	1層 A	なし	不明	
SK493	ⅠV13	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.58	0.38	0.46	0.21	0.212	A2b1	西北西	N67° W	2層 B	なし	不明	
SK494	ⅠW13	Ⅴ層上	円形	0.21	0.21	0.08	0.08	0.23	C3a2	西北西	N75° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK495	ⅠW13	Ⅴ層上	円形	0.18	0.19	0.07	0.06	0.17	C3a1	北北西	N13° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK496	ⅠW13	Ⅴ層上	円形	0.24	0.23	0.11	0.1	0.21	A3a1	東北東	N69° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK497	ⅠW13	Ⅴ層上	楕円形	0.27	0.31	0.07	0.05	0.24	C3a1	西北西	N18° W	2層 D	なし	不明	
SK498	ⅠW13	Ⅴ層上	長楕円形	0.23	0.16	0.18	0.11	0.14	A3a2	東北東	N62° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK499	ⅠV13	Ⅴ層上	不整楕円形	0.46	0.39	0.3	0.21	0.13	A2a1	西北西	N69° W	1層 A	なし	不明	
SK500	ⅠV13	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.4	0.22	0.19	0.08	0.17	C3a1	北北東	N27° E	1層 A	なし	不明	
SK501	ⅡG14	Ⅳ層上	円形	1.03	(0.4)	0.76	(0.32)	0.24	A1a1	東北東	N74° E	2層 B	なし	不明	TP13で削平
SK502	ⅡE17	Ⅳ層上	不整長楕円形	1.24	0.4	1.1	0.28	0.12	B2a2	北	N11° W	1層 A	なし	不明	＞SK511
SK503	ⅡE17	Ⅴ層上	円形	0.58	0.56	0.44	0.46	0.08	B1c1	東	N87° E	2層 B	なし	不明	人為埋土 ＞SK511
SK509	ⅡE17	Ⅴ層上	不整円形	0.79	0.68	0.66	0.38	0.23	B2a1	西北西	N77° W	2層 H	なし	不明	
SK510	ⅡE18	Ⅴ層上	楕円形	0.7	0.55	0.4	0.34	0.29	B2a1	北	N9° W	2層 B	なし	不明	
SK511	ⅡE17	Ⅴ層上	楕円形	0.84	(0.64)	0.63	(0.58)	0.09	B1a2	東北東	N66° E	1層 A	なし	不明	＜SK502・SK503
SK512	ⅡE17～ⅡE18	Ⅴ層上	円形	0.65	0.63	0.57	0.57	0.16	B1b1	東	N80° E	2層 B	なし	不明	底に小穴、人為埋土
SK513	ⅡF18	Ⅴ層上	円形	0.72	0.63	0.57	0.57	0.14	B1b1	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	底に小穴
SK514	ⅡF18	Ⅴ層上	不整楕円形	0.76	0.61	0.58	0.46	0.13	B1a1	北西	N37° W	2層 B	なし	不明	人為埋土
SK517	ⅡF14	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.47	0.3	0.4	0.15	0.17	C2c1	北北西	N18° W	2層 B	なし	不明	倒木根？
SK519	ⅡF17	Ⅴ層上	円形	0.41	0.4	0.3	0.3	0.11	B1a1	東	N86° E	1層 A	なし	不明	
SK520	ⅡF16	Ⅴ層上	楕円形	0.55	0.4	0.47	0.33	0.3	B3b2	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	
SK522	ⅡO18	Ⅴ層上	長楕円形	(0.73)	0.52	(0.7)	0.35	0.15	B1b1	北西	N50° W	1層 A	なし	不明	底に小穴
SK523	ⅡF14	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.2	0.17	0.14	0.08	0.12	B3a2	西北西	N73° W	1層 A	なし	不明	
SK525	ⅡF21	SD509底	円形	0.43	0.38	0.27	0.24	0.07	B1a1	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	
SK526															欠番
SK527															欠番
SK528	ⅡE20	SD509底	長楕円形	0.29	0.18	0.22	0.12	0.04	A1a1	東北東	N57° E	1層 A	なし	不明	
SK529	ⅡE19	Ⅴ層上	楕円形	0.75	0.54	0.66	0.44	0.11	A1a1	西北西	N63° W	1層 A	なし	不明	人為埋土
SK530															欠番
SK532	ⅡJ18	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.28	0.25	0.21	0.13	0.26	B3a2	北東	N42° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK533	ⅡJ19	Ⅴ層上	長楕円形	0.5	0.25	0.34	0.11	0.3	C4a2	北北西	N28° W	2層 C	なし	不明	底面凹凸
SK534	ⅡK20	Ⅴ層上	楕円形	0.35	0.3	0.28	0.23	0.18	B2b2	東	N85° E	2層 H	なし	不明	
SK535	ⅡK19	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.35	0.3	0.25	0.16	0.2	B2a2	北	N9° W	2層 C	なし	不明	
SK536	ⅡK19	Ⅴ層上	楕円形	0.3	0.25	0.22	0.18	0.07	B1a1	北北西	N19° W	1層 A	なし	不明	
SK537	ⅡK19	Ⅴ層上	楕円形	0.37	0.28	0.22	0.16	0.31	B4a2	東北東	N63° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK538	ⅡL19	Ⅴ層上	長楕円形	0.22	0.21	0.15	0.09	0.12	A2a1	西北西	N58° W	1層 A	なし	不明	
SK539	ⅡL19	Ⅴ層上	楕円形	0.31	0.24	0.23	0.18	0.14	A2a1	北北東	N13° E	1層 A	なし	不明	
SK540	ⅡK20	Ⅴ層上	長楕円形	0.3	0.26	0.12	0.08	0.21	A3a4	北西	N51° W	1層 A	なし	不明	＞SK542
SK541	ⅡK18	Ⅴ層上	不明	(0.40)	0.4	(0.36)	0.24	0.15	B2b1	東北東	N74° E	1層 A	なし	不明	底に小穴
SK542	ⅡK20	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.31	0.21	0.23	0.14	0.11	B2a2	北西	N44° W	1層 A	なし	不明	＜SK540
SK543	ⅡK20	Ⅴ層上	円形	0.23	0.19	0.15	0.14	0.1	B2a1	北東	N38° E	2層 B	なし	不明	
SK544	ⅡL20	Ⅴ層上	円形	0.3	0.27	0.21	0.21	0.21	B3a2	北北東	N15° E	2層 D	なし	不明	＞SK545

表36　その他の土坑一覧⑬

遺構	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK545	ⅡL20	Ⅴ層上	楕円形	0.4	0.35	0.38	0.28	0.1	A1a1	東北東	N60° E	1層 A	なし	不明	＜SK544・SK546
SK546	ⅡL20	Ⅴ層上	楕円形	0.36	0.32	0.28	0.23	0.15	B2a1	北北西	N24° W	2層 A	なし	不明	＞SK545
SK547	ⅡL19	Ⅴ層上	長楕円形	0.19	0.18	0.13	0.09	0.14	B3a2	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴
SK548	ⅡK20	Ⅴ層上	楕円形	0.25	0.25	0.15	0.12	0.12	A2a1	北	N8° E	1層 A	なし	不明	
SK549	ⅡK19	Ⅴ層上	楕円形	0.4	0.37	0.33	0.25	0.14	B2a1	北北西	N21° E	1層 A	なし	不明	
SK550	ⅡL20	Ⅴ層上	円形	0.44	0.41	0.1	0.1	0.28	C2a1	北北東	N27° E	1層 A	なし	不明	＞SK551・SK554
SK551	ⅡL20	Ⅴ層上	楕円形	0.42	0.32	0.32	0.24	0.1	A2a1	北東	N36° E	1層 A	なし	不明	＜SK550
SK552	ⅡL20	Ⅴ層上	円形	0.28	0.25	0.17	0.16	0.07	B1a1	北東	N37° E	1層 A	なし	不明	＞SK553
SK553	ⅡL20	Ⅴ層上	不整長楕円形	(0.40)	0.28	0.28	0.15	0.18	B2a1	北	N10° E	1層 A	なし	不明	＜SK552
SK554	ⅡL2●	Ⅴ層上	不整楕円形	0.72	0.6	0.57	0.47	0.21	B2a1	北	N10° W	2層 B	なし	不明	＜SK550・SK555
SK555	ⅡL20	Ⅴ層上	不整方形	0.68	0.65	0.57	0.52	0.22	A2a1	北北東	N28° E	2層 H	なし	不明	＞SK554
SK556	ⅡI20	Ⅴ層上	長楕円形	0.21	0.204	0.09	0.06	0.16	A3a1	東北東	N76° E	1層 A	なし	不明	
SK557	ⅡI20	Ⅴ層上	円形	0.31	0.28	0.25	0.21	0.14	A2a2	東北東	N76° E	1層 A	なし	不明	
SK558	ⅡI20	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.34	0.27	0.27	0.18	0.14	B2a1	西	N86° W	1層 A	なし	不明	＜SK559
SK559	ⅡI20	Ⅴ層上	円形	0.27	0.26	0.18	0.16	0.08	B2a1	西	N82° W	1層 A	なし	不明	＞SK558
SK560	ⅡK20	Ⅴ層上	不整円形	0.32	0.32	0.23	0.23	0.17	B2a2	東	N88° E	1層 A	なし	不明	
SK561	ⅡK20	Ⅴ層上	円形	0.14	0.14	0.06	0.06	0.06	A2a1	北東	N43° E	1層 A	なし	不明	
SK562	ⅡK20	Ⅴ層上	円形	0.3	0.27	0.22	0.21	0.15	A2b1	北西	N53° W	2層 H	なし	不明	＞SK563
SK563	ⅡK20	Ⅴ層上	長楕円形	(0.33)	0.22	(0.29)	0.18	0.08	B2a1	東	N85° E	1層 A	なし	不明	＜SK562
SK564															欠番
SK565	ⅡJ20	Ⅴ層上	楕円形	0.33	0.3	0.2	0.16	0.11	B2c1	東北東	N57° E	1層 A	なし	不明	
SK566	ⅡJ20	Ⅴ層上	円形	0.22	0.17	0.06	0.06	0.09	B2a1	北北西	N33° W	1層 A	なし	不明	
SK567	ⅡJ20	Ⅴ層上	楕円形	0.24	0.23	0.19	0.14	0.13	C2a1	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	
SK568															欠番
SK569	ⅡJ20	Ⅴ層上	不整楕円形	(0.85)	0.68	(0.65)	0.59	0.12	B1a1	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	＜SK570
SK570	ⅡJ20	Ⅴ層上	不整楕円形	0.57	0.43	0.47	0.36	0.09	B1c2	北東	N36° E	1層 A	なし	不明	＞SK569
SK571	ⅡJ20	Ⅴ層上	楕円形	0.22	0.22	0.1	0.08	0.16	A3a2	西北西	N75° W	1層 A	なし	不明	＞SK574
SK572	ⅡK20	Ⅴ層上	円形	0.6	0.53	0.45	0.38	0.16	B2a1	北東	N48° E	2層 C	なし	不明	＞SK575
SK573	ⅡK20	Ⅴ層上	不定形	0.6	0.56	0.5	0.42	0.3	B2b2	北西	N40° W	1層 A	なし	不明	
SK574	ⅡJ21	Ⅴ層上	不整円形	0.54	0.38	0.38	0.36	0.22	A2a1	北北東	N26° E	1層 A	なし	不明	＜SK571
SK575	ⅡK20	Ⅴ層上	円形	0.39	0.36	0.2	0.18	0.19	A2a1	北西	N39° W	1層 A	なし	不明	＜SK572
SK577															欠番
SK578	ⅡK21	Ⅴ層上	楕円形	0.44	0.38	0.33	0.29	0.04	B1a2	北北東	N33° E	1層 A	なし	不明	
SK579	ⅡK21	Ⅴ層上	円形	0.24	0.24	0.16	0.16	0.09	B2a2	東北東	N74° E	1層 A	なし	不明	
SK580	ⅡK22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.4	0.28	0.26	0.17	0.2	A3a1	北東	N46° E	1層 A	なし	不明	
SK581															欠番
SK582	ⅡK22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.45	0.23	0.38	0.14	0.09	A2a1	西北西	N78° W	1層 A	なし	不明	
SK583	ⅡK21	Ⅴ層上	円形	0.22	0.22	0.16	0.15	0.07	B2a1	東	N89° E	1層 A	なし	不明	
SK584	ⅡL22	Ⅴ層上	楕円形	0.31	0.29	0.16	0.13	0.18	B2a1	北東	N41° E	1層 A	なし	不明	＞SK601
SK585	ⅡH21	Ⅴ層上	楕円形	0.31	0.31	0.15	0.11	0.14	A2a1	東	N83° E	2層 B	なし	不明	
SK586	ⅡI21	Ⅴ層上	不整楕円形	0.63	0.46	0.52	0.35	0.13	B1b1	北北西	N29° W	1層 A	なし	不明	
SK587															欠番
SK588	ⅡI21	Ⅴ層上	円形	0.31	0.24	0.1	0.1	0.1	A2a1	東北東	N64° E	1層 A	なし	不明	
SK589	ⅡJ22	Ⅴ層上	長楕円形	0.47	0.31	0.38	0.22	0.19	B3b2	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK590															欠番
SK591	ⅡJ22	Ⅴ層上		0.47	0.32	0.4	0.24	0.06	B1a1	西北西	N72° W	1層 A	なし	不明	
SK592	ⅡI22～ⅡJ22・ⅡJ23	Ⅴ層上	不整長楕円形	(2.06)	0.93	1.24	0.41	0.29	B2a3	北西	N41° W	1層 A	なし	不明	＜SK607
SK593	ⅡH21	Ⅴ層上	楕円形	0.33	0.24	0.23	0.18	0.08	B2a1	西	N80° W	1層 A	なし	不明	
SK594	ⅡI21	Ⅴ層上	不整楕円形	0.35	0.3	0.28	0.19	0.16	B2b1	東北東	N70° E	2層 B	なし	不明	
SK595	ⅡK22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.84	0.42	0.72	0.36	0.07	B1a2	東	N79° E	1層 A	石鏃ほか	縄文	

表37　その他の土坑一覧⑭

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK596															欠番
SK597															欠番
SK598	ⅡK22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.52	0.4	0.47	0.31	0.08	B1a1	北	N9° W	1層 A	RFほか	縄文	
SK599	ⅡK22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.6	0.3	0.51	0.25	0.05	B1a2	北西	N45° W	1層 A	UF	縄文	
SK600	ⅡK22	Ⅴ層上	不整楕円形	0.7	0.56	0.56	0.42	0.14	B1b1	北西	N24° W	1層 A	磨石・凹石類	縄文	
SK601	ⅡL22	Ⅴ層上	不定形	1.67	0.53	1.42	0.42	0.12	B1c1	西北西	N73° W	1層 A	RFほか	縄文	＜SK584・SK602
SK602	ⅡK22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.52	0.33	0.44	0.17	0.14	A2a1	北西	N54° W	1層 A	なし	不明	＞SK601
SK603	ⅡJ22～ⅡJ23	Ⅴ層上	不整円形	1.04	0.92	0.86	0.83	0.16	B1c2	北北東	N12° E	2層 B	剥片類	縄文	底面凹凸
SK604	ⅡK23	Ⅴ層上	長楕円形	0.31	0.22	0.27	0.16	0.08	A2a1	東北東	N63° E	1層 A	なし	不明	
SK605	ⅡI21	Ⅴ層上	円形	0.3	0.3	0.18	0.18	0.12	B2a1	北北西	N17° W	1層 A	なし	不明	
SK606	ⅡJ21	Ⅴ層上	不整円形	0.25	0.2	0.14	0.14	0.06	B2a1	西	N80° W	1層 A	なし	不明	
SK607	ⅡI22	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.57	0.38	0.45	0.2	0.26	B2a2	北東	N50° E	2層 D	なし	不明	＞SK592
SK608	ⅡG25	Ⅴ層上	不整楕円形	0.48	0.35	0.36	0.25	0.06	A1a1	北北東	N30° E	1層 A	なし	不明	
SK609	ⅡG25	Ⅴ層上	長楕円形	0.38	0.28	0.23	0.14	0.08	A1a1	北北東	N23° E	1層 A	なし	不明	
SK610	ⅡG25	Ⅴ層上	円形	0.32	0.22	0.16	0.15	0.06	A1a1	北北東	N28° E	1層 A	なし	不明	
SK611	ⅡG25	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.34	0.29	0.26	0.17	0.08	A1a1	北東	N49° E	1層 A	なし	不明	
SK612	ⅡG25	Ⅴ層上	不整楕円形	0.53	0.45	0.42	0.32	0.07	A1a1	北東	N45° E	1層 A	なし	不明	
SK613	ⅡG25	Ⅴ層上	不整楕円形	0.47	0.36	0.33	0.24	0.06	B1a1	北	N1° W	2層 D	なし	不明	
SK614	ⅡG25	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.5	0.43	0.19	0.12	0.16	A2c1	北北東	N13° E	2層 C	なし	不明	底面凹凸
SK615	■G25	Ⅴ層上	不整楕円形	0.48	0.39	0.36	0.28	0.07	B1a1	北東	N47° E	1層 A	なし	不明	
SK616	ⅢF2～ⅢF3	Ⅴ層上	不整円形	0.4	0.32	0.25	0.21	0.08	A1a1	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	
SK617	ⅢG1	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.69	0.3	0.58	0.17	0.13	A2a1	東北東	N68° E	1層 A	なし	不明	
SK618	ⅢG1	Ⅴ層上	長楕円形	0.5	0.26	0.35	0.13	0.12	A2a1	東北東	N76° E	2層 C	なし	不明	
SK619	ⅢG1	Ⅴ層上	長楕円形	0.41	0.24	0.25	0.13	0.12	A2a1	北東	N55° E	1層 A	なし	不明	
SK620	ⅢG1	Ⅴ層上	円形	0.3	0.2	0.11	0.11	0.13	A2a1	北東	N55° E	1層 A	なし	不明	
SK621	ⅢG1	Ⅴ層上	不定形	0.45	0.36	0.25	0.2	0.08	A1c1	東	N86° E	1層 A	なし	不明	
SK622	ⅢG1	Ⅴ層上	不整円形	0.45	0.41	0.21	0.2	0.22	B1c1	東	N89° E	1層 A	なし	不明	人為埋土
SK623	ⅡF25	Ⅴ層上	長楕円形	0.47	0.33	0.37	0.22	0.11	B2a1	西北西	N60° W	1層 A	なし	不明	
SK624	ⅢF1～ⅢG1	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.73	0.31	0.59	0.25	0.11	B2a2	西北西	N67° W	1層 A	なし	不明	
SK625	ⅢF1	Ⅴ層上	不整楕円形	0.25	0.18	0.16	0.12	0.11	A2a2	西北西	N65° W	1層 A	なし	不明	
SK626	ⅢF1～ⅢG1	Ⅴ層上	不整円形	0.52	0.4	0.4	0.37	0.11	A1b1	西北西	N78° W	1層 A	なし	不明	
SK627	ⅢF1	Ⅴ層上	長楕円形	0.32	0.23	0.2	0.13	0.06	A1a1	東北東	N59° E	1層 A	なし	不明	
SK628	ⅢG1	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.45	0.26	0.35	0.13	0.12	A2a1	北	N8° W	1層 A	なし	不明	
SK629	ⅢG1	Ⅴ層上	楕円形	0.3	0.26	0.08	0.06	0.12	A2a3	西北西	N4° W	1層 A	なし	不明	
SK630															欠番
SK631	ⅢG2	Ⅴ層上	不定形	1.1	0.48	0.55	0.25	0.47	A3c3	北北東	N30° E	3層 C	なし	不明	
SK632	ⅢG2	Ⅴ層上	不整長楕円形	1.16	0.88	0.81	0.52	0.36	A2c1	西北西	N62° W	2層 C	なし	不明	＞SK635
SK633	ⅢG2	Ⅴ層上	円形	0.22	0.22	0.13	0.13	0.09	B2a1	東北東	N71° E	1層 A	なし	不明	
SK634	ⅢG2	Ⅴ層上	長楕円形	0.48	0.28	0.4	0.16	0.12	A2a1	北西	N49° W	2層 B	なし	不明	
SK635	ⅢG2	Ⅴ層上	不明	(0.87)	0.5	(0.50)	0.4	0.15	A2c1	西北西	N78° W	1層 A	なし	不明	＜SK632・SK636
SK636	ⅢG2	Ⅴ層上	不定形	1.27	1.01	0.67	0.55	0.24	A1c1	北西	N51° W	2層 B	なし	不明	＞SK635
SK637	ⅢG2	Ⅴ層上	不明	(1.30)	(0.80)	(0.57)	(0.33)	0.58	B3c3	北	N10° W	2層 B	なし	不明	
SK638	ⅢG2	Ⅴ層上	不整長楕円形	0.47	0.35	0.2	0.13	0.16	A2a3	東	N85° E	1層 A	なし	不明	
SK639	ⅢG2	Ⅴ層上	長楕円形	0.45	0.31	0.15	0.1	0.28	A3a3	東	N82° E	1層 A	なし	不明	柱穴状の穴

表38　その他の土坑一覧⑮

遺構番号	地区	検出層位	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	底面 長軸	底面 短軸	深さ	断面形	主軸方位		埋土	出土遺物	時期	備考（切り合い関係）
SK640	ⅢG2～ⅢG3	V層上	不定形	1	0.72	0.89	0.52	0.2	B1c1	北	N3° E	1層 A	なし	不明	
SK641	ⅢG3	V層上	不整長楕円形	(0.35)	0.29	(0.31)	0.16	0.15	A2a1	北	N11° E	1層 A	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK642	ⅢG3	V層上	不整長楕円形	0.75	0.32	0.58	0.16	0.17	A2a1	北北西	N19° W	2層 C	なし	不明	
SK643	ⅢG3	V層上	不整円形	0.4	0.32	0.22	0.22	0.12	A2c1	北北東	N31° E	1層 A	なし	不明	
SK644	ⅢG3	V層上	不明	(1.14)	(0.59)	(0.94)	(0.5)	0.12	B1b1	北北西	N28° W	2層 C	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK645	ⅢG2～ⅢG3	V層上	楕円形	(0.36)	(0.40)	(0.23)	0.2	0.2	A2a1	北北西	N22° W	1層 A	なし	不明	一部調査区外に延びる
SK646	ⅢG2	V層上	不整長楕円形	0.61	0.3	0.5	0.17	0.12	A2b1	北	N1° W	2層 C	なし	不明	
SK647	ⅡH25	V層上	長楕円形	0.32	0.32	0.2	0.12	0.09	B1a1	北北西	N21° W	1層 A	なし	不明	
SK648	ⅢH1	V層上	不整長楕円形	0.75	0.57	0.4	0.22	0.17	B1a1	西北西	N59° W	1層 A	なし	不明	
SK649	ⅢH2	V層上	不整長楕円形	0.53	1.25	0.25	0.11	0.34	C1a1	東北東	N60° E	1層 A	なし	不明	
SK650	ⅢH3	V層上	不整楕円形	0.4	0.3	0.11	0.08	0.06	A1b1	西	N86° W	1層 A	なし	不明	
SK651	ⅢH2	V層上	円形	0.4	0.36	0.06	0.06	0.13	A2a1	西	N85° W	2層 D	なし	不明	
SK652	ⅢH2	V層上	不整長楕円形	0.77	0.38	0.17	0.09	0.29	A3a3	北	N6° E	1層 A	UFほか	縄文	
SK653	ⅢI2	V層上	不整長楕円形	(0.72)	0.46	(0.68)	0.37	0.16	B2a2	西	N89° W	2層 B	なし	不明	TP21により削平
SK654	ⅢI2	V層上	不整円形	0.82	0.5	0.36	0.37	0.12	A1a1	北東	N44° E	1層 A	なし	不明	
SK655	ⅢI3	V層上	不定形	0.45	0.34	0.32	0.09	0.18	A2c1	北北西	N15° W	1層 A	なし	不明	
SK656	ⅢI3	V層上	長楕円形	0.93	0.59	0.63	0.41	0.11	B1b1	西北西	N75° W	2層 B	Z1群土器	前期前半	
SK657	ⅢI3	V層上	不定形	0.69	0.54	0.57	0.35	0.16	B1c1	北北西	N29° W	2層 H	なし	不明	
SK658	ⅢH1	V層上	不整長楕円形	0.49	0.23	0.38	0.13	0.11	B2c1	北北東	N20° E	2層 H	なし	不明	
SK659	ⅢI3	V層上	不整長楕円形	0.48	0.26	0.37	0.17	0.125	B2c1	西	N89° W	1層 A	なし	不明	
SK660	ⅢJ3	V層上	不整円形	0.36	0.34	0.26	0.27	0.08	B1a2	北東	N37° E	1層 A	なし	不明	
SK661	ⅢJ3	V層上	楕円形	0.3	0.32	0.17	0.12	0.09	A1a1	西北西	N77° W	1層 A	なし	不明	
SK662	ⅢJ3	V層上	長楕円形	0.3	0.21	0.21	0.11	0.08	B2a1	北北東	N16° E	1層 A	なし	不明	
SK663	ⅢJ3	V層上	不整長楕円形	1.3	0.5	1.07	0.26	0.17	B2c1	北西	N40° W	1層 A	なし	不明	
SK664	ⅢH1	V層上	不整長楕円形	1.11	0.8	1.01	0.59	0.16	B1c1	北西	N47° W	1層 A	なし	不明	
SK665	ⅢH1	V層上	長楕円形	0.28	0.2	0.19	0.08	0.07	A2c1	北	N10° E	1層 A	なし	不明	
SK666	ⅢH1	V層上	不整円形	0.5	0.35	0.31	0.28	0.06	A1a1	北	N8° E	1層 A	なし	不明	
SK667	ⅢG1～ⅢH1	V層上	長楕円形	0.76	0.45	0.55	0.35	0.12	B1c1	北北東	N33° E	1層 A	なし	不明	
SK669	ⅢI1～ⅢJ1	V層上	不整長楕円形	0.76	0.6	0.57	0.35	0.2	A2a1	西	N85° W	2層 B	なし	不明	
SK670	ⅡJ25	V層上	不整長楕円形	0.28	0.23	0.21	0.14	0.12	B2a1	北北東	N23° E	1層 A	なし	不明	
SK671	ⅢI1	V層上	不定形	0.66	0.6	0.55	0.47	0.2	B2b1	西	N82° W	1層 A	なし	不明	
SK672	ⅢJ2	V層上	不整円形	0.27	0.26	0.12	0.12	0.16	A2a1	東北東	N60° E	1層 A	なし	不明	
SK673	ⅢJ2	V層上	不整円形	0.56	0.5	0.44	0.37	0.17	B2c1	北北西	N15° W	2層 B	なし	不明	
SK674															欠番
SK675															欠番
SK678	ⅡG14	V層上	不整長楕円形	0.38	0.22	0.34	0.18	0.07	B2a1	東北東	N58° E	1層 A	なし	不明	TP13-P2
SK679	ⅢI1	V層上	楕円形	0.28	0.19	0.16	0.09	0.21	A4a1	北東	N45° E	1層 A	楔形石器	縄文	TP21-P3
SK680	ⅢI1	V層上	不明	0.35	(0.22)	0.25	(0.15)	0.21	B3a2	東	N85° E	1層 A	なし	不明	TP21-P4
SK681	ⅢI1	V層上	楕円形	(0.28)	0.24	0.18	0.15	0.22	B3a1	西北西	N70° W	1層 A	なし	不明	TP21-P2
SK682	ⅢI1	V層上	不整円形	0.43	0.35	0.2	0.21	0.14	A2a4	北	N8° W	1層 A	なし	不明	TP21-P1
SK683	ⅢI1	V層上	不整楕円形	0.46	(0.35)	0.31	(0.25)	0.17	B2a1	北北西	N27° W	1層 A	なし	不明	TP21-P5

（3） 焼土（屋外炉）

A区で竪穴住居跡に伴わない焼土（屋外炉）、SF 1・SF 3・SF 7の3基を検出した（図104・表39）。被熱している範囲はいずれも小さく、これらの焼土の周囲には、柱穴と思われるような土坑はまとまらず、単独で存在するものと判断した。また、遺物もSF 7で打製石斧片が出土した他は、確認できなかった。SF 1はⅢb層掘削中に、SF 3はSK116・NW 9の上面、SF 7はSK461の上面で検出したことから、縄文時代の中でも比較的新しい時期の可能性がある。

表39 焼土一覧

No	地区	検出層位	平面形	規模（m）			出土遺物	時期	備考
				長軸	短軸	厚さ			
SF1	IR13	盛り中	不整楕円形	0.33	0.2	0.04	なし	縄文	
SF3	IS14	Ⅴ層上	不整楕円形	0.67	0.2	0.011	なし	縄文	SK116上面
SF7	IX11～IY11	Ⅴ層上	不定形	0.53	0.15	0.03	打製石斧片	縄文	SK461上面

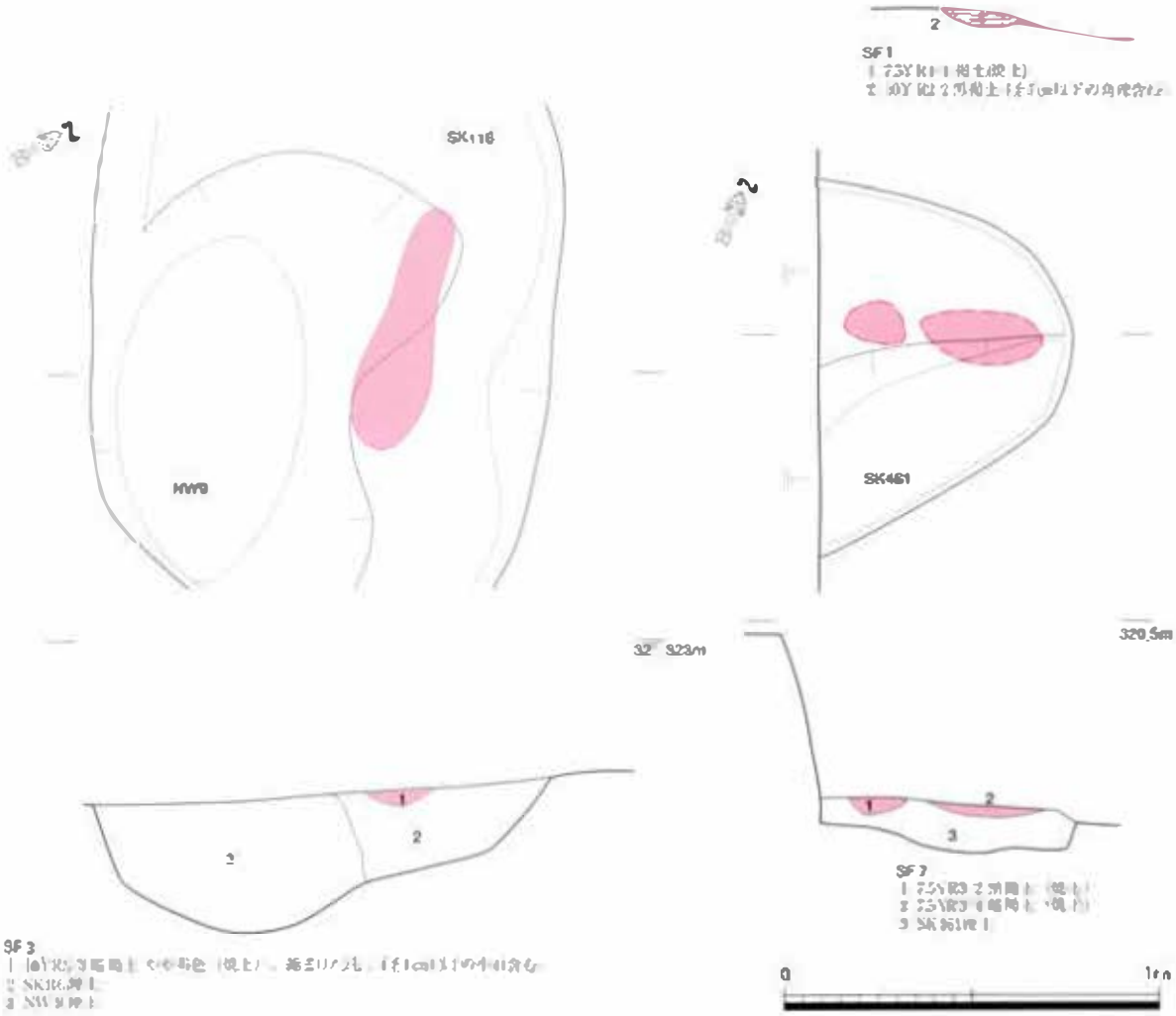


図104 焼土（S=1/20）

(4) 自然流路

B区で3条の自然流路を検出した。このうちSD508からは、平安時代の遺物が出土していることから、平安時代のものと思われるが、縄文時代の遺物も多数出土しており、縄文時代から存在していた可能性がある。

SD505（図105）

検出状況　B区西部を北東から南西方向に流れる自然流路と思われる。段切り造成の影響により、北部は削平されていた。南部は調査区外へ続いているものと思われる。南部の比較的残存状態の良い部分では、Ⅲb層を除去したⅣ層上面で確認している。検出した範囲は東西約3.6m、南北約8.6mで、深さは0.14mほどである。西側部分に細く溝状に張り出す部分があるが、人為的なものか否かは不明である。埋土は1層であった。

出土遺物（図106）

遺物は、石器類が8点出土しただけで、土器類は出土しなかった。石器類は、埋土中から散在した状態で出土しており、石鏃未製品1

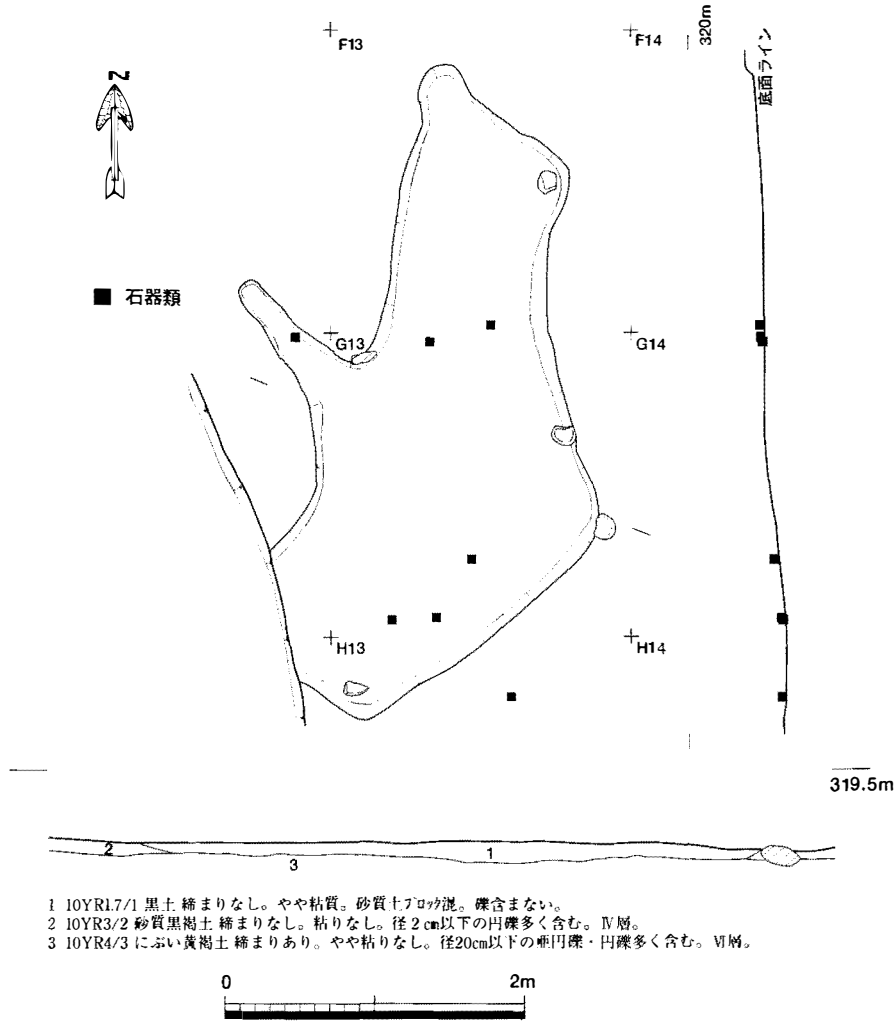


図105　SD505（S=1/50）

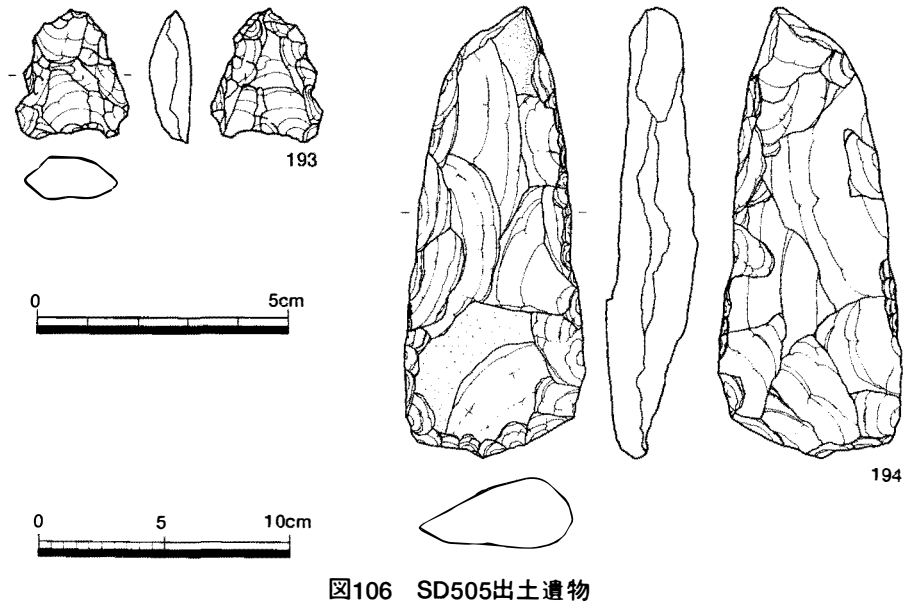


図106　SD505出土遺物

点、スクレイパー1点、打製石斧1点、剥片類11点、MF4点の計8点である。

193は石鏃3類で、調整調整が粗いことから未製品と思われる。194は打製石斧2類で、刃部や基部に使用痕は確認できなかった。

時期　Ⅲb層に覆われていることや、出土した遺物が縄文時代の石器類に限られることから、縄文時代と思われるが、土器が出土していないため、細別時期は不明である。

SD508（図107）

検出状況　B区中央を南北に流れる流路である。遺物の出土分布（図107）は、散在した状態であるが、一部の遺物は遺構よりも外に出土傾向が認められている。これは、当初の検出範囲は図示したものよりも幅広いものであったが、北西部分と南東部分の埋土堆積が薄く、流路の[illegible]としては不明瞭であり、平面図作成時に肩が明瞭なところを上端として図化したためである。なお、第4節でも述べたように出b層掘削後に検出しているが、本来はⅢb層面で検出すべきものであることから、流路の幅

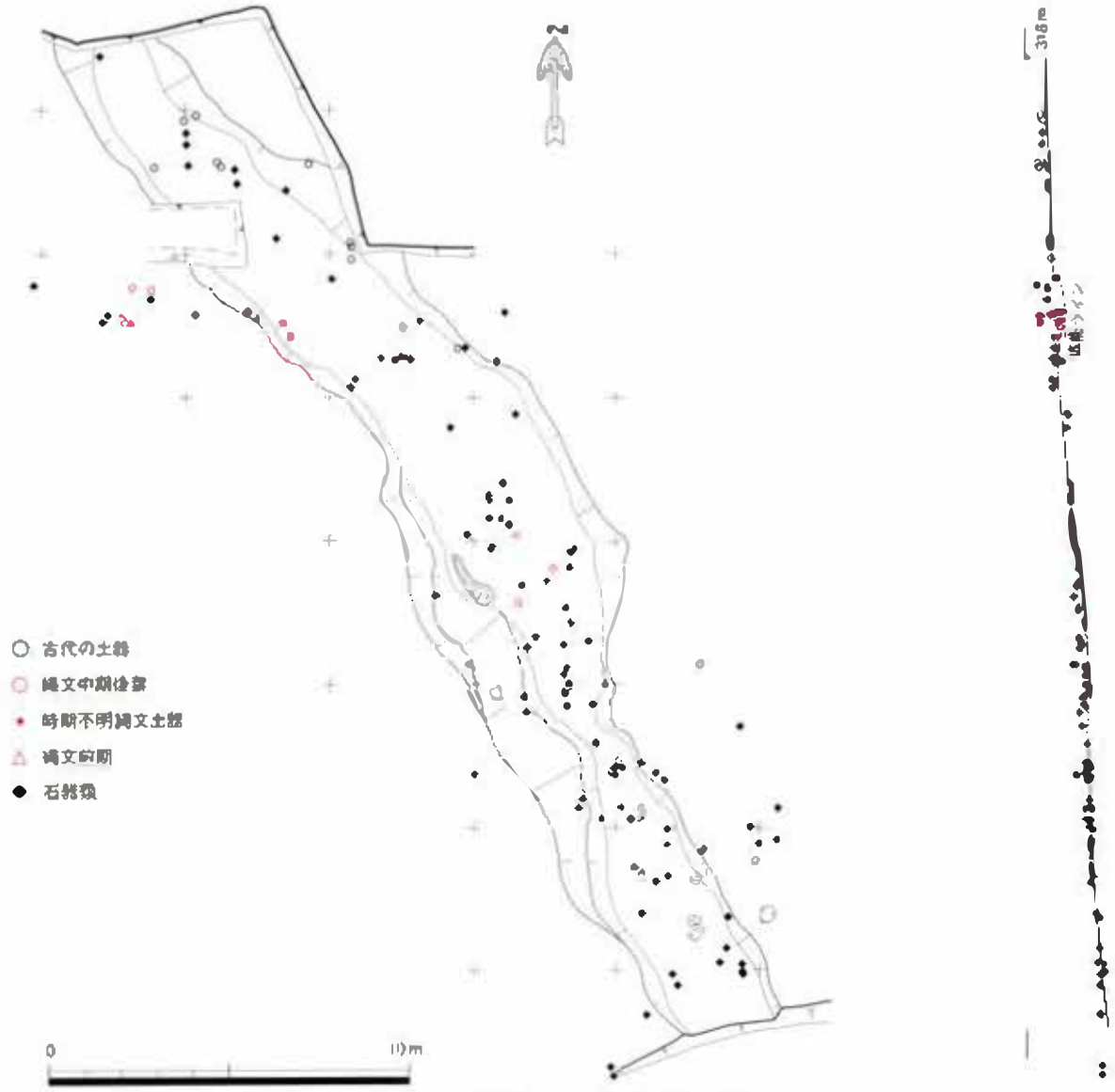


図107　SD508遺物出土分布（S=1/200）

はより大きなものであった可能性が高い。

出土遺物（図108・109）　縄文土器はZ1群１点、Z2群ｅ類１点、C3群胴ａ類３点、C3群胴ｂ類３点、Ｊ群ｂ類５点の計13点、石器類は石錐１点、スクレイパー３点、打製石斧37点、石核１点、剥片類18

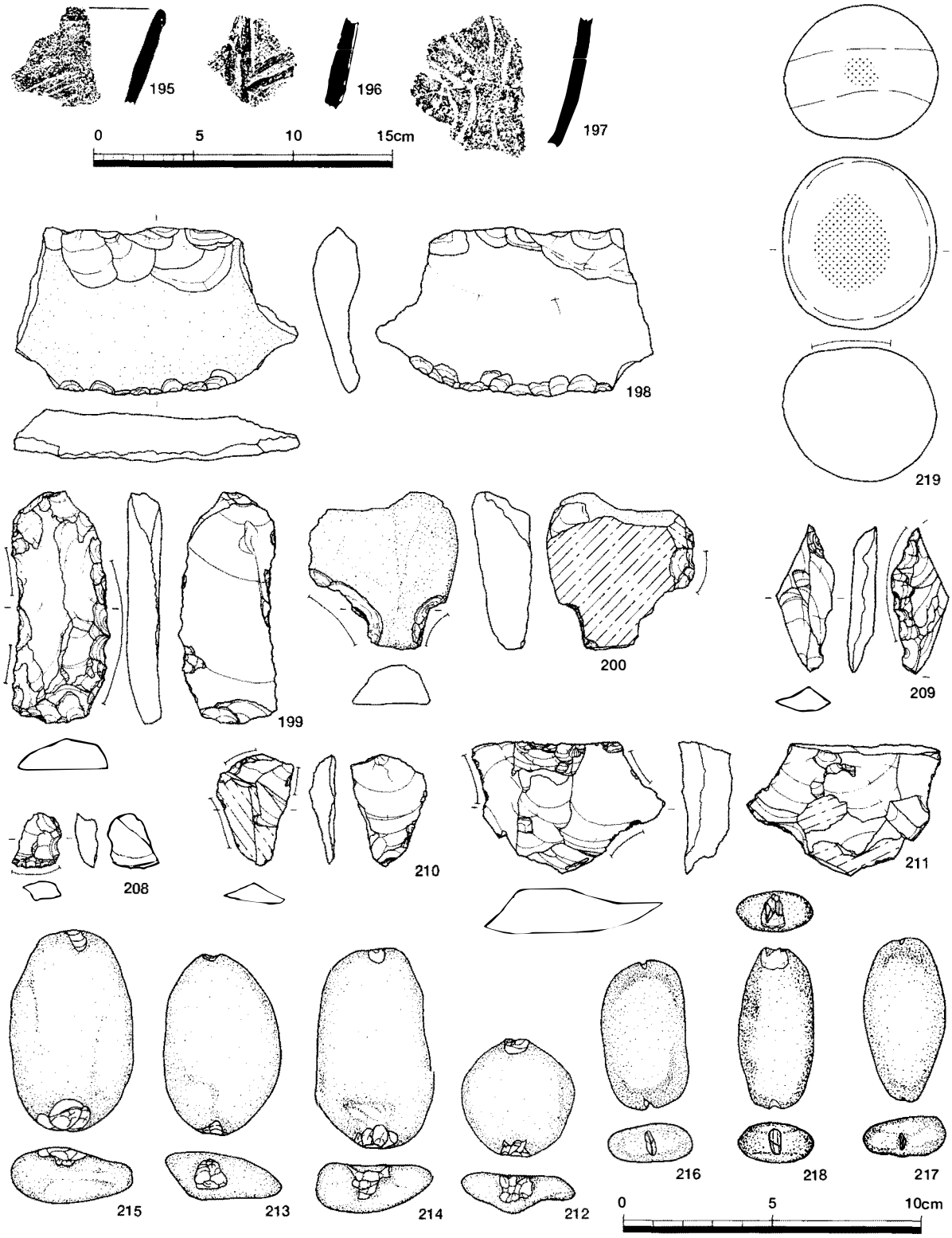


図108　SD508出土遺物①

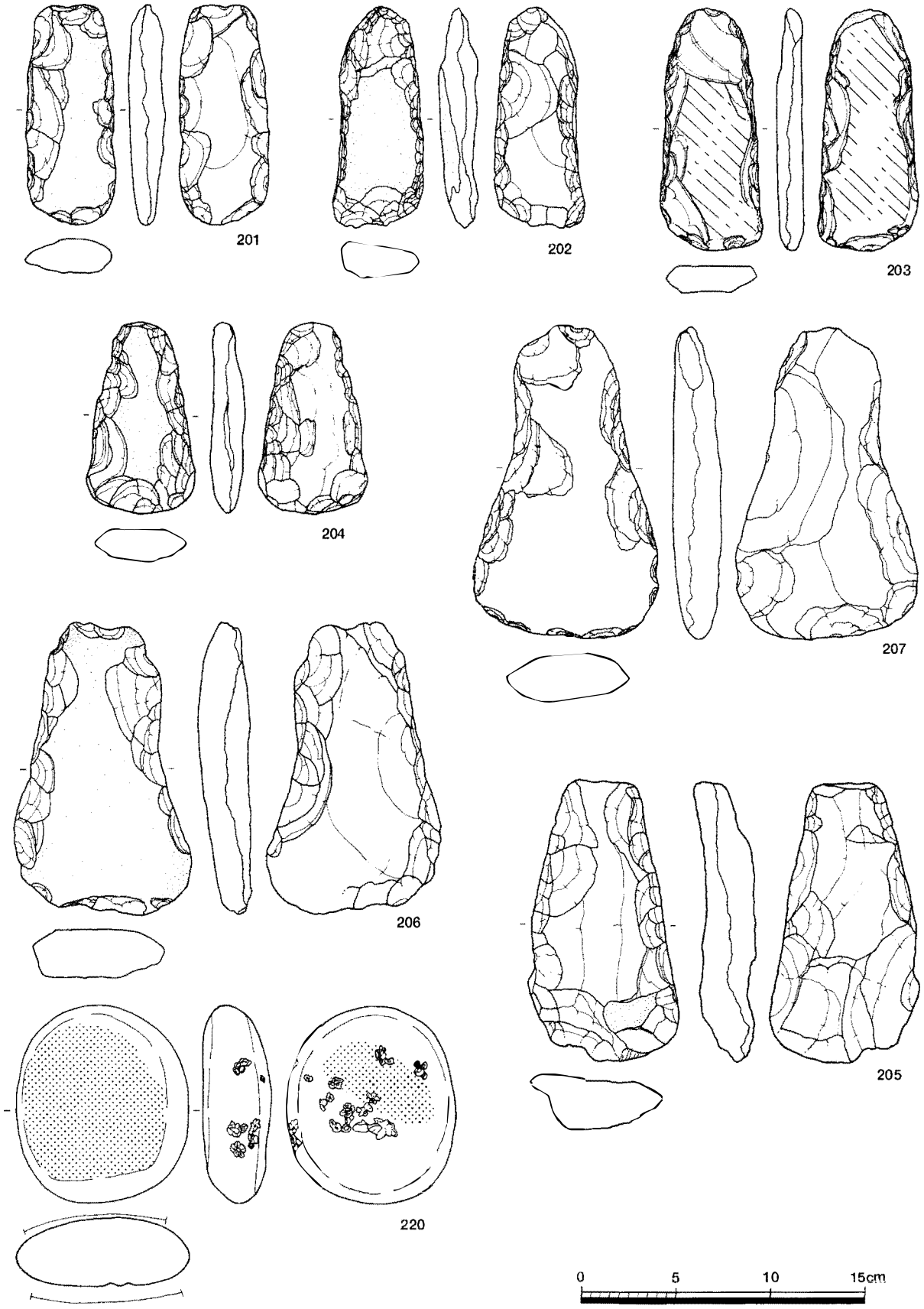


図109　SD508出土遺物②

点、RF12点、MF19点、打欠石錘４点、切目石錘３点、磨石・凹石類２点の計100点であった。他の遺構や包含層と比較して、打製石斧の出土量が多いのが特徴である。

195はZ1群としたものであるが、口縁部が直線的で端部を外側に折り返し、口縁端部を肥厚させている。内面に条痕が残り、外面には条線状の沈線が認められることから、前期前半の土器と判断しZ1群に含めた。196はC3群胴ａ類で、細く低い隆帯を２本単位で縦位及び斜位に貼り付ける。隆帯による区画内には、非常に細い沈線を条線状に施す。197はC3群胴ｂ類で、沈線により曲線的な文様を描く。

198はスクレイパー2d類で、横長の剥片の末端辺に刃部を作り出している。打製石斧の可能性も考えられたが、打製石斧の側縁に一般的に認められる刃潰し加工がないことから、スクレイパーとした。199はスクレイパー3a類で、縦長の剥片の両側辺に片面調整で刃部を作り出している。200はスクレイパー4a類で、大きな剥離により抉り状の刃部が２ヵ所作り出されている。201～203は打製石斧１類で、刃部に摩耗が認められる。202は片面にしか摩耗が認められないことから、刃部再生を行っていると思われる。203は摩耗が特に顕著で、基部の片面にも摩耗痕がある。204～207は打製石斧２類で、刃部に摩耗が認められる。204は、長さ10.1cmと他の３点と比較して小型のものである。205は刃部の片側が大きく剥離しているが、使用によるものと思われる。208・209はRFで、末端辺や側辺に刃部が作り出されている。210・211はMFで、縁辺部に微細な剥離痕が確認できる。212～215は円礫を用いた打欠石錘で、長軸の両端を打ち欠いて紐掛け部としている。215の側面は敲打されたように荒れており、成形に伴うものである可能性も考えられる。216～218は円礫を用いた切目石錘で、長軸の両端に切目を入れるが、218の上端の切目は一旦打ち欠いた後に入れられている。219は球形に近い円礫を用いた磨石・凹石類1a類で、平坦面と側面に磨痕が認められる。220は磨石・凹石類2b類で、平坦面と側面に敲打痕や磨痕が確認できる。

時期　自然流路の年代は、第４節で述べたとおり９世紀から10世紀頃と思われる。

SD509（図110）

検出状況　Ｖ層上面で検出した、Ｂ区中央部を南北方向に流れる自然流路で、SD508と重複している。幅は6.0ｍ～9.5ｍ、検出した範囲での長さは約36ｍであった。遺物は散在した状態で出土している（図110）が、Z2群土器は比較的集中している。

出土遺物（図111・112）　縄文土器はS3群c1類３点、Z2群I2類13点、胴ａ類１点の計17点、石器類は石鏃４点、石錐３点、石匙１点、スクレイパー５点、楔形石器２点、打製石斧１点、石核１点、剥片類25点、RF７点、MF26点、打欠石錘１点、切目石錘２点、磨石・凹石類１点、石皿１点の計80点出土した。Z2群I2類の13点は、胎土や焼成から同一個体片と思われる。SD508と比較して打製石斧が非常に少ないのが特徴である。

221・222はS3群c1土器で、器壁が厚く胎土に繊維を含む。器面が摩滅しており、文様の有無は不明であるが一応無文土器とした。早期末から前期初頭の土器と思われるが、便宜上S3群に含めた。223～229はZ2群I2類土器で、同一個体片と判断した。諸磯式の縁孔浅鉢に類するものと思われる。残存状態が悪く、器面は剥落が激しいが、文様はないと思われる。230はZ2群胴ａ類で、RL縄文を施す。

231は石鏃1a類としたが、調整が粗雑な部分があり、未製品の可能性も考えられる。232は石鏃1e類

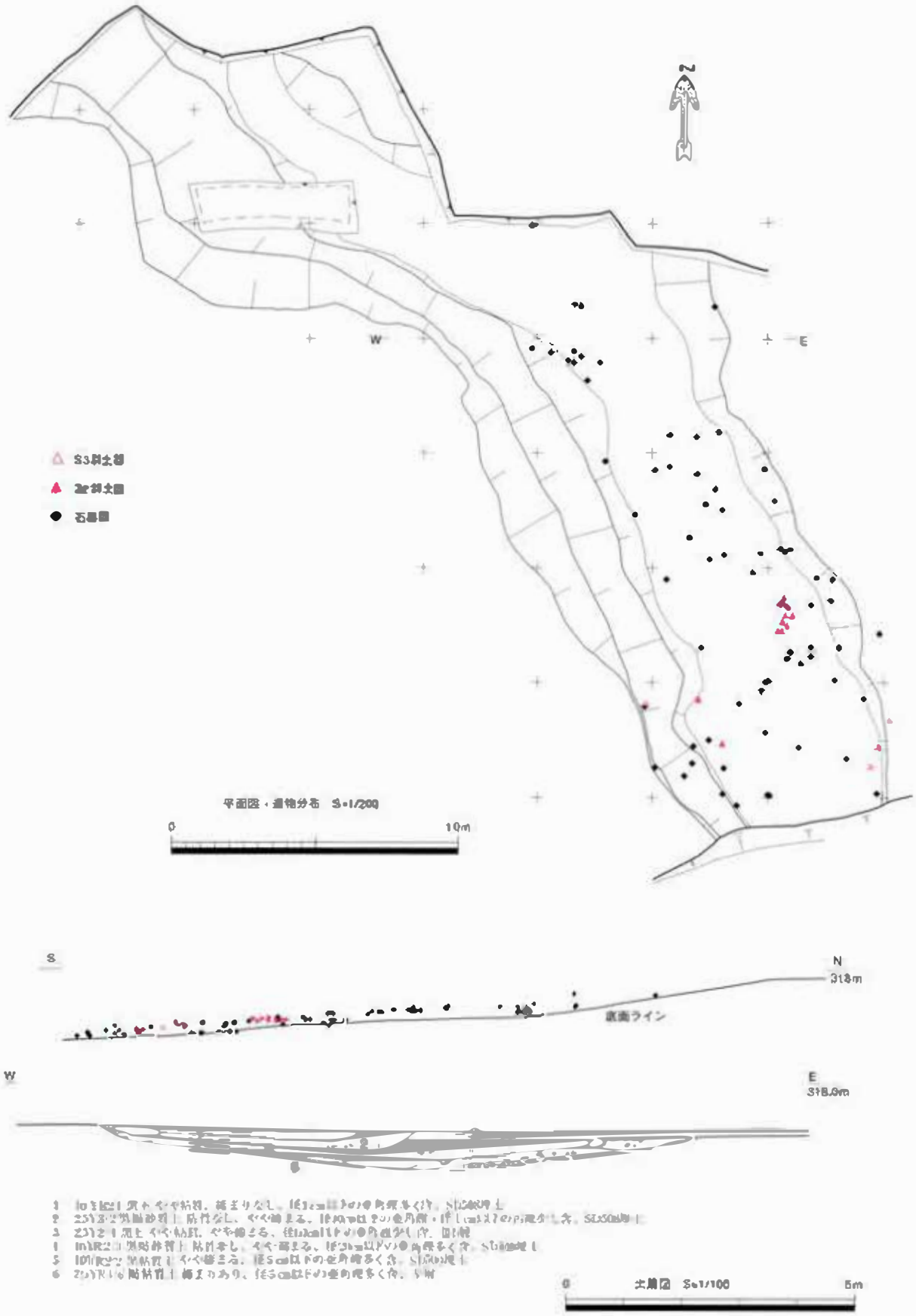


図110　SD509（平面S=1/200、土層S=1/100）

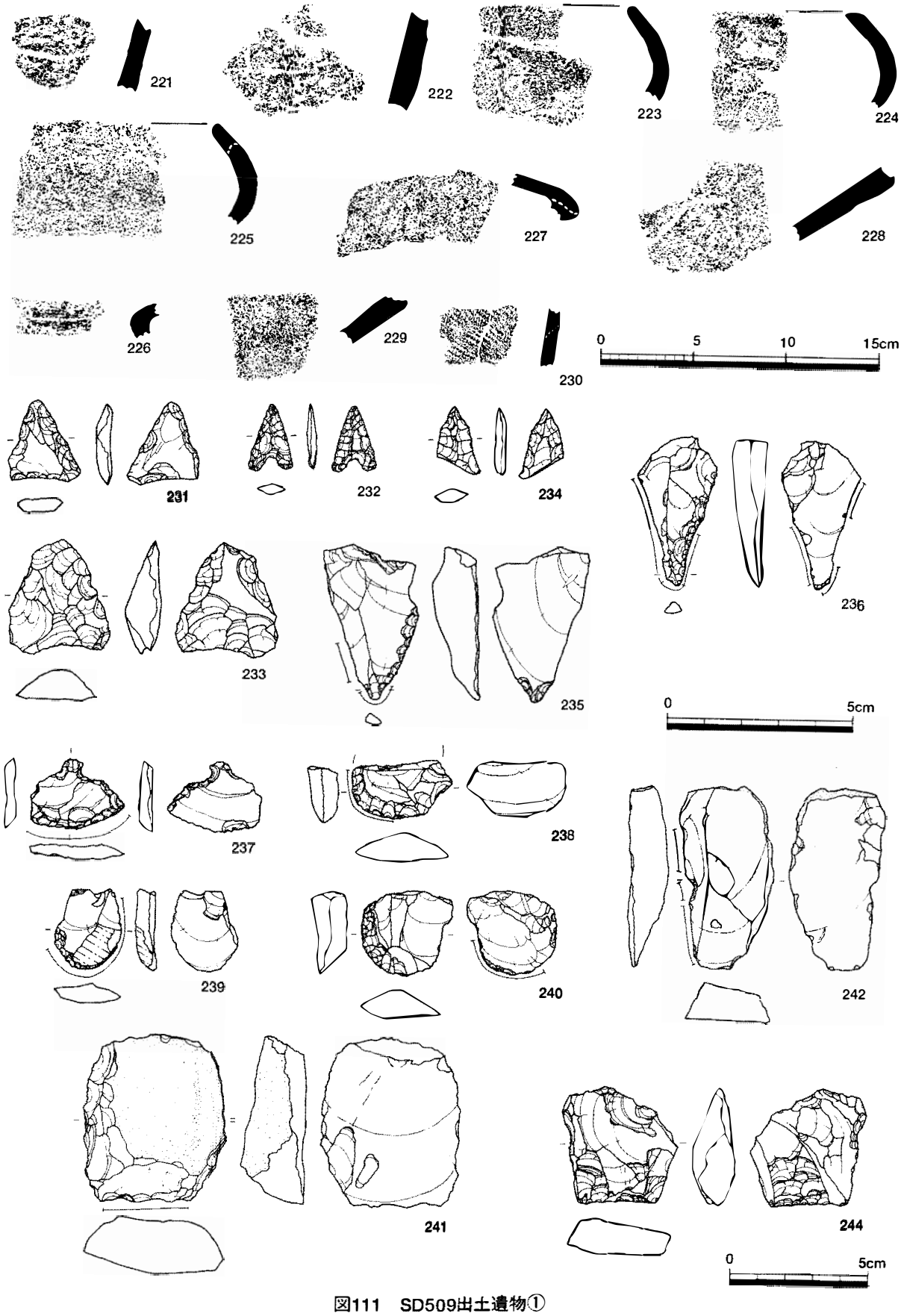


図111　SD509出土遺物①

で、脚部は平らに作られている。233は石鏃3類で、調整が粗いことから未製品と思われる。SD505出土の193とほぼ同じ形状のものである。234は基部を欠損するため石鏃4類としたが、他の形態の石鏃には見られない、側縁に角を持つものである。235・236は石錐1類で、剥片の先端に簡単な調整を加えて錐部としているが、一側辺のみ比較的丁寧な調整を施す。237は横型の石匙で、素材剥片の打点付近に2方向から抉りを入れてつまみ部を作り出し、片面調整により末端辺に刃部を作り出す。238～240はスクレイパー2a類で、末端辺から側辺にかけて片面調整により刃部を作り出す。剥離調整は側辺から末端辺にかけて連続して行われ、刃部は外彎する。241はスクレイパー2b類で、末端辺から側辺にかけて、片面調整により刃部を形成している。側辺と末端辺の調整は連続しておらず、刃部は直線的である。スクレイパー2a類よりも大きく厚手の剥片を用いる。242はスクレイパー4a類で、側辺に抉り状の刃部を持ち、その両側には微細な剥離痕が確認できる。243・244は楔形石器、245～248はMFである。249は打欠石錘、250・251は切目石錘である。252は磨石・凹石類2b類で、平坦面に磨痕と敲打痕が確認できる。

時期　SD509上部で検出したSD508出土縄文土器には、中期末葉のものがあることや、SD509から出土した土器から前期には埋没したものと思われる。

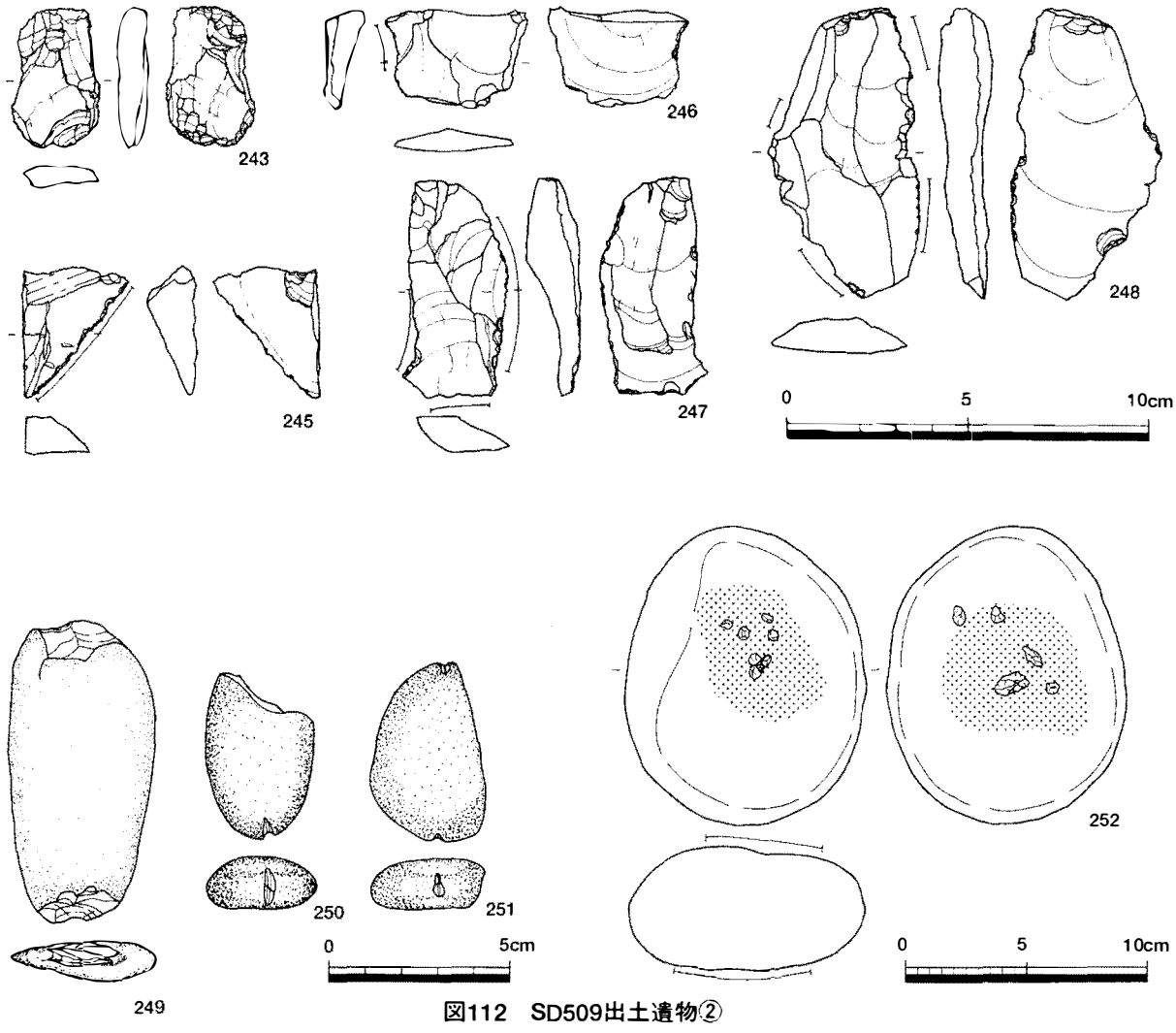


図112　SD509出土遺物②

(5) 倒木痕

V層が持ち上がり、その下に黒色土が入り込むような、土層の堆積状況を示すものを倒木痕とし、A区で28基、B区で2基を検出した（表40）。平面形が楕円形となるものが比較的多い。また、4基の倒木からは川原石が出土し、5基の倒木痕からは遺物が比較的多く出土しており、倒木痕ではない可能性もあると思われる。

各倒木痕から出土した遺物の中から、主なものを図113に示した。253～255はNW4、256はNW6、257～259はNW7、260はNW8から出土した。253はC2群a1類土器で、縄巻縄文（RRLを軸としLを2本巻く）を地文とし、半截竹管沈線で連弧文を施す。254はC3群b1類で、隆帯により施文する。255は石鏃1b類である。256はスクレイパー4b類で、側辺に抉り状の刃部と直線的な刃部を持つ。257はC3群b1類の頸部片である。258は切目石錘、259は磨石・凹石類2b類である。260はK群土器で、多条の沈線を施した後、LR縄文を回転施文する。後期中葉頃のものか。

表40 倒木痕一覧

番号	区画	遺物	備考
NW1	IK10～IK11	なし	<SK2 底面に川原石
NW2	IL10～IL11	なし	>SK39・SK51 馬蹄形？
NW3	IM14～IN15	なし	一部調査区外
NW4	IO10～IP10	C2群・C3群土器、石鏃・MF・石皿	>SK112 壁面に川原石
NW5	IQ9～IQ10	J群土器、石鏃・MF	<SK92
NW6	IS11～IT12	Z2群・J群土器、スクレイパー・MF・剥片類	
NW7	IQ14～IQ15	C3群土器、RF・MF・凹石類・切目石錘・剥片類	>SK137
NW8	IT14	K群・J群土器、打製石斧・RF・MF・磨石類・剥片類	>SK119・SK148
NW9	IS14～IS15	なし	>SK116
NW10	IQ8～IR8	剥片類	>SB4・SK234
NW11	IR7～IR8	なし	>SK177・SK235・SK236
NW12	IU12～IU13	なし	<SK145
NW13	IU11～IU12	SB5として扱った	>SB5
NW14	IR5	なし	
NW15	IT3～IU4	なし	馬蹄形
NW16	IS7～IT8	J群土器	
NW17	IS8～IT8	なし	
NW18	IT8～IU8	なし	
NW19	IU8～IU9	剥片類	埋土中に川原石
NW20	IV14～IW14	なし	
NW21	IU15～IV16	なし	
NW22	IJ10	なし	抜根跡か
NW23	IJ10	なし	抜根跡か
NW24	IU3～IU4	なし	
NW25	IU4	なし	
NW26	IU16	なし	
NW27	IV16	なし	
NW28	IR13～IS14	なし	>SK115・SK154 壁面に川原石
NW501	IIL18	なし	IIIb層が覆う
NW502	IIIJ2～IIIJ2	なし	

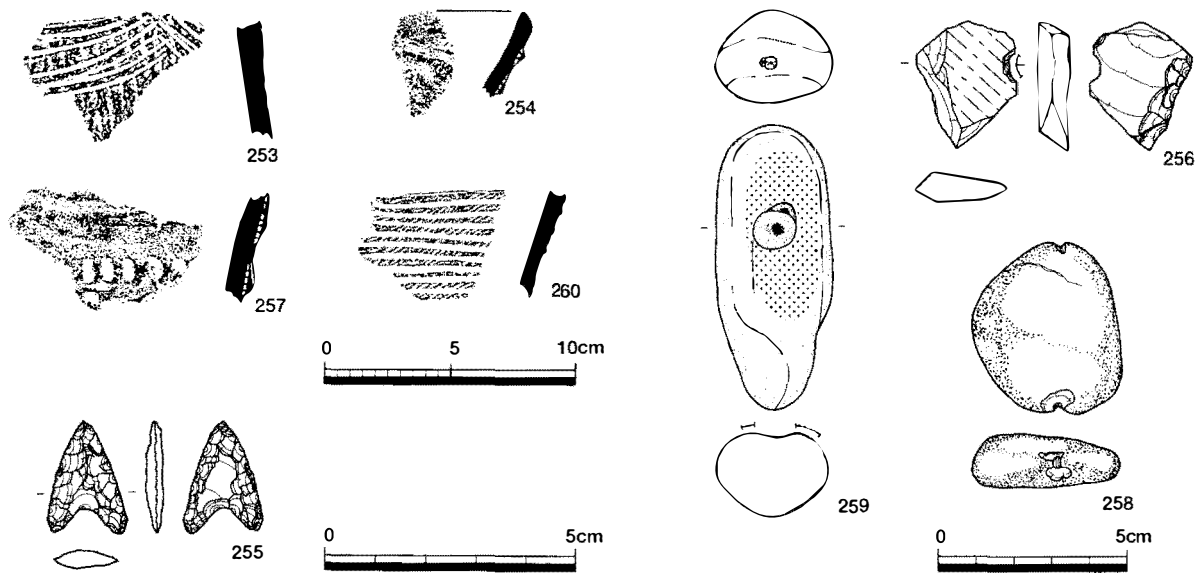


図113 倒木痕出土遺物

(6) 包含層出土縄文土器

包含層から出土した縄文時代の土器は、A区で254点、B区で39点であった。ほかに試掘調査で出土した遺物の内、今回の発掘調査区外から出土したものが1点あった。これらの土器の時期別数量を表41～43に遺構出土のものと合わせて記載した。倒木痕出土遺物は、包含層のものが土とともに流入したと考えられるが、倒木痕ではない可能性も若干残ることから、遺構と同様に各倒木痕毎に数量を示した。なお、縄文時代の遺物包含層は、層位的にはⅢb層とⅣ層であるが、図や表において包含層出土遺物としたものの中には、Ⅰ層やⅡ層出土のものも含んでいる。

A区では、土器の約61%が遺構や倒木痕から出土した。特に前期の土器はその割合が多く、Z1群土器で約88%、Z2群土器で約80%が遺構内出土である。中期の土器でもC2群土器が約77%、C1・C3群土器が50%を越えている。このため遺物の出土分布は、竪穴住居跡や土坑墓に集中した状況を示す。B区では、土器の約55%が包含層から出土しており、A区とはやや異なる。遺構出土遺物の大半は自然流路からのものである。出土分布図は、分類別に記号化し作成した。

表41　出土別土器数量①

A区		早期			前期		中期			後期	晩期	不明	合計
		S1群	S2群	S3群	Z1群	Z2群	C1群	C2群	C3群	K群	B群	J群	
包含層	破片数	8	2	4		59	10	10	22	3		136	254
	個体数(x 12)	1.1	0	0		11	5	0	3	0		5	25.1
	質量(g)	92	59.5	64.7		513.1	109.5	102.3	224.6	110		805.9	2081.6
NW4	破片数							2	2			12	16
	個体数(x 12)							0	2			0	2
	質量(g)							35.7	12.2			56.5	104.4
NW5	破片数											1	1
	個体数(x 12)											0	0
	質量(g)											5.7	5.7
NW6	破片数					1						1	2
	個体数(x 12)					0						0	0
	質量(g)					10.8						23.2	34
NW7	破片数								1				1
	個体数(x 12)								0				0
	質量(g)								33.2				33.2
MW8	破片数									1		3	4
	個体数(x 12)									0		0	0
	質量(g)									19.7		14.4	34.1
NW16	破片数											10	10
	個体数(x 12)											1	1
	質量(g)											34.7	34.7
SB1	破片数					4			16			13	33
	個体数(x 12)					2			2.8			0	4.8
	質量(g)					59.5			541.6			49	650.1
SB2	破片数							29				4	33
	個体数(x 12)							2				0	2
	質量(g)							882.4				18.1	900.5
SB3	破片数			21					1				22
	個体数(x 12)			1					0				1
	質量(g)			69.1					28.2				97.3
SB4	破片数	2				64			1				67
	個体数(x 12)	1				7			0				8
	質量(g)	10.1				665.7			12.1				687.9
SB5	破片数						10						10
	個体数(x 12)						0						0
	質量(g)						49.1						49.1
SB6	破片数					7							7
	個体数(x 12)					2							2
	質量(g)					94							94

表42　出土別土器数量②

A区		早期			前期		中期			後期	晩期	不明	合計
		S1群	S2群	S3群	Z1群	Z2群	C1群	C2群	C3群	K群	B群	J群	
SB7	破片数					37							37
	個体数(x/12)					2.8							2.8
	質量(g)					548.1							548.1
SP1	破片数								1				1
	個体数(x/12)								0				0
	質量(g)								6.7				6.7
SP3	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											1	1
SP41	破片数					1							1
	個体数(x/12)					1							1
	質量(g)					6.5							6.5
SP43	破片数					1							1
	個体数(x/12)					1							1
	質量(g)					19.3							19.3
SP45	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					2.3							2.3
SP49	破片数					2							2
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					26.8							26.8
SD1	破片数							1				1	2
	個体数(x/12)							0				0	0
	質量(g)							53.5				7.3	60.8
SK78	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					8.2							8.2
SK92	破片数			3								3	6
	個体数(x/12)			0								0	0
	質量(g)			7.4								12.3	19.7
SK93	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					3.2							3.2
SK104	破片数					2							2
	個体数(x/12)					1							1
	質量(g)					6.5							6.5
SK105	破片数					5							5
	個体数(x/12)					1							1
	質量(g)					112.8							112.8
SK107	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					7							7
SK111	破片数											2	2
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											9.1	9.1
SK114	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											10.8	10.8
SK115	破片数			2									2
	個体数(x/12)			0									0
	質量(g)			15.1									15.1
SK120	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											5.8	5.8
SK123	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											3.2	3.2
SK124	破片数			2								10	12
	個体数(x/12)			0								1	1
	質量(g)			8.5								33.4	41.9
SK135	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											4.3	4.3

表43　出土別土器数量③

A区		早期			前期		中期			後期	晩期	不明	合計
		S1群	S2群	S3群	Z1群	Z2群	C1群	C2群	C3群	K群	B群	J群	
SK141	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					18.1							18.1
SK145	破片数					12							12
	個体数(x/12)					1.6							1.6
	質量(g)					216.6							216.6
SK148	破片数					19							19
	個体数(x/12)					9.5							9.5
	質量(g)					1181.9							1181.9
SK153	破片数			2									2
	個体数(x/12)			0									0
	質量(g)			8.8									8.8
SK154	破片数					66	1						67
	個体数(x/12)					5.2	1						6.2
	質量(g)					751.6	35.8						787.4
SK177	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					20.1							20.1
SK229	破片数								2				2
	個体数(x/12)								1				1
	質量(g)								48.6				48.6
SK233	破片数							1				1	2
	個体数(x/12)							0				0	0
	質量(g)							1.8				4	5.8
SK333	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											2	2
SK344	破片数	1											1
	個体数(x/12)	0											0
	質量(g)	4.3											4.3
SK380	破片数					2							2
	個体数(x/12)					2.9							2.9
	質量(g)					163.9							163.9
SK385	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											1.3	1.3
SK448	破片数					1							1
	個体数(x/12)					0							0
	質量(g)					7.6							7.6
合計	破片数	11	2	34	0	289	20	43	47	4	0	204	654
	個体数(x/12)	2.1	0	1	0	48	5	2	9.8	0	0	7	74.9
	質量(g)	106.4	59.5	173.6	0	4443.6	183.2	1075.7	918.4	129.7	0	1102	8192.1
B区													
包含層	破片数	15					1		5		2	16	39
	個体数(x/12)	3					1		0		1.8	1	6.8
	質量(g)	129.3					49.2		8.8		101.6	110.7	399.6
SK576	破片数											1	1
	個体数(x/12)											0	0
	質量(g)											7.8	7.8
SK656	破片数				1								1
	個体数(x/12)				0								0
	質量(g)				61.4								61.4
SD508	破片数				1	1			6			5	13
	個体数(x/12)				1	0			0			0	1
	質量(g)				15.5	7.6			83.6			40.2	146.9
SD509	破片数			3		14							17
	個体数(x/12)			0		4							4
	質量(g)			47.4		447.2							494.6
合計	破片数	15	0	3	2	15	1	0	11	0	2	22	71
	個体数(x/12)	3	0	0	1	4	1	0	0	0	1.8	1	11.8
	質量(g)	129.3	0	47.4	76.9	454.8	49.2	0	92.4	0	101.6	158.7	1110.3

a）早期の土器（図115）

261はS1群a1類で、口縁部及び口縁端部に山形押型文を施す。胎土に黒鉛を含み、飛騨地域に特有の沢式土器の搬入品である。262～264はS1群a2類で、山型押型文を口縁部に横方向、胴部に縦方向の帯状施文をするものである。263は、A区とB区で出土した破片が接合した。265～268はS1群b類で、山形押型文と平行沈線状の押型文を施す。265の口縁部は直線的である。269～274はS1群c類で、山形や格子目押型文を施す。269は波状口縁で、口縁部の楕円押型文の下は無文部となる。270や272にも無文部が認められる。273は山形文の周期がずれており、格子が連なる文様が作り出されている。274・275はS2群土器で、沈線と刺突により幾何学的な文様を描き、空間を押引沈線で埋めている。

S1群土器は、A区・B区から出土しているが、A区ではa2類が1点出土した以外はc類のみであり、

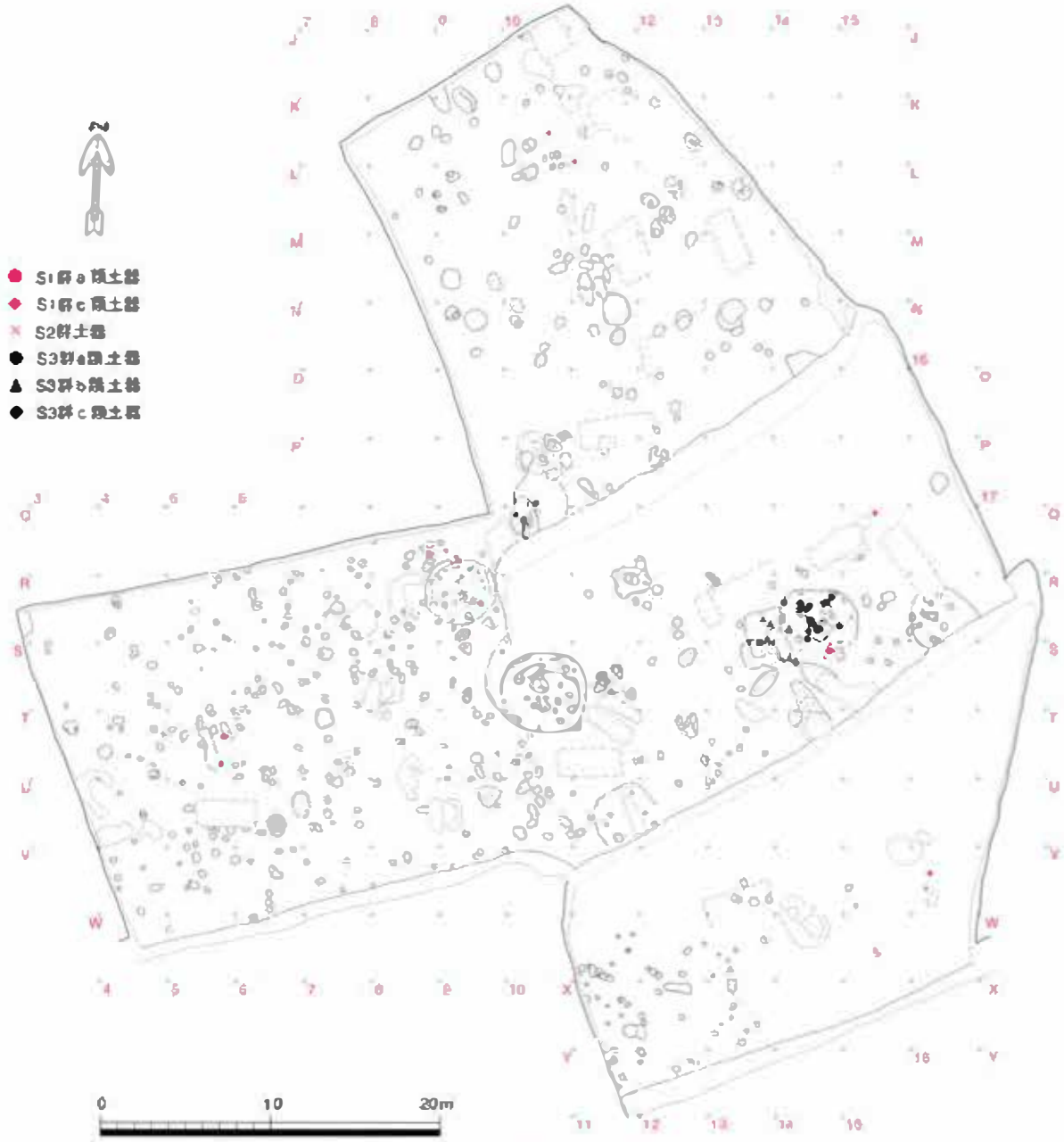


図114　S1・S2・Z1群土器A区出土分布（S=1/400）

B区ではc類は出土していない。A区での出土分布は散在した状況である（図114）が、B区ではa1類・a2類・b類が南部の狭い範囲にまとまっており（図115）、いずれもN層から出土した。明確な共伴関係にあると断言できるものではないが、a類とb類の近時性を示す可能性が高いものと思われる。また、a類・b類とc類とは地点が異なって出土することから、時期差を示すものと思われる。既存の編年における併行関係においても、沢式と神明上層式が併行し、細久保式はこれらよりも後出とされている（矢野1993、縄文時代文化研究会1999）。

S2群土器は、A区から2点、B区から3点出土しただけであった。出土位置はA区の南端部で（図114）、谷状に浅く窪んだ場所とB区のSD509である。

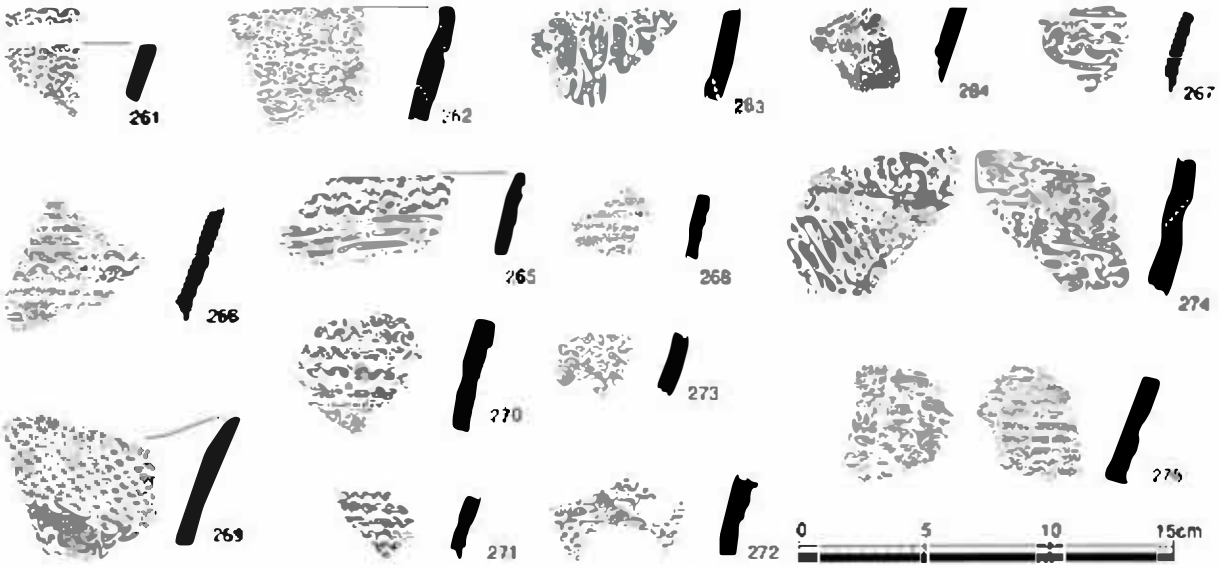


図115　包含層出土S1群・S2群土器

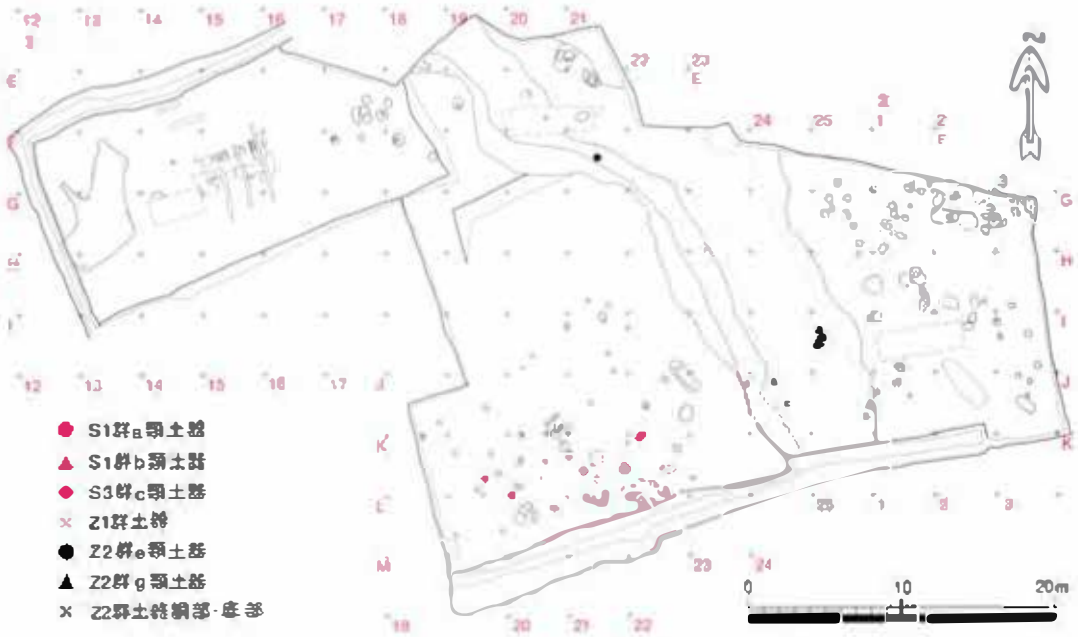


図116　S1群・S3群・Z1群・Z2群土器B区出土分布（S=1/500）

S3群土器の大半は、A区SB3から出土した。包含層から出土したS3群土器は、A区で小片が4点あるだけであったため、図示しなかった。このうち3点は、SB3を検出したI RI3区から出土したものであり、SB3と関連する可能性がある。

b）前期の土器（図118）

276はZ2群a類で、口縁部がわずかに内彎する。口縁部に多截竹管による押引沈線を3条巡らせ、口縁端部にも同一工具によると思われるよる刻みを施す。277はZ2群b1類で、口縁部が内彎する。口縁部には縦方向の短い刻みを持つ幅い突帯により、直線や弧状線などを描く。278・279はZ2群b2類で、斜め方向の刻みを持つ突帯により文様を描く。278は口縁部が内彎し、6条の突帯を巡らせる。279は波状口縁と思われ、口縁端部に刻みを施し、口縁部には1条の突帯を巡らせる。280はZ2群b3

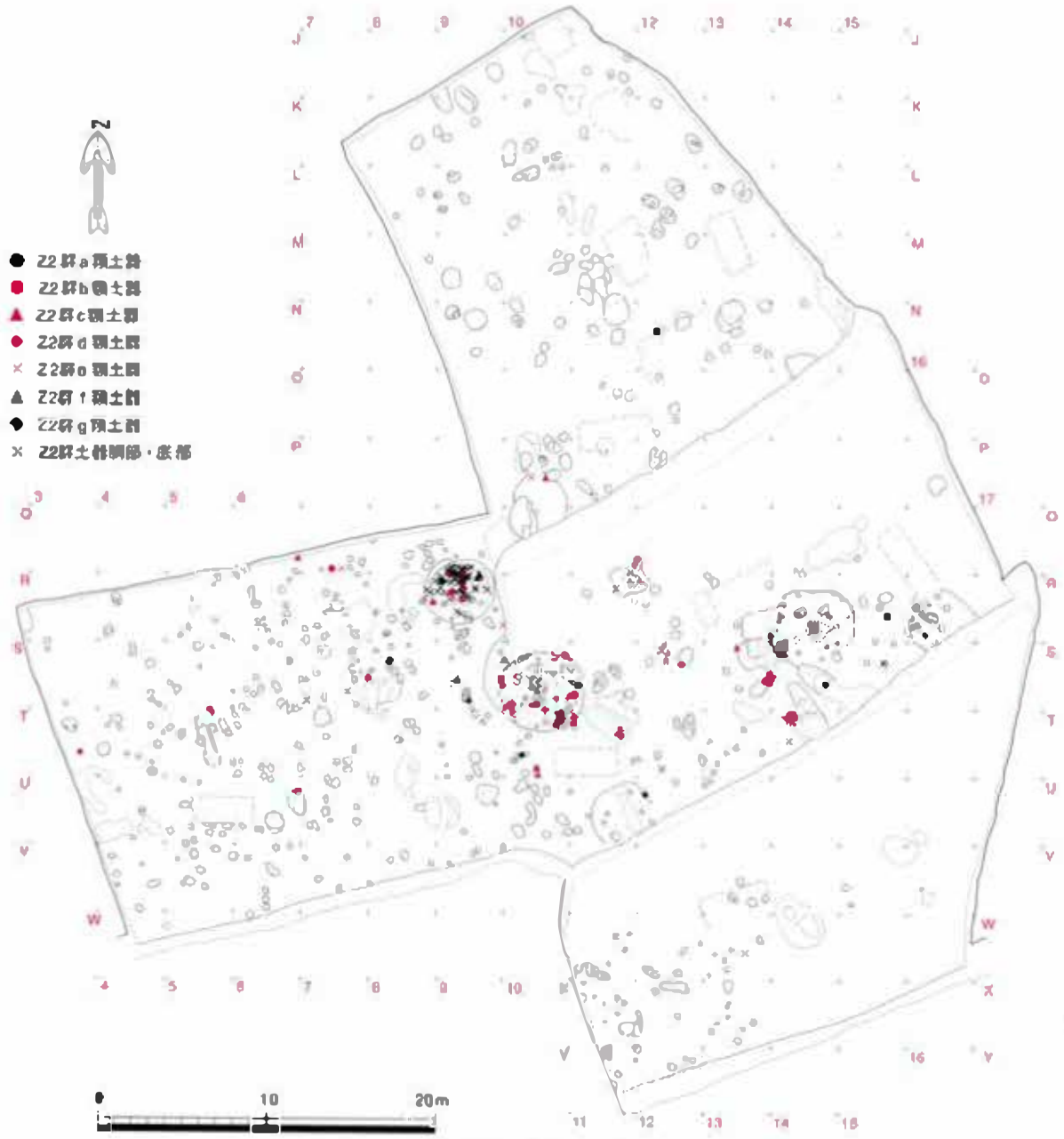


図117　Z2群土器A区出土分布（S=1/400）

類で、直線的な口縁部に突帯を２条巡らせ、上の突帯上には刺突を施す。281・282はZ2群ｃ類で、胎土や焼成から同一個体と思われる。強く張った胴部から、短い口縁部が屈曲して立ち上がる器形と思われる。口縁端部には刻みを施し、口縁部から胴上部に、半截竹管による密な押引を伴う５条以上の突帯で弧状の文様を描く。283～285ははZ2群ｄ類である。口縁部近くの破片と思われ、やや内彎する。２条の突帯を巡らせ、その上にRL縄文を施す。284・285は胎土や焼成から同一個体と思われ、突帯を３条以上巡らせている。286・287はZ2群ｅ類で、286は口縁部が内彎する器形で、一部突帯が剥落しているが、素文の突帯により文様を描く。287は口縁部が内側に屈曲する器形で、無節縄文Lrを地文とし、素文の突帯を部分的に貼り付けている。288はZ2群f1類で、強く括れた頸部から、短い口縁部が内彎して立ち上がる。■縁端部には半截竹管によると思われる押引を施し、口縁部と胴部にはRL縄文を施す。289・290はZ2群g1類である。289は口縁部が強く屈曲する器形で、北陸地方の前期末に位置づけられる朝日下層式（高堀ほか1986）と思われる土器である。他のZ2群土器と比較して、胎土や焼成が異なることから搬入品の可能性がある。口縁部に半截竹管による右上がりの斜行沈線を密に施し、その上に縦位の細い粘土紐を屈曲部にかけて貼り付け、屈曲部のやや上に半截竹管による横位の沈線を施す。口縁部上端にも幅広の粘土帯を貼付している。胴部はLR縄文を地文とし、半截竹管沈線を縦位に施す。290は波状口縁で、括れた頸部から直線的な口縁部が外に開く器形である。地文に幅の狭い２本単位の条線を横方向に施し、半截竹管による刺突を持つ突帯を、波頂部には縦位に３条貼り付け、頸部には２条巡らせる。落合五郎遺跡において、諸磯ｃ式に対比されているⅣ期第７群ｃ類土器（河野ほか1988）に施文方法などが類似する。SB７を検出したＩS9区から出土しており、SB７では同様の地文を持つ土器（図56-138）が出土していることから、SB７に伴うものであった可能性もある。291は、284・285とともに出土したことや、地文に施されたLR縄文の状が細く節が小さい特徴などから、Z2群胴ａ類とした。

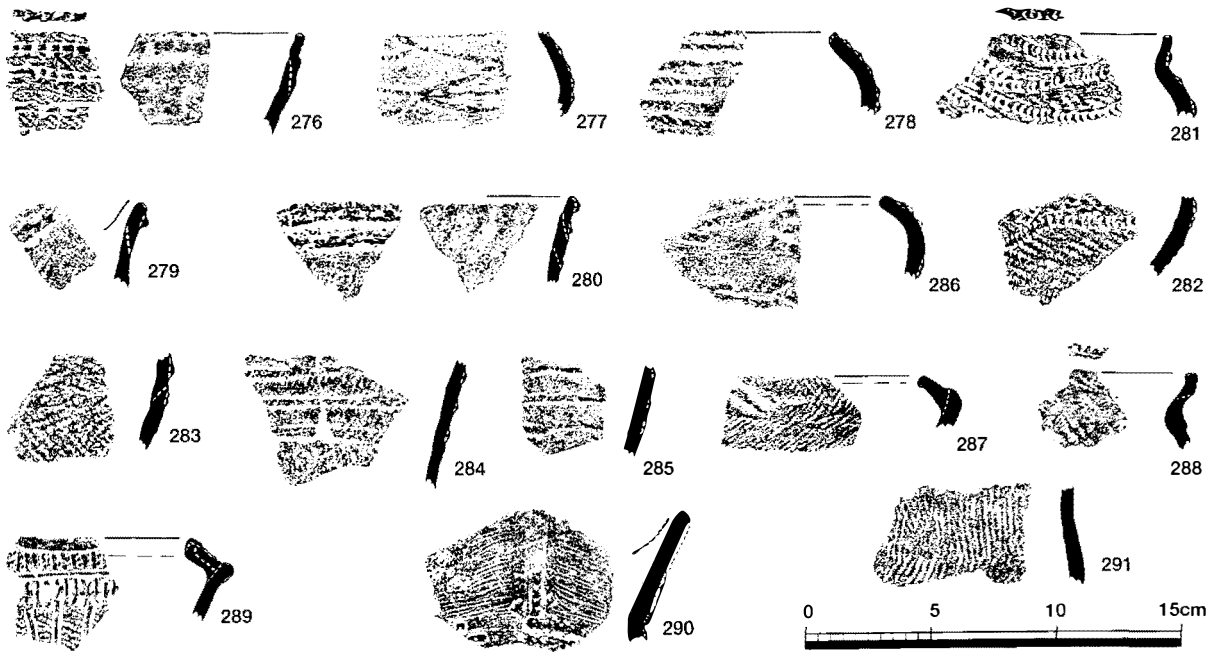


図118　包含層出土Z2群土器

Z2群土器は、A区で竪穴住居跡を中心に数多く出土している（図117）が、B区ではSD508・SD509から少量出土しているだけである（図116）。A区包含層での出土分布は、北部と南部では非常に少なく、竪穴住居跡を検出した中央部を中心に偏在した状況である。

c）中期の土器（図120）

292～295はC1群a類としたものである。292は波状口縁となり、短く縦位隆帯を波頂部に貼り付け、口縁部に2条の隆帯を巡らせる。口縁部上端の隆帯は波状口縁に沿って、その下の隆帯は水平に巡る。隆帯上には半截竹管による押引きを加える。波頂部内面にも低く短い隆帯を貼り付けているが、こちらには押引きはない。293は、口縁端部を内側に折り返して肥厚させ、2本単位の沈線文を施す。292・293は、北裏CⅡ式に相当すると思われる。294は波状口縁で、口縁部に粘土帯を貼り付けて肥厚さ

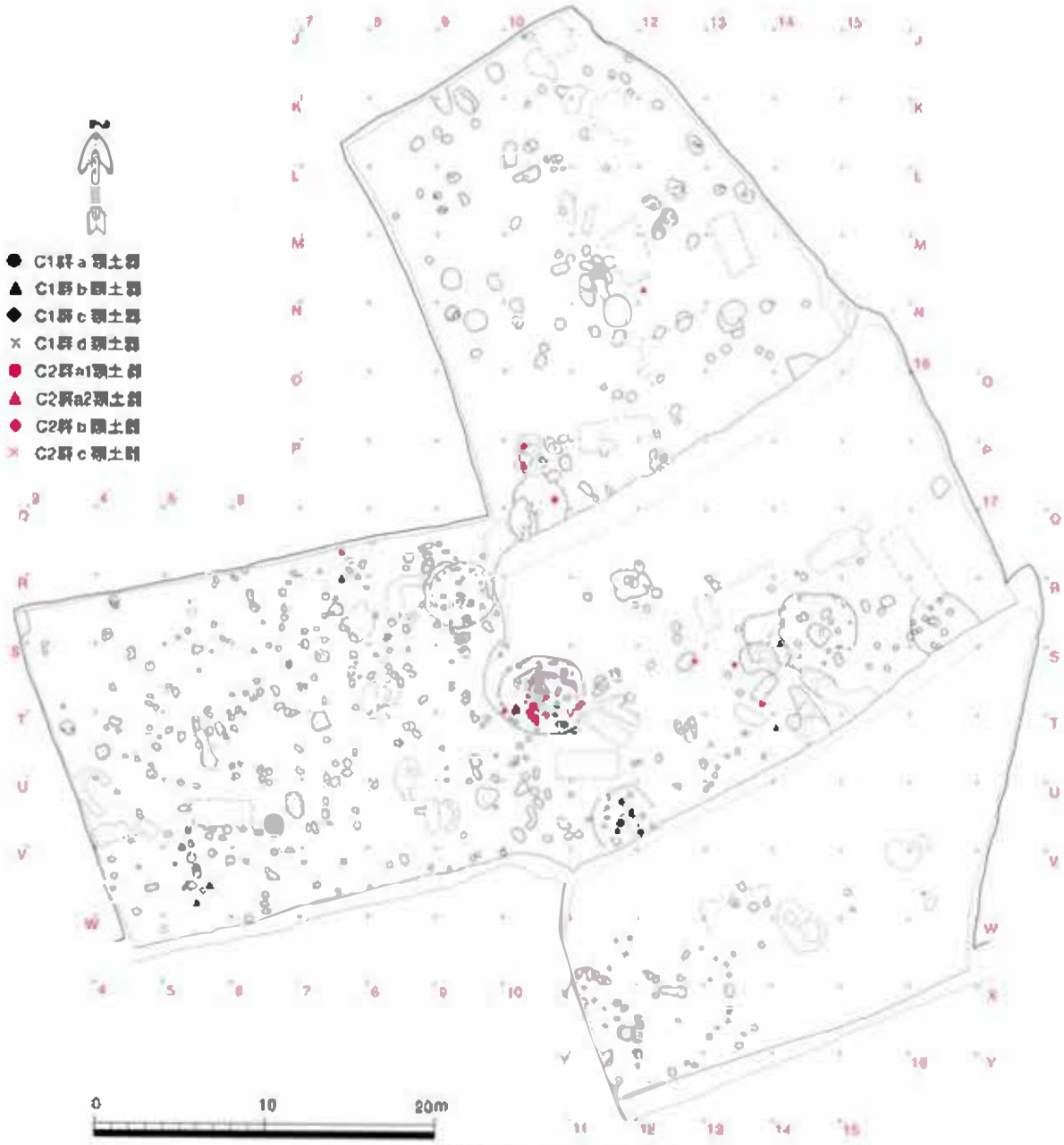


図119　C1・C2群土器A区出土分布（S=1/400）

せ、隆帯と半截竹管により波頂部に三角形の文様を施す。口縁部内面にRL縄文を施す。北奥C Ⅱ式～前畑式（山田平1式）に相当すると思われるが、口縁部内面への縄文施文など船元式の影響が認められる。295は、2条の隆帯間に半截竹管による押引き沈線を施すもので、b類・c類には該当しないことからa類に含めた。296～298はC1群b類で、船元Ⅰ式～Ⅱ式に相当する。296は口縁部に小突起を持ち、隆帯や刺突、爪形文により文様を描く。口縁部内面にはRL縄文を施す。297は口縁部がやや内彎し、刺突や1字爪形文により文様を描く。口縁部内面の上端にRL縄文を施す。298は胴部片であ

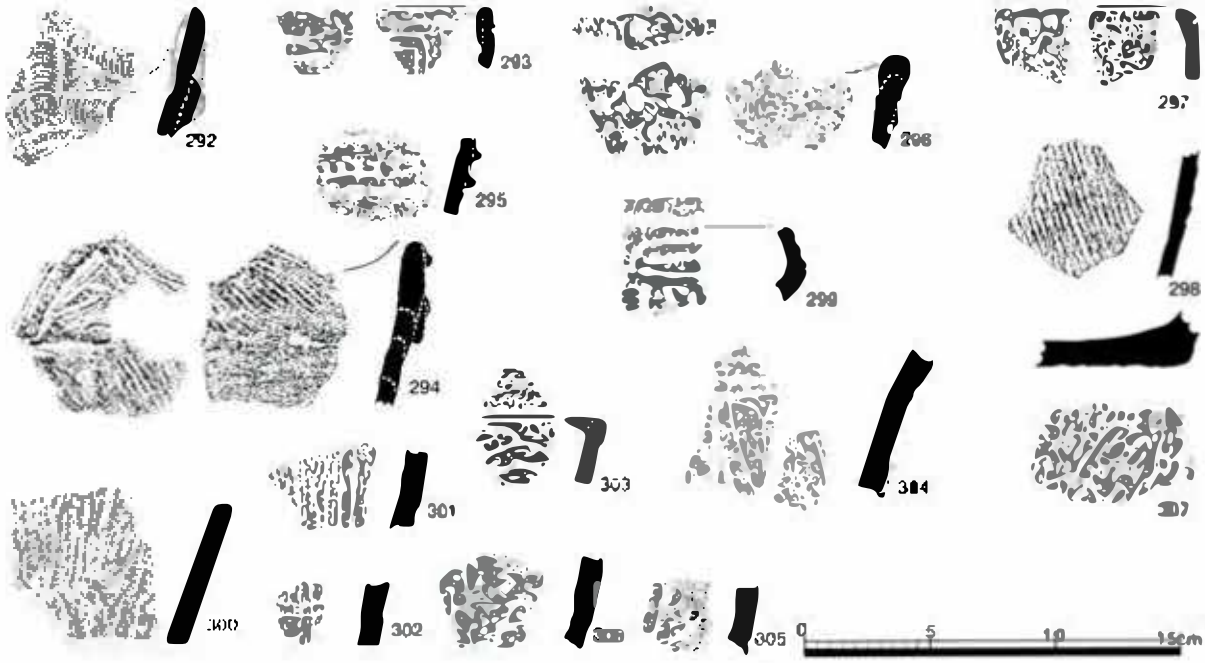


図120　包含層出土C1・C2・C3群土器

図121　C1・C3・J群土器8区出土分布（S=1/500）

るが、縄文の節が細く長い特徴からb類に含めた。299は口縁部が強く内彎する器形で、口縁端部に刻みを施す。口縁部外面には、湾曲部より上に沈線による横位の文様を描き、湾曲部より下には縦位の短沈線列を施す。里木貝塚において船元Ⅲ式E類（間壁1971）とされているものに類似する。300・301は、縄巻縄文（写真16）を地文に施すことからC2群a1類としたものである。302はC2群a2類で、Lrの撚糸文を地文とし、半截竹管による弧状の沈線を施す。303はC3群b2類で、山形口縁の波底部にあたるものと思われる。口縁端部は内側に屈曲して面を作り、LR縄文を施す口縁部は沈線により曲線的な

写真17　300縄巻縄文

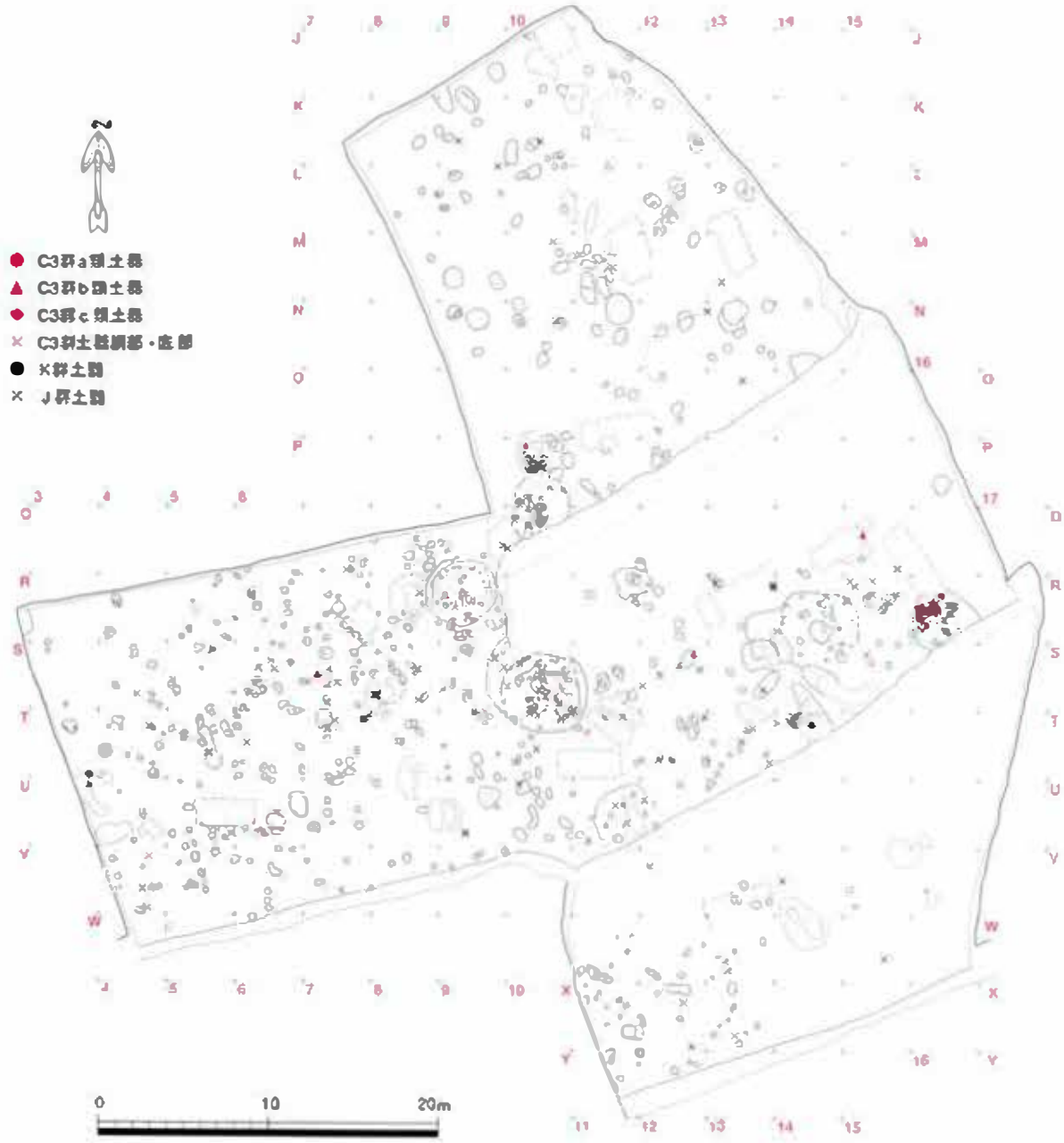


図122　C3・K・J群土器A区出土分布（S=1/400）

文様を描く。北白川C式に併行するものと思われる。304はC3群b2類で、口縁部の多くを欠くが、横位の沈線が認められ、胴部は隆帯と沈線により縦位区画を行い、区画内に垂下する蛇行沈線や斜行沈線を施す。305はC3群胴a類で、縦位の隆帯と斜行沈線を施す。306はC3群胴b類で、縦位や斜位の沈線を施す。304～306は、胎土や焼成などから同一個体の可能性が高いと思われる。307はC3群の底部で、網代痕が残る。

C1群土器は出土量が少なく、B区では1点出土しただけである。A区ではSB5からまとまって出土したほか、西部と東部に散在している（図119）。C2群土器はB区からは出土しておらず、A区ではSB2からまとまって出土した他は、中央部にやや多く分布しており、北部から西部にかけて散在する（図119）。C3群土器は、A区ではSB1でまとまって出土したほか、中央部にやや多い（図123）。B区ではSD508から出土しただけである。

d）後期の土器（図123）

308はA区西部で出土したもので、2本の沈線間にLR縄文を充填する。堀之内Ⅱ式頃のものと思われる。309は底部片であるが、形態からK群に含めた。底部は凹底となり、胴部が大きく開くことから後期後葉のものと思われる。

K群土器は、A区から4点出土したが、B区からは出土していない。また4点の土器の内、2点が試掘調査で出土したものであるため、出土分布図（図122）には2点のみ位置を記した。

e）晩期の土器（図123）

310・311は胎土や焼成から同一個体と思われる。長い頸部から緩やかに口縁部が開く器形で、口縁部には素文の突帯を1条巡らせる。口縁部は撫で調整されているが、頸部外面は二枚貝条痕調整が施されている。はいづめ遺跡第Ⅳ群E類（岐阜県教委1989）と同様の土器で、伊勢型変容壺と呼ばれるものに類似し、晩期末に位置づけられる（突帯文土器研究会1993）。

B群土器は、A区からは出土しておらず、B区から2点の出土だけであった。また、この2点も試掘調査時にTP21から出土したものであり、出土分布図に位置を記していない。

f）時期不明の土器（図123）

312～314は、いずれもIS12区から出土しているが、この区画からは前期後葉から中期末葉の土器が出土していることからJ群土器に含めた。しかし、施された縄文は前期後葉の土器に施されたものと類似しており、Z2群胴a類に含めるべきかもしれない。J群土器は、A区・B区ともに出土しており、散在した出土状況である（図121・図122）。

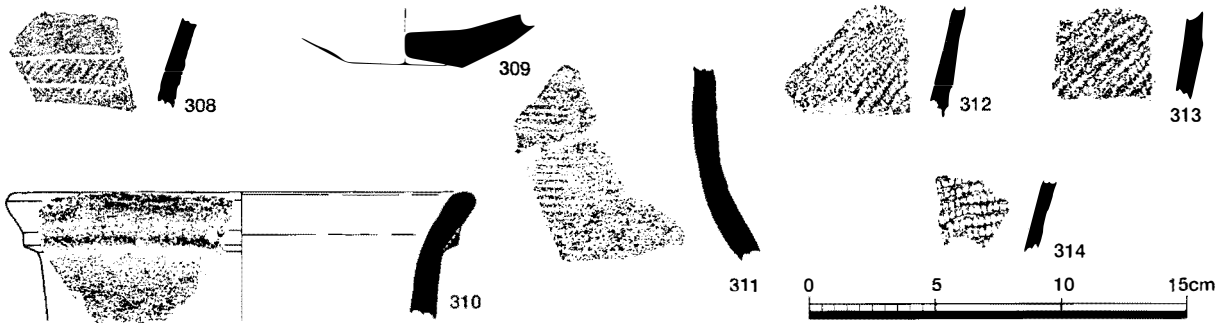


図123　包含層出土K群・B群・J群土器

表44　縄文土器観察表①

No.	整理No.	地区遺構	層位	部位	分類	調整(外面/内面)	様	胎　土	焼成	色調(外/内/断面)	挿図	図版	備　考
15	X26-1	SB1	1	口縁	Z2-a	撫で/撫で	押引沈線(竹管幅0.53)・刻み(幅0.25)	粗、4mm以下のチャート・石英粒多く含む	普通	暗褐/褐 明赤褐	31	9	残存率1、深鉢F類
16	559	SB1	1	口縁	Z2-g1	縄文LR?(3条8節/1cm)/撫で	突帯(幅0.4)	やや粗、2mm以下のチャート粒多く含む	普通	橙 にぶい橙 灰黄褐	31	9	残存率1、深鉢B4類
17	381,544,528-1,528-4	SB1	3・4	口縁	C3-a	撫で/撫で	沈線(幅0.5)・隆帯(幅0.7)・条線(4本 1.18)	やや密、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい橙/橙 褐灰	31	9	口径34.2残存率1.8
18	383	SB1	3	口縁	C3-a	撫で/撫で	沈線(幅0.5)	やや密、2mm以下の砂粒多く含む	良	にぶい橙/橙 黒	31	9	17と同一、残存率1
19	494	SB1	3	胴部	C3-胴a	撫で/撫で	沈線(幅0.6)・条線(4本 1.18)	やや密、2mm以下の砂粒多く含む	普通	にぶい黄橙 にぶい橙 黒	31	9	17と同一
20	385	SB1	3	胴部	C3-胴a	撫で/撫で	沈線幅(0.53)・条線(4本/1.3)	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	褐灰/にぶい橙/黒褐	31	9	17と同一
21	X26-4	SB1	3	胴部	C3-胴a	撫で/撫で	沈線(幅0.55)	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	明赤褐 灰褐 黒褐	31	9	17と同一
22	684	SB1	3	胴部	J-a	縄文RL(3条4節/1cm)/撫で	なし	やや密、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	良	にぶい橙/にぶい橙 黒褐	31	9	
24	694,962,1001,1081	SB2	1	胴部	C2-a2	撚糸文Lr(4条3節/1cm)/撫で	沈線(竹管幅0.7)	やや粗、4mm以下の石英・チャート粒含む	普通	にぶい黄橙 黒褐/褐灰	35	12	胴部内面最大径の位置に帯状、下部はブロック状に炭化物、胴部最大径18.2
25	569,961-2	SB2	1	胴部	C2-a2	撚糸文Lr(撚糸文4条3節/1cm)/撫で	なし	やや密、3mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	浅黄橙 黒褐 黒	35	12	内面炭化物
26	939,942,1231	SB2	2	底部	C2-a2	撫で/撫で	なし	やや粗、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	褐灰 灰黄褐 褐灰	35	12	内面幅1.3cmの工具痕
27	1148	SB2	2	胴部	C2-a2	撚糸文Lr/撫で	沈線(竹管幅0.46)	やや粗、5mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	褐 にぶい褐 灰褐	35	12	
28	973~976,1030	SB2	2	胴部	C2-a2	撚糸文Lr(4条4節1cm)/削り後撫で	沈線(竹管幅0.5)	やや粗、5mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	普通	褐灰/にぶい褐/灰黄褐	35	12	外面炭化物
29	1012	SB2	2	胴部	C2-a2	撚糸文Lr(4条4節/1cm)/撫で	なし	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒含む	良	橙 黒褐 にぶい褐	35	12	内面炭化物
30	515	SB2	1	口縁	C2-b	撫で/撫で	隆帯(幅0.6)・刺突(幅0.8)・刻み(幅0.1)	やや密、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	浅黄橙 にぶい黄橙 褐灰	35	12	残存率1
31	724	SB2	1	口縁	C2-b	撫で/撫で	隆帯・刺突(幅0.8)	やや粗、2mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	灰白 浅黄橙 褐灰	35	12	30と同一、残存率1
32	696	SB2	1	口縁近く	C2-b	撫で/撫で	隆帯(幅0.6)・刺突(幅0.8)	やや密1mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	浅黄橙 灰白 褐灰	35	12	30と同一
33	695	SB2	1	胴部	C2-b	撫で/撫で	隆帯(幅0.6)	やや粗、2mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	浅黄橙 にぶい黄橙/褐灰	35	12	30と同一
34	963	SB2	1	口縁近く	C2-b	撫で/撫で	隆帯(幅0.7)・刺突(幅0.6)	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい橙 黒褐 黒褐	35	12	内面炭化物
35	955	SB2	2	胴部	C2-b	撫で/撫で	隆帯(幅0.7)	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい橙 灰黄褐/褐灰	35	12	
36	1038	SB2	2	口縁	C2-c	撫で/撫で	隆帯(幅0.7)	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒含む	普通	にぶい橙 にぶい黄橙 褐灰	35	12	内面帯状の暗色化、残存率1
37	1275	SD1	1	胴部	C2-a2	撚糸文/撫で	沈線(竹管幅0.5)	やや粗、3mm以下の石英・チャート粒含む	普通	黒褐 にぶい褐 にぶい黄橙	35	12	
38	1246-1	SK233	1	胴部	C2-a2	撚糸文R1/撫で	沈線(幅0.5)	やや粗、4mm以下の石英・チャート粒含む	普通	にぶい赤褐/にぶい褐/にぶい赤褐	35	12	
39	1278	SP41	1	■縁	Z2-b1	撫で/撫で	突帯(幅0.7)・刻み(幅0.2)	やや密、2mm以下の石英・チャート粒含む	普通	にぶい橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙	35	12	残存率1、深鉢B1類?
63	641,1083	SB3 SK153	2 1	口縁近く	S3-a	条痕(7本/1.5cm)/撫で	突帯(幅0.58)	やや密、3mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	明赤褐/橙/灰黄褐	41	15	
64	789	SB3	2	■縁近く	S3-a	条痕(7本/1.5cm)/撫で	突帯(幅0.6)	やや密、2mm以下のチャート粒含む	普通	明赤褐 にぶい橙/褐	41	15	
65	911	SB3	2	胴部	S3-a	条痕(4本/1cm)/撫で	なし	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	橙/にぶい赤褐/にぶい褐	41	15	
66	934	SB3	1	胴部	S3-b	縄文LR(2条4節/1cm)/撫で	なし	やや密、2mm以下のチャート粒含む	普通	にぶい赤褐	41	15	繊維痕あり
67	638,788	SB3	2	胴部	S3-b	縄文LR?(2条4節/1cm)/撫で	なし	やや粗、4mm以下のチャート粒多く含む	普通	にぶい赤褐/褐/黒	41	15	繊維痕あり
68	835	SB3	1	胴部	S3-b	縄文RL(2条4節/1cm)/撫で	なし	やや粗、3mm以下の石英・チャート粒含む	普通	にぶい橙/橙 灰褐	41	15	繊維痕あり
69	1021	SB3	2	口縁	S3-c1	撫で/撫で	なし	やや密、1mm以下の石英・チャート・長石粒含む	普通	にぶい赤褐/にぶい赤褐/黒	41	15	残存率1
79	1181	SB4	2~7	口縁	S1-c	撫で/撫で	楕円押型文	やや密、1mm以下のチャート粒多く含む	良	にぶい褐 にぶい橙 にぶい黄褐	44	18	残存率1

表45　縄文土器観察表②

No.	整理No.	地区遺構	層位	部位	分類	調整(外面/内面)	文　様	胎　土	焼成	色調(外/内/断面)	挿図	図版	備　考
80	1145	SB4	2~7	胴部	S1-c	撫で/撫で	楕円押型文	やや密、2mm以下のチャート・長石粒含む	良	橙/にぶい褐/灰褐	44	18	外面やや摩滅
81	1327	SB4	8~11	口縁	Z2-a	撫で 撫で	沈線・刺突(竹管幅0.45)	やや密、2mm以下の石英・チャート・長石粒含む	普通	褐/灰褐/灰褐	44	18	残存率1、深鉢F類
82	1159	SB4	2~7	胴部	Z2-a	縄文(4条7節1cm) 撫で	沈線(竹管幅0.5)cm	やや密、4mm以下のチャート・長石・石英粒・雲母片含む	普通	灰褐/褐灰/灰黄褐	44	18	外面炭化物、深鉢F類
83	1172	SB4	8~11	胴部	Z2-b2	縄文LR 撫で	突帯(幅0.5)・刻み(幅0.15)	やや密、チャート・長石粒含む	普通	灰黄褐/にぶい橙/にぶい橙	44	18	深鉢C1類?
84	1319	SB4	8~11	胴部	Z2-b2	縄文LR 撫で	突帯(幅0.5)刻み(幅0.15)	やや密、2mm以下の石英・チャート・長石粒・雲母片含む	普通	にぶい黄橙 にぶい橙 にぶい黄橙	44	18	深鉢B2類?
85	1294,1317,1318	SB4	2~7	口縁~胴部	Z2-c	縄文LR 撫で	突帯(幅0.5)・沈線(幅0.5)・押引沈線や刻み(竹管幅0.55)	やや密、1mm以下の石英・泥岩・チャート粒・雲母片含む	普通	にぶい黄橙	44	18	外面炭化物、口縁内面、胴部内面下位暗色化、残存率2、深鉢D1類4期
86	1211	SB4	8~11	口縁	Z2-c	撫で 撫で	突帯(幅0.35)・押引沈線(竹管幅0.4)・縄文LR(3条5節 1cm)	やや密、2mm以下のチャート・長石・泥岩粒含む	普通	にぶい黄橙/黒/暗灰	44	18	内面縄文帯、外面炭化物、残存率1、深鉢C3類、4期
87	1313	SB4	8~11	胴部	Z2-c	縄文LR(3条5節/1cm) 撫で	突帯(幅0.5)・押引(竹管幅0.45)	やや密、2mm以下のチャート・長石・泥岩粒含む	普通	暗灰/暗灰 黒褐	44	18	86と同一
88	1308	SB4	2~7	胴部	Z2-c	縄文LR 撫で	突帯(幅0.5)・押引(竹管幅0.45)	やや密、2mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	灰褐/暗灰/暗灰	44	18	86と同一、外面炭化物
89	1299,1322	SB4	8~11	口縁	Z2-d	縄文LR(3条4節/1cm) 撫で	突帯(幅0.5)	やや密、5mm以下の石英・チャート粒含む	普通	にぶい橙 褐 にぶい褐	44	18	外面炭化物、口縁内面帯状に暗色化、残存率1、深鉢A3類4期
90	1151	SB4	2~7	口縁	Z2-e	撫で/撫で	突帯(幅0.4)	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい黄橙/褐灰/灰黄褐	44	18	外面炭化物、残存率1、深鉢A3類?
91	1222	SB4	8~11	胴部	Z2-e	縄文RL(3条7節 1cm) 撫で	突帯(幅0.32)	やや粗、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい赤褐	44	18	深鉢A2類
92	1143	SB4	2~7	口縁	Z2-f1	縄文LR(3条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、石英・チャート粒・雲母片含む	普通	黒褐	44	18	外面炭化物、残存率1、深鉢G類
93	1144	SB4	2~7	口縁	Z2-f1	縄文LR(3条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、1mm以下のチャート粒・雲母片含む	普通	黒褐/灰褐/黒褐	44	18	92と同一、外面炭化物、残存率1
94	1276	SB4	8~11	胴部	Z2-胴a	縄文RL(3.5条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、6mm以下の石英・泥岩・チャート粒多く含む	普通	暗赤褐 暗赤褐/暗赤灰	44	18	外面炭化物、胴部最大径25.4
95	1304,1320	SB4	8~11	胴部	Z2-胴a	縄文LR(3条5節 1cm) 削り	なし	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい褐 黄灰/黄灰	44	18	外面炭化物
96	1297	SB4	8~11	胴部	Z2-胴a	縄文LR(3条5節 1cm) 削り	なし	やや密、4mm以下の石英・泥岩・チャート粒・雲母片含む	普通	にぶい褐 褐灰/灰褐	44	18	95と同一
97	1306	SB4	8~11	胴部	Z2-胴a	縄文LR(3条4節/1cm) 撫で	なし	やや密、5mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	普通	にぶい黄橙 灰黄褐/灰黄褐	44	18	
98	1173	SB4	8~11	底部	Z2-底a	縄文LR(3条5節/1cm) 撫で	なし	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい黄橙 にぶい黄橙 灰黄褐	44	18	底部残存率1
99	1324	SB4	8~11	底部	Z2-底a	撫で 撫で	なし	やや密、10mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	灰褐/にぶい橙/にぶい橙	44	18	底径10.2、底部残存率5.6、外面炭化物
100	1249	SB4	8~11	底部	Z2-底a	撫で 撫で	なし	やや密、3mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	普通	灰黄褐 にぶい黄橙/にぶい黄橙	44	18	底部残存率1
101	771	SB4	2~11	底部	Z2-底a	撫で 撫で	なし	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	灰褐/赤褐/灰褐	44	18	底部残存率2.1
115	1242	SB5	5	胴部	C1-b	縄文RL(3条2.5節) 1cm 撫で	なし	やや密、4mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	灰褐 にぶい橙/にぶい橙	49	21	外面炭化物
116	1123	SB5	2	胴部	C1-c	撫で 磨き	突起状隆帯・角押文(幅0.4)	やや密、2mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	赤褐 暗赤灰 にぶい褐	49	21	内面暗色化
117	1131	SB5	2	胴部	C1-c	不明 撫で	角押文(幅0.5)	やや粗、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい赤褐 褐/黒褐	49	21	
118	1127	SB5	2	胴部	C1-d	撫で+縄文 撫で	なし	やや粗、4mm以下の石英・泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい赤褐 明赤褐/にぶい褐	49	21	外面炭化物、内面下部暗色化
119	1243	SB5	2	胴部	C1-d	縄文RL? 撫で	なし	やや粗、4mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい褐 にぶい橙/黒	49	21	
128	947-1	SB6	5	口縁	Z2-b2	撫で 撫で	突帯(幅0.4)・刻み(幅0.15)	やや密、1mm以下の石英・チャート粒含む	普通	灰褐 にぶい赤褐 にぶい褐	53	21	外面炭化物、内面下部帯状に暗色化、残存率1、深鉢B4類

表46　縄文土器観察表③

No.	整理No.	地区遺構	層位	部位	分類	調整(外面/内面)	文様	胎土	焼成	色調(外/内/断面)	挿図	図版	備考
129	715-1, 937, 938	SB6	5	口縁	Z2-f1	縄文LR(3条5節/1cm)/撫で	なし	やや粗、3mm以下の石英・泥岩・チャート・長石粒含む	普通	灰黄褐/にぶい黄橙/にぶい黄橙	53	21	残存率1、深鉢G類
130	947-2	SB6	5	胴部	Z2-胴a	縄文LR(3条5節 1cm)/撫で	なし	やや密、1mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	普通	暗赤褐/にぶい赤褐/にぶい赤褐	53	21	
133	943-1	SB7	1	胴部	Z2-b3	縄文RL(3条5節 1cm) LR(2条4節 1cm) 撫で	突帯(幅0.7)・刺突(竹管幅0.5)	やや密、5mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい黄橙/にぶい黄橙/褐灰	56	22	羽状縄文、外面炭化物、深鉢B3類、3期
134	954	SB7	2	胴部	Z2-b3	縄文RL(3条5節 1cm) LR(2条4節 1cm) 撫で	なし	やや密、5mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙/にぶい黄橙/褐灰	56	22	133と同一、外面炭化物
135	1017	SB7	2	胴部	Z2-b3	縄文RL(3条5節 1cm) LR(2条4節 1cm) 撫で	なし						
136	1027, 1028, 1034, 1210	SB7	2	胴部	Z2-b3	縄文RL(3条5節 1cm) LR(2条4節 1cm) 撫で	なし						
137	956	SB7	2	口縁	Z2-d	縄文LR(4条6節 1cm) 撫で	突帯(幅0.5)						
138	619, 943-4	I S1 1SB7	Ⅳ 1	胴部	Z2-g1	条線(竹管幅0.2)/撫で	なし						
139	945	SB7	1	胴部	Z2-胴a	縄文LR(3条4節/1cm)/撫で	なし						
140	1036, 1037	SB7	2	底部	Z2-底a	撫で/撫で	なし	やや粗、5mm以下の石英・泥岩・チャート粒など多く含む	普通	褐灰/にぶい褐/灰褐	56	22	外面炭化物、内面帯状に暗色化
141	1271	SP43	1	口縁	Z2-d	縄文LR(2.5条4節/1cm)/撫で	突帯(幅0.4)	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい赤褐/にぶい橙/褐灰	56	22	外面炭化物、残存率1、深鉢B4類、3期
142	1216	SP45	1	胴部	Z2-胴a	縄文RL(3条6節/1cm) 撫で	なし	やや密、石英・チャート粒少し含む	普通	にぶい赤褐/にぶい褐/にぶい褐	56	22	外面炭化物
143	1209	SP49	1	胴部	Z2-胴a	縄文LR(3条6節/1cm)/撫で	なし	やや密、2mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	普通	にぶい赤褐	56	22	外面炭化物
144	499	SK115	1	胴部	S3-b	縄文LR(2.5条4節/1cm) 撫で	なし	やや粗、6mm以下のチャート多く含む	普通	にぶい赤褐/にぶい褐/にぶい褐	58	33	繊維痕あり
148	928～930, 990～994, 996ほか	SK145	1	口縁～底部	Z2-b3	縄文LR(3条6節 1cm)・撫で 撫で	突帯(幅0.68)・刺突(竹管幅0.42)	やや密、6mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙/にぶい黄橙/灰黄	63	27	外面炭化物、内面帯状に暗色化、口径13.6、底径8.6、残存率1.6、底部残存率2、深鉢A2類3期
151	986, 1055, 1057ほか	SK148	1	口縁～底部	Z2-c	縄文RL(3条4節 1cm)・LR(3条5節 1cm) 撫で	突帯(幅0.65)・押引(竹管幅0.5)	やや粗、3mm以下のチャート・長石粒含む	普通	にぶい橙/にぶい橙/黄灰	65	28	外面炭化物、残存率9.5、口径29、深鉢C2類4期
153	285, 1051, 1052ほか	I S14 SK154	Ⅲb 1～4	口縁～底部	Z2-d	縄文LR(3条6節 1cm)/撫で	突帯(幅0.55)・刻み(幅0.35)	やや粗、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙/黒褐/黒褐	67	29	残存率3、底部残存率6.7、口径23.8、底径10.4、器高20.7、外面及び底部内面に炭化物、深鉢A3類3期、補修孔有
154	1165	SK154	1・2	口縁	Z2-d	縄文LR(3条6節/1cm)/撫で	突帯(幅0.55)	やや密、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい橙/黄灰/黒	67	33	153と同一、外面炭化物、残存率1
155	284	I S14 SK154	Ⅲb	口縁	Z2-d	縄文LR(3条6節/1cm)/撫で	突帯(幅0.5)	やや粗、3mm以下の石英・チャート粒含む	普通	褐灰/黒褐/黒	67	33	153と同一、外面炭化物、残存率1
156	1335	SK154	3・4	底部	Z2-d	縄文LR(3条6節 1cm)/撫で	刻み(幅0.3)	やや密、1mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙/灰/暗灰	67	33	153と同一、外面炭化物、底部残存率1
157	1347	SK154	3・4	胴部	Z2-胴a	縄文RL(4条7節 1cm)・LR(4条6節 1cm) 撫で	なし	密、2mm以下の石英・チャート・長石粒含む	不良	にぶい黄橙/灰黄褐/にぶい黄橙	67	29	羽状縄文、外面赤彩残る、鉢?
158	1204	SK154	1・2	底部	Z2-底c	縄文LR(3条6節/1cm) 撫で	なし	密、3mm以下の石英・チャート・長石粒含む	不良	にぶい黄橙	67	29	157と同一
159	1251	SK154	1・2	口縁	C1-b	縄文RL(1.5条5節/1cm) 撫で	隆帯(幅0.6)・沈線(竹管幅0.7)	やや密、2mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙 にぶい黄褐/にぶい黄褐	67	33	口縁内面縄文帯
160	1429, 1430	SK380	1	口縁	Z2-d	縄文LR(4条6節 1cm) 撫で	突帯(幅0.4)	やや密、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	赤褐/にぶい褐/にぶい褐	69	30	口径16.2、器高11.2、底径8.7、残存率2.9、鉢5期
163	362	SK104	1	胴部	Z2-d	縄文LR?/撫で	突帯(幅0.36)	やや密、1mm以下の石英・チャート粒・雲母片少し含む	良	黒褐/にぶい褐/にぶい褐	73	33	内外面炭化物、深鉢C3類?

表47　縄文土器観察表④

No.	整理No.	地区遺構	層位	部位	分類	調整(外面/内面)	文様	胎土	焼成	色調(外/内/断面)	挿図	図版	備考
164	333	SK104	1	口縁	Z2-e	縄文LR(3条5節 1cm) 撫で	突帯(幅0.38)	やや密、3mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	良	黒褐/灰褐/にぶい褐	73	33	内外面炭化物、残存率1、深鉢C2類?
165	364,540	SK105	1	口縁	Z2-c	縄文RL(2.5条4節 1cm)・LR(2.5条4節 1cm) 撫で	突帯(幅0.5)・押引(竹管幅0.55)	やや密、4mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	褐灰/にぶい褐 里....	73	33	口径32.0、残存率1、深鉢D1類5期
166	328	SK105	1	胴部	Z2-胴a	縄文LR(2条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、1mm以下の石英・チャート・長石粒多く含む	良	灰褐 にぶい橙/褐灰	73	33	外面炭化物
167	558	SK105	1	底部	Z2-底a	撫で 撫で	なし	やや密、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	灰褐 灰黄褐 褐灰	73	33	
176	219	SK93	1	胴部	Z2-b3	撫で 撫で	突帯(幅0.55)・刺突(竹管幅0.4)	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒・雲母片多く含む	普通	橙	77	33	
177	597,621	SK111	1	胴部	J-a	縄文RL(3条4節 1cm) 撫で	なし	やや密、2mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	黒褐	77	33	外面炭化物
181	892	SK141	1	胴部	Z2-胴a	縄文RL(3条4節 1cm) 撫で	なし	やや密、3mm以下のチャート粒多く含む	普通	にぶい褐 浅黄橙 浅黄橙	77	33	器面やや摩滅
182	1183	SK177	1	口縁	Z2-胴a	縄文LR(3条5節/1cm) 撫で	なし	やや粗、5mm以下の石英・チャート・長石粒・雲母片含む	普通	にぶい褐	77	33	外面炭化物、残存率1
184	1235,1265	SK229	1	口縁	C3-b2	撫で 撫で	沈線(幅0.32)	やや密、6mm以下の泥岩粒多く含む	普通	浅黄橙 浅黄橙/褐灰	77	33	残存率1
187	1408	SK344	1	胴部	S1-c	撫で 撫で	山形押型文	やや密、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい褐 にぶい橙 にぶい橙	77	33	
188	1460	SK448	1	胴部	Z2-胴a	縄文RL(4条3.5節 1cm)・LR(3条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、4mm以下の石英・泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい褐 にぶい赤褐 黒褐	77	33	羽状縄文
191	10909	SK656	1	胴部	Z1	縄文RL(2条5節 1cm)・LR(2条4節 1cm) 撫で	なし	やや粗、3mm以下のチャート・長石粒多く含む	良	灰黄褐 黒褐 黒褐	77	33	羽状縄文、内面少し暗色化
195	10703	SD508	2	口縁	Z1	条線 条痕(3本 1.35cm)	なし	やや粗、3mm以下の石英・チャート粒・雲母片含む	普通	灰褐 褐灰 褐灰	108	35	残存率1
196	10297	SD508	1	胴部	C3-胴a	不明 不明	隆帯(幅0.48)・沈線(幅0.1)	やや粗、2mm以下の石英・泥岩・チャート粒多く含む	普通	灰白 浅黄橙 黄灰	108	35	器面摩滅
197	10682	SD508	1	胴部	C3-胴b	撫で 撫で	沈線(幅0.4)	やや粗、6mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	赤褐 にぶい赤褐 褐灰	108	35	内面ブロック状に暗色化
221	10956	SD509	2	胴部	S3-c1	不明 撫で	なし	やや粗、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	にぶい褐 灰褐/灰褐	111	37	繊維痕あり
222	10934	SD509	2	胴部	S3-c1	不明 撫で	なし	やや粗、6mm以下の泥岩・チャート粒含む	普通	橙 灰黄褐/褐灰	111	37	繊維痕あり
223	10907	SD509	1	口縁	Z2-g2	撫で 撫で	なし	やや粗、3mm以下の石英・泥岩・チャート粒・雲母片多く含む	普通	明赤褐/明赤褐 褐灰	111	37	残存率1、浅鉢
224	10942-2,10943	SD509	1	口縁	Z2-g2	撫で 撫で	なし	やや粗、6mm以下の雲母片・チャート粒多く含む	普通	黒褐 にぶい赤褐 黒	111	37	残存率1、浅鉢
225	10905	SD509	1	口縁	Z2-g2	撫で 撫で	なし	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒・雲母片多く含む	普通	にぶい赤褐 赤褐/灰褐	111	37	残存率1、浅鉢
226	10946	SD509	1	胴部	Z2-g2	撫で 撫で	なし	粗、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	暗赤褐 褐灰 褐灰	111	37	浅鉢
227	10947	SD509	1	胴部	Z2-g2	撫で 撫で	なし	粗、2mm以下の石英・チャート粒・雲母片多く含む	普通	にぶい赤褐 明赤褐 灰褐	111	37	浅鉢
228	10942-1	SD509	1	胴部	Z2-g2	撫で 撫で	なし	やや粗、2mm以下の石英・チャート粒・雲母片多く含む	普通	にぶい赤褐 褐灰 褐灰	111	37	浅鉢
229	10914	SD509	2	胴部	Z2-g2	撫で 撫で	なし	やや粗、4mm以下の石英・チャート粒・雲母片多く含む	普通	にぶい赤褐 にぶい褐/褐灰	111	37	浅鉢
230	10921	SD509	2	胴部	Z2-胴a	縄文RL(4条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	赤褐 褐灰 にぶい橙	111	37	
253	281	NW4	2	胴部	C2-a1	縄巻縄文RRL・L2条4節 1cm) 撫で	沈線(竹管幅0.52)	やや密、4mm以下の石英・チャート・長石粒含む	普通	にぶい褐 浅黄橙 褐灰	113	38	外面炭化物
254	292	NW4	2	口縁	C3-b1	撫で 撫で	隆帯(幅0.8)	やや密、2mm以下の石英・チャート・長石・泥岩粒多く含む	普通	にぶい橙 にぶい黄橙 黄灰	113	38	残存率1

表48　縄文土器観察表⑤

No.	整理No.	地区遺構	層位	部位	分類	調整(外面/内面)	文様	胎土	焼成	色調(外/内/断面)	挿図	図版	備考
257	565	NW7	1	胴部	C3-b1	撫で/撫で	隆帯(幅1.1)・沈線(幅0.6)・刺突(幅0.58)	やや粗、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	橙/浅黄橙/黒褐	113	38	
260	648	NW8	1	胴部	K	縄文LR(5条7節/1cm)/撫で	沈線(幅0.2)	やや密、3mm以下の泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい黄橙/にぶい橙 灰黄褐	113	38	沈線後縄文施文
261	10524	ⅡK22	Ⅳ	■縁	S1-a1	撫で/撫で	山形押型文(原体長1.2以上、条数3条、端部鋸歯状)	やや粗、3mm以下のチャート粒・雲母片含む、黒鉛入り	普通	にぶい褐/灰 灰	115	38	残存率1
262	10541	ⅡL22	Ⅳ	■縁	S1-a2	撫で/撫で							
263	409,10482	ⅠS14 ⅠK19	Ⅳ	■縁近く	S1-a2	撫で/撫で							
264	10515	ⅡK21	Ⅳ	胴部	S1-a2	撫で/撫で							
265	10532	ⅡK21	Ⅳ	■縁	S1-b	撫で/撫で							残存率1
266	10534	ⅡL21	Ⅳ	胴部	S1-b	撫で/撫で	山形押型文(原体長1.3、径0.69、条数2条、端部鋸歯状)	やや粗、2mm以下の泥岩・チャート粒・雲母片多く含む	普通	黒/褐/褐	115	38	
267	10536	ⅡL21	Ⅳ	胴部	S1-b	撫で/撫で	山形押型文(原体長1.6、径0.62、条数2条以上、2単位、端部鋸歯状)	やや粗、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	黒褐/にぶい赤褐/にぶい赤褐	115	38	
268	10538	ⅡL21	Ⅳ	胴部	S1-b	撫で/撫で	押型文(原体長1.5cm?、条数3条?)	やや粗、2mm以下の泥岩・チャート粒・雲母片多く含む	普通	黒褐/にぶい褐 にぶい褐	115	38	
269	1248	ⅠQ8	Ⅴ	口縁	S1-c	撫で/撫で	楕円押型文(原体長3.2、径0.45、条数10条、2単位、端部波状)	やや粗、2mm以下のチャート粒多く含む	普通	にぶい橙/橙 にぶい橙	115	38	残存率1
270	1284	ⅠT5	Ⅲb	胴部	S1-c	撫で/撫で	山形押型文(原体長2.8、径0.4、条数3条以上、2単位、端部鋸歯状)	やや粗、5mm以下のチャート粒多く含む	普通	にぶい橙/にぶい橙/黒褐	115	38	
271	X59-1	TP27	Ⅲb	胴部	S1-c	撫で/撫で	山形押型文(原体長1.7以上、径0.48、条数3条以上、3単位、端部鋸歯状)	やや密、2mm以下の長石・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄褐	115	38	
272	126	ⅠK11	Ⅴ	胴部	S1-c	撫で/撫で	山形押型文?(端部直線的)	やや密、1mm以下の長石・チャート粒含む	普通	黒褐/にぶい橙 にぶい黄橙	115	38	
273	227	ⅠQ15	Ⅳ	胴部	S1-c	撫で/撫で	楕円押型文(端部鋸歯状)	やや密、2mm以下のチャート粒多く含む	普通	明赤褐/にぶい褐/にぶい褐	115	38	
274	1478	ⅠW15	Ⅲb	胴部	S2	撫で/条痕	刺突(幅0.6)・押引沈線(幅0.28)	やや粗、2mm以下の石英・チャート・長石粒多く含む	普通	にぶい橙/褐灰/褐灰	115	38	繊維痕あり
275	1470	ⅠW15	Ⅲb	胴部	S2	撫で/条痕	刺突(幅0.6)・押引沈線(幅0.35)・沈線(幅0.2)	やや密、2mm以下の石英・チャート・長石粒多く含む	普通	にぶい橙/褐灰/褐灰	115	38	繊維痕あり、274と同一
276	854	ⅠS8	Ⅲb	口縁	Z2-a	縄文RL(5条9節/1cm)/撫で	押引沈線(竹管幅0.4)	やや粗、3mm以下のチャート粒多く含む	普通	灰褐/褐灰 にぶい橙	118	39	外面炭化物、残存率1、深鉢F類
277	5												
282	7												
283	1												

表49　縄文土器観察表⑥

No.	整理No.	地区遺構	層位	部位	分類	調整(外面/内面)	文様	胎土	焼成	色調(外/内/断面)	挿図	図版	備考
										ぶい橙	118	39	器面摩滅、2類?
										い橙 橙	118	39	284と同 器面摩滅
											118	39	残存率1、器面摩滅、深鉢B2類?
										ぶい黄	118	39	残存率Ⅱ、深鉢B2類
										ぶい赤 い赤褐	118	39	外面炭化物、残存率1、深鉢G類
										にぶ 黄褐	118	39	残存率1、朝日下層式
										黒褐 黄橙	118	39	内外面暗色化、残存率1、諸磯式系
										橙/褐	118	39	外面炭化物
										赤褐/にぶ い 暗赤褐	120	39	外面炭化物、残存率Ⅱ
										い赤褐	120	39	残存率
										い橙/に 橙 褐灰	120	39	外面炭化物、内面縄文帯、残存率1
										い橙 に 橙/灰白	120	39	外面炭化物
										橙/にぶい	120	39	器面摩滅、残存率
297	359									赤褐 明 明赤褐	120	39	口縁内面縄文帯、残存率1
298	3									灰黄褐 い褐	120	39	外面炭化物
										い橙 浅 褐灰	120	39	外面炭化物、内面暗色化、残存率1
										褐/にぶい 橙/明赤褐	120	39	
										ぶい橙 黒 褐灰	120	39	
										ぶい橙/に い橙 暗灰	120	39	
										黄橙 にぶ 黄橙/褐灰	120	39	口縁端部縄文施文、残存率1
304	396,814	IR9	Ⅲb Ⅳ	胴部	C3-b2	撫で 撫で	隆帯(幅0.85)・沈線(幅0.33)	やや密、4mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	灰白/にぶい黄橙/褐灰	120	39	
305	1065	IR9	Ⅳ	胴部	C3-胴a	撫で 撫で	隆帯(幅0.75)・沈線(幅0.36)	やや粗、2mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙/褐灰	120	39	304と同一
306	839	IR9	Ⅳ	胴部	C3-胴b	撫で/撫で	沈線(幅0.25)	やや粗、3mm以下の泥岩・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙/にぶい黄橙/黒	120	39	304と同一、外面炭化物
307	896	IR7	Ⅲb	底部	C3-底	撫で 撫で	網代痕(2本越え2本潜り1本送り)	やや密、3mm以下の石英・チャート粒多く含む	普通	にぶい黄橙/浅黄橙/褐灰	120	39	底部残存率1
308	827	IT3	Ⅲb	胴部	K	磨き 磨き	沈線(幅0.2)・縄文LR(3条6節 1cm)	やや密、1mm以下の石英・チャート・長石粒・雲母片含む	普通	にぶい黄橙 にぶい黄橙/黒褐	123	40	充填縄文
309	X8	Hトレ	不明	底部	K	不明 撫で	なし	やや粗、4mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい褐 にぶい橙 黒褐	123	40	器面摩滅
310	X52-1	TP21	Ⅲb	口縁	B	撫で 撫で	隆帯(幅●.9)	やや密、5mm以下の石英・泥岩・チャート粒含む	普通	にぶい橙/浅黄橙/にぶい黄橙	123	40	口径18.0、残存率1.5
311	X52-2	TP21	Ⅲb	胴部	B	条痕(4本 1.2cm) 撫で	なし	やや粗、4mm以下のチャート粒雲母片含む	普通	浅黄橙/浅黄橙/灰黄褐	123	40	310と同一
312	481	IS12	Ⅲb	胴部	J-a	縄文LR(2条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、2mm以下の石英・長石粒多く含む	普通	黒褐/にぶい橙/褐灰	123	40	外面炭化物
313	651	IS12	Ⅳ	胴部	J-a	縄文LR(2条5節 1cm) 撫で	なし	やや密、2mm以下の石英・長石粒含む	普通	黒褐/にぶい橙/黒褐	123	40	
314	628	IS12	Ⅳ	胴部	J-a	縄文LR(2条4節/1cm) 撫で	なし	やや密、2mm以下の泥岩・石英・長石粒含む	良	にぶい赤褐 にぶい橙/灰褐	123	40	内面暗色化

50　出土別石器数量

点数	石鏃	尖頭器	石錐	石匙	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	フレイク	RF	MF	打欠石錘	切目石錘	磨石類	石皿	石製品	砥石	合計
A区包含層	20	1	8	3	17	15	50	1	4	283	78	106	13	9	22	9	0	0	639
試掘A区	2	0	0	0	2	1	9	0	1	12	4	4	0	0	3	1	0	2	41
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	5
NW5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
NW6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	7
NW7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	9
NW8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	6
NW10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
NW19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
NW20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SB1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	2	0	0	1	0	0	0	8
SB2	1	0	1	0	2	0	2	2	0	16	7	17	3	0	1	1	0	0	53
SB3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	3	0	1	5	0	0	0	20
SB4	2	0	1	0	3	0	1	0	1	9	1	9	0	1	1	4	0	0	33
SB5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	3	6	0	0	0	0	0	18
SB6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
SF2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
SF7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
SK14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
SK25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
SK43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
SK115	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
SK116	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK124	0	0	0	1	3	0	0	0	0	4	0	3	1	0	1	0	0	0	13
SK126	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
SK148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
SK154	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK209	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK233	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SK256	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
SK260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
SK262	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK291	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
SK380	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
SP38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SP40	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
SP43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SP45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SP46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
B区包含層	25	0	7	1	17	4	44	6	3	296	56	169	1	0	13	0	0	0	642
B区	0	0	0	0	1	1	3	0	0	4	2	5	0	0	0	0	0	0	16
SD505	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	8
SD508	0	0	1	0	3	0	37	0	1	18	12	19	4	3	2	0	0	0	100
SD509	4	0	3	1	5	2	1	0	1	25	7	26	1	2	1	1	0	0	80
SK567	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK595	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
SK598	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
SK599	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
SK600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
SK601	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
SK603	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SK652	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
SK679	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
NW502	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
A区計	29	1	12	4	28	17	64	4	8	376	97	160	23	14	41	16	3	2	899
B区計	32	0	11	2	27	8	86	6	5	354	79	227	6	5	17	1	0	0	866
調査区外	1	0	1	1	0	0	8	0	1	18	7	8	0	0	1	0	0	0	46
合計	62	1	24	7	55	25	158	10	14	748	183	395	29	19	59	17	3	2	1811

（7） 包含層出土石器

包含層から出土した石器類は、A区で680点、B区で658点であった。ほかに試掘調査で出土した石器のうち、今回の発掘調査区外から出土したものが46点あった。なお、このうち試掘調査（A区内）で出土した緑石は、新しい時期のものと思われる。これらの石器類の器種別数量を、表50に遺構出土のものと合わせて記載した。倒木痕出土石器も土器と同様の理由で、各倒木痕毎に数量を示した。また、I層やII層出土のものも包含層出土遺物として図や表に記載した。

A区では、石器類の約71%が包含層から出土したもので、土器の出土状況とは異なる。遺構からの出土割合が多いものとしては、石製品や呪製石斧、石剣が50%以上あり、磨石・凹石類・石皿・打欠石錘も40%を越えている。B区では、約71%が包含層から出土しているが、遺構出土遺物の大半は自

図124　A区石鏃ほか出土分布（S=1/400）

然流路からのものである。出土分布図は、出土位置を記録して取り上げた石器すべてを、器種別に記号化し作成した。

a）石鏃（図125）

A区22点、B区25点、調査区外（試掘調査）から1点の合計48点が、包含層から出土したものである。基部形態による分類では、315～322が1a類、323～328が1b類、329～332が1c類、333～335が1d類、336～338が1e類、339・340が2類となる。2類とした2点は、剥片の縁辺に簡単な調整を施して、先端と基部を作り出している。出土分布（図124・127）は、A区・B区とも散在した状況であり、何らかの傾向を見出すことはできなかった。

遺構出土分も含めた62点の石鏃は、長さ1.13cm～3.13cm、幅0.9cm～2.78cm、質量0.2g～6.3gと大きさでは非常にばらつきがある。このため長さ・幅・質量を用いてグラフを作成した（図126）が、これによれば、A区とB区とでは石鏃の大きさについて、異なった傾向をを認めることができる。A区出土の石鏃では、長さの度数分布が1.75cm～2.0cmをピークにして緩やかな山となるが、幅の度数分布

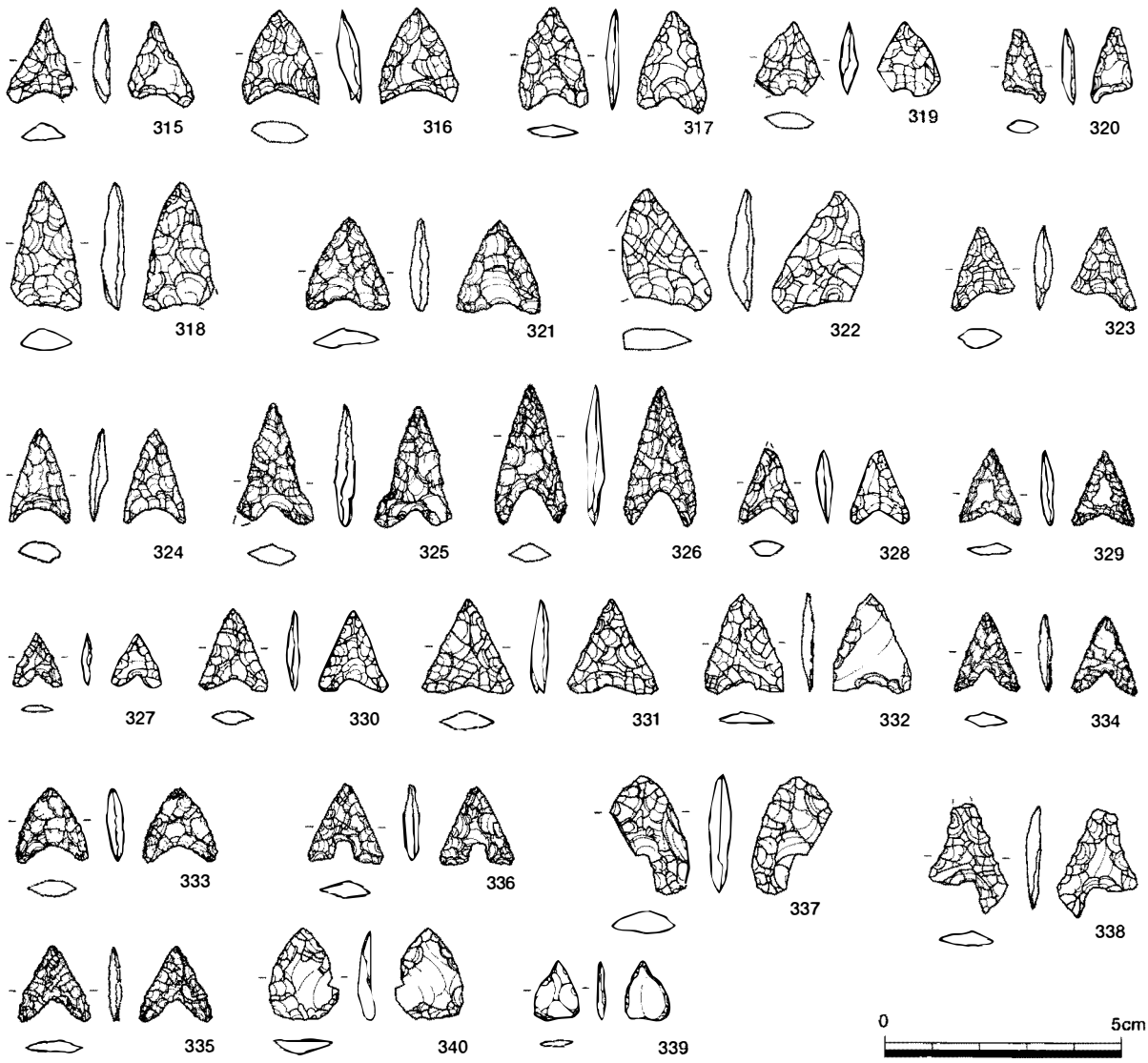
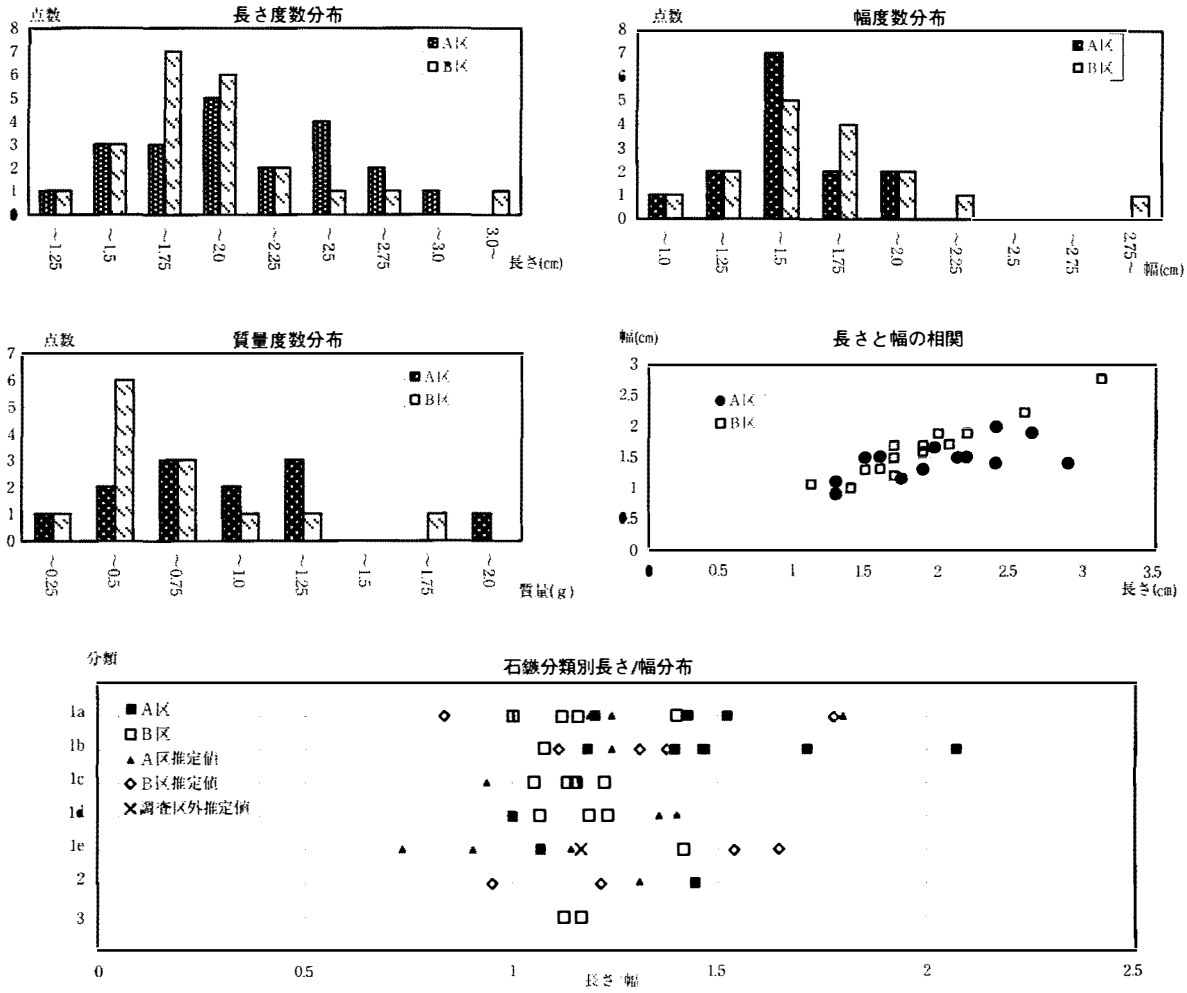


図125　包含層出土石鏃

では1.25cm～1.5cmのものが非常に多く、他の大きさの数が少ない。質量の度数分布は、長さのものと同様に低い山を描いている。B区出土の石鏃では、長さの度数分布は1.5cm～2.0cmのものが多数を占めるが、幅の度数分布はA区の石鏃と同様に1.25cm～1.5cmにピークがあるものの、緩やかな山となる。質量の度数分布では、0.25g～0.5gが最も多くなり、A区の石鏃の度数分布とは異なっている。これらから単純には、A区の石鏃では幅に、B区の石鏃では長さや質量に分布の集中が認められ、長さと幅の相関グラフでもこの傾向が確認できる。また、分類毎に長さ／幅を見ると、分類によって異なる傾向が見られた。1a類・1b類は重複する部分はあるものの、A区の石鏃は幅に対して長さのあるものが多く、B区の石鏃はそれほど長くないものが多い。1c類・1d類ではA区・B区とも分布範囲が狭くなり、その範囲もほぼ重複している。1e類は最も顕著に違いが見られ、A区の石鏃はB区の石鏃よりも、幅に対する長さが短い傾向があり、2類はそれが逆転している。こうした地区による石鏃の大きさの違いが、どのような理由によるものなのかは今後の課題であるが、時期差や遺跡内における場の性格の違いなどを、反映している可能性を想定することはできないであろうか。



長さ度数分布は先端部から脚部まで残存する43点、幅度数分布は石鏃の最大幅が残存する30点、質量度数分布は完存する27点、長さと幅の相関は側面の一部を欠くものを含めた28点、の計測値を用いた。また、分類別長さ／幅分布は、先端から脚部が残存する28点の計測値と、片側の脚部や先端の一部を欠損するもの25点の推定値を用いた。

図126　石鏃属性グラフ

表51　石鏃一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	抉深(cm)	先端角(°)	折損部位	形態 基部	形態 側縁	形態 脚部	素材	挿図	図版	備考
40	1314	SB2	2	チャート	1.75	1.15	0.25	0.6	0.12	55	0	1a	2a	1b	2a	35	13	1a類
70	606	SB3	1	チャート	(1.23)	(1.44)	(0.2)	(0.3)	0.25	62	e	1e	1a	3a	3	41	15	1e類
102	1301	SB4	8～11	チャート	2.4	2.0	0.4	1.2	0.18	45	0	1a	3a	2c	1b	45	18	1a類
103	1214	SB4	8～11	チャート	2.65	1.9	0.5	1.8	0.45	40	0	1b	1a	1a	2b	45	18	1b類
162	10833	SK576	1	チャート	1.4	1.0	0.3	0.3	0.23	51	0	1a	2a	2a	1b	71	33	1a類
179	646	SK116	1	チャート	1.2	(1.5)	0.2	(0.3)	0.43	72	b	1e	1a	3a	3	77	33	1e類
189	10710	SK595	1	チャート	(1.6)	(1.25)	0.3	(0.5)	0.60	-	a	1e	0	2b	1b	77	33	1e類
193	10080	SD505	1	チャート	2.6	2.23	0.9	4.9	0.14	105	0	1a	4a	2a	1b	106	35	3類
231	10902	SD509	1	チャート	2.2	1.9	0.4	1.7	0.12	50	0	1a	1a	2a	2b	111	37	1a類
232	10959	SD509	2	サヌカイト	1.7	1.2	0.2	0.3	0.35	40	0	1e	1a	3a	3	111	37	1e類
233	10927	SD509	2	チャート	3.13	2.78	0.9	6.3	0.21	110	0	1a	4a	2a	1b	111	37	3類
234	10967	SD509	2	チャート	(1.84)	(1.15)	(0.3)	(0.6)	-	40	h	0	4a	0	1a	111	37	4類
255	280	NW4	2	下呂石	2.2	1.5	0.3	0.8	0.53	50	0	1b	1a	1a	1a	113	38	1b類
315	13	ⅠR14	Ⅲb	チャート	1.8	(1.4)	0.4	(0.6)	0.25	35	b	1a	3a	2a	3	125	40	1a類
316	324	ⅠT13	Ⅲb	チャート	1.98	1.65	0.4	1.1	0.25	75	0	1a	2a	1b	3	125	40	1a類
317	42	ⅠM9	Ⅲb	サヌカイト	2.14	1.5	0.25	0.7	0.29	55	0	1a	2a	2b	3	125	40	1a類
318	767	ⅠT5	Ⅲb	チャート	2.7	(1.5)	0.5	(1.7)	0.13	45	b	1a	1a	2a	3	125	40	1a類
319	10414	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(1.55)	(1.2)	0.3	(0.5)	0.18	50	b	1a	2a	3a	3	125	40	1a類
320	10046	ⅡJ23	Ⅲb	チャート	1.6	(0.8)	0.3	(0.3)	0.25	35	b	1a	1b	1b	1b	125	40	1a類
321	10626	ⅡK22	Ⅳ	チャート	1.9	1.7	0.3	1.0	0.20	60	0	1a	2a	1a	3	125	40	1a類
322	10614	ⅡJ23	Ⅳ	チャート	2.5	(2.1)	0.5	(2.0)	0.35	75	f	1a	1a	1a	3	125	40	1a類
323	670	ⅠS12	Ⅳ	チャート	1.75	(1.39)	0.4	(0.6)	0.38	55	b	1b	1a	1a	3	125	40	1b類
324	109	ⅠK9	Ⅳ	チャート	1.9	1.3	0.4	0.6	0.33	40	0	1b	1a	1a	3	125	40	1b類
325	572	ⅠS13	Ⅲb	チャート	2.5	(1.6)	0.4	(1)	0.40	35	b	1b	3a	2c	3	125	40	1b類
326	549	ⅠS10	Ⅳ	チャート	2.9	1.4	0.3	1.0	0.75	35	b	1b	1a	1b	3	125	40	1b類
327	10444	ⅡL20	Ⅳ	チャート	1.13	1.05	0.2	0.2	0.30	50	0	1b	1a	2a	2a	125	40	1b類
328	10013	ⅡK19	Ⅲb	サヌカイト	(1.58)	(1.3)	0.3	(0.4)	0.30	40	e	1b	1a	1a	3	125	40	1b類
329	10714	ⅡK22	Ⅳ	チャート	1.5	1.3	0.2	0.4	0.28	50	0	1c	1a	1a	2a	125	40	1c類
330	10561	ⅡJ21	Ⅳ	チャート	1.7	1.5	0.3	0.4	0.28	55	0	1c	1b	1a	3	125	40	1c類
331	10104	ⅡG13	Ⅲb	チャート	2.0	1.9	0.4	1.1	0.18	57	0	1c	1a	2c	3	125	40	1c類
332	10746	ⅡI25	Ⅲb	チャート	2.08	1.7	0.2	0.7	0.25	75	0	1c	2a	1b	1b	125	40	1c類
333	59	ⅠO11	Ⅲb	チャート	1.5	1.5	0.3	0.4	0.33	75	0	1d	2a	1b	3	125	40	1d類
334	10224	ⅡG13	Ⅳ	チャート	1.6	1.3	0.3	0.3	0.50	45	0	1d	1a	1a	1a	125	40	1d類
335	10118	ⅡE19	Ⅲb	チャート	1.6	1.5	0.2	0.4	0.50	60	0	1d	1a	1a	3	125	40	1d類
336	1480	ⅠT13	Ⅳ	チャート	1.6	1.5	0.3	(0.5)	0.48	50	a	1e	1a	3a	3	125	40	1e類
337	768	ⅠT9	Ⅲb	チャート	2.4	(1.4)	0.5	(1.6)	0.80	75	b	1e	2a	3b	3	125	40	1e類
338	10612	ⅡL18	Ⅳ	チャート	(2.3)	(1.69)	0.3	(0.9)	0.70	35	e	1e	1b	1b	1b	125	40	1e類
339	247	ⅠS15	Ⅲb	チャート	1.3	0.9	0.15	0.2	-	55	d	2	2a	0	2b	125	40	2類
340	605	ⅠT11	Ⅲb	チャート	1.9	(1.45)	(0.25)	(1.4)	0	75	0	2	2a	-	2b	125	40	2類
-	178	ⅠQ10	Ⅳ	チャート	2.4	1.4	0.5	1.2	0.35	40	0	1b	1a	1a	3	-	-	1b類
-	186	ⅠP10	Ⅳ	チャート	1.3	1.1	0.2	0.3	0.30	55	a	1b	1a	1a	1a	-	-	1b類
-	206	NW5	1	チャート	(2.1)	(1.3)	0.3	(0.7)	-	65	g	0	1a	0	1a	-	-	4類
-	238	ⅠR15	Ⅲb	サヌカイト	1.9	(1.3)	0.3	(0.5)	0.48	50	b	1d	1a	2b	3	-	-	1d類
-	248	ⅠR13	Ⅳ	チャート	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.4)	0.50	45	e	1d	1a	1a	3	-	-	1d類
-	610	ⅠT12	Ⅲb	チャート	(1.4)	(1.5)	0.5	(0.9)	0.18	50	e	1c	1a	1c	3	-	-	1c類
-	832	ⅠU12	Ⅳ	チャート	(1.8)	(1.8)	0.4	(1.2)	0.33	-	e	1b	2a	1a	2b	-	-	1b類
-	924	ⅠR7	Ⅲb	チャート	(1.3)	(0.9)	(0.2)	(0.2)	0.90	-	c	1b	0	1a	3	-	-	1b類
-	10070	ⅡG14	Ⅳ	チャート	2.0	(1.7)	0.4	(1.1)	0.23	65	b	1a	2a	2a	3	-	-	1a類
-	10172	ⅡG13	Ⅳ	チャート	1.7	1.7	0.4	0.7	0.20	45	0	1a	3a	1a	3	-	-	1a類
-	10175	ⅡG14	Ⅳ	チャート	1.9	(1.8)	0.3	(1.3)	-	90	b	2	2a	0	2b	-	-	2類
-	10184	ⅡF14	Ⅳ	チャート	(1.2)	(1.9)	(0.4)	(0.8)	0.40	-	e	1d	0	1a	3	-	-	1d類
-	10217	ⅡF23	Ⅲb	チャート	(2)	(1.4)	0.6	(1)	0.39	40	e	1b	1a	1a	3	-	-	1b類
-	10223	ⅡF13	Ⅳ	チャート	1.9	1.6	0.3	0.6	0.33	45	0	1d	1a	1c	3	-	-	1d類
-	10241	ⅡK19	Ⅲb	チャート	1.4	(1.2)	0.2	(0.3)	0.26	50	b	1c	1a	1a	1b	-	-	1c類
-	10267	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(1.4)	(1.4)	(0.3)	(0.5)	-	65	d	0	2a	0	3	-	-	4類
-	10382	ⅡK19	Ⅲb	チャート	1.7	(1.3)	0.2	(0.4)	-	55	b	2	1a	0	2b	-	-	2類
-	10409	ⅡI21	Ⅲb	チャート	2.0	(1.6)	0.4	(0.9)	0.31	50	b	1b	1a	3a	3	-	-	1b類
-	10413-2	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(1.1)	1.4	(0.2)	(0.5)	0.10	40	a	1a	1a	2a	2b	-	-	1a類
-	10448	ⅡI21	Ⅲb	チャート	(1.7)	(1.2)	0.4	(0.5)	-	40	h	0	1a	0	2b	-	-	4類
-	X14-8	No.17	不明	チャート	(1.6)	(1.5)	(0.5)	(0.6)	(0.33)	45	e	1e	1a	0	3	-	-	1e類
-	X32-4	TP7付近	Ⅰa	チャート	(1.7)	1.6	0.4	(0.6)	0.26	50	a	1a	2a	1a	3	-	-	1a類、表採
-	X69	TP4	Ⅰb	下呂石	(2.4)	(1.2)	(0.4)	(0.8)	(0.2)	20	e	1b	1a	0	3	-	-	1b類

b）尖頭器（図129）

AIXSB5の北東でチャート製の尖頭器が、1点出土しただけである。341は先端部と基部を欠き全形は不明であるが、縁は外彎しふくらみを持つ。

c）石錐（図129）

A区8点、B区7点、調査区外（試掘調査）から1点の合計16点が、包含層から出土したものである。錐部と基部の形状による分類では、342～344が1類、345～349が2類、350が3類、351が4類となる。1類の錐部断面形は、調整剥離が少なく剥片の先端部を利用しているためか、三角形となるも

図127　B区石錐ほか出土分布（S=1/500）

図128　B区石錐ほか出土分布（S=1/500）

表52　尖頭器一覧

No.	整理No.	地区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	挿図	図版	
341	449	I T12	Ⅲ b	チャート	(4.0)	2.9	1.0	(14.9)	129	40	尖端部及び基部欠損、裏面に主要剥離面残る

表53　石錐一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	錐部 長さ	錐部 幅	錐部 厚さ	錐部 先端角	錐部 断面形	錐部 摩耗	素材剥片	折損	分類	挿図	図版	備考
4	1026	SB2	2	チャート	2.40	3.80	0.70	7.0	0.81	1.09	0.18	50	三角形	有	縦長	無	1	35	13	
1	1206	SB4	2	チャート	3.90	1.30	0.80	3.8	2.00	1.32	0.22	55	三角形	有	縦長	無	2	45	18	
1	946	SB6	1	チャート	4.60	3.00	1.10	15.2	0.82	0.60	0.15	55	三角形	有	縦長	無	1	53	21	
1	603	SK115	1	チャート	(1.9)	1.90	0.60	(2.3)	-	-	-	-	-	-	縦長	有	4	58	33	錐部欠
2	10963	SD509	2	チャート	3.90	3.00	1.30	10.6	0.52	0.95	0.20	55	三角形	有	縦長	無	1	111	37	
2	10951	SD509	1	チャート	5.40	2.80	1.10	13.5	1.70	1.00	0.70	55	三角形	無	縦長	無	1	111	37	
3	10253	ⅡK18	Ⅲ b	チャート	1.92	1.35	0.15	0.4	0.30	0.49	0.05	60	その他	無	縦長	無	1	129	40	
3	10147	ⅡE19	Ⅲ b	チャート	2.70	1.40	0.70	2.7	1.43	1.50	0.21	75	三角形	有	縦長	無	1	129	40	
3	10108	ⅡE20	Ⅲ b	チャート	4.75	1.75	0.80	6.1	3.52	1.75	0.19	70	三角形	有	縦長	無	1	129	40	
3	411	I R15	Ⅳ	チャート	2.24	1.10	0.50	1.1	1.49	1.05	0.13	80	三角形	有	縦長	無	2	129	40	
346	132	I N10	Ⅳ	チャート	2.50	0.80	0.40	1.0	1.80	0.80	0.20	78	六角形	有	縦長	無	3	129	40	
347	10277	ⅡK19	Ⅲ b	チャート	(1.7)	1.55	0.40	(1.0)	1.35	1.41	0.22	76	三角形	有	不明	有	2	129	40	
348	10623	ⅡJ22	Ⅳ	チャート	2.80	2.00	0.70	3.7	2.51	1.90	0.12	50	菱形	有	不明	無	2	129	40	
349	X14-5	No.17	不明	チャート	3.38	1.70	0.84	4.1	1.15	1.33	0.25	55	菱形	有	縦長	無	2	129	40	B区北側
350	456	I U12	Ⅲ b	チャート	2.30	0.80	0.50	1.1	1.55	0.73	0.21	64	菱形	有	縦長	無	3	129	40	
351	806	I Y12	Ⅲ b	チャート	3.00	1.50	0.45	2.0	2.00	1.10	0.10	74	菱形	無	縦長	無	4	129	40	
-	10725	SD508	1	チャート	2.40	3.30	0.90	6.2	0.50	0.70	0.32	70	三角形	有	横長	無	1	-	-	
-	10916	SD509	2	チャート	3.10	3.70	1.00	10.7	0.45	0.50	0.35	70	三角形	有	横長	無	1	-	-	
-	14	I S15	Ⅲ b	チャート	3.40	3.60	1.00	10.5	1.00	1.00	0.32	70	三角形	有	縦長	無	1	-	-	
-	477	I S10	Ⅳ	チャート	3.00	1.60	0.50	2.4	1.50	1.49	0.15	65	三角形	無	縦長	有	1	-	-	
-	716	I S10	Ⅳ	チャート	1.30	4.10	0.90	2.7	0.80	0.40	0.28	40	三角形	有	縦長	無	1	-	-	
-	1076	I U6	Ⅳ	チャート	(2.2)	(0.8)	0.30	(0.7)	(0.95)	(0.79)	(0.20)	-	その他	-	縦長	有	2	-	-	
-	10201	ⅡH13	Ⅳ	チャート	2.30	1.10	0.60	1.5	1.45	1.10	0.18	60	三角形	有	縦長	無	1	-	-	
-	10823	ⅢJ1	Ⅳ	チャート	4.30	2.60	1.00	9.7	0.40	0.70	0.30	80	三角形	有	縦長	無	1	-	-	

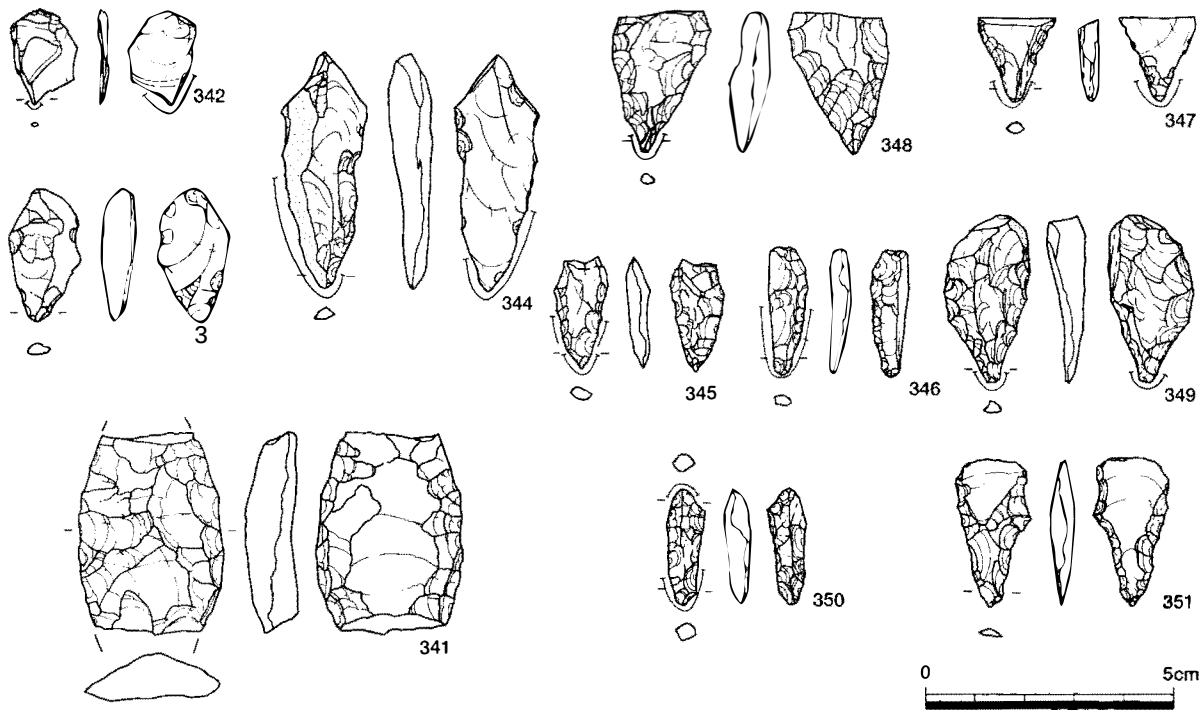


図129　包含層出土尖頭器・石錐

のが多い。2類は両面に調整剥離を施すため、錐部断面形が菱形となるものがあり、3類・4類では錐部断面形が三角形となるものはない。また、錐部の先端や側縁に摩耗や微細な剥離痕が観察できるものも多い。出土分布（図128・図130）は、A区・B区とも散在した状況であるが、1類はA区よりもB区に多く、3類・4類はA区からしか出土していない。

d）石匙（図131）

A区3点、B区1点、調査区外（試掘調査）から1点の合計5点が、包含層から出土したものである。出土分布（図128・図130）は、A区・B区とも散在した状況である。

352は、素材剥片の側辺につまみ状の突出部を作り出し、もう一方の側辺を片面調整して刃部を形成している。353はSD505近くで出土したもので、素材剥片の縁辺部に両面調整により刃部を形成し、

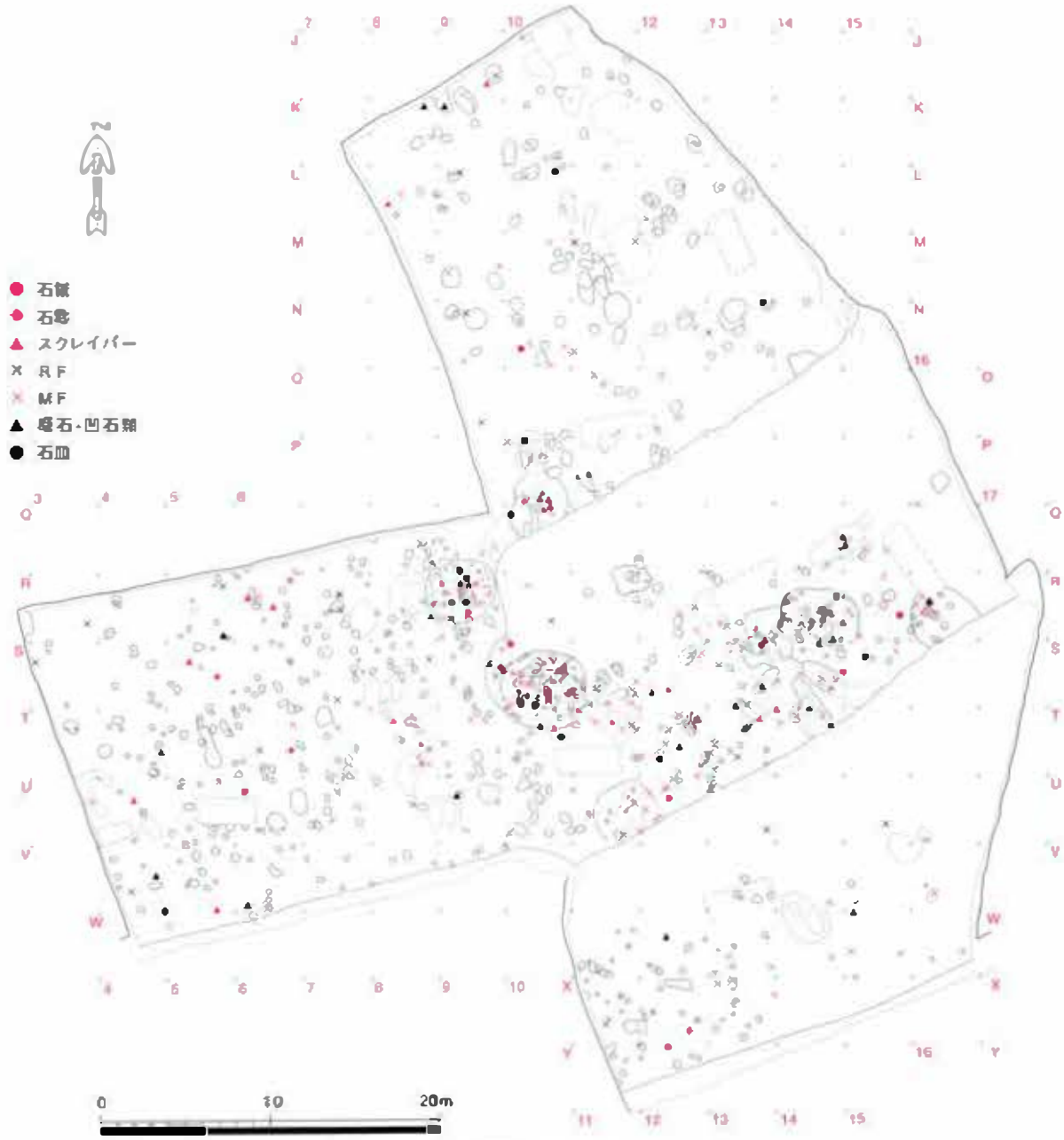


図130　A区石錐ほか出土分布（S=1/400）

表54　石匙一覧

No.	整理No.	地区	層序	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	質量(g)	刃部 位置	刃部 形態	刃部 調整	刃部 長さ	刃部 刃角	素材形状	挿図	図版	備考
168	228	SK124	1	下呂石	(1.9)	(2.8)	(0.9)	(4.7)	-	-	-	-	-	不明	75	33	つまみ部のみ
237	10945	SD509	1	チャート	2.5	3.3	0.5	3.7	下端	外彎	背面	3.3	53	横長	111	37	
352	1075	ⅠT6	Ⅳ	チャート	3.0	(4.2)	0.7	(8.8)	下端	外彎	背面	4.2	65	横長	131	40	
353	10190	ⅡF13	Ⅳ	チャート	2.6	4.0	0.9	7.3	下端	直線的	両面	3.9	70	横長	131	40	
-	618	ⅠS12	Ⅲb	チャート	(2.5)	(2.4)	(0.7)	(5)	下端？	外彎	背面	2.95	72	不明	-	-	
-	1256	ⅠS5	Ⅲb	サヌカイト	2.0	3.3	0.6	3.2	-	-	-	-	-	不明	-	-	つまみ部のみ
-	X14-6	№17	不明	チャート	(2.2)	(2.5)	0.8	(3.9)	下端？	外彎	両面	2.5	66	不明	-	-	B区北側

その反対側の縁辺部に、大きな抉り状の剥離を2方向から加えて、つまみ部を作り出している。刃部には微細な剥離痕が確認できる（写真18）。

e）スクレイパー（図131）

A区19点、B区18点の合計37点が、包含層から出土したものである。刃部の位置や形状による分類では、354・355が1a類、356が1b類、357が1c類、358が2b類、359が2d類、360が3b類である。出土分布（図128・図130）は、A区・B区とも散在した状況である。

354は、縦長の剥片の側辺に、両面調整による直線的な刃部を作り出している。355は、縦長の剥片の側辺に、片面調整による直線的な刃部を作り出しているが、もう一方の側辺にも微細な剥離痕が確認できる。356は、縦長の剥片の側辺に、やや外彎した刃部を作り出している。357は、縦長の剥片の

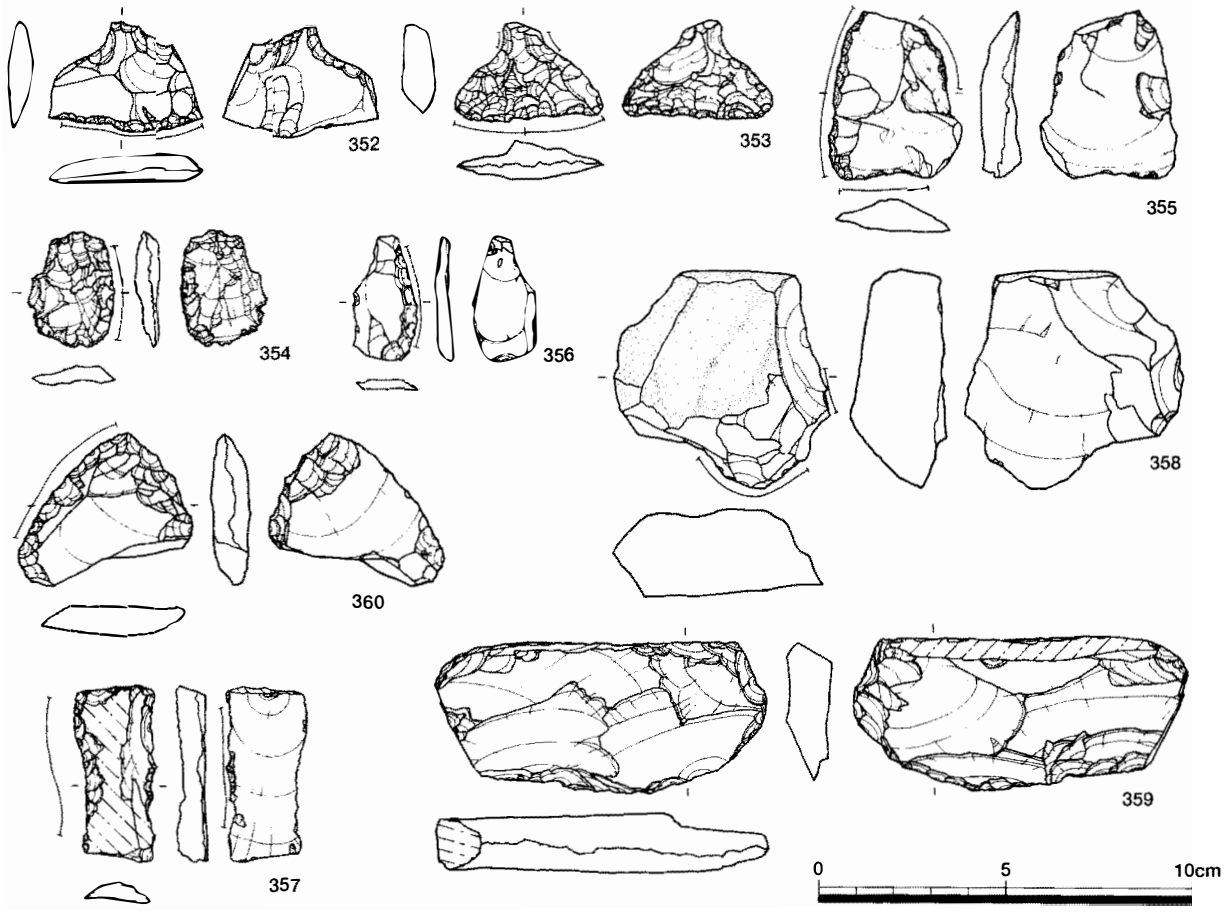


図131　包含層出土石匙・スクレイパー

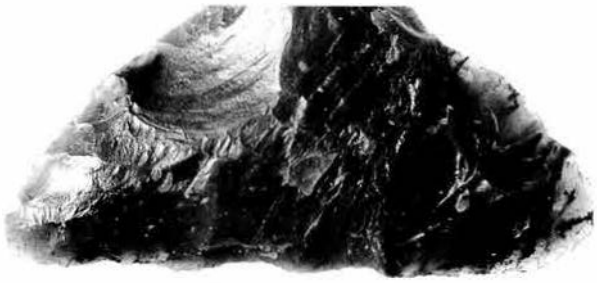


写真18　353刃部拡大

写真19　357刃部拡大

側辺に片面調整によるやや内彎した刃部を作り出し、もう一方の側辺にも微細な剥離痕が確認できる。358は、原礫から剥離された、大型剥片の自然面と剥離面を打点とする石核を転用したもので、末端辺に外彎した刃部を作り出す。側辺にも微細な剥離痕が確認できる。359は、横長の剥片の末端辺に、両面調整による刃部を作り出している。360は、二つの側辺に調整剥離を施し、先端を作り出しているが、末端辺にあたる部分が欠損している。一方の側辺は片面調整で、微細な剥離痕が確認できることから、欠損部につまみの存在を仮定すると、石匙である可能性も考えられる。

スクレイパーとしたものの剥離調整の方向は、65点のうち39点が片面調整で背面側に施しており、次いで17点が両面調整、腹面側に施すものは9点と少ない（図132）。特に2a類・2b類は、背面側に剥離調整を施すものしかない。しかし、2d類・3b類は両面に剥離調整を施すものが多くなっている。また、刃部の角度（刃角）の度数分布（図133）を見ると、全体としては50°～59°をピークとする正規分布に近い。しかし、分類毎に度数分布を見た場合は、刃角のピークがそれぞれ異なっている。1類・2類は50°～59°にピークがあるものの、1類と2類ではその比率が異なる。3類・4類は60°～69°にピークがあり、刃角が1類・2類よりも大きくなっている。ただし、2類の中で70°～79°の刃角をもつものは、4点中3点が2b類であり、2b類は刃角の大きなスクレイパーである。こうした刃角の違いが、機能的な差を示す可能性があるようにも思われるが、出土点数が少ないこともあり、このような傾向が見られたことだけにとどめたい。

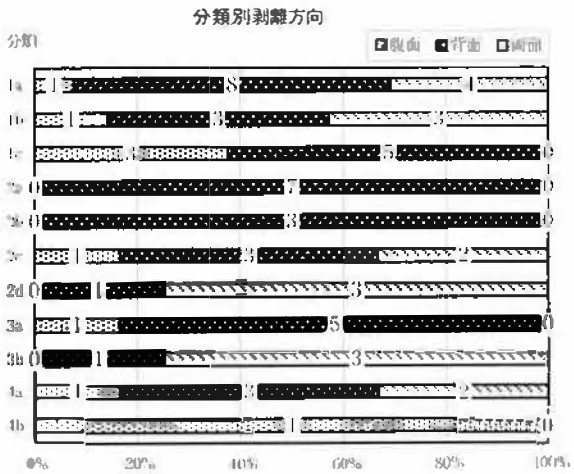


図132　スクレイパー剥離方向比率

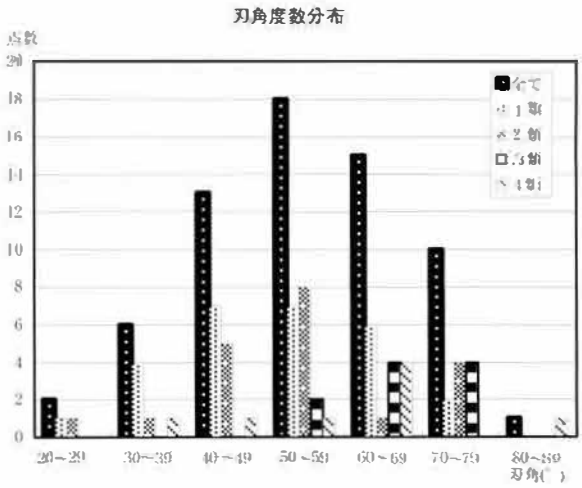


図133　スクレイパー刃角度数分布

表55　スクレイパー一覧

No.	遺物No.	地区遺構	層位	石材	(cm)	(cm)	(cm)	(g)	刃部 位置	刃部 形態	刃部 調整	刃部 長さ	刃部 刃角	素材形状	分類	挿図	図版	
42	972	SB2	1	流紋岩	5.3	4.9	1.4	51.9	側辺	外彎	背面	4.7	76	縦長	1a	35	13	剥片類(整理No1112)と接合
43	951	SB2	1	チャート	(5.1)	(2.8)	(1.1)	(14.4)	末端～側辺	外彎	背面	2.1	69	縦長	2c	35	13	
									側辺	内彎	背面	2.0	51					
105	1162	SB4	2	チャート	3.4	5.2	1.3	22.5	側辺	直線的	両面	3.6	27	横長?	1a	46	18	他の辺に刃潰し状の剥離
106	1164	SB4	1	チャート	8.3	4.3	1.7	76.2	側辺	外彎	腹面	5.4	47	縦長	1b	46	18	
107	1137	SB4	1	チャート	6.9	6.8	2.0	71.9	基～側辺	外彎	両面	5.0	70	縦長	2c	46	18	末端辺に刃潰し状の剥離
									側辺	直線的	腹面	6.0	56					
169	532	SK124	2	チャート	(5.3)	(3.9)	0.9	(21.2)	側辺	直線的	腹面?	4.1	48	縦長	1a	75	33	170と接合、折損後刃部作出
170	482	SK124	2	チャート	(6.2)	(5.4)	(1.0)	(43.3)	側辺	直線的	背面?	5.6	56	縦長	1a	75	33	169と接合
171	207	SK124	1	チャート	(3.15)	(2.2)	0.8	(4.1)	側辺	外彎	両面	3.1	52	縦長	1b	75	33	他の辺に微細な剥離痕
198	10685	SD508	1	砂岩	5.6	(9.4)	1.5	(78.6)	末端辺	外彎	両面	7.0	55	横長	2d	108	35	
199	10300	SD508	1	チャート	7.7	3.3	1.0	36.5	側辺	直線的	背面	6.6	68	縦長	3a	108	35	
									側辺	外彎	背面	5.6	77					
200	10304	SD508	1	チャート	5.2	5.0	1.8	53.9	側辺	抉り	背面	2.3	65	縦長	4a	108	35	刃部2ヵ所
									側辺	抉り	背面	1.6	81					
238	10970	SD509	2	チャート	(2.0)	(3.6)	(1.1)	(8.5)	末端～側辺	外彎	背面	2.9	61	不明	2a	111	37	
239	10895	SD509	1	チャート	2.9	(2.4)	0.7	(5.5)	末端～側辺	外彎	背面	2.3	46	縦長	2a	111	37	側辺に微細な剥離痕
240	10972	SD509	2	チャート	3.0	3.3	1.2	10.3	末端～側辺	外彎	両面	1.6	45	横長	2a	111	37	側辺に微細な剥離痕
241	10933	SD509	2	チャート	6.1	5.15	2.1	92.7	末端～側辺	外彎	背面	5.0	75	縦長	2b	111	37	
242	10981	SD509	2	チャート	6.5	3.4	1.3	34.6	側辺	抉り	背面	5.9	61	縦長	4a	111	37	
256	1046	NW6	1	チャート	(3.4)	2.7	0.8	(7.5)	側辺	直線的	腹面	2.4	66	縦長	4b	113	38	
									側辺	抉り	背面	0.8	61					
354	564	ⅠT10	Ⅲb	チャート	3.0	2.2	0.6	4.0	側辺	外彎	両面	2.8	51	縦長	1a	131	40	
355	10213	ⅡG13	Ⅳ	チャート	4.4	3.5	0.9	15	側辺	直線的	背面	4.3	60	縦長	1a	131	40	他の辺に微細な剥離痕
356	10188	ⅡG13	Ⅳ	チャート	(3.3)	1.7	(0.3)	(2.0)	側辺	外彎	背面	3.0	36	縦長	1b	131	40	他の辺に微細な剥離痕
357	10645	ⅡK24	Ⅲb	チャート	4.7	2.2	0.7	9.1	側辺	内彎	背面	4.2	45	縦長	1c	131	40	他の辺に微細な剥離痕
358	275	ⅠR13	Ⅲb	チャート	5.5	5.8	2.3	92.3	末端～側辺	外彎	背面	3.9	79	縦長	2b	131	40	石核転用
359	10643	ⅡG23	Ⅲb	泥岩	4.1	8.9	1.6	73.3	末端辺	外彎	両面	6.8	53	横長	2d	131	40	
360	73	ⅠL8	Ⅳ	チャート	(4.0)	(4.65)	0.9	(18.3)	側辺	外彎	背面	4.7	62	横長	3b	131	40	石匙の可能性あり
									側辺	外彎	両面	3.3	66					
-	10084	SD505	1	チャート	3.1	1.2	0.8	2.5	側辺	内彎	両面	3.2	44	縦長	1c	-	-	
-	55	ⅠJ9	Ⅳ	チャート	3.0	5.1	1.1	15.0	末端辺	内彎	背面	3.4	40	横長	2d	-	-	
-	94	ⅠX12	Ⅲb	チャート	2.1	3.1	0.8	4.6	末端辺	外彎	両面	2.8	54	横長	2d	-	-	側辺に微細な剥離痕
-	257	ⅠV5	Ⅲb	チャート	(2.2)	(2.4)	0.5	(3.7)	側辺	外彎	背面	2.1	59	不明	1b	-	-	
-	259	ⅠT14	Ⅲb	チャート	(1.1)	(2.2)	(0.6)	(1.5)	側辺	抉り	腹面	0.8	57	不明	4a	-	-	
-	432	ⅠT12	Ⅲb	チャート	2.4	2.0	1.4	3.1	側辺	外彎	両面	2.5	57	不明	3b	-	-	
									側辺	直線的	両面	1.0	70					
-	595	ⅠT11	Ⅲb	チャート	2.7	(3.9)	1.1	(10.3)	側辺?	内彎	背面	2.4	50	不明	1c	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	686	ⅠT8	Ⅲb	チャート	4.8	3.8	0.9	21.5	側辺	直線的	両面	4.1	66	縦長	1a	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	859	ⅠT8	Ⅲb	チャート	(2.9)	(2.4)	0.6	(4.1)	側辺	外彎	背面	3.0	35	縦長	1b	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	863	ⅠT8	Ⅲb	安山岩	2.6	2.4	0.3	1.9	末端～側辺	外彎	背面	2.3	31	縦長	2a	-	-	
-	894	ⅠT13	Ⅳ	チャート	6.5	4.5	2.4	66.3	側辺	外彎	背面	5.6	33	縦長	1b	-	-	
-	1186	ⅠU4	Ⅲb	チャート	(0.8)	(2.8)	0.5	(1.1)	末端辺?	抉り	背面	1.1	40	不明	4a	-	-	
-	1288	ⅠS6	Ⅳ	チャート	3.5	4.5	1.5	17.7	側辺	内彎	腹面	3.4	69	横長	1c	-	-	
-	1332	ⅠS5	Ⅲb	チャート	4.4	3.5	1.0	13.9	末端辺	外彎	背面	2.7	46	縦長	2c	-	-	
									側辺	外彎	両面	4.1	25					
-	1353	ⅠR6	Ⅳ	チャート	3.5	2.5	0.7	5.8	側辺	内彎	背面	2.8	63	縦長	1c	-	-	刃部鍵手状
-	10055	ⅡE16	Ⅲb	チャート	3.2	3.4	1	10.3	側辺	外彎	両面	1.6	46	横長	1b	-	-	
-	10129	ⅡF22	Ⅲb	チャート	3.3	3.9	0.9	12.7	末端辺	外彎	両面	3.1	59	横長	3a	-	-	
									基辺	直線的	背面	3.2	70					
-	10146	ⅡE19	Ⅲb	チャート	3.3	(3.1)	0.9	(10.1)	側辺	直線的	背面	2.4	47	縦長	1a	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	10401	ⅡK19	Ⅲb	チャート	5.6	8.6	3.9	224.7	側辺	直線的	背面	5.6	83	縦長	1a	-	-	
-	10412-1	ⅡJ22	Ⅲb	チャート	(2.1)	1.7	(0.6)	(2.6)	側辺	外彎	背面	2.7	60	縦長	3a	-	-	
									側辺	外彎	腹面	1.8	78					
-	10440	ⅡL19	Ⅳ	チャート	(2.6)	(2.8)	(0.6)	(3.3)	側辺?	抉り	腹面	0.6	39	不明	4a	-	-	
-	10474	ⅡK18	Ⅳ	チャート	(5.2)	4.1	1.4	(22.4)	側辺	直線的	背面	4.2	57	縦長	1a	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	10480	ⅡK19	Ⅳ	チャート	5.5	3.4	1.2	20.8	末端～側辺	外彎	両面	3.2	48	縦長	2a	-	-	
-	10573	ⅡJ22	Ⅲb	チャート	4.6	6	1.9	59.1	末端辺	外彎	背面	4.3	73	縦長	2b	-	-	
-	10584	ⅡK22	Ⅲb	チャート	2.5	(1.2)	0.4	(1.3)	側辺	内彎	背面	1.7	56	縦長	1c	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	10659	ⅡH23	Ⅲb	下呂石	3.8	3.1	0.6	7.4	側辺	直線的	両面	3.0	37	縦長	1a	-	-	
-	10829	ⅢH1	Ⅳ	チャート	(4.9)	(2.9)	(0.9)	(10.7)	側辺	内彎	両面	3.7	74	縦長	1c	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	10845	ⅢJ3	Ⅳ	チャート	(2.4)	2.4	(0.4)	(3.0)	末端～側辺	外彎	背面	2.3	52	縦長	2a	-	-	
-	X32-2	TP7付近	Ⅰ	凝灰岩	(2.4)	3.4	(0.7)	(5.3)	末端～側辺	外彎	背面	2.8	55	不明	2a	-	-	表採
-	X51-3	TP21	Ⅳ	チャート	4.7	4.8	1.1	33.6	側辺	直線的	背面	2.9	60	不明	1a	-	-	他の辺に微細な剥離痕
-	X61	A区	Ⅰ	チャート	(4.4)	3.3	1.0	(14.0)	側辺	内彎	背面	3.1	45	縦長	1c	-	-	

f）楔形石器（図134）

A区16点、B区5点の合計21点が包含層から出土したものである。相対する2辺に潰れ状やあるいは階段状の剥離が発達するものであるが、4辺に認められるものも3点ある。また、1辺しかないものでも直線的で、もう一方の辺が欠損したものと思われる場合は、楔形石器とした。遺構出土も含めてA区17点、B区8点とA区からの出土量が多い石器である。出土分布（図145・図146）は、A区・B区とも散在した状況であった。361・362・364は、2辺に潰れ状や階段状の剥離があり、363は4辺に認められる。

楔形石器の長さと幅の計測は、潰れ状や階段状の剥離がある辺を上下に置き、縦を長さ、横を幅として行ったが、その計測値を用いて長さと幅、長さ／幅、厚さの3種類の相関図を図135～図137に示した。これら3種の図では、長さ3cmを境として大きく2つに分かれる。図136を見ると、長さ3cm以上のものは幅よりも長さの方が大きく、長さ3cm以下のものは、幅の方が大きいものが多い傾向が見られる。しかし、図137では、両者の間に厚さによる差はあまり認められないことから、長さにより2類に分類できる可能性がある。

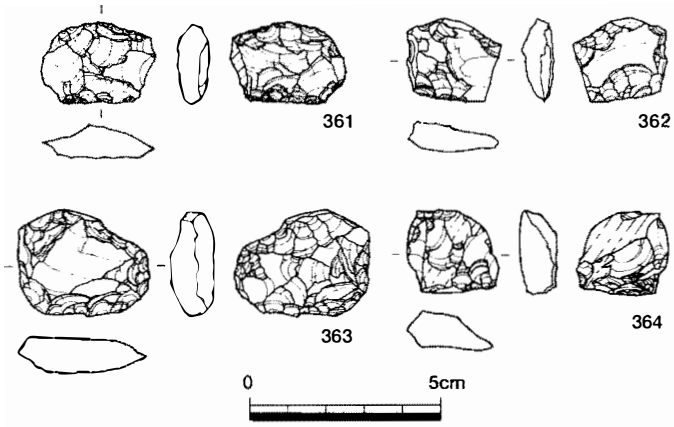


図134　包含層出土楔形石器

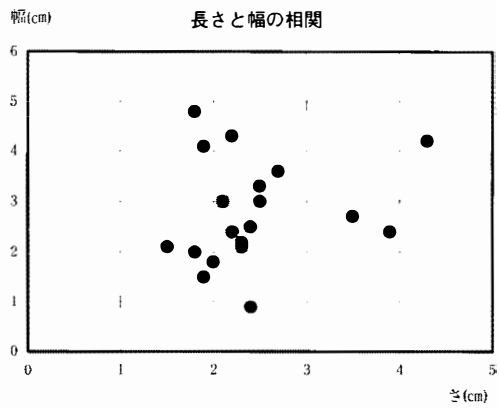


図135　楔形石器長さ：幅相関図

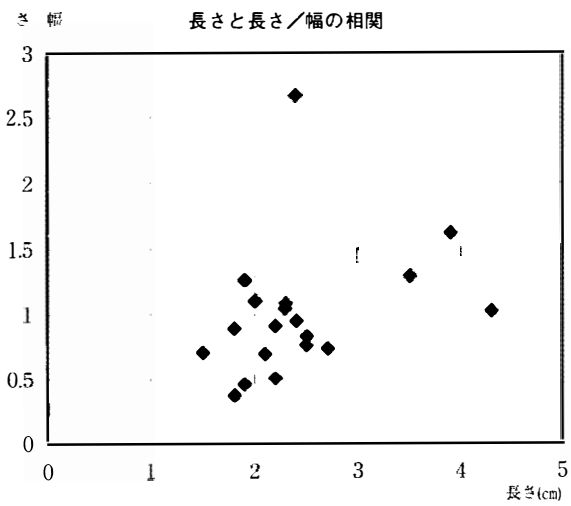


図136　楔形石器長さ：長さ／幅相関図

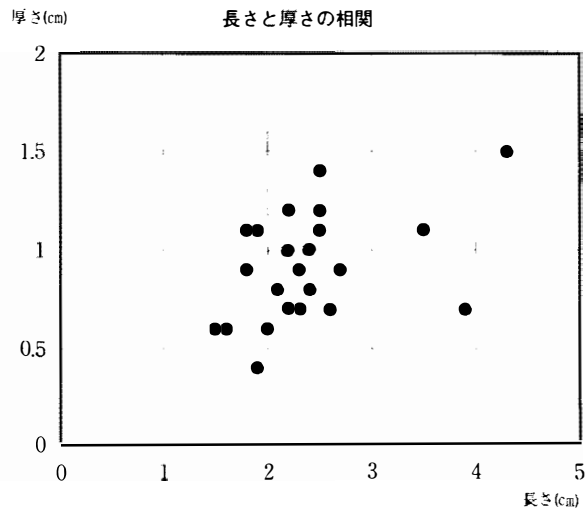


図137　楔形石器長さ：厚さ相関図

表56　楔形石器一覧

No.	遺物No.	地区 遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	階段(潰れ)状剥離長さ(cm) 数	上	下	左	右	挿図	図版	備考
180	755	SK126	1	チャート	2.3	2.2	0.7	4.4	2	2	1.7	-	-	77	33	
192	X53	SK679	1	チャート	2.3	2.1	0.9	6.2	4	1.1	1.6	1.3	1.3	77	33	B区、TP21
243	10898	SD509	1	チャート	3.9	2.4	0.7	8.2	2	1.5	1.8	-	-	112	37	
244	10961	SD509	2	チャート	4.3	4.2	1.5	26.9	2	2.7	1.6	-	-	111	37	
361	706	I U11	Ⅳ	チャート	2.1	3	0.8	5.3	2	2	2.5	-	-	134	40	
362	1381	I U10	Ⅲb	チャート	2.2	(2.5)	0.7	(4.6)	2	1.6	1.9	-	-	134	40	
363	117	I M11	Ⅲb	チャート	3.5	2.7	1.1	13.1	4	2.7	2.6	1.5	1.2	134	40	
364	10580	Ⅱ K23	Ⅲb	チャート	2.2	2.4	1	5.4	2	1.2	2	-	-	134	40	
-	57	I L9	Ⅲb	チャート	2.6	(1.4)	0.7	(1.6)	2	0.9	0.4	-	-	-	-	
-	79	I T13	Ⅲb	チャート	1.8	2.0	0.9	2.6	2	1.1	0.9	-	-	-	-	
-	95	I X12	Ⅲb	チャート	2.2	4.3	1.2	11.5	2	1.7	3.4	-	-	-	-	
-	107	I N10	Ⅲb	チャート	1.5	2.1	0.6	1.9	2	0.7	0.6	-	-	-	-	
-	150	I P10	Ⅳ	チャート	2.0	1.8	0.6	2.0	3	1.5	-	1.0	1.4	-	-	
-	258	I V5	Ⅲb	チャート	2.5	3.3	1.1	9.0	2	1.5	3.2	-	-	-	-	
-	438	I T13	Ⅲb	チャート	2.5	3.0	1.1	8.9	2	1.4	2.1	-	-	-	-	
-	459	I S12	Ⅲb	チャート	1.9	1.5	0.4	1.5	2	1.4	0.9	-	-	-	-	
-	785	I S5	Ⅲb	泥岩	1.9	1.1	1.1	3.7	2	0.9	1.9	-	-	-	-	
-	807	I Y12	Ⅲb	チャート	(0.9)	(1.8)	(0.5)	(1.0)	2	0.6	1.1	-	-	-	-	
-	826	I V5	Ⅲb	チャート	2.5	3.3	1.2	11.5	2	0.9	1.5	-	-	-	-	
-	887	I S8	Ⅲb	チャート	2.4	2.5	1	4.9	2	1	1.3	-	-	-	-	
-	10138	Ⅱ F24	Ⅲb	チャート	1.6	(2.9)	0.6	(3.3)	2	1.8	0.4	-	-	-	-	
-	10211	Ⅱ G13	Ⅳ	チャート	(1.2)	(1.9)	(0.5)	(1.3)	1	0.5	-	-	-	-	-	
-	10459	Ⅱ L20	Ⅳ	チャート	2.7	3.6	0.9	11.3	2	2.7	1.3	-	-	-	-	
-	X20	No24	1	チャート	1.8	4.8	1.1	15.2	2	3.6	3.5	-	-	-	-	B区
-	X30-4	TP7	Ⅱ	チャート	2.4	0.9	0.8	2.0	2	0.7	0.5	-	-	-	-	A区

g）打製石斧（図138・139）

A区で59点、B区で47点、調査区外（試掘調査）で8点の合計114点が包含層から出土したものである。形態による分類では、365～373が1類、374～376が2類、377・378が3類、379が4類となる。いずれにも刃部に摩耗や線状痕が認められ、368・371・377には両端にある。371の刃部は摩耗が激しく、刃部に直交する線状痕が明瞭に残る（写真22）。373の刃部は両面に摩耗が認められ、刃部に直交する線状痕もあるが、刃こぼれが片側に寄っている（写真20）。376の刃部は偏刃で、背面側の摩耗が激しい（写真21）。出土分布は、A区では散在した状況である（図124）が、B区ではSD508に集中し、包含層で取り上げたものもSD505やSD508の周囲に多い（図127）。

遺構出土分も含めた158点の打製石斧の中で、大きさの計測が可能なもの、長さ38点、幅72点、厚

写真20　373刃部拡大

写真21　376刃部拡大

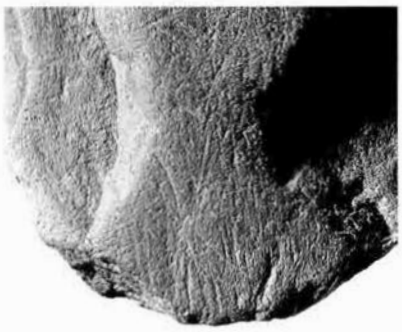


写真22　371刃部拡大

写真23　203刃部拡大

写真24　203基部拡大

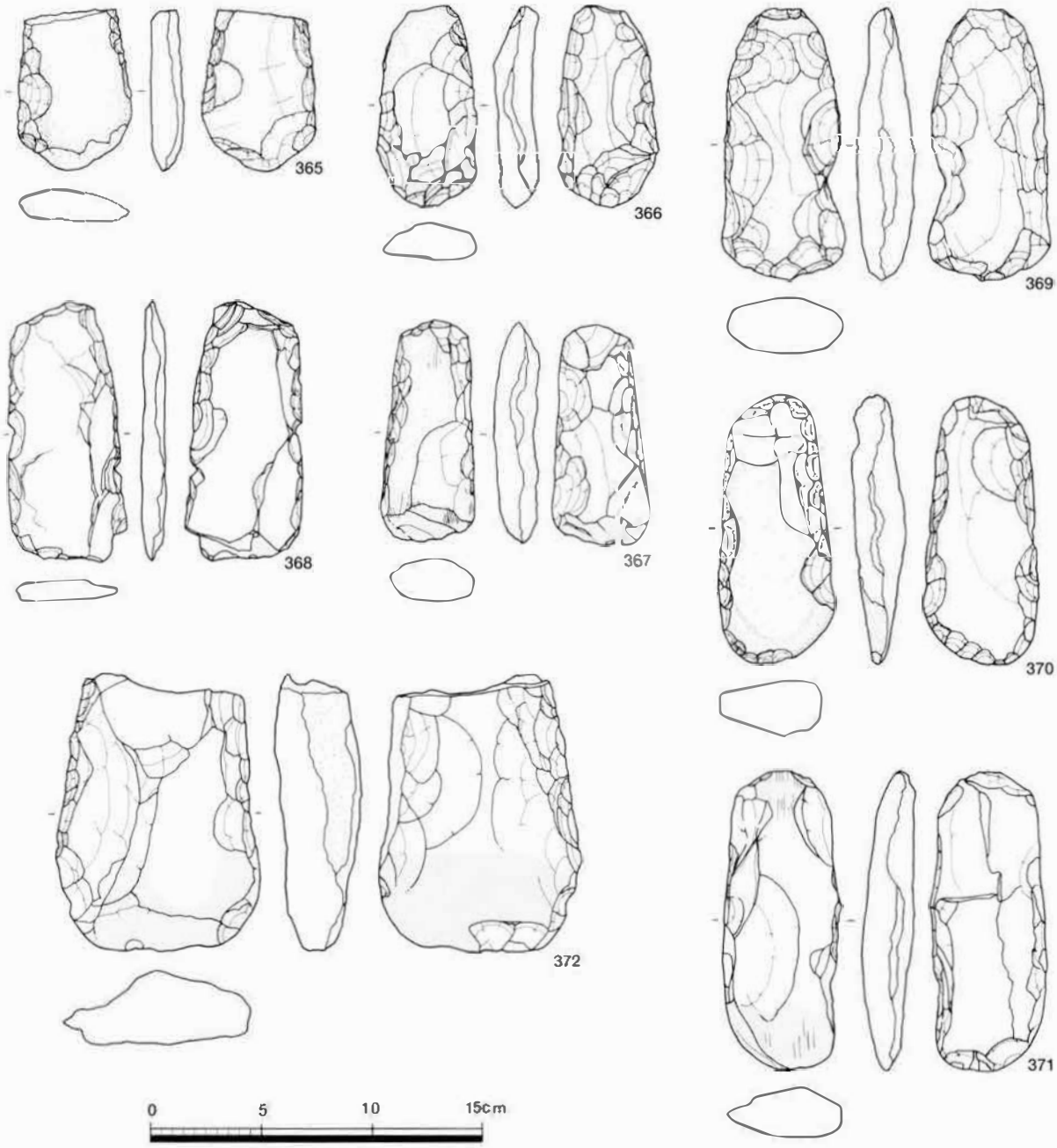


図138　包含層出土打製石斧①

さ79点、質量29点を用いて度数分布図（図140）と各計測部位毎の分類別分布図（図141）を作成した。

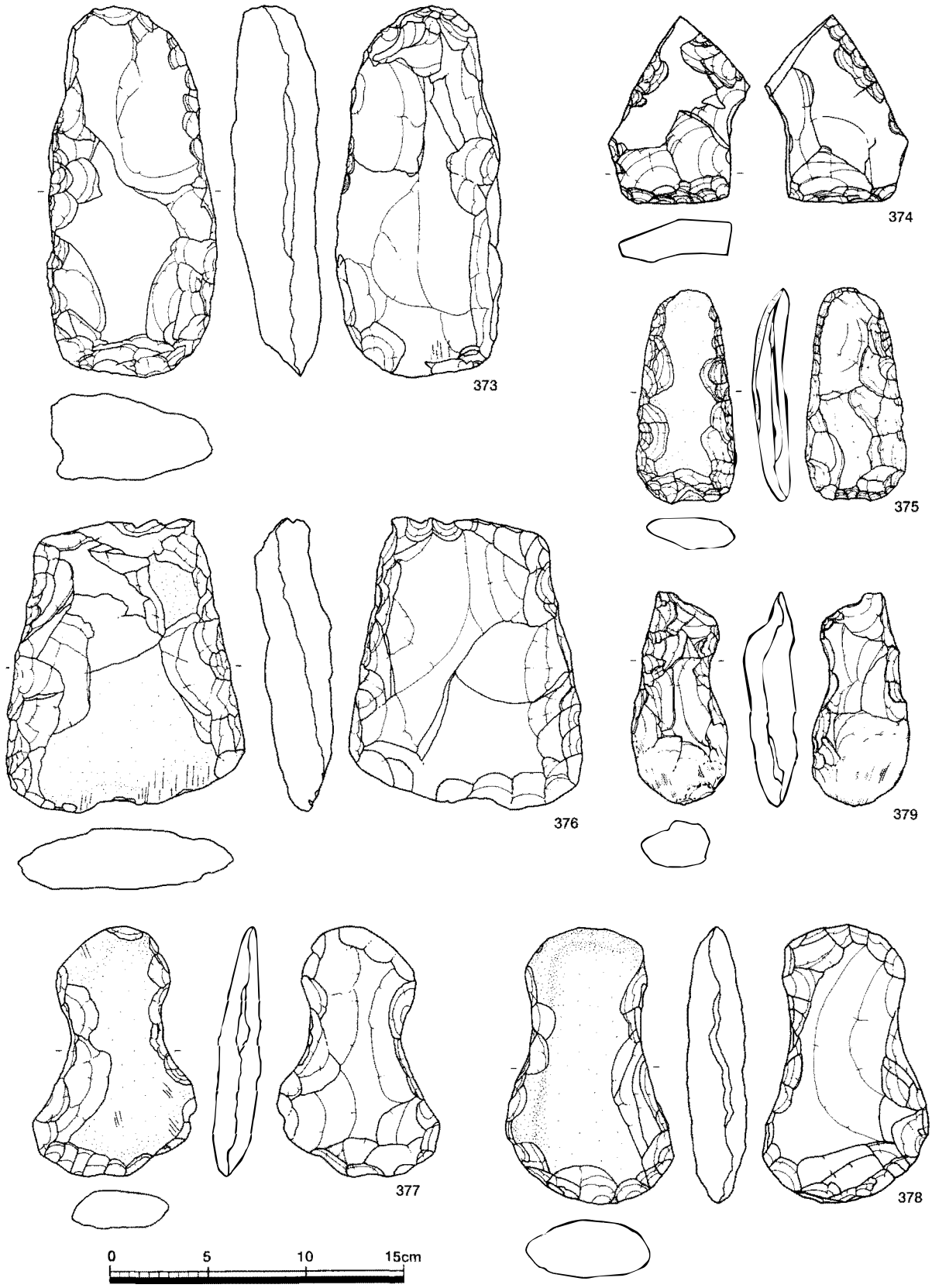


図139　包含層出土打製石斧②

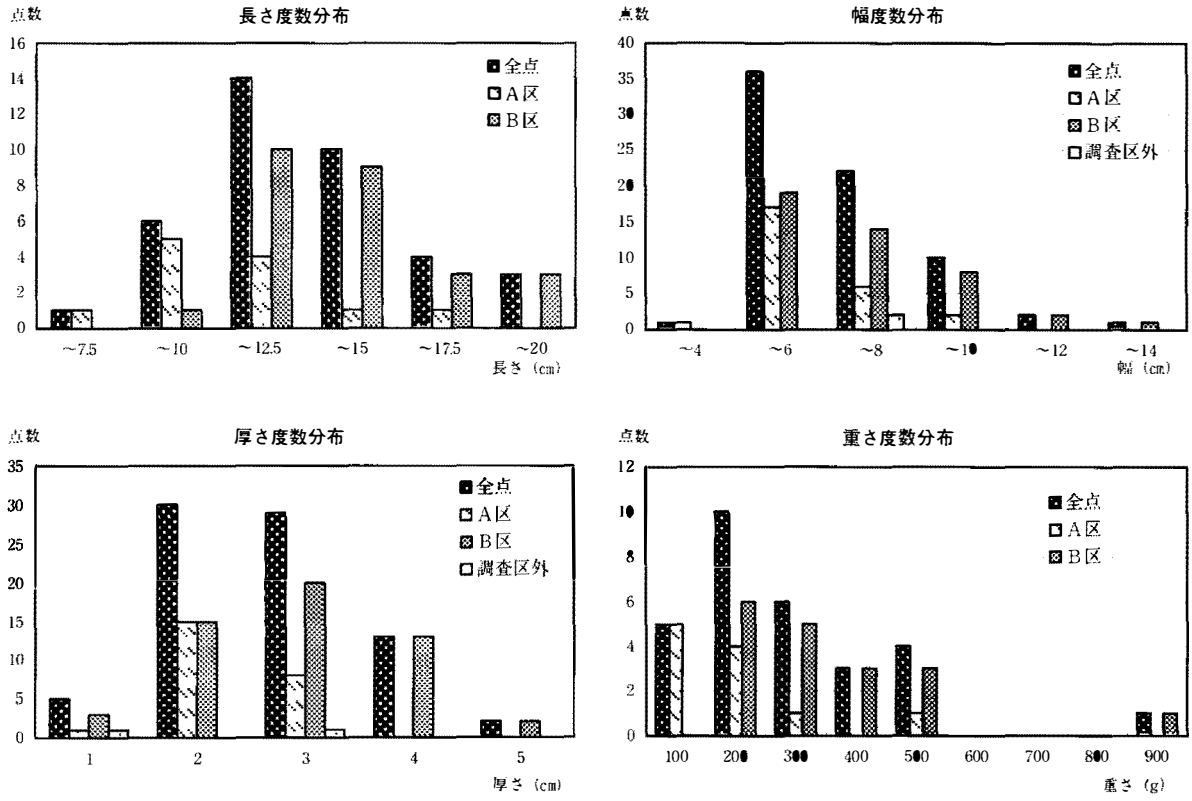


図140　打製石斧計測値度数分布

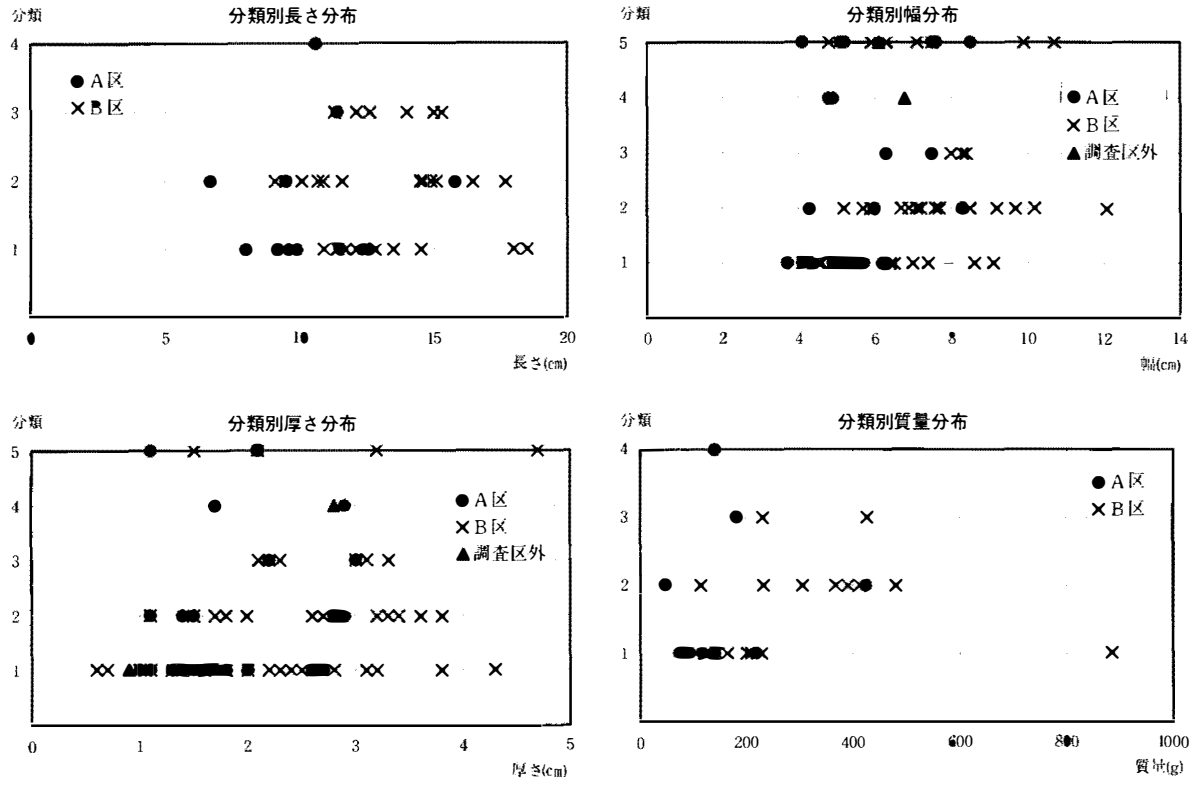


図141　打製石斧分類別計測値分布

図140からは、A区よりもB区に大きいものが多く出土していることがわかる。図141では、1類よりも2類や3類がやや大きく、さらに各類の中でもB区出土のものが大きい傾向を示している。このため、B区に2類や3類の出土点数が多いこともあるが、同じ1類をA区とB区で比較しても、B区の方が大きなものが多く、打製石斧全体としてA区よりもB区の方が大きいものが多いと言える。これは、グラフに使用できる点数が29点と少なくなるが、長さと幅の相関図（図142左）を見るとより明瞭となる。また、平面形態による分類とは異なる視点で、出土した打製石斧を大きく2群に分けることができる。それは、大きさの傾向を長さ／幅と重さの相関図（図142右）で見ることにより、2つのグループが認められるものである。1つは、長さ／幅が1.4～3弱、重さが230g以下のもので、図では下部で横に広がった一群（A群）である。もう1つは、長さ／幅が1.5～2.5、重さが200g前後から900gのもので、図では中央から右上がりの範囲にある一群（B群）である。A群は比較的細長い形態で、幅や厚さを規制してあまり質量を重くしない、B群はあまり細長いものがなく、厚さや幅を大きくすることによりある程度の質量を持つ特徴があると言えるのではないか。各群の形態は、A群には1類が多く、2類が少量含まれ、B群には1類が非常に少なく、2類と3類が多くなっている。さらに、A群とB群との間には、刃部に残された使用痕においても多少の差が認められた。A群は、摩耗に表裏面や両側面での顕著な差が無く、確認できた点数は少ないが、刃こぼれは刃部中央に、線状痕は刃部に直交するものが多い。これに対しB群では、表裏面や両側面に摩耗の差が認められるものが半数近くあり、刃こぼれは片側に片寄るもの、線状痕は斜行するものが少量ながら認められる。A群とB群との境界を明確に定めることは困難であるが、両者の大きさの違いが、刃部に残された摩耗・刃こぼれ・線状痕の組み合わさり方の差を反映している可能性がある。こうした使用痕の差については、打製石斧の装着方法の違いとする指摘がある（池谷2000・2001）。ただし、今回の使用痕の観察にあたっては、十分な経験や知識もないまま実施しているため、誤認や主観的な判断を下している可能性は十分にある。なお、相関図に用いた29点の打製石斧については、表57～表59の備考欄にA群・B群の別を記載した。

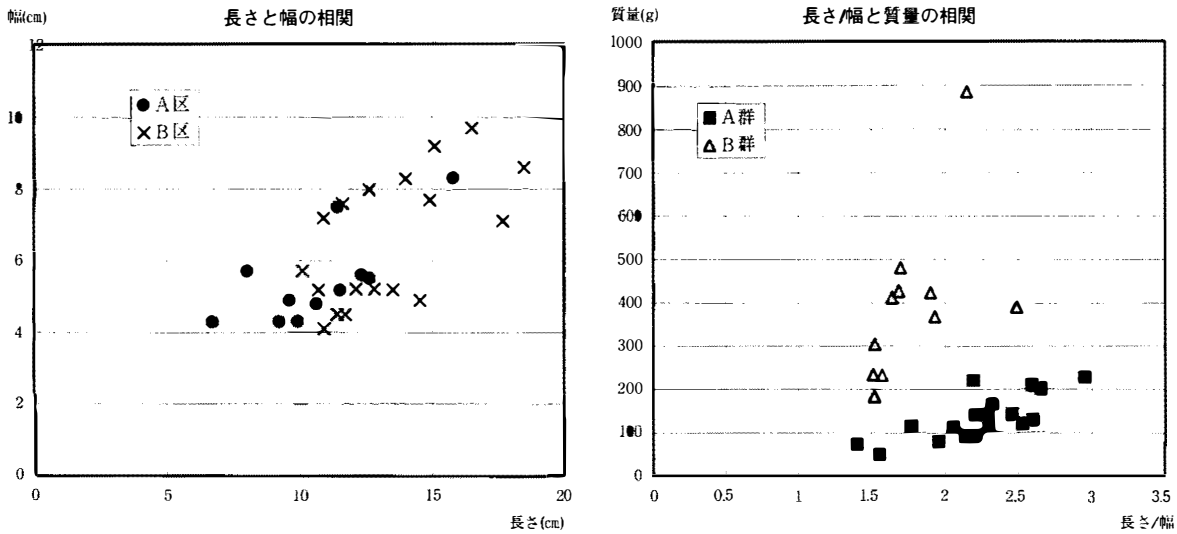


図142　打製石斧計測値相関図

表57　打製石斧一覧①

No.	整理No.	地区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	質量(g)	分類	欠損	刃部 形態	刃部 幅	刃部 刃角	刃部 摩耗	刃部 刃毀	刃部 擦痕	装着痕	自然面	挿図	図版	備考
44	1004	SB2	2	泥岩	6.7	4.3	1.4	49.0	2	z	3	4.2	70	1a	2	1a	無	無	36	13	A群
45	1014	SB2	2	泥岩	(6.8)	4.9	1.7	(79.8)	4	d	3	4.3	66	1a	2	1a	無	無	36	13	刃部再生
194	10083	SD505	1	砂岩	17.7	7.1	3.6	391.0	2	z	4	7.2	58	2	2	2	無	有	106	35	B群
201	10871	SD508	2	砂岩	11.7	4.5	1.8	128.6	1	z	2	4.3	64	1a	1a	2	無	有	109	35	A群
203	10676	SD508	1	泥岩	12.8	5.2	1.3	143.0	1	z	2	5.0	67	1a	1b	1a	有	有	109	35	A群
204	10717	SD508	1	砂岩	10.1	5.7	1.7	114.9	2	z	2	5.9	55	1a	2	2	無	有	109	35	A群
205	10892	SD508	2	安山岩	14.9	7.7	2.7	368.3	2	z	2	4.6	69	1a	1b	1a	無	無	109	35	B群
206	10850	SD508	1	安山岩	15.1	9.2	2.6	413.1	2	z	1	8.8	66	1c	1b	2	無	有	109	35	B群
207	10868	SD508	2	砂岩	16.5	9.7	2.8	480.0	2	z	2	9.75	75	1b	2	2	無	有	109	35	B群
365	X25-2	TP4	Ⅱ～Ⅲ	砂岩	(7.1)	5.3	1.4	(75.2)	1	d	3	5.0	66	1a	2	2	無	有	138	41	A区
366	116	ⅠN10	Ⅲb	砂岩	9.2	4.3	1.8	92.8	1	z	2	4.7	62	1a	2	2	無	有	138	41	A群
367	523	ⅠS10	Ⅲb	泥岩	9.9	4.3	2.0	116.5	1	z	2	4.1	72	1a	2	1a	無	有	138	41	A群
368	88	ⅠT4	Ⅲb	泥岩	11.5	5.2	1.1	91.1	1	z	1	2.9	39	1a	1a	2	無	無	138	41	両端に刃部、A群
											4	3.6	44	1a	1b	1a					
369	596	ⅠT11	Ⅲb	砂岩	12.3	5.6	2.6	218.6	1	z	2	5.55	91	1a	2	2	無	有	138	41	A群
370	10078	ⅡD18	Ⅲb	砂岩	12.1	5.2	2.3	164.4	1	z	3	5.1	61	1a	2	2	無	有	138	41	A群
371	10112	ⅡF21	Ⅲb	泥岩	13.5	5.2	2.4	209.2	1	z	4	4.6	76	1a	2	1a	有	無	138	41	両端に刃部、A群
											3	4.4	54	1a	2	1a	有				
372	10671	ⅡG23	Ⅲb	砂岩	(12.4)	9.1	3.8	(515.2)	1	d	1	8.1	81	1b	1b	1a	無	無	138	41	
373	X51-1	TP21	Ⅳ	流紋岩	18.5	8.6	4.3	886.0	1	z	1	8.8	69	1a	1b	1a	無	無	139	41	B区、B群
374	375	ⅠR14	Ⅲb	流紋岩	9.5	(6.4)	2.9	(178.1)	2	a	1	(5.7)	70	1a	1b	2	無	有	139	41	
375	10571	ⅡI22	Ⅲb	砂岩	10.7	5.2	1.8	115.0	2	z	1	5.05	63	1c	2	2	無	有	139	41	A群
376	10164	ⅡG22	Ⅲb	砂岩	(14.3)	12.1	3.2	(676)	2	d	4	11.9	62	1b	1b	1b	無	有	139	41	
377	10077	ⅡD18	Ⅲb	安山岩	12.6	8.0	2.1	232.2	3	z	2	8.3	73	1c	1a	1b	有	有	139	41	B群
378	10651	ⅡG23	Ⅲb	安山岩	14.0	8.3	3.0	427.6	3	z	2	8.5	72	1a	1b	2	無	有	139	41	B群
379	12	ⅠL10	Ⅲb	泥岩	10.6	4.8	2.9	141.0	4	z	3	4.95	76	1a	2	1a	無	無	139	41	A群
-	1169	SB4	1	泥岩	(4.0)	(3.7)	(0.9)	(14.8)	5	g	-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	1466	SF7	2	泥岩	(3.1)	(2.5)	(0.3)	(0.9)	5	y	1	(1.5)	84	1d	-	2	無	-	-	-	
-	10308	SD508	2	泥岩	(15)	(6.4)	1.1	(133.8)	2	b	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	10318	SD508	2	泥岩	(6.1)	(2.9)	(0.6)	(12.1)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10337	SD508	2	泥岩	(8.0)	(5.4)	2.2	(100.5)	1	e	-	0	0	1d	1a	1a	無	無	-	-	
-	10674	SD508	1	泥岩	(5.9)	(3.6)	(0.5)	(10.3)	5	y	-	0	0	1d	-	1a	無	-	-	-	
-	10675	SD508	1	砂岩	(12.3)	10.2	3.8	(597)	2	d	1	10.2	80	1a	2	1a	無	有	-	-	
-	10678	SD508	1	泥岩	(7.9)	(5.2)	0.6	(33.9)	1	e	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	10679	SD508	1	泥岩	9.1	(4.9)	1.5	(77.7)	2	a	2	4.9	67	1a	1b	1a	有	無	-	-	
-	10680	SD508	1	砂岩	(11.5)	7.4	3.8	(429.1)	1	d	4	7.4	75	1a	2	2	無	有	-	-	
-	10681	SD508	1	泥岩	(9.1)	4.2	1.1	(49.6)	1	d	2	3.7	45	1a	2	1a	無	無	-	-	
-	10686	SD508	1	泥岩	(6.4)	(3.3)	(1.0)	(28.2)	5	g	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	10688	SD508	1	泥岩	(7.3)	(5.2)	0.7	(44.0)	1	e	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	10690	SD508	1	泥岩	(3.4)	(4.3)	(0.4)	(7.6)	5	y	-	0	0	1d	-	1a	無	-	-	-	
-	10700	SD508	1	砂岩	14.6	(7.8)	3.4	(388.4)	2	a	-	(2.7)	49	1a	1b	2	無	有	-	-	
-	10706	SD508	2	砂岩	11.4	4.5	2.0	120.8	1	z	1	4.5	57	1a	1b	2	無	有	-	-	A群、刃部再生？
-	10716	SD508	1	安山岩	(9.9)	6.7	2.0	(152.4)	2	d	4	6.7	64	1a	2	2	無	有	-	-	
-	10729	SD508	1	安山岩	(9.3)	9.9	(3.9)	(388.5)	5	f	3	9.4	32	2	2	2	無	有	-	-	
-	10734	SD508	1	泥岩	(5.5)	(5.0)	(1.8)	(63.3)	5	g	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10851	SD508	1	砂岩	(8.4)	(7.0)	(3.2)	(255.2)	2	g	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10852	SD508	1	砂岩	(7.2)	6.3	(2.8)	(117.3)	5	f	3	6.3	63	1a	2	2	無	有	-	-	
-	10861	SD508	2	泥岩	10.9	4.1	3.1	201.4	1	z	1	4.1	73	1a	2	1b	無	有	-	-	A群
-	10863	SD508	2	泥岩	(4.7)	(2.0)	(0.6)	(6.4)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10865	SD508	2	砂岩	(7.9)	8.5	1.7	(136.9)	2	d	3	7.8	66	1a	2	2	無	有	-	-	
-	10866	SD508	2	砂岩	(10.6)	6.4	2.2	(199.9)	1	d	3	6.1	54	2	2	2	無	無	-	-	
-	10869	SD508	2	流紋岩	12.1	(6.1)	2.3	(209.8)	3	a	-	0	0	1b	1b	1b	有	有	-	-	
-	10870	SD508	2	砂岩	(6.9)	(5.3)	1.1	(49.7)	2	e	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10873	SD508	2	安山岩	(9.9)	6.5	3.2	(269.6)	1	d	1	6.3	62	1a	1b	2	無	有	-	-	
-	10875	SD508	2	泥岩	(7.3)	5.4	1.6	(87.4)	1	d	1	5.2	76	1a	2	1a	無	無	-	-	
-	10876	SD508	2	泥岩	(9.1)	6.9	1.5	(104.2)	2	d	4	6.9	72	1a	2	1a	無	無	-	-	
-	10890	SD508	2	砂岩	(8.0)	(5.8)	(2.3)	(169.9)	1	g	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	10915	SD509	1	砂岩	(11.2)	(7.4)	4.7	(375)	5	b	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10692-1	SD508	1	泥岩	(5.4)	(5.4)	(0.9)	(38.6)	1	g	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	X73	SD508	1	砂岩	11.6	7.6	3.3	305.2	2	z	2	7.0	74	1b	2	2	無	有	-	-	B区、B群

表58　打製石斧一覧②

No.	整理No.	地区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	質量(g)	分類	欠損	刃部 形態	刃部 幅	刃部 刃角	刃部 摩耗	刃部 刃毀	刃部 擦痕	装着痕	自然面	挿図	図版	備考
-	791	NW8	1	泥岩	(3.6)	(2.7)	(0.5)	(4.7)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	1	I L9	Ⅲ b	泥岩	(13.1)	(3.4)	(1.2)	(64.7)	5	y	-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	砥石？
-	5	I S12	Ⅲ b	泥岩	(4.1)	(3.8)	(0.7)	(11.7)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	9	I P11	Ⅲ b	泥岩	(6.6)	7.5	(1.5)	(98.3)	5	f	2	6.8	65	1c	1a	1a	無	-	-	-	
-	11	I M9	Ⅲ b	泥岩	(4.5)	(4.1)	(0.6)	(15.2)	5	f	-	(4.0)	96	1d	-	2	無	-	-	-	
-	20	I R9	Ⅲ b	泥岩	(5.3)	(3.4)	(1.0)	(18.7)	1	y	-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	34	I P10	Ⅲ b	泥岩	(1.1)	6.3	3.0	(224.7)	3	d	4	6.1	75	1b	1b	1a	無	無	-	-	
-	49	I M9	Ⅲ b	泥岩	(9.1)	(5.0)	1.7	(113.1)	1	e	-	0	0	-	-	-	有	無	-	-	
-	61	I P10	Ⅲ b	泥岩	(3.4)	(1.1)	(0.4)	(1.6)	5	f	-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	63	I K9	Ⅳ	泥岩	(4.4)	(2.6)	(0.7)	(6.0)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	67	I L8	Ⅳ	泥岩	(5.0)	4.1	(0.8)	(23)	5	f	4	4.2	74	1a	1b	1a	無	-	-	-	
-	121	I N12	Ⅲ b	泥岩	(7.0)	5.7	(1.1)	(71.0)	1	f	2	4.8	62	1c	1a	1a	無	無	-	-	
-	137	I N11	Ⅳ	泥岩	(10.5)	(3.6)	(0.9)	(37.5)	1	f	-	3.2	54	1d	2	1a	有	無	-	-	
-	163	I T5	Ⅲ b	砂岩	(8.7)	7.6	2.1	(169.2)	5	d	2	7.65	66	1a	2	2	無	有	-	-	
-	223	I P16	Ⅲ b	泥岩	(5.2)	(4.8)	(0.7)	(23.9)	5	g	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	267	I R13	Ⅲ b	砂岩	9.6	4.9	1.3	79.4	1	z	3	4.9	65	1a	1a	2	有	有	-	-	A群
-	282	I S13	Ⅲ b	泥岩	(6.3)	3.7	1.0	(30.9)	1	g	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	297	I S13	Ⅲ b	泥岩	(3.3)	(2.3)	(0.4)	(4.1)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	321	I S14	Ⅲ b	泥岩	(5.8)	(4.4)	(0.9)	(24.1)	5	y	-	0	0	1d	-	1a	無	-	-	-	
-	420	I S14	Ⅳ	泥岩	(8.0)	(3.7)	(1.1)	(39.4)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	478	I S12	Ⅲ b	泥岩	(5.6)	(3.2)	(0.8)	(19.0)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	527	I S10	Ⅲ b	泥岩	(3.4)	5.1	(0.7)	(15.1)	5	f	-	4.6	49	1a	2	1a	無	-	-	-	
-	557	I Q6	Ⅲ b	泥岩	(4.7)	(3.6)	(0.6)	(11.5)	5	f	-	(3.8)	97	-	2	1b	無	-	-	-	
-	570	I S12	Ⅲ b	泥岩	(2.5)	(5.2)	(0.6)	(10.3)	5	y	1	(4.2)	65	1d	2	1a	無	-	-	-	
-	575	I S12	Ⅲ b	泥岩	(4.2)	(3.8)	(0.6)	(13)	5	y	-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	599	I U13	Ⅲ b	泥岩	(5.6)	(3.9)	(0.6)	(15.6)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	652	I T12	Ⅳ	砂岩	11.4	7.5	2.2	183.9	3	z	2	7.45	56	1c	2	2	無	有	-	-	B群
-	821	I S8	Ⅲ b	砂岩	(8.7)	6.0	1.5	(98.9)	2	d	3	6	62	1a	2	2	無	有	-	-	
-	849	I R8	Ⅲ b	泥岩	(2.1)	(3.3)	(0.6)	(2.8)	5	y	-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	853	I S8	Ⅲ b	泥岩	(1.8)	(2.5)	(0.7)	(2.4)	5	y	3	(2.3)	81	1d	-	1b	無	-	-	-	
-	871	I X13	Ⅲ b	泥岩	(9.3)	(3.2)	(0.8)	(23.8)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	877	I S6	Ⅲ b	砂岩	15.8	8.3	2.8	423.8	2	z	1	6.8	65	1a	1a	2	無	有	-	-	B群
-	880	I S8	Ⅲ b	泥岩	(4.6)	(2.4)	(0.4)	(10.1)	1	f	-	(1.7)	74	1d	-	-	無	-	-	-	
-	886	I S6	Ⅲ b	砂岩	8.0	5.7	1.7	73.2	1	z	2	5.65	60	2	2	2	無	有	-	-	A群
-	888	I S8	Ⅲ b	砂岩	(7.1)	6.2	(0.8)	(75.3)	1	f	3	5.6	43	1a	2	2	無	有	-	-	
-	1093	I S5	Ⅲ b	泥岩	(6.5)	6.3	(1.7)	(105.4)	1	f	2	6.1	89	1a	1b	1a	無	無	-	-	
-	1286	I U5	Ⅳ	砂岩	(4.9)	5.2	(1.0)	(35.9)	5	f	2	5.15	52	1a	2	2	無	-	-	-	
-	1363	I U5	Ⅲ b	泥岩	(6.5)	(3.0)	(1.1)	(22.5)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	1373	I U5	Ⅲ b	泥岩	(3.4)	(4.5)	(0.6)	(11.8)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	1378	I V5	Ⅲ b	泥岩	(9.6)	(5.2)	1.6	(89)	1	b	-	0	0	-	-	-	有	無	-	-	
-	1389	I U6	Ⅲ b	泥岩	(10.5)	(5.6)	1.5	(120.2)	1	b	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	1390	I U6	Ⅲ b	砂岩	(7.9)	(6.5)	(4.3)	(253.6)	5	g	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	1394	I U6	Ⅲ b	泥岩	(2.1)	(5.1)	(0.6)	(9.1)	5	f	-	0	0	1d	-	1a	無	-	-	-	
-	1405	I U7	Ⅲ b	泥岩	(7.8)	4.1	(1.0)	(45.9)	1	f	-	(4.1)	51	1d	2	1a	無	無	-	-	
-	1445	I X13	Ⅲ b	泥岩	(5.1)	(2.5)	(0.8)	(10.1)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10005	Ⅱ F20	Ⅲ b	泥岩	(11.7)	4.1	(1.2)	(64.3)	1	b	-	0	0	-	2	-	有	無	-	-	
-	10050	Ⅱ G14	Ⅲ b	泥岩	(3.3)	(1.6)	(0.3)	(1.9)	5		-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	10052	Ⅱ H14	Ⅲ b	泥岩	(3.3)	(5.4)	(0.5)	(14.2)	5		-	0	0	1d	-	-	無	-	-	-	
-	10079	Ⅱ E20	Ⅲ b	砂岩	(11.6)	(8.6)	(3.1)	(414.7)	1	g	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10105	Ⅱ G13	Ⅲ b	砂岩	(9.5)	8.4	3.3	(354.5)	3	d	2	8.3	84	1a	1b	2	無	有	-	-	
-	10107	Ⅱ D19	Ⅲ b	泥岩	(4.8)	(3.6)	(0.7)	(19.5)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10110	Ⅱ F21	Ⅲ b	砂岩	15.0	(9.4)	2.3	(384)	3	a	2	5.4	74	1a	1b	1a	無	有	-	-	
-	10111	Ⅱ F21	Ⅲ b	泥岩	(6.7)	(4.1)	1.5	(54.2)	5	b	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10123	Ⅱ F22	Ⅲ b	泥岩	(5.0)	5.3	(0.7)	(27.2)	1	f	2	4.4	102	1a	2	2	無	-	-	-	
-	10169	Ⅱ F13	Ⅳ	砂岩	(6.5)	(4.5)	(1.4)	(61.2)	1	g	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	
-	10173	Ⅱ G13	Ⅳ	泥岩	(4.5)	(2.3)	(0.4)	(5.6)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10195	Ⅱ G12	Ⅳ	砂岩	18.0	(5.2)	1.5	(191.2)	1	a	-	0	0	-	2	-	無	有	-	-	
-	10200	Ⅱ I3	Ⅲ b	安山岩	14.5	(8.4)	2.8	(312.3)	2	a	-	(4.3)	63	2	2	2	無	有	-	-	
-	10268	Ⅱ J22	Ⅲ b	砂岩	(9.9)	(6.9)	3.2	(253.2)	5	b	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10360	Ⅱ K19	Ⅲ b	泥岩	(7.1)	(3.6)	(0.9)	(23.7)	5	f	2	(2.6)	80	1d	2	1a	無	-	-	-	
-	10517	Ⅱ K22	Ⅳ	泥岩	(5.3)	(4.0)	(2.8)	(60.1)	1	g	-	0	0	-	-	-	有	無	-	-	

表59　打製石斧一覧③

No.	整理No.	地区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	質量(g)	分類	欠損	刃部 形態	刃部 幅	刃部 刃角	刃部 摩耗	刃部 刃毀	刃部 擦痕	装着痕	自然面	挿図	図版	備考
-	10518	ⅡK22	Ⅳ	砂岩	(7.9)	4.9	2.5	(155.6)	1	d	3	4.7	62	1a	1b	2	無	無	-	-	
-	10587	ⅡI22	Ⅲb	砂岩	(8.1)	4.6	2.6	(120.4)	1	d	3	4.6	74	1a	1a	2	無	有	-	-	
-	10605	ⅡH23	Ⅲb	泥岩	(2.6)	(4.5)	(0.6)	(7.8)	5		-	0	0	1d	2	2	無	-	-	-	
-	10606	ⅡH23	Ⅲb	砂岩	(11.3)	(7.0)	2.6	(217.2)	2	b	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10630	ⅡI22	Ⅳ	泥岩	(3.4)	(4.5)	(0.5)	(10.5)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10640	ⅡG22	Ⅲb	安山岩	(10.2)	(6.2)	(1.9)	(129.4)	1	g	1	4.6	80	2	2	2	無	無	-	-	
-	10642	ⅡG22	Ⅲb	泥岩	(2.5)	4.8	(0.7)	(13)	5	f	3	4.7	71	1a	2	2	無	-	-	-	
-	10644	ⅡH22	Ⅲb	泥岩	(6.3)	7.1	(1.4)	(84.2)	5	f	2	6.95	81	1c	1b	1b	無	無	-	-	
-	10647	ⅡJ23	Ⅲb	砂岩	(15.5)	(8.8)	3.1	(633)	1	b	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10648	ⅡK23	Ⅲb	安山岩	10.9	7.2	2.8	233.8	2	z	1	7.3	87	1a	1a	2	無	有	-	-	B群
-	10650	ⅡG22	Ⅲb	砂岩	(8.4)	7.0	(3.5)	(275.3)	1	f	2	6.6	77	2	2	2	無	有	-	-	
-	10652	ⅡG22	Ⅲb	泥岩	14.5	4.9	2.8	228.3	1	z	2	2.85	70	1a	2	2	無	無	-	-	A群
-	10653	ⅡH23	Ⅲb	砂岩	(10.7)	10.7	(3.2)	(473)	5	f	4	10.4	67	1a	2	1a	有	有	-	-	
-	10654	ⅡH23	Ⅲb	泥岩	(6.9)	5.9	(1.2)	(64.2)	5	f	2	5.7	74	1b	2	1a	無	無	-	-	刃部再生
-	10657	ⅡH23	Ⅲb	泥岩	(6.0)	(4.6)	(0.7)	(23.7)	5	g	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10658	ⅡH23	Ⅲb	泥岩	(3.3)	(5.3)	(0.5)	(17.4)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	
-	10661	ⅡI23	Ⅲb	泥岩	15.3	(6.0)	2.1	(188.4)	3	a	3	5.3	48	1d	1a	2	無	有	-	-	
-	10666	ⅡK23	Ⅲb	砂岩	(9.4)	(8.5)	2.1	(210.3)	5	e	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	
-	10738	ⅢG1	Ⅲb	泥岩	(7.4)	5.1	1.0	(61.8)	1	d	4	4.4	52	1a	1a	1b	無	無	-	-	
-	10747	ⅡJ25	Ⅲb	砂岩	(6.9)	7.5	(1.9)	(108.6)	5	f	2	7.5	64	2	2	2	無	有	-	-	
-	10817	ⅡJ25	Ⅳ	砂岩	11.3	(8.9)	3.1	(251.9)	3	a	-	2.05	66	1a	1b	2	無	有	-	-	
-	X23-1	TP4	Ⅰ	泥岩	(2.0)	(2.9)	(0.3)	(2.1)	5	y	-	0	0	-	-	-	無	-	-	-	A区
-	X30-2	TP7	Ⅱ	安山岩	(8.6)	(5.5)	2.7	(160.3)	1	e	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	A区
-	X32-1	TP7付近	Ⅰ	泥岩	(4.2)	(3.2)	(0.6)	(10.0)	5	f	-	0	0	1d	2	1a	無	-	-	-	表採、A区
-	X33	TP8	Ⅱ	泥岩	12.6	5.5	1.7	140.4	1	z	2	5.4	53	1a	1a	1a	有	有	-	-	A区、A群
-	X35	TP8	Ⅳ	砂岩	(10.4)	8.5	(2.6)	(270.9)	5	f	4	7.3	54	1c	1a	2	無	有	-	-	A区
-	X58-1	TP27	Ⅰ	泥岩	(6.6)	(3.1)	(0.7)	(17.5)	5	f	-	0	0	1d	2	2	無	-	-	-	A区
-	X62-1	A区	Ⅰ	泥岩	(9.9)	(5.5)	1.1	(84.5)	5	b	-	0	0	-	-	-	有	有	-	-	表採、A区
-	X62-2	A区	Ⅰ	泥岩	(6.7)	(4.8)	1.1	(47.4)	2	g	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	表採、A区
-	X43	TP14	Ⅶ	砂岩	(16.0)	(10.4)	3.0	(669)	3	b	-	0	0	-	-	-	無	有		-	B区
-	X51-2	TP21	Ⅳ	流紋岩	(7.5)	5.9	(1.9)	(79.6)	2	f	1	5.9	65	1a	2	2	無	有	-	-	B区
-	X07	Gトレ	Ⅱ	泥岩	(8.8)	(5.1)	0.9	(68.5)	1	b	-	0	0	-	-	-	有	無	-	-	調査区外
-	X14-1	No.17	不明	泥岩	(6.0)	6.1	(3.0)	(134.1)	5	f	1	5.9	75	1b	2	1a	無	無	-	-	調査区外
-	X14-2	No.17	不明	泥岩	(7.8)	(6.3)	(2.1)	(107.8)	5	g	-	0	0	-	-	-	有	有	-	-	調査区外
-	X14-3	No.17	不明	安山岩	(6.2)	(4.3)	(1.4)	(46.2)	2	g	-	0	0	-	-	-	無	無	-	-	調査区外
-	X21	TP2	Ⅰ	砂岩	(10.1)	6.8	2.8	(241.0)	4	d	2	6.5	70	1c	1a	2	無	有	-	-	調査区外
-	X54	TP23	Ⅲ	砂岩	(5.9)	(5.2)	(1.6)	(61.8)	5	g	-	0	0	-	-	-	無	有	-	-	調査区外
-	X01-1	不明	不明	泥岩	(2.7)	(4.6)	(0.6)	(9.6)	5	f	1	0	0	1d	2	1a	無	-	-	-	調査区外
-	X01-7	不明	不明	泥岩	(2.2)	(0.9)	(0.4)	(1.5)	5	y	-	0	0	1d	2	2	無	-	-	-	調査区外

h）磨製石斧（図143）

A区で1点、B区で6点の合計7点が包含層から出土したものである。380は細長い円礫を利用したもので、基部の断面形が楕円形であり、部分的に研磨痕が残る。381・382は扁平な円礫を利用しており、基部の断面形は細長い楕円形である。側縁から基部にかけては敲打によって整形し、刃部を研磨によって作り出している（写真25）。381の刃部にある刃こぼれは、側面側に片寄った位置にある。383は、ほぼ全面を研磨した定角式のものであるが、側面の一方は直線的であるのに対し、もう一方は外彎している。また、基部には研磨前に行った、整形のための敲打痕が一部残存している。刃部には片面では中央部に、もう一方の面では側面側に片寄った位置に、刃こぼれと思われる剥離がある（写真26・27）。384・385は、ほぼ全面を研磨した定角式のものであるが、2/3以上を欠損していると思われる。出土分布は点数が少ないものの、A区では中央部から（図124）、B区では南部から（図127）出土しており、石鏃や打製石斧とはやや異なった出土状況を示す。

写真25　381刃部拡大

写真26　383刃部拡大①

写真27　383刃部拡大②

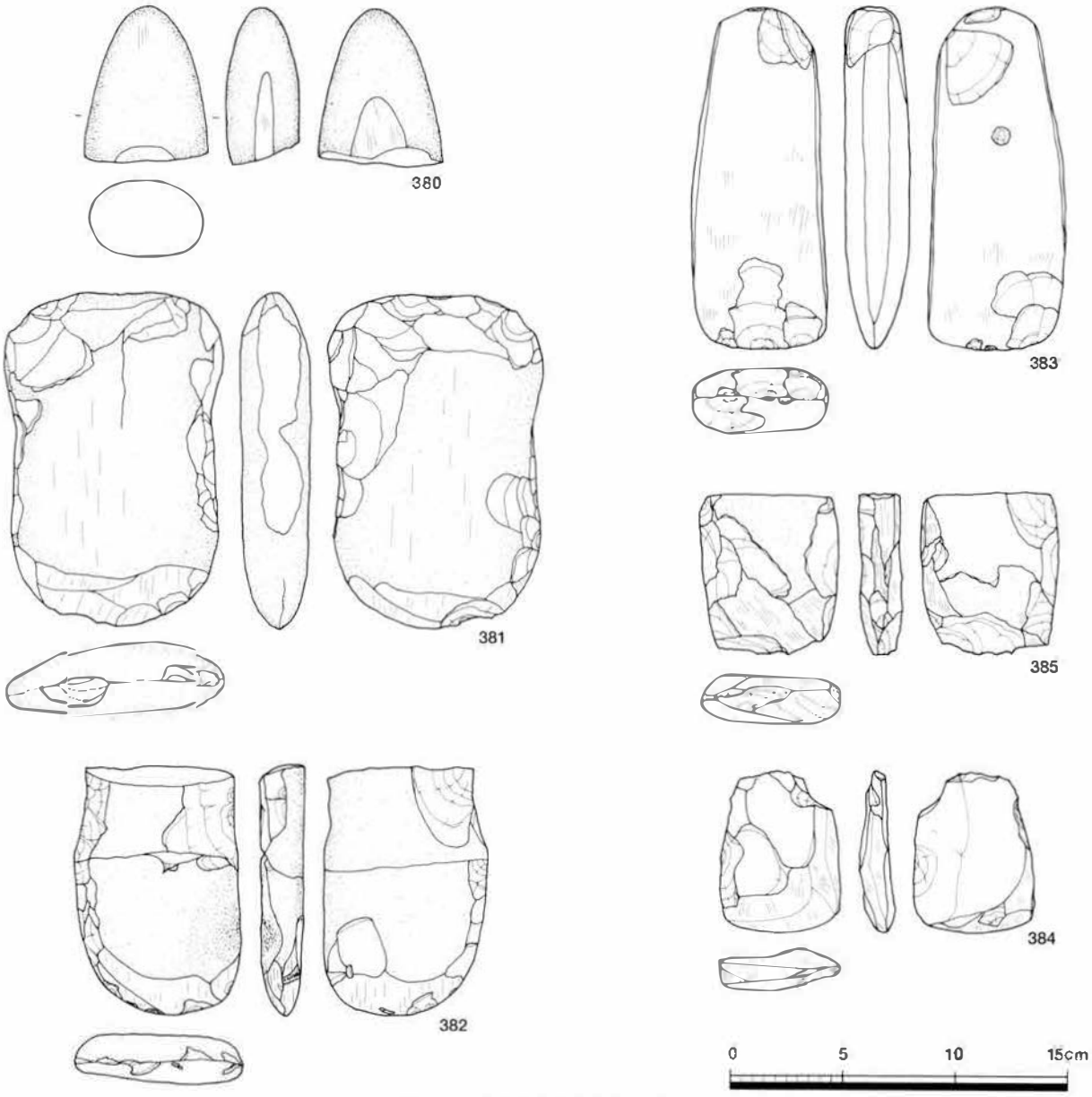


図143　包含層出土磨製石斧

表60　磨製石斧一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	形態	刃部 形態	刃部 幅	刃部 刃角	刃部 刃毀	破損	挿図	図版	備考
46	1016	SB2	2	安山岩	(3.3)	(3.7)	2.6	(33.8)	1b	-	-	-	-	g	36	13	頭部のみ
47	1232	SB2	2	安山岩	(8.6)	(6.1)	(3.2)	(237.8)	1b	-	-	-	-	g	36	13	頭部のみ
183	1192	SK209	1	安山岩	(4.1)	(4.2)	2.5	(55.1)	1a	-	-	-	-	g	77	33	頭部のみ
380	332	I R12	Ⅳ	安山岩	(7.0)	(5.5)	3.3	(160.1)	1a	-	-	-	-	g	143	41	頭部のみ
381	10465	Ⅱ J19	Ⅳ	安山岩	14.6	9.6	3.2	586.0	2a	2	8.2	93	1b	z	143	41	
382	10513 10528	Ⅱ K20	Ⅳ	砂岩	(7.0)	7.3	2.1	(256.3)	2a	2	6	77	1a	d	143	41	2点接合
383	10260	Ⅱ L19	Ⅲb	砂岩	15.0	5.9	3.0	401.4	2c	1	5.2	48.5	1b	z	143	41	
384	10510	Ⅱ K20	Ⅳ	安山岩	(7.0)	5.1	1.3	(60.7)	-	1	5	67	2	f	143	41	
385	10569	Ⅱ I22	Ⅲb	泥岩	(6.9)	5.9	1.9	(138.9)	-	-	-	-	1a	e	143	41	刃部剥離

i）石核（図144）

A区で5点、B区で3点、調査区外（試掘調査）で1点の合計9点が包含層から出土したものである。386は自然面を残す剥片で、腹面及び自然面を打面とし、作業面は3面確認できる。387は自然面

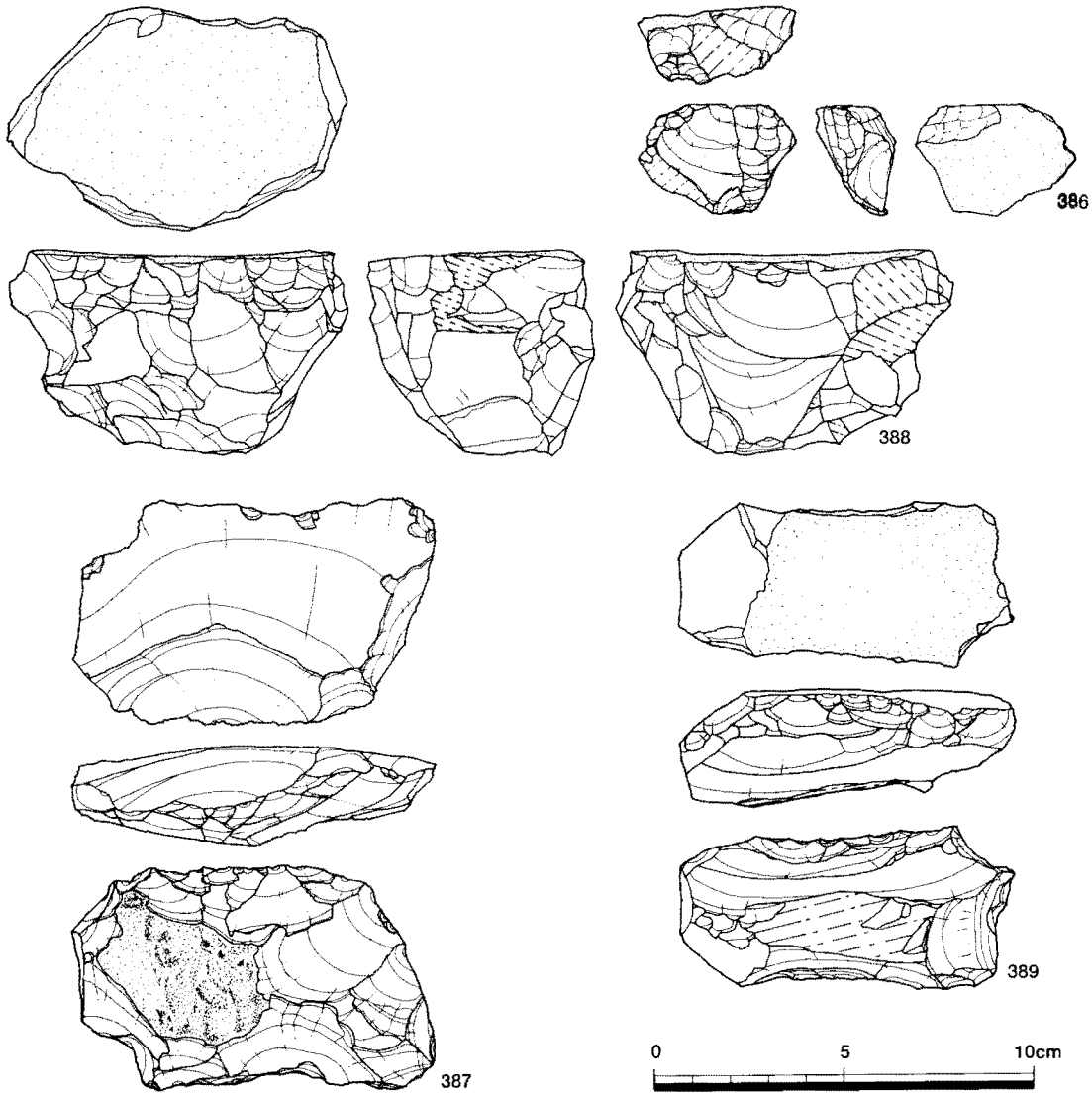


図144　包含層出土石核

面残す剥片で、腹面を打面とし、作業面は3面確認できる。388は礫の平坦な自然面及び作業面を打面とし、6面の作業面が確認できる。389は自然面を残す剥片で、自然面を打面とし、作業面は3面確認できる。出土分布（図145・図146）は、A区・B区とも散在した状況である。

j）剥片類

A区で295点、B区で300点、調査区外（試掘調査）で18点の合計613点が包含層から出土したものである。遺構出土のものを合わせた合計は718点で、このうち685点がチャート製で91%を超えており（表6）、石鏃や石錐などの小型打製石器にチャート製のものが多くを占めることと対応している。しかし、他の石材の剥片類は、製品よりも少ない点数しか出土しておらず、製品が持ち込まれた可能性を検討すべきかもしれない。出土分布（図145・図146）は、A区・B区とも散在した状況である。

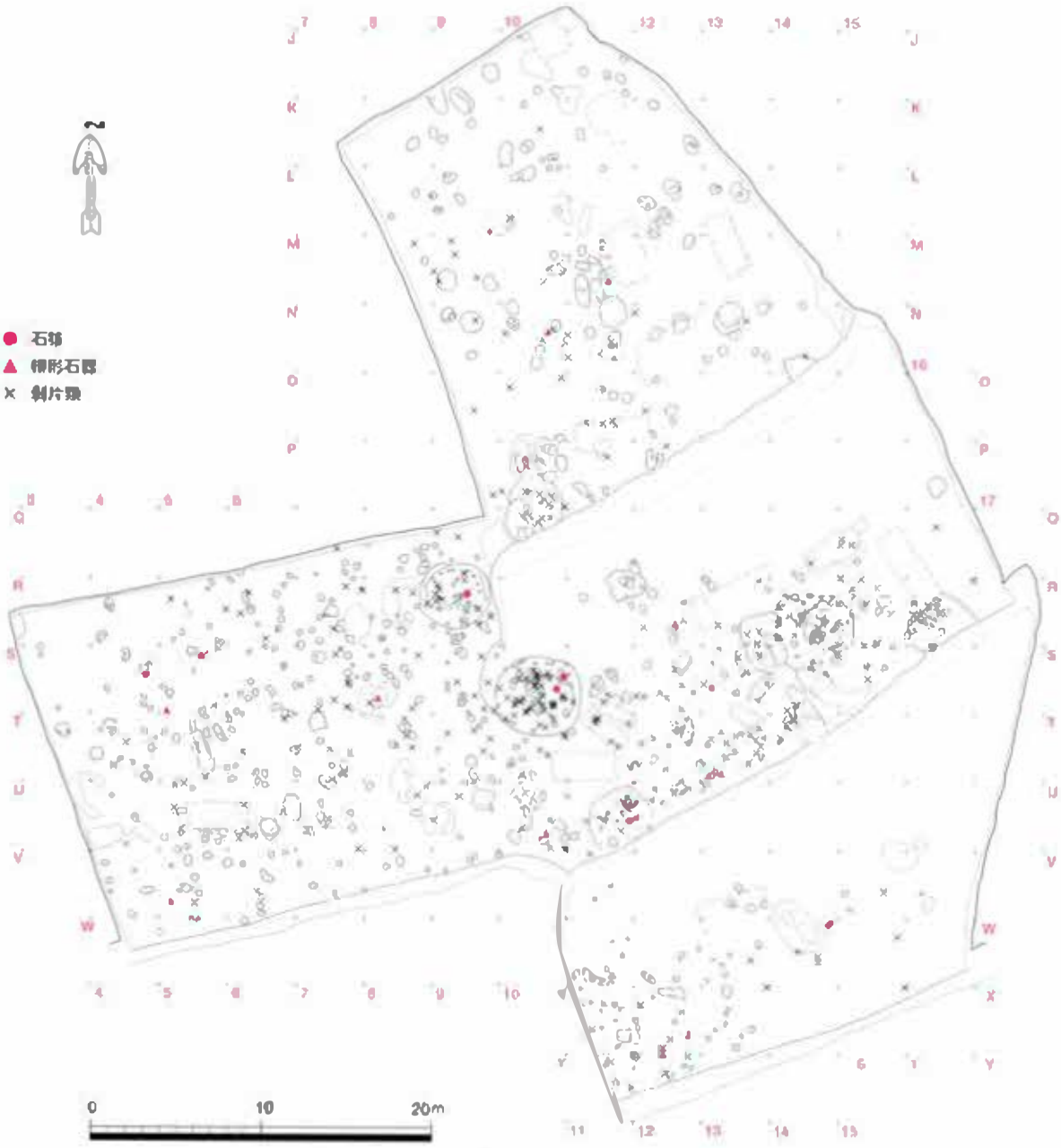


図145　A区棒形石器ほか出土分布（S=1/400）

表61　石核一覧

No	整理No	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	自然面	節理面	打面数	打面の状態	作業面数	素材	長径	図版	備考
61	1277	SP40	Ⅰ	安山岩	4.9	6.6	2.3	81.1	有	無	3	原礫から剥離した剥片の背面(自然面)を打面とし、90°ずつ移動して4面の作業面をもち、90°回転して打面を代え、さらに180°移動して作業面を2面持つ	6	剥片	36	13	
108	1315	SB4	Ⅱ~Ⅲ	チャート	4.7	6.3	4.4	109.1	有	有	1	剥片の自然面を打点とし、90°ずつ移動して作業面を3面持つ	3	剥片	46	18	
120	1153	SB5	Ⅰ	チャート	3.8	2.9	2.3	26.5	無	無	3	剥離面を打面とし、90°もしくは180°回転させて打面を移動し、直方体の残核となっている	5	剥片	50	21	
136	875	IW14	Ⅲb	チャート	3.2	4.1	1.8	23.1	有	無	3	剥片の腹面を打面とし、180°回転して自然面を打点に代え、さらに90°回転して自然面を打点とする	3	剥片	44	41	
186	1221	IS4	Ⅲb	チャート	8.6	5.8	2.5	151.4	有	無	1	剥片の腹面を打面とし、90ずつ移動して作業面を3面持つ	3	剥片	44	41	
186	X30-1	TP7	Ⅱ	流紋岩	5.2	8.9	5.9	352.9	有	有	3	礫の自然面を打点とし、90°ずつ移動して作業面を4面持つ、90°移動して作業面を打面に代え、さらに90°回転して作業面を打面とする	6	礫	104	41	A区
269	16400	ⅡJ19	Ⅲb	流紋岩	2.8	8.8	4.4	141.1	有	有	1	原礫から剥離した剥片の背面(自然面)を打面とし、90°ずつ移動して作業面を持つ	3	剥片	44	41	
-	10727	SD508	Ⅰ	チャート	2.8	3.6	1.6	19.2	有	無	2	原礫から剥離した剥片の側面に残る自然面を打面とする	2	剥片	-	-	
-	X44-1	TP14 SD509	2	チャート	2.0	3.3	4.9	37.3	有	無	1	剥片の腹面を打面とする	2	剥片	-	-	B区
-	451	IS5	Ⅳ	チャート	3.8	3.1	1.8	20.2	有	無	2	原礫から剥離した剥片の腹面を打点とし、作業面を3面持つ。さらに90°回転させて作業面の一つを打面としている	4	剥片	-	-	
-	593	IS10	Ⅳ	チャート	5.9	2.9	2.7	37.1	有	有	1	原礫を割った際の節理面を打面としている	1	剥片	-	-	
-	10451	月K19	Ⅳ	チャート	5.5	7.3	4.7	181.0	有	無	4	原礫もしくはより大の剥片の背面(自然面)を打面とし、90°ずつ移動して作業面を3つ持ち、90°回転して剥離面を打面とし作業面を2面もつ。さらに90°回転して自然面を打面として作業面を1面持ち、また90°回転して剥離面を打面とし作業面を1面持つ	7	礫	-	-	
-	10598	ⅡK22	Ⅲb	チャート	3.1	3.0	1.3	17.3	有	有	3	剥片の剥離面(背面?)を打点とする	3	剥片	-	-	
-	X14-1	N417		チャート	2.5	1.2	2.7	38.9	有	有	2	礫の自然面を打面とし、180°移動して作業面を2面持ち、90°回転して打面を代え、作業面を1面持つ	3	礫	-	-	調査区外

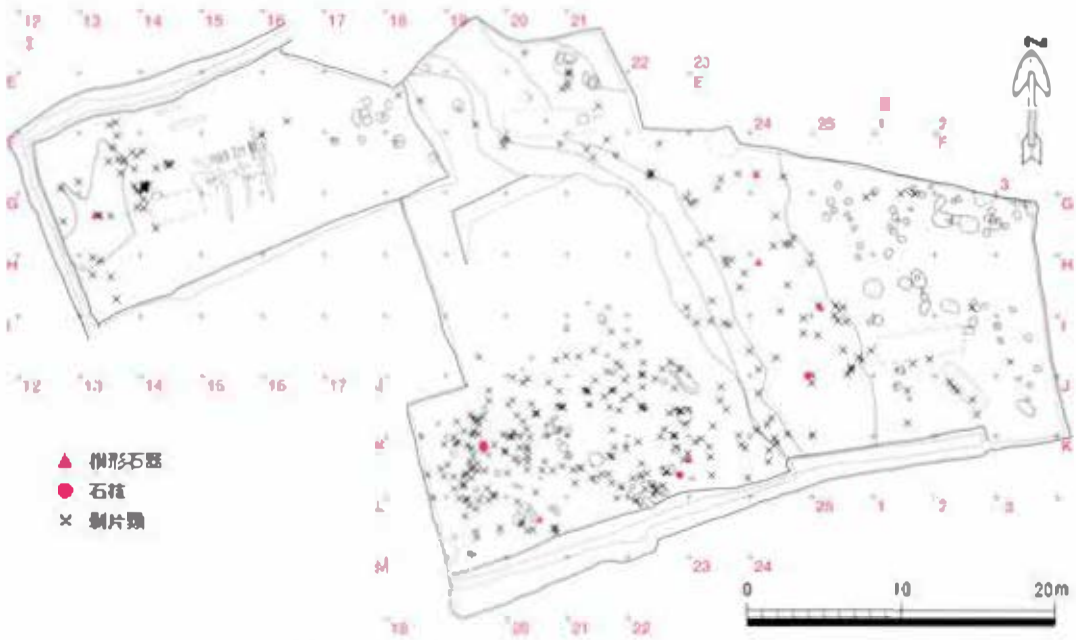


図146　B区楔形石器ほか出土分布(S=1/500)

k）調整剥離を施す剥片（RF、図147）

A区で82点、B区で58点、調査区外（試掘調査）で7点の合計147点が包含層から出土したものである。390は、側辺の背面側に片面調整による直線的な刃部を作り出しているが、欠損が1/2以上あると判断し、RFに含めたものである。391は、打点部付近に粗い剥離調整が施され、側辺に微細な剥離痕が確認できる。392は、側辺に両面調整が施されるが、欠損が1/2以上あると判断したものである。393は、側辺の背面側に片面調整による直線的な刃部を作り出しているが、欠損が1/2以上あると判断したものである。

RFとしたものの中には、他の石器の破片や調整剥片を含む可能性があり、また微細な剥離痕を持つものもある。遺構出土のものを合わせると183点となるが、このうちチャート製のものは、169点と92%以上を占めている。出土分布（図128・図130）は、A区・B区とも散在した状況である。

l）微細な剥離痕を有する剥片（MF、図147）

A区で110点、B区で174点、調査区外（試掘調査）で8点の合計292点が包含層から出土したもの

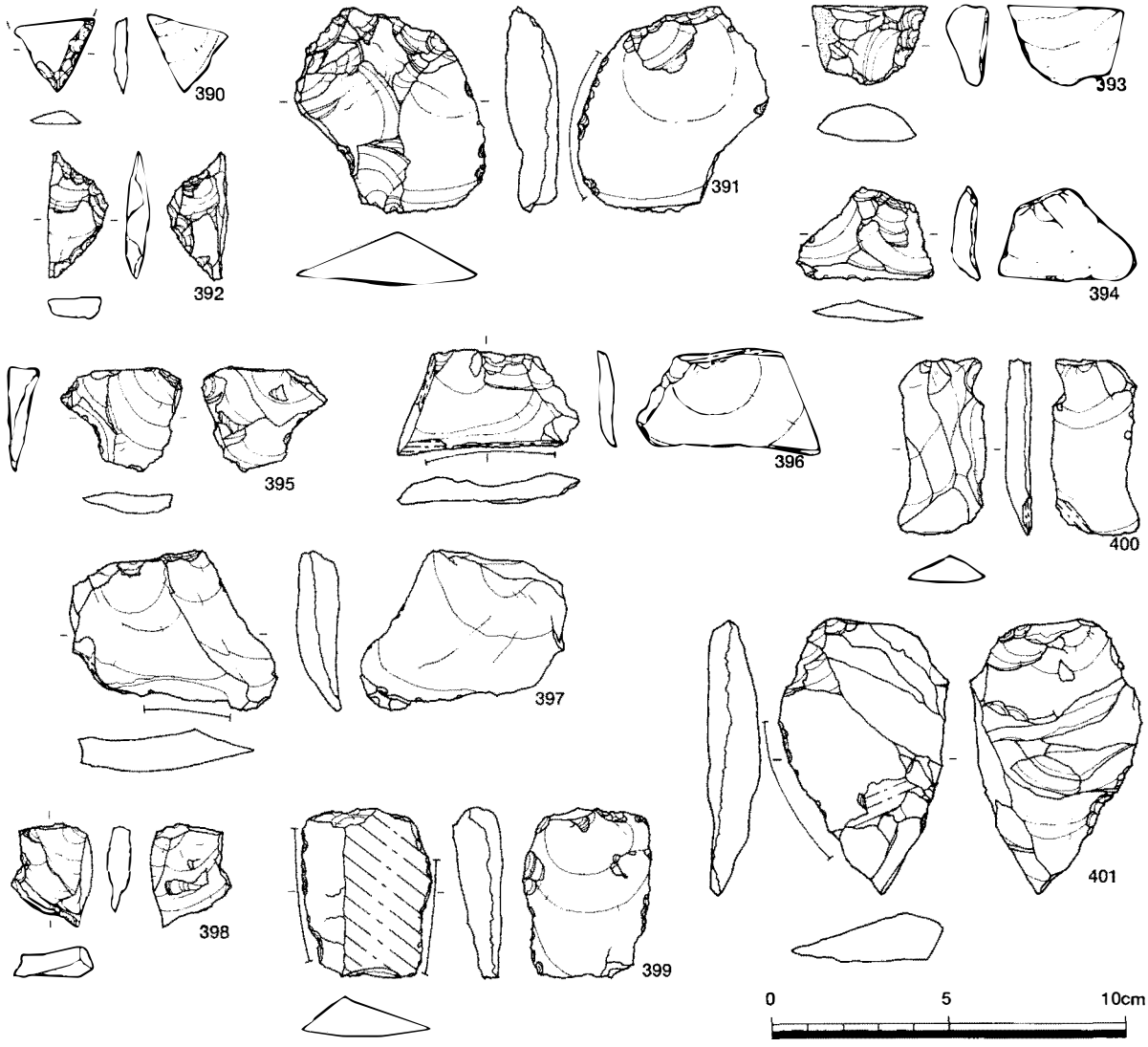


図147　包含層出土RF・MF

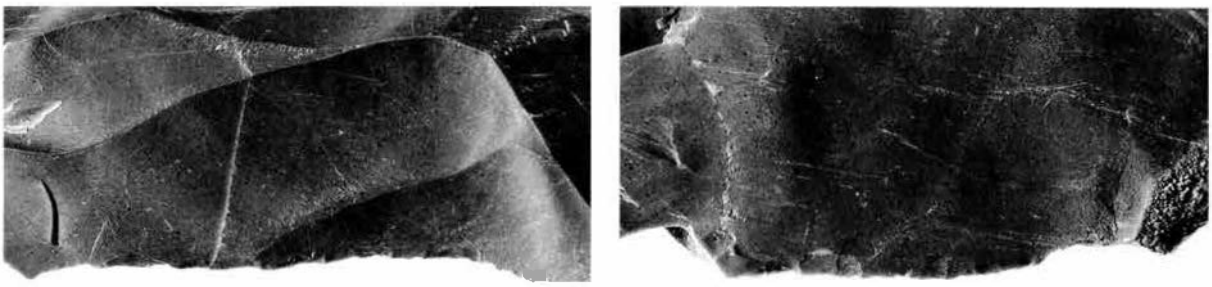


写真28　400側辺部拡大

である。394は、横長の剥片の3つの辺に、微細な剥離痕が比較的連続して認められる。395は、横長の剥片の内彎した側辺に、微細な剥離痕連続してが認められる。396は、横長の剥片の内彎した末端辺に、微細な剥離痕が連続して認められる。397は、横長の剥片の内彎した末端辺と側辺に、微細な剥離痕が比較的連続して認められる。398は、縦長の剥片の外彎した末端辺の背面側に多く、微細な剥離痕が連続して認められる。399・400は、縦長の剥片の両側辺に、微細な剥離痕が連続して認められる（写真28）。401は、縦長の剥片の外彎した側辺に、微細な剥離痕が比較的連続して認められる。遺構出土のものも含わせた395点のうち、96%以上の382点がチャート製である。また、剥片の形状は縦長のものが185点とやや多いものの、横長のものも162点ある。出土分布は、A区では竪穴住居跡がまとまる中央部に（図130）、B区では南部に（図128）比較的多く出土している。

表62　RF一覧①

No	遺物No	地区 遺構	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	刃部 (cm・°) 数	位置	調整	形態	長さ	刃角	素材 形状	挿図	図版	備考
49	952	SB2	1	チャート	(3.3)	(2.9)	(0.8)	(5.2)	2	側辺	両面	内彎	2.7	36	縦長	35	13	
											両面	内彎	0.9	35				
50	970	SB2	1	チャート	(1.3)	(2.9)	(1.7)	(3.2)	2	側辺～基辺	腹面	直線的	1.1	77	不明	35	13	スクレイパー片？
											腹面	内彎	1.5	70				
51	978	SB2	2	チャート	(2.0)	(1.4)	(0.2)	(0.5)	2	側辺	両面	内彎	1.8	60	不明	35	13	石鏃未製品？
											背面	直線的	1.2	78				
208	1005	SB2	2	チャート	(3.2)	(1.6)	(0.6)	(3.2)	1	側辺	両面	外彎	2.6	23	不明	35	13	1つの辺を2ヵ所凹状にして尖端作出
209	10741	SD508	1	チャート	(1.4)	(1.2)	(0.6)	(1.8)	2	末端～側辺	背面	外彎	1.4	53	不明	108	35	スクレイパー片？
											背面	抉り状	1.5	79				
390	10704	SD508	2	チャート	(4.8)	(1.9)	(0.8)	(6.1)	1	側辺	腹面	外彎	4.7	72	不明	108	35	スクレイパー片？
391	147	I O11	Ⅳ	チャート	(2.1)	(2.2)	(0.3)	(1.3)	2	側辺	背面	直線的	0.9	47	不明	147	40	スクレイパー片？
											背面	直線的	2.2	52				
392	X72	A区	Ⅰ	チャート	5.7	(5.4)	1.5	(44.4)	2	側辺	背面	外彎	1.4	71	横長	147	40	表採、側辺に微細な剥離痕
											両面	直線的	2.4	67				
393	10843	ⅢJ2	Ⅳ	チャート	(1.7)	(3.6)	(0.5)	(3.7)	2	側辺	両面	直線的	2.1	60	不明	147	40	
											両面	直線的	2.5	76				
-	10582	ⅡK22	Ⅲb	チャート	(2.2)	(3.2)	(1.1)	(9.3)	2	末端～側辺	背面	外彎	2.1	72	不明	147	40	スクレイパー片？
											背面	外彎	1.9	68				
-	548	SB1	1	チャート	(3.0)	(3.3)	(1.2)	(9.8)	1	側辺	背面	内彎	2.7	67	縦長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	959	SB2	1	チャート	3.3	5.1	1.2	18.1	2	側辺	背面	外彎	4.2	60	縦長	-	-	
											両面	外彎	4.2	50				
-	1003	SB2	2	チャート	(1.4)	(2.5)	(0.6)	(1.3)	1	基辺	背面	直線的	2.2	71	不明	-	-	
-	1110	SB2	2	チャート	(2.8)	(3.3)	0.8	(7.6)	2	側辺	背面	不明	0.9	49	横長	-	-	
											両面	外彎	1.2	43				
-	624	SB3	1	チャート	(2.1)	(2.7)	(0.8)	(4.0)	1	末端辺	背面	内彎	2.5	66	横長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	1136	SB4	1	チャート	3.0	2.6	0.7	4.5	1	末端辺	両面	外彎	1.3	55	縦長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	966	SB6	1	チャート	(2.0)	(2.5)	(0.6)	(2.9)	1	側辺	背面	外彎	0.9	41	不明	-	-	末端辺に微細な剥離痕
-	102	SK14	1	チャート	(2.1)	(2.8)	(0.8)	(4.8)	1	側辺	両面	外彎	2.4	63	不明	-	-	
-	985	SK148	1	チャート	3.1	4.7	1.0	11.2	1	側辺	両面	外彎	3.0	22	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	10834-2	SK598	1	チャート	1.5	1.3	0.5	0.7	1	基辺	背面	直線的	0.5	67	縦長	-	-	調整剥片？

表63　RF一覧②

No.	遺物No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	刃部(cm・°) 数	位置	調整	形態	長さ	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	10832-1	SK601	1	チャート	3.0	1.5	0.7	3.6	2	末端～側辺	背面	直線的	2.6	55	横長	-	-	
											背面	外彎	0.9	54				
-	10295	SD508	1	チャート	1.2	1.8	0.4	0.7	1	側辺	両面	抉り状	0.6	19	横長	-	-	調整剥片？
-	10684	SD508	1	チャート	(3.4)	(1.2)	(1.1)	(5.2)	2	末端～側辺	背面	不明	1.2	85	不明	-	-	
											背面	不明	1.2	60				
-	10702	SD508	2	チャート	3.8	5.3	1	17.7	1	末端～側辺	背面	外彎	3.9	55	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	10705	SD508	2	チャート	(1.5)	(2.4)	(0.6)	(3.0)	1	側辺	両面	内彎	1.7	52	不明	-	-	楔形石器?、末端辺に微細な剥離痕
-	10837	SD508	1	チャート	(2.3)	(0.8)	(0.7)	(1.1)	1	側辺	背面	不明	0.7	48	不明	-	-	
-	10858	SD508	1	チャート	(3.2)	(3.4)	(1.0)	(16.1)	1	側辺	両面	外彎	3.0	62	不明	-	-	
-	10862	SD508	2	チャート	3.7	2.8	1.4	15.2	1	側辺	両面	外彎	3.4	73	縦長	-	-	
-	10864	SD508	2	チャート	4.2	4.5	1.1	22.8	2	末端～側辺	両面	内彎	4.5	62	横長	-	-	
											腹面	直線的	2.6	59				
-	10879	SD508	2	チャート	(2.9)	(2.8)	(1.4)	(10.6)	1	側辺	背面	外彎	1.0	78	不明	-	-	楔形石器？
-	10886	SD508	2	チャート	(2.5)	(2.5)	(0.8)	(4.8)	1	側辺	両面	外彎	2.0	51	不明	-	-	末端辺に微細な剥離痕
-	10899	SD509	1	チャート	3.2	2.0	1.9	12.4	2	側辺	腹面	直線的	1.1	81	横長	-	-	
											両面	直線的	1.4	70				
-	10912	SD509	1	チャート	(2.4)	(1.9)	(0.6)	(3.5)	3	末端・基辺～側辺	両面	不明	0.5	35	不明	-	-	
											背面	外彎	1.3	69				
											背面	外彎	2.0	65				
-	10919	SD509	1	チャート	(2.3)	(1.2)	(0.6)	(2.0)	2	末端～側辺	両面	不明	0.4	60	不明	-	-	
											背面	外彎	1.5	77				
-	10950	SD509	1	チャート	3.3	1.7	0.6	4.8	2	末端～側辺	腹面	外彎	2.2	48	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
											腹面	抉り状	0.9	55				
-	10957	SD509	2	チャート	(3.8)	(4.7)	(1.8)	(33.6)	1	側辺	腹面	内彎	1.6	58	不明	-	-	基辺に微細な剥離痕
-	10968	SD509	2	チャート	4.6	5.6	2	43.2	1	側辺	腹面	外彎	4.3	65	縦長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	10979-1	SD509	2	泥岩	6.1	5.2	1.6	57.4	1	側辺	両面	外彎	5.3	30	縦長	-	-	
-	762	NW8	1	チャート	(2.1)	2.8	0.7	(5.0)	1	基辺	背面	外彎	1.3	44	縦長	-	-	
-	763	NW7	1	サヌカイト	(3.4)	(3.3)	(1.1)	(7.0)	1	側辺	両面	直線的	3.4	70	不明	-	-	製品の破片？
-	X22	TP3	Ⅱ	チャート	(2.2)	2.6	0.8	(5.8)	2	側辺	背面	外彎	1.6	68	不明	-	-	A区、楔形石器？
											背面	外彎	2.2	67				
-	X25-8	TP4	Ⅲ	チャート	(0.9)	(1.7)	(0.8)	(1.0)	1	側辺	背面	内彎	0.9	60	不明	-	-	A区
-	X29	TP7	Ⅱ	泥岩	(2.4)	(2.2)	0.6	(2.0)	1	基辺	腹面	直線的	1.4	76	不明	-	-	A区、打製石斧片？
-	18	ⅠN13	Ⅲb	泥岩	4.7	9.8	1.7	78.0	1	基辺	両面	直線的	4.9	86	横長	-	-	打製石斧片？
-	25	ⅠU10	Ⅲb	チャート	2.7	2.5	0.5	4.4	1	側辺	背面	直線的	3	52	縦長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	26	ⅠT13	Ⅲb	チャート	(1.7)	(1.2)	(0.4)	(0.7)	1	側辺	両面	直線的	1.3	28	不明	-	-	楔形石器？
-	28	ⅠR14	Ⅲb	チャート	2.0	1.8	0.6	2.4	3	側辺～基辺	両面	内彎	0.9	88	不明	-	-	石鏃未製品？
											両面	抉り状	1.2	49				
											両面	外彎	1.8	76				
-	35	ⅠP10	Ⅲb	チャート	2.5	(1.7)	0.7	(3.6)	1	末端辺	両面	内彎	1.7	58	横長	-	-	
-	47	ⅠL9	Ⅲb	チャート	(3.6)	(3.8)	1.0	(14.1)	1	側辺	背面	外彎	2.6	34	不明	-	-	
-	64	ⅠN9	Ⅲb	チャート	2.1	2.2	0.6	2.8	2	末端・基辺	腹面	外彎	1.5	50	不明	-	-	
											両面	内彎	1.6	49				
-	78	ⅠS11	Ⅲb	チャート	(2.9)	(2.4)	●.8	(6.4)	1	側辺	背面	直線的	1.4	5●	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	8●	ⅠU13	Ⅲb	チャート	3.0	3.0	1.3	14.0	2	側辺	背面	外彎	1.9	75	不明	-	-	
											腹面	直線的	2.7	64				
-	82	ⅠT8	Ⅲb	チャート	(2.3)	(2.2)	(0.7)	(4.5)	1	側辺	背面	直線的	2.3	53	不明	-	-	
-	85	ⅠU7	Ⅲb	チャート	(2.0)	(2.8)	0.8	(5.7)	1	基辺	両面	直線的	2.3	61	不明	-	-	
-	96	ⅠX13	Ⅲb	チャート	(2.7)	(2.3)	0.6	(2.6)	1	側辺	腹面	外彎	2.0	29	縦長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	110	ⅠL12	Ⅲb	チャート	(1.1)	(1.5)	(0.5)	(0.7)	2	側辺～基辺	両面	外彎	1.1	71	不明	-	-	製品の破片？全面調整
											両面	直線的	1.4	60				
-	113	ⅠN11	Ⅲb	チャート	(1.4)	(1.2)	(0.3)	(0.4)	1	側辺	腹面	直線的	1.3	56	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	127	ⅠO9	Ⅲb	チャート	(3.0)	(1.2)	(0.8)	(3.6)	1	末端辺	両面	直線的	2.7	56	不明	-	-	スクレイパー片？
-	131	ⅠM11	Ⅳ	泥岩	3.3	(3.5)	●.4	(7.2)	2	末端～側辺	背面	直線的	3.1	41	不明	-	-	打製石斧片？
											背面	直線的	1.9	45				
-	155	ⅠM11	Ⅳ	チャート	2.3	(3.●)	1.2	(5.4)	1	末端辺	背面	直線的	1.6	56	横長	-	-	
-	174	ⅠP11	Ⅳ	チャート	2.1	3.●	●.5	3.4	3	末端～側辺	両面	外彎	3.2	54	横長	-	-	何かの未製品？
											両面	外彎	2.2	54				
											両面	直線的	2.1	58				
-	226	ⅠS14	Ⅲb	チャート	3.8	(3.3)	1.5	(12.8)	1	側辺	両面	直線的	2.0	51	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	243	ⅠR13	Ⅲb	チャート	(2.4)	(2.4)	(0.6)	(2.7)	2	側辺	両面	内彎	1.5	33	不明	-	-	石鏃片？全面調整
											両面	外彎	2.4	35				
-	265	ⅠR14	Ⅲb	チャート	4.4	(2.4)	1.0	(15.1)	1	末端辺	腹面	外彎	1.6	56	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	268	ⅠR14	■b	チャート	(2.5)	(1.3)	(●.6)	(2.2)	2	末端・基辺	背面	内彎	1.3	68	不明	-	-	
											背面	抉り状	●.6	72				
-	276	ⅠR14	Ⅲb	チャート	(1.8)	(1.9)	(0.4)	(1.4)	1	側辺	両面	抉り状	1.4	60	不明	-	-	

表64　RF一覧③

No.	遺物No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	刃部(cm・°) 数	位置	調整	形態	長さ	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	277	I R14	Ⅲb	チャート	(2.1)	2.9	0.8	4.1	1	側辺	両面	直線的	1.1	53	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	330	I T13	Ⅲb	チャート	(3.0)	(1.3)	(3.0)	(1.7)	2	側辺	背面	抉り状	1.0	43	不明	-	-	石匙つまみ部？
											腹面	抉り状	0.6	52				
-	351	I S14	Ⅲb	流紋岩	3.7	7.2	1.5	36.4	2	末端・基辺	両面	直線的	4.5	66	横長	-	-	
											両面	直線的	5.8	67				
-	352	I S14	Ⅲb	チャート	(2.1)	(2.7)	(1.0)	(3.0)	1	側辺	背面	直線的	2.1	46	不明	-	-	
-	366	I S13	Ⅳ	チャート	(2.1)	(1.6)	(0.5)	(1.2)	1	側辺	両面	直線的	2.6	35	不明	-	-	スクレイパー片？
-	406	I T12	Ⅲb	チャート	2.4	(2.5)	1.2	(7.6)	3	末端～側辺	背面	直線的	1.3	56	横長	-	-	
											背面	直線的	1.4	54				
											両面	抉り状	1.4	69				
-	452	I R10	Ⅳ	チャート	2.9	(3.3)	1.1	(8.3)	1	末端辺	両面	外彎	3.1	36	不明	-	-	側片に微細な剥離痕
-	460	I R12	Ⅳ	チャート	2.0	(2.3)	0.5	(8.0)	1	末端辺	腹面	外彎	1.1	62	不明	-	-	
-	465	I T12	Ⅲb	チャート	1.9	(1.7)	0.4	(1.0)	3	末端～側辺	両面	抉り状	0.6	26	不明	-	-	石鏃片？
											両面	外彎	1.1	20				
											両面	外彎	1.7	33				
-	516	I S11	Ⅲb	チャート	(2.8)	2.9	1.1	(9.4)	2	側辺	両面	直線的	2.0	58	不明	-	-	
											両面	直線的	1.8	50				
-	526	I S11	Ⅲb	チャート	3.2	2.9	0.9	7.6	2	末端～側辺	両面	外彎	2.3	70	不明	-	-	末端辺に微細な剥離痕
											両面	外彎	2.4	65				
-	533	I S10	Ⅲb	チャート	(2.0)	(2.7)	(0.5)	(2.2)	1	末端～側辺	両面	外彎	2.5	23	不明	-	-	側片に微細な剥離痕
-	543	I S10	Ⅳ	チャート	(1.5)	(2.4)	(0.6)	(2.4)	1	末端辺	両面	外彎	1.8	77	不明	-	-	側片に微細な剥離痕
-	563	I S10	Ⅳ	チャート	2.1	(2.1)	(0.5)	(2.3)	1	末端辺	腹面	直線的	1.9	48	不明	-	-	
-	586	I S13	Ⅲb	チャート	(1.6)	(2.5)	(0.9)	(3.4)	1	基辺	腹面	直線的	1.5	67	横長	-	-	スクレイパー片？
-	590	I T11	Ⅲb	チャート	(1.9)	(2.3)	(0.8)	(2.7)	1	末端辺	腹面	外彎	1.6	73	不明	-	-	
-	623	I S12	Ⅲb	砂岩	3.9	6.5	1.6	44.5	2	末端～側辺	背面	外彎	6.3	60	横長	-	-	
											両面	外彎	3.1	56				
-	625	I S11	Ⅳ	チャート	(2.6)	1.9	(0.4)	(3.1)	2	側辺	背面	外彎	2.4	72	縦長	-	-	
											両面	直線的	2.2	31				
-	647	I S13	Ⅳ	チャート	2.5	(2.1)	0.9	(4.6)	1	側辺	両面	外彎	2.0	50	不明	-	-	
-	653	I T11	Ⅳ	チャート	2.4	1.4	0.3	1.0	2	側辺～基辺	両面	外彎	2.2	42	縦長	-	-	末端辺に微細な剥離痕
											両面	直線的	1.3	55				
-	674	I T12	Ⅳ	チャート	(0.7)	(1.4)	(0.5)	(0.7)	1	側辺	背面	直線的	1.1	60	不明	-	-	楔形石器片？
-	676	I U11	Ⅳ	チャート	1.5	3.0	0.5	2.1	1	基辺	背面	直線的	2.5	26	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	680	I U12	Ⅳ	チャート	(1.9)	(1.5)	(0.7)	(1.1)	1	側辺	両面	直線的	2.0	67	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	681	I U11	Ⅳ	チャート	1.9	(2.7)	0.4	(2.3)	2	側辺	腹面	抉り状	1.4	30	不明	-	-	
											両面	外彎	1.8	35				
-	688	I S10	Ⅳ	チャート	3.6	(2.8)	0.9	(9.4)	1	側辺	背面	外彎	2.7	33	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	717	I S10	Ⅳ	チャート	(1.2)	(1.4)	(0.6)	(1.0)	1	側辺	背面	外彎	1.1	64	不明	-	-	
-	722	I S10	Ⅳ	チャート	2.2	2.2	0.6	3.0	2	側辺	両面	外彎	2.0	43	横長	-	-	末端辺に微細な剥離痕
											両面	外彎	1.9	25				
-	723	I S11	Ⅳ	チャート	(3.5)	(1.6)	(0.8)	(3.4)	1	末端辺	両面	直線的	1.3	44	不明	-	-	製品の破片？
-	760	I Q8	Ⅲb	チャート	(1.0)	(1.6)	(0.6)	(0.9)	2	側辺～基辺	背面	抉り状	0.8	87	不明	-	-	スクレイパー片？
											両面	外彎	1.1	50				
-	769	I Q8	Ⅲb	チャート	3.6	3.5	0.6	9.1	1	末端辺	両面	内彎	2.1	25	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	797	I U7	Ⅲb	チャート	(1.2)	(1.0)	(0.8)	(1.0)	1	側辺	両面	直線的	1.3	70	不明	-	-	
-	798	I V4	Ⅲb	泥岩	2.5	1.7	0.5	2.8	1	側辺	背面	抉り状	1.1	59	不明	-	-	打製石斧片？
-	803	I T8	Ⅲb	チャート	(1.0)	(1.6)	(0.6)	(1.1)	1	側辺	背面	内彎	0.6	62	不明	-	-	
-	809	I X12	Ⅲb	チャート	(2.1)	(2.7)	0.6	(4.0)	2	末端～側辺	背面	外彎	2.5	66	不明	-	-	スクレイパー片？
											腹面	抉り状	1.3	71				
-	820	I S8	Ⅲb	チャート	5.0	3.8	1.4	30.0	2	末端・基辺	背面	外彎	1.5	45	縦長	-	-	側片に微細な剥離痕
											背面	内彎	3.2	61				
-	836	I R15	Ⅲb	チャート	(1.6)	(1.0)	(0.4)	(0.6)	1	側辺	両面	直線的	1.5	42	不明	-	-	製品の破片？
-	843	I R7	Ⅲb	チャート	(0.9)	(1.6)	(0.3)	(0.4)	1	側辺	腹面	抉り状	0.5	65	不明	-	-	スクレイパー片？、ほかの辺に微細な剥離痕
-	878	I R7	Ⅲb	チャート	(3.1)	(1.5)	0.8	(3.0)	1	側辺	背面	直線的	2.7	68	不明	-	-	製品の破片？、ほかの辺に微細な剥離痕
-	884	I S7	Ⅲb	チャート	4.2	3.4	1.8	20.5	1	側辺	両面	直線的	4.1	35	縦長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	1008	I U7	Ⅳ	チャート	3.5	2.4	0.8	7.4	1	側辺	両面	外彎	1.7	34	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	1066	I T6	Ⅲb	チャート	(0.6)	(1.9)	(0.5)	(0.7)	1	末端辺	両面	直線的	1.9	73	不明	-	-	調整剥片？
-	1073	I T13	Ⅳ	チャート	(2.4)	(1.9)	(0.5)	(2.7)	1	側辺	背面	外彎	2.6	46	不明	-	-	スクレイパー片？
-	1087	I R5	Ⅲb	泥岩	(6.5)	(5.7)	(0.5)	(25.8)	1	側辺	両面	外彎	3.6	54	不明	-	-	スクレイパー片？
-	1091	I T13	Ⅳ	チャート	3.2	1.7	0.6	4.8	3	末端・基辺～側辺	腹面	外彎	2.5	68	横長	-	-	
											腹面	直線的	2.9	73				
											腹面	直線的	1.1	74				
-	1101	I S3	Ⅲb	チャート	(1.2)	(2)	(0.4)	(1.1)	1	末端辺	背面	直線的	2.0	70	不明	-	-	スクレイパー片？
-	1185	I R3	Ⅳ	チャート	(1.7)	(1.9)	(0.6)	(1.0)	1	基辺	背面	外彎	1.5	57	横長	-	-	調整剥片？

表65　RF一覧④

No.	遺物No.	地区遺構	層位		(cm)	(cm)	(cm)	質量(g)	刃部 数	位置	調整	形態	長さ	刃角	素材形状	挿図	図版	
-	1354	ⅠU5	Ⅳ	チャート	(2.8)	3.4	0.9	(9.1)	3	側辺	両面	外彎	2.8	51	不明	-	-	
											両面	直線的	2.1	64				
											両面	外彎	1.8	50				
-	1359	ⅠU5	Ⅳ	チャート	(2.3)	(5.6)	(0.9)	(13.1)	2	側辺～基辺	両面	直線的	3.1	57	不明	-	-	スクレイパー片？
											両面	内彎	1.7	63				
-	1409	ⅠU8	Ⅲb	チャート	(2.2)	(5.3)	(1)	(14.4)	1	側辺	両面	外彎	4.7	25	不明	-	-	
-	1411	ⅠU13	Ⅳ	チャート	(1.4)	(1.9)	(0.6)	(1.5)	1	側辺	腹面	外彎	1.6	55	不明	-	-	
-	1416	ⅠU15	Ⅳ	チャート	3.3	4.6	1.6	19.8	1	側辺	両面	外彎	3.2	46	横長	-	-	楔形石器？
-	1424	ⅠX12	Ⅲb	チャート	1.2	0.7	0.4	0.3	1	側辺	両面	抉り状	1.1	67	不明	-	-	製品の破片？
-	1433	ⅠX11	Ⅳ	泥岩	(2.0)	(2.0)	(0.5)	(2.3)	1	側辺	両面	外彎	2.3	57	不明	-	-	打製石斧片？
-	1450	ⅠX13	Ⅳ	チャート	1.5	0.7	1.3	3.6	2	側辺～基辺	背面	直線的	2.1	98	不明	-	-	楔形石器？
											腹面	直線的	1.3	83				
-	10007	ⅡF21	Ⅲb	チャート	(2.3)	(1.1)	(0.9)	(2.2)	1	末端辺	背面	直線的	2.0	90	不明	-	-	
-	10019	ⅡL21	Ⅲb	チャート	(1.1)	(1.9)	(1.2)	(3.0)	1	末端辺	背面	外彎	1.8	66	不明	-	-	
-	10027	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(1.8)	1.2	0.4	(1.0)	2	側辺	両面	内彎	1.8	60	縦長	-	-	スクレイパー片？
											両面	直線的	1.5	58				
-	10038	ⅡF13	Ⅲb	チャート	2.9	3.0	1.4	14.7	2	末端～側辺	腹面	外彎	1.7	58	横長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
											両面	内彎	2.0	96				
-	10051	ⅡG14	Ⅲb	チャート	(2.0)	(1.5)	(0.6)	(1.9)	1	側辺	両面	直線的	1.4	53	不明	-	-	
-	10057	ⅡE16	Ⅳ	チャート	3	3.6	0.9	11.5	1	末端辺	腹面	内彎	1.7	68	横長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	10063	ⅡG13	Ⅳ	チャート	(0.6)	(2.1)	(0.8)	(0.7)	1	側辺	背面	外彎	0.6	72	不明	-	-	調整剥片？
-	10068	ⅡG13	Ⅳ	チャート	3.1	3.4	0.7	9.5	1	側辺	両面	直線的	2.0	50	横長	-	-	
-	10076	ⅡE18	Ⅳ	チャート	(3.4)	(3.7)	(1.4)	(16.1)	1	側辺	両面	外彎	3.1	59	不明	-	-	
-	10089	ⅡJ24	Ⅲb	チャート	1.8	2.6	0.6	3.3	3	末端～側辺	腹面	外彎	2.5	79	横長	-	-	石鏃未製品？
											両面	直線的	1.6	57				
											背面	外彎	1.6	52				
-	10121	ⅡF21	Ⅲb	チャート	(1.6)	(1.0)	(0.6)	(0.8)	2	側辺～基辺	背面	直線的	1.8	56	不明	-	-	
											両面	不明	0.4	46				
-	10136	ⅡF24	Ⅲb	チャート	(2.8)	(1.4)	(0.8)	(2.7)	1	末端辺	背面	外彎	1.5	63	不明	-	-	
-	10145	ⅡE19	Ⅲb	チャート	2.7	(2.7)	1.9	(6.1)	1	末端辺	腹面	外彎	2.4	65	横長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	10159	ⅡF22	Ⅲb	チャート	(1.5)	(1.8)	(0.5)	(1.6)	1	末端辺	腹面	外彎	2.1	68	不明	-	-	調整剥片？
-	10163	ⅡG22	Ⅲb	泥岩	9.3	2.9	1.1	34.8	2	末端～側辺	両面	外彎	8.6	58	横長	-	-	
											両面	直線的	3.7	43				
-	10174	ⅡG13	Ⅳ	チャート	3.6	(3.0)	0.8	(6.8)	2	側辺	背面	抉り状	0.8	68	不明	-	-	末端辺に微細な剥離痕
											両面	抉り状	1.2	59				
-	10187	ⅡG14	Ⅳ	チャート	1.7	1.5	0.4	0.9	1	基辺	背面	外彎	1.0	55	縦長	-	-	調整剥片？
-	10194	ⅡG13	Ⅳ	チャート	3.3	3.3	1.4	13.6	1	末端辺	背面	外彎	3.2	52	横長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	10198	ⅡF14	Ⅳ	チャート	(2.2)	(2.6)	(0.5)	(3.1)	1	側辺	両面	外彎	1.6	54	不明	-	-	欠損
-	10206	ⅡG13	Ⅳ	チャート	2.4	2.0	0.9	3.4	1	基辺	腹面	外彎	2.3	51	縦長	-	-	
-	10229-1	ⅡJ20	Ⅲb	チャート	(1.2)	(1.3)	(0.5)	(0.6)	1	末端辺	両面	外彎	1.2	54	不明	-	-	
-	10284	ⅡK21	Ⅲb	チャート	(1.0)	(2.0)	(0.5)	(1.0)	1	側辺	両面	外彎	2.0	48	不明	-	-	
-	10397	ⅡK19	Ⅲb	チャート	(1.9)	(0.7)	(0.2)	(0.4)	1	側辺	両面	直線的	1.8	38	不明	-	-	石鏃？
-	10405	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	3.2	3.6	1.3	16.2	1	側辺	腹面	外彎	1.2	69	縦長	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
-	10415	ⅡJ22	Ⅲb	チャート	(0.8)	(1.2)	(0.2)	(0.2)	1	側辺	両面	外彎	1.2	49	不明	-	-	末端辺に微細な剥離痕
-	10420	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(0.6)	(2.0)	(0.4)	(0.5)	1	末端辺	両面	外彎	2.0	50	不明	-	-	
-	10426	ⅡK21	Ⅳ	チャート	(1.8)	(3.1)	(0.6)	(4.0)	1	末端辺	両面	直線的	1.4	55	不明	-	-	
-	10429	ⅡK21	Ⅳ	チャート	(1.3)	(1.9)	(0.4)	(0.5)	1	末端辺	両面	外彎	1.2	39	不明	-	-	
-	10436	ⅡK20	Ⅳ	チャート	1.7	(1.7)	0.3	(0.9)	1	側辺	背面	直線的	1	53	横長	-	-	
-	10437	ⅡK19	Ⅳ	チャート	(1.6)	(2.3)	(0.4)	(1.5)	1	末端辺	腹面	直線的	2	46	不明	-	-	
-	10441	ⅡL19	Ⅳ	チャート	(3.0)	(3.2)	(1.0)	(8.0)	2	側辺	両面	内彎	3.7	26	縦長	-	-	
											両面	内彎	2.0	41				
-	10449	ⅡI21	Ⅲb	チャート	1.6	1.3	0.3	0.8	2	末端～側辺	両面	直線的	1.2	39	横長	-	-	石鏃未製品？
											両面	外彎	1.2	31				
-	10483	ⅡK19	Ⅳ	チャート	(4.0)	2.9	1	(11.0)	1	側辺	背面	外彎	4.0	47	縦長	-	-	
-	10521	ⅡJ21	Ⅳ	チャート	(2.0)	(3.3)	(0.8)	(5.8)	1	側辺	背面	外彎	1	54	不明	-	-	製品の破片？
-	10525	ⅡK22	Ⅳ	チャート	2.2	1.9	0.9	3.3	1	側辺	両面	直線的	0.9	78	横長	-	-	楔形石器？
-	10548	ⅡK22	Ⅳ	チャート	(3.0)	(3.9)	(0.7)	(8.2)	1	末端辺	背面	外彎	1.7	57	不明	-	-	側片に微細な剥離痕
-	10583	ⅡK22	Ⅲb	チャート	(1.7)	(3.6)	(0.8)	(5.0)	2	側辺	背面	外彎	1.6	54	不明	-	-	
											両面	外彎	1.9	62				
-	10589	ⅡJ22	Ⅲb	チャート	(0.9)	(1.9)	(0.9)	(1.2)	1	側辺	両面	不明	0.9	59	不明	-	-	
-	10596	ⅡK22	Ⅲb	チャート	2.2	(4.2)	0.5	(5.3)	2	側辺	両面	内彎	2.1	44	横長	-	-	末端辺に微細な剥離痕
											背面	直線的	1.3	64				
-	10601	ⅡK23	Ⅲb	チャート	3.9	3.3	0.9	11.6	2	側辺	腹面	外彎	3.7	57	横長	-	-	楔形石器？、ほかの辺に微細な剥離痕
											両面	外彎	2.5	54				
-	10616	ⅡJ23	Ⅳ	チャート	2.8	(2.4)	0.7	(3.9)	2	末端～側辺	背面	外彎	1.3	41	不明	-	-	ほかの辺に微細な剥離痕
											腹面	直線的	1.2	55				
-	10631	ⅡJ23	Ⅲb	チャート	(1.4)	(1.7)	(0.6)	(1.8)	1	側辺	背面	抉り状	0.9	39	不明	-	-	楔形石器？、ほかの辺に微細な剥離痕

表66　RF一覧⑤

No.	遺物No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	刃部(cm・°) 数	位置	調整	形態	長さ	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	10632	ⅡJ23	Ⅲb	チャート	1.5	1.5	0.7	1.3	1	基辺	背面	直線的	1.2	54	縦長	-	-	楔形石器？
-	10639	ⅡG22	Ⅲb	チャート	(2.6)	(2.5)	(0.5)	(2.5)	1	側辺	両面	直線的	1.3	63	不明	-	-	楔形石器？、ほかの辺に微細な剥離痕
-	10655	ⅡH23	Ⅲb	チャート	3.3	4.7	1.8	25.9	1	側辺	腹面	外彎	4.1	63	縦長	-	-	
-	10664	ⅡJ23	Ⅲb	泥岩	4	3.4	1.6	13.8	1	側辺	背面	直線的	2.2	60	横長	-	-	打製石斧片？、ほかの辺に微細な剥離痕
-	10719	ⅡF24	Ⅲb	チャート	(2.3)	(2.8)	(0.7)	(5.5)	1	側辺	背面	外彎	2.6	55	不明	-	-	スクレイパー片？
-	10722-1	ⅡG24	Ⅲb	チャート	(0.6)	(1.2)	(0.2)	(0.2)	1	側辺	背面	不明	0.2	36	不明	-	-	製品の破片？、末端辺に微細な剥離痕
-	10745	ⅡG25	Ⅲb	チャート	2.5	1.9	0.8	4.2	2	末端～側辺	両面	直線的	1.3	77	縦長	-	-	楔形石器？、側片に微細な剥離痕
											両面	外彎	2.0	60				
-	10818	ⅡJ25	Ⅳ	チャート	(1.1)	(2.4)	(0.4)	(1.0)	2	側辺	腹面	内彎	1.2	80	不明	-	-	スクレイパー片？
											背面	抉り状	0.4	63				
-	10825	ⅢJ1	Ⅳ	チャート	(2.9)	3.3	1.1	(10.8)	1	側辺	背面	外彎	2.8	40	縦長	-	-	
-	10828	ⅢJ1	Ⅳ	チャート	2.3	3.1	0.8	7.1	1	末端辺	両面	外彎	3.0	75	横長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	10840	ⅢI2	Ⅳ	チャート	(2.7)	(1.2)	(0.5)	(1.4)	1	側辺	背面	直線的	1.7	65	不明	-	-	スクレイパー片？
-	10848	ⅢJ2	Ⅲb	チャート	2.8	5.7	1.6	21.7	1	末端辺	腹面	抉り状	3.2	72	縦長	-	-	側片に微細な剥離痕
-	X16-1	No.20		チャート	3.2	(2.0)	0.9	(7.2)	1	側辺	背面	外彎	1.7	56	縦長	-	-	B区
-	X60-2	Ⅱ	Ⅱ	チャート	2.3	3.2	0.9	5.9	1	基辺	背面	直線的	2.4	93	横長	-	-	B区、末端～側辺に微細な剥離痕
-	X01-2		不明	チャート	2.0	3.8	0.8	8.5	1	側辺	背面	外彎	0.9	79	横長	-	-	調査区外、ほかの辺に微細な剥離痕
-	X01-3		不明	チャート	1.9	3.5	0.9	6.2	1	末端辺	両面	内彎	2.6	52	横長	-	-	調査区外
-	X01-9		不明	チャート	1.7	1.4	0.6	1.2	3	側辺～基辺	両面	抉り状	0.7	61	不明	-	-	調査区外、製品の破片？
											両面	抉り状	1.0	68				
											両面	抉り状	1.1	47				
-	X06	Fトレ	Ⅱ	チャート	3.9	4.3	0.9	11.1	1	側辺	腹面	直線的	2.2	45	横長	-	-	調査区外、ほかの辺に微細な剥離痕
-	X09-4	No.2		チャート	1.8	2.3	0.7	2.5	2	末端～側辺	両面	外彎	1.7	51	不明	-	-	調査区外、楔形石器？
											腹面	抉り状	1.3	49				
-	X57-1	TP26	Ⅲ	チャート	(3.9)	1.4	(0.6)	(6.1)	2	側辺	背面	外彎	1.5	53	横長	-	-	調査区外
											背面	外彎	2.3	58				
-	X57-2	TP26	Ⅲ	チャート	2.3	3.2	0.7	5.9	1	側辺	腹面	外彎	2.3	55	不明	-	-	調査区外

表67　MF一覧①

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
52	944	SB2	1	チャート	5.6	3.05	1.3	14.6	1	側辺	腹面	直線的	54	縦長	36	13	整理No.1031と接合
53	958	SB2	1	流紋岩	4.1	5.5	1.3	21.5	2	末端辺	両面	外彎	38	横長	36	13	
										側辺	両面	直線的	36				
54	960	SB2	1	チャート	3.9	5.15	1.1	19.3	3	末端辺	背面	外彎	68	横長	36	13	
										側辺	背面	外彎	57				
										側辺	両面	外彎	47				
55	1007	SB2	2	チャート	2.2	2.9	0.5	2.9	3	末端辺	両面	外彎	30	横長	36	13	
										側辺	背面	外彎	58				
										側辺	両面	外彎	37				
71	489	SB3	1	チャート	3.5	1.9	0.8	5.7	2	末端辺	背面	直線的	40	縦長	41	15	
										側辺	両面	外彎	48				
72	588	SB3	1	チャート	3.3	2.1	0.6	3.4	2	側辺	両面	外彎	28	縦長	41	15	
										側辺	両面	外彎	27				
121	1161	SB5	1	チャート	3.3	3.6	1.1	11.8	2	側辺	両面	直線的	71	縦長	50	21	
										側辺	両面	直線的	56				
152	989	SK148	1	チャート	4.0	3.9	0.9	12.1	3	側辺	背面	外彎	22	横長	65	33	
172	211	SK124	2	チャート	2.9	4.6	1.1	12.1	1	末端辺	両面	外彎	28	横長	75	33	
173	214	SK124	1	チャート	2.0	3.05	0.9	3.8	3	側辺	背面	外彎	36	横長	75	33	
										側辺	腹面	内彎	23				
										側辺	背面	外彎	19				
185	1402	SK260	1	チャート	2.5	1.9	0.5	3.2	3	末端辺	背面	直線的	66	縦長	77	33	
										側辺	背面	外彎	45				
										側辺	背面	外彎	44				
210	10856	SD508	1	チャート	3.7	2.65	0.8	5.3	3	側辺	両面	直線的	44	縦長	108	35	
										基辺	背面	外彎	56				
										側辺	両面	内彎	50				
211	10345	SD508	2	チャート	4.4	6.5	1.6	41.4	4	末端辺	両面	直線的	46	横長	108	35	
										側辺	背面	内彎	58				
										側辺	両面	内彎	51				
										側辺	両面	内彎	54				

表68　MF一覧②

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
245	10974	SD509	2	チャート	(3.6)	(2.9)	(1.4)	(8.8)	1	側辺	背面	直線的	50	不明	112	37	
246	10958	SD509	2	チャート	(2.7)	3.9	1.0	7.9	1	側辺	腹面	外彎	47	横長	112	37	
247	10977-1	SD509	2	チャート	(6.0)	(2.95)	1.2	(18.8)	3	末端辺	腹面	直線的	37	縦長	112	37	
										側辺	両面	内彎	57				
										側辺	両面	外彎	54				
248	10979-2	SD509	2	チャート	8.0	4.1	1.5	39	3	側辺	両面	直線的	60	縦長	112	37	整理No.10980-1と接合
										側辺	両面	外彎	62				
394	287	ⅠS13	Ⅲb	チャート	2.6	3.8	0.6	5.2	3	末端辺	両面	直線的	44	横長	147	40	
										側辺	両面	直線的	35				
										側辺	両面	直線的	21				
395	10191	ⅠF12	Ⅳ	チャート	2.9	3.5	0.8	6.0	1	側辺	両面	内彎	50	横長	147	40	
396	10377	ⅡK19	Ⅲb	チャート	3.0	5.2	0.8	9.6	1	末端辺	腹面	内彎	49	横長	147	40	
397	10506	ⅡJ21	Ⅳ	チャート	4.5	5.9	1.1	29.7	2	末端辺	両面	内彎	48	横長	147	40	
										側辺	背面	内彎	43				
398	10572	ⅡJ23	Ⅲb	チャート	(2.9)	(2.2)	(0.8)	(5.1)	1	末端辺	両面	外彎	47	縦長	147	40	
399	10205	ⅡG13	Ⅳ	チャート	(4.7)	3.7	1.2	(23.8)	2	側辺	両面	外彎	58	縦長	147	40	
										側辺	両面	外彎	33				
400	10478	ⅡK19	Ⅳ	チャート	4.9	2.5	0.7	10.1	3	末端辺	背面	直線的	33	縦長	147	40	
										側辺	両面	内彎	43				
										側辺	背面	直線的	47				
401	10576	ⅡH21	Ⅳ	チャート	7.7	4.8	1.5	47.3	1	側辺	両面	外彎	42	縦長	147	40	
-	510	SB1	1	泥岩	3.7	4.4	1.1	14.4	2	末端辺	両面	直線的	53	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	67				
-	517	SB1	1	チャート	1.8	2.5	0.5	1.8	3	末端辺	腹面	外彎	36	横長	-	-	
										基辺	両面	直線的	39				
										側辺	背面	外彎	27				
-	950	SB2	1	チャート	3.2	1.7	0.7	2.0	3	末端辺	腹面	直線的	54	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	30				
										側辺	背面	外彎	36				
-	979	SB2	2	チャート	(1.8)	(2.5)	(0.6)	(3.1)	1	側辺	背面	外彎	31	不明	-	-	
-	997	SB2	2	チャート	4.9	3.2	1.0	17	2	側辺	両面	内彎	37	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	48				
-	998	SB2	2	チャート	6.6	3.4	1.1	22.5	3	側辺	両面	外彎	53	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	41				
										側辺	両面	外彎	36				
-	1002	SB2	2	チャート	(1.3)	(1.1)	(0.2)	(0.3)	2	末端辺	両面	外彎	12	不明	-	-	
										側辺	両面	直線的	31				
-	1006	SB2	2	チャート	2.3	(3.6)	0.9	(6.6)	3	末端辺	腹面	直線的	60	横長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	42				
										側辺	両面	外彎	40				
-	1011	SB2	2	チャート	2.9	3.3	1.1	9.3	3	末端辺	両面	直線的	58	横長	-	-	
										基辺	両面	外彎	64				
										側辺	両面	内彎	46				
-	1018	SB2	2	チャート	(2.3)	(2.5)	(1.2)	(6.2)	2	側辺	両面	直線的	60	不明	-	-	
										側辺	両面	内彎	62				
-	1019	SB2	2	チャート	2.8	3.5	0.6	5.4	4	末端辺	腹面	内彎	22	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	31				
										基辺	背面	外彎	57				
										側辺	両面	内彎	53				
-	1109	SB2	2	チャート	2.7	(3.4)	0.8	(6.3)	2	末端辺	腹面	外彎	57	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	62				
-	1233	SB2	2	チャート	1.6	2.3	0.6	1.7	2	末端辺	背面	外彎	27	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	41				
-	1321	SB2	2	チャート	2.6	1.8	0.6	3.1	2	側辺	腹面	外彎	67	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	56				
-	889	SB3	2	チャート	2.1	2.1	0.5	2.2	3	末端辺	腹面	外彎	41	縦長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	61				
										側辺	腹面	直線的	89				
-	1140	SB4	2	チャート	(1.6)	(1.5)	(0.3)	(1.0)	2	末端辺	両面	外彎	26	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	33				
-	1154	SB4	2	チャート	(3.3)	(1.4)	(0.5)	(1.9)	2	末端辺	腹面	直線的	46	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	37				
-	1167	SB4	1	チャート	2.6	4.4	0.7	5.2	2	側辺	両面	外彎	26	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	42				
-	1168	SB4	1	チャート	(1.9)	(2.3)	(0.6)	(3.4)	1	側辺	両面	内彎	38	不明	-	-	
-	1190	SB4	1	チャート	(2.6)	(1.3)	(0.3)	(1.0)	2	末端辺	背面	不明	35	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	39				
-	1239	SB4	2	チャート	3.0	2.8	0.6	4.5	3	末端辺	背面	直線的	67	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	56				
										側辺	背面	外彎	54				
-	1296	SB4	1	チャート	3.8	2.6	0.9	7.5	2	側辺	両面	外彎	52	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	55				

表69　MF一覧③

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版
-	1298	SB4	2	チャート	3.0	2.4	0.8	5.3	2	側辺	背面	直線的	49	縦長	-	-
										側辺	背面	直線的	75			
-	1305	SB4	2	チャート	4.8	3.6	1.8	30.7	3	末端辺	両面	外彎	47	縦長	-	-
										側辺	背面	外彎	60			
										側辺	腹面	直線的	87			
-	1117	SB5	1	チャート	(1.6)	(2.3)	(0.6)	(2.1)	1	側辺	両面	外彎	29	不明	-	-
-	142	SK25	8	チャート	(2.3)	(3.8)	(0.7)	(5.8)	2	末端辺	両面	外彎	30	不明	-	-
										側辺	腹面	不明	44			
-	215	SK124	1	チャート	3.1	2.4	0.7	5.9	2	末端辺	背面	直線的	62	縦長	-	-
										側辺	両面	外彎	55			
-	1401	SK256	1	チャート	4.3	4.7	1.3	22.2	3	末端辺	背面	直線的	48	横長	-	-
										側辺	両面	内彎	73			
										側辺	腹面	直線的	40			
-	10830-1	SK599	1	チャート	4.5	5.2	1.4	19.7	2	末端辺	背面	直線的	65	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	79			
-	10830-2	SK599	1	チャート	1.2	1.3	0.3	0.4	1	側辺	背面	直線的	34	横長	-	-
-	10831	SK599	1	チャート	2.4	(1.3)	0.5	(1.2)	1	側辺	両面	直線的	36	不明	-	-
-	10937	SK652	1	チャート	(2.3)	3.7	1.5	(14.5)	1	末端辺	背面	直線的	57	横長	-	-
-	10081	SD505	1	泥岩	(2.8)	3.7	(0.6)	(5.5)	2	末端辺	腹面	外彎	32	横長	-	-
										側辺	両面	外彎	50			
-	10082	SD505	1	チャート	2.2	2.9	0.7	4.9	1	側辺	背面	直線的	42	横長	-	-
-	10086	SD505	1	チャート	(1.5)	(1.6)	(0.7)	(2.1)	1	側辺	背面	直線的	56	不明	-	-
-	10087	SD505	1	チャート	1.9	(2.6)	0.7	(2.1)	2	末端辺	背面	外彎	47	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	36			
-	10336	SD508	2	チャート	2.7	3.7	1.2	11.3	2	末端辺	背面	直線的	36	横長	-	-
										側辺	背面	外彎	21			
-	10677	SD508	1	チャート	(2.8)	3.8	1.4	(11.7)	2	末端辺	腹面	直線的	73	縦長	-	-
										側辺	背面	内彎	72			
										基辺	両面	直線的	73			
-	10689	SD508	1	チャート	1.9	1.5	0.4	0.8	1	側辺	背面	内彎	31	縦長	-	-
-	10691	SD508	1	チャート	4.0	3.5	1.2	19.7	2	末端辺	腹面	直線的	69	縦長	-	-
										側辺	背面	直線的	66			
-	10697	SD508	2	チャート	(2.0)	1.9	0.6	(2.2)	2	側辺	背面	直線的	56	横長	-	-
										側辺	両面	直線的	53			
-	10701	SD508	1	チャート	2.7	3.6	1.4	8.3	3	末端辺	腹面	直線的	56	横長	-	-
										側辺	腹面	直線的	48			
										側辺	腹面	直線的	64			
-	10718	SD508	1	チャート	2.6	2.9	0.8	6.3	3	末端辺	両面	外彎	43	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	67			
										側辺	腹面	直線的	42			
-	10724-2	SD508	1	チャート	2.1	1.5	0.4	1.4	1	側辺	背面	外彎	51	縦長	-	-
-	10726	SD508	1	チャート	2.3	1.3	0.6	1.5	1	側辺	腹面	外彎	53	縦長	-	-
-	10732	SD508	1	チャート	2.0	2.0	0.7	3.0	2	側辺	背面	直線的	20	縦長	-	-
										側辺	腹面	内彎	53			
-	10737	SD508	1	チャート	2.4	1.6	0.4	1.7	2	末端辺	腹面	外彎	71	縦長	-	-
										側辺	背面	内彎	32			
-	10838	SD508	1	チャート	2.8	2.6	0.8	5.9	2	側辺	背面	直線的	75	縦長	-	-
										側辺	背面	直線的	59			
-	10839	SD508	1	チャート	3.5	7.0	2.2	56.3	2	側辺	背面	外彎	54	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	63			
-	10855	SD508	1	チャート	2.4	3.2	0.8	4.5	2	末端辺	背面	外彎	40	横長	-	-
										側辺	両面	直線的	68			
-	10859	SD508	1	チャート	2.4	2.1	0.3	1.6	2	側辺	腹面	外彎	38	縦長	-	-
										側辺	両面	外彎	35			
-	10887	SD508	2	チャート	4.6	3.2	1.9	22.5	1	側辺	背面	外彎	53	縦長	-	-
-	10889	SD508	2	チャート	2.7	3.3	1.0	5.3	3	側辺	背面	内彎	42	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	52			
										側辺	背面	直線的	63			
-	10896	SD509	1	チャート	2.1	3.7	1.0	7.4	2	側辺	背面	内彎	63	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	40			
-	10897	SD509	1	チャート	1.9	3.0	0.6	3.1	1	側辺	両面	直線的	33	横長	-	-
-	10900	SD509	1	チャート	3.0	2.1	0.6	4.3	1	側辺	背面	直線的	63	縦長	-	-
-	10901	SD509	1	チャート	4.3	4.2	1.5	29.8	2	側辺	腹面	直線的	59	縦長	-	-
										基辺	両面	直線的	69			
-	10904	SD509	1	チャート	4.2	1.6	0.5	4.0	3	末端辺	両面	内彎	67	縦長	-	-
										側辺	腹面	内彎	38			
										側辺	両面	直線的	63			
-	10920	SD509	1	チャート	3.4	2.1	0.8	6.6	2	末端辺	背面	直線的	75	縦長	-	-
										側辺	腹面	直線的	38			

表70　MF一覧④

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	10922	SD509	2	チャート	5.1	3.4	0.8	11.2	2	側辺	腹面	内彎	64	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	41				
-	10924	SD509	2	チャート	3.2	1.6	0.7	3.7	1	側辺	腹面	直線的	50	縦長	-	-	
-	10936	SD509	2	チャート	2.9	2.4	0.5	2.9	2	側辺	腹面	内彎	49	縦長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	49				
-	10939	SD509	1	チャート	2.6	1.8	0.6	2.2	3	側辺	背面	内彎	44	縦長	-	-	
										側辺	背面	外彎	60				
										側辺	腹面	直線的	44				
-	10949	SD509	1	チャート	(2)	2.5	0.5	(2.3)	1	側辺	背面	直線的	70	横長	-	-	
-	10962-1	SD509	2	チャート	6.8	3.3	1.9	41.3	1	側辺	腹面	直線的	61	縦長	-	-	
-	10962-2	SD509	2	チャート	1.7	3.2	0.6	2.6	3	末端辺	背面	外彎	46	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	51				
										側辺	両面	内彎	56				
-	10964-1	SD509	2	チャート	0.8	2.7	0.5	1.0	1	側辺	背面	直線的	35	横長	-	-	
-	10965-1	SD509	2	チャート	4.2	3.1	0.9	13.4	1	側辺	両面	直線的	44	縦長	-	-	
-	10966	SD509	2	チャート	2.4	2.8	0.9	6.3	1	側辺	両面	直線的	55	横長	-	-	
-	10969	SD509	2	チャート	3.4	3.9	1.2	19.3	1	末端辺	腹面	内彎	58	横長	-	-	
-	10973	SD509	2	チャート	3.3	2.0	0.3	2.2	2	側辺	腹面	直線的	56	縦長	-	-	
										側辺	背面	外彎	57				
-	10980-2	SD509	2	チャート	2.2	2.1	3.0	1.5	1	側辺	両面	外彎	50	縦長	-	-	
-	11023	SD509	2	チャート	1.9	2.2	0.4	1.4	1	側辺	背面	直線的	73	横長	-	-	
-	X44-3	TP14 SD509	2	下呂石	2.9	3.0	0.7	5.6	2	側辺	両面	直線的	39	横長	-	-	B区
										側辺	背面	直線的	40				
-	773	SF2	1	チャート	(2.0)	3.7	0.6	(3.5)	2	末端辺	腹面	外彎	34	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	41				
-	272	NW4	2	チャート	1.6	2.6	0.7	1.9	3	側辺	両面	外彎	51	横長	-	-	
										基辺	両面	内彎	67				
										側辺	両面	外彎	44				
-	299	NW4	2	チャート	(1.3)	2.0	0.2	(0.5)	2	側辺	背面	直線的	20	不明	-	-	
										側辺	両面	内彎	19				
-	340	NW4	1	チャート	2.0	2.1	0.7	2.4	3	末端辺	両面	外彎	25	横長	-	-	階段状剥離あり
										側辺	両面	外彎	52				
										側辺	両面	直線的	70				
-	1279	NW5	1	チャート	(2.7)	(2.2)	(0.7)	(5.2)	2	側辺	背面	不明	40	不明	-	-	
										側辺	背面	直線的	75				
-	1103	NW6	1	チャート	1.5	(2.0)	0.4	(1.5)	3	末端辺	背面	直線的	34	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	55				
										基辺	腹面	外彎	35				
-	794	NW7	7	チャート	3.3	4.0	0.9	13.4	2	末端辺	背面	直線的	52	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	50				
-	801	NW7	1	チャート	(1.6)	(1.4)	(0.4)	(0.7)	2	側辺	両面	直線的	24	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	38				
-	781	NW8	1	チャート	(2.0)	(2.5)	(0.6)	(2.8)	2	側辺	両面	直線的	49	不明	-	-	
										側辺	両面	直線的	39				
-	1374	NW13	1	チャート	3.9	3.0	1.7	8.6	3	基辺	背面	直線的	81	縦長	-	-	
										側辺	背面	外彎	36				
-	X25-3	TP4	Ⅱ~Ⅲb	チャート	2.7	3.5	0.8	6.0	2	側辺	両面	直線的	45	横長	-	-	A区
										側辺	両面	内彎	49				
-	X25-4	TP4	Ⅱ~Ⅲb	チャート	2.8	2.1	0.8	5.2	1	側辺	両面	直線的	62	縦長	-	-	A区
-	X25-5	TP4	Ⅱ~Ⅲb	チャート	3.3	1.1	0.9	2.9	1	側辺	背面	直線的	70	縦長	-	-	A区
-	X62-3	A区	Ⅰ	チャート	3.4	2.2	0.6	4.1	1	側辺	両面	内彎	49	縦長	-	-	A区
-	8	ⅠT12	Ⅲb	泥岩	(3.2)	(3.3)	(0.8)	(6.6)	1	側辺	両面	外彎	37	不明	-	-	
-	15	ⅠT13	Ⅲb	チャート	5.9	5.3	1.1	28.3	3	側辺	背面	内彎	56	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	20				
										側辺	両面	外彎	28				
-	21	ⅠU9	Ⅲb	チャート	3.0	(1.9)	0.6	(3.9)	2	基辺	背面	直線的	58	不明	-	-	
										側辺	腹面	内彎	32				
-	27	ⅠR14	Ⅲb	チャート	4.3	3.6	1.5	14.6	2	末端辺	両面	外彎	49	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	39				
-	32	ⅠN10	Ⅲb	チャート	(1.3)	(2.2)	(0.5)	(1.3)	1	側辺	両面	外彎	27	不明	-	-	
-	37	ⅠT6	Ⅲb	チャート	(2.1)	(3.7)	(1.1)	(9.9)	2	側辺	両面	外彎	47	不明	-	-	
										側辺	背面	直線的	60				
-	44	ⅠM11	Ⅲb	チャート	(1.2)	(1.7)	(0.8)	(1.6)	2	末端辺	腹面	直線的	80	不明	-	-	
										側辺	両面	直線的	53				
-	58	ⅠM9	Ⅳ	チャート	3.0	1.8	1.1	3.9	1	側辺	両面	外彎	38	縦長	-	-	
-	60	ⅠO11	Ⅲb	チャート	2.6	1.1	0.3	1.1	2	側辺	背面	内彎	22	縦長	-	-	
										基辺	両面	外彎	58				
-	65	ⅠL8	Ⅳ	チャート	(2.6)	3.7	(0.4)	(4.3)	2	末端辺	両面	外彎	34	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	25				

表71　MF一覧⑤

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	69	I M10	Ⅳ	チャート	2.9	3.6	0.7	6.2	1	末端辺	腹面	外彎	20	横長	-	-	
-	72	I K8	Ⅳ	チャート	2.0	3.1	1.2	11.6	2	末端辺	背面	直線的	30	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	34				
-	75	I Q15	Ⅲb	チャート	1.7	2.1	0.4	1.3	1	側辺	両面	外彎	33	横長	-	-	
-	97	I W15	Ⅲb	チャート	(2.3)	2.5	(0.6)	(2.9)	2	側辺	腹面	外彎	21	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	38				
-	105	I N10	Ⅲb	チャート	2.5	1.8	0.4	1.2	2	末端辺	両面	外彎	15	縦長	-	-	
										側辺	背面	直線的	21				
-	111	I N11	Ⅲb	チャート	(2.9)	2.5	0.7	(3.2)	2	末端辺	腹面	内彎	41	不明	-	-	
										側辺	腹面	内彎	48				
-	144	I N10	Ⅳ	チャート	(3.2)	(2.6)	(0.8)	(6.8)	2	側辺	両面	外彎	31	不明	-	-	
										側辺	背面	外彎	66				
-	156	I N9	Ⅳ	チャート	2.4	3.1	0.5	2.5	2	側辺	両面	外彎	19	横長	-	-	
										側辺	背面	外彎	28				
-	160	I M11	Ⅳ	チャート	(1.9)	(1.5)	(1.6)	(3.7)	2	末端辺	両面	外彎	73	不明	-	-	
										側辺	両面	直線的	57				
-	162	I N12	Ⅳ	チャート	(3.3)	2.4	1.9	(7.5)	2	側辺	背面	直線的	60	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	30				
-	200	I P10	Ⅳ	下呂石	3.3	2.2	0.4	2.5	3	末端辺	背面	外彎	35	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	33				
										側辺	腹面	内彎	26				
-	205	I Q10	Ⅳ	チャート	3.0	1.5	0.9	3.4	3	末端辺	背面	外彎	55	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	42				
										側辺	両面	直線的	69				
-	222	I Q16	Ⅲb	チャート	3.1	(3.5)	0.8	(7.6)	3	末端辺	腹面	内彎	54	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	63				
										側辺	腹面	外彎	44				
-	232	I Q15	Ⅲb	チャート	1.9	2.1	0.6	2.8	2	末端辺	両面	外彎	50	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	41				
-	233	I Q12	Ⅲb	チャート	1.6	1.2	0.2	0.4	2	側辺	両面	外彎	21	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	35				
-	239	I S14	Ⅲb	チャート	(2.8)	(3.1)	(0.6)	(5.2)	2	側辺	両面	直線的	34	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	61				
-	251	I S13	Ⅲb	チャート	1.6	2.1	0.5	1.9	1	側辺	背面	外彎	39	横長	-	-	
-	252	I T12	Ⅲb	チャート	2.1	2.7	0.5	3.7	2	末端辺	腹面	外彎	67	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	65				
-	254	I U11	Ⅲb	チャート	2.3	1.9	0.3	0.8	3	末端辺	背面	直線的	30	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	20				
										側辺	腹面	外彎	24				
-	262	I R14	Ⅲb	チャート	3.6	3.4	1.7	20.6	1	側辺	両面	外彎	54	縦長	-	-	
-	266	I R14	Ⅲb	チャート	(1.8)	(1.6)	(0.6)	(1.8)	1	側辺	両面	外彎	55	不明	-	-	
-	278	I R15	Ⅲb	チャート	2.8	1.8	1.1	3.5	2	側辺	両面	外彎	51	縦長	-	-	石錐？
										基辺	両面	外彎	63				
-	279	I R16	Ⅲb	チャート	3.3	2.6	0.7	5.8	4	末端辺	背面	直線的	58	縦長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	48				
										側辺	腹面	直線的	74				
										側辺	両面	内彎	40				
-	302	I S13	Ⅲb	泥岩	2.6	3.2	0.5	4.1	2	末端辺	背面	外彎	22	横長	-	-	
										側辺	両面	内彎	23				
-	317	I R15	Ⅲb	チャート	(2.3)	(2.2)	(0.7)	(3.1)	1	側辺	背面	直線的	45	不明	-	-	
-	339	I Q15	Ⅲb	チャート	4.6	3.2	1.4	18.5	3	末端辺	両面	外彎	25	縦長	-	-	
										側辺	背面	外彎	48				
										側辺	腹面	直線的	65				
-	345	I R16	Ⅲb	チャート	2.4	2.6	0.7	4.3	3	末端辺	背面	直線的	55	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	31				
										側辺	両面	外彎	42				
-	346	I S15	Ⅲb	チャート	4.0	3.8	0.8	8.6	2	末端辺	両面	外彎	48	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	32				
-	355	I R14	Ⅲb	チャート	3.0	1.6	0.7	2.6	2	側辺	両面	直線的	35	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	33				
-	358	I T14	Ⅲb	チャート	7.3	4.3	2.2	56.3	2	末端辺	腹面	外彎	80	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	53				
-	418	I R14	Ⅳ	チャート	(2.8)	1.6	0.7	(3.3)	1	側辺	両面	外彎	36	縦長	-	-	
-	427	I S13	Ⅳ	チャート	1.6	2.4	0.5	1.9	2	末端辺	背面	外彎	35	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	26				
-	441	I U12	Ⅲb	チャート	(1.8)	(1.9)	(0.9)	(2.0)	2	側辺	両面	直線的	31	横長	-	-	
										側辺	両面	直線的	60				
-	444	I R10	Ⅳ	チャート	(2.0)	(3.1)	(0.9)	(4.6)	2	側辺	背面	直線的	58	横長	-	-	階段状剥離あり
										側辺	両面	直線的	66				

表72　MF一覧⑥

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	453	I S12	Ⅲb	チャート	1.6	2.8	0.4	1.5	3	末端辺	両面	外彎	21	横長	-	-	
										側辺	両面	直線的	26				
										側辺	両面	外彎	19				
-	455	I U12	Ⅲb	チャート	3.2	2.1	0.9	6.5	3	末端辺	背面	直線的	79	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	73				
										側辺	背面	外彎	84				
-	458	I U11	Ⅲb	チャート	2.2	1.8	0.6	2.3	1	末端辺	両面	直線的	39	縦長	-	-	
-	464	I T12	Ⅲb	チャート	2.0	2.5	0.6	4	2	基辺	両面	外彎	63	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	52				
-	468	I R12	Ⅳ	チャート	2.1	1.8	0.5	2.1	2	末端辺	背面	内彎	83	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	38				
-	470	I U11	Ⅲb	チャート	2.0	1.7	0.6	2.4	3	末端辺	背面	外彎	66	縦長	-	-	石錐？
										基辺	背面	直線的	65				
										側辺	両面	内彎	25				
-	488	I S12	Ⅲb	チャート	1.8	1.9	0.5	1.6	1	側辺	背面	外彎	38	横長	-	-	
-	505	I S10	Ⅲb	チャート	1.8	1.9	0.5	1.7	4	末端辺	背面	直線的	40	横長	-	-	
										側辺	両面	直線的	37				
										基辺	両面	直線的	70				
										側辺	両面	外彎	33				
-	522	I S10	Ⅲb	チャート	4.3	2.6	1.7	19.5	1	側辺	両面	外彎	70	縦長	-	-	
-	534	I S10	Ⅳ	チャート	(2.5)	(1.4)	(0.3)	(1.3)	2	側辺	背面	外彎	29	不明	-	-	
										基辺	背面	直線的	44				
-	535	I S10	Ⅲb	チャート	2.2	3.1	0.4	2.8	1	側辺	腹面	外彎	40	横長	-	-	
-	541	I T10	Ⅲb	チャート	3.9	3.0	1.0	9.3	1	側辺	両面	外彎	40	縦長	-	-	
-	542	I S10	Ⅳ	チャート	(2.5)	3.1	0.7	(5.0)	2	側辺	腹面	外彎	41	不明	-	-	
										側辺	腹面	直線的	57				
-	552	I S10	Ⅳ	チャート	(2.8)	(2.2)	(0.6)	(4.0)	1	側辺	両面	外彎	62	不明	-	-	
-	571	I S12	Ⅲb	チャート	3.4	3.1	1.0	10.6	3	末端辺	両面	外彎	46	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	43				
										側辺	腹面	外彎	56				
-	578	I S11	Ⅲb	チャート	2.3	1.4	0.7	2.0	2	側辺	両面	外彎	36	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	34				
-	579	I S11	■b	チャート	2.4	2.2	0.5	2.7	1	側辺	腹面	内彎	28	縦長	-	-	
-	583	I T11	■b	チャート	3.3	2.6	0.8	6.8	2	側辺	両面	外彎	55	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	47				
-	601	I T12	Ⅲb	チャート	1.9	2.6	0.5	2.4	2	末端辺	両面	外彎	26	横長	-	-	
										側辺	両面	直線的	35				
-	602	I T11	Ⅲb	チャート	3.1	1.9	0.6	3.2	1	側辺	両面	直線的	49	縦長	-	-	
-	620	I S14	Ⅳ	チャート	(2.7)	3.3	1.0	(7.5)	1	側辺	腹面	外彎	62	横長	-	-	
-	643	I S11	Ⅲb	チャート	2.6	2.1	0.7	3.6	3	末端辺	背面	直線的	46	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	21				
										側辺	両面	内彎	40				
-	645	I S1●	Ⅳ	チャート	4.4	2.7	1.0	11.7	2	側辺	両面	外彎	57	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	62				
-	655	I U12	Ⅳ	チャート	(1.3)	(1.6)	(0.3)	(0.8)	2	側辺	背面	外彎	22	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	21				
-	664	I R13	Ⅳ	チャート	1.4	2.6	0.4	1.1	1	側辺	両面	内彎	32	横長	-	-	
-	671	I S12	Ⅳ	チャート	2.2	2.3	0.9	4	1	側辺	両面	外彎	54	横長			
-	672	I S14	Ⅳ	チャート	2.1	2.1	0.7	2.9	3	末端辺	腹面	直線的	26	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	20		-	-	
										側辺	両面	外彎	50				
-	673	I T12	Ⅳ	チャート	3.4	3.6	1.2	15.1	3	末端辺	両面	外彎	57	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	47				
										側辺	両面	外彎	47				
-	675	I T12	Ⅳ	チャート	3.●	1.8	0.6	4.3	3	末端辺	両面	外彎	49	縦長	-	-	
										基辺	腹面	外彎	71				
										側辺	両面	外彎	46				
-	697	I T11	Ⅳ	チャート	2.8	3.5	0.8	5.7	3	側辺	背面	直線的	33	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	46				
										側辺	両面	直線的	29				
-	698	I T11	Ⅳ	チャート	2.4	2.8	0.4	2.1	2	末端辺	両面	外彎	29	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	29				
-	744	I U11	Ⅳ	チャート	3.1	3.0	0.9	6.1	1	側辺	腹面	内彎	24	縦長	-	-	
-	748	I R9	Ⅲb	チャート	3.4	1.3	●.7	2.8	3	末端辺	背面	直線的	67	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	48				
										側辺	背面	直線的	40				
-	749	I R9	Ⅲb	チャート	3.4	2.4	0.8	5.4	2	側辺	背面	直線的	33	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	32				

表73　MF一覧⑦

No.	整理No.	地区遺構		石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状			
-	800	IV6	IIIb	チャート	4.4	1.9	1.0	7.4	3	末端辺	背面	外彎	41	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	48				
										側辺	両面	直線的	86				
-	805	IT8	IIIb	チャート	3.3	1.7	0.6	4.6	2	側辺	両面	外彎	23	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	44				
-	823	IR15	IV	チャート	2.0	2.7	0.5	3.0	1	末端辺	腹面	外彎	59	横長	-	-	
-	831	IU12	IV	チャート	3.2	2.6	1.0	5.4	2	末端辺	背面	直線的	55	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	47				
-	851	IT9	IV	チャート	(1.5)	(1.6)	(0.9)	(2.7)	2	側辺	背面	直線的	74	不明	-	-	
										側辺	両面	外彎	49				
-	852	IS8	IIIb	チャート	2.1	(2.4)	0.6	(2.7)	1	末端辺	両面	直線的	43	横長	-	-	
-	856	IT7	IIIb	チャート	(2.1)	3.1	0.5	(2.6)	3	末端辺	両面	外彎	21	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	36				
										側辺	背面	直線的	51				
-	862	IR12	IV	チャート	1.5	1.7	0.4	1.2	2	末端辺	背面	直線的	59	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	20				
-	870	IY11	IIIb	チャート	(2.2)	(1.4)	(0.5)	(1.6)	2	側辺	両面	外彎	65	不明	-	-	
										側辺	両面	内彎	28				
-	873	IX13	IIIb	チャート	1.8	2.4	0.9	3.1	2	末端辺	両面	外彎	45	横長	-	-	石錐？
										側辺	両面	内彎	54				
-	905	IT8	IV	チャート	(1.5)	(2.0)	(0.6)	(1.5)	2	末端辺	両面	外彎	47	不明	-	-	
										側辺	背面	外彎	56				
-	1061	IT13	IV	チャート	2.3	2.2	0.4	1.6	3	側辺	両面	内彎	22	縦長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	33				
										側辺	背面	外彎	35				
-	1138	IU3	IIIb	チャート	3.2	2.2	0.9	4.1	2	側辺	両面	内彎	29	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	75				
-	1291	IU5	IIIb	チャート	(2.6)	2.8	0.9	(5.6)	2	側辺	背面	内彎	85	縦長	-		I
										側辺	両面	外彎	25				
-	1293	IR6	IV	チャート	(2.6)	(2.6)	(0.6)	(3.8)	1	側辺	両面	外彎	31	不明	-	-	
-	1362	IU5	IIIb	チャート	(1.7)	(2.3)	(0.7)	(2.6)	2	側辺	腹面	不明	41	不明	-	-	
										基辺	両面	直線的	55				
-	1375	IV5	IIIb	チャート	2.0	(2.8)	0.4	(82.7)	3	末端辺	両面	直線的	54	不明	-	-	石錐？
										側辺	両面	外彎	23				
										側辺	両面	不明	41				
-	1413	IW13	IIIb	チャート	2.4	2.0	0.4	1.6	2	側辺	背面	外彎	26	縦長	-	-	
										側辺	背面	外彎	20				
-	1414	IW16	IIIb	チャート	1.7	2.6	0.6	3.2	3	側辺	腹面	外彎	74	横長	-	-	
										基辺	背面	直線的	78				
										側辺	背面	外彎	37				
-	1420	IX12	IIIb	チャート	(1.7)	(1.2)	(0.2)	(0.3)	2	側辺	両面	内彎	19	不明	-	-	
										側辺	両面	不明	24				
-	1444	IV14	IIIb	チャート	(4.6)	2.8	0.6	(7.0)	2	側辺	両面	外彎	31	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	25				
-	1465	IX15	IIIb	チャート	2.5	1.9	0.6	3.8	1	側辺	両面	外彎	27	縦長			
-	1467	IW14	IV	泥岩	3.3	2.2	0.7	4.9	3	末端辺	背面	外彎	57	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	33		-	-	
										側辺	両面	外彎	61				
	1471	IW15	IIIb	チャート	2.8	3.3	0.7	7.8	1	側辺	両面	内彎	23	横長			
-	1473	IV16	IV	チャート	3.7	4.0	1.3	19.3	2	側辺	両面	直線的	64	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	49				
-	1474	IW16	IV	チャート	(2.9)	2.3	0.6	(3.3)	3	末端辺	腹面	直線的	49	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	34				
										側辺	両面	外彎	39				
-	1477	IU16	IIIb	チャート	(2.7)	2.0	0.8	(4.1)	2	側辺	腹面	直線的	40	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	50				
-	10001	IIE20	IIIb	チャート	1.6	1.8	0.3	0.8	3	末端辺	腹面	外彎	33	横長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	31				
-	10009	IIJ20	IIIb	チャート	(2.2)	0.9	0.5	(0.9)	1	末端辺	腹面	直線的	67	横長	-	-	
-	10014	IIK19	IIIb	チャート	(2.2)	3.1	0.5	(4.2)	1	側辺	背面	外彎	47	横長	-	-	
-	10023	IIK21	IIIb	チャート	3.0	2.8	0.5	5.2	1	側辺	腹面	外彎	40	縦長	-	-	
-	10024	IIL22	IIIb	チャート	1.6	1.3	0.5	1.0	1	側辺	腹面	外彎	39	縦長	-	-	
-	10033	IIF12	IIIb	チャート	3.4	2.6	1.2	9.7	1	側辺	背面	直線的	83	縦長	-	-	
-	10034	IIH13	IIIb	チャート	3.0	2.9	0.9	6.5	1	末端辺	腹面	内彎	37	縦長	-	-	
-	10053	IIF13	IIIb	チャート	2.5	3.6	1.2	13.3	1	側辺	腹面	直線的	61	横長	-	-	
-	10064	IIH12	IV	チャート	2.4	2.3	0.5	2.3	1	側辺	背面	外彎	64	縦長	-	-	
-	10065	IIH13	IV	チャート	2.8	2.1	1.0	4.3	1	末端辺	腹面	外彎	44	縦長	-	-	
-	10067	IIH14	IV	チャート	3.6	2.4	1.0	11.9	1	基辺	背面	直線的	83	縦長	-	-	

表74　MF一覧⑧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版
-	10073	ⅠF14	Ⅳ	チャート	6.0	9.2	1.7	81.1	5	末端辺	腹面	外彎	85	横長	-	-
										側辺	腹面	外彎	36			
										側辺	両面	内彎	40			
										基辺	背面	内彎	65			
										側辺	背面	内彎	55			
-	10075	ⅡH14	Ⅳ	チャート	1.9	2.3	1.0	1.4	1	側辺	腹面	直線的	80	横長	-	-
-	10092	ⅡK20	Ⅲb	チャート	2.0	1.6	0.5	0.9	1	側辺	背面	外彎	25	縦長	-	-
-	10099	ⅡD19	Ⅲb	下呂石	2.6	3.8	0.7	6.9	1	側辺	腹面	外彎	36	横長	-	-
-	10102	ⅡE21	Ⅲb	チャート	(1.3)	1.4	0.4	(0.5)	1	側辺	背面	直線的	65	横長	-	-
-	10113	ⅡF21	Ⅲb	チャート	2.3	2.3	0.9	3.1	1	側辺	背面	直線的	73	縦長	-	-
										側辺	腹面	直線的	74			
-	10119	ⅡE20	Ⅲb	チャート	2.9	5.0	1.1	16.6	1	側辺	両面	外彎	53	横長	-	-
										側辺	両面	直線的	56			
-	10120	ⅡF21	Ⅲb	チャート	1.5	1.7	0.3	1.0	1	側辺	背面	直線的	61	横長	-	-
-	10130	ⅡF22	Ⅲb	チャート	3.2	1.6	0.6	3.5	1	側辺	背面	直線的	47	縦長	-	-
-	10139	ⅡF23	Ⅲb	チャート	1.2	2	0.3	0.7	3	末端辺	背面	直線的	37	横長	-	-
										側辺	腹面	内彎	37			
										基辺	腹面	直線的	48			
-	10140	ⅡF23	Ⅲb	チャート	2.1	2.0	0.5	1.7	3	末端辺	腹面	外彎	45	縦長	-	-
										側辺	腹面	直線的	36			
										側辺	背面	直線的	36			
-	10143	ⅡE19	Ⅲb	チャート	2.3	2.8	0.4	2.1	3	側辺	背面	内彎	40	横長	-	-
										側辺	背面	外彎	48			
										側辺	背面	直線的	59			
-	10144	ⅡE19	Ⅲb	チャート	3.2	2.5	1.0	5.9	1	末端辺	腹面	直線的	55	縦長	-	-
-	10149	ⅡG25	Ⅲb	チャート	3.6	2.0	0.8	4.3	1	側辺	腹面	直線的	45	縦長	-	-
										側辺	背面	外彎	39			
-	10155	ⅡH14	Ⅳ	チャート	4.5	4.8	1.6	33.1	1	側辺	背面	直線的	63	横長	-	-
-	10156	ⅡH14	Ⅳ	チャート	2.3	1.6	0.8	2.4	2	末端辺	腹面	内彎	73	縦長	-	-
										側辺	腹面	直線的	50			
-	10160	ⅡF22	Ⅲb	チャート	2.2	3.0	0.5	5.0	1	基辺	腹面	直線的	74	横長	-	-
-	10161	ⅡF25	Ⅲb	チャート	1.1	1.8	0.6	1.5	1	側辺	背面	内彎	66	横長	-	-
-	10162	ⅡG22	Ⅲb	チャート	(2.3)	1.5	1.0	(4.4)	1	側辺	背面	直線的	41	横長	-	-
-	10166	ⅡG22	Ⅲb	チャート	(1.6)	2.1	0.6	(2.4)	2	側辺	背面	直線的	40	横長	-	-
										側辺	背面	直線的	58			
-	10167	ⅡG24	Ⅲb	チャート	2.4	1.9	0.6	2.6	1	側辺	腹面	直線的	36	縦長	-	-
-	10168	ⅡE13	Ⅳ	チャート	3.4	2.0	0.8	6.6	1	側辺	背面	直線的	55	縦長	-	-
-	10170	ⅡF13	Ⅳ	チャート	3.9	4.0	1.2	16.3	1	側辺	背面	外彎	57	横長	-	-
-	10171	ⅡF12	Ⅳ	チャート	3.1	3.1	0.6	5.2	2	側辺	腹面	直線的	47	縦長	-	-
										側辺	両面	内彎	56			
-	10177	ⅡF13	Ⅳ	チャート	3.2	1.3	0.4	1.9	2	側辺	腹面	直線的	43	縦長	-	-
										側辺	背面	直線的	50			
-	10182	ⅡF14	Ⅳ	チャート	0.9	1.4	0.4	0.4	1	側辺	背面	外彎	52	横長	-	-
-	10189	ⅡG13	Ⅳ	チャート	2.8	1.9	0.9	4.6	1	側辺	背面	直線的	48	縦長	-	-
-	10192	ⅡF12	Ⅳ	チャート	3.1	1.8	0.7	3.0	1	側辺	腹面	直線的	68	縦長	-	-
-	10193	ⅡH13	Ⅳ	チャート	5.3	6.0	1.7	55.8	1	末端辺	両面	直線的	73	横長	-	-
-	10202	ⅡH13	Ⅳ	チャート	1.6	1.4	0.3	0.6	2	側辺	両面	内彎	32	縦長	-	-
										側辺	両面	直線的	50			
-	10208	ⅡG13	Ⅳ	チャート	2.2	1.1	0.2	0.6	1	末端辺	腹面	内彎	43	縦長	-	-
-	10209	ⅡG13	Ⅳ	チャート	2.7	2.1	0.5	2.6	3	基辺	背面	直線的	48	縦長	-	-
										側辺	腹面	直線的	20			
										側辺	腹面	直線的	62			
-	10215	ⅡE13	Ⅳ	チャート	2.6	2.3	0.4	2.0	1	末端辺	腹面	内彎	66	縦長	-	-
-	10216	ⅡE13	Ⅳ	流紋岩	3.9	3.5	1.0	11.6	2	側辺	背面	直線的	78	縦長	-	-
										側辺	腹面	内彎	76			
-	10219	ⅡF13	Ⅳ	チャート	2.9	2.3	0.4	4.1	1	側辺	腹面	直線的	40	縦長	-	-
-	10220	ⅡG13	Ⅳ	チャート	2.7	1.7	0.9	3.5	1	側辺	腹面	内彎	62	縦長	-	-
-	10225	ⅡJ20	Ⅲb	チャート	3.4	1.6	0.4	1.5	4	側辺	腹面	外彎	47	縦長	-	-
										側辺	腹面	外彎	46			
-	10227	ⅡJ20	Ⅲb	チャート	2.2	1.5	0.7	1.9	1	側辺	両面	内彎	71	縦長	-	-
-	10231	ⅡJ19	Ⅲb	チャート	(1.6)	(1.7)	0.3	(0.7)	1	側辺	腹面	外彎	50	横長	-	-
-	10232-1	ⅡJ20	Ⅲb	チャート	1.6	1.8	0.3	0.8	2	側辺	腹面	内彎	42	横長	-	-
										側辺	両面	直線的	39			
-	10233	ⅡJ20	Ⅲb	チャート	1.8	3.7	0.5	3.3	2	側辺	背面	内彎	55	横長	-	-
										側辺	両面	内彎	35			
-	10237-2	ⅡJ19	Ⅲb	チャート	1.6	1.4	0.3	0.7	2	末端辺	背面	外彎	51	縦長	-	-
										側辺	腹面	内彎	53			
-	10244	ⅡK20	Ⅲb	チャート	2.0	1.2	0.3	0.6	1	側辺	腹面	内彎	44	縦長	-	-

表75　MF一覧⑨

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	10246-2	ⅡK20	Ⅲb	チャート	0.7	1.6	0.4	0.4	1	側辺	背面	直線的	76	横長	-	-	
-	10247-1	ⅡK20	Ⅲb	チャート	3.2	1.6	1.0	4	2	末端辺	腹面	直線的	58	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	60				
-	10249	ⅡK20	Ⅲb	チャート	3.1	3.2	0.7	5.3	1	側辺	両面	内彎	71	横長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	67				
-	10250-1	ⅡK20	Ⅲb	チャート	2.4	1.8	0.4	1.7	1	側辺	腹面	外彎	40	縦長	-	-	
-	10250-2	ⅡK20	Ⅲb	チャート	(1.0)	2.5	0.3	(1.0)	2	側辺	背面	外彎	66	横長	-	-	
										側辺	背面	外彎	40				
-	10251	ⅡI19	Ⅲb	チャート	6.5	3.3	1.6	22.0	1	側辺	腹面	直線的	66	縦長	-	-	
-	10252-1	ⅡK18	Ⅲb	チャート	2.0	2.9	0.6	4.0	1	側辺	背面	外彎	53	横長	-	-	
-	10258	ⅡK19	Ⅲb	チャート	0.8	1.7	0.3	0.4	1	末端辺	腹面	直線的	62	横長	-	-	
-	10261	ⅡL19	Ⅲb	チャート	1.8	4.0	1.0	6.4	1	側辺	腹面	外彎	55	横長	-	-	
-	10262	ⅡK20	Ⅲb	チャート	1.8	1.5	0.3	0.8	2	末端辺	背面	直線的	68	縦長	-	-	
										側辺	背面	直線的	55				
-	10270	ⅡK20	Ⅲb	チャート	1.3	1.5	0.3	0.5	2	側辺	腹面	外彎	30	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	34				
-	10271	ⅡJ19	Ⅲb	チャート	2.8	1.5	0.5	2.3	1	側辺	腹面	外彎	64	縦長	-	-	
-	10276	ⅡK19	Ⅲb	チャート	3.3	2.4	1.0	8.5	2	側辺	両面	直線的	58	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	62				
-	10279	ⅡK18	Ⅲb	チャート	2.6	3.7	0.7	5.0	1	側辺	背面	内彎	77	横長	-	-	
-	10281	ⅡL19	Ⅲb	チャート	2.3	2.4	0.5	2.3	3	末端辺	両面	直線的	39	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	51				
										側辺	背面	内彎	47				
-	10282	ⅡL19	Ⅲb	チャート	2.9	2.2	0.7	4.7	2	末端辺	背面	直線的	31	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	50				
-	10283	ⅡK20	Ⅲb	チャート	(2.6)	2.3	1.2	(8.6)	1	側辺	腹面	内彎	61	縦長	-	-	
-	10288	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	4.4	4.3	2.0	34.6	2	側辺	腹面	直線的	75	縦長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	65				
-	10291	ⅡJ22	Ⅲb	チャート	(1.5)	(1.2)	(0.2)	(0.4)	1	末端辺	腹面	外彎	47	不明	-	-	
-	10357	ⅡJ20	Ⅲb	チャート	(1.4)	0.9	0.2	0.3	2	側辺	背面	直線的	39	縦長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	33				
-	10358	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	4.9	3.0	1.4	22.3	1	側辺	背面	外彎	61	縦長	-	-	
-	10361	ⅡK19	Ⅲb	チャート	1.8	(1.5)	0.4	(1.2)	1	末端辺	両面	外彎	31	不明	-	-	
-	10367	ⅡK18	Ⅲb	チャート	1.6	1.9	0.3	1.1	2	側辺	腹面	外彎	43	横長	-	-	
										側辺	両面	内彎	43				
-	10376	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(1.9)	1.6	0.3	(0.7)	1	側辺	腹面	直線的	47	縦長	-	-	
-	10378	ⅡK18	Ⅲb	チャート	(1.8)	(2.6)	(0.7)	(3.4)	2	側辺	腹面	外彎	50	不明	-	-	
										側辺	背面	内彎	64				
-	10379	ⅡK19	Ⅲb	チャート	4.0	(3.1)	0.6	(7.2)	1	側辺	腹面	外彎	54		-	-	
-	10380	ⅡK19	Ⅲb	チャート	(1.7)	(2.4)	(0.4)	(1.7)	2	側辺	背面	内彎	35	横長	-	-	
										側辺	両面	内彎	40				
-	10383	ⅡK19	Ⅲb	チャート	2.3	2.5	1.1	5.7	1	側辺	両面	内彎	60	横長	-	-	
-	10384	ⅡK19	Ⅲb	チャート	(1.5)	(2.5)	(0.5)	(2.0)	1	側辺	両面	直線的	43	不明	-	-	
-	10385	ⅡL19	Ⅲb	チャート	2.5	(1.6)	0.8	(3.5)	1	末端辺	両面	外彎	47	縦長	-	-	
-	10389	ⅡL19	Ⅲb	チャート	2.4	2.9	0.4	2.8	3	末端辺	両面	直線的	45	横長	-	-	
										側辺	両面	直線的	36				
										側辺	両面	直線的	45				
-	10391	ⅡL20	Ⅲb	チャート	(1.3)	(1.6)	0.3	(0.7)	1	側辺	背面	内彎	49	不明	-	-	
-	10392	ⅡK20	Ⅲb	チャート	(3.5)	2.2	0.8	(8)	2	側辺	両面	外彎	66	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	54				
-	10394	ⅡJ19	Ⅲb	チャート	1.9	3.4	0.4	2.1	2	基辺	背面	内彎	61	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	29				
-	10402	ⅡK19	Ⅲb	チャート	2.8	2.1	0.5	2.3	1	側辺	腹面	直線的	50	縦長	-	-	
-	10407	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	(3.5)	(2.2)	0.8	(6.4)	2	側辺	腹面	外彎	63	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	51				
-	10410-1	ⅡI21	Ⅲb	チャート	1.8	1.5	0.4	1.0	1	側辺	背面	直線的	28	縦長	-	-	
-	10411	ⅡI21	Ⅲb	チャート	2.5	6.3	1.1	14	1	側辺	背面	直線的	39	横長	-	-	
-	10419	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	2.0	2.0	0.3	1.2	1	側辺	腹面	内彎	48	縦長	-	-	
-	10421	ⅡK21	Ⅲb	チャート	(1.5)	(2.2)	(0.5)	(1.3)	1	側辺	腹面	直線的	35	横長	-	-	
-	10422	ⅡK21	Ⅲb	チャート	3.0	2.1	0.7	3.9	1	側辺	両面	内彎	33	縦長	-	-	
-	10425	ⅡK21	Ⅳ	チャート	2.8	2.4	1.0	4.6	2	末端辺	背面	内彎	41	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	53				
-	10427	ⅡK21	Ⅳ	チャート	2.3	1.3	0.3	0.6	2	側辺	腹面	外彎	49	縦長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	34				
-	10432	ⅡJ20	Ⅳ	チャート	1.9	2.0	0.3	1.6	2	側辺	両面	直線的	47	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	48				
-	10439	ⅡL19	Ⅳ	チャート	1.6	2.0	0.2	0.7	1	側辺	両面	直線的	34	横長	-	-	

表76　MF一覧⑩

No.	整理No.	地区遺構		石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	考
-	10442	ⅡL20	Ⅳ	チャート	1.6	2.0	0.4	2.0	2	側辺	腹面	内彎	47	横長	-	-	
										側辺	両面	内彎	40				
-	10445	ⅡL20	Ⅳ	チャート	1.7	2.8	0.4	1.7	2	側辺	腹面	内彎	45	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	50				
-	10450	ⅡI21	Ⅲb	チャート	4.3	3.6	0.8	13.4	1	側辺	両面	外彎	44	縦長	-	-	
-	10452	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	2.6	2.2	0.6	3.5	1	側辺	両面	外彎	58	縦長	-	-	
-	10453	ⅡJ21	Ⅲb	チャート	1.7	2.0	0.4	1.2	1	末端辺	背面	直線的	36	横長	-	-	
-	10455	ⅡK20	Ⅳ	チャート	1.9	2.0	0.4	1.9	1	側辺	背面	内彎	47	横長	-	-	
-	10457	ⅡL20	Ⅳ	チャート	2.4	2.0	0.5	2.6	2	側辺	背面	直線的	54	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	45				
-	10468	ⅡJ20	Ⅳ	チャート	3.0	2.6	0.6	2.7	2	末端辺	背面	内彎	61	縦長	-	-	
										側辺	両面	直線的	57				
-	10470	ⅡK19	Ⅳ	チャート	3.8	1.7	0.4	2.7	2	側辺	腹面	内彎	51	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	42				
-	10476	ⅡL19	Ⅳ	チャート	(1.9)	2.8	0.6	(3.2)	1	側辺	両面	外彎	40	横長	-	-	
-	10479	ⅡK19	Ⅳ	チャート	(1.8)	(2.0)	(0.4)	(1.4)	1	側辺	背面	外彎	52	横長	-	-	
-	10486	ⅡK19	Ⅳ	チャート	3.0	2.3	0.5	2.3	3	側辺	腹面	内彎	45	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	46				
										側辺	背面	内彎	46				
-	10489	ⅡL18	Ⅳ	チャート	1.5	3.2	0.5	2.1	2	末端辺	腹面	直線的	39	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	40				
-	10490	ⅡL19	Ⅳ	チャート	3.8	3.0	0.9	6.7	3	側辺	腹面	内彎	55	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	50				
										側辺	背面	外彎	25				
-	10494	ⅡL19	Ⅳ	泥岩	6.5	5.2	1.4	27.7	2	側辺	背面	直線的	48	縦長	-	-	
										側辺	背面	外彎	68				
-	10495	ⅡL19	Ⅳ	チャート	2.8	3.5	0.5	3.3	2	側辺	腹面	内彎	21	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	21				
-	10497	ⅡK20	Ⅳ	チャート	(2.7)	2.0	1.0	4.8	1	側辺	両面	外彎	51	縦長	-	-	
-	10500	ⅡK20	Ⅳ	チャート	2.7	3.4	0.6	4.6	1	側辺	腹面	内彎	57	横長	-	-	
-	10501	ⅡI21	Ⅳ	チャート	1.0	2.1	0.4	1.0	1	末端辺	腹面	内彎	38	横長	-	-	
-	10505	ⅡJ21	Ⅳ	チャート	(2.6)	3.4	(0.5)	(4.0)	2	末端辺	背面	直線的	34	不明	-	-	
										側辺	背面	外彎	38				
-	10508	ⅡJ22	Ⅳ	チャート	4.8	4.5	1.1	27.2	2	側辺	背面	内彎	36	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	43				
-	10511	ⅡK20	Ⅳ	チャート	(2.2)	(2.6)	(0.4)	(1.0)	2	側辺	腹面	内彎	19	横長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	34				
-	10512	ⅡK20	Ⅳ	流紋岩	5.2	2.7	0.6	10.5	1	側辺	背面	内彎	56	縦長	-	-	
-	10522	ⅡJ22	Ⅳ	チャート	(2.6)	2.5	0.5	3.6	2	側辺	両面	外彎	33	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	38				
-	10526	ⅡK22	Ⅳ	チャート	1.2	1.6	0.2	0.4	2	側辺	背面	内彎	26	横長	-	-	
										側辺	背面	外彎	27				
-	10540	ⅡK21	Ⅳ	チャート	4.2	2.9	1.3	15.3	1	側辺	背面	外彎	60	縦長	-	-	
-	10542	ⅡK22	Ⅳ	チャート	3.4	2.0	0.6	4.0	2	側辺	背面	外彎	32	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	26				
-	10546	ⅡK22	Ⅳ	チャート	3.1	3.0	1.2	8.8	1	側辺	腹面	外彎	58	縦長	-	-	
-	10549	ⅡK22	Ⅳ	泥岩	9.7	5.5	1.7	100.9	3	末端辺	腹面	内彎	72	縦長	-	-	
										側辺	背面	直線的	90				
										側辺	両面	外彎	70				
-	10555	ⅡK21	Ⅳ	チャート	2.9	3.5	0.7	7.7	2	末端辺	両面	外彎	35	横長	-	-	
										側辺	両面	外彎	22				
-	10562	ⅡK21	Ⅳ	チャート	3.2	1.6	0.5	2.0	2	側辺	両面	内彎	47	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	36				
-	10566	ⅡK22	Ⅲb	チャート	(2.3)	3.6	(0.7)	(3.8)	3	末端辺	両面	内彎	45	横長	-	-	
										側辺	両面	内彎	44				
										側辺	両面	外彎	45				
-	10568	ⅢI22	Ⅲb	チャート	1.0	1.7	0.4	0.6	2	末端辺	両面	外彎	58	横長	-	-	
										側辺	背面	外彎	38				
-	10591	ⅡJ22	Ⅲb	チャート	3.4	2.2	0.5	2.7	2	側辺	腹面	外彎	43	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	42				
-	10597	ⅡK22	Ⅲb	チャート	(1.3)	(2.4)	(0.8)	(2.4)	2	側辺	腹面	内彎	58	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	50				
-	10609	ⅡJ19	Ⅳ	チャート	1.6	1.7	0.3	0.7	2	側辺	背面	内彎	50	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	41				
-	10611	ⅡK19	Ⅳ	チャート	2.1	1.1	0.3	0.6	2	側辺	両面	外彎	24	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	35				
-	10613	ⅡJ23	Ⅳ	チャート	3.0	3.2	1.1	11.3	1	側辺	両面	直線的	56	横長	-	-	
-	10618	ⅡI22	Ⅳ	チャート	3.1	1.7	0.7	4.3	1	側辺	両面	外彎	54	縦長	-	-	

表77　MF一覧●

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	微細な剥離痕を有する辺 数	位置	方向	形態	刃角	素材形状	挿図	図版	備考
-	10619	ⅡJ22	Ⅳ	チャート	2.4	3.2	0.6	4.8	1	側辺	両面	内彎	62	横長	-	-	
-	10621	ⅡI23	Ⅲb	チャート	2.7	2.6	1.0	3.7	2	側辺	腹面	外彎	42	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	54				
-	10627	ⅡK22	Ⅳ	チャート	(3.3)	(3.2)	1.3	(15.5)	1	側辺	背面	内彎	58	縦長	-	-	
-	10629	ⅡJ23	Ⅳ	チャート	2.1	2.6	0.6	2.3	2	側辺	腹面	外彎	58	横長	-	-	
										側辺	背面	直線的	78				
-	10634	ⅡK23	Ⅲb	チャート	2.1	1.4	0.3	0.8	2	側辺	腹面	内彎	30	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	37				
-	10635	ⅡK23	Ⅲb	チャート	2.7	2.4	0.6	3.9	2	側辺	腹面	外彎	46	縦長	-	-	
										側辺	腹面	内彎	41				
-	10637	ⅡJ21	Ⅳ	チャート	(3.0)	3.1	0.4	(4.0)	3	側辺	背面	内彎	29	横長	-	-	
										側辺	腹面	外彎	33				
										側辺	腹面	内彎	46				
-	10646	ⅡH23	Ⅲb	チャート	(3.6)	0.8	1.1	(9.0)	2	側辺	腹面	内彎	57	縦長	-	-	
										側辺	両面	内彎	48				
-	10656	ⅡH23	Ⅲb	チャート	2.5	1.5	●.8	3.0	2	側辺	腹面	直線的	82	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	32				
-	10673	ⅡJ23	Ⅲb	チャート	1.8	2.0	0.4	1.0	2	側辺	背面	内彎	20	横長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	45				
-	10723	ⅡH24	Ⅲb	チャート	1.4	1.4	0.4	0.7	2	側辺	両面	外彎	39	縦長	-	-	
										側辺	背面	内彎	40				
-	10739	ⅢG1	Ⅲb	チャート	1.8	1.8	0.6	1.6	2	側辺	両面	直線的	46	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	32				
-	10742	ⅡG25	Ⅲb	チャート	2.8	3.3	0.6	4.4	2	側辺	腹面	外彎	38	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	30				
-	10743	ⅡG25	Ⅲb	チャート	1.7	2.6	0.4	2.0	1	末端辺	腹面	外彎	37	横長	-	-	
-	10744	ⅡG25	Ⅲb	チャート	2.7	2.8	1.1	10.5	2	側辺	両面	内彎	59	横長	-	-	
										基辺	背面	内彎	72				
-	10748	ⅡJ25	Ⅲb	チャート	4.9	1.7	1.6	10.6	1	側辺	背面	外彎	57	縦長	-	-	
-	10749	ⅡJ25	Ⅲb	チャート	3.3	1.3	0.5	1.4	4	末端辺	両面	外彎	25	縦長	-	-	
										側辺	腹面	直線的	65				
										側辺	背面	内彎	43				
										側辺	背面	直線的	48				
-	10808	ⅡG25	Ⅳ	チャート	1.2	1.7	0.4	1.0	2	側辺	背面	直線的	46	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	45				
-	10819	ⅢJ1	Ⅳ	チャート	2.5	2.2	0.6	3.2	2	末端辺	両面	外彎	54	縦長	-	-	
										側辺	両面	外彎	58				
-	10820	ⅢJ1	Ⅳ	チャート	(2.3)	(2.9)	(0.5)	(2.5)	2	側辺	両面	外彎	45	横長	-	-	
										基辺	背面	内彎	54				
-	10821	ⅢJ1	Ⅳ	チャート	1.7	2.0	0.4	1.0	2	末端辺	腹面	内彎	39	横長	-	-	
										側辺	両面	内彎	38				
-	10841	ⅢI2	Ⅳ	流紋岩	(2.7)	(2.9)	(0.5)	(5.2)	2	側辺	腹面	直線的	53	横長	-	-	
										側辺	背面	内彎	50				
-	10847	ⅢJ2	Ⅲb	チャート	4.2	3.6	1.0	12.5	3	末端辺	腹面	直線的	50	縦長	-	-	
										基辺	背面	内彎	57				
										側辺	背面	内彎	80				
-	10983	ⅡK21	Ⅳ	チャート	2.2	3.0	0.4	2.2	1	側辺	両面	外彎	40	横長	-	-	
-	X16-2	№20	不明	チャート	1.9	3.2	0.8	3.6	2	側辺	両面	直線的	62	横長	-	-	■区
										側辺	両面	内彎	41				
-	X45	TP19	Ⅳ	チャート	1.8	3.1	0.8	4.3	1	側辺	両面	外彎	50	横長	-	-	B区
-	X46	TP20	Ⅴ	チャート	3.5	2.3	0.4	4.4	1	側辺	背面	直線的	61	縦長	-	-	B区
-	X47	TP20	Ⅴ	チャート	2.2	2.1	0.6	3.1	1	側辺	両面	直線的	31	縦長	-	-	B区
-	X51-4	TP21	Ⅳ	チャート	4.1	3.0	1.1	12.7	2	側辺	背面	外彎	36	縦長	-	-	B区
										側辺	両面	外彎	27				
-	X01-8	不明	不明	チャート	2.3	1.0	0.5	1.5	1	側辺	腹面	直線的	69	縦長	-	-	調査区外
-	X03	Aトレ	Ⅲ	チャート	1.7	3.7	0.7	4.1	1	基辺	腹面	直線的	63	横長	-	-	調査区外
-	X04	Cトレ	Ⅲ	チャート	3.0	2.7	0.5	3.3	2	末端辺	背面	直線的	32	縦長	-	-	調査区外
										側辺	腹面	内彎	22				
-	X09-1	№2	不明	チャート	2.6	3.7	0.8	8.1	2	側辺	腹面	直線的	30	横長	-	-	調査区外
										側辺	両面	直線的	54				
-	X09-2	№2	不明	チャート	2.7	2.8	0.8	6.0	1	側辺	背面	外彎	33	横長	-	-	調査区外
-	X10	№5	不明	チャート	2.9	3.6	0.9	8.3	2	末端辺	背面	外彎	56	横長	-	-	調査区外
										側辺	両面	外彎	40				
-	X14-7	№17	不明	チャート	1.6	2.3	0.5	1.2	1	側辺	背面	内彎	53	横長	-	-	調査区外
-	X57-3	TP26	Ⅲb	チャート	1.8	2.●	0.6	2.0	1	側辺	両面	外彎	51	横長	-	-	調査区外

j）打欠石錘（図148）

A区で13点、B区で1点の合計14点が包含層から出土したもので、このうち7点を図示した（402～408）。403は紐掛け部の摩耗が激しく、405は側縁を敲打により整形している。また、408には紐擦れ痕（帯状痕）が明瞭に残る（写真29）。出土分布は、A区ではSB5に集中しているほかは散在した状況であり（図124）、B区では南部からSD508・SD509にかけてまばらに出土している（図127）。

遺構出土分も含めた29点の打欠石錘のうち、大きさの計測が可能なもの、長さ26点、幅25点、質量25点を用いて、度数分布図と計測値相関図を作成した（図149）。長さは4.0cm～5.0cmのものが最も多いが、B区にはやや大きなものがある。幅は3.5cm～4.0cmのものが最も多いが、B区には3.5cm以下のものがない。質量は、A区では15g～30gのものが多く、30g～45gのものも合わせれば大半を占めるが、B区では45g以上のものが多い。このA区とB区での大きさの違いは、3つの相関図においても確認できる。

k）切目石錘（図148）

包含層からはA区で9点出土しただけである。このうち2点を図示した（409・410）。409は、楕円形の礫の両端を打欠いた後、下端の紐掛け部に切目を入れたものである。出土分布は散在した状況である（図124）。

遺構出土分も含めた19点の切目石錘のうち、大きさの計測が可能なもの、長さ16点、幅19点、質量15点を用いて、度数分布図と計測値相関図を作成し、打欠石錘の図に重ねた（図149）。B区から出土した切目石錘は少なく、A区とB区との比較が困難なため、打欠石錘との比較をする。長さは打欠石錘とほぼ同じ度数分布であるが、幅はやや小さく2.0cm～3.0cmのものが最も多い。質量は、15g～30gのものが多い点は打欠石錘と同じであるが、その分布範囲は小さい方にあり、45gを越える質量の

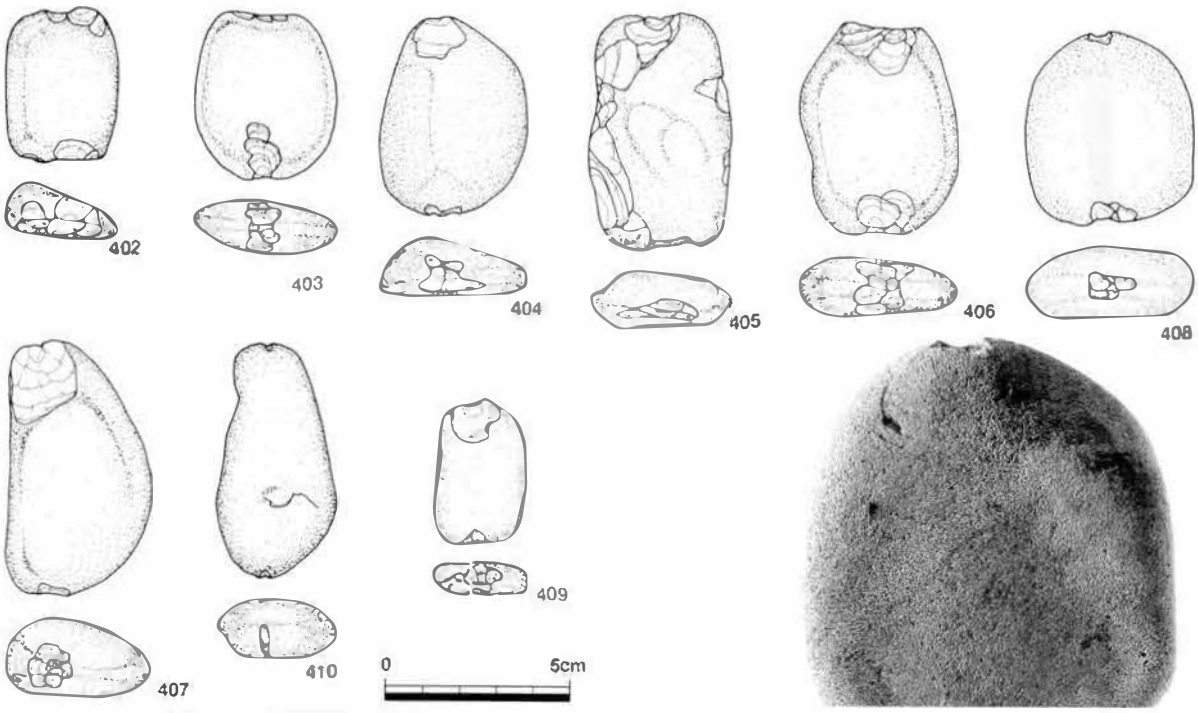


図148　包含層出土打欠石錘・切目石錘

写真29　408帯状痕拡大

ものは出土していない。このことから切目石錘は、打欠石錘よりも幅や質量において小さいという傾向があると言える。相関図において両者を比較するとより明瞭である。長さと幅の相関図では、長さの分布範囲は打欠石錘と切目石錘との間に差は見られないが、幅の分布範囲は、切目石錘の方が小さい傾向があり、打欠石錘と切目石錘の分布域は上下に分かれる傾向がある。幅と質量の相関図では、幅と質量との間には正の相関関係が認められるが、切目石錘の分布は幅が小さい左側に片寄る。長さ/幅と質量の相関図においては、それぞれ1点ずつ混在しているが、より顕著に分布域が分かれている。これは、素材となる礫自体に形態差があることを示している可能性が高いと思われる。

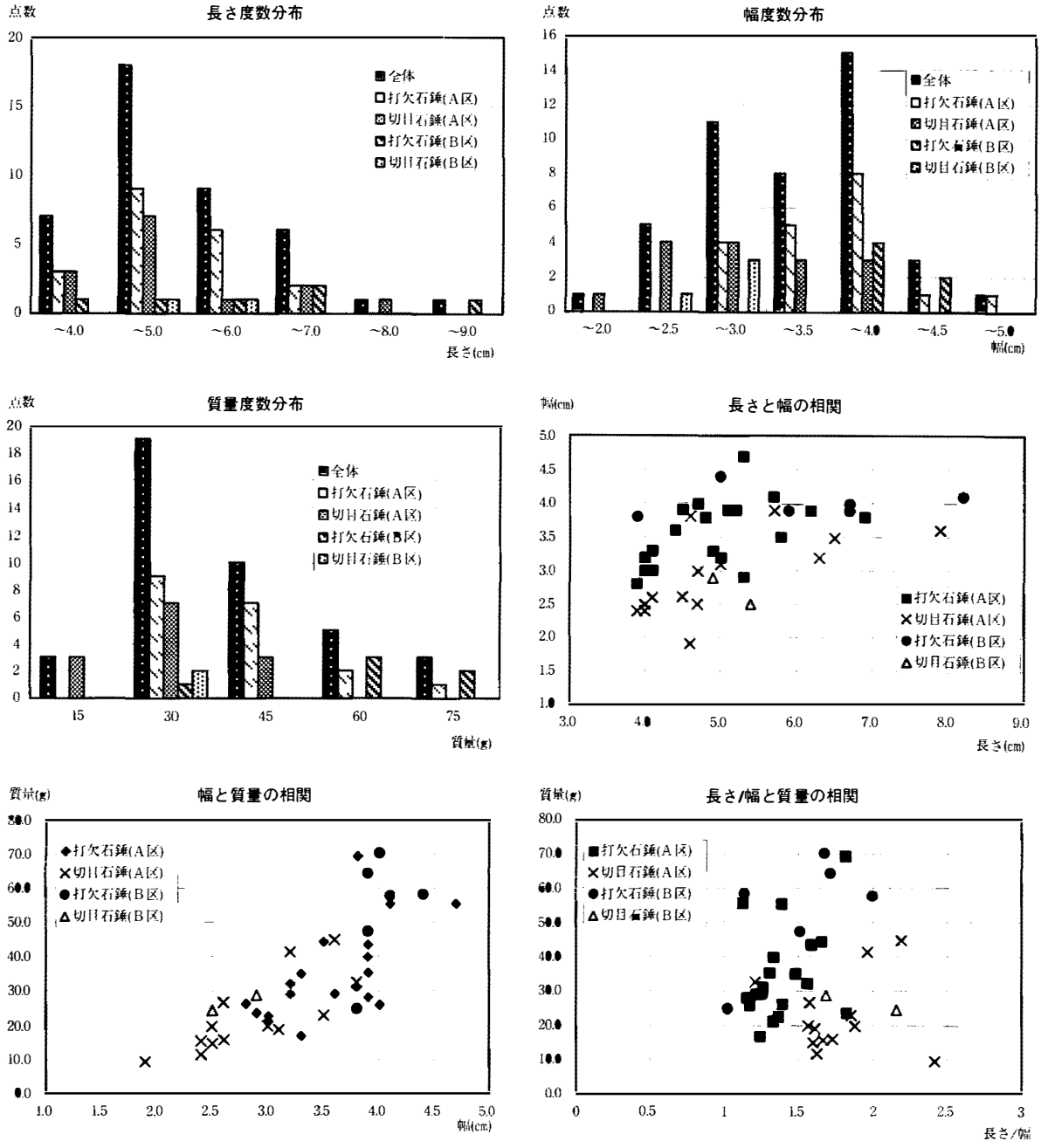


図149　打欠石錘・切目石錘計測値分布

表78　打欠石錘一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	質量(g)	紐掛部計測(cm) a	b	L2	加工 上端	下端	帯状痕	折損	挿図	図版	
56	1111	SB2	2	砂岩	3.9	2.8	1.7	26.2	0.8	1.3	3.8	先端	先端	無	完形	36	13	
57	965	SB2	2	砂岩	5.0	3.9	1.2	31.1	1.4	0.8	4.5	両面	両面	無	完形	36	13	
58	1000	SB2	2	砂岩	5.4	4.7	1.5	55.6	1.1	1.0	5.2	両面	両面	無	完形	36	13	
122	1133	SB5	1	砂岩	4.0	3.3	1.5	29.1	0.4	0.6	4.0	両面	片面	無	完形	50	21	
123	1240	SB5	2	砂岩	4.4	3.6	1.4	29.1	1.2	1.0	4.2	両面	両面	無	完形	50	21	
124	1152	SB5	1	砂岩	4.8	(3.4)	1.6	(35.1)	1.8	0.8	4.5	両面	片面	無	縦割	50	21	
125	1126	SB5	1	砂岩	4.9	3.3	1.5	34.9	0.8	0.8	4.85	両面	両面	無	完形	50	21	
126	1107	SB5	1	砂岩	5.08	3.25	1.5	32.1	0.9	0.5	5.0	両面	両面	無	完形	50	21	
127	1106	SB5	1	砂岩	5.85	3.55	1.5	44.3	0.6	0.9	5.8	両面	両面	無	完形	50	21	
174	1482	SK124	2	泥岩	3.9	3.6	1.2	16.9	1.0	0.9	3.5	片面	片面	無	完形	75	33	
212	10696	SD508	1	砂岩	3.9	3.8	1.3	24.9	0.5	0.9	3.8	両面	両面	無	完形	108	35	
213	10860	SD508	2	砂岩	6.0	3.9	1.6	47.3	0.6	0.6	5.9	両面	両面	無	完形	108	35	
214	10885	SD508	2	砂岩	6.7	3.9	1.6	64.4	0.8	0.7	6.7	先端	両面	無	完形	108	35	
215	10884	SD508	2	砂岩	6.8	4.0	1.9	70.3	0.5	0.6	6.6	両面	片面	無	完形	108	35	
249	10932	SD509	1	泥岩	8.3	4.0	1.3	57.7	1.0	1.0	8	両面	両面	無	完形	112	37	
402	404	ⅠR16	Ⅳ	砂岩	4.15	3.0	1.4	22.6	0.8	1.0	3.85	両面	両面	無	完形	148	42	
403	537	ⅠS10	Ⅲb	砂岩	4.5	3.8	1.3	28.0	1.4	0.7	4.3	両面	両面	無	完形	148	42	
404	503	ⅠS10	Ⅲb	砂岩	5.3	4.0	1.6	39.8	0.6	0.8	5.2	両面	両面	無	完形	148	42	
405	845	ⅠT7	Ⅲb	砂岩	6.2	3.9	1.5	43.4	1.0	1.5	6	両面	両面	無	完形	148	42	
406	637	ⅠS11	Ⅲb	砂岩	5.7	4.28	1.4	55.3	1.8	0.9	5.4	両面	両面	無	完形	148	42	
407	1442	ⅠY12	Ⅲb	砂岩	6.9	3.9	2.2	69.4	0.7	1.2	6.6	両面	両面	無	完形	148	42	
408	10504	ⅡJ21	Ⅳ	砂岩	5.1	4.5	1.7	58.4	0.8	0.5	4.9	両面	両面	片面	完形	-	-	
-	119	ⅠN11	Ⅲb	砂岩	5.1	3.9	1.2	35.1	1.1	0.6	4.8	両面	両面	両面	完形	-	-	
-	405	ⅠR16	Ⅳ	泥岩	(5.4)	(2.8)	1.0	(13.6)	0.9	-	-	両面	-	無	縦割	-	-	敲打整形
-	677	ⅠU11	Ⅳ	泥岩	(4.5)	(2.3)	(1.3)	(15.5)	0.7	-	-	片面	-	無	横割	-	-	
-	786	ⅠU8	Ⅲb	砂岩	4.7	4.0	1.0	25.9	1.0	2	4.7	片面	両面	無	完形	-	-	
-	1063	ⅠR8	Ⅳ	砂岩	4.0	3.0	1.4	21.3	0.5	0.8	3.9	両面	両面	無	完形	-	-	
-	1194	ⅠU4	Ⅲb	砂岩	5.3	2.9	1.5	23.6	1.2	0.8	5.2	両面	両面	無	完形	-	-	
-	1396	ⅠU4	Ⅳ	砂岩	(4.0)	(3.5)	(1.5)	(35.2)	0.6	-	-	両面	-	無	横割	-	-	

表79　切目石錘一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	質量(g)	紐掛部計測(cm) a	b	L2	加工 上端	下端	帯状痕	折損	挿図	図版	備考
62	1269	SP40	1	砂岩	3.9	2.4	1.0	15.7	0.4	0.4	3.8	両面	両面	無	完形	36	13	
73	496	SB3	1	安山岩	4.2	2.7	1.6	26.6	0.3	0.3	4.0	両面	両面	無	完形	41	15	
109	1303	SB4	8～11	泥岩	7.9	3.6	1.5	44.6	0.5	0.6	7.4	両面	先端	無	完形	45	18	打欠後切目
178	608	SK111	1	泥岩	6.5	3.5	0.6	23.0	0.5	0.3	6.3	両面	両面	無	完形	77	33	敲打整形
216	10880	SD508	2	砂岩	4.98	2.8	1.2	28.6	0.3	0.3	4.6	両面	両面	片面	完形	108	35	
217	10299	SD508	1	砂岩	(5.4)	2.7	1.2	(26.5)	-	0.5	5.4	両面	両面	無	剥離	108	35	
218	10881	SD508	2	砂岩	5.4	2.5	1.2	24.5	0.7	0.4	5.2	両面	両面	無	完形	108	35	
250	10929	SD509	2	砂岩	(4.6)	2.95	1.4	(25.8)	0.3	-	-	両面	-	無	横割	112	37	
251	10930	SD509	2	砂岩	(4.93)	(3.15)	(1.5)	(32.2)	0.3	0.4	4.8	両面	両面	無	縦割	112	37	
258	759	NW7	2	安山岩	4.6	3.9	1.4	32.5	0.3	0.3	4.2	両面	先端	無	完形	113	38	
409	402	ⅠR15	Ⅳ	砂岩	3.9	2.5	0.9	11.7	0.8	0.6	3.6	両面	両面	無	完形	148	42	
410	512	ⅠS10	Ⅲb	砂岩	6.35	3.2	1.6	41.2	0.2	0.3	6.2	両面	両面	無	完形	148	42	
-	86	ⅠU6	Ⅲb	砂岩	5.7	3.9	(1.1)	(27.8)	0.7	0.5	5.1	垂直	-	無	剥離	-	-	打欠後切目
-	114	ⅠN12	Ⅲb	安山岩	4.0	2.5	1.1	15.0	0.2	0.2	3.9	両面	両面	無	完形	-	-	
-	191	ⅠQ10	Ⅳ	砂岩	4.5	2.6	1.0	16.0	0.2	0.2	4.4	両面	両面	無	完形	-	-	
-	244	ⅠR14	Ⅲb	砂岩	4.7	2.5	1.2	19.9	0.3	0.4	4.5	両面	両面	無	完形	-	-	
-	1125	ⅠS11	Ⅳ	泥岩	(3.7)	2.7	0.7	(9.8)	0.7	-	-	両面	-	無	横割	-	-	敲打整形
-	1472	ⅠW15	Ⅳ	砂岩	4.7	3.0	1.5	19.9	0.3	0.3	4.0	両面	両面	無	完形	-	-	
-	1479	ⅠL12	Ⅳ	砂岩	5.0	3.1	1.1	19.1	0.3	0.5	4.2	両面	両面	無	横割	-	-	

1）磨石・凹石類（図150・151）

A区で25点、B区で13点、調査区外（試掘調査）で1点の合計39点が包含層から出土したものである。使用痕とその位置による分類では、411～413が1a類、414が1b類、415・416が2a類、417・418が2b類、419が3a類、420・421が3b類、422が4類である。敲打痕や凹みには様々な形態のものがある（写真30）が、明確に区別できないものもあったため、細分類の際に敲打痕や凹みの多様さを反映させることができなかった。写真に示した敲打痕や凹みは、186と259が粗い敲打の集中による凹み、416も粗い敲打が集中するものの深くない凹み、417が楕円形状の凹み、417側面が敲打により面をなすもの、422が線状の敲打痕である。なお、出土分布は、A区では住居跡やその周囲にやや多い（図130）が、B区では散在した状況であった（図128）。

遺構出土分も含めた59点の磨石・凹石類のうち、最も多いのは1a類であるが、A区では2b類の方が多く出土している。ほかにも1b類や3b類といった、側面に磨痕を持たないものが、B区よりA区で出土割合が70%以上と高い。また、ほぼ完形に近い46点を用いて、素材となる礫の形態をグラフ化（図152）して比較した。分類別長さ分布では、各類とも9cm～12cmの間に分布するものが多いが、2a類と2b類との間では分布域の違いが認められる。分類別幅分布では、各類とも7cm～10cmの間に分布するものが多いが、長さと同様に2a類と2b類では分布域に差が認められる。分類別厚さ分布では、1a類がほかのものと比較して分布範囲が広く、6cm以上の厚さのものが存在する。これは球形に近い礫が含まれるためである。ほかは4cm～6cmの間に分布するものが多いが、2a類と2b類との間では分布域が異なり、2b類だけでは3cm～5cmの間に多く分布する。分類別重さ分布では、400g～700gの間

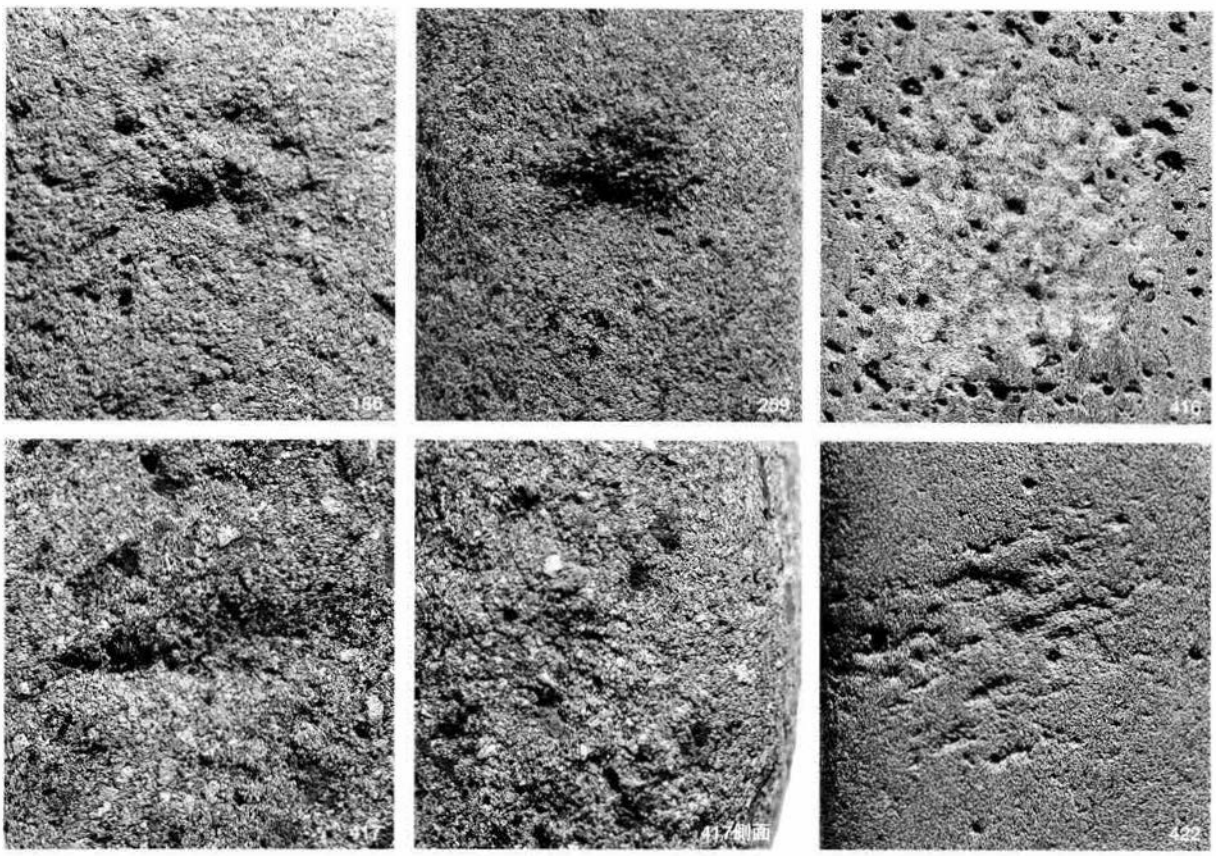


写真30　磨石・凹石類敲打痕

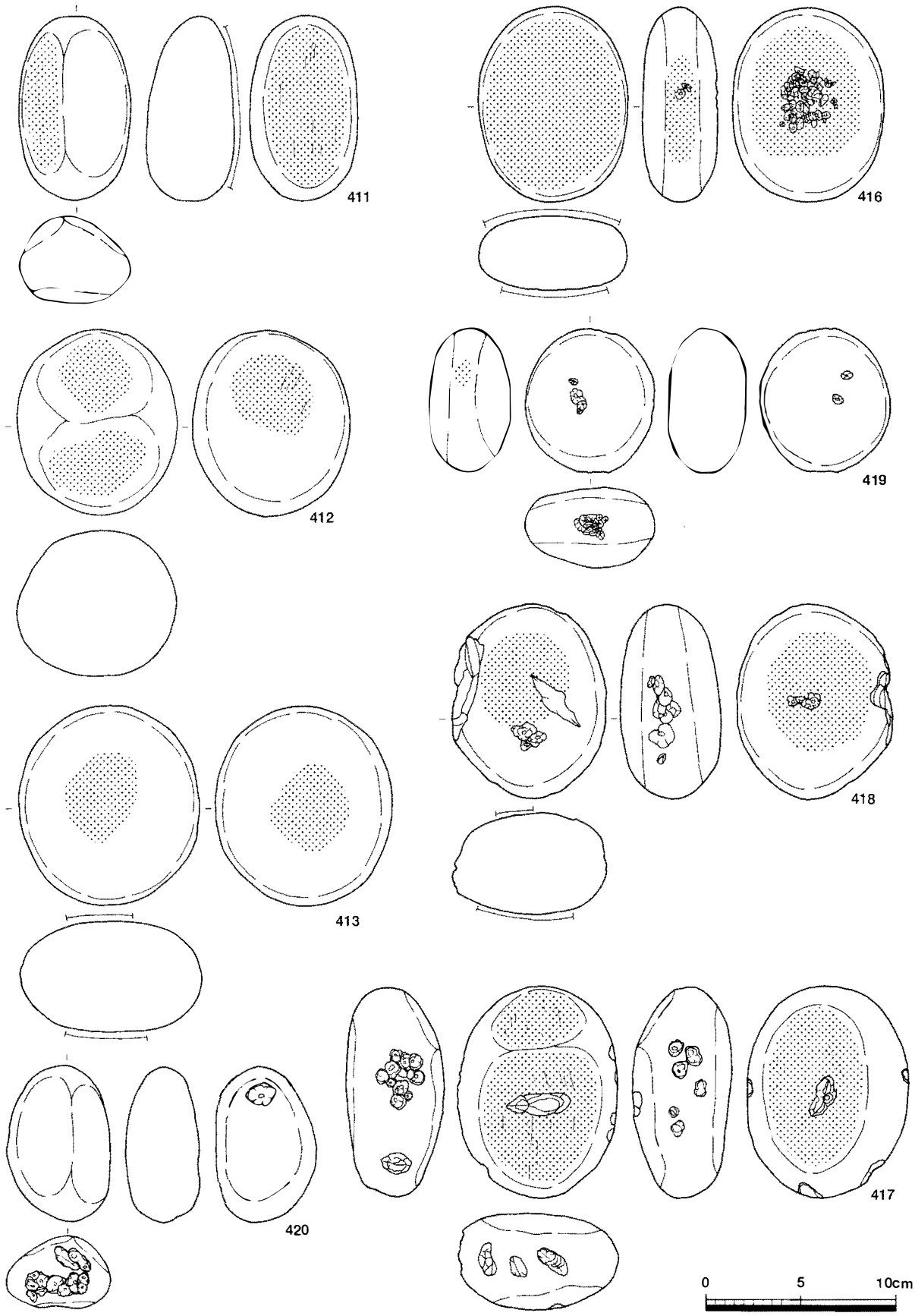


図150　包含層出土磨石・凹石類①

に分布するものが多いが、1a類と2a類ではそれよりも重いものが、2b類では軽いものが数点ずつある。各分類間で数量の差が大きく、安易な比較は危険であるが、2b類に関しては他のものよりも、小振り・薄手で軽いといった傾向が認められるのではないか。さらに、後藤氏の論文（後藤1989）を参考に、棒状の礫を用いている4類を除き、長さ：幅比と厚さ：幅比を用いた相関図を作成し、厚さ／幅

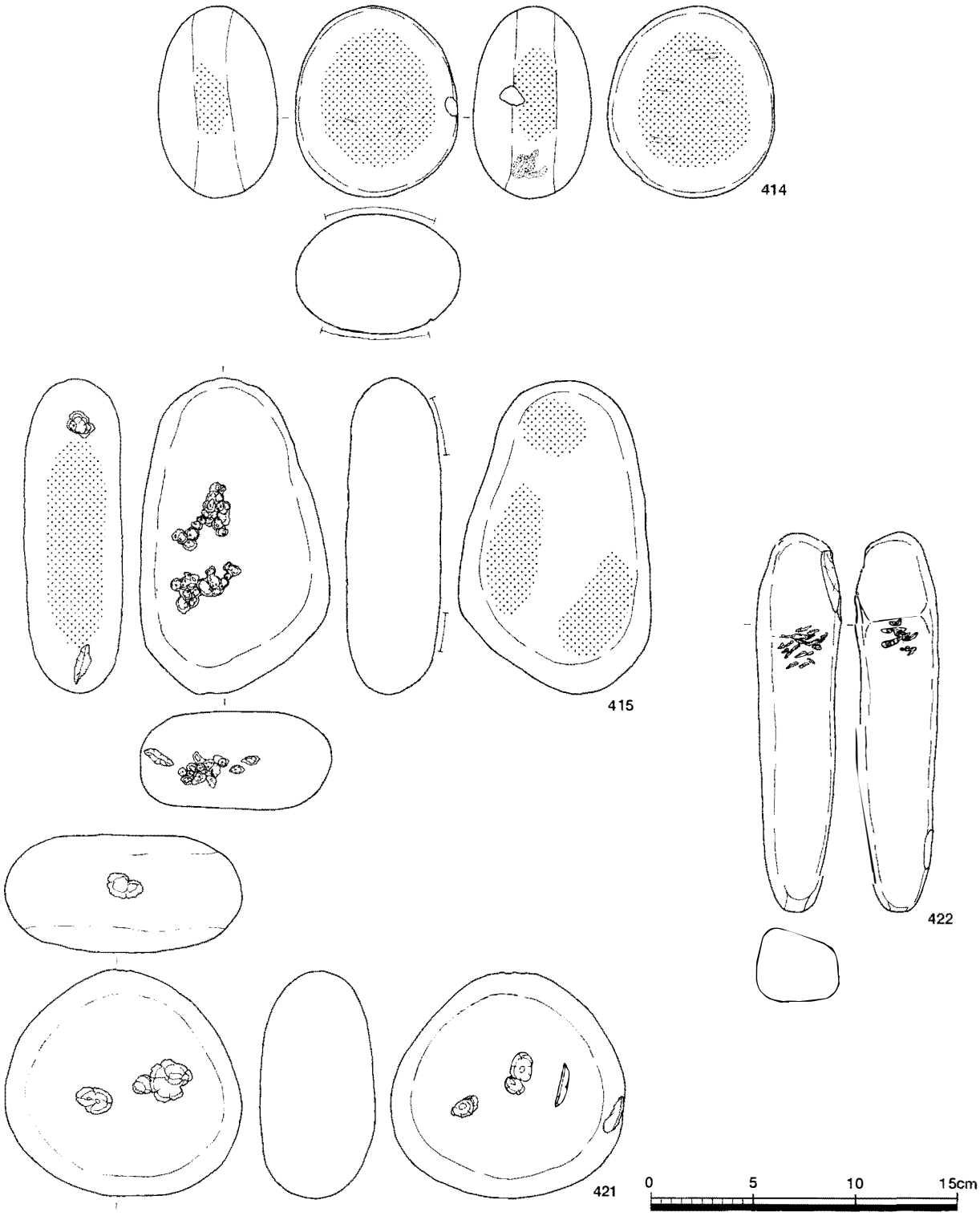


図151　包含層出土磨石・凹石類②

の値については各分類毎の分布図も作成した（図153）。分布図では、各分類毎の分布範囲は、重複する部分が多く明確な差としては認められないが、１類よりも２類、２類よりも３類の方が左側に分布範囲を移していく傾向が若干認められる。散布図では、１類が右側に、２類・３類が左側に片寄る傾向が見られる。重複域が多いことから、明確な礫の形態による使い分けを肯定するものではないが、若干の傾向として捉えておきたい。

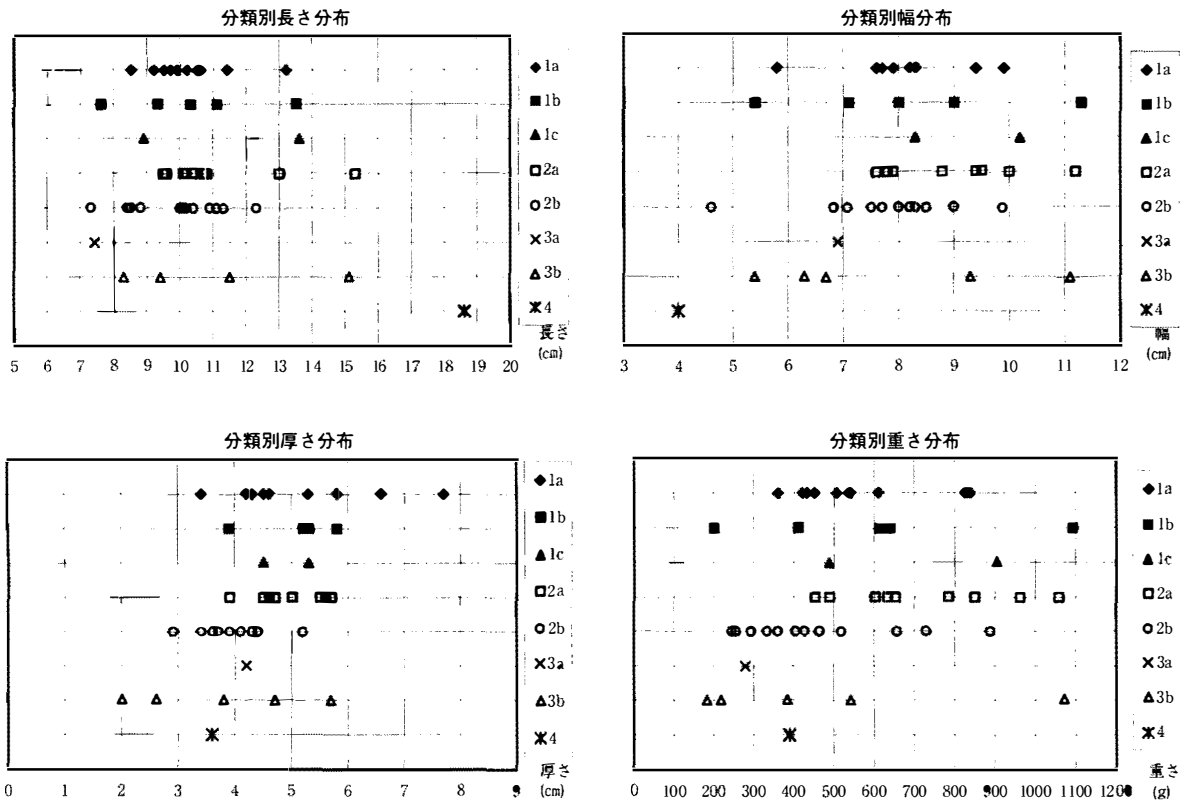


図152　磨石・凹石類大きさ計測値分布

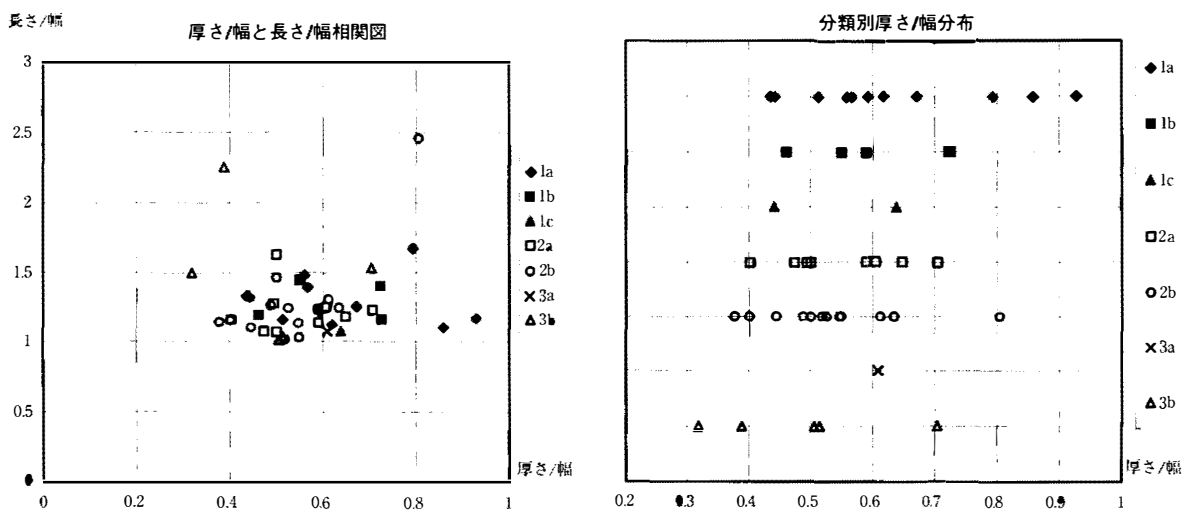


図153　磨石・凹石類計測値相関図、分類別厚さ：幅比分布

表80　磨石・凹石類一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	形状	使用痕 平坦面	使用痕 側面	折損	分類	挿図	図版	
23	520	SB1	1	砂岩	7.3	7.1	3.9	296.3	円形	a,d1	d5	完形	2b	31	9	
59	953	SB2	1	砂岩	15.1	6.7	2.6	383.6	不定形	d2	d5	完形	3b	36	13	
74	846	SB3	1	砂岩	(4.8)	4.9	3.3	(108.7)	不明	無	a	1/2以上	1a	41	15	
75	931	SB3	1	砂岩	(5.1)	(9.5)	(4.1)	(293.2)	不明	a	-	1/2以上	1a	41	15	
76	613	SB3	1	砂岩	(4.7)	(9.3)	4.0	(217.1)	不明	a	d5	1/2以上	1c	41	15	被熱
77	689	SB3	1	砂岩	13.0	11.2	4.5	962.0	楕円形	a,d1	a,d6	完形	2a	41	15	
78	935	SB3	1	砂岩	8.5	7.5	4.1	360.7	楕円形	a,d1,d4	d1	完形	2b	41	15	
110	1261	SB4	8～11	砂岩	(9.0)	(5.6)	4.1	(253.5)	不明	a,b,d4	a,d1	1/2以上	2a	46	19	
132	983	SB6	2	砂岩	(9.8)	(9.1)	5.2	(602.0)	不定形	a,b	a,d1	1/2程度	2a	53	21	
146	736	SK115	1	安山岩	7.6	5.4	3.9	200.7	楕円形	a	a,d6	完形	1b	58	33	
147	101	SK6	1	砂岩	11.4	7.7	4.3	539.8	楕円形	a	a	完形	1a	61	33	
175	421	SK124	1	砂岩	10.3	7.1	3.9	410.9	楕円形	a	a,d6	完形	1b	75	34	被熱
186	1388	SK291	1	砂岩	10.7	10.0	5.0	784.0	円形	a,d1,d4	a,d5	完形	2a	77	34	
190	10713	SK600	1	安山岩	13.2	9.9	4.3	829.0	楕円形	a	無	完形	1a	77	34	
219	10872	SD508	2	砂岩	8.5	7.7	6.6	610.0	円形	a	a	完形	1a	108	35	
220	10693	SD508	1	安山岩	10.4	9.0	3.6	520.0	楕円形	a,b	b	完形	2b	109	35	
252	10976	SD509	2	砂岩	12.3	9.9	5.2	889.0	楕円形	a,d1	無	完形	2b	112	37	表面部分的に風化
259	627	NW7	1	砂岩	11.3	4.6	3.7	245.7	不定形	a,d1	d1	完形	2b	113	38	
411	778	ⅠR8	Ⅲb	砂岩	9.7	5.8	4.6	360.6	楕円形	a	無	完形	1a	150	42	
412	1423	ⅠW12	Ⅳ	砂岩	9.7	8.3	7.7	825.0	球形	a	無	完形	1a	150	42	
413	10154	ⅡH14	Ⅳ	安山岩	10.5	9.4	5.8	838.0	楕円形	a	無	完形	1a	150	42	
414	10826	ⅢJ1	Ⅳ	砂岩	9.3	8.0	5.8	612.0	楕円形	a	a,d2	完形	1b	151	42	
415	303	ⅠS13	Ⅲb	砂岩	15.3	9.4	4.7	1058	楕円形	a,d4	a,c,d5	完形	2a	151	42	
416	10404	ⅡJ21	Ⅲb	安山岩	10.1	7.9	3.9	489.0	円形	a,d1	a	完形	2a	150	42	
417	201	ⅠP10	Ⅳ	砂岩	11.1	8.5	5.2	658.0	楕円形	a,c,d1	d1,d6	完形	2b	150	42	被熱
418	10552	ⅡK22	Ⅳ	砂岩	10.2	8.2	5.2	465.1	楕円形	a,d1,d2	d5,d6	完形	2b	150	42	表面部分的に風化
419	2	ⅠP11	Ⅲb	砂岩	7.4	6.9	4.2	279.7	円形	d1	a,d1	完形	3a	150	42	
420	416	ⅠS14	Ⅲb	砂岩	8.3	5.4	3.8	218.1	楕円形	d2	d6	完形	3b	150	42	被熱
421	70-1	ⅠL10	Ⅳ	安山岩	11.1	11.5	5.7	1072.0	不定形	c,d4	d1	完形	3b	151	42	
422	879	ⅠT13	Ⅳ	砂岩	18.6	4.0	3.6	389.4	不定形	c	d6	完形	4	151	42	被熱
-	742	NW7	1	砂岩	(6.4)	(7.3)	5.0	(342.2)	不明	a,d1	-	1/2以上	2b	-	-	
-	756	NW8	1	安山岩	(8.4)	(4.3)	4.4	(181.2)	不明	a	a	1/2以上	1a	-	-	
-	51	ⅠK8	Ⅲb	砂岩	10.1	8.0	3.9	427.6	楕円形	a	d5,d6	完形	2b	-	-	
-	256	ⅠV6	Ⅲb	砂岩	(9.4)	(5.8)	3.0	(229.9)	不明	a	-	1/2以上	1a	-	-	被熱
-	295	ⅠT12	Ⅲb	砂岩	11.1	9.0	5.3	639.0	楕円形	a	a,d1	完形	1b	-	-	
-	374	ⅠR14	Ⅲb	砂岩	10.2	9.5	4.5	652.0	不定形	a,d2,d4	a,d6	完形	2a	-	-	
-	577	ⅠS12	Ⅲb	砂岩	10.2	7.7	3.4	430.1	楕円形	a	-	完形	1a	-	-	
-	702	ⅠS13	Ⅳ	砂岩	9.4	6.3	2.0	183.5	楕円形	c,d3	d6	完形	3b	-	-	
-	737	ⅠT10	Ⅳ	閃緑岩	8.8	7.7	2.9	255.8	楕円形	a,d1,d3	無	完形	2b	-	-	
-	741	ⅠU13	Ⅳ	砂岩	9.2	7.6	4.5	419.1	楕円形	a	無	完形	1a	-	-	
-	747	ⅠR9	Ⅲb	安山岩	10.0	6.8	3.4	333.8	楕円形	a,d1,d4	d6	完形	2b	-	-	
-	802	ⅠS7	Ⅲb	砂岩	10.9	9.9	4.4	729.0	円形	a,d1	無	完形	2b	-	-	被熱
-	1217	ⅠT4	Ⅲb	砂岩	(6.8)	(6.8)	2.3	(158.4)	不定形	d1	-	1/2程度	3b	-	-	
-	1398	ⅠV4	Ⅳ	砂岩	(8.2)	(7.6)	4.5	(376)	不明	a,d2	d1	1/2以上	2b	-	-	
-	1406	ⅠU9	Ⅲb	砂岩	8.8	(3.9)	(3.5)	(154.8)	不明	a	a,d6	一部欠	1b	-	-	
-	1426	ⅠW15	Ⅲb	砂岩	13.6	10.2	4.5	905.0	楕円形	a	d5	完形	1c	-	-	
-	10375	ⅡJ20	Ⅲb	砂岩	9.5	8.2	4.2	449.0	楕円形	a	無	完形	1a	-	-	
-	10403	ⅡI20	Ⅲb	安山岩	9.9	7.9	5.3	533.2	楕円形	a	無	完形	1a	-	-	表面部分的に風化
-	10456	ⅡK20	Ⅳ	流紋岩	10.6	7.6	4.3	506.8	楕円形	a	無	完形	1a	-	-	
-	10556	ⅡI20	Ⅳ	砂岩	(9.3)	7.1	4.7	(423.9)	不明	a	a,d5	1/2程度	1b	-	-	
-	10595	ⅡJ22	Ⅲb	砂岩	9.6	7.8	5.5	603.0	楕円形	a,d1	a,d1,d5	完形	2a	-	-	
-	10672	ⅡG23	Ⅲb	砂岩	8.9	8.3	5.3	488.3	円形	a	d6	完形	1c	-	-	
-	10809	ⅡG25	Ⅳ	砂岩	9.4	9.3	4.7	542.6	円形	d1	d5	完形	3b	-	-	
-	10240-1	ⅡK19	Ⅲb	砂岩	9.5	7.6	4.6	452.9	楕円形	a,d1	a	完形	2a	-	-	表面部分的に風化
-	10240-2	ⅡK19	Ⅲb	安山岩	(8.6)	8.0	4.6	(422.3)	不明	a	-	1/2程度	1a	-	-	
-	X25-1	TP4	Ⅲ	砂岩	8.4	8.3	4.3	405.2	円形	a,d1	d5	完形	2b	-	-	A区
-	X67	TP4	Ⅱ	砂岩	10.4	8.8	5.7	633.0	楕円形	a,d2,d3	a	完形	2a	-	-	A区
-	X71	A区	Ⅰ	砂岩	13.5	11.3	5.2	1093.0	楕円形	a	a,d1,d5,d6	完形	1b	-	-	表採
-	X02	Aトレ	Ⅱ	安山岩	10.8	9.5	5.6	851.0	楕円形	a,c	a,d5,d6	完形	2a	-	-	調査区外

m）石皿（図154）

包含層からは、A区で10点出土した。423は大きく欠損しているが、扁平な川原石の平坦面を利用したもので、やや凹んだ表面は広い範囲に、裏面は部分的に磨痕が確認できる。424はほぼ完形のもので、両面に磨痕が確認できる。

遺構出土分も含めた17点のうち、16点がA区から出土しており、ほかの石器と比較してA区からの出土割合が突出して多い。出土分布は、磨石・凹石類と傾向が似ており、A区では住居跡やその周囲に多い（図130）。17点の石皿のうち完形品は30%弱の5点と少ないが、5点のうち3点は竪穴住居跡から出土している。出土した石皿の完形品が占める割合をほかの遺跡と比較すると、近接する山手富前遺跡が75%（4点出土）、上原遺跡第1地点が70%（20点出土）、上原遺跡第2地点が85%強（14点出土）、同じ徳山地区内の戸入村平遺跡第2次調査が92%強（13点出土）、春日村岩井谷遺跡が85%強（7点出土）と完形品の比率が非常に高い。石皿の認定基準の差が現れている可能性も考えられるが、遺跡の性格を反映したものである可能性もある。なお、各遺跡の石皿出土点数は、報告書記載のものを使用した。

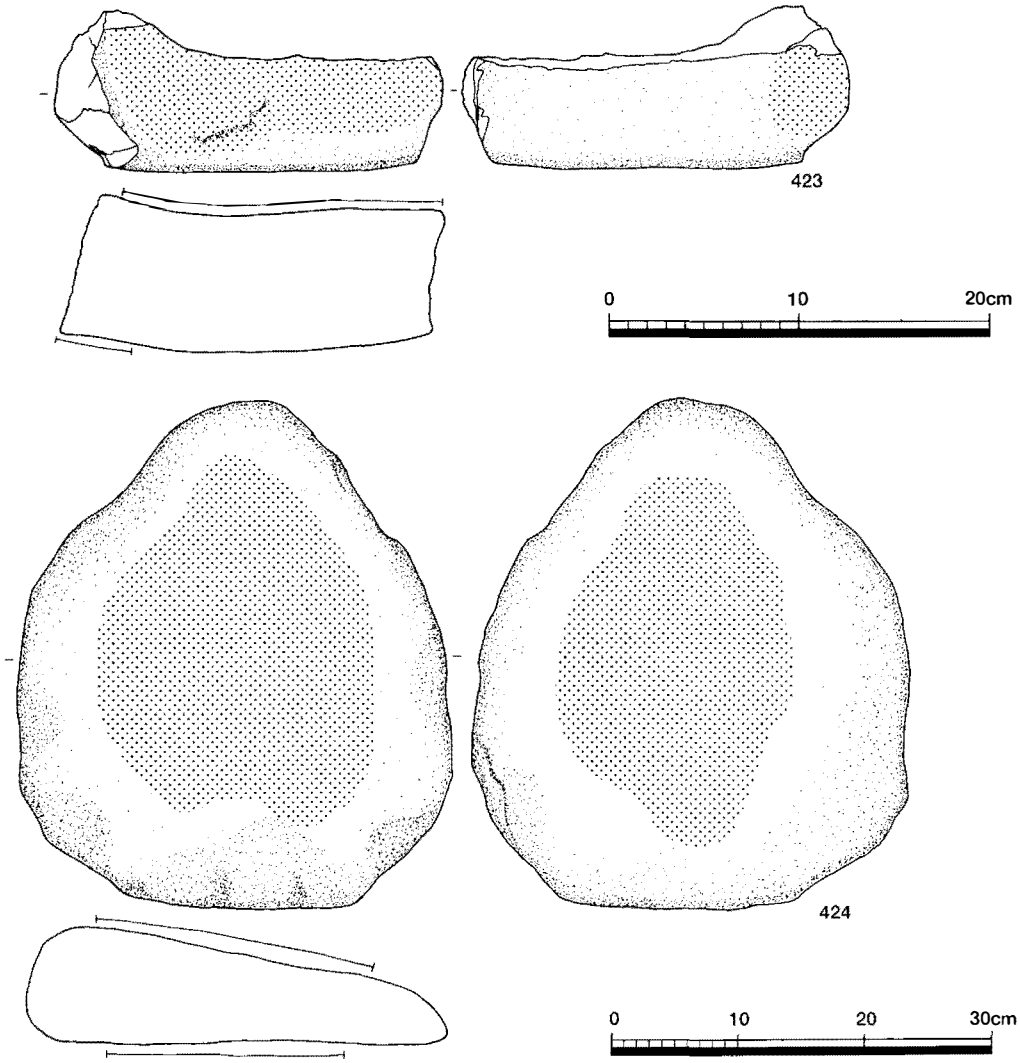


図154　包含層出土石皿

n）石製品

包含層から出土したものはなく、墓坑内から玦状耳飾り２点と不明石製品１点が出土しただけである。これらの大きさの計測値は、表82に記載した。

o）砥石

Ａ区の表土や盛土層から出土したものが２点あるが、いずれも新しい時期のものと思われるため、表83に大きさの計測値を記載した。

表81　石皿一覧

No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	使用痕 平坦面	使用痕 側面	使用面数	折損	挿図	図版	備考
60	1089	SB2	1	砂岩	29.2	20.6	5.7	6500	a	-	3	完形	37	13	
111	1262	SB4	8～11	礫岩	(10.6)	(15.5)	7.5	(1019)	a	-	2	1/2以上	46	19	
112	1237 1380	SB4 ⅠV4	8～11 Ⅲb	砂岩	(15.7)	13.1	5.3	(1705)	a,c	a,d2	3	1/2以上	46	19	２点接合
113	1486	SB4	3	砂岩	41.5	31.0	7.7	16500	a	-	2	完形	45	19	住居据え置き
114	1485	SB4	3	安山岩	36.2	29.7	9.0	15500	a	-	2	完形	45	19	住居据え置き
423	70-2	ⅠL10	Ⅳ	砂岩	(8.2)	(20.4)	(8.6)	(1571)	a	-	2	1/2以上	154	42	
424	X65	Ａ区	Ⅰ	安山岩	40.0	34.2	9.1	16000	a	-	1	完形	154	42	表採
-	10923	SD509	2	砂岩	(11.2)	10.0	4.7	(301.8)	a	-	2	1/2以上	-	-	
-	343	NW4	1	砂岩	(17.5)	(17.0)	6.8	(4500)	a	-	1	1/2以上	-	-	
-	4	ⅠT12	Ⅲb	砂岩	(17.0)	(16.5)	6.4	(3130)	a	-	1	1/2以上	-	-	
-	165	ⅠN13	Ⅳ	砂岩	(15.9)	(7.6)	5.2	(649)	a	-	2	1/2以上	-	-	
-	185	ⅠQ10	Ⅳ	砂岩	(10.6)	(8.3)	(4.8)	(654)	a	-	2	1/2以上	-	-	
-	246	ⅠS15	Ⅲb	砂岩	(7.3)	(5.1)	(2.9)	(76)	a	-	1	1/2以上	-	-	
-	309	ⅠR14	Ⅲb	砂岩	23.5	23.3	7.8	7500	a	-	2	完形	-	-	
-	504	ⅠS10	Ⅲb	砂岩	(22.0)	(20.5)	9.4	(2730)	a	-	1	1/2程度	-	-	
-	729	ⅠT10	Ⅳ	安山岩	(9.5)	(7.0)	(5.8)	(343.9)	a	a	2	1/2以上	-	-	

表82　石製品一覧

No.	No.	地区遺構	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	挿図	図版	備考
149	995	SK145	2	ﾊﾟｲﾛﾌｧｲﾗｲﾄ	(4.5)	(2.5)	0.5	(8.0)	63	27	玦状耳飾り、欠損断面が摩滅
150	1068	SK145	2	ﾊﾟｲﾛﾌｧｲﾗｲﾄ	(3.8)	(1.8)	0.4	(3.9)	63	27	玦状耳飾り、欠損断面が摩滅
161	1428	SK380	1	流紋岩	4.4	5.6	3.9	90.9	69	30	不明石製品、一部に擦痕あり

表83　砥石一覧

No.	整理No.	地区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	使用痕 平坦面	使用痕 側面	使用面数	折損	挿図	図版	備考
-	X30-5	TP7	Ⅱ	泥岩	(1.7)	(1.5)	(0.4)	(0.9)	磨痕・擦痕	-	1	破片	-	-	Ａ区
-	X38	TP9	Ⅰ	泥岩	(10.0)	3.3	2.3	(135.9)	磨痕・擦痕	磨痕・擦痕	3	一部欠	-	-	Ａ区、手持ち砥石

第４章　自然科学分析

第１節　花粉化石群集

新山雅広（パレオ・ラボ）

１　試料

花粉化石群集の検討は、SK676埋土（試料１）及びSK677埋土（試料２）の２試料ついて行った。SK677は、平安時代（９世紀後半～10世紀前半）の水場遺構でトチノキ種子片を多数含む。SK676は、平安時代（９世紀後半～10世紀前半）の水場遺構で、SK677より少ないがトチノキ種子片を多数含む。なお、大型植物化石の試料であるSK676の整理番号11020及びSK677の整理番号11000の２試料については、トチノキ種子の放射性炭素年代測定（AMS法）を行った。その結果、SK676が1,105±35yrBP（PLD-861）、SK677が1,180±30yrBP（PLD-862）の^{14}C年代値がそれぞれ得られた。

２　方法

花粉化石の抽出は、試料約２～３ｇを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸１に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現したすべての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉及びシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

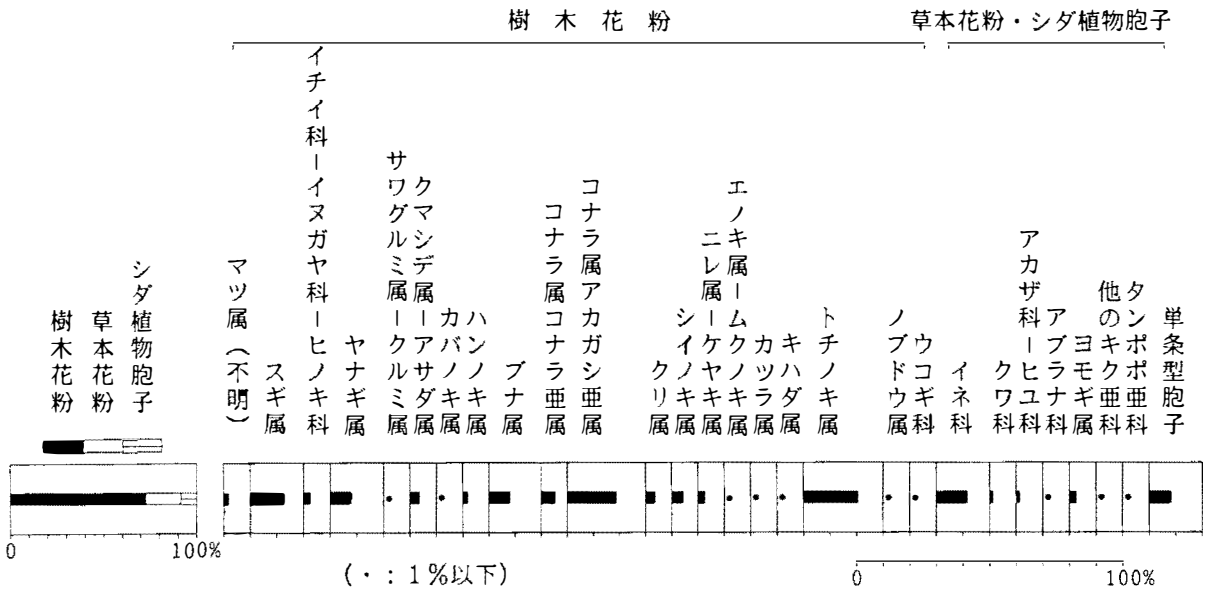
３　花粉化石群集の記載

SK676：花粉化石の産出個数は非常に少なく、保存状態も非常に悪い。産出したのは、樹木花粉ではスギ属、コナラ亜属、トチノキ属などであり、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などである。

SK677：花粉化石の産出個数はやや少なく、保存状態は非常に悪い。同定された分類群数は、樹木花粉20、草本花粉７、形態分類で示したシダ植物胞子１である。樹木花粉の占める割合は、約73%である。その中で、トチノキ属が約21%で最優占し、次いでアカガシ亜属が約19%、スギ属が約13%で出現する。他に、ヤナギ属、ブナ属も約８%と比較的高率であり、コナラ亜属、シイノキ属、クマシデ属－アサダ属、クリ属が約４～５%で出現する。草本花粉では、イネ科が約12%とやや目立ち、ク

表84　花粉化石一覧

和　　名	学　　名	試料1	試料2
樹木			
マツ属複維管束亜属	Pinus subben. Diploxylon	1	-
マツ属（不明）	Pinus (Unknown)	-	2
スギ属	Cryptomeria	3	14
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.-C.	2	3
ヤナギ属	Salix	-	9
サワグルミ属－クルミ属	Pterocarya-Juglans	-	1
クマシデ属－アサダ属	Carpinus - Ostrya	-	4
カバノキ属	Betula	1	1
ハンノキ属	Alnus	-	2
ブナ属	Fagus	-	9
コナラ属コナラ亜属	Qercus subgen. Lepidobalanus	3	6
コナラ属アカガシ亜属	Qercus subgen. Cyclobalanopsis	1	21
クリ属	Castanea	1	4
シイノキ属	Castanopsis	-	5
ニレ属－ケヤキ属	Ulmus - Zelkova	-	3
エノキ属－ムクノキ属	Celtis-Aphananthe	-	1
カツラ属	Cercidiphyllum	-	1
キハダ属	Phellodendron	-	1
トチノキ属	Aesculus	-	23
ノブドウ属	Ampelopsis	-	1
ウコギ科	Araliaceae	-	1
草本			
イネ科	Gramineae	1	18
カヤツリグサ科	Cyperaceae	2	-
クワ科	Moraceae	-	2
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	1	2
アブラナ科	Cruciferae	-	1
ヨモギ属	Artemisia	1	4
他のキク亜科	other Tubuliflorae	1	1
タンポポ亜科	Liguliflorae	-	1
シダ植物			
単条型胞子	Monolete spore	16	13
三条型胞子	Trilete spore	2	-
樹木花粉	Arboreal pollen	12	112
草本花粉	Nonarboreal pollen	6	29
シダ植物胞子	Spores	18	13
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	36	154
不明花粉	Unknown pollen	9	54



（樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

図155　SK677の花粉化石分布図

ワ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属が約１～３％で出現する。

4　考察

SK677の花粉組成から平安時代（９世紀後半～10世紀前半）の周辺植生の推定を試みる。周辺には、針葉樹のスギ属、常緑広葉樹のアカガシ亜属、落葉広葉樹のトチノキ属が優勢な森林が成立していたと推定される。大型植物化石では、トチノキ種子が非常に多産したが、遺跡周辺の丘陵斜面などに多く生育していたであろうトチノキの種子が採集されていたのではないだろうか。他に、落葉広葉樹のコナラ亜属、クマシデ属－アサダ属、クリ属、常緑広葉樹のシイノキ属なども混じっており、河川沿いにはヤナギ属、標高の高い山地にはブナ属なども生育していたであろう。一方、付近には、草本花粉の占める割合が低率であることから、あまり広い草地的景観はみられなかったと思われるが、イネ科を主体にアカザ科－ヒユ科、ヨモギ属などが生育していたであろう。

第2節　大型植物化石

新山雅広（パレオ・ラボ）

1　試料

大型植物化石の検討は、SK676、SK677及びSD508から出土したものについて行った。SK676は、平安時代末（9世紀後半～10世紀前半）の水場遺構でトチノキ種子片を多数含む。SK677は、平安時代（9世紀後半～10世紀前半）の水場遺構でSK676より少ないが、トチノキ種子片を多数含む。SD508は、SK676、SK677とほぼ同時期と思われる自然流路である。試料は、これら3遺構の埋土を1.68mmの篩目で水洗篩い分けをして検出した129試料（SK676:23試料、SK677:68試料、SD508:38試料）である。なお、SK676の遺物番号11020及びSK677の遺物番号11000の2試料については、トチノキ種子の放射性炭素年代測定（AMS法）を行った。その結果、SK676が1,105±35yrBP（PLD-861）、SK677が1,180±30yrBP（PLD-862）の^{14}C年代値がそれぞれ得られた。

2　出土した大型植物化石

出土した大型植物化石の一覧を表86・表87に示した。ただし、大型植物化石を全く含んでいなかった試料については、一覧表中から省いた。以下に、各遺構から出土した大型植物化石について記載する。

SK676：木本のみでモモ核、キイチゴ属核、トチノキ種子、マタタビ種子、エゴノキ種子の5分類群であった。トチノキ種子は非常に多産し、キイチゴ属核も比較的多産した。

SK677：木本はクワ属種子、モモ核、トチノキ種子の3分類群であり、草本はスゲ属果実、ミゾソバ果実、タデ属果実、ノブドウ種子、ナス科種子の5分類群であった。トチノキ種子は非常に多産した。

SD508：木本のみでイヌガヤ種子、モモ核、トチノキ種子、エゴノキ種子の4分類群であった。モモ核が非常に多産し、トチノキ種子も比較的多産した。

3．考察

遺構別にみた大型植物化石の種類と出土量（個数）を表85に示した。SK676、SK677は、トチノキ

表85　遺構別の大型植物化石の種類と出土量

数字は個数を示す（ただし、トチノキ種子はおよその推定個数）

分類群	部位	SK676	SK677	SD508
イヌガヤ	種子			1未満
クワ属	種子		1	
モモ	核	1	2	32
キイチゴ属	核	11		
トチノキ	種子	42～47	128～147	5～9
マタタビ	種子	2		
エゴノキ	種子	1		1
スゲ属	果実		1	
ミゾソバ	果実		1	
タデ属	果実		1	
ノブドウ	種子		4	
ナス科	種子		1	

種子が非常に多産したが、種子はいずれも破片であり、完形のものは1個体もなかった。また、出土部位は種子のみであり、果皮などの他の部位は全く検出されなかった。以上のことから、出土したトチノキ種子は自然堆積したものとは考え難く、人為的なものと予想される。SK676は、トチノキ種子の産状から水さらし場遺構の可能性はあると言える。また、SK677についても水さらし場遺構かゴミ捨て場のような性格の遺構である可能性が考えられる。トチノキ種子以外のものについては、遺構周辺に生育していたものと予想されるが、モモ核については食用後に廃棄されたものが流入したか、直接投棄されたのであろう。SD508については、トチノキ種子も出土するが、モモ核の方がより目立つ。ほぼ同時期と思われるSD508とSK676、SK677の性格の違いを反映している可能性が考えられる。

表86　大型植物化石一覧①

遺構	層位	整理番号	分類群(部位、個数)
SK676	1	10752	トチノキ(種子、1未満)
	1	10753	エゴノキ(種子、1)
	1	10755	トチノキ(種子、1未満)
	1	10756	トチノキ(種子、6)
	1	10757	トチノキ(種子、3～4)
	1	10758	トチノキ(種子、2～3)
	1	10759	トチノキ(種子、10)
	1	10761	トチノキ(種子、1未満)
	1	10762	モモ(核、1)
	1	10763	トチノキ(種子、2～3)
	1	11016	トチノキ(種子、2～3)
	1	11017	トチノキ(種子、6)
	1	11018	トチノキ(種子、1未満)
	1	11019	キイチゴ属(核、9)、トチノキ(種子、1～2)
	1	11020	トチノキ(種子、10)
	1	11021	キイチゴ属(核、2)、トチノキ(種子、1未満)、マタタビ(種子、2)
	1	11022	トチノキ(種子、1未満)
SK677	1	10766	トチノキ(種子、1未満)
	1	10770	トチノキ(種子、1～2)
	1	10774	トチノキ(種子、2)
	1	10779	トチノキ(種子、2～3)
	1	10780	トチノキ(種子、1未満)
	1	10783	トチノキ(種子、1未満)
	1	10784	トチノキ(種子、1未満)
	1	10785	トチノキ(種子、2)
	1	10788	トチノキ(種子、1未満)
	1	10789	トチノキ(種子、1)
	1	10791	トチノキ(種子、1)
	1	10792	トチノキ(種子、3)
	1	10793	トチノキ(種子、3)
	1	10794	トチノキ(種子、1)
	1	10795	トチノキ(種子、5)
	1	10796	トチノキ(種子、5)
	1	10797	トチノキ(種子、1未満)
	1	10798	トチノキ(種子、1)
	1	10801	トチノキ(種子、1)
	1	10984	モモ(核、1)、トチノキ(種子、3)
	1	10985	トチノキ(種子、4)
	1	10986	トチノキ(種子、1～2)
	1	10987	トチノキ(種子、1)
	1	10988	トチノキ(種子、3～4)
	1	10989	トチノキ(種子、1～2)
	1	10990	トチノキ(種子、1未満)

(個数の(　)付きは半分ないし破片の数)

表87　大型植物化石一覧②

遺構	層位	整理番号	分類群(部位、個数)
SK677	1	10991	トチノキ(種子、5)
	1	10992	トチノキ(種子、4～5)
	1	10993	トチノキ(種子、4)
	1	10994	トチノキ(種子、2)
	1	10995	トチノキ(種子、4)、ノブドウ(種子、3)
	1	10996	トチノキ(種子、1～2)
	1	10997	トチノキ(種子、5)
	1	10998	トチノキ(種子、2)
	1	10999	トチノキ(種子、1未満)
	1	11000	トチノキ(種子、15～20)
	1	11001	トチノキ(種子、6～7)
	1	11002	トチノキ(種子、1～2)
	1	11003	トチノキ(種子、1～2)
	1	11004	トチノキ(種子、1)
	1	11005	トチノキ(種子、15)
	1	11006	クワ属(種子、1)、トチノキ(種子、3)、ミゾソバ(果実、1)、ノブドウ(種子、(3))
	1	11007	トチノキ(種子、1)
	1	11008	トチノキ(種子、1未満)
	1	11009	トチノキ(種子、1)
	1	11010	トチノキ(種子、1未満)、ナス科(種子、1)
	1	11011	トチノキ(種子、8～10)
	1	11012	トチノキ(種子、3)、タデ属(果実、1)
	1	11013	トチノキ(種子、3～4)
	1	11014	モモ(核、1)、トチノキ(種子、2～3)、スゲ属(果実、1)
SD508	2	10310	モモ(核、1)
	2	10311	モモ(核、1)
	2	10312	トチノキ(種子、1未満～1)
	2	10313	モモ(核、1)
	2	10314	トチノキ(種子、1未満)
	2	10316	トチノキ(種子、1未満～1)
	2	10319	トチノキ(種子、1～2)
	2	10321	モモ(核、3)
	2	10323	モモ(核、3)
	2	10324	モモ(核、1)
	2	10326	モモ(核、2)
	2	10327	モモ(核、2)
	2	10328	イヌガヤ(種子、(1))、モモ(核、(8)…3個分)
	2	10329	モモ(核、1)
	2	10338	モモ(核、1)
	2	10341	モモ(核、(1))
	2	10348	モモ(核、1)
	2	10350	モモ(核、1)
	2	10351	トチノキ(種子、3)
	2	10352	トチノキ(種子、2)
	2	10355	モモ(核、2)
	2	10803	モモ(核、1(1))
	2	10804	モモ(核、1)
	2	10805	モモ(核、1)
	2	10806	トチノキ(種子、1未満)
	2	10807	モモ(核、4(2))、エゴノキ(種子、1)

(個数の(　)付きは半分ないし破片の数)

第3節　放射性炭素年代測定

山形　秀樹（パレオ・ラボ）

尾元遺跡から出土したトチノキ種子試料2点の放射性炭素年代をAMS法にて測定した。測定結果と暦年代較正して得られた結果は表88に記載した。

1　放射性炭素年代測定について

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した^{14}C濃度を用いて^{14}C年代を算出した。

なお、^{14}C年代値（yrBP）の算出には^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}C年代が、その^{14}C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。試料の^{14}C計数率と現在の標準炭素（Modern standard carbon）の^{14}C計数率の比が^{14}C Sample/^{14}C Modern≧1の時はModernと表記する。

2　同位体分別効果の補正について

表88に記載したδ^{13}CPDB値は、PDB標準試料の^{13}C/^{12}C比（(^{13}C/^{12}C) PDB=0.0112372）を標準値として、その標準値からのずれを千分率で示し、試料炭素の^{13}C/^{12}C比（(^{13}C/^{12}C) sample）を質量分析計で測定して、δ^{13}CPDB=[{(^{13}C/^{12}C) sample-(^{13}C/^{12}C) PDB} / (^{13}C/^{12}C) PDB]×1000の計算式によって算出した。試料のδ^{13}CPDB値を-25.0‰に規格化することにより、測定された試料のδ^{13}CPDB値を用いて^{14}C濃度を補正し、これを用いて^{14}C年代を算出した。したがって、表88に記載した^{14}C年代は同位体分別効果による測定誤差を補正した年代である。

3　暦年代較正について

暦年代較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正し、より正確に真の年代を求めるために、^{14}C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の^{14}C年代の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と^{14}C年代の比較、及び海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正暦年代を算出する。較正暦年代の算出にRadiocarbon Calibration Program* CALIB rev. 4.3 {Reference for datasets used: Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht,J., and Spurk,M.（INTCAL98 : Stuiver et al., 1998a）. Radiocarbon 40, p.1041-1083}を使用した。なお、較正暦年代値は^{14}C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、真の年代である可能性が最も高いことを示す。また、1σ暦年代範囲及び2σ暦年代範囲は確率分布を用いて算出した暦年代範囲であり、その範囲内

に真の年代が入る可能性が高いことを示す。1σ暦年代範囲は^{14}C年代誤差に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が68%であることを示す。1σ暦年代範囲のProbabilityは、68%のうちで、さらに特定の1σ暦年代範囲に入る確率を示す。同様に、2σ暦年代範囲は^{14}C年代誤差の2倍（±2σ）に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が95%であることを示す。2σ暦年代範囲のProbabilityは、95%のうちで、さらに特定の2σ暦年代範囲に入る確率を示す。

較正曲線は^{14}C濃度の変動のためデコボコしており、そのため^{14}C年代値に対応する暦年代値、または^{14}C年代誤差に相当する暦年代範囲が複数存在する場合があるが、較正暦年代値はいずれも等しく真の年代である可能性があり、1σ暦年代範囲はいずれも68%、2σ暦年代範囲はいずれも95%の確率で、さらにProbabilityに示された確率で真の年代が入る。

暦年代較正は約二万年前からAD1950年までが有効であり、該当しないものについては較正暦年代値を*****またはModernと表記し、1σ暦年代範囲及び2σ暦年代範囲を*****と表記する。また、calAD1955*は核実験後の年代を指し、Modernを意味する。ただし、一万年以前のデータはまだ不完全であるため注意する必要がある。

表88　放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果

測定番号（測定方法）	試料データ	δ13CPDB (‰)	14C年代 (yrBP±1σ)	較正暦年代		
				較正暦年代値	1σ暦年代範囲(Probability)	2σ暦年代範囲(Probability)
PLD-861 (AMS)	トチノキ種子 SK676	-22.5	1105±35	cal AD 905 cal AD 915 cal AD 965	cal AD 895 - 925 (41.4%) cal AD 945 - 980 (58.6%)	cal AD 880 - 1015 (99.9%)
PLD-862 (AMS)	トチノキ種子 SK677	-23.6	1180±30	cal AD 785 cal AD 885	cal AD 780 - 790 (11.3%) cal AD 805 - 890 (88.7%)	cal AD 775 - 900 (86.6%) cal AD 915 - 960 (13.1%)

備考

ModernはAD1950年以降の新しい年代を指す。yrBPはAD1950年から過去へ遡った年代を意味する。calは較正した暦年代を意味し、実年代との混同を防ぐためにつけられる。また、Probabilityが10%未満の1σ年代範囲及び2σ年代範囲については記載を省略した。

引用文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

第4節　木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所　汐見　真
京都造形芸術大学　岡田　文男

1　試料

試料は岐阜県尾元遺跡から出土した用途不明品3点である。

2　観察方法

剃刀で木口〈横断面)、柾目（放射断面)、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3　結果

樹種同定結果（針葉樹1種、広葉樹1種）を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

（1）　SK677出土棒状木製品

樹種　ヒノキ科ヒノキ属（Chamaecyparis sp.）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南)、四国、九州に分布する。

（2）　SK677出土木片

樹種　トチノキ科トチノキ属トチノキ（Aesculus turbinata Blume）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～80μm）が単独かあるいは2～4個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる)。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300μmとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

島地謙・伊東隆夫　『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版（1988）
島地謙・伊東隆夫　『図説木材組織』地球社（1982）
伊東隆夫　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』京都大学木質科学研究所（1999）
北村四郎・村田源　『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』保育社（1979）
深澤和三　『樹体の解剖』海青社（1997）

◆使用顕微鏡◆

Nikon
MICROFLEX UFX-DX Type 115

第5章　まとめ

1　平安時代の水場遺構

B区において検出したSK676・SK677は、SD508に流れる水を利用したトチの実の処理施設と思われる。渡辺氏の調査によるトチモチの加工工程（渡辺1975）の中で、水を使用する工程には「虫殺し」「ふやかし」「水さらし」がある。SK676・SK677に共通するものとして、多量のトチの実の種皮が出土したことがあげられる。この種皮はすべて破片であり、完形のものがないことから、第4章第2節に報告されているように、人為的に廃棄された可能性が高いと思われる。トチモチの加工工程の中で、「皮むき」は「ふやかし」と「水さらし」の間に行われる工程であることから、尾元遺跡では「ふやかし」→「皮むき」→「水さらし」の工程が行われていた可能性が高いものと思われる。「虫殺し」は、その後「乾燥」→「保存」の工程を経るため種皮の出土と関連せず、また水流を必要としないことから、SK676・SK677で行われた可能性はかなり低いと思われる。乾燥して硬くなったトチの実の皮を剥きやすくするために、土坑内に水をためて「ふやかし」た後、その場で「皮むき」を行い、水流のある場所で「水さらし」を行ったと想定できるのではないか。

出土遺物や放射性炭素年代測定結果から、SK676は9世紀前半から10世紀前半、SK677は9世紀後半から10世紀初頭に使用されたと思われるが、この時期の遺構は他に検出することができなかった。調査区外に広がっている可能性は否定できないものの、試掘調査結果からはその可能性は低いものと思われる。徳山地区において、平安時代の竪穴住居跡は検出されておらず、通常の集落跡と呼べるような遺跡はいまのところ未確認である。しかし、宗教的な性格を持つ施設としては、上原遺跡や寺屋敷遺跡、寺平遺跡で礎石建物跡や掘立柱建物跡が検出され（春日井2003）、『美濃国神名帳』（天慶～天徳年間）には「山手」集落の加茂神社の記載がある。この加茂神社は、山手宮前遺跡の発掘調査では確認できなかった（小谷ほか1997）が、平安時代における徳山地区の特色として宗教的施設の多さを指摘できる。このような徳山地区における古代の遺跡の確認状況については、中世以降の土地改変による影響を考慮しても、通常の居住に関わる遺構が検出されていないことを重視する必要があるかもしれない。

上原遺跡や「山手」集落は、揖斐川を挟んだ対岸に位置しており、尾元遺跡の水場遺構は、宗教的施設に関わる人々によるものである可能性が考えられる。

表89　主な平安時代遺跡の消長

遺跡名	建物遺構	9世紀	10世紀	11世紀
塚遺跡	なし			
寺平遺跡	礎石建物跡 掘立柱建物跡			
寺屋敷遺跡	礎石建物跡			
磯谷口遺跡	なし			
山手宮前遺跡	なし			
尾元遺跡	なし			
上原遺跡第2地点	掘立柱建物跡			
上原遺跡第3地点	掘立柱建物跡			

遺物が確認できる時期
遺構の存続時期（遺物から想定）

2　縄文時代前期後葉の土器

今回の調査で出土した縄文時代前期後葉の土器は、東海地方の土器編年では大麦田Ⅰ式から北裏ZⅣ式[1]に相当し、近畿地方の北白川下層Ⅱc式から北白川下層Ⅲ式に併行するものと思われる。この時期における美濃地域の土器は、増子氏が再三指摘しているように[2]地域性を持った土器が主体となっている。しかし、遺跡が所在する揖斐郡藤橋村は、岐阜県西部に位置し近畿地方に近いためか、東海地方西部で設定された土器編年の内容とは異なる部分が認められるため、徳山地区で出土した前期後葉土器を中心に器種組成及び器種毎の変遷を検討した。

(1)　器種の検討

尾元遺跡の前期後葉土器は、器形が判明する土器が数点と少ないため、施文技法による分類を行った（第3章第2節）が、徳山地区の小の原遺跡（宇野ほか1991）や上原遺跡（河村ほか1998、堀田ほか2000)、県内美濃地方の御望遺跡（内堀ほか1995)、阿曽田遺跡（渡辺ほか1985)、芦渕遺跡（高木ほか1988）などの器形が判明する土器も含めて検討し、器形と文様の施文部位、施文技法により以下のように器種を設定した[3]。なお、土器は、器形の大きな違いで深鉢と浅鉢、鉢に分けられるが、浅鉢は諸磯式の列孔浅鉢が搬入あるいは模倣されたものがあり、鉢は数量が少ないため検討は行わず、器種に細分したのは深鉢だけである。

深鉢A類　底部から口縁部にかけて緩やかに開く器形で、頸部の括れや胴部の膨らみが小さく、突帯による文様を口縁部に施す。口縁部がやや内彎するか直線的で、胴部の下位でやや膨らみを持つものをA1類、口縁部が直線的で胴部の上位から中位で膨らみを持つものをA2類、底部から口縁部にかけて直線的に開くものをA3類、器形はA2類やA3類と同様であるが口縁部内面を肥厚させるものをA4類とした。A1類からA3類の文様は、口縁部に平行する横位の直線を幅狭く施すもの（文様a種）が主体で、A4類では文様帯の幅が広く、口縁部に平行する文様と弧状線や斜行線など横方向に展開させるものを組み合わせた文様（文様b種)、半円形や円形などの単位文様と平行線や弧状線、斜行線など横方向に展開させるものを組み合わせた文様（文様c種）を施すものが多い。

清水ノ上Ⅲ式では、胴部の膨らみが下位にあるものが多く、大麦田Ⅲ式では中位から上位にあるものが多いことから、A1類からA2類・A3類への変化が想定される。また、口縁部内面を粘土紐の貼り付けにより肥厚させるものは、北白川下層Ⅲ式の要素として従来から指摘されていることから、A4類をより新しく位置づけることが可能と思われる。

深鉢B類　A類と比較して頸部の括れが強い器形で、口縁部は内彎若しくは屈曲し、突帯による文様を口縁部に施す。口縁部が内彎して頸部の括れがやや強く、胴部の下位で膨らみを持つものをB1類、口縁部が強く内彎するか屈曲するものをB2類、口縁部が内彎するか屈曲し胴部の膨らみが上位から中位にあるものをB3類とした。B1類やB2類、B3類には文様a種・文様b種が口縁部と屈曲部や湾曲部の間に施されるが、B3類と同様の器形で屈曲部よりも下に文様帯が広がるものをB4類とした。B4類には文様b種・文様c種が施されるものもある。

器形では、A類と同様にB1類からB3類の変化が想定でき、A2類・A3類とA4類の文様帯の拡張がB3類とB4類との間にも認められることから、B4類はより新しくなる可能性がある。

深鉢C類　口縁部が内彎若しくは直線的で、頸部が括れる器形で、突帯による文様がほぼ口縁部の幅に対応して施される。口縁部が内彎若しくは直線的に立ち上がるものをC1類とした。小の原遺跡SB

1のC1類土器[4]は胴部が中位で張る器形であるが、他の頸部まで残存する例からはB1類と同様に下位で膨らみを持つか、直線的に底部へ続く器形も考えられる。C2類は、口縁部が直線的で頸部が強く括れ、胴部がやや強く張るものである。器形上はC1類からの直接的な変化と見なすことに疑問な点もあるが、小の原遺跡SB1C1類の器形や、口縁部文様が口縁部幅に対応して施されること、C類の口縁部文様が基本的に文様b種・文様c種を主体とすることから両者をC類にまとめた。器形はC2類に類似するが、口縁部がやや長くなり、口縁部内面を肥厚させるものをC3類とした。C1類には文様a種と文様b種が、C2類・C3類には文様b種と文様c種が施される。

口縁部が直線的になることや、口縁部内面の肥厚などからC1類からC3類への変化が想定できると思われる。

深鉢D類　口縁部が短く頸部は強く括れるか屈曲し、胴部が強く張り、突帯による文様を口縁から胴部に施す。口縁部が直線的なものや屈曲するものをD1類、口縁部が強く内彎するものをD2類、口縁部内面を肥厚させるものをD3類とした。A類からC類との大きな違いは、胴部に文様を施すことである。口縁部が短いため、口縁部は文様a種が施されることが多く、D1類の胴部には文様b種を胴部上半に施すものが主体で、D2類・D3類の胴部には文様b種・文様c種を胴部下位にかけて施す。

深鉢E類　頸部が屈曲して口縁部が内彎し、底部から上方に立ち上がって胴部で外方に強く張り出す器形で、突帯による文様を施す。口縁部内面が肥厚し縄文帯となるのが一般的である。胴部には縄文を地文として施すだけのものをE1類、胴部にも文様を施すものをE2類とした。E1類・E2類とも口縁部は文様a種、文様b種、文様c種を施すものがあり、E2類の胴部文様は胴部下位にかけて施文され、胴部下半部に縦位突帯を施すものが多い。北白川下層Ⅱ式から大歳山式に特徴的に見られる器形であり、近畿地方からの影響を強く受けているものと思われる。

深鉢F類　沈線や押引沈線、連続刺突により文様を施すもので、器形が判明する資料が少ないため、細分は行わなかった。しかし、文様は文様a種を施すものがあるほか、平行線や曲線、斜行線により幾何学的な文様を施すものや雑な縦位沈線や斜行沈線などがあり、施文具にも半截竹管と棒・ヘラ状のものがある。文様や施文具、地文の有無などにより細分は可能と思われる。

深鉢G類　無文の土器である。地文に縄文を施すものと施さないものがある。器形には様々なバリエーションがある。

浅鉢・鉢　諸磯b式系の列孔浅鉢のほか、口縁部が内彎する椀形の鉢を数点確認した。鉢に施される文様は、深鉢と共通するものがある。

（2）　文様の検討（図156）

深鉢A類から深鉢E類に施される文様は、大きく3種類に分けることができる。文様a種は、口縁部に平行する直線を基本とするもので、少条の平行線と口縁端部との間に「)(」状（対向弧文）や「ノ」状などの短い突帯を付けるものをa1種、平行線が1～3条のものをa2種、平行線が4条以上のものをa3種、波状口縁で4条以上の平行線が口縁部に沿うものと、水平に巡るものとに上下に分かれるものをa4種、平行線上に短い縦位線を重ねるものをa5種、多条沈線上に縦位の短い突帯を貼り付けるものをa6種とした。a1種とa2種は、清水ノ上Ⅲ式と思われる小の原遺跡SB1出土土器や清水ノ上貝塚に同種の文様があり、a3種やa4種はa2種の多条化したものと考えられる[5]。a5種はD類やE類の口縁部に多く用いられる文様で、系譜的には異なるものである。文様a1種～a3種は深鉢A類やB類に

表90　器種と文様、施文技法の対応関係

器種＼文様	a1種	a2種	a3種	a4種	a5種	a6種	b1種	b2種	b3種	c種
A1類	刻・刺・縄	刻・縄・素								
A2類		刻・刺・縄・素	縄	刺・素						C字
A3類		縄・素								
A4類		縄	縄					縄		縄
B1類	縄	刻・縄					刻・縄			
B2類	刻・縄	刻・縄	縄					刺		刺
B3類		刺・縄								
B4類		縄	刻・刺・縄・素		刻				素	縄・素
C1類	縄						刻	縄		
C2類								C字・縄・素	縄	C字・縄
C3類								刻・C字・縄	縄	
D1類		C字			C字	C字				
D2類					C字・く字・Σ字					
D3類		C字・Σ字						縄・素		C字
E1類		C字・Σ字			縄			C字・Σ字		C字・素
E2類		C字						C字		Σ字

＊刻－突帯上を刻むもの　　刺－突帯上を刺突するもの　　縄－突帯上に縄文を施すもの
C字－突帯上を半截竹管状工具により押引きするもの　　く字－突帯上にく字状の押引きを施すもの
Σ字－突帯上にΣ字状の押引きをするもの

多く用いられ、文様a4種は深鉢A類に限られる。

文様b種は、1～2条ずつの横位の直線で上下を区画し、その間に横位の直線や弧状線、斜行線などを横方向に展開するもので、区画内の横位直線の途中に楕円形の文様を入れるもの（棒軸楕円文）をb1種、弧状線や斜行線などを連続させるものをb2種、両者が組み合わさったものをb3種とした。b1種に類似した文様は、小の原遺跡SB1出土土器に認められることからb2種・b3種よりも古い文様と思われるが、b2種については系譜が不明である。文様b種は、深鉢A類やB類に用いられる例があるが、主に深鉢C類に使用されることが多く、深鉢D類の胴部文様やE類の文様にも多い。

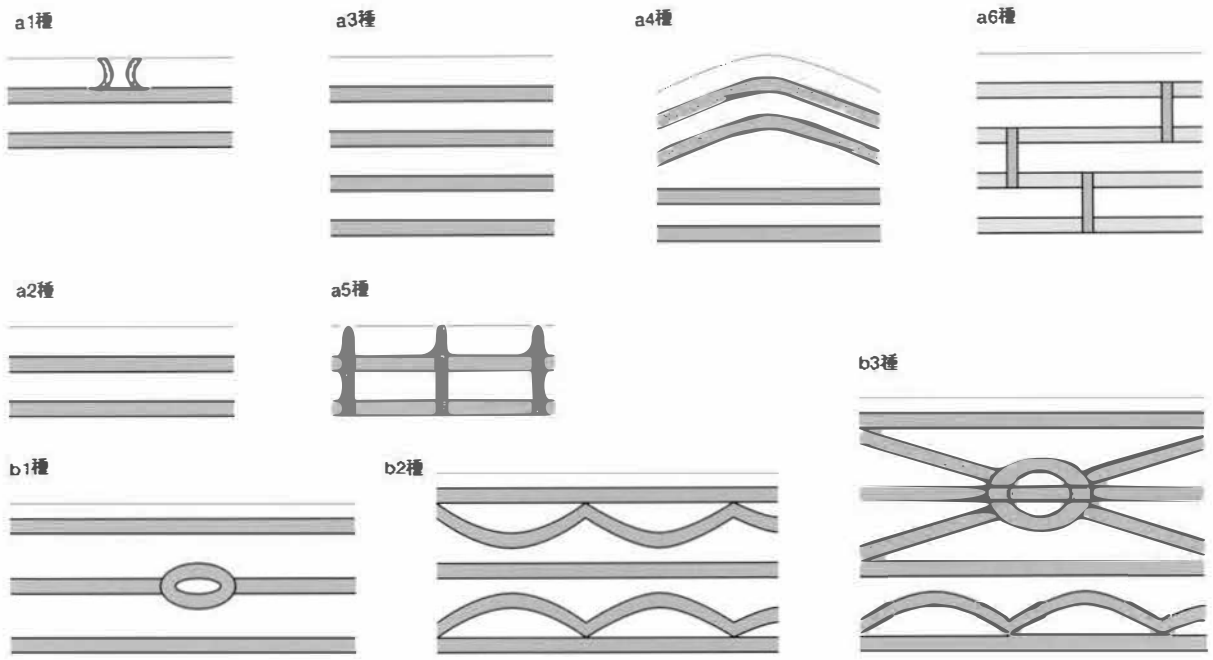


図156　文様模式図

表91　各器種の出土状況

	＼器種 遺跡名	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	F	鉢
1期	小の原-SB1	a1, a2								b1								○	△
2期	小の原-SB2	a1, a2				a2	a2											○	△
	阿曽田-SB53					a2	a1			a1								○	
	阿曽田-SB2	a1				a1	a1											○	
	阿曽田-SB21	a1				a1	a1											○	△
	御望-SB10	a2					a2											○	△
3期	御望-SB8	a1, a2	a2				a2	a2		b2								○	△
	尾元-SB7			a2					a3										
	尾元-SB6								a5										
	上原2-SB5	a2	a2					a2										●	
	尾元-SK145		a4																
	尾元-SK154			a2															◇
4期	上原4-P01										b2								
	尾元-SK148										b2								
	尾元-SB4		a2						a3			b2	a7					○	
5期	尾元-SK105										b2		a2						
	尾元-SK380																		○
	芦戸-SX1		a2								b3	b2, b3						○	
	芦戸-SX2		a2, a4						a3		c	b2, b3						○	
	上原1-SB2				a2, b2							b2				c			
	上原1-SB3		a2		a2, c							b2	a2		a2	a2			○
	上原1-SB7				a2						b2, b3	b2, b3	a5			a2, a5			
	上原4-SB1		a2								b2, c			a5, c					
	上原1-SK3																b6		
6期	阿曽田-SB23														b2				
	上原1-SB5				b2, c									a5	a2, b2, c	b2			
	上原1-SB1										b2			a2					
	御望-SB2											b2				a2, b2, c	a2, c	○	

△－諸磯式系の列孔浅鉢が出土していることを表す　　○－F類、椀形の鉢が出土していることを表す
◇－北白川下層式系の鉢が出土していることを表す　　＊遺構の時期を確定するものではなく、出土土器の時期的傾向を表す

文様c種は、文様b種に単位文様となる円形、半円形、紡錘形、縦位線などを要所に配置したもので、横位に展開する文様は単位文様間をつなぐあるいは埋める構成となる。今回細分は行っていないが、単位文様や組み合わさる横位の文様の検討によって細分は可能と思われる。深鉢C類の口縁部文様に用いられる例が少しあるが、主に深鉢D類やE類に用いられるものである。また、深鉢E類においては、下位の区画線より下に縦位の文様を底部にかけて施す例が多く認められる。

なお、文様と器種及び施文技法との関係は、表90にまとめたが、検討した遺跡数に限りがあり、施文技法に関しては報告書の記載に基づいている。また、数量的なものは示していない。

(3)　各器種の共伴関係

分類した器種の出土状況を、竪穴住居や土坑出土土器によって確認したものが表91である。いずれも埋土中から出土したものであり、ある程度の時間幅を考慮する必要があるが、器種の消長や組み合わせを見る目安になると思われる。ただし、出土土器が破片の場合、器種の細分類の比定には困難な部分があるが、胴部片が図示されている場合はそれを参考にして器種の認定を行った[6]。

A1類とB1類、B2類、F類は共に出土する例が多く、A2類、B3類、C1類と出土した例もある。A2類はB3類やB4類、C類、D類と出土した例があるが、C2類やC3類との共伴例が目立つ。A4類はC2類、C3類、D類、E類と出土する例が多く、B4類はA3類、B2類、C2類、C3類との出土例が少しずつある。C1類はA1類、B1類、B2類、F類と出土しており、C2類はA1類やB1類、B2類、E2類と出土

する例がない。C3類もA1類、B1類、B2類と出土する例がないが、E2類との出土例が少しある。

（4） 時期設定（図157・図158）

設定した器種の共伴例や器種毎の文様と施文技法の関係から、1期～6期に時期区分を行った。

1期 突帯上に斜めの刻みを施すものが主体となる時期で、小の原遺跡SB1に代表される。深鉢A1類、B1類、C1類が存在し、F類や列孔浅鉢が伴う。文様はa1種、a2種が主体で、C1類にはb1種が用いられる。増子氏による清水ノ上Ⅲ式に相当し、北白川下層Ⅱc式に併行すると思われる。

2期 突帯上に縄文を施す土器が主体的となるが、徳山地区の小の原遺跡SB2では突帯上に刻みを施すものの比率が高い。深鉢A1類、B1類、B2類が主体となり、これにF類、G類や列孔浅鉢が伴う時期で、阿曽田遺跡SB21や小の原遺跡SB2に代表される。文様はa1種やa2種が大半を占めるが、b1種もこの時期に用いられている可能性がある。施文技法は、突帯上に縄文を施すものが多いが、刻みや素文のものも存在し、その比率は地域的に差があると思われる。なお、この時期の刻みは、清水ノ上Ⅲ式に見られる刻みが比較的深く明瞭に施されるのに対し、浅いものが多いように思われる[7]。この時期と思われる御望遺跡SB10が、増子氏により大麦田Ⅰ式に比定されている。近畿地方では、栗東町下鈎遺跡SH1出土土器の内容は2期から次の3期に類似していると思われるが、この資料は北白川下層Ⅱc式とされている（網谷1999）。

3期 深鉢にA2類、A3類、B3類、B4類が加わり、B1類は無くなっていく時期で、御望遺跡SB8や尾元遺跡SB7に代表される。御望遺跡SB8では、列孔浅鉢が伴い深鉢A1類、B2類が存在することなど、2期に類似する要素が多いが、突帯上を刺突するものが増加し、深鉢C1類と思われる土器に文様b2種が施されることから、この時期に含めた。文様はa2種、a3種、a4種、b2種がある。深鉢と文様の変化もあるものの、施文技法の違いを重視しこの時期を設定したが、これらは徳山地区と平野部との地域的な差を示す可能性があり、2期とは分離すべきではないかもしれない[8]。この時期と思われる御望遺跡SB8は、増子氏により大麦田Ⅱ式に比定されている。

4期 器種構成が多様化し、深鉢A2類、B4類、C2類、C3類などが主体となり、これにD1類、D2類、F類、G類が伴う時期で、1期から3期の列孔浅鉢が伴うことはなくなり、新たな深鉢として椀形の鉢が登場するが出土量は少ない。久須田遺跡第15号住居出土の鉢はこの時期のものと思われる（河野ほか1991）。文様も多様化し、a2種、a3種、a4種、a5種、b2種などがある。施文技法は、突帯上に縄文やC字の押引きを施すものが主体となるが、刻みや刺突、素文のものも存在する。突帯上にC字の押引きを施すものは、徳山地区に多く認められる。増子氏の編年に合わせれば、大麦田Ⅲa式に相当すると思われるが、器種組成、文様、施文技法など大麦田Ⅲa式の定義とは異なる部分がある。近畿地方とは、突帯上にC字の押引きを施すことから、北白川下層Ⅲ式に併行すると思われる。

5期 口縁部内面を肥厚させる土器の増加が認められ、深鉢A2類、A4類、C2類、C3類が主体となり、B4類やD1類、D2類、D3類、F類、G類が伴う。またE1類、E2類が出現するのもこの時期である。尾元遺跡SK380出土の鉢もこの時期のものと思われる。文様はb3種やc種が加わり、文様b種やc種が深鉢A類に施されるようになる。施文技法はⅡ期と大きく変化はないが、C字押引きに用いる原体が変化している可能性があり、く字状の押引きが認められる[9]。4期と同様にC字やく字状の押引きを施すものは徳山地区に多く、平野部に近い芦戸遺跡では縄文突帯が主体である。この時期と思われる芦戸遺跡SX2は、増子氏により設定された大麦田Ⅲb式の基準となった資料である。近畿地方と

は、C字押引きあるいはく字状の押引きを施すことから、北白川下層Ⅲ式に併行すると思われる。

6期　深鉢B類が消失し、A類やC類は減少しているようである。これらに替わってE類が主体となり、D類、F類、G類が伴う時期である。文様はc種が多くなり、施文技法では、突帯上にく字状やΣ字状の押引きを施すものが主体となり、底部外面に抉りを入れるものがある。また、為岡遺跡ではこの時期と思われる椀形の鉢が出土している（松田ほか1995）。器形・文様・施文技法など近畿地方の北白川下層Ⅲ式から大歳山式に類似しており、5期までの地域性が弱くなった段階と思われる。

前期後葉の突帯文土器を主体とする時期について、器種組成と文様や施文技法により6期区分を試みた。しかし、破片資料の器種認定には困難が伴い、誤りを含んでいる可能性は十分にあると思われる。また、個々の文様の変化や施文技法の細部、縄文や施文原体などは検討を行っておらず、この時期設定が不十分なものであることは否めない。しかし、深鉢C類の存在や突帯上に縄文を施文する土器の多さは、この地域に特徴的なものと思われる。管見による限りでは、近畿地方では深鉢C類の出土例が限られる。志高遺跡例（三好ほか1989、第39図33）は器形や口縁部文様は類似するが、胴部にも文様を施しており、深鉢C3類に近畿地方の要素が加わったものと思われる。2期から5期にかけては東海地方西部で独自の器種が発達し、6期にも少量ながら残存する。近畿地方に接する徳山地区では、平野部周辺以東の土器群とは若干の地域差が認められた。東海地方西部の土器圏に含まれながらも、近畿地方とのつながりを色濃く残す徳山地区の特色が、前期後葉においても確認できたことは重要である。器種毎に未検討あるいは不十分な点を検討し、周辺地域との比較を行うことによって、この時期の土器の様相がより明らかになるものと思われる。

1）　増子康真氏により精力的な研究が行われている（増子1982・1985・1992・1993・1996、増子ほか1999など）。この研究によれば、前期後葉の土器編年は小御所式→清水ノ上Ⅲ式→大麦田Ⅰ式→大麦田Ⅱ式→大麦田Ⅲa式→大麦田Ⅲb式→北裏ZⅣ式のように細分される。

2）　1）であげた文献などで、東海地方西部での地域性を示し、近畿地方とは異なる組成の土器群であることを述べている。

3）　器種設定を検討する際に、増子氏や高木氏の分類（増子1992、増子1996、高木ほか1988）を参考にした。

4）　報告書第11図24（宇野ほか1991）、本書図157-2の土器である。胴部にも文様を施す点は、この地域のものとしては異質で、諸磯b式の影響を考える必要があるかもしれないが、文様は清水ノ上Ⅲ式に見られるものと共通性がある。

5）　増子氏は大麦田Ⅰ式から大麦田Ⅲ式への変化を検討する中で、少条の突帯から多条の突帯へ変化するとされている（増子1996）。

6）　特に問題となるのは、頸部の括れや胴部最大径の位置を器種細分の目安とする深鉢A類、B類である。A1類～A3類、B1類～B3類に関しては器種認定に混乱を含む可能性があると思われる。

7）　個々の土器の刻みを計測したわけではなく、あくまで感覚的な印象である。

8）　器種の細分の問題は6）に示したとおりであり、文様の細分に関しても破片資料の場合、a1種とa2種を明確に区別することは難しい。2期に認められたような縄文突帯が主体となる平野部以東、突帯上を刻むものが一定量存在する徳山地区といった関係が、継続しているのならば、徳山地区において突帯上を刺突するものが平野部よりも多いことは時期差とはならない可能性がある。

9）　施文原体の変化については、山岸洋一氏によって詳細に検討されている（山岸1996）が、今回は原体に関しては検討を行っておらず、将来的な課題である。

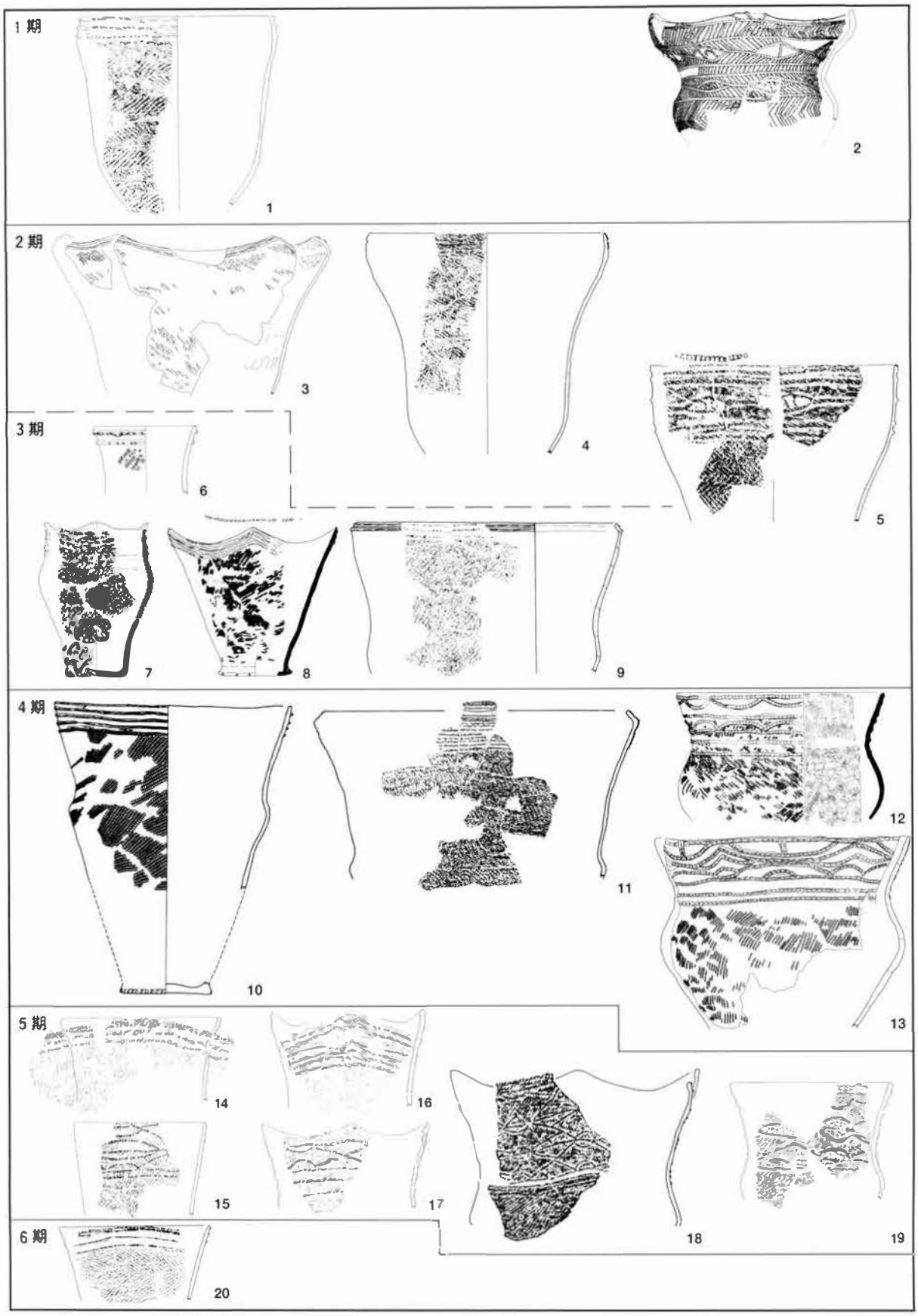


図157　各時期の深鉢A類・B類・C類

1－小の原遺跡SB1　深鉢A1類文様a2種
2－小の原遺跡SB1　深鉢C1類文様b1種類似
3－御望遺跡SB10　深鉢B2類文様a2種
4－御望遺跡SK5　深鉢B1類文様a2種
5－小御所遺跡　深鉢C1類文様b1種
6－御望遺跡SB8　深鉢A1類文様a2種
7－尾元遺跡SK145　深鉢A2類文様a1種
8－尾元遺跡SK154　深鉢A3類文様a2種
9－上原遺跡第2地点SB5　深鉢B3類文様a2種
10－芦戸遺跡1号土坑　深鉢A2類文様a3種
11－芦戸遺跡包含層　深鉢B1類文様a3種
12－尾元遺跡SK148　深鉢C2類文様b2種
13－上原遺跡第4地点P1　深鉢C2類文様b2種
14－上原遺跡第1地点包含層　深鉢A4類文様a2種
15－上原遺跡第1地点包含層　深鉢A4類文様b2種
16－上原遺跡第1地点SB1　深鉢A4類文様c種
17－上原遺跡第1地点SB2　深鉢A4類文様b2種
18－芦戸遺跡包含層　深鉢C3類文様b3種
19－上原遺跡第1地点包含層　深鉢C3類文様b3種
20－落合五郎遺跡1号住　深鉢A3類文様a2種
21－尾元遺跡SB4　深鉢D1類文様a6種
22－久万田遺跡15号住　鉢
23－上原遺跡第1地点SB3　深鉢D1類文様a2種・b2種
24－尾元遺跡SK105　深鉢D1類文様a2種・b2種
25－上原遺跡第4地点SB1　深鉢D2類文様a5種・c種
26－上原遺跡第1地点SK3　深鉢E2類文様b2種・b2種
27－尾元遺跡SK380　鉢
28－上原遺跡第1地点SB1　深鉢D2類文様a5種・c種
29－御望遺跡SB2　深鉢E1類文様c種
30－御望遺跡SB2　深鉢E2類文様c種
31－御望遺跡SB2　深鉢E1類文様a2種
32－乙剛遺跡9号住　鉢

図出典文献
1・2－宇野ほか1991　3・4・6・29・30・31－内堀ほか1995　5－夏目1992　9－河村ほか1998
10・11・18－高木ほか1988　13・14・15・16・17・19・23・25・26・28－堀田ほか2000
20－河野ほか1988　22－河野ほか1991　32－長田ほか1995

*1図の縮尺は、文献のスケールを参考に1/8（11は1/10）に縮小した。

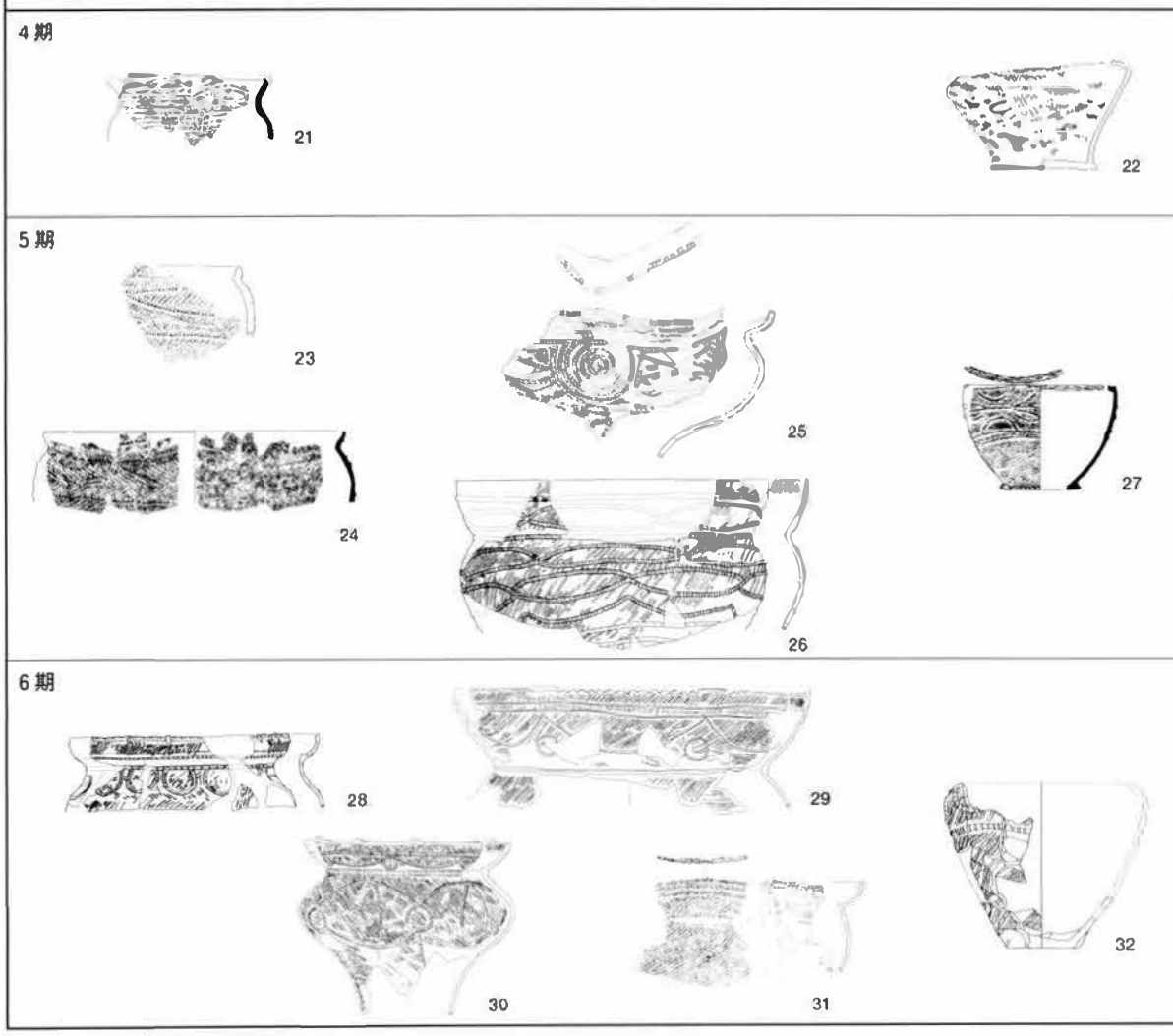


図158　各時期の深鉢D類・E・鉢

3　縄文時代前期後葉の遺構の変遷

前項において行った時期区分に従い、検出した遺構の時期比定を行うと次のようになる。

3期－SB6・SB7・SK145・SK154

4期－SB4・SK148

5期－SK105・SK380

3期のSB6とSB7は重複しており、時期的には前後関係にあるが、重複部分は中期後葉のSB2と丁度重なっており、調査時には確認できなかった。3期に比定したものの、少量の出土遺物により行ったものであり不確かさはある。SB6出土の128は、突帯上に刻みを施す小破片であり、器形や文様とも全容は把握できない。一応深鉢B4類、文様a5種と思われるが、突帯上に刻みを施すことから、3期に含まれるものと考えた。また、129は深鉢G類であるが、口縁端部を内側に折り返し肥厚させている。口縁部内面の肥厚という面のみでは、5期以降のものとなるが、折り返す手法が5期以降の内面肥厚とは異なるものであり、これによる時期比定は避けた。SB7出土土器は、SB6よりは多いものの、個体数は限られる。133～136は同一個体片で、141と共に深鉢B4類、文様a3種である。133は突帯上を刺突するものであることから、3期のものと判断した。SB6とSB7との比較では、SB6出土土器に文様a5種や口縁端部の折り返しによる内面肥厚など、新しい時期につながる要素が認められることから、SB6の方が新しい可能性があると思われる。SK145出土の148は、深鉢A2類で文様a4種を施す。突帯上を半截竹管状工具による刺突を施すことから3期に含めたが、文様a4種は芦戸遺跡SX02出土の北陸的とされる土器（高木ほか1988、第37図1）にも認められ、比較的新しい傾向の文様である。SK154出土の153は、深鉢A3類で文様a2種を施す。器種としての深鉢A3類や文様a2種は6期まで存続するもので、これだけでは時期比定は困難である。だが、157・158は底部から胴部の立ち上がりが大きく開き、鉢と思われる器形で、赤彩が認められることから3期のものと考えた。さらに、土坑墓であるSK145とSK154はL字形に近い状態で配置されており、何らかの意味を持つ可能性がある。

SB4出土の85は、深鉢D1類で口縁部から胴部上半にかけて文様a6種を施す。深鉢D1類は4期以降に出現する器種で、文様a6種は他に例を見ない。89は深鉢A2類（A3類の可能性もある）で文様a2種を施す。86～88は同一個体と思われ、内面肥厚帯の存在や、87・88を口縁端部を欠く■縁部片と見なし、深鉢C3類の可能性が高いと判断した。深鉢C3類の存在から5期の可能性も考えられるが、突帯上は無加工の半截竹管状工具[1]によるC字の押引きを施すことから4期に含めた。SK148出土の151は、深鉢C2類で文様b2種を施す。突帯上は無加工の半截竹管状工具によるC字の押引きを施すことから4期に含めた。

SK105出土の165は、深鉢D1類で口縁部には文様a2種、胴部上半には文様b2種を施す。突帯上は、先端部を加工した半截竹管状工具[2]による押引きを施すことから5期に含めた。SK380出土の160は椀形の鉢で、文様b3種を施す。口縁部内面に突帯を貼り付けているが、口縁端部を広げて2条の突帯を巡らしており、5期以降に見られる内面肥厚とはやや異なる。b種文様は1～2状の横線で上下を区画するが、上部の横線が口縁端部に施されていると理解することができる[3]。

3期から5期にかけての集落の状況は、1～2軒の住居跡と1～2基の土坑墓が各時期に存在することを示しており[4]、SB6とSB7が同時期に存在していないことから、1時期には1軒のみの集落跡となる。

表92　徳山地区の前期後葉

	小の原	上原第1地点		上原第2地点	上原第4地点		尾元	
	住居跡	住居跡	土坑墓	住居跡	住居跡	土坑墓	住居跡	土坑墓
1期	SB1							
2期	SB2							
3期			SK5	SB5			SB6・SB7	SK145・SK154
4期						P01	SB4	SK148
5期		SB2・SB3・SB7	SK3		SB1		SK105	SK380
6期		SB1・SB5・SB6・SB8						

徳山地区で確認された縄文時代前期後葉の集落跡は、小の原遺跡と上原遺跡がある。時期比定を行うと表92のようになる。上原遺跡の時期比定については、報告者と多少の違いがあるが、これは上原遺跡において縄文突帯文土器を古相、特殊突帯文土器を新相とする変遷観によるものと思われる（堀田ほか2000）[5]。1期から6期の徳山地区における集落を概観すると、1期から4期にかけては各時期1軒ずつの竪穴住居跡があり、5期から6期では上原遺跡で複数の竪穴住居跡が存在していたと思われる。しかし、中期初頭の竪穴住居跡は、徳山地区内では今のところ未確認である。また、県内において墓坑が住居に近接して設けられるようになるのは、今のところ飛騨地域の堂之上遺跡例が古く、前期中葉～後葉に位置づけられている（戸田ほか1997）。しかし、美濃地域では若干遅れ前期後葉から認められる。それは御望遺跡（1期～3期）、尾元遺跡（3期～5期）、上原遺跡（3期～5期）などで、この時期から集落内に墓域が設けられていたことが確認できる。

1）　山岸氏が行った特殊突帯文土器に用いられる施文原体の復原によれば（山岸1996）、北白川下層Ⅲ式1期に特徴的な原体1に相当する。

2）　1）文献における、北白川下層Ⅲ式2期に特徴的な原体2に相当する。

3）　網谷克彦氏の御教示による。

4）　SK105は竪穴住居との確証を得ることができず、大型土坑として扱っており矛盾するが、SK105がその周囲にある柱穴状の土坑を含めて竪穴住居跡となる可能性が残されている。

5）　縄文突帯文土器から特殊突帯文土器へといった変遷観は、増子氏の各論文においても見られるものである。しかし、組成比率では小地域差があるものの、概ね1期では突帯上を刻む手法が主体で、極少量ではあるが小の原遺跡SB1で突帯上を縄文施文するものがあり、2期から3期では突帯上を縄文施文する手法が主体となるが、突帯上を刻むあるいは刺突する手法がある。4期から5期では突帯上を縄文施文する手法と突帯上をC字押引きあるいは撫で引きする手法が共存し、6期になり突帯上を縄文施文する手法は全体的に減少するものの先端を加工した半截（多截）竹管状工具（山岸氏による原体3や原体4）による押引きや撫で引きする手法と共に存在すると思われる。

4　縄文時代中期後葉の土器

SB2から出土した土器は、いわゆる里木Ⅱ式に類似する土器（C2群a類）と徳山地区においては「在地化した船元Ⅲ式土器」[1]と言われる土器（C2群b類）で、口縁部に隆帯を用いたり、刺突や短沈線で文様を描く土器である。「在地化した船元Ⅲ式土器」と言われるものは、沖田遺跡住居跡出土土器[2]（紅村ほか1974）、牧野小山遺跡（紅村ほか1973）、門野遺跡（夏目ほか1991）[3]、戸入村平遺跡（武藤ほか1994、坂東ほか2000）、上原遺跡（河村ほか1998）、徳野遺跡（長瀬1998）など県内の各

遺跡から出土している。しかし、隆帯により文様を施す船元Ⅲ式A類に類似した土器は、間壁氏が定義したもの（間壁1971）とは異なる次のような特徴を持つ。

①地文に縄文を施さないものが多い。

②隆帯上を半截竹管状工具によりなぞらないため、隆帯の断面形は三角形状のものが多い。

③隆帯間に条線（沈線）を施さないものが多い。

④口縁部上端に横位の文様を施すものがある。

⑤口縁部文様帯を上下2段に区分し、上半に横位の隆帯、下半に縦位の隆帯を施すものがある。また、横位の隆帯間に刺突を施すものがある。

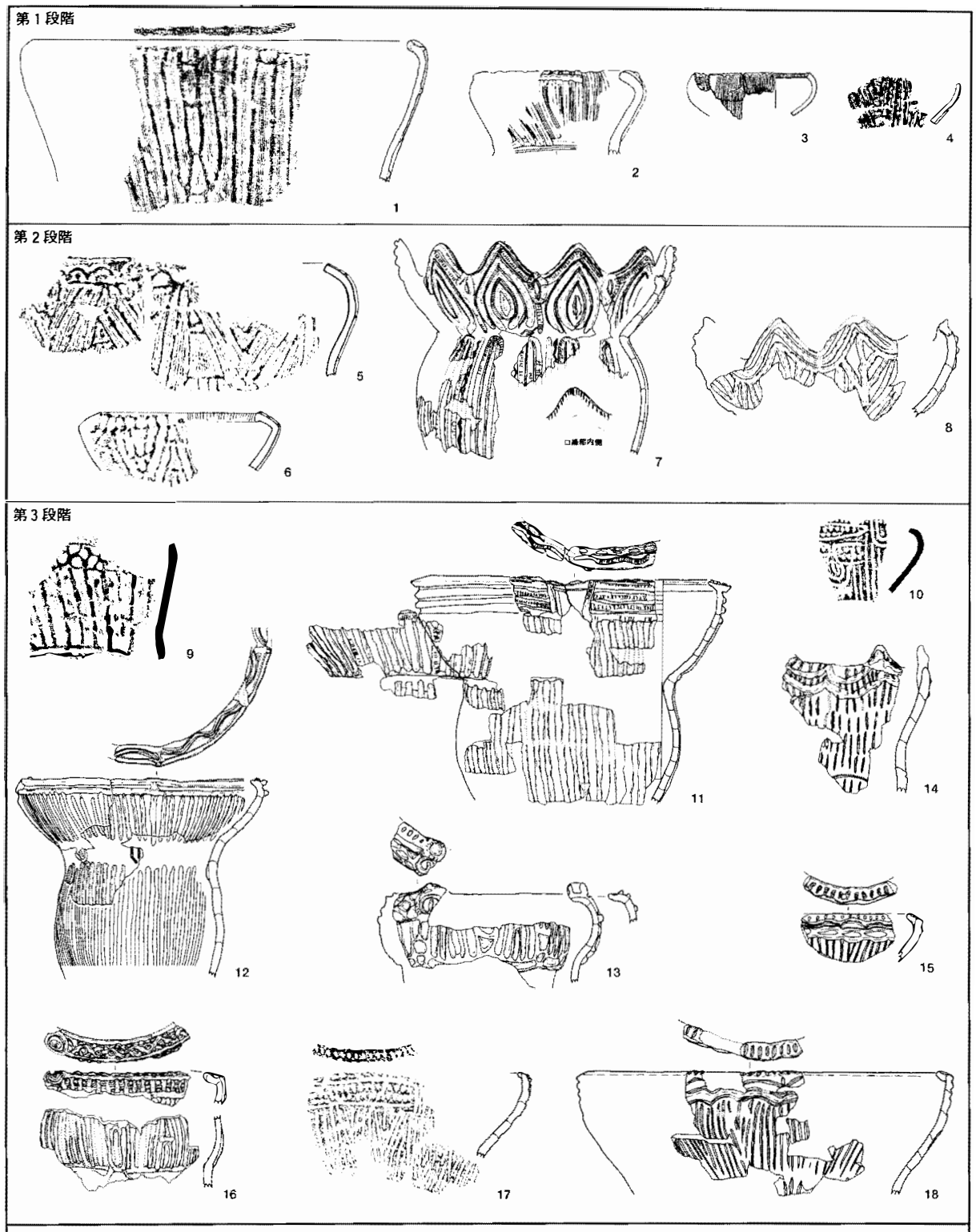
これまでの出土状況から「在地化した船元Ⅲ式土器」は、県内において主体的な土器群とは言い難く、他の土器に伴うような状況で出土しているものが多い。しかし、周辺地域においてもこうした土器群が主体的となる遺跡は確認できない。編年的位置付けは、概ね船元Ⅲ式に併行させるもの[4]と、船元Ⅱ式から里木Ⅱ式に併行させる見解[5]があるが、ここでは後者の見解をもとに各段階毎に特徴を要約する。

第1段階　縦位や斜位の隆帯が口縁部上端から、口縁部と胴部を区分する横位隆帯まで施す。縦位の隆帯間には条線（沈線）を施し、間隔を開けて横位の短い隆帯を付加したり、縦位突帯が下部でつながる。

第2段階　口縁部上端に横位の文様を施し、その下に縦位や斜位の隆帯を施す。隆帯間に条線を施さない土器も出現し、他の文様と数条の縦位隆帯を交互に配置するものがある。上原遺跡C4群土器の中には、単純な横位隆帯の下に縦位隆帯と斜位や多重の紡錘状の文様を交互に配置するものがあり、この段階のものと思われる。船元Ⅲ式E類に類似した土器は、沖田遺跡住居跡では刺突で口縁部を埋める土器が伴出している。上原遺跡では、刺突で埋めるものの他、刺突と沈線を併用するものがある。

第3段階　口縁部上端の文様帯幅が広がり、要所に渦巻き状や円形の文様を置き、波状や格子目状、あるいは数条の隆帯や波状文帯[6]でその間を埋めるもので、下半には縦位の隆帯を貼り付け、斜位のものは見られない。また、口縁部上半の隆帯間に刺突を施すものや、下半の文様が縦位の沈線や刺突列になるものがある。口縁部の上端で内側に屈曲する器形では、屈曲部の上下に横位の文様を施す。隆帯上を部分的に刻むものも見られる。

第1段階は、門野遺跡で藤内Ⅱ式に対比できる土器と同一地点で出土し、ツルネ遺跡でも4号住居跡で同じ頃と思われる土器が出土している（石原ほか1978）。第2段階は、沖田遺跡住居跡で井戸尻Ⅰ・Ⅱ式と思われる土器が伴出し、概ね編年的な位置付けが可能である。また、第1段階と第2段階に見られる隆帯間の条線や、斜位の隆帯による三角形モチーフは、泉氏による船元・里木式土器様式の第3様式bから第4様式と共通する（泉1988）。第3段階では、里木Ⅱ式の古い段階（中富Ⅰ式）と思われる戸入村平遺跡12号住居跡（坂東ほか2000）で第3段階と思われる破片が出土している。覆土から出土したものであり、新しい時期の土器が混在していることから確実ではないが、時期的なものを示唆している可能性がある。第1段階から第2段階では、施文技法や文様構成に船元Ⅲ式A類と共通性が認められながらも、異なる特徴を有していたが、第3段階では船元Ⅲ式A類との共通性がほとんど失われ、独自の変化を遂げた土器群と言えよう。



図出典文献
1－門野遺跡（春日井1998）　2－戸入村平遺跡（武藤ほか1994）　3・4－ツルネ遺跡（石原ほか1978）
5・6－神田遺跡（紅村ほか1974）　9・10－宮之鵬遺跡（大江ほか1976）
7・8・11～18－上原遺跡第2地点（河村ほか1998）

＊図の縮尺は、文献のスケールを参考に1/6に縮小した。

図159　「在地化した船元Ⅲ式土器」変遷図

尾元遺跡SB２から出土した土器は、口縁部上端を屈曲させる器形で、口縁部の上半には横位、その下には縦位の隆帯による文様で構成され、横位の隆帯間には刺突が連続して施されている。要所に三角形状や円形の文様を配置しており、第３段階のものと思われる。現状では第３段階の時期的な位置付けを確定できない状況ではあるが、在地化した船元Ⅲ式土器と言われる土器群は、複数時期にまたがり変遷するものである。また、尾元遺跡SB２と戸入村平遺跡12号住居跡の出土例により、第３段階が里木Ⅱ式の古い段階（中富Ⅰ式）に併行し、さらに、その後の美濃地域独自の土器群に何らかの影響を与えている可能性が考えられる。時期的な位置付けも含めて、今後さらなる検討を行う必要がある。

1）　戸入村平遺跡報告書（武藤ほか1994）などで、船元Ⅲ式Ａ類及びＥ類に類似する土器を在地化した船元Ⅲ式土器としている。

2）　報告書では船元Ⅲ式Ａ類やＥ類に対比されている。

3）　論文中では、船元Ⅲ式Ａ類の変容型とされている。

4）　上原遺跡報告書以外では、船元Ⅲ式に併行するとするものが多く、増子氏は牧野小山遺跡発掘調査成果により設定した、島崎Ⅱ式の組成の中心となるとされている（紅村ほか1972）。

5）　北屋敷式土器と船元Ⅲ式土器に類似した土器とを、搬出した信州系土器との対比から４段階の変遷を想定したことがある（春日井1998）。

また、上原遺跡報告書では、在地化した船元Ⅲ式土器はC4群とC5群に含まれており、C4群は船元・里木第３様式から第５様式に、C5群は船元・里木第４様式を中心に第５様式にかけて併行するとしている。また、一部の土器については観察表において併行する時期を示しているが、その根拠については明示されていない（河村ほか1998）。

6）　数条の細い隆帯による波状文を施すもので、河村ほか1998による。

5　打製石斧の２形態

長さ／幅と質量の関係から、打製石斧をＡ群とＢ群に区分することができた。Ａ群は比較的細長い形態で、幅と厚さに制約がありあまり重くならないもので、Ｂ群は幅や厚さがＡ群よりも大きく、ある程度の重さを持つものである。平面形態においても、Ａ群とＢ群では傾向としての差が認められる。また、これらの２形態は、刃部に残された使用痕の状態の違いと対応する可能性があり、柄への装着方法の違いが考えられる（池谷2000・2001）。図142の長さと幅の相関図において、幅が４cm～６cmの範囲に分布するものはＡ群であり、長さは７cm弱～15cm弱と分布範囲が広い。このことから、長さが短いものは、使用に伴って刃部の破損及び刃部再生を繰り返した結果ではないかとの想定が可能である。

このようなＡ群とＢ群との差については、石材の違いを反映したものである可能性があり、実際に相関図に用いた打製石斧では、Ａ群は砂岩と泥岩が多く、Ｂ群では砂岩・安山岩が多く流紋岩が少量である。加工のしやすさや剥離の仕方、使用痕の残り方などに、これらの石材の違いによる差が生じる可能性がある。しかしその反面、石材によって２つの形態が作り分けられていたとも考えられるのではないかとの疑問も生じる。そこで、いくつかの遺跡から出土した打製石斧の相関図を、尾元遺跡のデータ（Ａ群・Ｂ群）も合わせて表示し（図160）、打製石斧の２形態が抽出できるか確認した[1]。

上原遺跡第１地点は、早期や中期の土器も出土しているが、前期後葉を主体とする集落遺跡で、完形品と思われる55点のデータを使用した。石材は砂岩と泥岩が主体で、次いで安山岩が多い（堀田ほか2000）。相関図では、Ａ群と同様に横に分布が広がる一群と、Ｂ群と同様に上に広がる一群が確認できる。

山手宮前遺跡は、前期から晩期の遺物が出土しているが、中期後葉を主体とする集落跡で、完形品と思われる12点のデータを使用した。石材は砂岩と粘板岩である（小谷ほか1997）。完形品の数量は少ないが、相関図では２つの分布が認められ、Ａ群とＢ群の分布域に重なる。

上開田村平遺跡は、早期から晩期までの遺物が出土しているが、中期末葉を中心とする集落跡で、完形品と思われる17点のデータを使用した。石材は砂岩が多く、ほかに粘板岩、安山岩、流紋岩などがある（武藤ほか1999）。相関図では２つの分布が認められるが、1,000ｇを超える質量のものがある。

岩井谷遺跡は揖斐郡春日村に所在し、早期から晩期の遺物が出土しているが、中期後葉から後期が主体の集落跡である。完形品と思われる27点のデータを使用した。泥岩が最も多く、次いで安山岩が多い（浅野ほか2000）。相関図では、Ｂ群に重なるものが１点もなく、すべてＡ群の分布と重なるものであった。

勝更白山神社周辺遺跡は、郡上郡八幡町に所在する。中期末葉から晩期の遺物が出土しているが、明確な遺構は後期中葉の埋設土器だけであり、ほかに土器集中部が認められる程度で、断続的に使用された遺跡とされている。しかし、打製石斧の出土量は850点と非常に多く、このうち130点のデータを使用した。石材は安山岩が最も多く、次いで砂岩、流紋岩と続く（長屋1995）。相関図では、尾元遺跡のものと比較して重いものが多く、Ｂ群の分布域に及ぶものもあるが、全体としては２つの分布に分かれず、Ａ群の分布を覆うように重なっている。

湯屋遺跡は益田郡小坂町に所在する遺跡で、中期から晩期の遺物が出土しているが、中期後半から後期にかけての土坑墓群が検出されている。完形品と思われる42点のデータを使用したが、すべて凝灰岩であった（上嶋ほか1998）。相関図ではあまり明瞭ではないが、２つの分布が認められる。

落合五郎遺跡は中津川市に所在する遺跡で、早期から中期前半の遺物が出土しているが、前期後半を主体とする集落跡である。第２次調査で出土した前期の打製石斧のうち、完形品と思われる64点のデータを使用した。石材は結晶片岩が最も多く、ほかに砂岩、粘板岩などがある（河野ほか1988）。相関図ではＡ群同様の分布を示すが、質量が100ｇ以下のものが多い。

桑飼下遺跡は京都府舞鶴市に所在する後期の遺跡で、多数の炉跡や多量の打製石斧が出土している。打製石斧に残された使用痕から、着柄法や使用法などが分析され、掘り棒としての用途を推定している。完形品と思われる364点のデータを使用した。石材は粘板岩が非常に多く、凝灰岩や砂岩などがある。相関図ではＡ群と同様の分布となり、Ｂ群の分布域に重なるものはない。

相関図に示した８遺跡では、４遺跡で２つの分布が確認できるが、徳山地区の３遺跡と飛騨地域の１遺跡で、数量はＡ群の方が多い。時期は前期後葉から後期のものである。他の４遺跡では、Ａ群の分布しか認められない。時期は同様に前期から後期のものである。Ａ群は各遺跡に普遍的に存在する形態で、Ｂ群は数量的にも少なく、Ｂ群を持たない遺跡がある。これによりＡ群とＢ群の違いは時期差ではなく、地域差あるいは個々の遺跡が持つ内容の違いである可能性が考えられる。また、Ａ群とＢ群の差が器種認定の差ではないかとも思われた。しかし、Ｂ群が認められない４遺跡の中に、打製

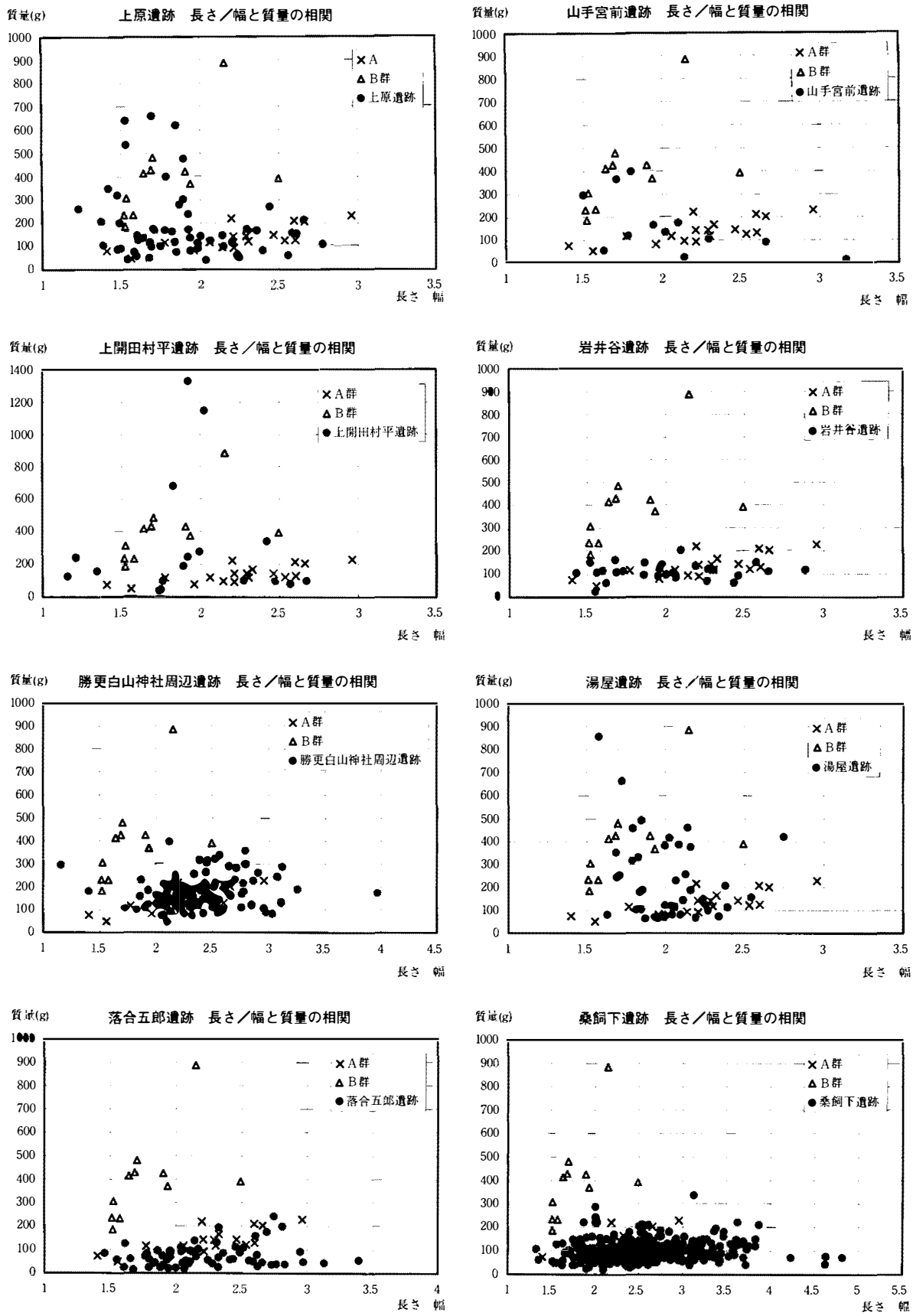


図160　各遺跡における打製石斧計測値相関図

石斧以外の器種でB群に類似したものはなかったことから、その可能性は低いものと思われる。石材による形態差の可能性も、凝灰岩のみの湯屋遺跡でA群・B群の2形態があること、A群しか認められない遺跡で多種の石材が用いられていることから考えにくいと思われる。

打製石斧におけるA群とB群の2形態の存在は、尾元遺跡の状況では着柄法の違いである可能性があると思われるが、相関図を示した8遺跡については使用痕との関係を確認していない。このため現状においては、B群の存在が地域差を示すか、あるいは用途の違いや生業活動などの遺跡の内容の差といった可能性を指摘するにとどめる。打製石斧は前期後葉から増加し、それが根茎類を主とした植物質食糧獲得の道具として使用されたと言われることが多い。しかし、池谷氏が分析した着柄法の違い（池谷2000・2001）や川本氏が行った属性分析による分類（川本1986）など、掘り棒以外の着柄法や使用法を指摘するものもある。B群が存在する遺跡と存在しない遺跡の違いは何であるのか、A群の中に使用痕の違いは認められないかなど検討するべき課題は多く残されている。

1）　各遺跡の報告書に掲載された、完形品と思われる打製石斧の「長さ」「幅」「質量（重さ）」の数値を用いた。使用痕の確認も行う必要があると思われるが、今回は大きさによる相関図の作成にとどめた。

6　徳山における小型剥片石器の石材

尾元遺跡における小型剥片石器[1]の石材は、在地石材であるチャート製のものが90%以上を占め、搬入された石材である下呂石とサヌカイトが数%と少量あるにすぎない。しかし、隣接する上原遺跡や山手宮前遺跡では、黒曜石も出土しており搬入石材の組成に違いが認められる[2]。表93は、徳山地区内でこれまでに発掘調査された縄文時代遺跡における、小型剥片石器の石材の数量をまとめたものである[3]。どの遺跡でもチャートが50%以上を占めるが、中期までが主体となる遺跡では80%以上の高率である。早期から晩期へと時期を経るにしたがって、チャートが占める比率は低くなり、特に後期から晩期においてそれは顕著である。また、現状において確実に搬入石材が用いられるようになる時期は、上原遺跡第1地点の前期後葉からであると思われる。いんべ遺跡上の段においても搬入石材

表93　徳山地区における石器石材

遺跡名	時期	小型剥片石器数量				石材別数量					石材比率				
		石鏃	石錐	石匙	合計	黒曜石	下呂石	チャート	サヌカイト	その他	黒曜石	下呂石	チャート	サヌカイト	その他
長吉	早期主体	3	7	1	11	●	●	11	0	0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
いんべ上	早～中	131	42	18	191	0	2	186	2	1	0.0	1.0	97.4	1.0	0.5
上原1	前期後葉主体	199	97	26	322	5	6	303	7	1	1.6	1.9	94.1	2.2	0.3
尾元	前～中主体	62	24	7	93	0	3	85	5	0	0.0	3.2	91.4	5.4	0.0
山手宮前	中期主体	69	11	6	86	3	1	76	0	6	3.5	1.2	88.4	0.0	7.0
上開田村平	中期主体	39	8	6	53	1	1	49	2	0	1.9	1.9	92.5	3.8	0.0
戸入村平	中～後主体	622	237	19	878	1	21	800	56	●	0.1	2.4	91.1	6.4	0.0
下開田村平	中～後主体	12	1	1	14	0	0	13	0	1	0.0	0.0	92.9	0.0	7.1
上原2	中～後主体	613	254	40	907	3	15	811	77	1	0.3	1.7	89.4	8.5	0.1
塚	中～後主体	229	43	1	273	1	6	184	1	0	0.4	2.2	67.4	0.4	0.0
いんべ下	後～晩	83	8	2	93	0	9	59	24	1	0.0	9.7	63.4	25.8	1.1
はいづめ	晩期主体	28	0	8	36	1	1	20	0	14	2.8	2.8	55.6	0.0	38.9

小の原遺跡は一覧表がなく、数値は不明であるが、ほとんどがチャート製で、安山岩や黒曜石などを少量含む。
塚遺跡は、包含層出土分のみ記入した。
いんべ遺跡は、上の段と下の段の2地点に分かれる。

が出土しているが、出土した土器は早期から中期と幅がある。

石材別に各遺跡での状況を見ると、黒曜石は前期後葉主体の上原遺跡第1地点から見られるようになり、中期主体の上開田村平遺跡や山手宮前遺跡では同程度か比率がやや高いが、中期～後期が主体の各遺跡では比率は小さくなっている。後期末から晩期主体のいんべ遺跡下の段では出土しておらず、晩期主体のはいづめ遺跡でも1点出土しているだけである[4]。このことから黒曜石は、主に前期後葉から中期に搬入、利用されている可能性が高いと思われる。下呂石やサヌカイトは、黒曜石と同様に前期後葉から搬入、利用されている石材であるが、中期以降その比率が増加する傾向が認められる。下呂石は戸入村平遺跡と尾元遺跡において、やや比率が高いものの、中期から後期にかけて2％弱の比率で推移し、後期末から晩期のいんべ遺跡では10％弱にまで増加する。サヌカイトは中期から後期の遺跡で数％に増加し、いんべ遺跡では25％を越えるほどになる。

尾元遺跡における搬入石材の組成比率は、黒曜石がないものの下呂石やサヌカイトについては徳山地区全体の状況を反映していると思われる。

1） 石器石材の変遷や流通を考察した田部氏の論文（田部2001）に倣い、石鏃・石錐・石匙の3器種について石材の比率を算出した。また、石材のうちチャート・下呂石・サヌカイト・黒曜石以外のものは、その他としてまとめた。

2） 尾元遺跡では、黒曜石の剥片が1点出土しているだけである。

3） 報告書の記載に基づき、小型剥片の出土点数が10点以上の遺跡を集成した。なお、表中に示した時期は、遺構が多く検出されている時期を示している。

4） 土器は早期から後期のものも出土しており、他の遺跡の状況からは晩期のものではない可能性が高いと思われる。

7 おわりに

今回の調査では、縄文時代の集落跡と平安時代のトチの実処理施設を検出した。尾元遺跡における土地利用は、縄文時代早期に始まる。B区からまとまって出土した押型文土器は、沢式と神並上層式であり、両者が時間的に近い関係であったことをうかがわせる資料である。A区の押型文土器は、1点の沢式の他は細久保式に類似するものばかりであり、B区の押型文土器とは時期差である可能性が高いと思われる。

縄文時代早期後葉の土器はわずか2点であったが、A区から出土しており、早期末塩屋式の時期には竪穴住居が営まれている。2基の集石土坑は、塩屋式ないしはその前後の時期と思われ、この時期に初めて遺構が作られている。その後前期後葉の集落形成までは、遺物が少量出土するだけであるが、こうした状況は徳山地区内の他の遺跡でも同様である。

縄文時代前期後葉の竪穴住居跡は3軒（その可能性があるものを含めれば4棟）検出したが、竪穴住居跡に近接して土坑墓も確認したことから、徳山地区における竪穴住居と墓地により構成される集落の始まりは、この時期に求められる。しかし、これらの遺構は同時に存在していたものはなく、竪穴住居跡と土坑墓のそれぞれ1基ずつが、3時期ないし4時期にわたって存在している。揖斐川の対岸に位置する上原遺跡第1地点では、8棟の竪穴住居跡や土坑墓を検出しているが、複数軒の竪穴住居跡が同時期に存在していた可能性があり、集落規模としては尾元遺跡よりも大きく、出土遺物の量も多い。上原遺跡第1地点は、時期的にはやや重複する部分がありながら尾元遺跡よりも新しい時期

に位置づけられ、集落が尾元遺跡から上原遺跡第１地点へと移り変わった可能性がある。

縄文時代中期は、断続的に竪穴住居跡が認められるが、これは戸入村平遺跡や上原遺跡第２地点などの、多数の竪穴住居跡を検出した遺跡とは異なる状況である。出土した土器量の少なさも特徴的で、尾元遺跡が比較的短期間の活動の場として、利用されていた可能性をうかがわせる。縄文時代後期から晩期にかけては、少量の遺物が出土するだけであり、居住を必要としないような利用の場へと変化している。尾元遺跡の中でもＡ区とＢ区では、居住域が存在するＡ区と、土器に比して多量の石器類が出土したＢ区といった、遺構の内容、出土遺物に違いが認められる。また、石器においては器種組成や器種の細分類においても、Ａ区とＢ区では相違点が指摘できる。この差が何によるものなのか明らかにできなかったが、単純には土地利用内容の違いと言えよう。徳山地区においては、通常平坦な場に居住域を設けているが、尾元遺跡では平坦な場が広がるＢ区に居住施設がなく、緩やかではあるが斜面に竪穴住居を設けるといった特徴が見られた。

弥生時代から古墳時代の遺物は全く出土していないが、平安時代には堅果類の処理を行う場として利用されている。徳山地区では、弥生時代の遺物は少量出土しているが、古墳時代のものと思われる遺物はなく、奈良時代の後半になって遺構・遺物が確認されるようになる。さらに平安時代になると各所に宗教的な施設が設置され、それを核とした生活が行われるようになる。尾元遺跡では近世まで少量の遺物が出土しているが、どのような土地利用が行われていたのかは明らかにすることはできなかった。

参考・引用文献

浅野哲男・河瀬実浩ほか2000『岩井谷遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第60集)、(財) 岐阜県文化財保護センター

浅野哲男・坂東肇ほか2002『徳山陣屋跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第76集)、(財) 岐阜県文化財保護センター

網谷克彦1989「北白川下層式土器様式」『縄文土器大観1　草創期　早期　前期』、小学館

1999「北白川下層Ⅱb式の細分とⅡc式」『第12回縄文セミナー前期後半の再検討－記録集－』、縄文セミナーの会

池谷勝典2000「打製石斧研究序論－氷遺跡出土の打製石斧について－」『東京考古』18、東京考古談話会

2001「打製石斧研究の着眼点」『佐久考古通信』№82、佐久考古学会

石原哲弥・藤本健三ほか1978『ツルネ遺跡発掘調査報告書』、高山市教育委員会

泉拓良1985「中期末縄文土器の分析」『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ－北白川追分町縄文遺跡の調査』、京都大学埋蔵文化財研究センター

1988「船元・里木式土器様式」『縄文土器大観3　中期Ⅱ』、小学館

1988「咲畑・醍醐式土器様式」『縄文土器大観3　中期Ⅱ』、小学館

井上喜久男1992『尾張陶磁』、ニューサイエンス社

伊庭功・瀬■眞司ほか1997『粟津湖底遺跡第3貝塚』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書1)、(財) 滋賀県文化財保護協会

内堀信雄・橋詰佳治ほか1995『御望遺跡－市道西郷1号線建設に係る緊急発掘調査の記録－』、岐阜市教育委員会

宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館

宇野治幸・大参義一ほか1991『小の原遺跡・戸入障子暮遺跡』(徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第2集)、岐阜県教育委員会

大江　禽・中島勝国ほか1976『宮之脇遺跡発掘調査報告書』、可児町教育委員会

大参義一・佐野康雄ほか1993『追分遺跡・下開田村平遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第5集)、(財) 岐阜県文化財保護センター

春日井恒1998「岐阜県における中期前半東海系土器－北裏CⅡ式～北屋敷Ⅱ式」『縄文時代中期前半の東海系土器群について－北屋敷式の成立と展開－　予稿集』、静岡県考古学会シンポジウム実行委員会

2001「岐阜県における生業関係遺構の現状」『関西縄文時代の生業関係遺構－獲得・加工工・貯蔵・廃棄の諸相－』発表要旨集（第3回関西縄文文化研究会)、関西縄文文化研究会

2003『寺平遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第83集)、(財) 岐阜県文化財保護センター

河村一彦・近藤大典ほか1998『上原遺跡Ⅰ』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第36集)、(財) 岐阜県文化財保護センター

川本素行1986「打製石斧－属性分析の一方法－」『古代』第81号、早稲田大学考古学会

岐阜県教育委員会1985『揖斐川上流域徳山ダム・杉原ダム水没地区埋蔵文化財分布調査報告書』

1989『はいづめ遺跡－徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』

(財) 岐阜県文化財保護センター1997『'97岐阜県新発見考古速報－平成9年度岐阜県下発掘調査報告会』

小池岳史・柳川英司1994『立石遺跡－平成5年度県営圃場整備事業堀地区に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』、茅野市教育委員会

河野典夫・齊藤基生ほか1988『落合五郎遺跡発掘調査報告書』、中津川市教育委員会

河野典夫・中田良三ほか1991『久須田遺跡発掘調査報告書－県営ほ場整備事業阿木南部工区計画に伴う埋蔵文化財発掘調査－』、中津川市教育委員会

紅村弘・増子康真ほか1973『牧野小山遺跡－県道七宗可児線道路工事埋蔵文化財調査報告書』、美濃加茂市教育委員会

1974『飛騨桜洞・沖田』、萩原町教育委員会

小島隆1997「凹石，多孔石考」『三河考古』第10号、三河考古刊行会

小谷和彦・中島康夫ほか1997『山手富前遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第28集）、（財）岐阜県文化財保護センター

小谷和彦・藤岡比呂志ほか2000『いんべ遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第55集）、（財）岐阜県文化財保護センター

後藤秀一1989「縄文時代石器研究の基礎作業－凹石、敲石、磨石の器種分類についての検討－」『考古学論叢Ⅱ』、芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会

斉藤孝正1995「Ⅰ　東海西部」『須恵器集成図録』第３巻東日本編Ⅰ、雄山閣出版株式会社

佐々木由香2000「縄文時代の「水場遺構」に関する基礎的研究」『古代』第108号、早稲田大学考古学会

篠田通弘・千藤克彦ほか1994『長吉遺跡・普賢寺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第12集）、（財）岐阜県文化財保護センター

篠田通弘・増子誠ほか1998『塚遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第27集）、（財）岐阜県文化財保護センター

上島善治・古田靖志ほか1998『湯屋遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第42集）、（財）岐阜県文化財保護センター

縄文時代文化研究会1999「縄文土器全国編年表（中部日本）」『縄文時代』10

鈴木康二1995「「道具」としての石器を考える」『旧石器考古学』第50号、旧石器文化談話会

高木宏和・松本建速ほか1988『芦戸遺跡－一級河川木曽川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』、坂祝町教育委員会

高堀勝喜・山田芳和ほか1986『石川県能都町真脇遺跡』、能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査[illegible]

竹岡俊樹1989『石器研究法』、言叢社

田部剛士2001「石器石材の変遷と流通－主に愛知県の下呂石を中心として－」『三河考古』第14号、三河考古学談話会

徳山村の歴史を語る会1984『徳山村のあけぼのを求めて』

徳山村役場1973『徳山村史』

戸田哲也・大野政雄1997『堂之上遺跡－縄文時代集落跡の調査記録－』、久々野町教育委員会

突帯文土器研究会1993「土器に関する基礎資料」『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』、第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会

長瀬治義1998『徳野遺跡（Ａ地点）』、可児市教育委員会

長屋幸二1995『西乙原遺跡・勝更白山神社周辺遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第22集）、（財）岐阜県文化財保護センター

夏目和之1992「矢作川上流域の縄文文化研究（Ⅱ）－小御所・久武瀬遺跡の前記文化－」『古代人』第53号、名古屋考古学会

夏目和之・増子康真1991「矢作川上流域の縄文文化研究Ⅰ－北屋敷Ⅱ式土器２遺跡の紹介－」『古代人』第52号、名古屋考古学会

野口哲也1993「突帯文土器」『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』、第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会

坂東肇・青木健太郎ほか2000『戸入村平遺跡Ⅱ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第64集）、（財）岐阜

県文化財保護センター
肥後弘幸・三好博喜ほか1989『京都府遺跡調査報告書』第12冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
藤田富士夫1983「玦状耳飾の編年に関する一試論－特に北陸及びその周辺を中心として」『北陸の考古学　石川考古学研究会々誌』第26号、石川考古学研究会
堀田一浩・鈴木隆雄ほか2000『上原遺跡Ⅱ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第54集）、（財）岐阜県文化財保護センター
堀江武史1992「玦状耳飾の分類と製作工具に関して」『國學院大學考古学資料館紀要』第８輯、國學院大學考古学資料館
間壁忠彦・間壁葭子1971「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報』第７号、（財）倉敷考古館
増子康真1978「縄文中期後半土器の編年－東海地方西部地域－」『古代人』第34号、名古屋考古学会
1982「北白川下層式土器の再検討」『考古学研究』第29巻第１号、考古学研究会
1985「北白川下層Ⅱａ式・Ⅲ式併行の東海地方西部の土器」『古代人』第45号、名古屋考古学会
1992「東海地方西部の縄文前期後半（■帯縄文）土器の研究」『古代人』第53号、名古屋考古学会
1993「東海西部の縄文前期末～中期初頭土器の変遷」『知多古文化研究』第７号、知多古文化研究会
1995「東海地方の縄文中期前半土器型式の変遷」『クダリヤマ遺跡』、稲武町教育委員会
1996「縄文前期後半・大麦田式土器の再検討－岐阜県御望・市場遺跡の再検討－」『古代人』第57号、名古屋考古学会
1999「東海地方　前期」『縄文時代』第10号第２分冊、縄文時代文化研究会
増子康真・坂野俊哉ほか1999『上矢作町内遺跡発掘調査報告書－上村川下流域の考古学的調査－』、上矢作町教育委員会
町田勝則1996「石器の研究法－報告文作成に伴う観察・記録法①－」『長野県の考古学－（財）長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ－』、（財）長野県埋蔵文化財センター
松田典夫・渡辺博人ほか1995『為岡遺跡発掘調査報告書』、美濃加茂市教育委員会
三島誠・藤根久2001『寺屋敷遺跡・磯谷口遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第35集）、（財）岐阜県文化財保護センター
水資源開発公団徳山ダム建設所1987『美濃徳山の地名』
武藤貞昭・千藤克彦ほか1994『戸入村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第11集）、（財）岐阜県文化財保護センター
武藤貞昭・安■正枝ほか1999『上開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第25集）、（財）岐阜県文化財保護センター
矢野健一1993「押型文土器の起源と変遷－いわゆるネガティブな楕円文を有する押型文土器群の再検討－」『考古学雑誌』第78巻第４号、■本考古學會
山岸洋一1996「縄文前期『特殊突帯文土器』細分の可能性」『信濃』第48巻４号、信濃史学会
山下勝年1997「清水ノ上貝塚第２次調査出土の土器－清水ノ上Ⅲ式土器を中心として－」『伊勢灣考古』11、知多古文化研究会
1999「東海地方　中期前半」『縄文時代』第10号第２分冊、縄文時代文化研究会
山田康弘1997「縄文時代の子供の埋葬」『日本考古学』第４号、日本考古学協会
渡辺誠1975『縄文時代の植物食』（考古学選書13）、雄山閣出版株式会社
渡辺誠・斉藤基生ほか1985『阿曽田遺跡発掘調査報告書－阿木川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－』、中津川市教育委員会

写　真　図　版

1　調査区全景

1　調査前（樹木伐採後）近景

2　調査区全景

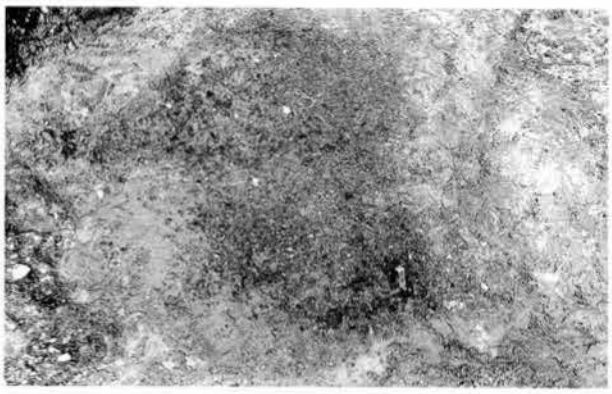
1　A区全景

1　B区全景

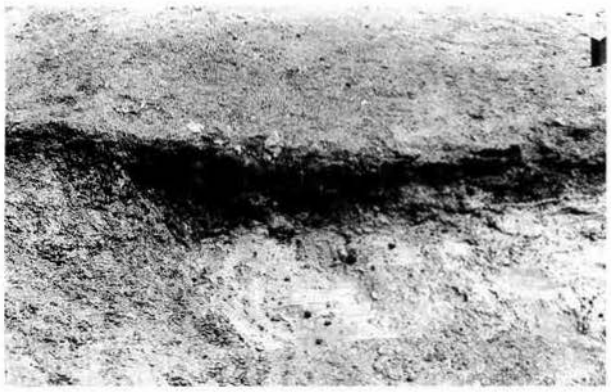
2　耕作に関連する遺構

1　SD508

2　SD508



3　SK676検出状況



4　SK676土層断面

5　SK676

1　SK676・SK677

2　SK677検出状況

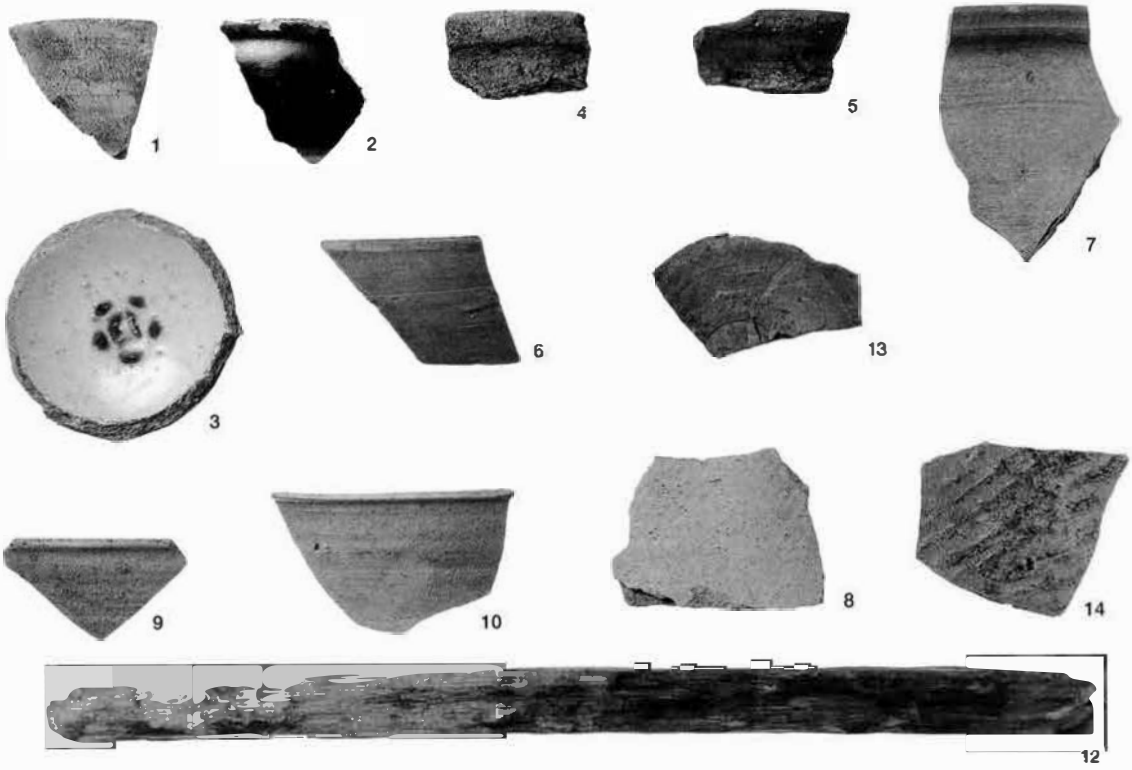
3　SK677種子類出土状況

4　SK677木製品出土状況

5　SK677

1　SK676出土トチの種皮

2　SK677出土灰釉陶器



3　古代から中世の遺物

1　SB 1 ・SB 3 周辺遺構

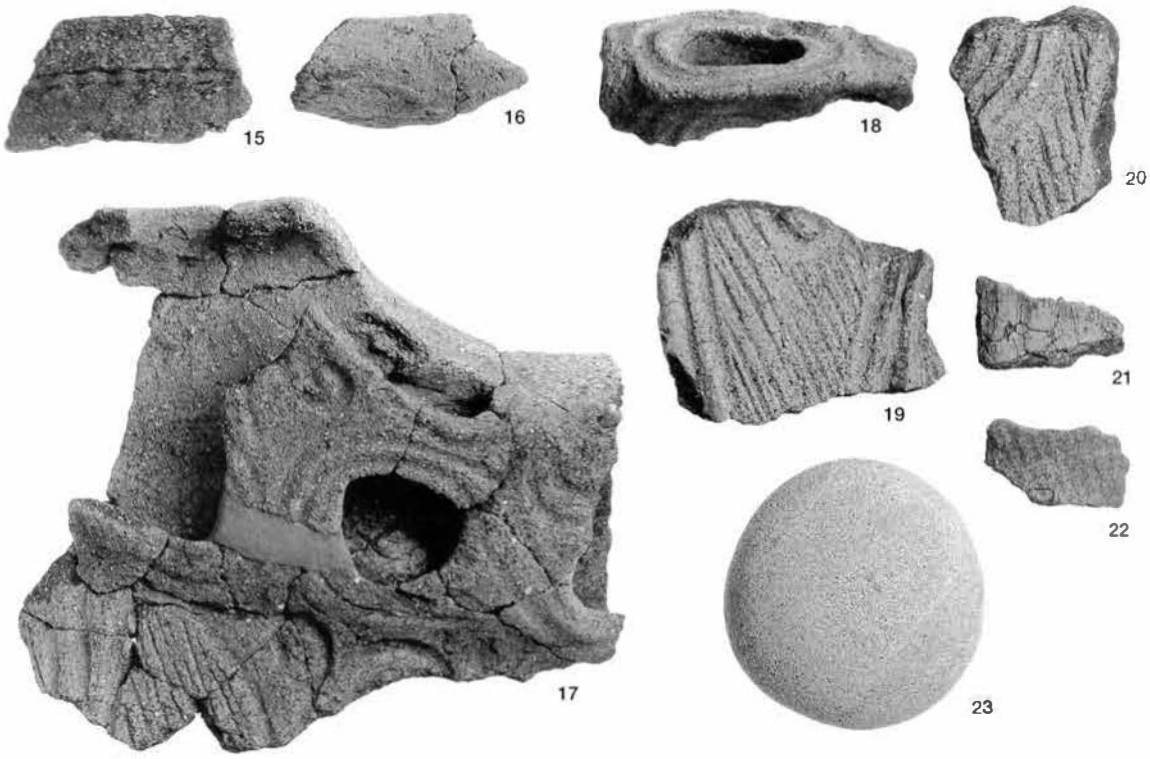
2　SB 1

1　SB 1 床面検出状況

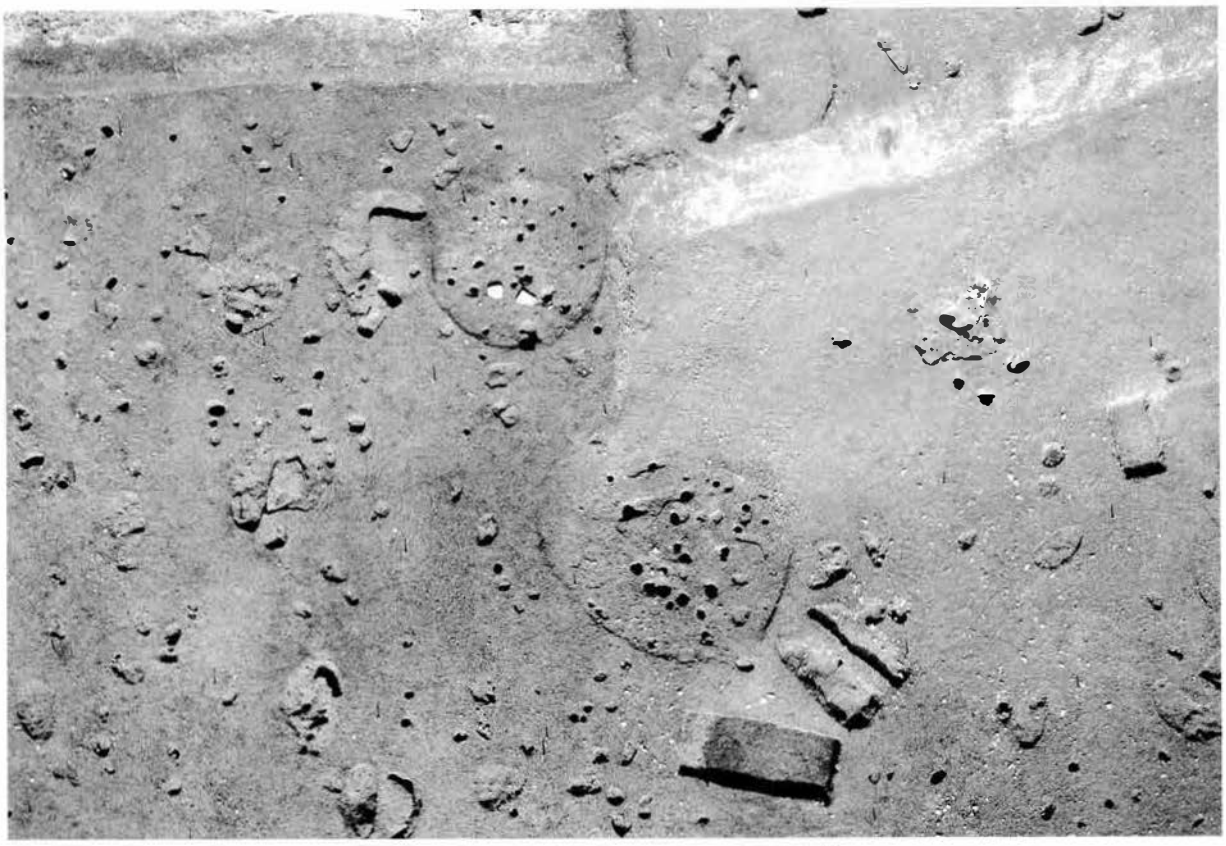
2　SF 2 検出状況

3　SF 2 掘削状況

4　SF 2 掘削状況



5　SB 1 出土遺物

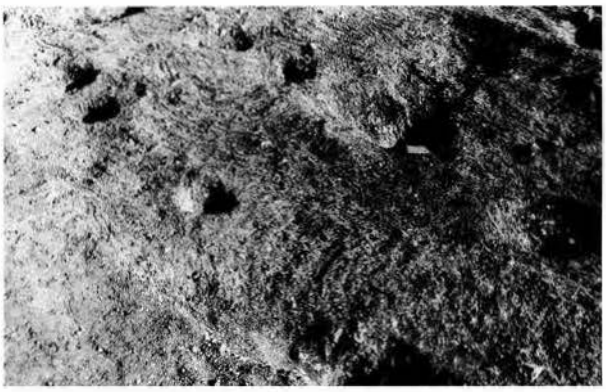


1　SB 2 ・SB 4 ・SB 6 ・SB 7 周辺遺構

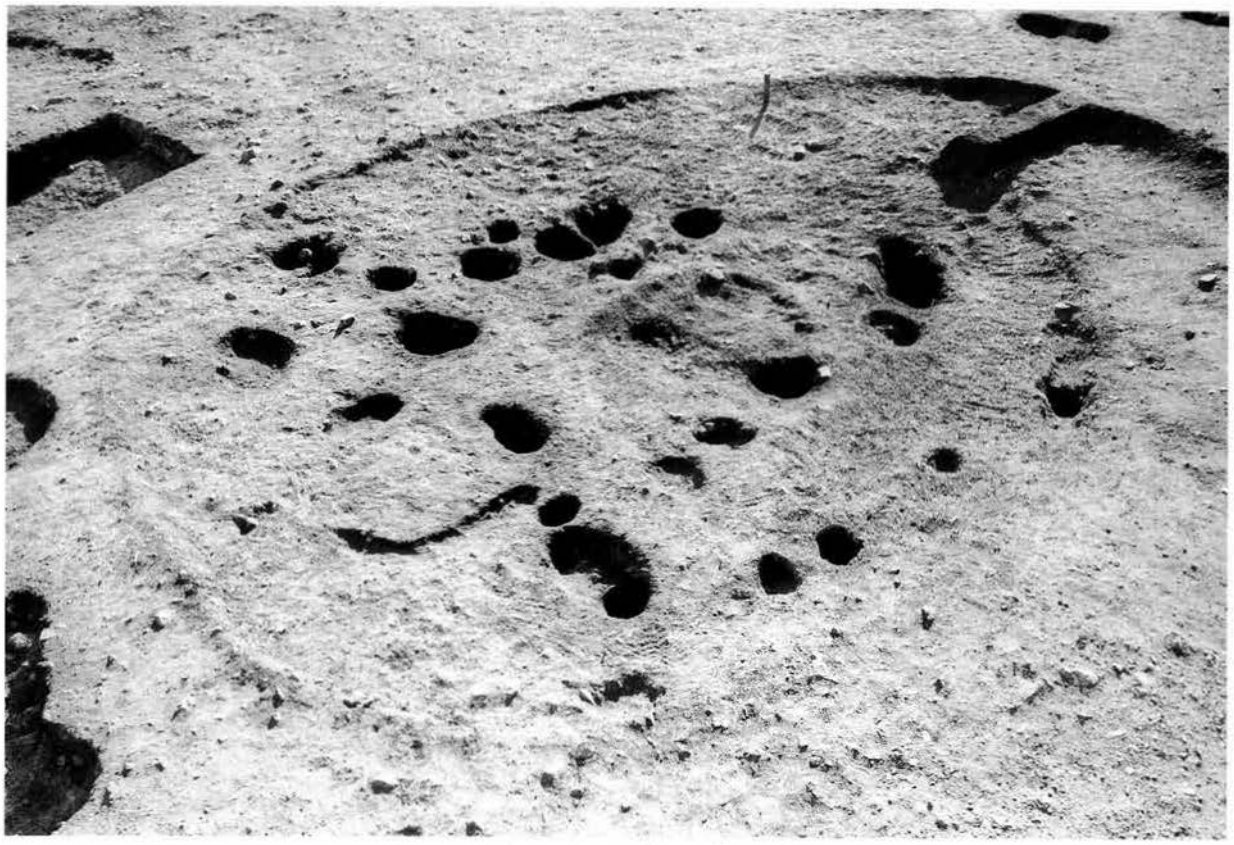
2　SB 2 埋土中礫出土状況

3　SF5a検出状況

4　SB 2 床面検出遺構

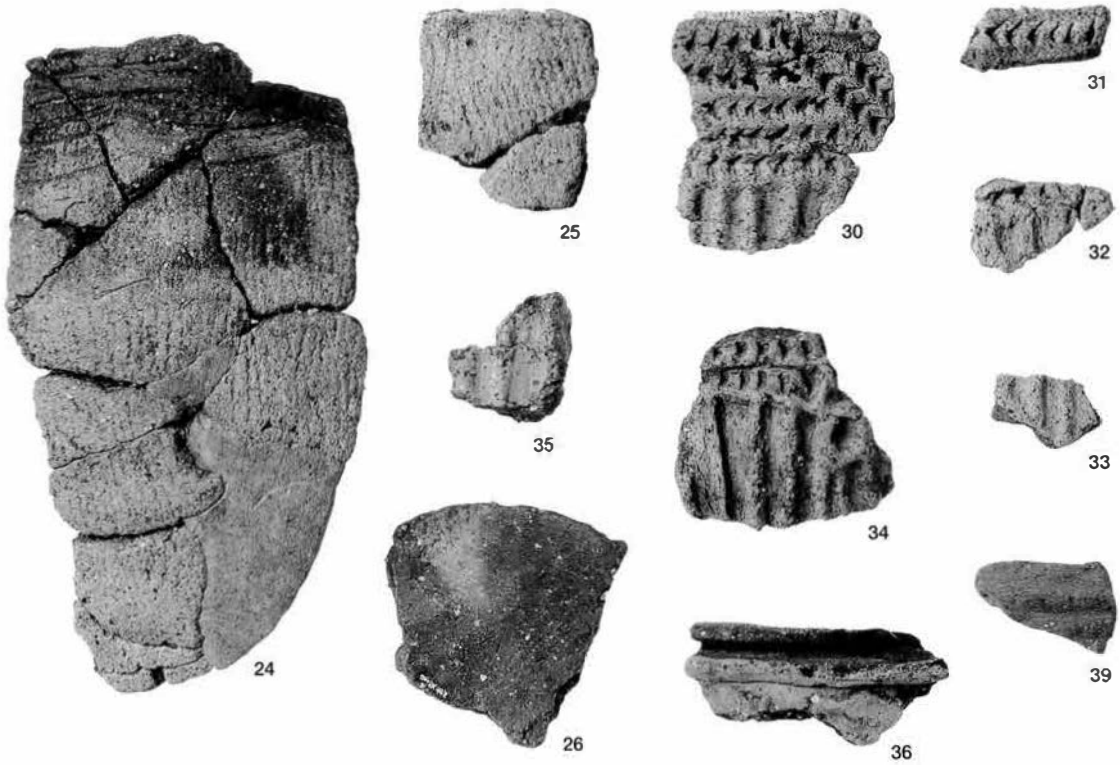


5　SB 2 床面検出遺構

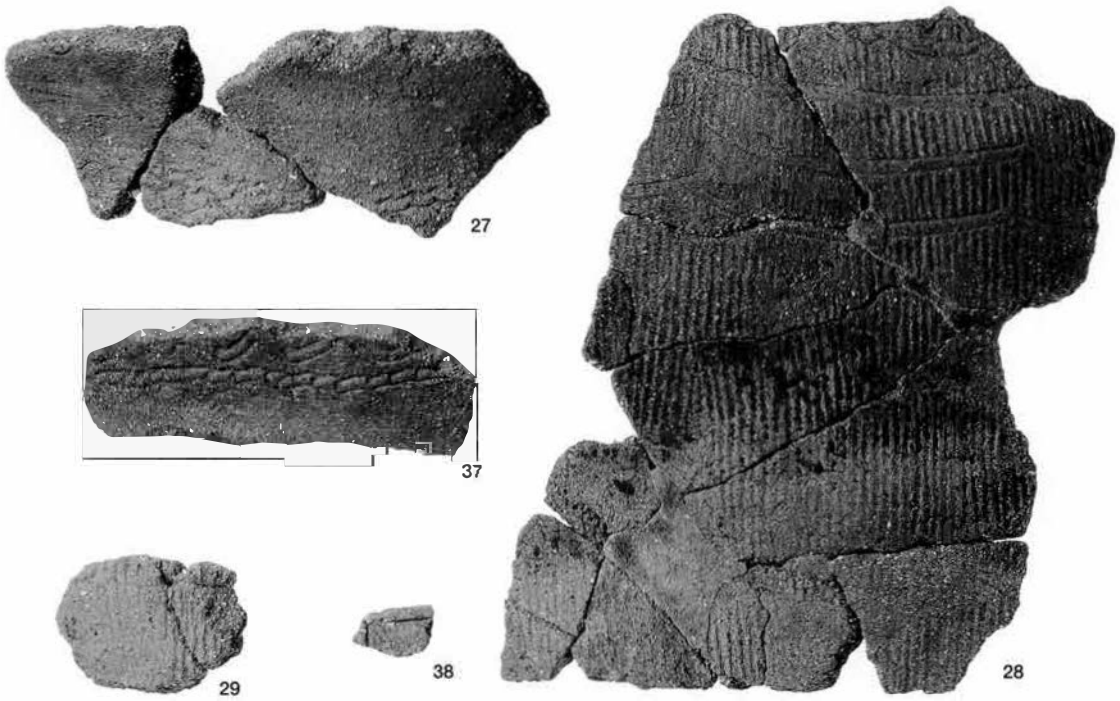


1　SB 2（北から）

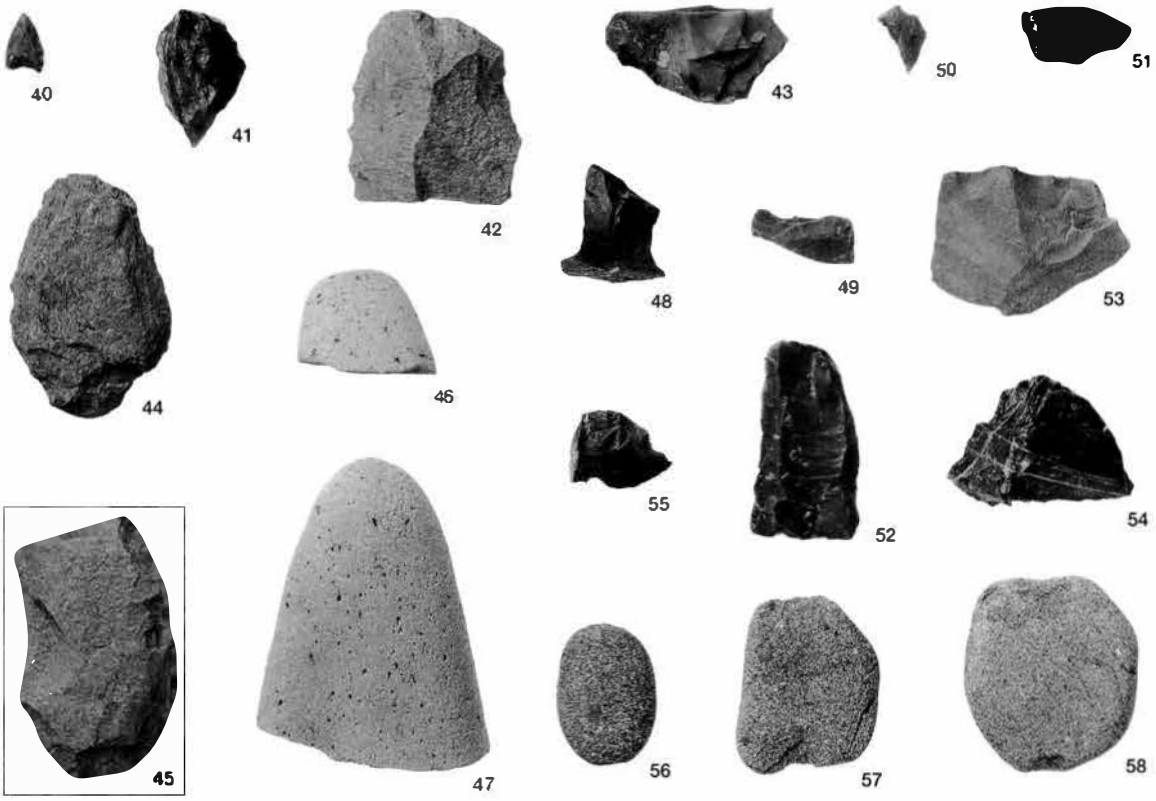
2　SB 2・SB 7（南から）



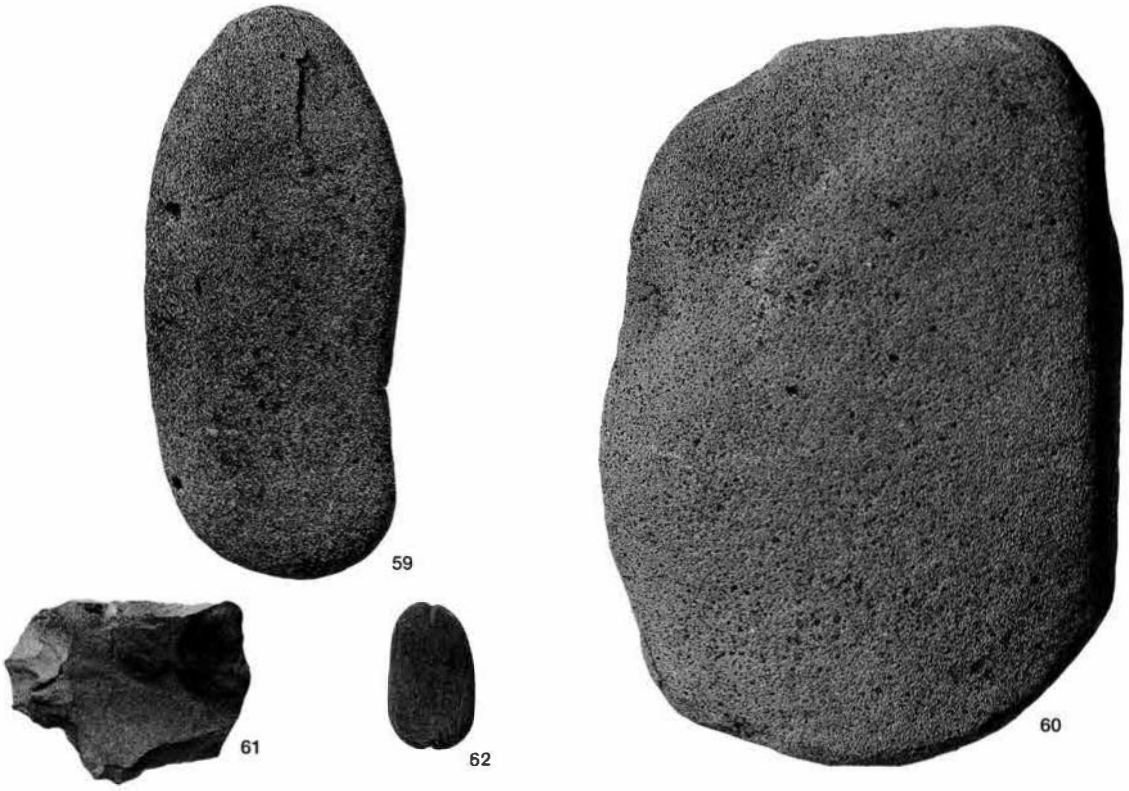
1　SB 2 出土土器①



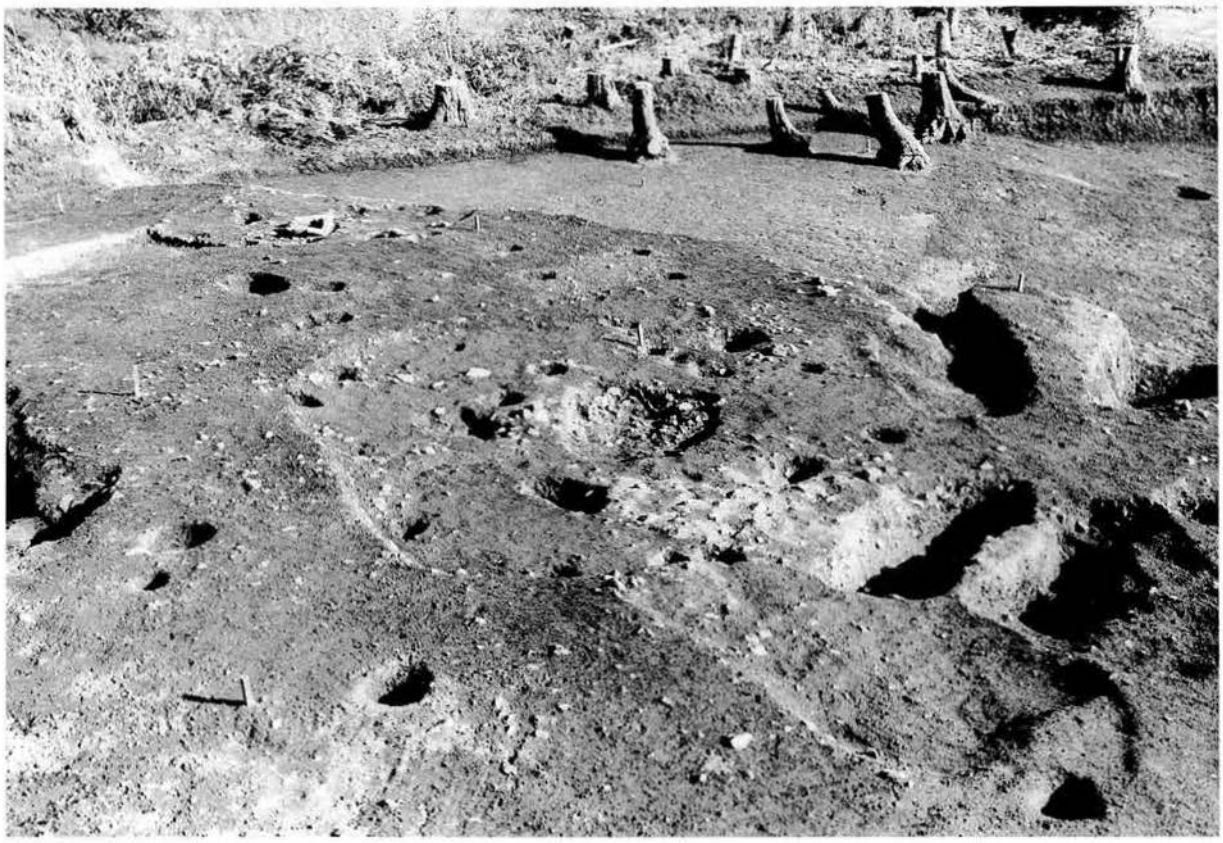
2　SB 2 出土土器②



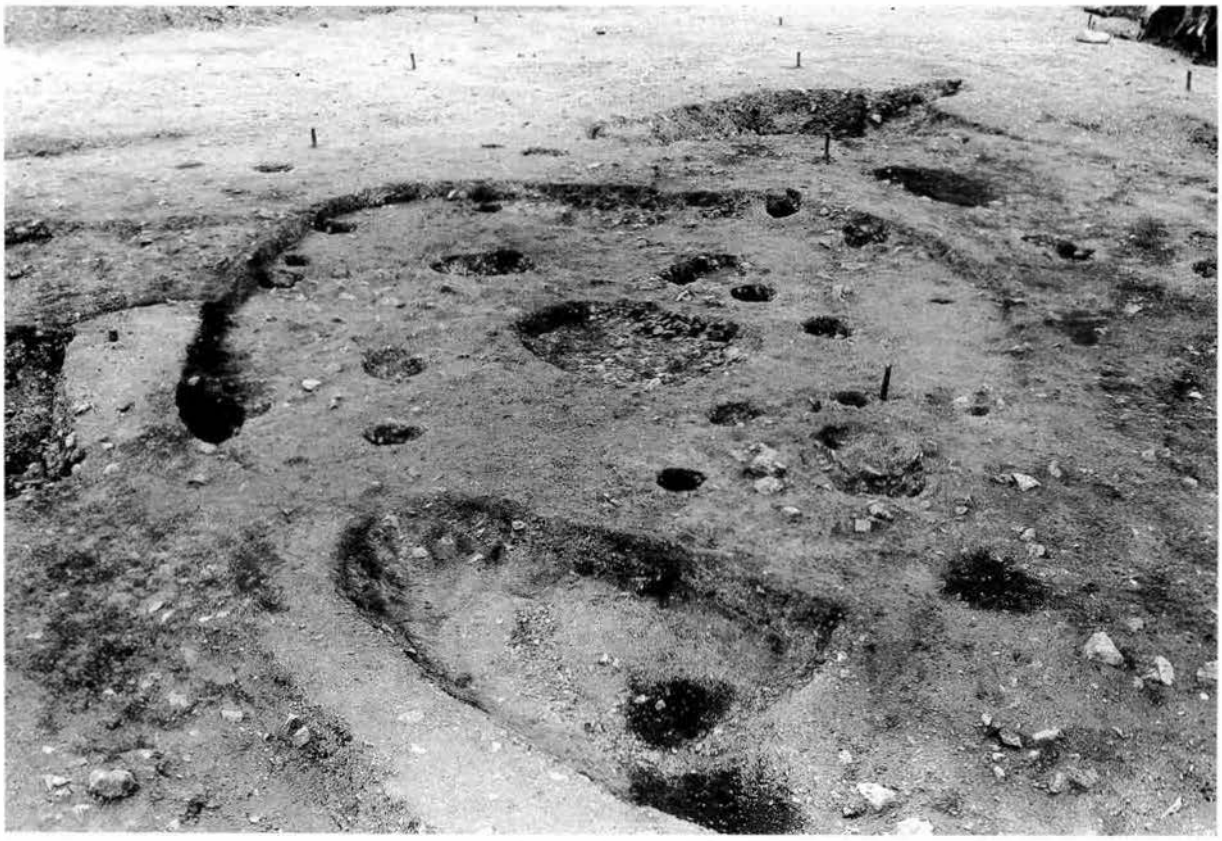
1　SB 2 出土石器①



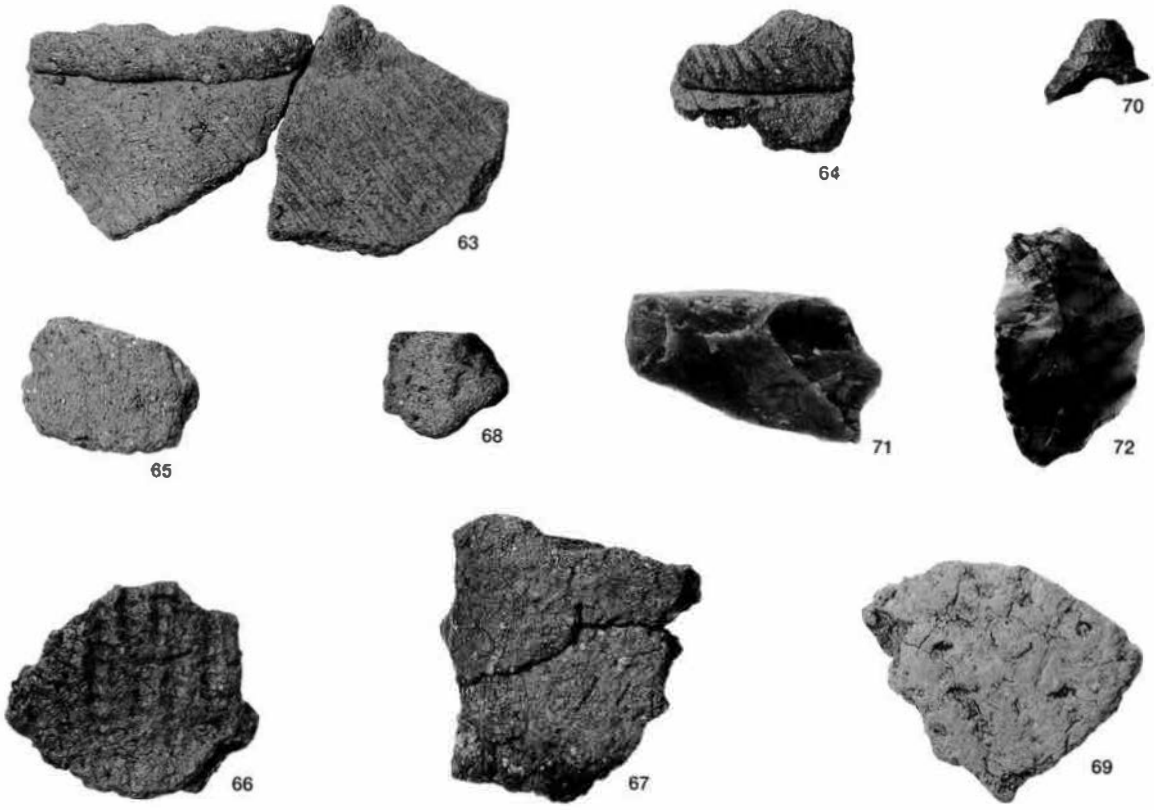
2　SB 2 出土石器②



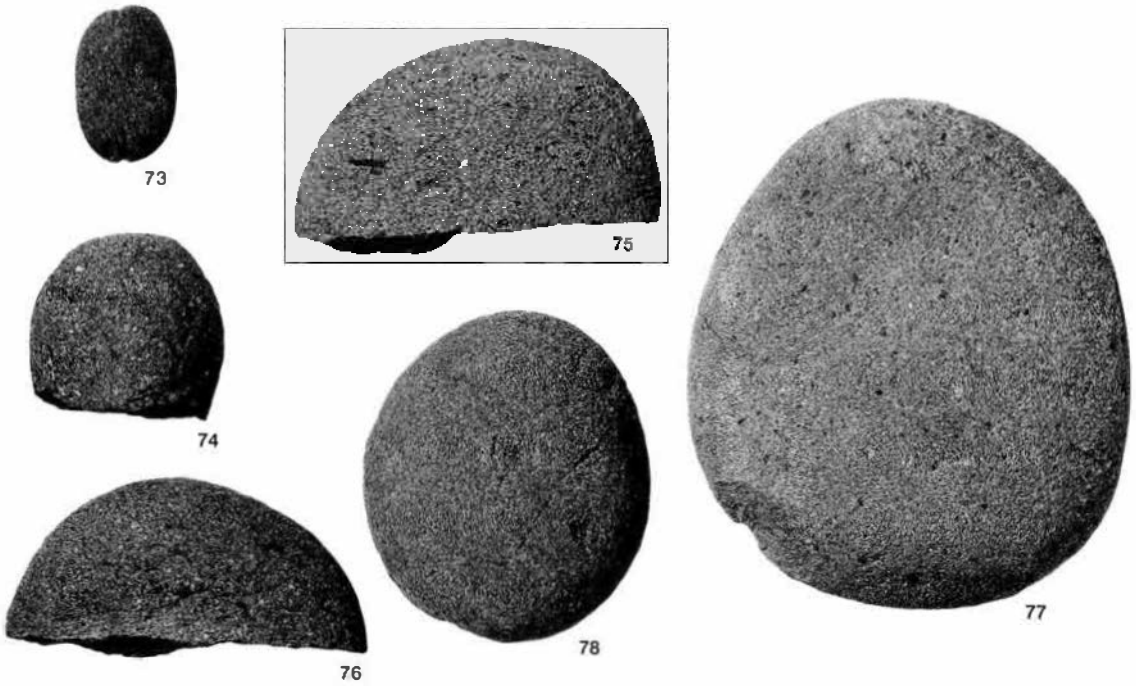
1　SB 3（北から）



2　SB 3（南から）

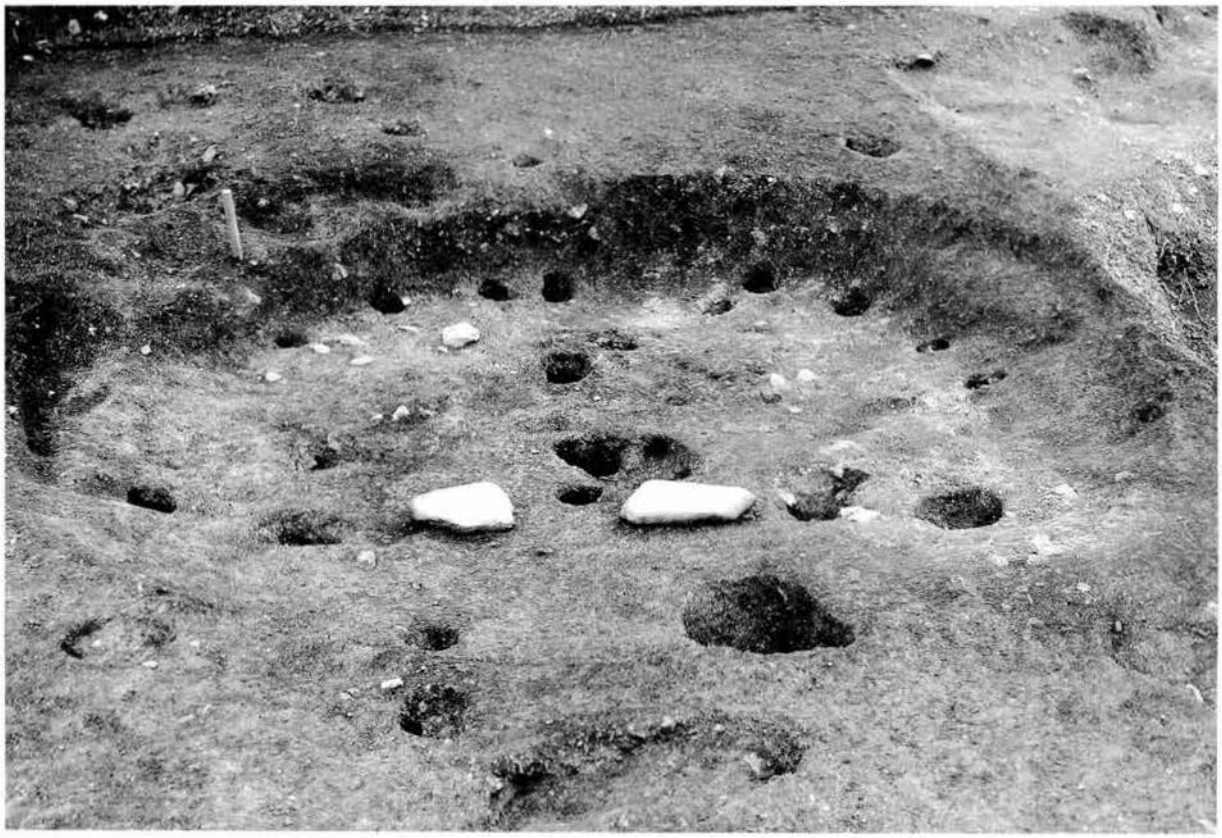


1　SB 3 出土土器・石器



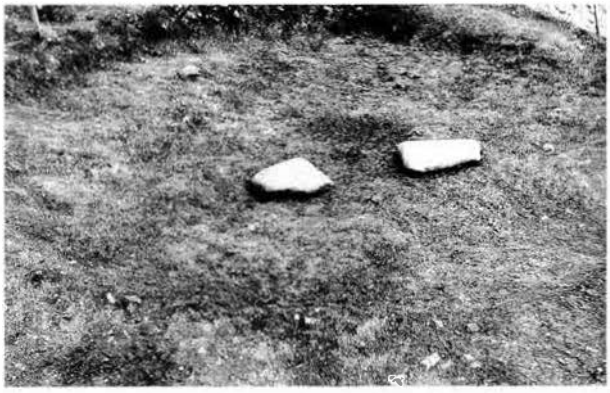
2　SB 3 出土石器

1　SB２・SB４周辺遺構（東から）



2　SB４（南から）

1　SB 4（東から）

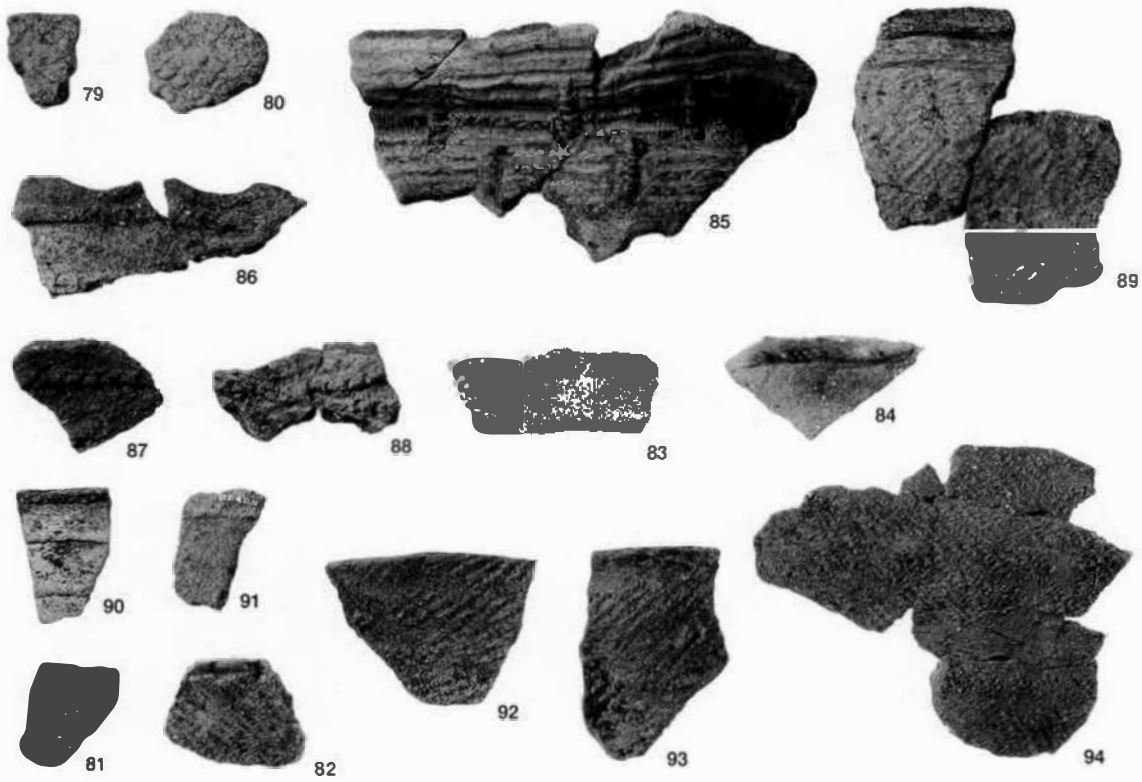


2　SB 4 床面検出状況

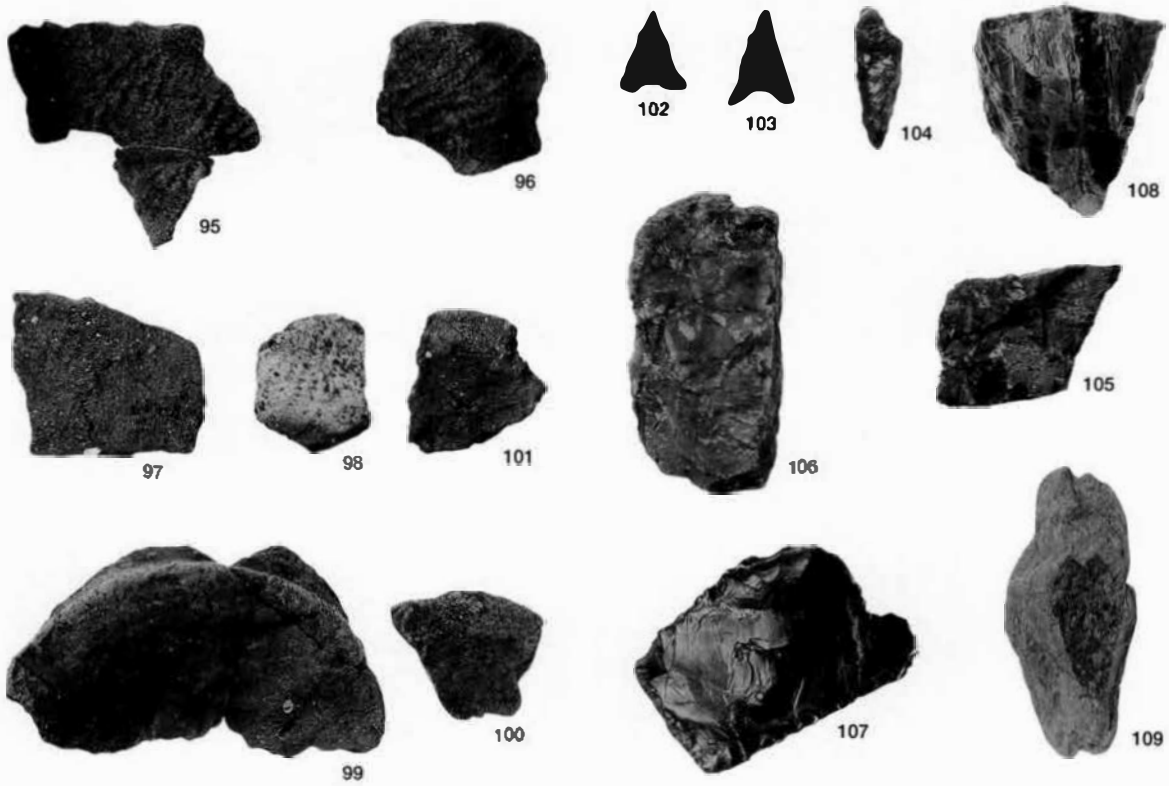
3　SB 4 床面検出遺構

4　SB 4 主柱穴

5　SB 4 壁柱穴

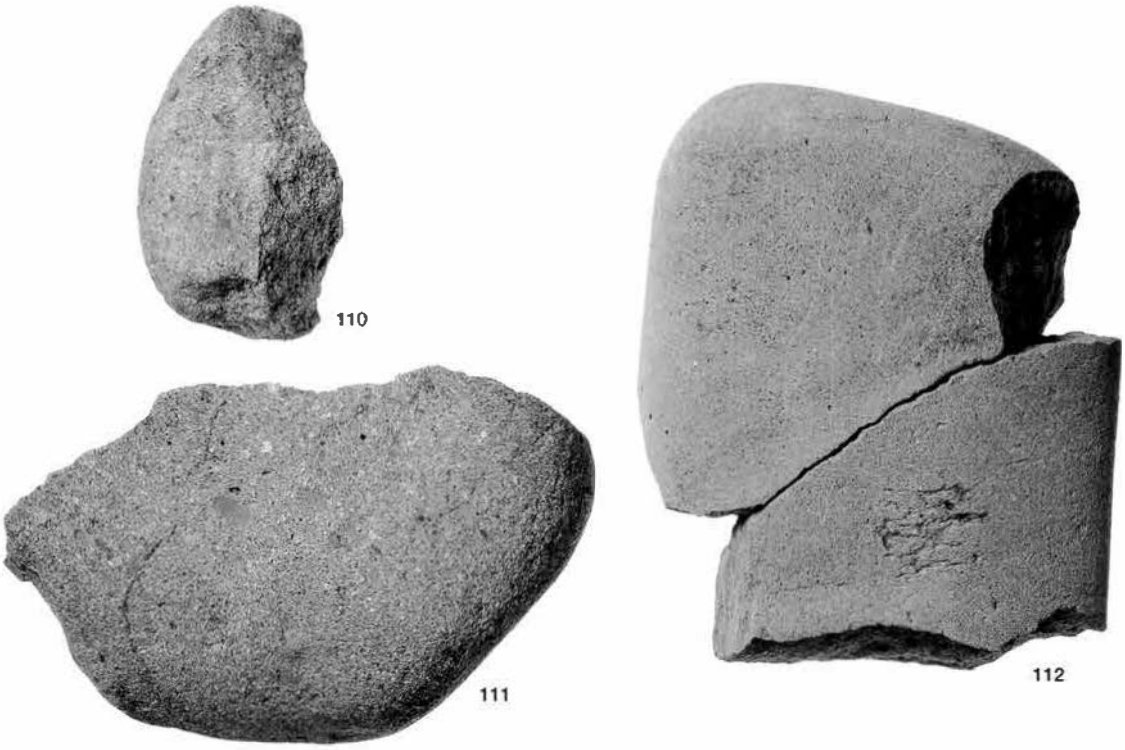


1　SB 4 出土土器①

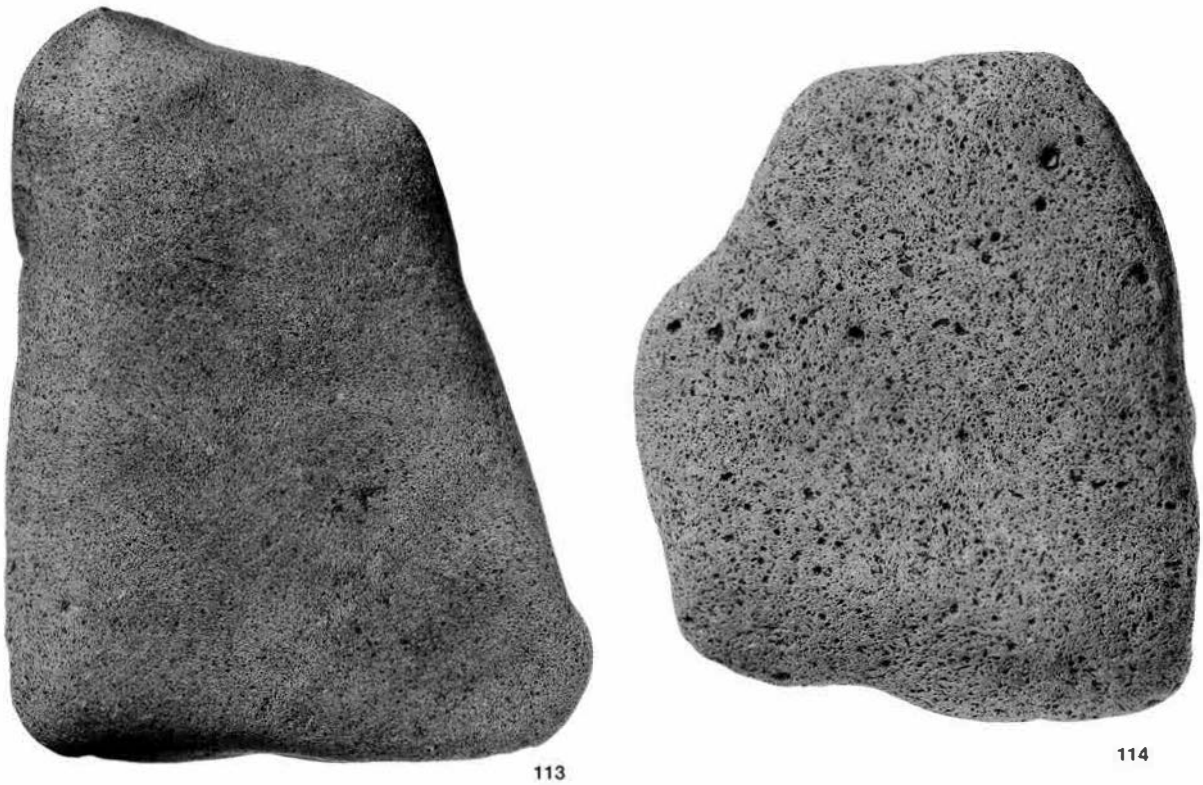


2　SB 4 出土土器②

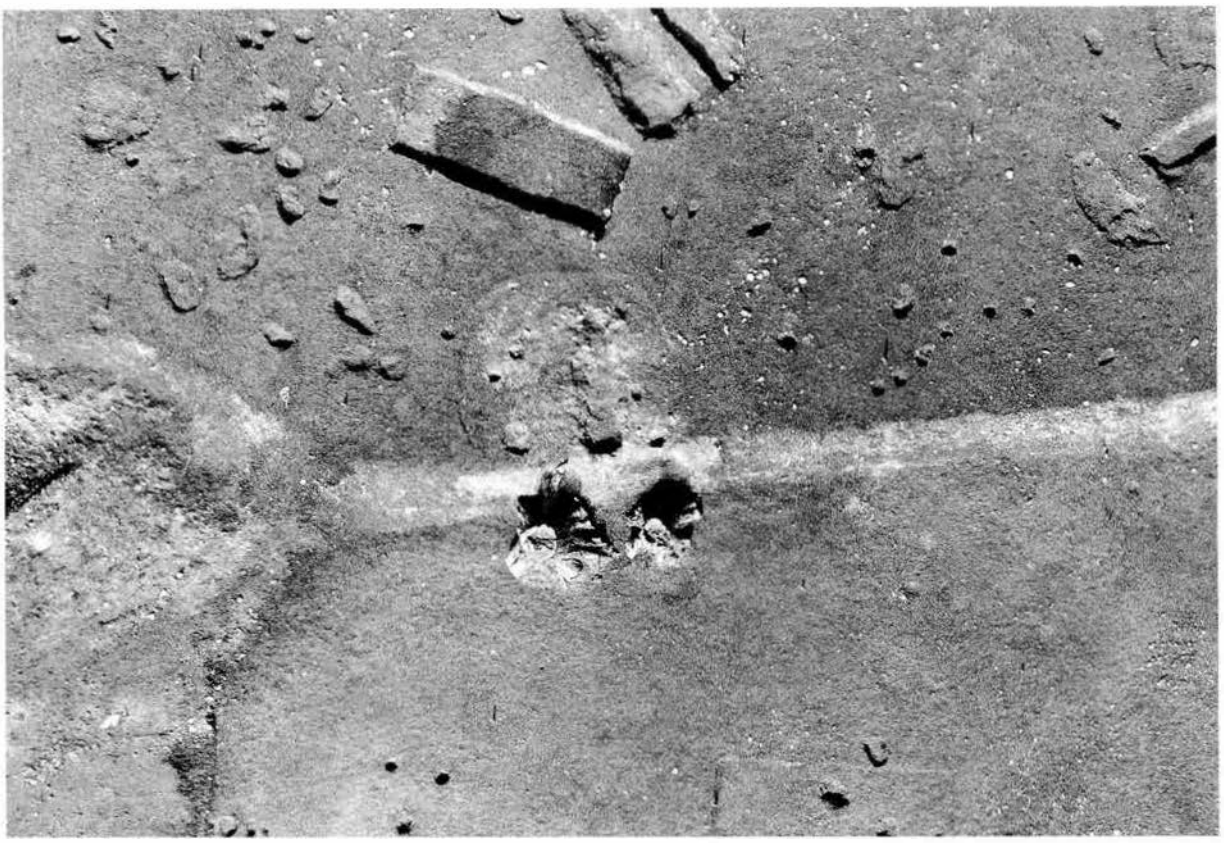
3　SB 4 出土石器①



1　SB 4 出土石器 2



2　SB 4 床面出土石皿



1　SB 5 周辺遺構

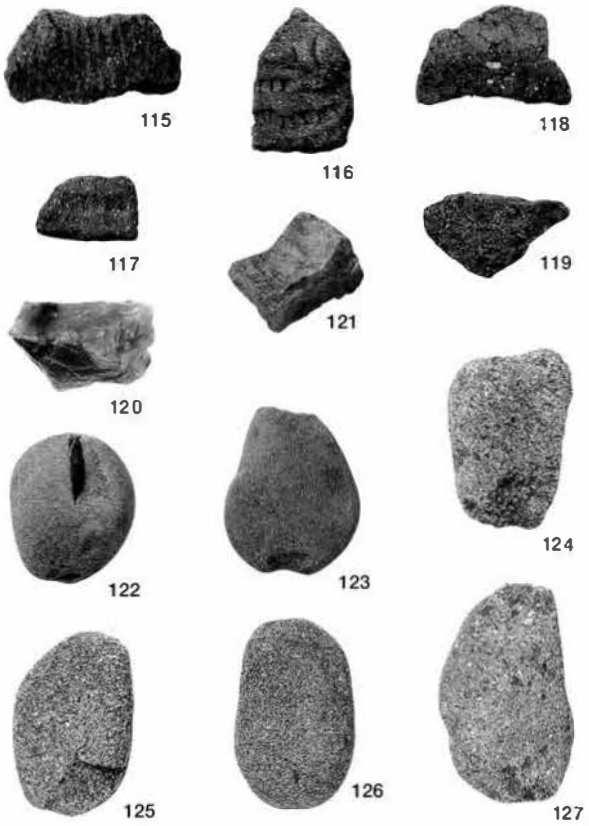
2　SB 5（南から）

1　SB５床面検出状況

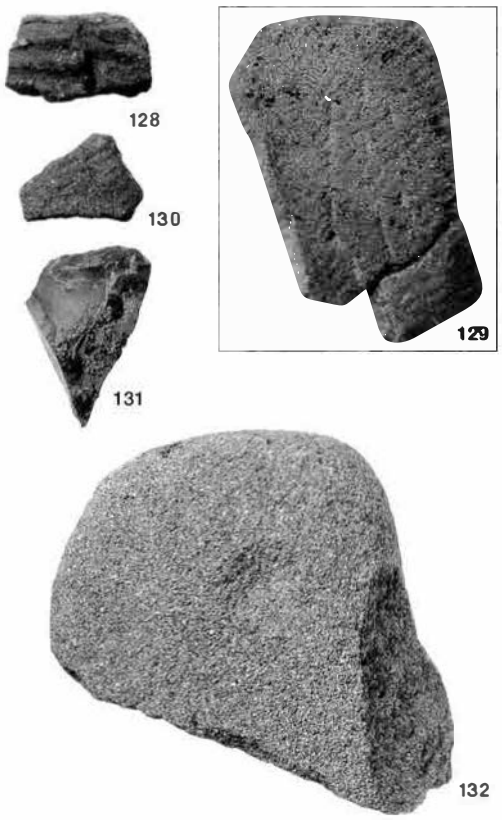
3　SB６（西から）

2　SF６検出状況

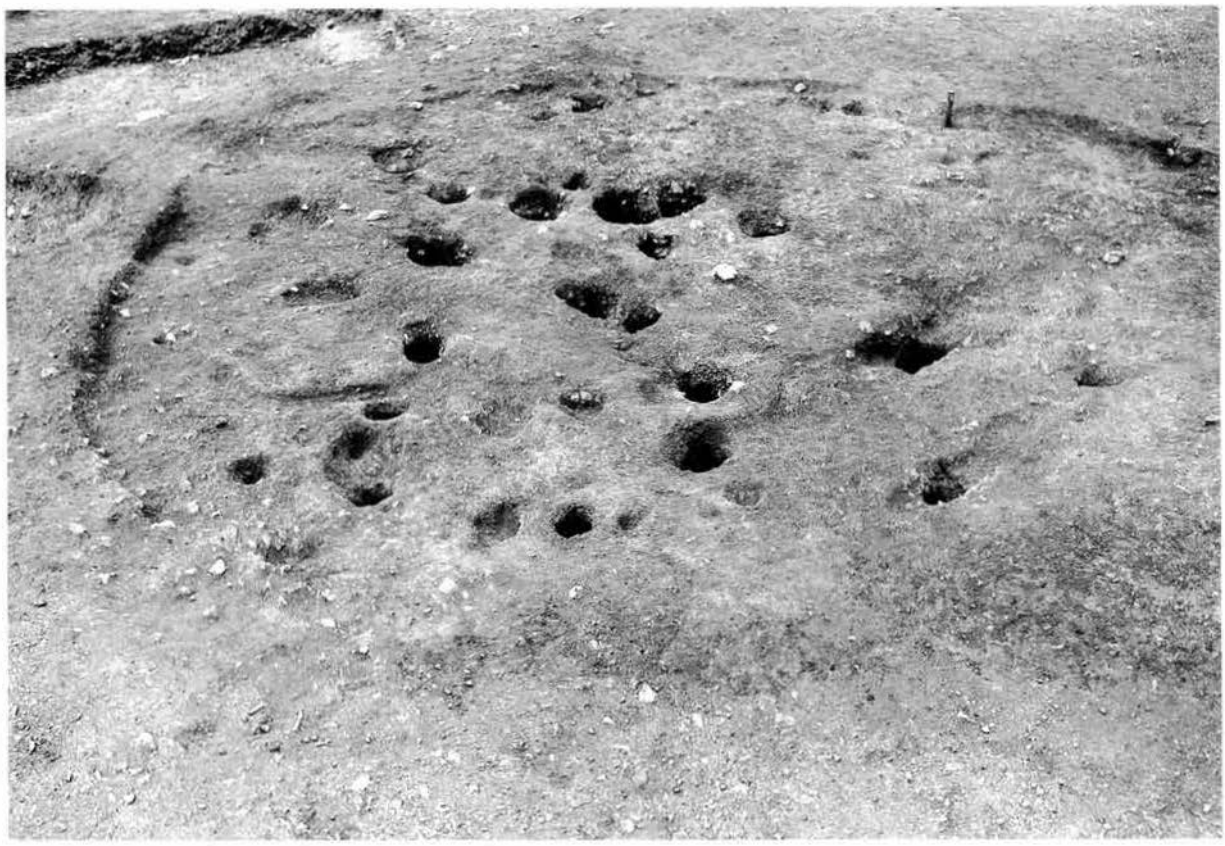
4　SB６（北から）



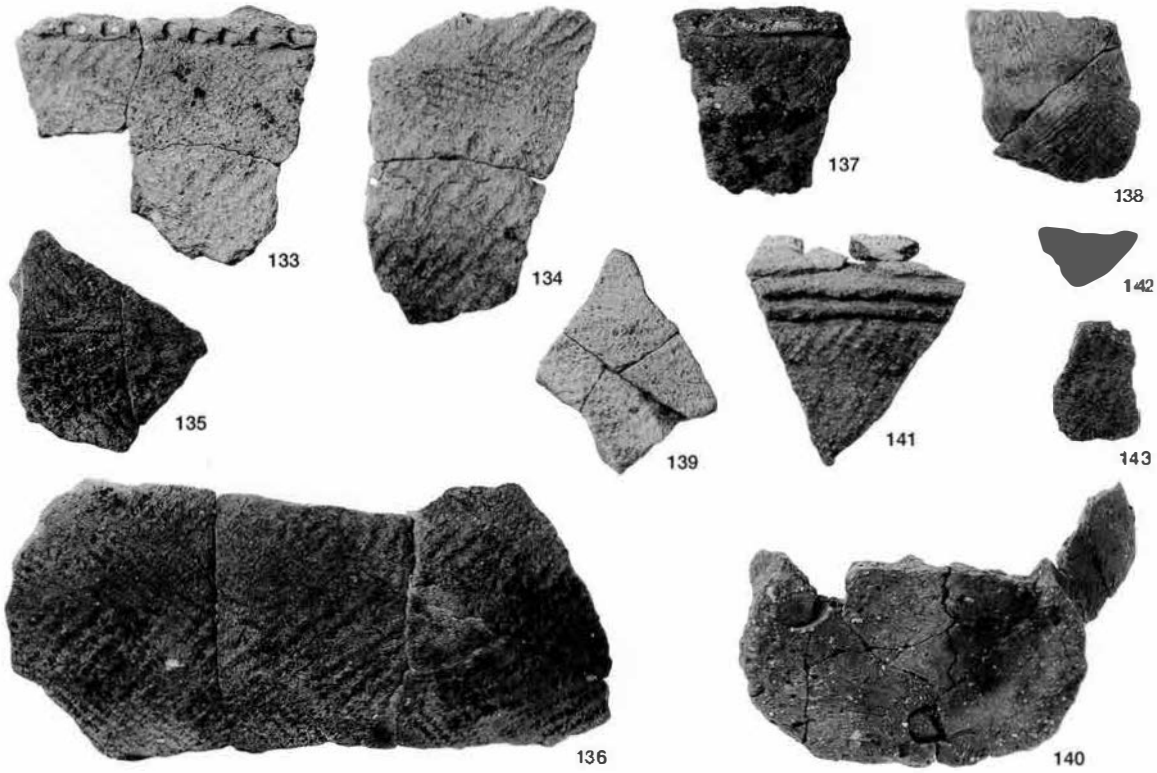
5　SB５出土遺物



6　SB６出土遺物

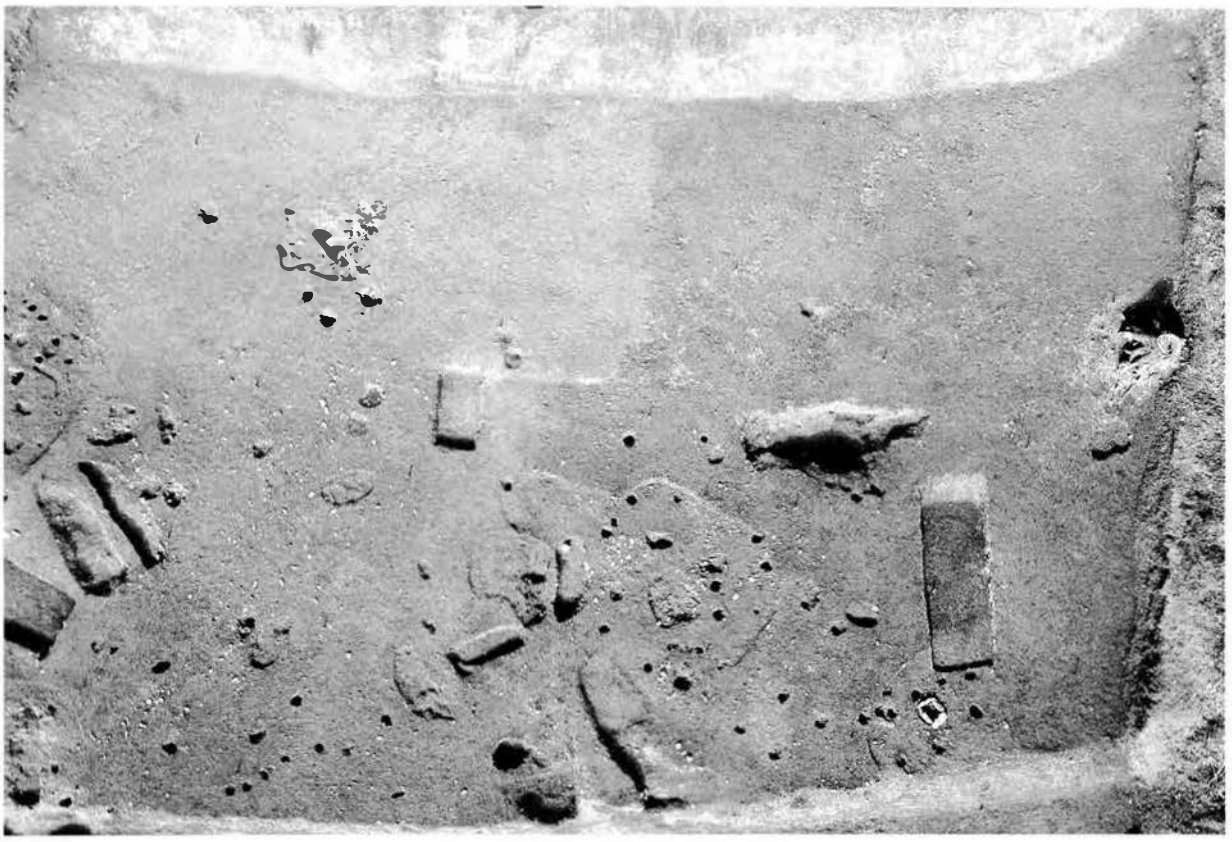


1　SB 2・SB 7 床面検出遺構



2　SB 7 出土遺物

1　A区北部遺構検出状況（上部）



2　A区中央～東部遺構検出状況

1　A区西部遺構検出状況

2　A区南部遺構検出状況

1　B区南西部遺構検出状況

2　B区東部遺構検出状況

1　SK115焼礫検出状況（上部）

2　SK115焼礫検出状況（下部）

3　SK115（南西から）

4　SK442焼礫検出状況

5　SK６（南から）

1　SK145遺物出土状況①

2　SK145遺物出土状況②

3　SK145（南西から）

4　SK145出土遺物

1　SK56立石検出状況

2　SK148遺物出土状況①

3　SK148遺物出土状況②

4　SK148（南から）

5　SK148出土土器

1　SK154遺物出土状況①

2　SK154遺物出土状況②

3　SK154（南から）

153

157

158

4　SK154出土土器

1　SK380礫検出状況

2　SK380礫・土器検出状況

3　SK380遺物出土状況

4　SK380（南から）

160
口縁端部

161上面

160

5　SK380出土土器

161側面

6　SK380出土石製品

1　SK25土層

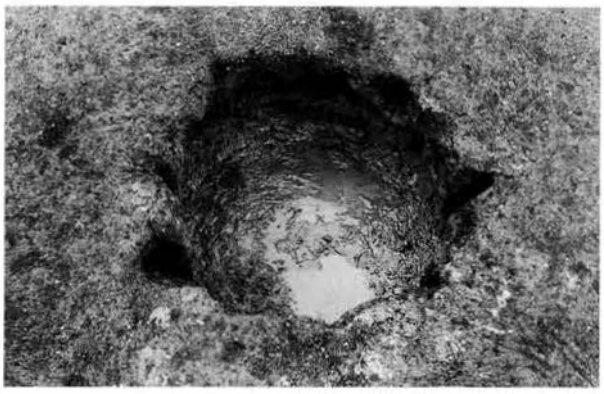
3　SK379土層

2　SK25（南から）

4　SK379（西から）

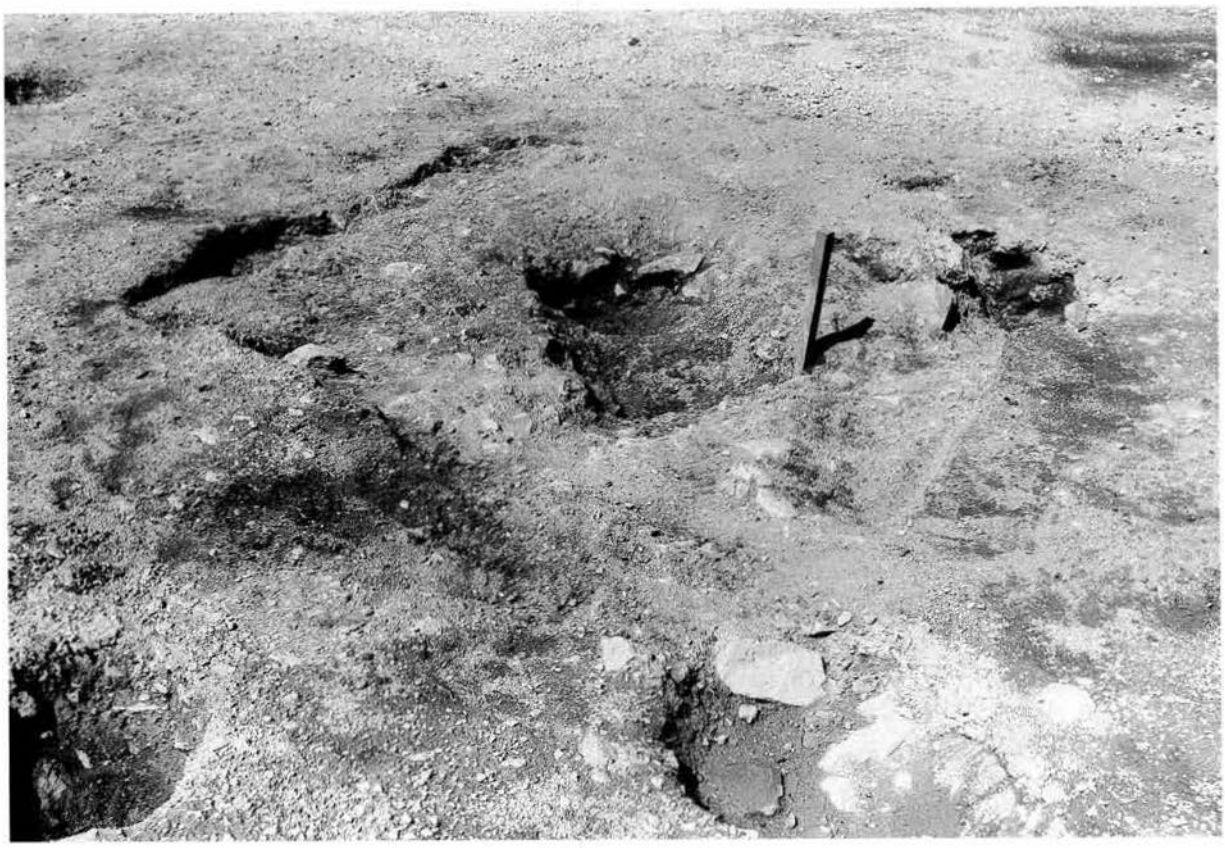
5　SK576土層（試掘調査時撮影）

7　SK668土層



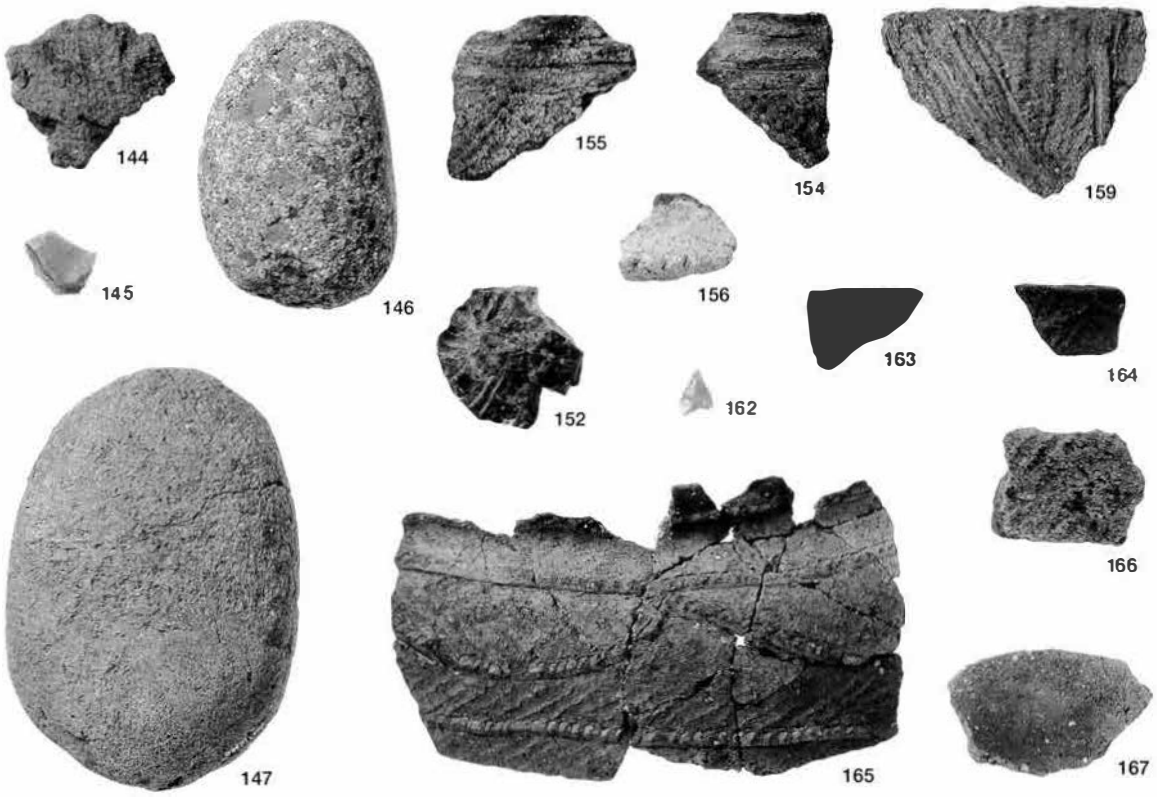
6　SK576（南から）

8　SK668（南から）

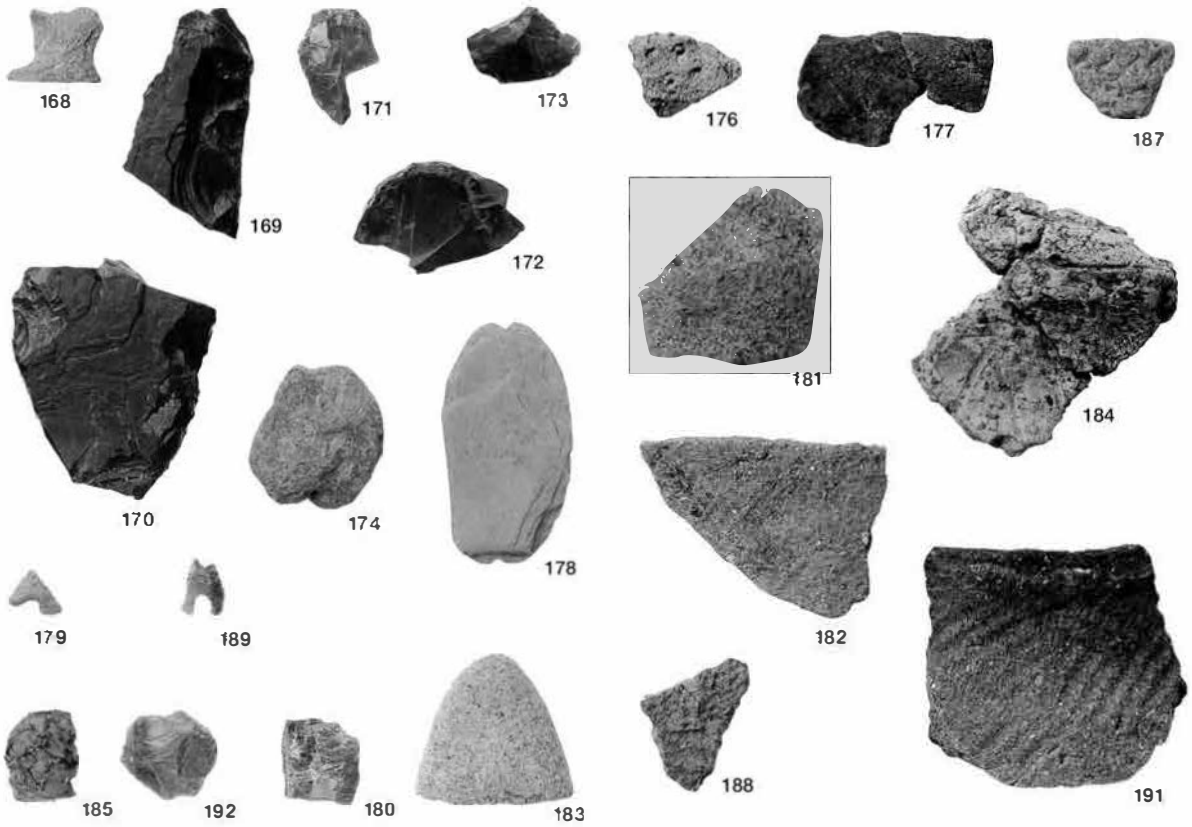


1　SK105ほか（東から）

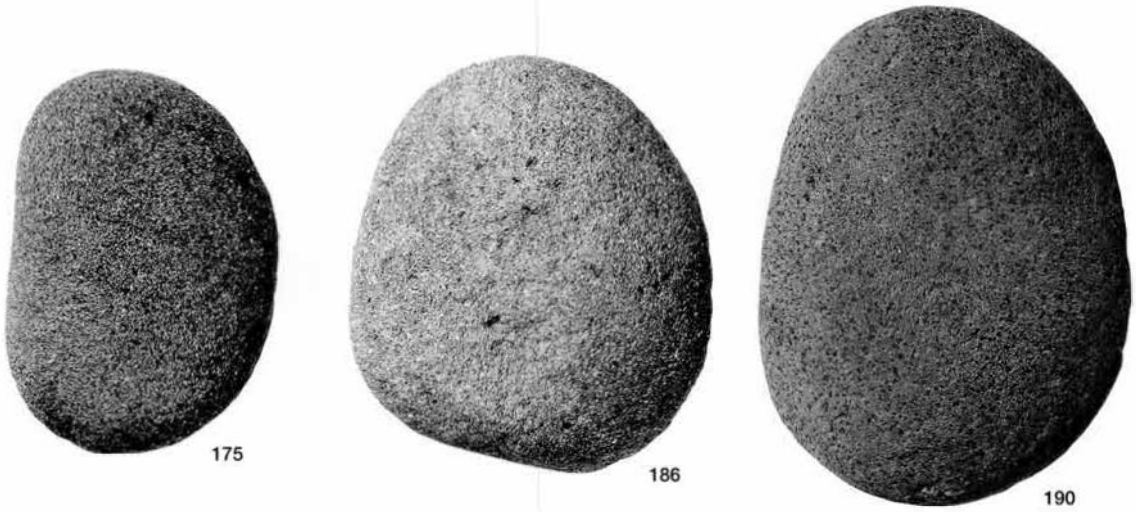
2　SK124（西から）



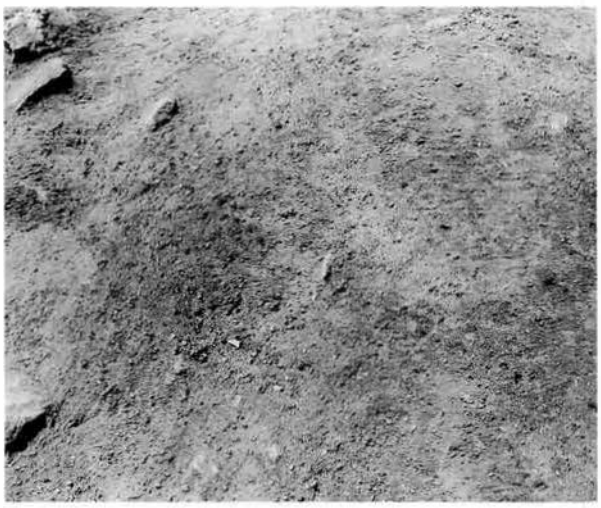
1　土坑出土遺物①



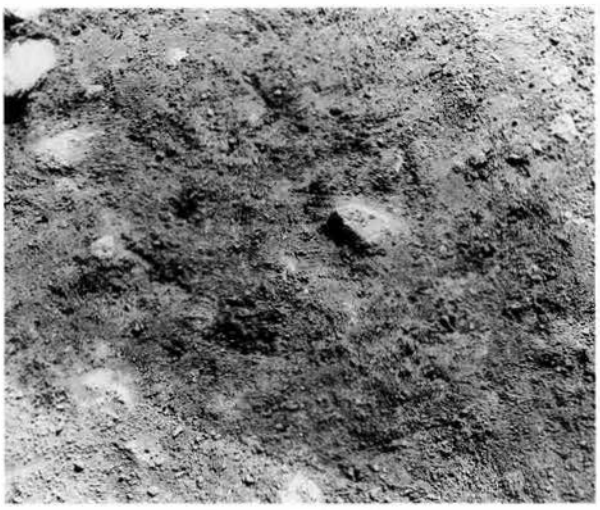
2　土坑出土遺物②　　3　土坑出土遺物③



1　土坑出土遺物④



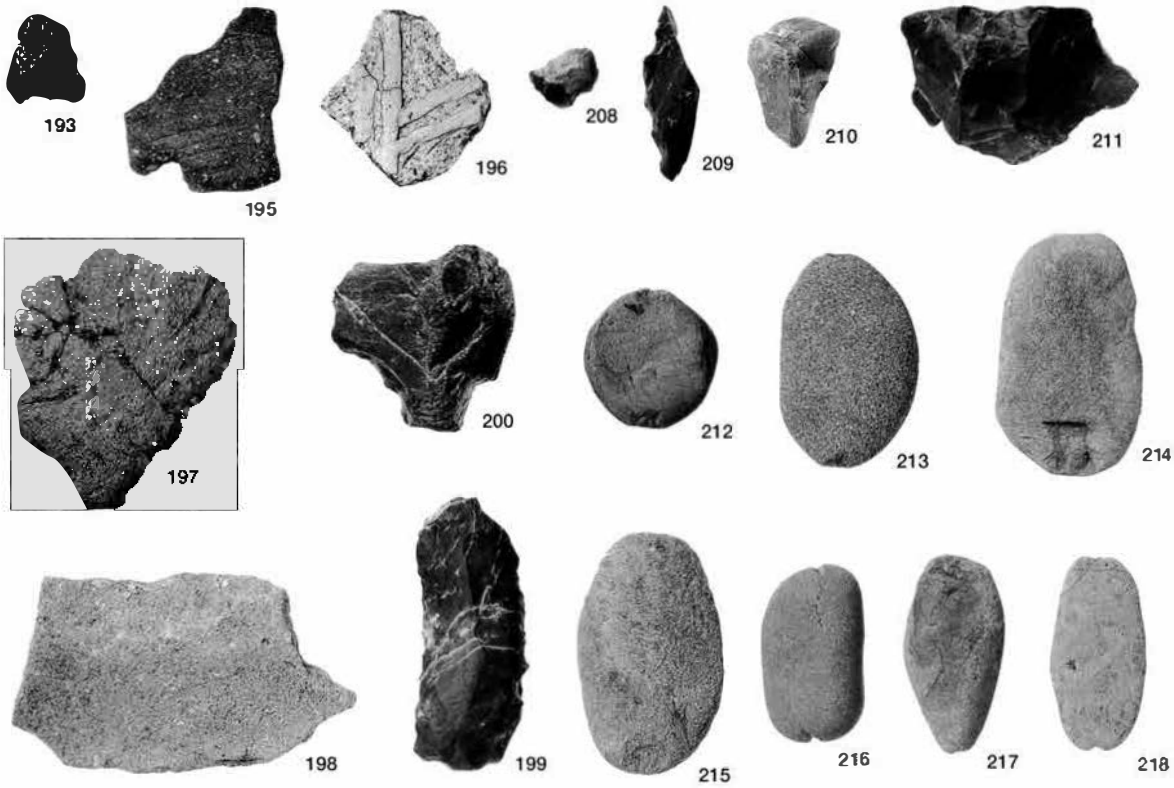
2　SF 1 検出状況



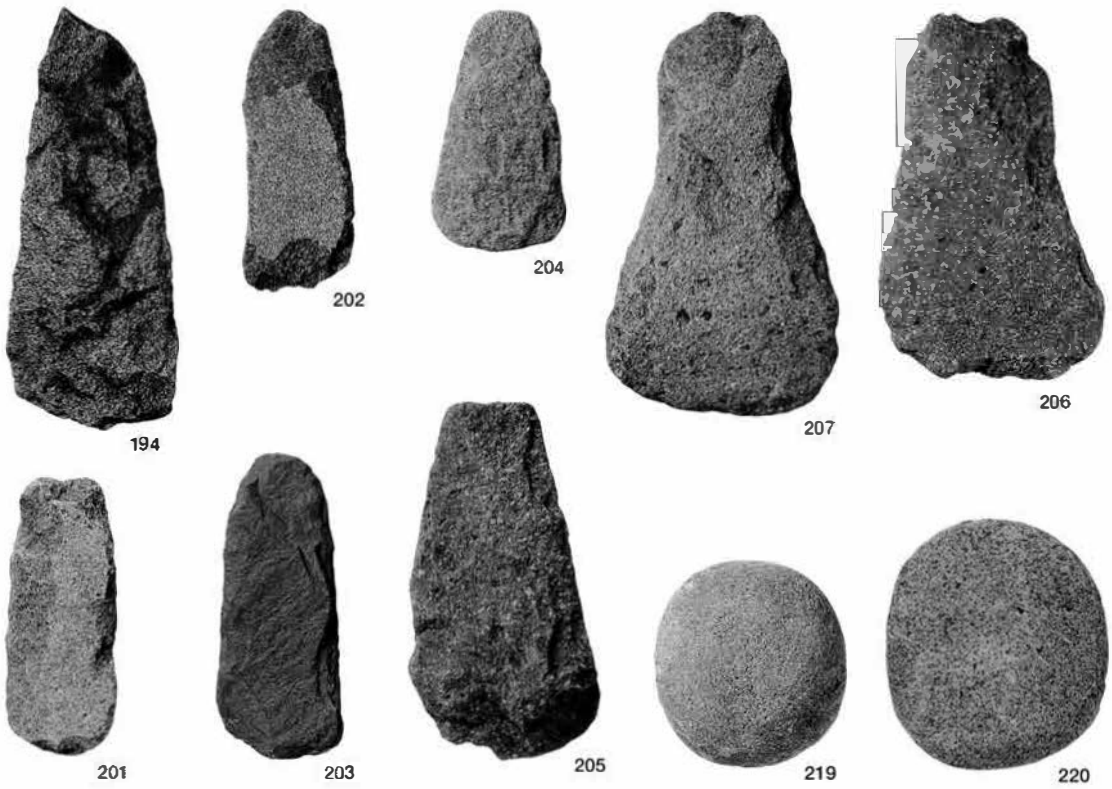
3　SF 3 検出状況

4　SF 7 検出状況

5　SD505（南から）



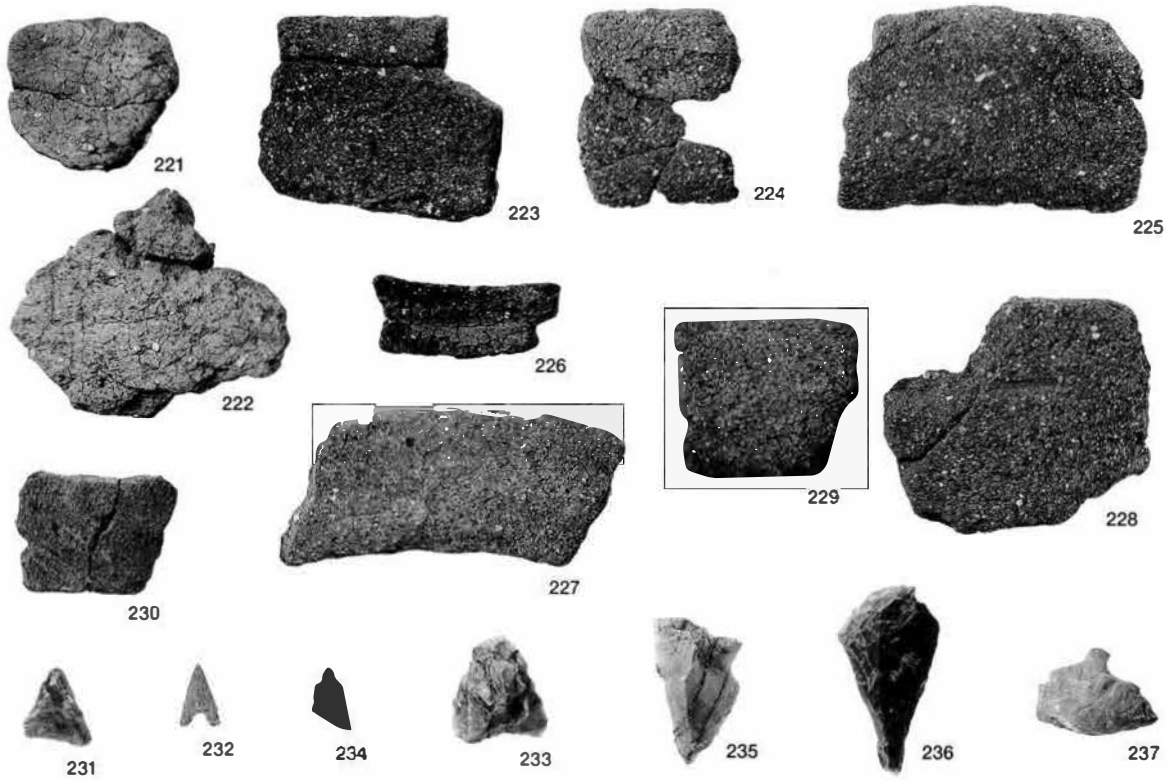
1　SD505・SD508出土遺物①



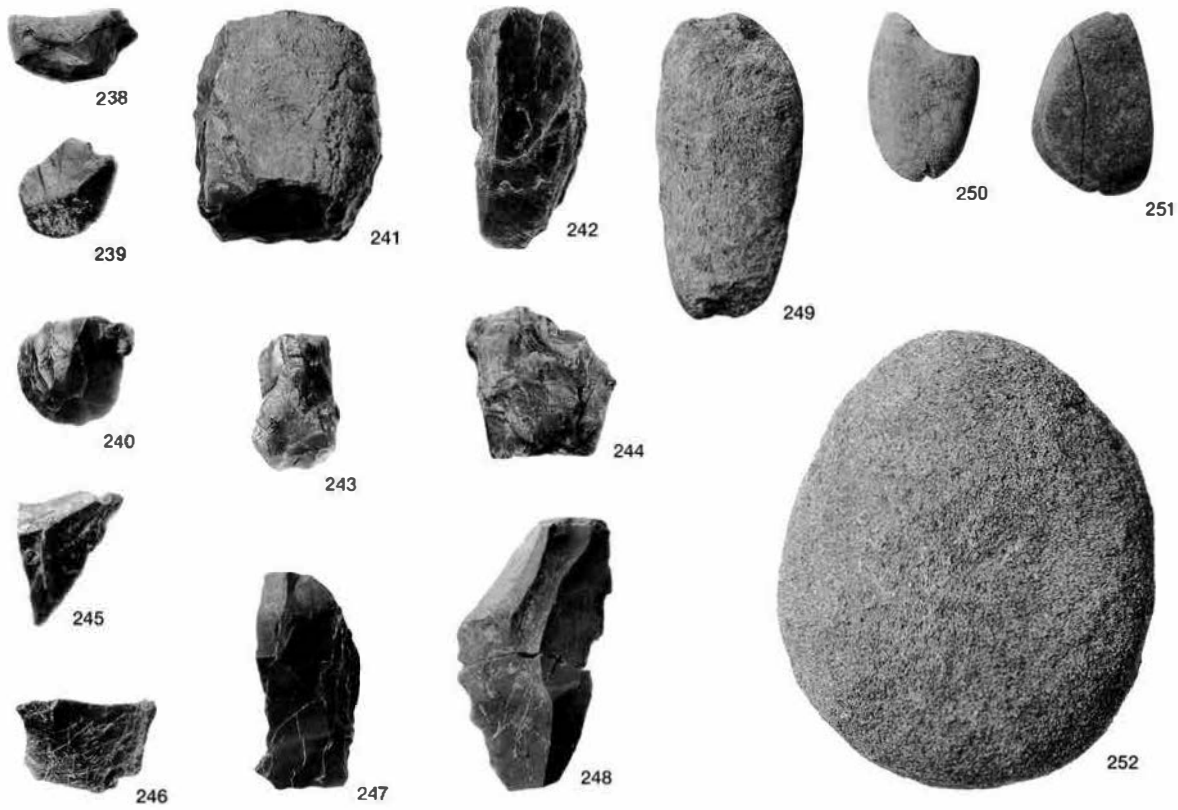
2　SD505・SD508出土遺物②

1　SD509（南東から）

2　SD509（北西から）



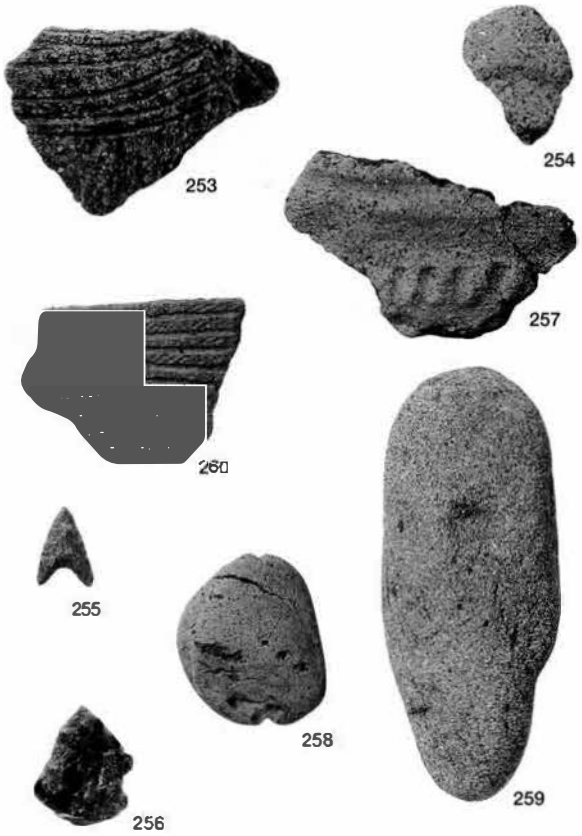
1　SD509出土遺物①



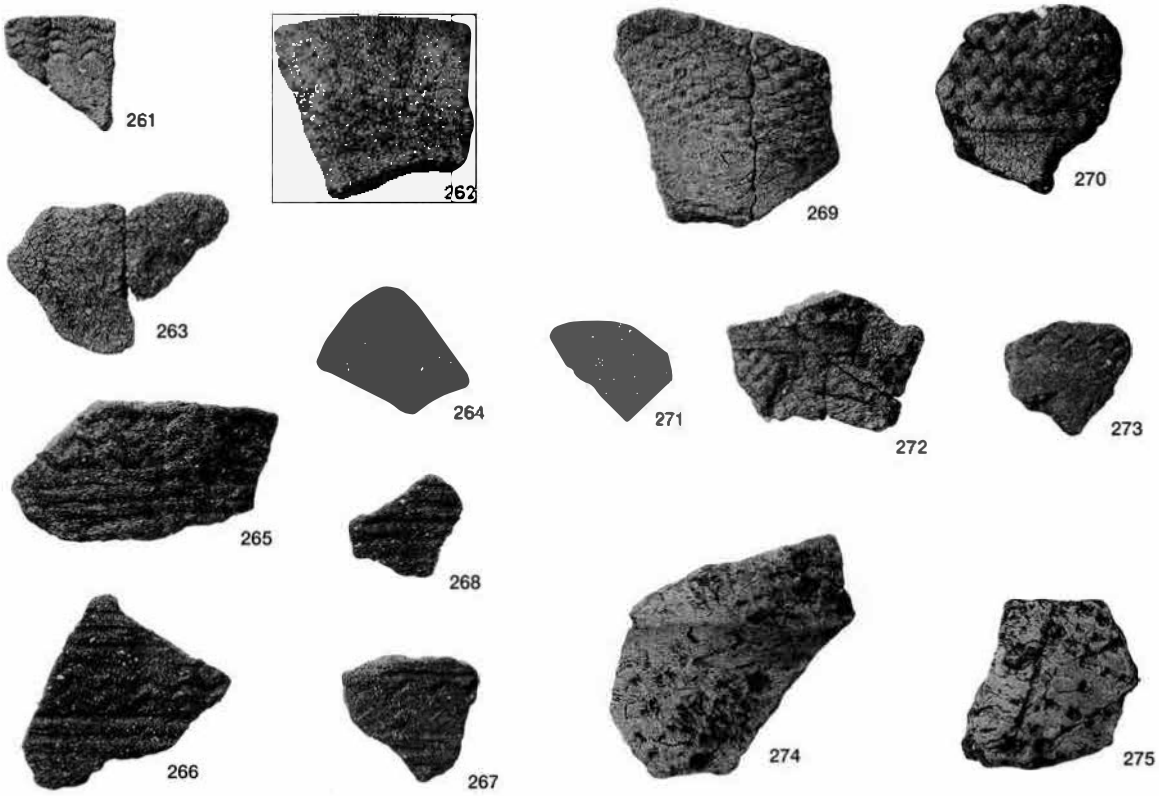
2　SD509出土遺物②

1　NW10土層

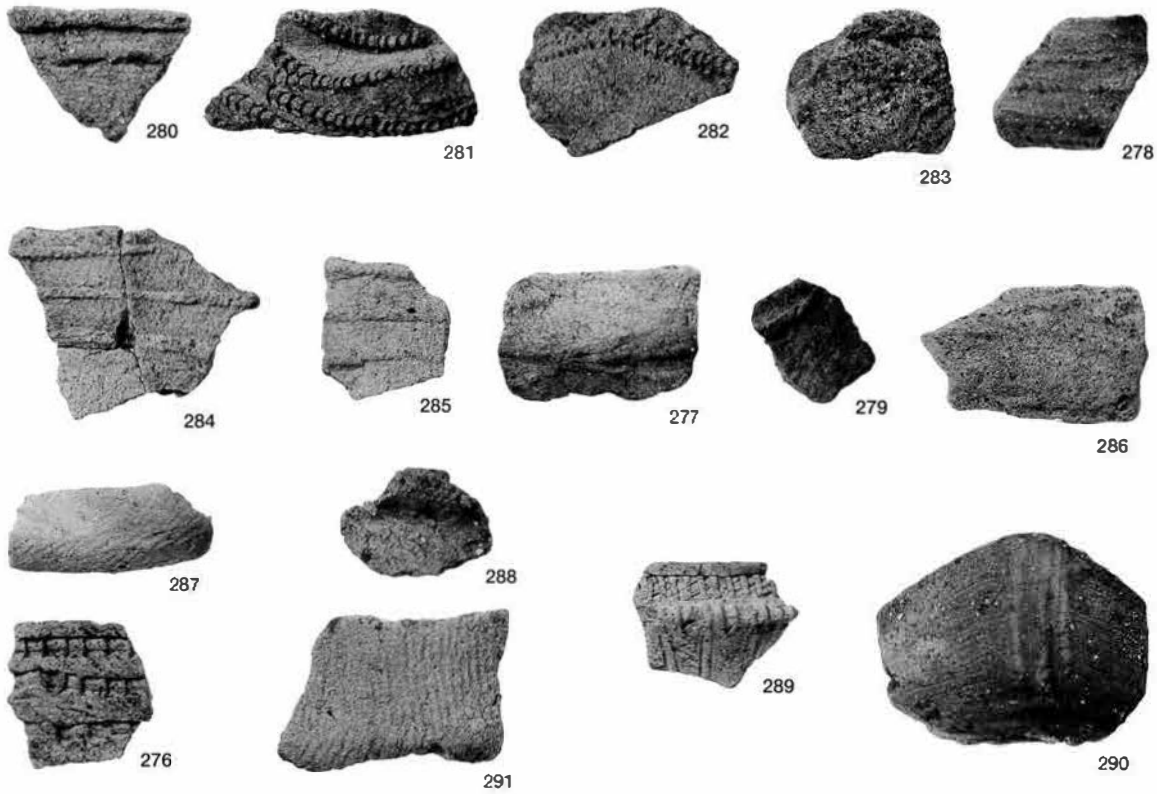
2　NW16土層



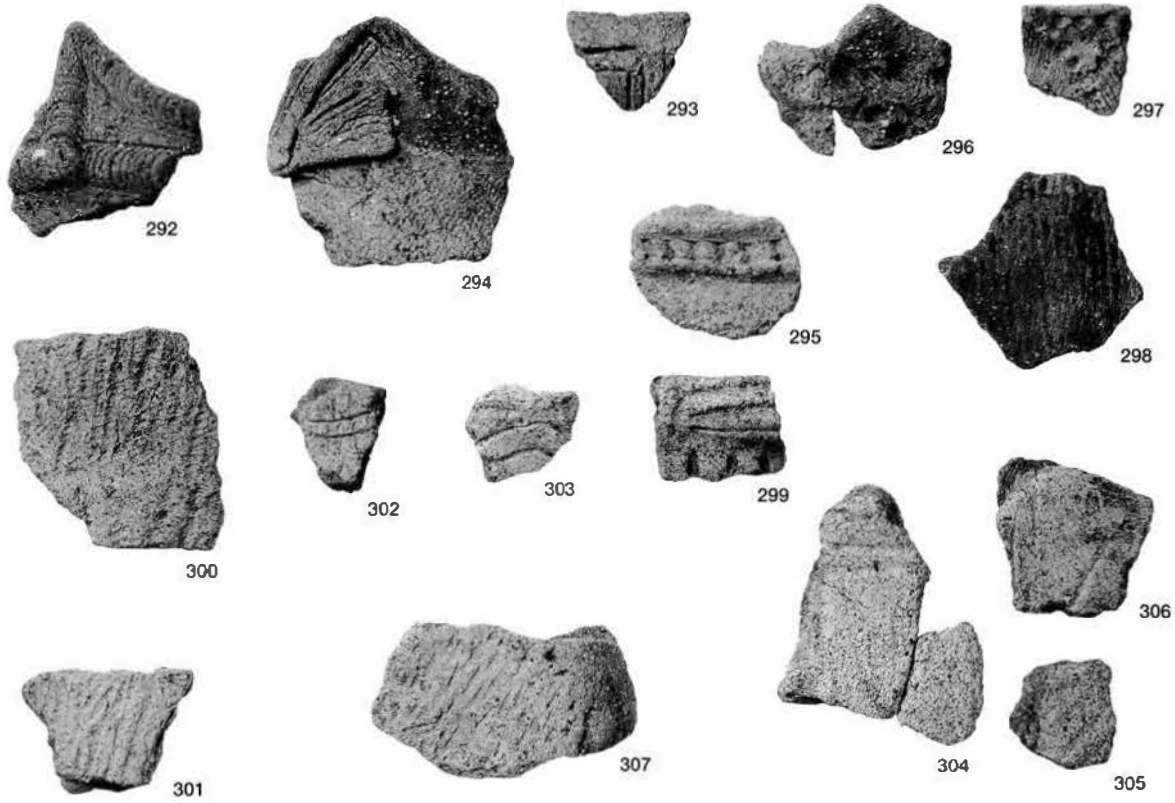
3　倒木痕出土遺物



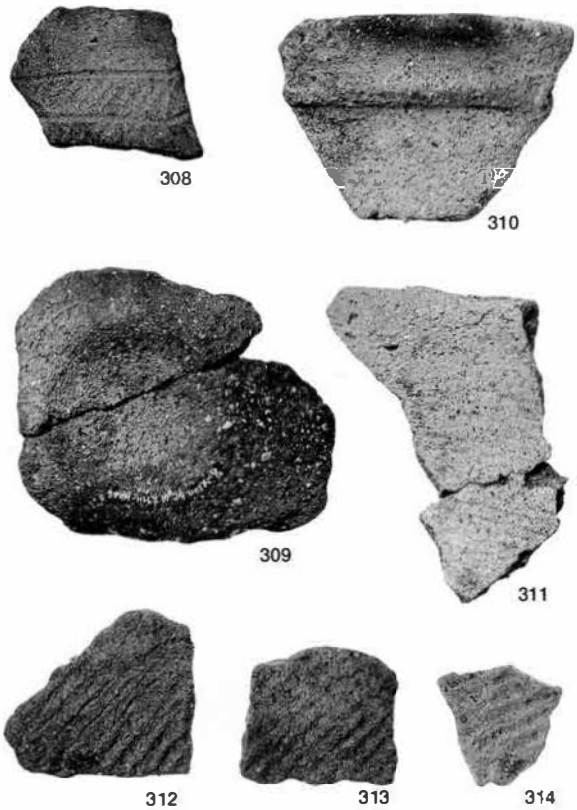
4　包含層出土縄文土器①



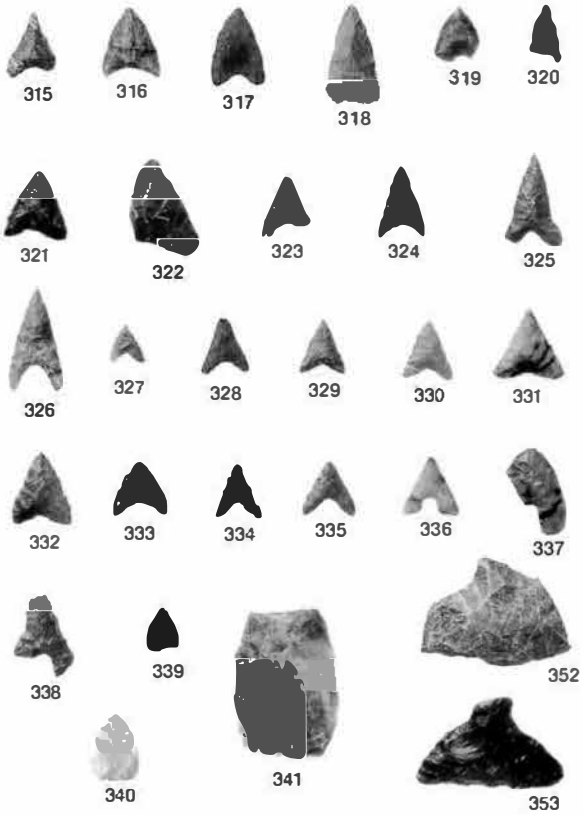
1　包含層出土縄文土器②



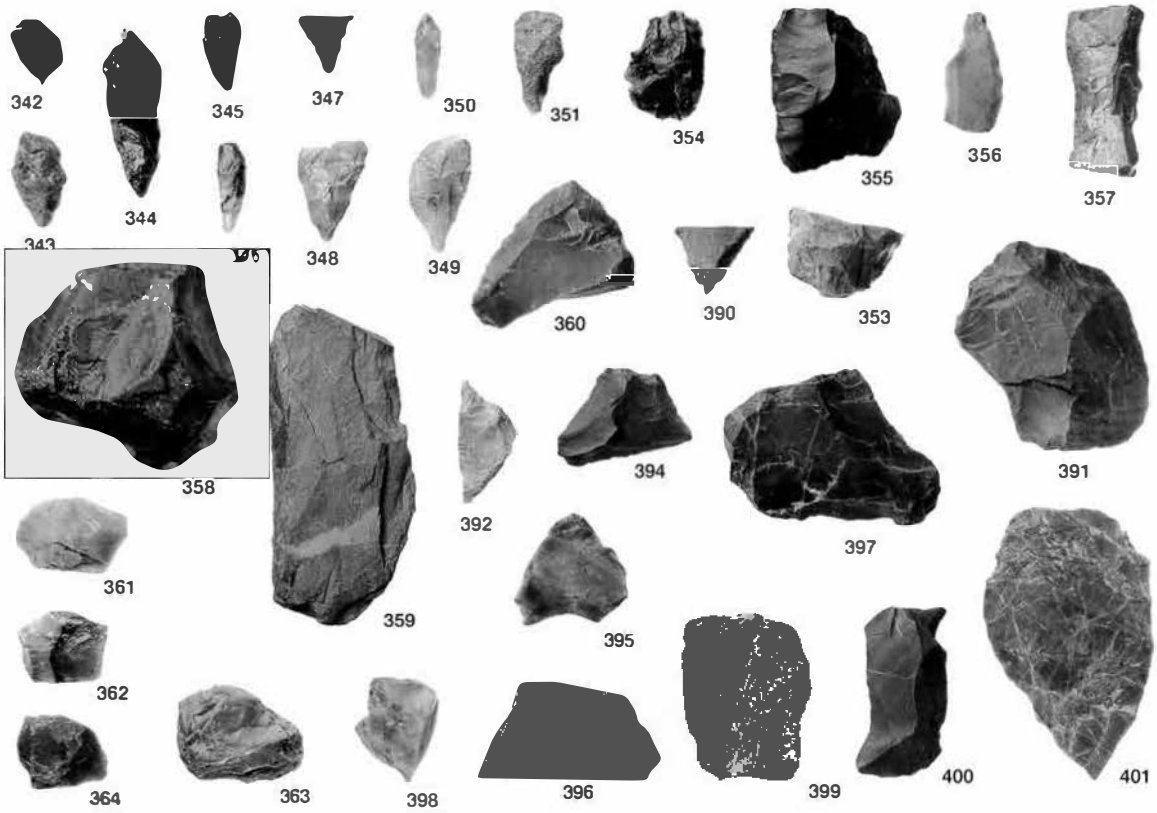
2　包含層出土縄文土器③



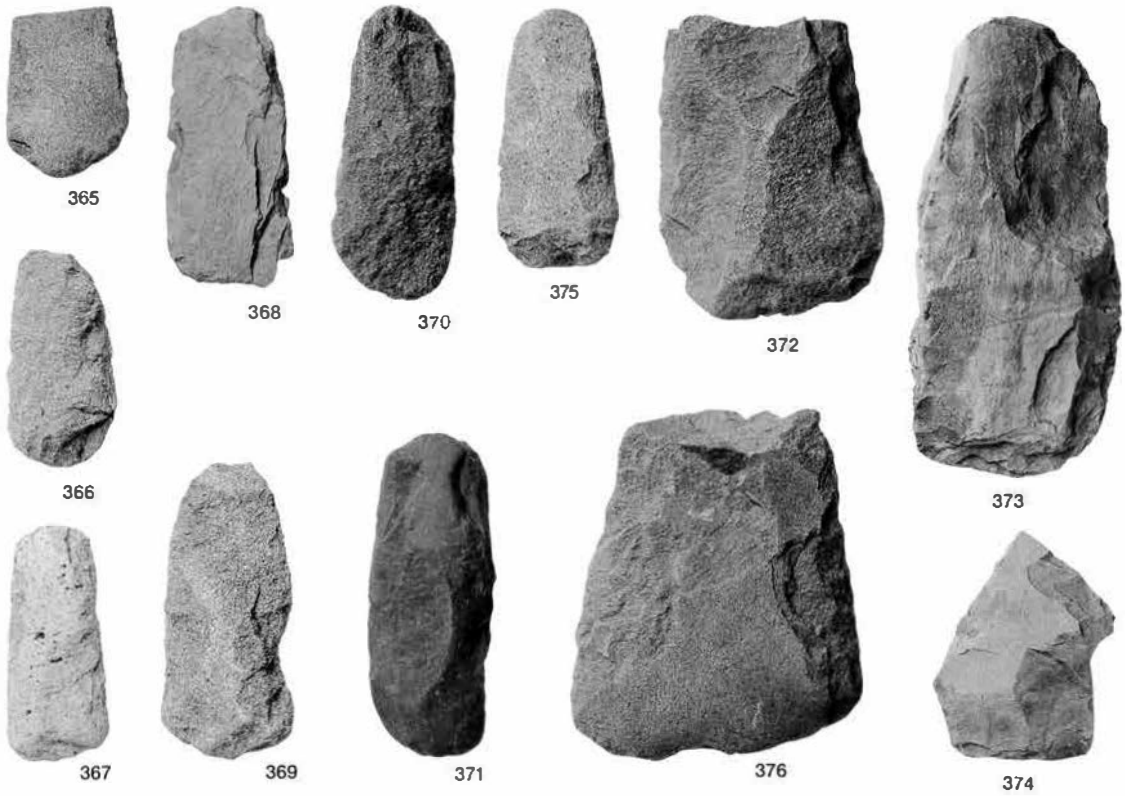
1　包含層出土縄文土器④



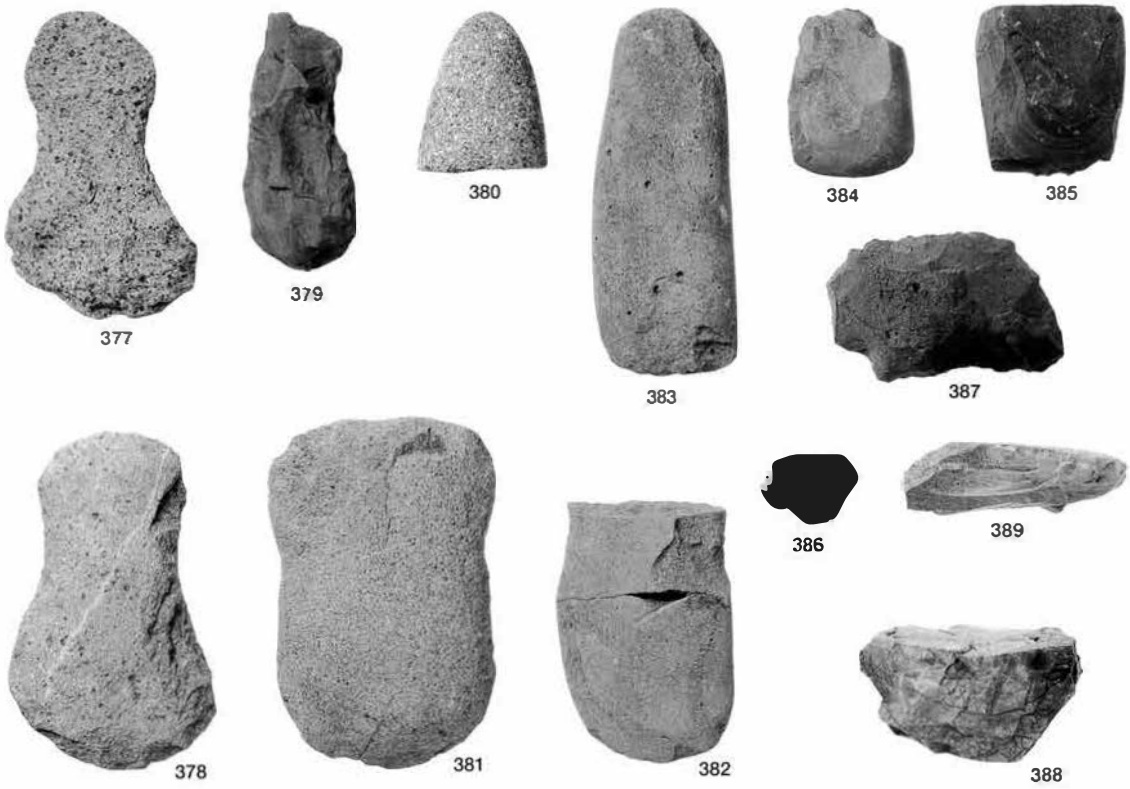
2　包含層出土石器①



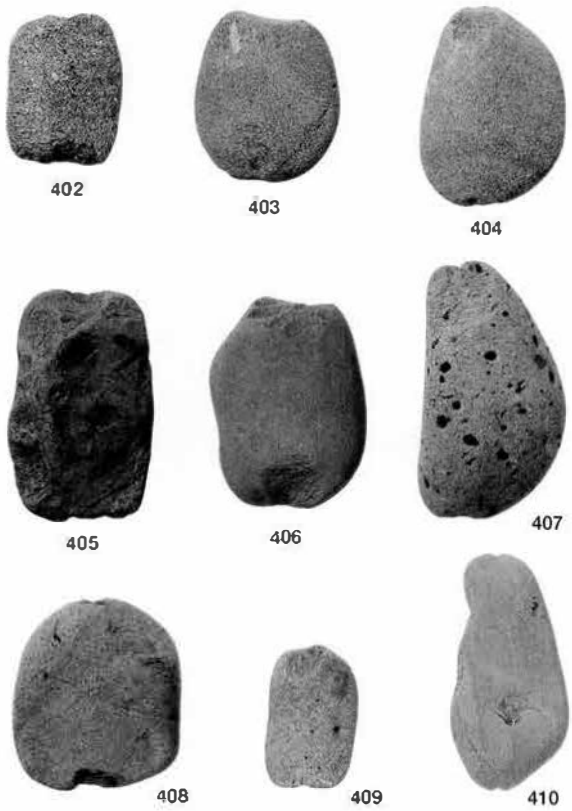
3　包含層出土石器②



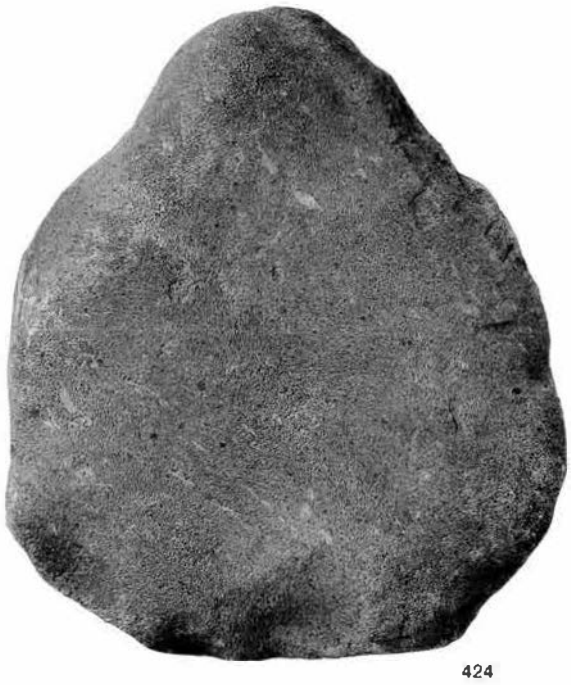
1　包含層出土石器③



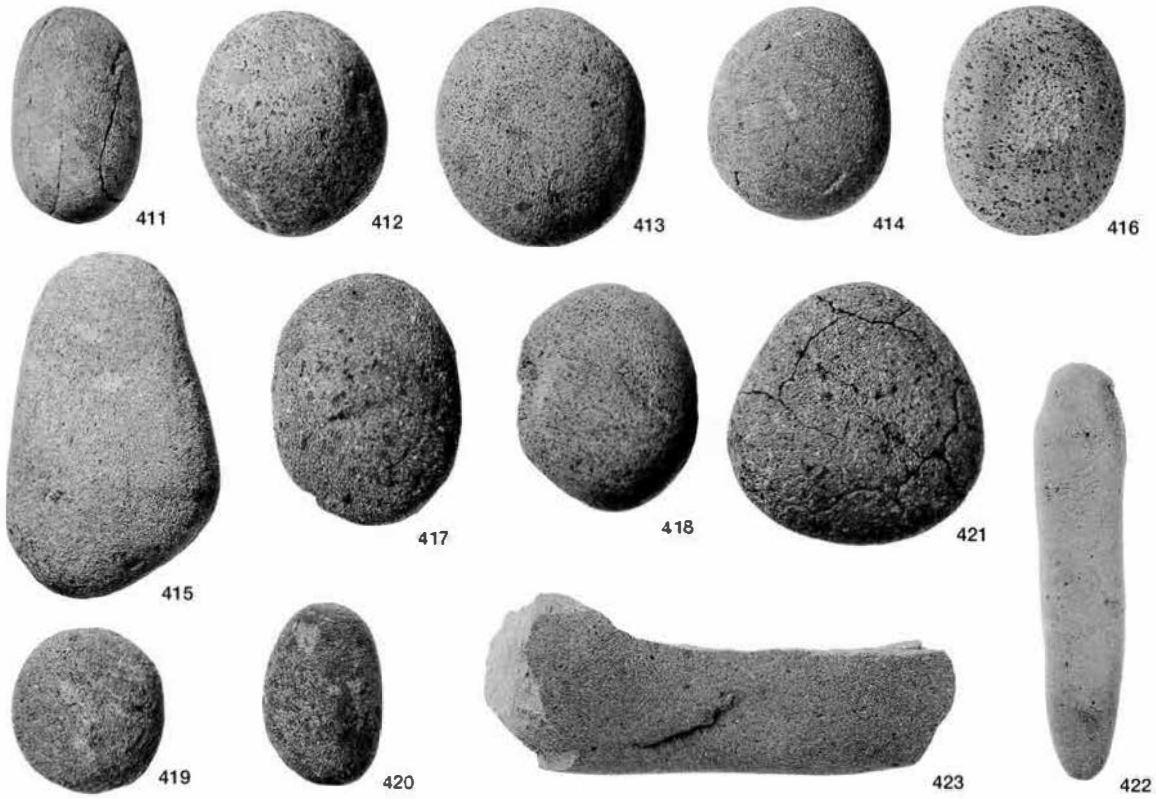
2　包含層出土石器④



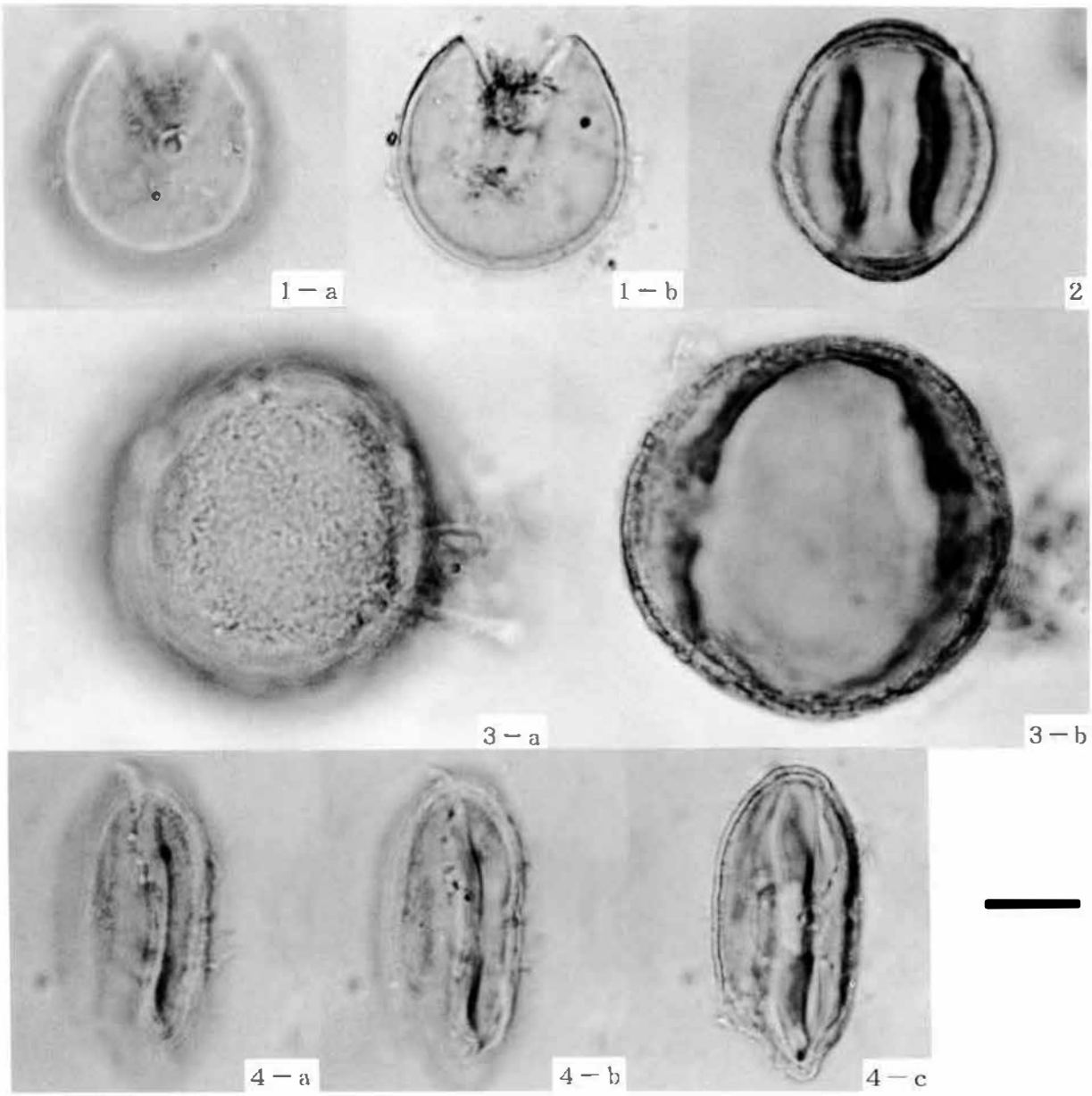
1　包含層出土石器⑤



2　包含層出土石器⑥

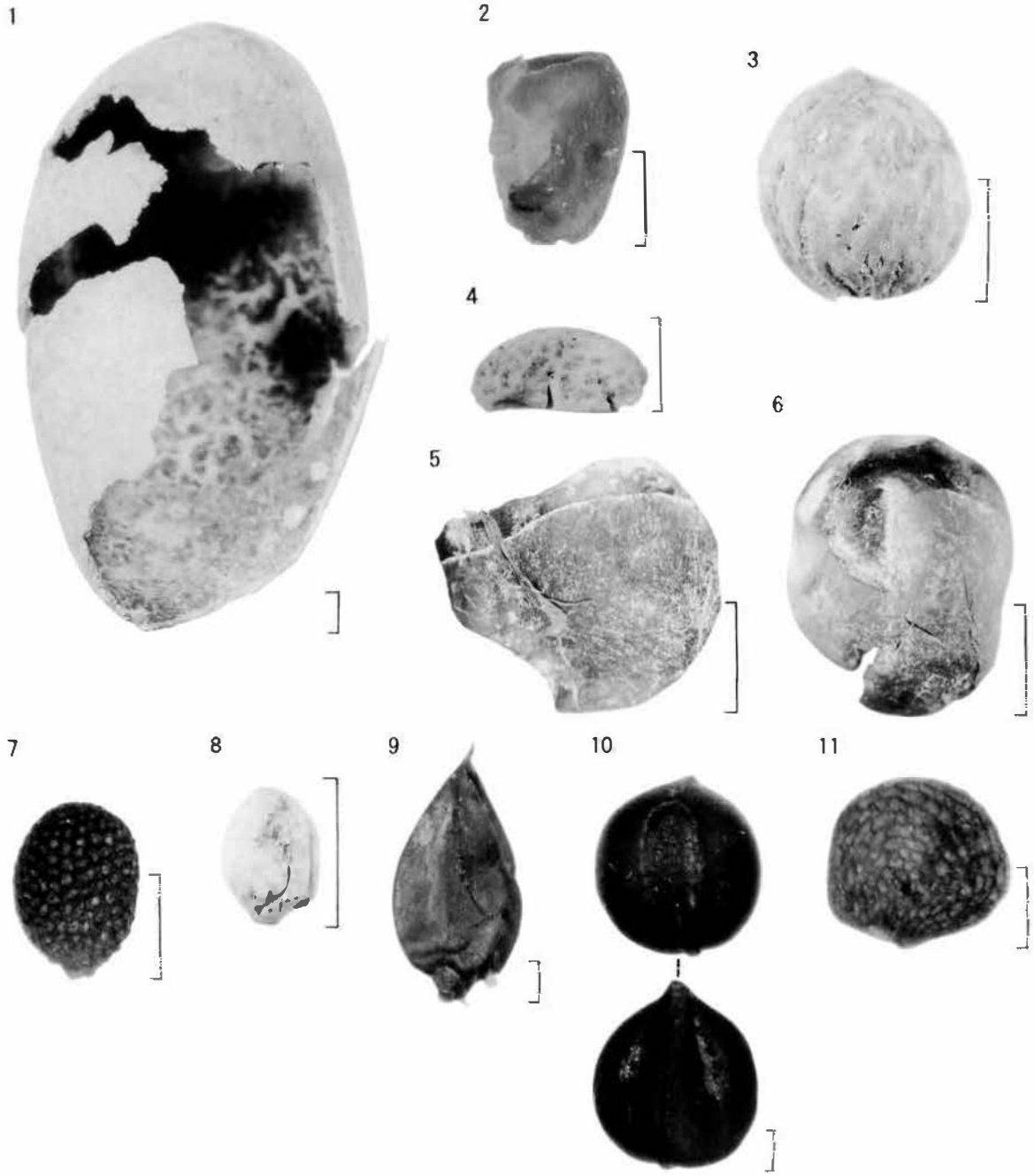


3　包含層出土石器⑦



1　スギ属、SK677、PAL.MN 1482
2　コナラ属アカガシ亜属、SK677、PAL.MN 1483
3　ブナ属、SK677、PAL.MN1485
4　トチノキ属、SK677、PAL.MN 1484

1　産出した花粉化石（scale bar:10μm）



1　イヌガヤ、種子、SD508（10328）　2　クワ属、種子、SK677（11005）　3　モモ、核、SD508（10807）
4　キイチゴ属、核、SK676（11021）　5・6　トチノキ、種子、SK677（11000）
7　マタタビ、種子、SK676（11021）　8　エゴノキ、種子、SK676（10753）　9　ミゾソバ、果実、SK677（11005）
10　ノブドウ、種子、SK677（10995）　11　ナス科、種子、SK677（11010）

1　出土した大型植物化石（スケールは1、2、4、7、9～11が1㎜、3、5、6、8が1㎝）

報告書抄録

ふりがな	おもといせき
書名	尾元遺跡
シリーズ名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者名	春日井恒
編集機関	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1－26－1　TEL058（237）8550
発行年月日	西暦2003年12月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
尾元（おもと）遺跡	岐阜（ぎふ）県揖斐（いび）郡藤橋（ふじはし）村 大字徳山（とくやま）字尾元（おもと）	21407	06379	35° 42' 6"	136° 27' 58"	20010807 ～ 20011213 3,300㎡	徳山ダム建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾元遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡、貯蔵穴、墓坑など	縄文土器（早期～晩期） 石鏃・打製石斧・石皿・磨石類など	前期および中期の集落跡 他の時期は遺物が少量出土
		平安時代	水場遺構	灰釉陶器・土師器など	トチの実の処理施設

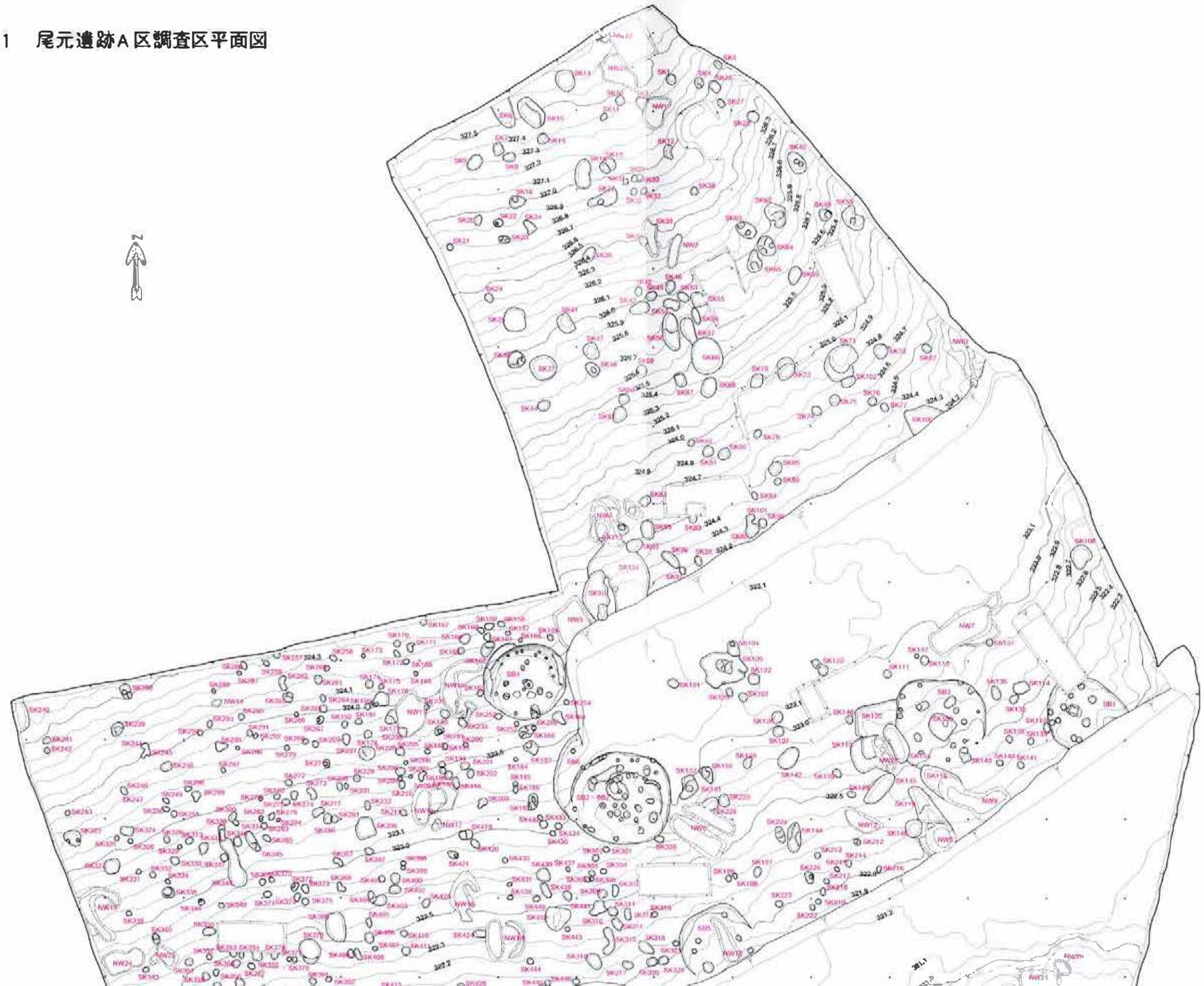
岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書　第82集

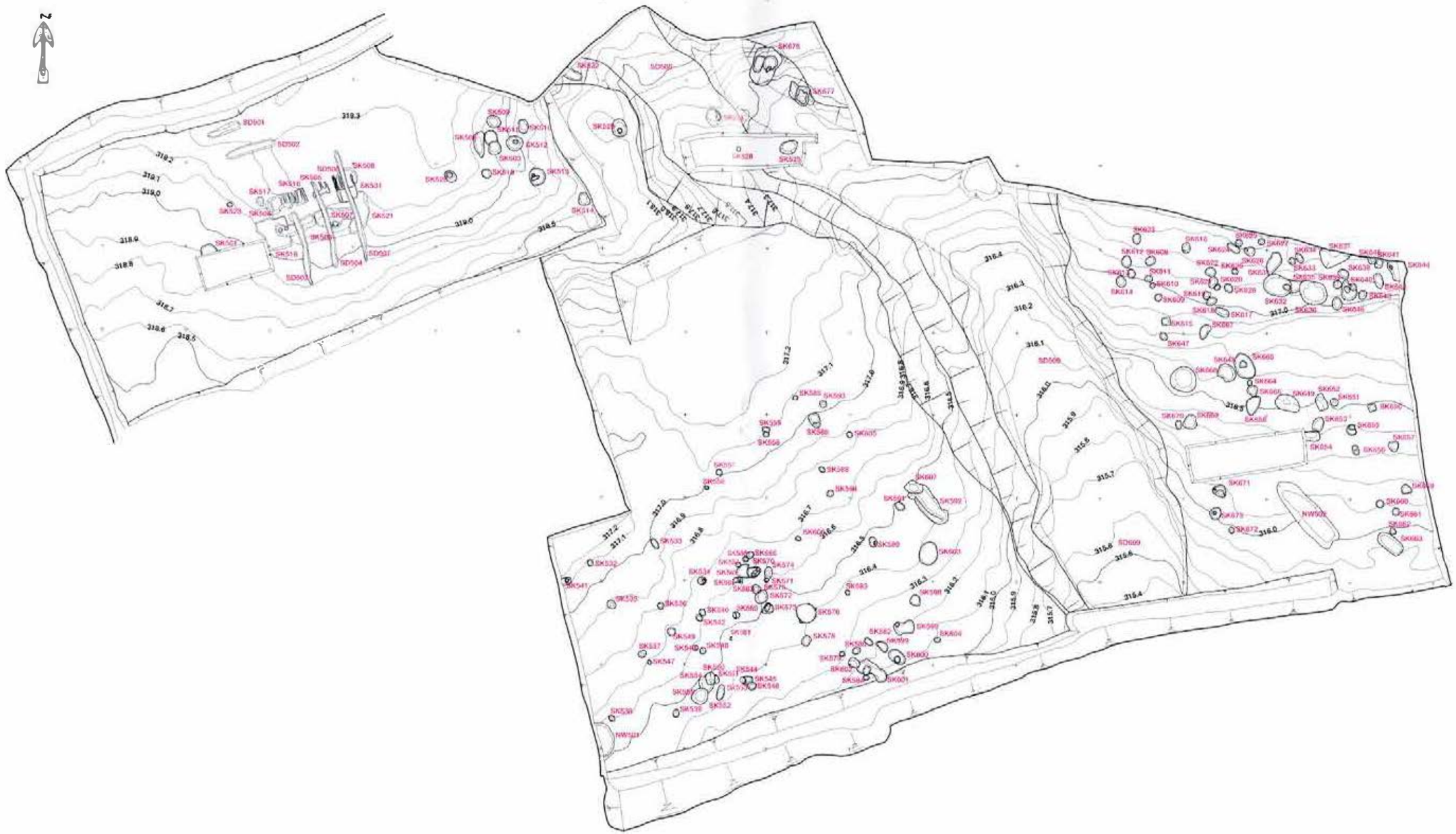
尾　元　遺　跡

2003年12月25日

編集・発行　財団法人　岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東１－２６－１
印　　刷　サンメッセ株式会社

付図１　尾元遺跡Ａ区調査区平面図



0
10m

付図２　尾元遺跡Ｂ区調査区平面図